2025年度

学習の手引き (シラバス)

社会福祉専攻S2021 介護福祉専攻C2021

宇都宮短期大学 人間福祉学科

宇都宮短期大学の建学の精神「全人教育」

建学の精神は、「全人教育(人間形成の教育)」です。創始者 須賀栄子は、明治 33 年(1900 年)の共和女学校創設以来、学校の教育に専心するとともに、当時の寮生活において、学生と寝食をともにし、文字どおり一人ひとりの個性を伸ばす生活指導を行いました。それが、「共和(共にあい和して事にあたる-史記)の精神による全人教育」の原点です

「全人教育(人間形成の教育)」とは、「学生生徒一人ひとりが持って生まれた優れた個性・能力・特質を最大限に伸ばしていく人間教育」です。

宇都宮短期大学の教育理念

- I. 人間尊重の精神と豊かな人間性を啓培し、民主社会における真にのぞましい人間を育成する。
- Ⅱ. 円満な教養と高い徳性とを培い、個々の特性の伸長につとめ、心身ともに健康な人物を育成する。
- Ⅲ. 自主自立の気風を高め、忍耐力と実践究明の態度を涵養し、勤労と責任を尊ぶ人材を育成する。

宇都宮短期大学の三つの方針

卒業認定・学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)

宇都宮短期大学は、本学園の建学の精神、教育理念に基づき、次の教育目的・目標を掲げます。

【教育目的・目標】

宇都宮短期大学は、教育基本法及び学校教育法の精神に従って大学教育を施し、一般教養及び専門の知識と技能 を授け、文化の創造と発展に貢献し得る有為な青年を育成することを目的とする。(学則第1条)

この教育目的・目標に基づいて、次の学習成果を身につけた人材を養成します。

【学習成果】

- 1. 広く教養を学び、社会規範や自己管理力、基本的なスキルを身につけ、自立・自律した生活者となることができる。
- 2.豊かな人間性と感性をもち、目指す専門分野に係わる基本的な知識・技術・方法、態度を身につけ、社会の一員として、協働して課題に取り組むことができる。
- 3. 専門的な知識・技術・方法、態度を身につけ、倫理性をもって地域や社会に貢献できる。

以上の学習成果を達成するために、編成された教育課程において所定の単位を修得した人に卒業を認定し、短期大学士の学位を授与します。

取得できる資格取得の要件は、次のとおりです。

【取得できる資格取得の要件】

各学科又は専攻課程で資格を取得するには、卒業要件を満たし、その資格に必要な科目を履修し、単位を修得する。

別途、受験が必要な資格は、試験に合格することで取得する。

教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)

本学の学習成果を体系的に達成するために、教育課程を次の方針に基づいて編成・実施します。

【教育課程編成の方針】

学習成果を達成するために各学科・専攻の教育課程は、基礎教育科目、専門教育科目及び資格取得科目等をもって編成します。

【教育課程実施の方針】

学生が主体的・能動的・協働的に学習に取り組むことができるように、シラバスにおいて授業内・外の学習の明示をするとともに、学習内容の理解を深めるための学生と教員相互のチェックを積極的に行い、学びを促進します。

入学者受入れの方針(アドミッション・ポリシー)

高等教育に備える基礎学力(「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「主体的に学習に取り組む態度」)を身につけ、専門性を活かして地域貢献を希望する人を幅広く受け入れます。各学科では、多様な受験機会を用意し、書類審査、実技試験、口頭試問、面接などを組み合わせて総合的に評価します。

人間福祉学科の三つの方針

卒業認定・学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)

<社会福祉専攻>

社会福祉専攻は、本学の卒業認定・学位授与の方針に基づき、次の教育目的・目標を掲げます。

【教育目的・目標】

- 1. 広い教養と、自立・自律した生活者としての行動規範を身につける。
- 2. 福祉の基本的な知識・技術・方法を学ぶとともに、個々の特性を伸長する。
- 3. 人間尊重の精神と倫理性をもち、利用者の課題解決・支援のできるソーシャルワーカーを養成する。
- 4. 人間尊重の精神と倫理性をもち、福祉の視点をもった医療事務従事者を養成する。
- 5. 人間尊重の精神と倫理性をもち、人々の健康的な生活を実現し、福祉の向上に貢献できる人材を養成する。

社会福祉専攻の教育目的・目標に鑑み、以下の学習成果を達成するために編成された教育課程において、所定の単位を修得した人に卒業を認定し、短期大学士(人間福祉)の学位を授与します。

【学習成果】

- 1. 広く教養を学び、社会規範や自己管理力、基本的なスキルを身につけ、自立・自律した生活者となることができる。
- 2. 福祉の意義を学び、福祉の基本的な知識、技術・方法、態度を身につけ、社会の一員として、協働して課題に取り組むことができる。
- 3. 社会福祉士を目指す学生は、ソーシャルワーカーに係わる専門的知識、技術・方法、態度を身につけ、職業人として、他者に共感し、倫理性をもって地域に貢献できる。
- 4. 医療事務従事を目指す学生は、医療事務に係わる専門的知識、技術・方法、態度を身につけ、職業人として、他者に共感し、倫理性をもって地域に貢献できる。
- 5.人々の健康・福祉の増進を目指す学生は、健康・スポーツに係わる専門的知識、技術・方法、態度を身につけ、職業人として、他者に共感し、倫理性をもって地域に貢献できる。

社会福祉専攻で取得できる資格取得の要件は、次のとおりです。

【取得できる資格取得の要件】

社会福祉専攻で取得できる資格を取得するには、卒業要件を満たし、その資格に必要な専門教育科目を履修し、単位を修得する。そのうえで、認定試験受験が必要なものは受験し、合格することで資格取得ができる。

<介護福祉専攻>

介護福祉専攻は、本学の卒業認定・学位授与の方針に基づき、次の教育目的・目標を掲げます。

【教育目的・目標】

- 1. 広い教養と、自立・自律した生活者としての行動規範を身につける。
- 2. 福祉の基本的な知識・技術・方法を学ぶとともに、個々の特性を伸長する。
- 3. 人間尊重の精神と倫理性をもち、その人らしい生活の支援ができる介護福祉専門職を養成する。

介護福祉専攻の教育目的・目標に鑑み、以下の学習成果を達成するために編成された教育課程において、所 定の単位を修得した人に卒業を認定し、短期大学士(人間福祉)の学位を授与します。

【学習成果】

- 1. 広く教養を学び、社会規範や自己管理力、基本的なスキルを身につけ、自立・自律した生活者となることができる。
- 2. 福祉の意義を学び、福祉の基本的な知識、技術・方法、態度を身につけ、社会の一員として、協働して課題に取り組むことができる。
- 3. ケアワーカーに係わる専門的知識、技術・方法、態度を身につけ、職業人として、他者に共感し、倫理性をもって、地域に貢献できる。

介護福祉専攻で取得できる資格取得の要件は、次のとおりです。

【取得できる資格取得の要件】

- 1.介護福祉士を取得するには、卒業要件を満たし、介護福祉士国家試験受験に必要な専門教育科目科を履修し、単位を修得することで介護福祉士国家試験受験資格が得られる。そのうえで、国家試験を受験して合格することで資格取得できる。
- 2. その他の所得できる資格を取得するには、卒業要件を満たし、その資格に必要な専門教育科目を履修し、単位を修得する。

教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)

<社会福祉専攻>

社会福祉専攻の学習成果を体系的に達成するために、教育課程を次の方針に基づいて編成・実施します。

【教育課程編成の方針】

- 1. 基礎教育科目は、広い教養を身につけ人間と生活を理解するための科目で編成し、建学の精神を学ぶための科目とキャリアデザインを必修とする。
- 2. 専門教育科目は、社会福祉の基礎を理解するための専門教育科目(必修)、ソーシャルワークを理解するための専門教育科目、医療事務を理解するための専門教育科目、健康・スポーツを理解するための専門教育科目、福祉を豊かに実践するための専門教育科目で編成する。
- 3. 各種資格取得では、その資格を取得するために必要な専門教育科目で編成する。

【教育課程実施の方針】

学生が主体的・能動的・協働的に学習に取り組むことができるように、シラバスにおいて授業内・外の学習の明示をするとともに、学習内容の理解を深めるための学生と教員相互のチェックを積極的に行い、学びを促進します。

<介護福祉専攻>

介護福祉専攻の学習成果を体系的に達成するために、教育課程を次の方針に基づいて編成・実施します。

【教育課程編成の方針】

- 1. 基礎教育科目は、広い教養を身につけ人間と生活を理解するための科目で編成し、建学の精神を学ぶための科目とキャリアデザインを必修とする。
- 2. 専門教育科目は、介護福祉を理解するための専門教育科目(必修)、介護福祉を理解するための専門教育科

- 目、福祉を豊かに実践するための専門教育科目で編成する。
- 3. 介護福祉士以外の資格取得では、その資格を取得するために必要な専門教育科目で編成する。

【教育課程実施の方針】

学生が主体的・能動的・協働的に学習に取り組むことができるように、シラバスにおいて授業内・外の学習の明示をするとともに、学習内容の理解を深めるための学生と教員相互のチェックを積極的に行い、学びを促進します。

入学者受入れの方針(アドミッション・ポリシー)

<社会福祉専攻>

高等教育に備える基礎学力(「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「主体的に学習に取り組む態度」)を身につけ、専門性を活かして地域に貢献したい人を幅広く受け入れます。このため、次の点を重視します。

- 1. 福祉分野を学ぶための必要な基本的能力(国語・英語力など)をもつ人
- 2. 福祉分野に不可欠な他者と協働でき、コミュニケーション力をもつ人
- 3. 利用者の自立・自律した生活支援の知識・技術の向上を図るために必要な基礎的知識(家庭・情報の教科など)をもつ人
- 4.ソーシャルワークに係る広い分野に興味・関心をもち、自ら学び続ける姿勢がある人
- 5. 医療事務に係る広い分野に興味・関心をもち、自ら学び続ける姿勢がある人
- 6. 健康・福祉に係る広い分野に興味・関心をもち、自ら学び続ける姿勢がある人

<介護福祉専攻>

高等教育に備える基礎学力(「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「主体的に学習に取り組む態度」)を身につけ、専門性を活かして地域に貢献したい人を幅広く受け入れます。このため、次の点を重視します。

- 1. 福祉分野を学ぶための必要な基本的能力(国語・英語力など)をもつ人
- 2. 福祉分野に不可欠な他者と協働でき、コミュニケーション力をもつ人
- 3.利用者の自立・自律した生活支援の知識・技術の向上を図るために必要な基礎的知識(家庭・情報の教科など)をもつ人
- 4.介護福祉に係る広い分野に興味・関心をもち、自ら学び続ける姿勢がある人

令和7年度人間福祉学科社会福祉専攻のカリキュラムマップ

- 【人間福祉学科社会福祉専攻のディプロマ・ボリシーの学習成果】

 1 広く教養を学び、社会規範や自己管理力、基本的なスキルを身につけ、自立・自律した生活者となることができる。

 2 福祉の意義を学び、福祉の基本的な知識、技術・方法、態度を身につけ、社会の一員として、協働して課題に取り組むことができる。

 3 社会福祉士を目指す学生は、ソーシャルワーカーに係わる専門的知識、技術・方法、態度を身につけ、職業人として、他者に共感し、倫理性をもって地域に貢献できる。

 4 医療事務従事を目指す学生は、医療事務に係わる専門的知識、技術・方法、態度を身につけ、職業人として、他者に共感し、倫理性をもって地域に貢献できる。

 5 人々の健康・福祉の増進を目指す学生は、健康・スボーツに係わる専門的知識、技術・方法、態度を身につけ、職業人として、他者に共感し、倫理性をもって地域に貢献できる。

●は、各科目がディプロマ・ポリシーの1~5のどれに当てはまるかを表している。

							聖之五	年次				ポリシー		・ポリシーの1~5のどれに当てはまるかを表している。 社会福祉士 医療事務 モデル モデル		主要				
	区分		科目番号	科目名	時間数	単位数	学年	学期	1	2	3	4	5	卒業	要件		田111 デル			科目
	٨	科基	21HS1BC1	全人教育講座	16	1	1	前	•		•	•	•	必修	外と2		卒		卒	
	間	目幹	21HS1BC2	キャリアデザイン	16	1	1	前	•		•	•	•	必修	のする	_	業		業	•
	ع ع	教	21HS1BL3	心理学と心理的支援	30	2	1	後	•		•				専る間門で	7070	要件		要 件	
基	基生	養	21HS2BL4	社会学と社会システム	30	2	2	後	•		•				教 6		を		を	
礎	(株/ロ	基礎	21HS2BL5	法学	30	2	2	前	•						育		満		満	
教	教艺	科	21HS2BL6 21HS1BL7	経済学 歴史学	30	2	2	前後	•						科单	=	た		た	
育	育解	B	21HS1BL7 21HS1BL8	生活科学	30	2	1	前	÷				•		目位		U			
科	科す	教	21HS1BP9	生活技術	30	1	1	後	•						より		指		指	
B	۵۵	養	21HS1BP10	英語Ⅰ	30	1	1	前	÷				_		り 3 ほ		定科		定 科	
	た	目演	21HS1BP11	英語Ⅱ	30	1	1	後	•						8 得		日日		11-1 	
	め	習	21HS1BP12	情報処理 I	30	1	1	前	•						単す		を		を	
	の	科	21HS1BP13	情報処理Ⅱ	30	1	1	後	•						位	3	履		履	
	_	TER 45	21HS2SC14	社会保障Ⅰ	30	2	2	前		•	•	•	•	必修	以(修		修	•
		理福 解祉	21HS2SC15	社会保障Ⅱ	30	2	2	後		•	•	•	•	必修	上	101	すっ		すっ	•
		すの	21HS1SC16	高齢者福祉	30	2	1	後		•	•	•	•	必修	を破れ	t JEXE	るこ		るこ	
1	必数	る基	21HS1SC17	医学概論	30	2	1	前		•	•	•	•	必修	必多修	3 TEXE	ے	指定	ے	لمِـا
1		た礎	21HS1SC18	社会福祉の原理と政策	60	4	1	通		•	•	•	•	必修	ピモ	1875	J.)°	•
	科	めを	21HS1SC19	に	30	2	1	後		•	•	•	•	必修	す E	1 恒定				<u> </u>
1	ļ		21HS2SC20	保健医療と福祉	30	2	2	前		•	•	•	•	必修	る。	指定	ł			-
1			21HS1SE21 21HS1SE22	ソーシャルワークの基盤と専門職 ソーシャルワーク演習	30	2	1	前前			•	•			V		1			\vdash
1			21HS1SE22 21HS2SE23	サージャルワーク演賞 地域福祉と包括的支援体制 [30	1	1 2	前			•	•			3		1			$\vdash \vdash$
1		包	21HS2SE24	地域福祉と包括的支援体制Ⅱ	30	2	2	後			-	-			È fi		1	\vdash		
		括	21HS2SE25	福祉サービスの組織と経営	30	2	2	前			•	•			Į.		1			$\vdash \vdash$
		支	21HS2SE26	貧困に対する支援	30	2	2	前			ě	ě			Ĩ					
	福	援	21HS2SE27	刑事司法と福祉	30	2	2	後			•	•			7	指定				
	祉		21HS2SE28	権利擁護を支える法制度	30	2	2	後			•	•			4	1 指定				
	の		21HS1SE29	児童・家庭福祉	30	2	1	後			•	•			1	均定				
	基礎		21HS2SE30	社会福祉調査の基礎	30	2	2	後			•	•			5					
	を	١,	21HS1SE31	ソーシャルワークの基盤と専門職(専門)	30	2	1	前			•				1	5 指定		/		•
	理	l y	21HS1SE32	ソーシャルワークの理論と方法	60	4	1	後			•)	指定		/		
	解	シ	21HS2SE33	ソーシャルワークの理論と方法(専門)	60	4	2	通			•				(2	指定		/		
	す	F	21HS1SE34	ソーシャルワーク演習(専門) I	30	1	1	前			•				Ę			/		•
	る	ル	21HS1SE35 21HS2SE36	ソーシャルワーク演習(専門) II	30	1	1 2	後前			•				P			/		
	ため	7	21HS2SE36 21HS2SE37	ソーシャルワーク演習(専門) Ⅲ ソーシャルワーク演習(専門) Ⅳ	30	1	2	後							李			/		
-	0	しク	21HS1SE38	ソーシャルワーク実習	240	5	1.2	通			•				· ·			I/ I		
専門	専	9	21HS1SE39	ソーシャルワーク実習指導	90	3	1.2	通			•				Ė			/		
教	門		21HS1SE40	医療事務論Ⅰ	30	2	1	前			Ť	•			0) 10/2		指定		•
育	教		21HS1SE41	医療事務実践演習	30	1	1	後				•			-			指定		
科	育		21HS1SE42	医療事務関連法規 I	30	2	1	後				•			Ř			指定		•
B	科目		21HS1SE43	医療事務関連法規Ⅱ	30	2	1	後				•			₹.			指定		
1			21HS2SE44	医療事務作業実践演習 I	30	1	2	前				•			1]	指定		
	選	医	21HS2SE45	医療事務作業実践演習Ⅱ	30	1	2	前				•			- 78			指定		
	択	療	21HS1SE46	医療秘書	30	2	1	前				•			7	<u> </u>				
1		事	21HS1SE47	医療事務論Ⅱ	30	2	1	後				•			Ŧ		1	指定		\sqsubseteq
1		務	21HS1SE48	医療事務論Ⅲ	30	2	1	後				•			角		4	指定		\vdash
1			21HS2SE49 21HS1SE50	医療事務コンピュータ処理演習 薬学一般	30	1	2	後後				•			2	3	ł	指定		$\vdash \vdash$
1			21HS1SE50 21HS2SE51	楽字一般 医療事務実習(事前事後指導含む)	15 90	2	2	俊 前							7.		1	18 YE		-
1			21HS2SE51 21HS1SE52	医療事務特講 [30	2	1	後				•			8		1	\vdash		\vdash
1			21HS2SE53	医療事務特講 [15	1	2	後				•			0		1	\vdash		\vdash
1		福	21HS1SP54	レクリエーション概論	20	1	1	前		•	•	•	•		Ę		1			$\vdash \vdash$
1		祉	21HS1SP55	レクリエーション演習	60	2	1	通		•	•	•	•		P ≢		1			
1		を	21HS1SP56	福祉レクリエーション論	30	2	1	後		•	•				孝		1			
1	1	豊	21HS2SP57	福祉レクリエーション援助論	30	2	2	前		•	•				 「和					
1		か	21HS2SP58	福祉レクリエーション援助技術	60	2	2	通		•	•				Ė]			
1	3X	に 実	21HS1SP59	野外活動I	30	1	1	前		•		•	•		_	_				
1	F	践	21HS1SP60	野外活動Ⅱ	30	1	1	後		•		•	•			<u> </u>	1			
1	科	す	21HS2SP61	人間関係論	30	2	2	後				•	•		V		1			
1	B	ବ	21HS2SP62	学校ソーシャルワーク	30	2	2	後		_	•				6		1	<u> </u>		
1		た	21HS2SP63	ボランティア論	15	1	2	前	•	•) <u>=</u>		4	\vdash		\vdash
1		め	21HS2SP64 21HS1SP65	NPOコミュニティビジネス論	30	2	2	前後	•	•		•	•		36		1	\vdash		-
1		の 専	21HS1SP65 21HS2SP66	美容福祉 I 美容福祉 II	30	1	2	俊 前	÷				•		21	×	1	\vdash		\vdash
1		門	21HS2SP66		30	1	2	前	÷			•	•		以作	§ ———	1	\vdash		\vdash
			020 01	人口语证出	S			המ	•											1

令和7年度人間福祉学科介護福祉専攻のカリキュラムマップ

- 【人間福祉学科介護福祉専攻のティブロマ・ボリシーの学習成果】 1 広く教養を学び、社会規範や自己管理力、基本的なスキルを身につけ、自立・自律した生活者となることができる。 2 福祉の意義を学び、福祉の基本的な知識、技術・方法、態度を身につけ、社会の一員として、協働して課題に取り組むことができる。 3 ケアワーカーに係わる専門的知識、技術・方法、態度を身につけ、職業人として、他者に共感し、倫理性をもって、地域に貢献できる。

●は、各科目がディプロマ・ポリシーの1~3のどれに当てはまるかを表している。

	区分		科目番号	科目名	時間数	単位数		年次		ロマ・ホ			要件	かを表し 介護権		主要
	느	er a desta					学年	学期	1	2	3			Ŧ:	デル	科目
	人	科基	21HC1BC1	全人教育講座	16	1	1	前	•			必修	32	*/		
	間	目幹	21HC1BC2 21HC1BL3	キャリアデザイン	16	1	1	前	•			必修	②年 以間	<u>*</u>		•
₩	の生	教養	21HC2BL4	法学 経済学	30	2	1	前前					外で	*		
基礎	生活を	日基	21HC1BL5	歴史学	30	2	1	後					の6			
教	礎を	礎	21HC2BL6	社会学	30	2	2	後	ě				専2	*		
育		科	21HC1BL7	生活科学	30	2	1	前	•				門単	*		
科	育科目る	教	21HC1BP8	生活技術	30	1	1	後	•				教位 育以	*		
目	目す	養	21HC1BP9	英語 [30	1	1	前	•				科上			
	るた	目演	21HC1BP10	英語Ⅱ	30	1	1	後	•				目修			
	め	習科	21HC1BP11	情報処理Ⅰ	30	1	1	前	•				よ得	*		igwdown
		14	21HC1BP12	情報処理Ⅱ	30	1	1	後	•			11/4 1/67	りす	*		-
		理福	21HC1SC13 21HC2SC14	人間の尊厳と自立 人間関係とコミュニケーション I	30	2	2	前前		•		必修 必修	4る 4①	指定 指定		
		요간 거나	21HC1SC15	生活と福祉	30	2	1	後				必修	単基	指定		
	〈門 必数	すの	21HC2SC16	社会保障	30	2	2	後		ě		必修	位礎	指定		
	修育	0 卒	21HC1SC17	介護の基本Ⅰ	30	1	1	前		•		必修	以教	指定	卒	•
		めを	21HC1SC18	介護の基本Ⅱ	30	1	1	後		•		必修	上育	指定	業要	•
			21HC1SC19	生活支援技術 [30	1	1	前		•		必修	を科 必目	指定	件	
I		社間 社間	21HC2SE20	人間関係とコミュニケーションⅡ	30	2	2	前			•		修よ	指定	を	
I		会と	21HC2SE21	地域福祉と包括的支援体制Ⅰ	30	2	2	前			•		とり	*	満	•
I		ر	21HC2SE22 21HC2SE23	地域福祉と包括的支援体制Ⅱ	30	2	2	後前			•	 	す8	提定	た	•
I			21HC2SE23 21HC2SE24	介護の基本Ⅲ 介護の基本Ⅳ	30	1	2	前				-	る単位	指定指定	し 指	\vdash
I			21HC2SE24 21HC2SE25	介護の基本V	30	1	2	前			•		以以	指定	定	\vdash
I			21HC2SE26	介護の基本VI	30	1	2	後			•		Ê	指定	科	
I			21HC1SE27	コミュニケーション技術 [30	1	1	前			•		を	指定	目	
	福		21HC1SE28	コミュニケーション技術Ⅱ	30	1	1	後			•		必	指定	を	
	祉	介	21HC1SE29	生活支援技術Ⅱ	30	1	1	前			•		修上	指定	履修	
	の	護	21HC1SE30	生活支援技術Ⅲ	30	1	1	前			•		とす	指定	₫	
	基	-	21HC1SE31	生活支援技術Ⅳ	30	1	1	後			•		る	指定	る	
	礎		21HC1SE32	生活支援技術V	30	1	1	後			•			指定	C	—
	を 理		21HC2SE33 21HC2SE34	生活支援技術Ⅵ	30	1	2	<u>後</u>			•		2	指定	ځ	-
	解		21HC2SE35	生活支援技術™ 生活支援技術™	30	1	2	後					専	指定指定	*	\vdash
	す		21HC1SE36	リハビリテーション	30	1	1	後					門教	指定	ED	\vdash
	る		21HC2SE37	栄養調理	30	1	2	後			•		育	指定	の	
	ため	C	21HC1SE38	こころとからだのしくみI	30	1	1	前			•		科	指定	科	•
-	<i>の</i>	ノころと	21HC1SE39	こころとからだのしくみI	30	1	1	前			•		B	指定	目	•
専門	専	ク	21HC1SE40	こころとからだのしくみⅢ	30	1	1	後			•		の	指定	から	
教	P9	か	21HC1SE41	こころとからだのしくみⅣ	30	1	1	後			•		福	指定	3	
育	教	5	21HC1SE42	発達と老化の理解Ⅰ	30	2	1	前			•		祉	指定	科	-
科	育科	だ	21HC1SE43 21HC2SE44	発達と老化の理解 II 認知症の理解 I	30	1	1	後前					の	指定	Ħ	
目	19	の	21HC2SE44	認知症の理解Ⅱ	30	1	2	後					基	指定指定	9	-
	_	U <	21HC2SE46	障害の理解Ⅰ	30	1	2	前					礎	指定	O 時	
I	選	74	21HC2SE47	障害の理解Ⅱ	30	1	2	後			•		を 理	指定	間	
I	択	,医	21HC1SE48	医療的ケアⅠ	30	1	1	前			•		解	指定	以	
I	-	マバ	21HC1SE49	医療的ケアⅡ	30	1	1	後			•		す	指定	上	
I		的	21HC2SE50	医療的ケアⅢ	30	1	2	前			•		る	指定	履	
I			21HC1SE51	介護過程Ⅰ	60	2	1	通			•		た	指定	修 す	
I			21HC2SE52	介護過程Ⅱ	60	2	2	通			•	<u> </u>	めの	指定	ッス	\vdash
I		介	21HC2SE53	介護過程Ⅲ	30	1	2	後			•	 	専	指定	るこ	\vdash
I		護	21HC1SE54 21HC2SE55	介護総合演習 I 介護総合演習 II	60 60	2	1 2	通通			•	-	門	指定指定	ځ	\vdash
I			21HC2SE55 21HC1SE56	↑ 一	135	3	1	後					教	指定	•	\vdash
I				介護実習Ⅱ	315	7	2	通年			•		育	指定		
I		1	21HC2SP58	介護福祉特別演習Ⅰ	30	1	2	前			•		科目	指定		
I		福	21HC2SP59	介護福祉特別演習Ⅱ	30	1	2	後			•			指定		
I		祉	21HC1SP60	レクリエーション概論	20	1	1	前		•	•		ょ			
I		を 曲	21HC1SP61	レクリエーション演習	60	2	1	通		•	•		り			
	専	豆 か	21HC1SP62	福祉レクリエーション論	30	2	1	後		•	•		1			
	門数	ĩc	21HC2SP63	福祉レクリエーション援助論	30	2	2	前		•	•		O 単			\vdash
	教育科目	実	21HC2SP64 21HC1SP65	福祉レクリエーション援助技術	60	2	2	通		•	•	 	位			\vdash
	科	践	21HC1SP65 21HC1SP66	野外活動 I 野外活動 I	30	1	1	前 後		•		-	必	-		\vdash
	i ii	9	21HC1SP66 21HC1SP67	美容福祉Ⅰ	30	2	1	後	•			 	修	-		\vdash
		る た	21HC2SP68	美容福祉Ⅱ	30	1	2	前					ے			
I		め	21HC2SP69	美容福祉Ⅲ	30	1	2	前	•				す る			\vdash
I		の	21HC2SP70	社会福祉調査の基礎	30	2	2	後		•			ত			\vdash
L	<u> </u>		21HC2SP71	ボランティア論	15	1	2	前	•	•			<u> </u>		<u></u>	
_					•										_	

令和7年度人間福祉学科社会福祉専攻カリキュラムツリー

【人間福祉学科社会福祉専攻のディプロマ・ポリシーの学習成果】

全人教育講座

1 広く教養を学び、社会規範や自己管理力、基本的なスキルを身につけ、自立・自律した生活者となることができる。

生活技術

- 2 福祉の意義を学び、福祉の基本的な知識、技術・方法、態度を身につけ、社会の一員として、協働して課題に取り組むことができる。
- 3 社会福祉士を目指す学生は、ソーシャルワーカーに係わる専門的知識、技術・方法、態度を身につけ、職業人として、他者に共感し、倫理性をもって地域に貢献できる。
- 4 医療事務従事を目指す学生は、医療事務に係わる専門的知識、技術・方法、態度を身につけ、職業人として、他者に共感し、倫理性をもって地域に貢献できる。
- 人々の健康・福祉の増進を目指す学生は、健康・スポーツに係わる専門的知識、技術・方法、態度を身につけ、職業人として、他者に共感し、 倫理性をもって地域に貢献

	1年次前期	1年次後期	2年次前期	2年次後期
	全人教育講座	生活技術	法学	社会学と社会システム
	キャリアデザイン	心理学と心理的支援	経済学	
DP1	生活科学	歴史学	NPOコミュニティビジネス論	
DP1	英語 [英語Ⅱ	美容福祉 🏻	
	情報処理I	情報処理Ⅱ	美容福祉Ⅲ	
		美容福祉 [ボランティア論	
	_			•
	医学概論	高齢者福祉	社会保障 I	社会保障Ⅱ
	社会福祉の原理と政策	障害者福祉	保健医療と福祉	福祉レクリエーション援助技術
DP2	レクリエーション概論	社会福祉の原理と政策	福祉レクリエーション援助論	
	レクリエーション演習	レクリエーション演習	福祉レクリエーション援助技術	
	野外活動I	福祉レクリエーション論	NPOコミュニティビジネス論	
	-	野外活動Ⅱ	ボランティア論	
	全人教育講座	心理学と心理的支援	社会保障 I	社会学と社会システム
	キャリアデザイン	高齢者福祉	保健医療と福祉	社会保障Ⅱ
	医学概論	障害者福祉	地域福祉と包括的支援体制Ⅰ	地域福祉と包括的支援体制Ⅱ
	社会福祉の原理と政策	児童・家庭福祉	福祉サービスの組織と経営	刑事司法と福祉
	ソーシャルワークの基盤と専門職	ソーシャルワークの理論と方法	貧困に対する支援	権利擁護を支える法制度
DP3	ソーシャルワークの基盤と専門職(専門)	ソーシャルワーク演習(専門) Ⅱ	ソーシャルワークの理論と方法(専門)	社会福祉調査の基礎
	ソーシャルワーク演習(専門) I	ソーシャルワーク実習	ソーシャルワーク演習(専門)Ⅲ	ソーシャルワークの理論と方法(専
	ソーシャルワーク実習	ソーシャルワーク実習指導	ソーシャルワーク実習	ソーシャルワーク演習(専門)Ⅳ
	ソーシャルワーク実習指導	レクリエーション演習	ソーシャルワーク実習指導	ソーシャルワーク実習
	レクリエーション概論	福祉レクリエーション論	福祉レクリエーション援助論	ソーシャルワーク実習指導
	レクリエーション演習		福祉レクリエーション援助技術	学校ソーシャルワーク
			_	
	全人教育講座	野外活動I	社会保障 I	社会保障Ⅱ
	キャリアデザイン	障害者福祉	保健医療と福祉	地域福祉と包括的支援体制Ⅱ
	医学概論	児童・家庭福祉	地域福祉と包括的支援体制 [刑事司法と福祉
	社会福祉の原理と政策	医療事務実践演習	福祉サービスの組織と経営	権利擁護を支える法制度
	ソーシャルワークの基盤と専門職	医療事務関連法規 [貧困に対する支援	社会福祉調査の基礎
DP4	医療事務論 [医療事務関連法規Ⅱ	医療事務作業実践演習 [医療事務コンピュータ処理演習
∪ F -+	医療秘書	医療事務論Ⅱ	医療事務作業実践演習Ⅱ	医療事務特講Ⅱ
	レクリエーション概論	医療事務論Ⅲ	医療事務実習(事前事後指導含む)	人間関係論
	レクリエーション演習	薬学一般	美容福祉Ⅱ	
	野外活動I	医療事務特講 [美容福祉Ⅲ	
		レクリエーション演習		•
		美容福祉 [

社会保障 I

社会保障Ⅱ

令和7年度人間福祉学科介護福祉専攻カリキュラムツリー

【人間福祉学科介護福祉専攻のディプロマ・ポリシーの学習成果】

介護総合演習 I

レクリエーション概論

レクリエーション演習

広く教養を学び、社会規範や自己管理力、基本的なスキルを身につけ、自立・自律した生活者となることができる。

介護過程I

介護実習I

介護総合演習Ⅰ

レクリエーション演習

福祉レクリエーション論

- 福祉の意義を学び、福祉の基本的な知識、技術・方法、態度を身につけ、社会の一員として、協働して課題に取り組むことができる。

3	ケアワーカーに係わる専門的知識、	技術・万法、態度を身につけ、職業人と	こして、他者に共感し、倫理性をもって、地域	に貢献できる。
	1年次前期	1年次後期	2年次前期	2年次後期
DP1	全人教育講座 キャリアデザイン 法学 生活科学 英語 I 情報処理 I	生活技術 歴史学 英語 I 情報処理 I 美容福祉 I	経済学 美容福祉 II 美容福祉 II ボランティア論	社会学
DP2	人間の尊厳と自立介護の基本 I生活支援技術 Iレクリエーション概論レクリエーション演習	生活と福祉 介護の基本 II 福祉レクリエーション論	人間関係とコミュニケーション I ボランティア論	社会保障 介護福祉特別演習Ⅱ 福祉レクリエーション援助技術 社会福祉調査の基礎
DP3	コミュニケーション技術 I 生活支援技術 II 生活支援技術 II こころとからだのしくみ I こころとからだのしくみ I こころとからだのしくみ I 発達と老化の理解 I 医療的ケア I 介護過程 I	コミュニケーション技術 Ⅱ 生活支援技術 IV 生活支援技術 IV リハビリテーション こころとからだのしくみ III こころとからだのしくみ IV 発達と老化の理解 II 医療的ケア II	人間関係とコミュニケーションⅡ 地域福祉と包括的支援体制 I 介護の基本Ⅲ 介護の基本Ⅳ 介護の基本 V 認知症の理解 I 障害の理解 I 医療的ケアⅢ	地域福祉と包括的支援体制 I 介護の基本 VI 生活支援技術 VI 生活支援技術 VI 生活支援技術 VI 栄養調理 I 認知症の理解 II 障害の理解 II I

医療的ケアⅢ 介護過程Ⅱ

介護実習Ⅱ

介護総合演習Ⅱ

介護福祉特別演習 I

福祉レクリエーション援助論 福祉レクリエーション援助技術 介護過程Ⅱ

介護過程Ⅲ

介護実習Ⅱ

介護総合演習Ⅱ

実務経験のある教員による授業科目一覧

人間福祉学科社会福祉専攻

実務経験のある教員	授業科目名	配当年次	単位数
江田 郁夫	キャリアデザイン	1	1 単位
在田 郁天	歴史学	1	2 単位
石本 真紀	児童・家庭福祉	1	2 単位
岩原 俊行	刑事司法と福祉	2	2 単位
長 秀紀	障害者福祉	1	2 単位
本田 雅巳	薬学一般	1	1 単位
飯島惠子	権利擁護を支える法制度	2	2 単位
	心理学と心理的支援	1	2 単位
菊池 芳子	医学概論	1	2 単位
塩澤 達俊	福祉サービスの組織と経営	2	2 単位
矢野 正広	ボランティア論	2	1 単位

合計 19 単位

人間福祉学科介護福祉専攻

実務経験のある教員	授業科目名	配当年次	単位数
	発達と老化の理解 I	1	2 単位
益川 順子	認知症の理解Ⅰ	2	1 単位
	こころとからだのしくみ I	1	1 単位
	医療的ケア I	1	1 単位
	キャリアデザイン	1	1 単位
江田 郁夫	歴史学	1	2 単位
	介護の基本 I	1	1 単位
阿部 正昭	生活支援技術 I	1	1 単位
	介護過程 I	1	2 単位
土橋 典子	栄養調理	2	1 単位
高橋 一将	リハビリテーション	1	1 単位
同備 一付	介護の基本V	2	1 単位
塩澤 達俊	人間関係とコミュニケーションⅡ	2	2 単位
菊池 芳子	発達と老化の理解Ⅱ	1	2 単位
矢野 正広	ボランティア論	2	1 単位

合計 20 単位

社会福祉専攻 S2021

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
21 HS1BC1	全人教育講座	1年	前期	講義	1	須賀・百田・堀・ 益川・久保田・布川・ 小野・阿久澤

本学の建学の精神である「全人教育(人間形成の教育)」について、オムニバス形式で学習していく。この講座を通して、本学科の教育目標と学習成果及び3つのポリシーとの関係について学び、基礎教育科目や専門教育科目の大切さを理解していく。

到達目標 (学習の成果)

- ・本学の建学の精神、人間福祉学科・食物栄養学科の教育目標と学習成果及び3つのポリシーとの関係が説明できる(知識)。
- ・学習の成果を理解し、各自の目的に合わせて学ぶ姿勢ができている(態度)。

旦	表 題	学習内容	担当教員
1回	須賀学園の「建 学の精神」につ いて	本学での学びを始めるに当たり、須賀学園の創設者『須賀栄子先生の生涯』と、建学の精神「全人教育(人間形成の教育)」について理解する。 (予習)「光り輝く『全人教育』須賀学園の100年」を読んでおくこと。 (復習)全人教育とは何かを自分の言葉にしておくこと。	須賀 英之
2回	授業の進め方 生活教育①	授業計画、授業方法、予習・復習、成績の評価基準・方法等を知る。 大学では、各自が履修する科目を選び、将来の夢に向かって学習していく。 充実した生活を送るために、生活とは何かを理解し、限られた大学生活をど のように過ごすべきか、今の自己の生活時間の内容を顧みることで考える。 (予習)自己の所属する学科の教育の目的・目標と学習成果について、学生 便覧をみておくこと。 (復習)自己の一日の生活時間に関する課題をまとめて提出する。	百田 裕子
3回	生活教育②	コミュニケーションとは、情報だけを伝えているのではなく、情動も一緒に 伝えているといわれている。バーバルコミュニケーションとノンバーバルコ ミュニケーション、メッセージとメタ・メッセージなど、コミュニケーショ ンに関連する概念を理解することは大切なことである。 (予習) 事前にクラスルームに配付された資料を読みまとめる。 (復習) 授業で示された課題を行う。	堀 圭三
4回	健康教育	人類の普遍的課題である「健康」の理解に焦点を当て、生命・健康がいかに して保たれているか、なぜ人は病気になるのか、精神的・身体的・社会的な 側面から国内外の健康問題について学ぶ。 (予習)本科目のシラバスの記載内容について、読んでおくこと。 (復習)配付された資料を読んで、精神的、身体的、社会的健康について考 える(考察)。	益川 順子
5回	学問教育	福祉や食の専門分野において「学びを深めること」や「学びを実践すること」 の意義を考える。さらに、学びを深め、実践するために必要な手段(知識の 習得、スキルの獲得、情報調査、データの分析など)について考える。 (予習)本学で学ぶ目的について各自考えておくこと。 (復習)各自の目的を達成するために取り組みたいことについてまとめる (提出課題)。	久保田浩美
6回	食育	健康の維持・向上を図るために、栄養バランスや食事のタイミングなどの食生活を実践することはとても大切である。自己の食生活を振り返るとともに、福祉や食の専門職として、食について学ぶ必要性を理解し、支援するための学びの内容を習得する。 (予習) 食事チェックシートを行い自分の食生活を振り返ってみる。 (復習) リアクションペーパーを行う。今後の食生活にとりいれていく。	布川かおる

7回	福祉教育	私たちが生活する地域は、どんなひとたちが生活しているのか、だれもが安心、安全、幸せに生活していくにはどんなことが大切かを理解する。 (予習)本科目のシラバスの記載内容について、関連する新聞記事やニュースを見て各自で考えておくこと。	小野 篤司
		(復習)授業で示された課題を行う。	
		「音楽」によって養われる人間形成と感受性とは何かを理解し、彩音祭賛歌 をテーマに音楽で培う情操教育について学ぶ。充実した大学生活を送るため	
		に、音楽教養を身につける。	
8回	芸術教育	(予習) 大学祭にて歌われる「彩音祭賛歌」について、作詞の内容を確認し ておくこと。	阿久澤政行
		(復習)音楽の魅力を再認識し、大学生活の中で「彩音祭賛歌」の果たす役	
		割についてまとめて提出すること。	

本科目は、講義科目1単位ですので、授業時間90分以外に30時間の授業外学習が必要になります。授業外学習に記載された予習・復習を実践して内容の理解を深めてください。

- ・各担当教員から紹介された図書やメディアを通して興味・関心を広げて教養を身につけていくこと。
- ・8回終了後に、建学の精神と各学科の教育目標・学習成果・3つのポリシー等に関するレポート課題がある。日頃から、各授業内容が建学の精神とどのような関係にあるのかをまとめておくこと。

成績評価の基準・方法

成績評価の基準

評価項目	S	A	В	С	D
①建学の精神と教育目標・学習成果・3つのポリシーとの関係の理解②各自の目的に合わせて学習に取り組み	完全にないし ほぼ完全に到 達目標を達成 している	若干不十分な 点は認められ るものの、到達 目標を達成し ている	不十分な点は 認められるも のの、到達目標 を達成してい る	到達目標の最 低限を達成し ている	到達目標を達 成していない
100 点法	100点~90点	89 点~80 点	79 点~70 点	69 点~60 点	59 点以下

成績評価の方法

定期試験(レポート試験)50%と、各担当教員の授業内のリアクションペーパーや授業外課題50%で総合評価する。

教科書

使用しない。必要に応じて資料を配付する。

参考書等

- ・小原國芳著,『全人教育論』, 玉川大学出版部, 1994年、1,707円
- ・ショーン・コヴィー 著,『7つの習慣ティーンズ』, キングベアー出版, 2014年、1,760円

履修上の注意・学習支援

- ・授業日程や教室が不規則になるので、日程変更等の掲示を確認すること。
- ・不明なことがあれば、質問すること。

オフィスアワー

・教員のオフィスアワーについては、別途提示する。

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
21 HS1BC2	キャリアデザイン	1年	前期	講義	1	江田 郁夫

本授業では、広い教養を身につけ、自立・自律した生活者としての行動規範を身につけるために、自分自身のキャリア(仕事を通じた人生)を設計・形成していく力を習得することを目的とする。具体的には、キャリア設計に不可欠な基礎知識として、現代の社会・経済環境に関連する社会・経済動向をニュースや新聞記事等をもとに学ぶ。あわせて自分らしい人生や職業・職場選択をより深く考えるために調べ学習等も取り入れて、自身の将来設計をより明確化する。

到達目標(学習の成果)

- 1. 現代の社会・経済動向を正確に理解できる(知識)。
- 2. 自分自身の将来設計をより明確なものとし、それらをもとにして自己および他者を理解できる(技術・方法・態度)。
- 3. 人間尊重の精神と倫理性をもち、自立・自律した生活者となることができる(技術)。

授業計画

旦	表題	学習内容
1回	授業の進め方 自己理解を深める①	授業の進め方等を確認し、ライフサイクルと発達課題について学ぶ。 【予習】シラバスを精読する【復習】授業内容を授業記録にまとめる
2回	自己理解を深める②	職業生活と社会参加について学ぶ。 【予習】自身の生きがいを考える【復習】授業内容をまとめる
3回	社会理解を深める①	こんにちの労働問題について学ぶ。 【予習】労働問題の具体例をあげる【復習】授業内容をまとめる
4 回	社会理解を深める②	働き方を具体的に考える。 【予習】自身のキャリアプランを考える【復習】授業内容をまとめる
5 回	社会理解を深める③	医療制度・介護制度・年金問題について学ぶ。 【予習】社会保険の現状を調べる【復習】授業内容をまとめる
6 回	社会理解を深める③	公的扶助と社会福祉について学ぶ。 【予習】社会福祉の課題を調べる【復習】授業内容をまとめる
7 回	社会人基礎力を身につける①	社会人基礎力について学ぶ。 【予習】企業が求める人材像を調べる【復習】授業内容をまとめる
8回	社会人基礎力を身につける②	自己分析を通じて自身の長・短所を確認する。 【予習】キャリア・プランシートを作成する【復習】授業内容を授業 記録にまとめる

準備学習(予習・復習について)

本科目は、講義科目 (1単位) なので、授業時間以外に30時間の授業外学習が必要になる。 学習内容中に記載された予習・復習課題を実践して内容の理解を深めてください。 その他、毎回の授業ごとに自分自身の考えをまとめた課題を提出してください。

成績評価の基準・方法

評価項目	S	A	В	С	D
1. 現代の社会・経済動向を正確に理	完全にない	若干不十分	不十分な点	到達目標の	到達目標を
解できている。	しほぼ完全	な点は認め	は認められ	最低限を達	達成してい
	に到達目標	られるもの	るものの、		ない。

2. 自分の将来設計をより明確なもの とし、自己および他者を理解できる 3. 自立・自律した生活者となること ができる。	を達成して いる。	の、到達目 標を達成し ている。	到達目標を 達成してい る。	成してい る。	
100点法	100点~90 点	89点~80点	79点~70点	69点~60点	59点以下

定期試験(レポート課題)(授業の内容を理解したうえで、自分自身の将来設計を明確に示せる)60% 授業内課題(毎回)(授業の内容を理解し、自分の考えを的確に表現できるかを確認する課題)40%

教科書

使用しない。

毎回、プリント(レジュメ・関連資料等)を配付する。

参考書等

『2025ズームアップ公共資料』実教出版、2025年、990円

履修上の注意・学習支援

授業中に関連事項を質問するので積極的に発言すること。

オフィスアワー

授業後にも質問に対応する。その他、疑問があれば、オフィスアワーを利用すること。事前予約(i.eda@ujc.ac. jp)の上、時間を設定する。具体的な時間は追って掲示する。

実務経験の概要

県立高等学校地歴科教諭として17年間、日本史・世界史等の教科教育や進路・生活指導全般を担当。そのほか、栃木県立文書館指導主事として6年間、歴史資料の調査・整理・展示等の業務に携わった。また、栃木県立博物館学芸員として12年間、多様な資料の調査・展示・保存業務等を行った。以上の実務を通じて、歴史学の前提となる史資料の特徴やその役割・重要性に関しての知見を深めることができた。

[実務経験と授業科目との関連性]

上記の教員経験や博物館での経験、とくに高校での進路・生活指導経験をいかして、より具体的でわかりやすい 講義を行うことができる。

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
21HS1BL3	心理学と心理的支援	1 年	後期	講義	2	飯島 惠子

この科目は、「心理学理論」と「心理的支援」2つのテーマで構成されています。心理学の基礎分野である「心理学理論」とそれを基とした具体的な面接、アセスメント、心理療法(心理検査,心理療法)などの応用分野である「心理的支援」のそれぞれに幅広い2つの分野について学びます。地域共生社会の実現に向けて求められる包括的な相談支援体制等の構築に必要な実践能力として、専門的な知識を身につけます。

到達目標(学習の成果)

- 1. 人の心の基本的な仕組みと機能を理解し、環境との相互作用の中で生じる心理的反応を理解する。(知識)
- 2. 人の成長・発達段階の各期に特有な心理的課題を理解する。 (知識)
- 3. 日常生活と心の健康との関係について理解する。(知識)
- 4. 心理学の理論を基礎としたアセスメントの方法と支援について理解する。(知識・方法)
- 5. 心理的支援の学びから、自己および他者を理解し、自立・自律した生活のための知識を身につける。(方法・態度)

□	表題	学習内容
1 回	授業の進め方 心理学の視点 その1	授業計画、授業方法、予習・復習、成績の評価基準・方法等を知る ガイダンス 心理学の特徴と歴史 ・心理学の起源 ・心理学の発展と対象 【予習】テキストの該当する部分を読む 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
2 回	心理学の視点 その2	心理学の研究方法と展開 ・心理学の研究方法 ・生態学的心理学 ・進化心理学的アプローチ ・認知行動科学 ・行動遺伝学 【予習】テキストの該当する部分を読む 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
3回	人の心の基本的な仕組みと機能 その1	・心の生物学的基盤 ・感覚・認知 【予習】テキストの該当する部分を読む 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
4回	人の心の基本的な仕組みと機能 その2	人の心理学的理解 ・学習・条件づけ ・記憶と思考 ・感情・動機づけ 【予習】テキストの該当する部分を読む 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
5 回	人の心の基本的な仕組みと機能 その3	人の心理学的理解 ・自己鋭角 ・無能 ・対人関係 【予習】テキストの該当する部分を読む 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
6 回	人の心の発達過程 その1	人の成長·発達と心理 ・発達の定義 ・心理的発達 【予習】テキストの該当する部分を読む 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
7 回	人の心の発達過程 その2	人の成長·発達と心理 ・生涯発達と発達課題 【予習】テキストの該当する部分を読む

		【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
8日	日常生活と心の健康その1	・適応・ストレス【予習】テキストの該当する部分を読む【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
9回	日常生活と心の健康その2	・健康生成論 ・注目される事柄 【予習】テキストの該当する部分を読む 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
10回	日常生活と心の健康その3	・注目される事柄 【予習】テキストの該当する部分を読む 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
11回	心理学の理論を基礎としたアセ スメントと支援の基本その1	心理的支援の方法と実際 ・心理的支援 ・心理アセスメント 【予習】テキストの該当する部分を読む 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
12回	心理学の理論を基礎としたアセ スメントと支援の基本 2	心理的支援の方法と実際 カウンセリング・心理療法:総論・カウンセリング・心理療法の基本的概念 【予習】テキストの該当する部分を読む 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
13回	心理学の理論を基礎としたアセスメントと支援の基本その3	心理的支援の方法と実際 カウンセリング・心理療法・精神分析 ・応用行動分析 ・行動療法・認知行動療法 ・家族療法【予習】テキストの該当する部分を読む【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
14回	心理学の理論を基礎としたアセ スメントと支援の基本その4	心理的支援の方法と実際 ・集団精神療法 ・プレイセラピー ・臨床動作法 ・ブリーフセラピー ・対人関係療法 ・森田療法 【予習】テキストの該当する部分を読む 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
15回	心理学と心理的支援まとめ	心理専門職と地域連携 ・ソーシャルワークにおける心理的支援 ・公認心理士 ふりかえり 【予習】テキストの該当する部分を読む 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。

本科目は、講義科目(2単位)ですので、授業時間30時間と準備学習60時間が必要です。

- ・学習内容に記載された予習・復習を実践して内容の理解を深めてください。 授業内容を理解するため、事前に教科書の範囲を読み込んで、講義にのぞむこと。 授業内で提示した参考資料、配布したレジュメを読むこと。
- ・学んだ「心理的支援」に関連する事柄を日々の自分自身の生活や福祉専門職としての仕事に関連付ける習慣を身につけること。
- ・毎回、ふりかえりシートを記入して活用します。

成績評価の基準・方法

評価項目	S	A	В	С	D
1. 代表的な心理療法やカウンセリン	完全にない	若干不十分	不十分な点	到達目標の	到達目標を
グの歴史・概念・意義について概説でき	しほぼ完全	な点は認め	は認められ	最低限を達	達成してい
る。	に到達目標	られるもの	るものの、	成してい	ない。
2.様々な生活課題を抱えている人々	を達成して	の、到達目	到達目標を	る。	
に、肯定的な関心を持ち、カウンセリ	いる。	標を達成し	達成してい		
ングマインドと実践的理解を深化さ		ている。	る。		
せ、学問を深めることができる。					
3. 良好な人間関係を築くコミュニケ					
ーション能力を身につけ、支援を要す					
る人々の特性や状況に応じて適切な支					
援方法を選択・調整することができ					
る。					
100点法	90点以上	80点以上	70点以上	60点以上	59点以下

- ・ふりかえりシート(毎回の授業終了後に提出、気づき、感想、興味関心、質問など)20%
- ・小テスト授業内課題(学習内容の要約や専門用語を適切に説明できるかを確認する課題)30%
- ・定期試験(レポート試験)(心理的支援、心理療法について、自らの興味と関心、考えを表明できる)50%

教科書

・社会福祉学習双書2024 第11巻「心理学と心理的支援」社会福祉法人全国社会福祉協議会2024年1月発行 2,970 円

参考書等

必要時、授業中に適宜紹介する。毎回、授業用に作成した資料、レジュメを配付する。

履修上の注意・学習支援

- ・授業中は学生の皆さんが、授業の環境を良くするようお互い心配りをして受講すること。
- ・テキスト・配付したレジュメ・筆記用具等授業で必要な物は必ず持参すること。
- ・講義を中心に、適宜、心理テストや演習を行う。演習は積極的に参加する。
- ・心理学に興味を持ち、関心を持った言葉や療法など、深められる書物を図書館で探して読もう。
- ・身の回りに起きている出来事と心理学を関連づけることを意識しよう。
- ・相談、質問、疑問等あれば、授業時間内、またはオフィスアワーを利用すること。

オフィスアワー

質問、相談、疑問があれば、オフィスアワーを利用すること。事前予約のうえ、時間を設定する。

実務経験の概要

公認心理師、社会福祉士、認定ケアマネジャー、産業カウンセラー等の資格と経験を活かして、地域の中で主にNPO法人を足場に活動してきた。触法障がい者入所施設のカウンセラー・理事、オンブズマンを務める。日本カウンセリング学会、日本ケアマネジメント学会、栃木県公認心理師協会、栃木県カウンセリング協会等に所属し、学びや演習、研究を重ねつつ、現在は、コミュニティ・ソーシャルワーカー、コミュニティ・カウンセラーとして、地域の中で日々の実践、現場の相談支援継続中。

実務経験と科目との関連性

公認心理士、社会福祉士、認定ケアマネジャー、産業カウンセラーとして、制度内外の地域で暮らす様々な人の各種相談対応やカウンセリング、心理的な支援を行う活動を通じた経験と実践を基に、心理的援助を必要とする人たちへの包括的な支援について、共に学び、考え、共有していく。

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
21HS2BL4	社会学と社会システム	2年	後期	講義	2	堀 圭三

自立・自律した生活者として必要な、社会の仕組みについて理解を深めることを目的とする。現代社会の問題、 人と社会の関係などについて、具体的な事例を挙げながら講義をしていく。

到達目標(学習の成果)

- 1. 授業の中で示された社会学の「テクニカルターム」について理解している。
- 2. 社会学のテクニカルタームを使い、身近な現象を説明することができる。
- 3. 以上により、自分自身や社会生活を考える態度を身につけている。

戸	表題	学習内容
1 回	授業の進め方 社会学小史・社会学の視 点	授業計画・準備学習・成績評価の方法・基準等について理解する。 19C 後半の、デュルケム、ジンメル、ウェーバーなどの社会学者が活躍した 時代背景について理解する。 予習・復習:参考書から少なくとも1冊選び授業終了時までに読むこと。 復習:授業で示されたテクニカルタームを整理する。
2 回	社会学の考え方	逆説思考、順機能、逆機能などのテクニカルタームを理解し、社会学的なものの見方について理解する。 予習:授業で示されたテクニカルタームを調べておく。 復習:授業で示されたテクニカルタームを整理する。
3回	人と社会との関係1(社 会構造と変動①)	社会システムの考え方として、パーソンズのAGIL理論を理解する。 予習:授業で示されたテクニカルタームを調べておく。 復習:授業で示されたテクニカルタームを整理する。
4回	人と社会との関係 2 (社 会構造と変動②)	社会規範や役割期待の相補性について理解する。 予習:授業で示されたテクニカルタームを調べておく。 復習:授業で示されたテクニカルタームを整理する。
5回	人と社会との関係3(社 会構造と変動③)	社会集団の概念について理解し、primary group や基礎集団、官僚制について理解する。 予習:授業で示されたテクニカルタームを調べておく。 復習:授業で示されたテクニカルタームを整理する。
6 回	現代社会の理解1 (社会 構造と変動④)	近代の人口動態、少子化、高齢化の実態について、統計から理解する。 予習:授業で示されたテクニカルタームを調べておく。 復習:授業で示されたテクニカルタームを整理する。
7 回	現代社会の理解2(社会 構造と変動⑤)	地域の概念、コミュニティの定義、都市生活の特徴について理解する。 予習:授業で示されたテクニカルタームを調べておく。 復習:授業で示されたテクニカルタームを整理する。
8回	現代社会の理解3 (市民 生活と公共性①)	所得、教育、健康の社会的格差について理解する。 予習:授業で示されたテクニカルタームを調べておく。 復習:授業で示されたテクニカルタームを整理する。
9回	現代社会の理解4 (市民 生活と公共性②)	ラベリング理論、マイノリティ、ジェンダーなど、社会のなかの偏見について理解する。 予習:授業で示されたテクニカルタームを調べておく。 復習:授業で示されたテクニカルタームを整理する。

10回	生活の理解1 (生活と人 生①)	家族の概念、とくに核家族の定義、定位家族と生殖家族の考え方と性別役割分業意識について理解する。 予習:授業で示されたテクニカルタームを調べておく。 復習:授業で示されたテクニカルタームを整理する。
11回	生活の理解 2 (生活と人 生②)	デュルケムの主著『自殺論』の考え方について理解する。自殺と個人主義について社会学的に考える視点を理解する。 予習:授業で示されたテクニカルタームを調べておく。 復習:授業で示されたテクニカルタームを整理する。
12回	社会問題の理解1 (生活 と人生③)	感情労働の概念の理解やウェーバーの「倫理」の概念から、働くことの意味を考える。 予習:授業で示されたテクニカルタームを調べておく。 復習:授業で示されたテクニカルタームを整理する。
13回	社会問題の理解2(自己 と他者①)	社会の変化と「自己」の理解について、ミードの学説(社会的自我と内なる会話)を理解する。 予習:授業で示されたテクニカルタームを調べておく。 復習:授業で示されたテクニカルタームを整理する。
14回	社会問題の理解3 (自己 と他者②)	「共在」の概念とお互いに相手を尊重する儀礼的相互行為を理解する。 予習:授業で示されたテクニカルタームを調べておく。 復習:授業で示されたテクニカルタームを整理する。
15回	社会問題の理解4(自己 と他者③)	人間関係づくりの基礎となるコミュニケーションについて考える。予習:授業で示されたテクニカルタームを調べておく。 復習:授業で示されたテクニカルタームを整理する。

この科目は、講義科目(2単位)ですので、授業時間の他に準備学習60時間が必要になります。

- ・ニュースやコラム等で授業に関係することがあれば、その内容をノートにまとめること。
- ・授業記録の記入し、基本概念についてはきちんとノートにまとめておく。

成績評価の基準・方法

成績評価の基準

評価項目	S	A	В	С	D
 テクニカルタームの定義を記述できる。 テクニカルタームを、範例を使って説明できる。 テクニカルタームを、自身の問題意識と結び付けている。 	完全にない しほぼ完全 に到達目標 を達成して いる。	若干不十分 な点は認め られるもの の、到達目 標を達成し ている。	不十分な点 は認められ るものの、 到達目標を 達成してい る。	到達目標の 最低限を達 成してい る。	到達目標を 達成してい ない。
100点法	90点以上	80点以上	70点以上	60点以上	59点以下

成績評価の方法

・定期試験(筆記試験)100%

教科書

授業開始時にレジュメを配付する。

参考書等

- ・日本所シャルワーク教育学校連盟編『社会学と社会システム』中央法規 2021年、2,750円 (税込)
- ・森下伸也『社会学がわかる事典』日本実業出版社 2000年、1,650円(税込)
- ・森下伸也『逆説思考』光文社新書 2006年、777円 (税込)
- · 奥村隆『社会学の歴史 I』 有斐閣 2014年、2,090円(税込)
- ・奥村隆『社会学の歴史Ⅱ』有斐閣 2023年、2,860円(税込)
- ・橋爪大三郎他『社会学講義』ちくま新書 2016年、946円(税込)
- ・出口剛司『大学4年間の社会学が10時間でざっと学べる』角川文庫 2022年、682円 (税込)

履修上の注意・学習支援

質問等がある場合は、電子メールで受け付ける。また、オフィスアワーでも受け付ける。 Google classroomにて、課題の提出等を行う。

オフィスアワー

疑問があれば、オフィスアワーを利用すること。事前予約(k3@ujc.ac.jp) のうえ、時間を設定する。具体的な時間帯は追って指示する。

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
21 HS2BL5	法学	2年	前期	講義	2	渡辺 靖明

私たちの現実の身近な暮らしと生活に、具体的にいかなる法がどのように関わっているのか、憲法を中心にして、その基礎を学びます。また、家族や福祉に深く関わる重要な法的問題も学びます。

適宜、重要な事例や問題について、クラスルームの機能などを使って意見を書いてもらい、一覧にまとめられた他の人の意見も見て、自分の考えをさらに深めてもらう予定です。

到達目標(学習の成果)

- 1. 憲法を中心とした法について基本的な知識を身につける(知識)。
- 2. 法の基本的な知識を具体的事例に当てはめることができる(知識・方法)。
- 3. 様々な社会的問題について法的な観点から考えることができる(知識・方法)。

回	表題	学習内容
1 回	授業の進め方 法がなぜ必要なのか	授業計画、授業方法 予習・復習、成績の評価基準・方法等を知る。私たちの社会、生活での法の分類、意義、役割などを学ぶ。 【予習】事前配布のレジュメに目を通しつつ、法についての自分のイメージや知っている法、関心のある法などを整理しておく。 【復習】法の意義、役割、自分たちの生活や暮らしとの関わりなどを振り返っておく。
2 回	法令の体系及び法の分類	法令の種類・体系(システム)の概要、憲法の最高法規性、憲法と条約との関係などを学ぶ。 【予習】事前配布のレジュメに目を通しつつ、「憲法」、「法令」、「法律」、「条例」などの言葉の意味を調べて整理しておく。 【復習】授業を振り返り、用語の意味・考え方や、具体的事例があればその内容を整理して、さらに考えを深める。
3回	日本国憲法の基礎	市民の「あたりまえ」を守る法としての憲法の意義、基本構造、憲法の定める人権とその制約などを学ぶ。 【予習】事前配布のレジュメに目を通しつつ、高校等で習ったことを思い出しながら、「日本国憲法」とはどのような法かを整理しておく。 【復習】授業を振り返り、用語の意味・考え方や、具体的事例があればその内容を整理して、さらに考えを深める。
4 回	基本的人権	憲法の定める平等権、自由権、社会権、参政権、幸福追求権及び国民の義務を学ぶ。 【予習】事前配布のレジュメに目を通しつつ、高校等で習った「日本国憲法」の知識を思い出しながら、憲法の「人権」の種類や内容について調べて整理しておく。 【復習】授業を振り返り、用語の意味・考え方や、具体的事例があればその内容を整理して、さらに考えを深める。
5回	平等とは?	具体的な事例から、平等とは何かをさらに考えてみる。 【予習】前回の授業での「平等」の項目を踏まえつつ、事前配布のレジュメに目を通して、「事例」について自分はどう考えるか整理しておく。 【復習】授業を振り返り、用語の意味・考え方や、具体的事例があればその内容を整理して、さらに考えを深める。
6 回	表現の自由(1)表現の自由の 基礎	表現の自由はなぜ保障されるのか、検閲の禁止、集団行動の自由、報道の自由・知る権利などを学ぶ。 【予習】事前配布のレジュメに目を通しつつ、前回までの関連する授業を踏まえながら、「表現の自由」、「検閲」、「知る権利」などについて調べておく。

		【復習】授業を振り返り、用語の意味・考え方や、具体的事例があればその 内容を整理して、さらに考えを深める。
7回	表現の自由(2)刑法の犯罪との関係	表現の自由と刑法によるビラの貼り付け・配布の規制、名誉毀損罪との関係を学ぶ。基本的人権の保障のうち、精神的自由権の保障の内容を理解する。 【予習】事前配布のレジュメに目を通しつつ、前回までの関連する授業を踏まえながら、「刑法」とはどのような法律か、「住居侵入罪」、「名誉毀損罪」とはどのような犯罪かを調べておく。 【復習】授業を振り返り、用語の意味・考え方や、具体的事例があればその内容を整理して、さらに考えを深める。
8回	自己決定権	自己決定権の意義、憲法における幸福追求権との関係や、生命をめぐる 自己決定権の尊重の限界などを学ぶ。 【予習】事前配布のレジュメに目を通しつつ、前回までの関連する授業を踏まえながら、「輸血拒否事件」について調べておく。 【復習】授業を振り返り、用語の意味・考え方や、具体的事例があればその内容を整理して、さらに考えを深める。
9日	家族と法(1)夫婦(婚姻・離婚)	家族に関する憲法の規定、民法における夫婦関係(婚姻・離婚)の基礎を学ぶ。夫婦別姓をめぐる判例(裁判所の判断)についても考える。 【予習】事前配布のレジュメに目を通しつつ、家族に関する憲法の規定や、民法における「婚姻」、「離婚」、「夫婦別姓」について調べておく。 【復習】授業を振り返り、用語の意味・考え方や、具体的事例があればその内容を整理して、さらに考えを深める。
10回	家族と法(2)親子、相続	民法における親子、相続の基礎を学ぶ。 【予習】事前配布のレジュメに目を通しつつ、民法における「親子」と「相続」 について調べておく。 【復習】授業を振り返り、用語の意味・考え方や、具体的事例があればその 内容を整理して、さらに考えを深める。
11回	学校教育と法	憲法における学問の自由、教育を受ける権利、学校での平等と学校でのいじめの問題を学ぶ。 【予習】事前配布のレジュメに目を通しつつ、前回までの関連する授業を踏まえながら、「学問の自由」や「教育を受ける権利」などについて調べておく。 【復習】授業を振り返り、用語の意味・考え方や、具体的事例があればその内容を整理して、さらに考えを深める。
12回	子どもの貧困と法	子どもの貧困の現状と対策や社会権、生存権との関係などを学ぶ。 【予習】事前配布のレジュメに目を通しつつ、前回までの関連する授業を 踏まえながら、「社会権」や「生存権」について調べておく。 【復習】授業を振り返り、用語の意味・考え方や、具体的事例があればその 内容を整理して、さらに考えを深める。
13回	生命と法	法ではいつから「人」になるか、また人の「死」とはいつか、などの基礎を学ぶ。 【予習】事前配布のレジュメに目を通しつつ、民法と刑法とでの人の始まりや、人の終わり(死)をめぐる「心臓死説」と「脳死説」について調べておく。 【復習】授業を振り返り、用語の意味・考え方や、具体的事例があればその内容を整理して、さらに考えを深める。
14回	労働と法	憲法の労働権、労働基準法の原則、職場での平等の基礎を学ぶ。 【予習】事前配布のレジュメに目を通しつつ、「労働法」の意味や憲法との関係を調べておく。 【復習】授業を振り返り、用語の意味・考え方や、具体的事例があればその内容を整理して、さらに考えを深める。

これまでの総括とこれからの展望

15回

※授業の進み具合に応じて、内容変更の可能性がある。

これまでの授業で得た知識をもとに、具体的事例についてどのように考えるべきか、自分の理解を整理する。

【予習】これまでの授業を振り返って、理解が充分でないと思うところについ て調べて整理しておく。

【復習】授業の内容を振り返り、自分の理解を整理する。

準備学習(予習・復習について)

本科目は、講義科目(2単位)ですので、準備学習60時間が必要になります。

学習内容に記載された予習・復習を実践して内容の理解を深めてください。その際には、授業で扱った具体的事例の内容を見直すとともに、レジュメや図書を用いて、授業中に充分に理解できなかった部分を補いノートにまとめるなどして整理してください。

日ごろから自身が関係しそうな社会の問題について関心を持ち、法的な観点からどのような解決ができるかを 考える癖をつけることが望ましいです。

成績評価の基準・方法

評価項目	S	A	В	С	D
1. 法の基本的な用語の意味・考え方	完全にない	若干不十分	不十分な点	到達目標の	到達目標を
を理解できている。	しほぼ完全	な点は認め	は認められ	最低限を達	達成してい
2. 法の基本的な知識を具体的事例に	に到達目標	られるもの	るものの、	成してい	ない。
当てはめて考えることができている。	を達成して	の、到達目	到達目標を	る。	
3. 様々な社会的問題について法的な	いる。	標を達成し	達成してい		
観点から考えることができている。		ている。	る。		
100点法	90点以上	80点以上	70点以上	60点以上	59点以下

• 定期試験(筆記試験)

70%

・授業外での小テスト (クラスルームを使用する予定) 3回 25%

授業内での質問への回答等

5%

教科書

なし

参考書等

村中洋介ほか『嫌いにならない法学入門』 (2版、信山社、2023年) 2,750円 斎藤一久・城野一憲編著『教職のための憲法』 (ミネルヴァ書房、2020年) 2,200円

履修上の注意・学習支援

- ・授業中の不要な私語はつつしんでください。他の人の迷惑を考えられなければ、法 (ルール) を正しく学べません。
- ・特に最初は難しく感じるかもしれませんが、理解度を確認しながら、楽しく学べるよう心がけたいと思っています。
- ・授業を受けて分からなかったところは気軽に質問してください。

オフィスアワー

質問等があれば、オフィスアワー(原則、講義終了後(開始前でも可)15分間程度、1号館1階「講師教員センター」)を利用すること。

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
21 HS2BL6	経済学	2 年	前期	講義	2	漆戸 宏宣

この授業は、経済学に関連する基礎的な理論や、政策について学ぶ授業である。具体的には、経済や経済活動とは何か、経済学を学ぶ目的、需要と供給ならびに価格を媒介した市場の意義と役割、市場の限界と政府の意義と役割、国民経済計算と景気ならびに経済成長について学ぶ。

到達目標(学習の成果)

- ・経済学に関連する基礎的な理論や政策について理解し、説明することができる。
- ・現在の経済の問題点を見出し、その解決に関して自分なりの見解を持つことができる。

		以 未们西
旦	表題	学習内容
1回	授業の進め方、経済とは何か、 経済活動(生産、分配、支出)	授業計画、授業方法、予習・復習、成績の評価基準・方法等を知る。 経済とは何か、ならびに、経済活動には生産、分配、支出の3つの活動があることについて学ぶ。 (予習)事前にレジュメを通読する。 (復習)授業内容を復習しポイントをまとめ理解を深める。
2 回	生産(資源、生産要素、(資源の)希(稀)少性、財・サービス、経済体制)	生産活動、具体的には、資源、生産要素、(資源の)希(稀)少性、財・サービス、経済体制について学ぶ。 (予習)事前にレジュメを通読する。 (復習)授業内容を復習しポイントをまとめ理解を深める。
3回	分配(所得、所得の分配)、支 出(消費、投資、政府支出、納 税、貯蓄)	分配活動、具体的には、所得、所得の分配、ならびに、支出活動、具体的には、消費、投資、政府支出、納税、貯蓄について学ぶ。 (予習)事前にレジュメを通読する。 (復習)授業内容を復習しポイントをまとめ理解を深める。
4 回	経済主体(家計、企業、政 府)、経済循環(経済活動の循 環)	経済主体には家計、企業、政府の3つがあり、各経済主体の経済活動は循環していることについて学ぶ。 (予習)事前にレジュメを通読する。 (復習)授業内容を復習しポイントをまとめ理解を深める。
5 回	市場(1) (財・サービス市場 (商品市場)、生産要素市場 (要素市場))	市場には、財・サービス市場(商品市場)と生産要素市場(要素市場)の2つがあることについて学ぶ。 (予習)事前にレジュメを通読する。 (復習)授業内容を復習しポイントをまとめ理解を深める。
6 回	消費(1)(消費行動の原理、 効用、支払意思額、価格)	消費について、具体的には、消費行動の原理、効用、支払意思額、価格について学ぶ。 (予習)事前にレジュメを通読する。 (復習)授業内容を復習しポイントをまとめ理解を深める。
7回	消費(2)(限界効用、限界効 用逓減の法則)	消費について、具体的には、限界効用、限界効用逓減の法則について 学ぶ。 (予習)事前にレジュメを通読する。 (復習)授業内容を復習しポイントをまとめ理解を深める。
8回	生産(生産行動の原理、利潤、 総収入、総費用)	生産について、具体的には、生産行動の原理、利潤、総収入、総費用について学ぶ。 (予習)事前にレジュメを通読する。 (復習)授業内容を復習しポイントをまとめ理解を深める。

9日	需要と供給(1)(需要、供 給、価格の関係、需要曲線、供 給曲線)	需要と供給について、具体的には、需要と供給と価格の関係、需要曲線、供給曲線について学ぶ。 (予習)事前にレジュメを通読する。 (復習)授業内容を復習しポイントをまとめ理解を深める。
10回	市場(2)(完全競争市場、価格の自動調整機能、資源の最適配分、独占・寡占市場(不完全競争市場))	市場について、具体的には、完全競争市場、価格の自動調整機能、資源の最適配分、独占・寡占市場(不完全競争市場)について学ぶ。 (予習)事前にレジュメを通読する。 (復習)授業内容を復習しポイントをまとめ理解を深める。
11回	需要と供給(2)(需要曲線、 供給曲線とそのシフト)	需要と供給について、具体的には、需要曲線、供給曲線とそのシフトについて学ぶ。 (予習)事前にレジュメを通読する。 (復習)授業内容を復習しポイントをまとめ理解を深める。
12回	市場の失敗(政府の役割)(1 公共財(例:道路)の供給と私 的財、2外部性(例:地域にお ける環境問題)、3独占・寡占 (例:規制))	市場の失敗と政府の役割について、具体的には、1公共財(例:道路)の供給と私的財、2外部性(例:地域における環境問題)、3独占・寡占(例:規制))について学ぶ。 (予習)事前にレジュメを通読する。 (復習)授業内容を復習しポイントをまとめ理解を深める。
13回	景気(好況、不況、景気循環)	景気について、具体的には、景気とは何か、好況、不況、また、景気 は循環していることについて学ぶ。 (予習)事前にレジュメを通読する。 (復習)授業内容を復習しポイントをまとめ理解を深める。
14回	GDP(国民経済計算、国民所 得、国際貿易、三面等価の原 則)	GDPについて、具体的には、GDPとは何か、国民経済計算、国民所得、 国際貿易、三面等価の原則について学ぶ。 (予習)事前にレジュメを通読する。 (復習)授業内容を復習しポイントをまとめ理解を深める。
15回	物価(インフレーション、デフレーション)	物価について、具体的には、物価とは何か、インフレーション、デフレーションについて学ぶ。 (予習)事前にレジュメを通読する。 (復習)授業内容を復習しポイントをまとめ理解を深める。

本科目は、講義科目(2単位)ですので、授業時間以外に60時間の授業外学習が必要になります。 学習内容に記載された予習・復習を実践して内容の理解を深めてください。

成績評価の基準・方法

評価項目	S	A	В	C	D
1. 経済学に関連する基礎的な理論や	完全にない	若干不十分	不十分な点	到達目標の	到達目標を
政策についての理解	しほぼ完全	な点は認め	は認められ	最低限を達	達成してい
2. 経済における問題点とその解決に	に到達目標	られるもの	るものの、	成してい	ない。
関する見解	を達成して	の、到達目	到達目標を	る。	
	いる。	標を達成し	達成してい		
		ている。	る。		
100点法	90点以上	80点以上	70点以上	60点以上	59点以下

成績評価の方法 ・定期試験(筆記試験)70%+授業外の課題(課題レポート)15%+授業内の課題(小テスト、小レポート)15%

教科書

特に指定しない。授業用に私自身が作成したレジュメを用いる。

参考書等

根岸毅宏・中泉真樹編著『アクティブ・ラーニングで学ぶ日本の経済』東洋経済新報社、2021年、2,200円

履修上の注意・学習支援

レジュメの該当箇所を事前に熟読して予習をし、疑問点を明らかにしておく。授業後はレジュメ等を用いて復習をする。その際、特に重要な点として、レジュメの穴埋め欄の理解を深め知識を定着させる。また、随時提出を求められる、授業外の課題(課題レポート)の提出のための準備を必ずする。

課題等の提出の期限を厳守する。課題等の提出物を提出しない者、提出期限を過ぎて提出した者は、減点する場合もある。

オフィスアワー

質問等があれば、オフィスアワー(原則、講義終了後(開始前でも可)15分間程度、1号館1階「講師教員センター」)を利用すること。

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
21HS1BL7	歴史学	1年	後期	講義	2	江田 郁夫

「伝記のみが真の歴史である」。イギリスの著名な歴史家カーライル(1795~1881)がのこした言葉です。伝記とは、個人の一生の出来事をまとめたもので、それだけが「真の歴史である」とは一体どういうことでしょうか?そこで今回は、日本の室町時代を生きた一人の武将、足利持氏(1398~1439)の生涯をつうじて、その言葉のもつ意味を考えてみたいと思います。現代社会を生きる私たちにとって、歴史とは?

到達目標(学習の成果)

- ・歴史上の転換点に関する基礎知識を身につけ、自立・自律した生活者への一助とする。(知識・態度)
- ・歴史における個人の役割を理解し、人間尊重の精神と豊かな人間性を身につける(知識・方法・態度)

	J. 10-	NAME AND ADDRESS OF THE PARTY O
回	表題 	学習内容
1回	授業の進め方 日本史と大河ドラマ	授業の進め方を確認し、その後大河ドラマからみた歴史像を学ぶ。 【予習】大河ドラマを調べる【復習】授業内容をまとめる
2回	地味な室町時代と足利将軍家1	鎌倉幕府と室町幕府の関連性について学ぶ。 【予習】足利尊氏について調べる【復習】授業内容をまとめる
3回	地味な室町時代と足利将軍家 2	幕府所在地の理由について学ぶ。 【予習】京都・鎌倉について調べる【復習】授業内容をまとめる
4回	地味な室町時代と足利将軍家3	北山文化と東山文化の特徴を考える。 【予習】金閣・銀閣について調べる【復習】授業内容をまとめる
5回	もうひとつの幕府、鎌倉府と鎌 倉公方足利氏1	鎌倉幕府と鎌倉府のちがいを考える。 【予習】鎌倉の史跡を調べる【復習】授業内容をまとめる
6 回	もうひとつの幕府、鎌倉府と鎌 倉公方足利氏2	鎌倉公方足利氏歴代について学ぶ。 【予習】鎌倉公方の系譜を調べる【復習】授業内容をまとめる
7 回	もうひとつの幕府、鎌倉府と鎌 倉公方足利氏3	鎌倉公方に従った武士たちについて学ぶ。 【予習】地元の武士団を調べる【復習】授業内容をまとめる
8回	4代鎌倉公方足利持氏の生涯1	4代目公方持氏の就任前後について学ぶ。 【予習】鎌倉御所について調べる【復習】授業内容をまとめる
9回	4代鎌倉公方足利持氏の生涯2	持氏の補佐役上杉禅秀の反乱について考える。 【予習】関東管領について調べる【復習】授業内容をまとめる
10回	4代鎌倉公方足利持氏の生涯3	持氏と関東・東北地方との関連性について学ぶ。 【予習】関東・東北の関連史跡を調べる【復習】授業内容をまとめる
11回	4代鎌倉公方足利持氏の生涯4	持氏と室町幕府の対立の原因を考える。 【予習】幕府への反乱を調べる【復習】授業内容をまとめる
12回	4代鎌倉公方足利持氏の生涯5	持氏と将軍足利義教との関係について学ぶ。 【予習】歴代将軍の事績を調べる【復習】授業内容をまとめる
13回	4代鎌倉公方足利持氏の生涯6	持氏と補佐役上杉憲実の対立の原因を考える。 【予習】上杉憲実と足利学校を調べる【復習】授業内容をまとめる

14回	室町時代と現代社会 1	享徳の乱・応仁の乱について学ぶ。 【予習】茨城県古河市を調べる【復習】授業内容をまとめる
15回	室町時代と現代社会 2	室町時代と現代社会を対比する。 【予習】室町時代の印象を書き出す【復習】授業内容をまとめる

本科目は、講義科目(2単位)ですので、授業時間以外に60時間の校外学習が必要になります。 学習内容中に記載された予習・復習を実践して、内容の理解を深めてください。 その他、毎回の授業ごとに自分自身の考えをまとめた課題を提出してください。

成績評価の基準・方法

評価項目	S	A	В	С	D
① 学ぶ姿勢ができている。	完全にない	若干不十分	不十分な点	到達目標の	到達目標を
②日本史上の転換点として室町時代の	しほぼ完全	な点は認め	は認められ	最低限を達	達成してい
特徴が理解できている。	に到達目標	られるもの	るものの、	成してい	ない。
③歴史における個人の役割と社会との	を達成して	の、到達目	到達目標を	る。	
関係性が理解できている。	いる。	標を達成し	達成してい		
		ている。	る。		
100点法	100点~90 点	89点~80点	79点~70点	69点~60点	59点以下

定期試験(筆記試験) (授業の内容を正確に理解し、それを的確に表現できる)70% 授業内課題(毎回) (授業の内容を理解したうえで、それへの考えを表現できているかを確認する課題)30%

教科書

『図説日本史通覧』帝国書院、2025年度、1,020円

参考書等

丸山裕之『図説室町幕府』戎光祥出版、2018年、1,980円 杉山一弥編著『図説鎌倉府』戎光祥出版、2018年、1,980円

履修上の注意・学習支援

・授業中に関連事項をみなさんに質問しますので、積極的に発言してください。

オフィスアワー

授業後にも質問に対応する。その他、疑問があれば、オフィスアワーを利用すること。事前予約(i.eda@ujc.ac. jp)の上、時間を設定する。具体的な時間は追って掲示する。

実務経験の概要

県立高等学校地歴科教諭として17年間、日本史・世界史等の教科教育や進路・生活指導全般を担当。そのほか、栃木県立文書館指導主事として6年間、歴史資料の調査・整理・展示等の業務に携わった。また、栃木県立博物館学芸員として12年間、多様な資料の調査・展示・保存業務等を行った。以上の実務を通じて、歴史学の前提となる史資料の特徴やその役割・重要性に関しての知見を深めることができた。

[実務経験と授業科目との関連性]

上記の教員経験や博物館での経験、とくに高校での進路・生活指導経験をいかして、より具体的でわかりやすい 講義を行うことができる。

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
21HS1BL8	生活科学	1年	前期	講義	2	中川英子

本授業では、広い教養を身につけ、自立・自律した生活者としての行動規範を身につけるために、まず、①生活とは何か、自立した生活者とはどういうことなのかについて考える。次に、②科学的生活知識について、生活経営・食生活・被服生活・住生活などの各生活領域から理解する。

さらに予習で課された課題 (ワークシートや調べ学習等) について、アクティブ・ラーニング (プレゼンテーション やグループディスカッション等) により、理解を深める。

毎回の授業最後には、学んだ知識についての、まとめ作業をおこなう。

到達目標(学習の成果)

- ・自己および他者を理解できるようになる(知識)。
- ・生活に関わる多様な科学的知識について、理解を深める(知識)。
- ・人間尊重の精神と生活に係る知識をもつ専門職として、地域・社会に貢献できる (態度)。

回	表 題	学習内容
	1. 授業の進め方	授業計画、授業方法、予習・事前、成績の評価基準・方法等を知る
	1. 10米の進め方 2. 自立した生活者を目指	a.自立した生活者を目指すためには、家政学の知識・技術が不可欠であることを
		学ぶ。 b.社会人として、家政学の重要性について学ぶ。 c.生活について「発達
1 回	して	と老化による身体と生活の変化」からライフステージ毎の生活課題を考える。
		準備学習
		【予習】シラバスを読んで本授業 の概要を把握する。
		【復習】自立した生活者を目指すための本授業の意義を再確認する。
		a.家族の意義と機能について学ぶ。b.ファミリー・アイデンティティについて理
		解する。
2 回	生活経営(1)	 準備学習
	家族の意義と機能	【予習】ワークシート「サザエさん一家について考えてみよう」(教科書 P18)
		【復習】家族の意義と機能を再確認する。
		a.家族の変容について世帯構造、結婚と離婚、子育てをめぐる問題などから
		学ぶ。b. aの家族の変容がもたらした現代的課題について考える。
	11 7 67 24 (0)	準備学習
3 回	生活経営(2)	【予習】ワークシート「家族のジェンダー平等について考えてみよう」
	家族の変容 	(教科書 P23)
		【復習】家族の変容を、世帯構造、結婚と離婚、子育てをめぐる問題などから
		再確認する。
		a.家族に関する法律(民法、家族法(親族法・相続法)から、家族間の権利・義
		務、相続と遺言、成年後見制度などについて学ぶ。b.家族・親族に関する用語
	生活経営(3)	の意味を踏まえたうえで、相続法における現代的課題を考える。
4 回	家族と法律	準備学習
	秋水飞松 中	【予習】 ワークシート 「家族・親族に関する用語の意味を確認しよう」
		(教科書 P29)
		【復習】家族に関する法律について、再確認する。
		a.マクロ経済とミクロ経済の関係、家計の構造等について学ぶ。b.生活者に
5 回	生活経営(4) 	とって、家計についての知識が不可欠なことを理解する。
	家計	準備学習
		【予習】ワークシート 「入院患者の小野さんが家計を心配している理由を考

		えてみよう」(教科書 P38-39)
		【復習】家計の構造について、再確認する。
6 回		a.生涯、自立・自律した生活者として生きていくためには生活設計が必要なこと
		を学ぶ。b.Net の生活設計のシュミレーション・ツールから自身の生活設計を作
		成することで、自身の将来を考える。
	生活経営(5)	準備学習
		【予習】自身の生活設計の大枠を考える。
		【復習】ワークシート 授業で作成した生活設計を再確認し、必要に応じて再
		度、生活設計を作成してみる。(教科書 P41)
		a.今日の様々な消費者問題とその対処法(クーリング・オフなど)について、
	生活経営(6)	DVD『若者が被害にあいやすい問題商法』から学ぶ。b. 若者・高齢者の消費者
		被害の実態を理解する。
7 回	消費者問題	準備学習
		【予習】調べ学習 「高齢者の消費者トラブルの一覧表を作成しよう!
		【復習】若者・高齢者の消費者被害について再確認する。
		a.ひとが食べることについて、人体の組織や代謝のしくみ、栄養素の種類と
		人体の代謝のしくみから学ぶ。 b.DVD『女子サッカー部員とマネジャーが考
	食生活(1)	えた食事戦略』から食事バランスの重要性について理解する。
8 回	栄養素の種類と	進備学習
	消化・吸収・代謝	【予習】調べ学習 「5大栄養素の種類と機能(働き)」について一覧表を作
		成する。
		【復習】栄養素の種類と機能について再確認する。
		a.バランスの良い食生活のために食品の分類について学ぶ。b.厚労省・農水
		省『食事バランスガイド』から、自身の栄養バランスをチェックすることで、
	食生活(2)	食品の分類と選択の方法を身につける。
9 回	(2) 栄養素と食事摂取基準	準備学習
		【予習】 ワークシート 「食事バランスガイドを使って食事のチェックをして
		みましょう」(教科書P72-73)
		【復習】あなたの食事バランスを再確認する。
	食生活(3) 食の安全と食中毒 献立作成	a 食の安全、食中毒と食物アレルギー、HACCP などから食の安全と食中毒につ
		いて学ぶ。献立作成について学ぶ。B. 政府インターネットテレビ(You Tube)
10 🖃		から食中毒予防の6つのポイントについて、理解する。
10 回		準備学習
		【予習】「表 2-14 主な食中毒の種類」を理解する。(教科書 P80)
		【復習】HACCP について再確認する。
11 回	被服生活(1) 被服の役割と機能	a. 被服の役割と機能について、被服に関する語句、被服着用の目的、環境温
		度と衣服内気候、服装の TPO について学ぶ。b.被服の TPO について、調べ学
		習「礼装について、インターネットから調べてみましょう」から理解する。
		準備学習
		【予習】調べ学習 TPO とは何か、意味を調べる。(教科書 P102)
		【復習】TPO について、「男女の礼装(和装・洋装)から再確認する。
		TOTAL TIME TO STATE OF STATE O

	被服生活(2) 被服の素材・選択・管理	a.被服の素材について、被服素材の種類、被服素材の性能と加工、JIS 規格とサ
		イズ表示についても学ぶ b. 被服の選択・洗濯について、DVD『記号をよく見て
		洗濯上手に!』や政府インターネットテレビ「新しい洗濯表示の記号」から理
		解する。
12 回		準備学習
		【予習】調べ学習 洗濯絵表示(家庭用品品質管理法)について一覧表を作成
		する。(教科書 P116)
		【復習】洗濯絵表示を再確認したうえで、実際に洗濯をしてみる。
	住生活(1) 住まいの役割と生活空間	a.住まいについて、役割、ファミリーライフサイクルと生活空間、住まいの機能
		や役割の変化、住生活と生活空間などから学ぶ。b.住まいの役割や住生活空間
		について理解する。
13 回		準備学習
		【予習】ワークシート 「あなたの住まいについて調べてみましょう」から住
		まいの役割について理解する。」(教科書 P133)
		【復習】住まいの役割と生活空間について、本授業内容から再確認する。
	住生活(2) 住まいの室内環境	a.住まいの室内環境について、光、温度、音などから学ぶ。b.快適な室内環境に
		ついて考える。
14 回		準備学習
		【予習】調べ学習 住まいの室内環境としてどのようなものがあるか調べる。
		【復習】住まいの室内環境について、本授業内容から再確認する。
		a.持続可能な生活実現のために、SDG s の観点から地球の温暖化・資源・エ
	生活と環境	ネルギー問題について考えていくことの重要性を理解する。b.SDG s について
		インターネットから調べ、理解を深める。
		準備学習
15 回		【予習】調べ学習 "持続可能な社会を目指す"とは、どういうことなのか、具
		体例を交えて説明する。
		【復習】SDG s の観点から持続可能な生活を実現を目指すことの必要性を再確
		認する。
		,

本科目は、講義科目(2単位)で、授業時間(30時間)に加えて、60時間の授業外学習(予習・復習)が必要となります。 学習内容に記載された予習・復習を実践して内容の理解を深めることが求められています。

*毎回の授業のレジュメ・資料等は、グーグル・クラスルームにアップ・ロードしてあります。

成績評価の基準・方法

	評価項目	S	Α	В	С	D
1	. 広く教養を学び、社会規	完全にないし	若干不十分	不十分な点	到達目標の	到達目標を
	範や自己管理力、基本的	ほぼ完全に到	な点は認め	は認められ	最低限を達	達成してい
	なスキルを身につけ、自	達目打ち合わ	られるもの	るものの、	成してい	ない。
	立・自律した生活者とな	せ標を達成し	の、到達目	到達目標を	る。	
	ることができる。	ている。	標を達成し	達成してい		
			ている。	る。		
	100 点法	100 点~90 点	89 点~80 点	79 点~70 点	69 点~60 点	59 点以下

定期試験(筆記試験)50% +授業内の課題50%(課題内容はグーグルクラスルームの授業用資料をご確認ください)

教科書

・奥田都子編著・百田裕子・田崎裕美・大塚順子・中川英子ほか『生活支援の基礎を学ぶ』建帛社、2024 年、2,750 円 参考書等

- ・中川英子編著ほか『新版 福祉のための家政学』建帛社、2017/2021 年 2,530 円
- ・中川英子編著ほか『福祉のための家政学』建帛社、2010年 2,530円
- ・田﨑裕美・中川英子編著ほか『生活支援のための調理実習(第3版)』建帛社、2022年 2,090円
- ・中川英子編著ほか『介護福祉のための家政学実習』建帛社、2005 年 2,530 円
- ・中川英子編著ほか『介護福祉のための家政学』建帛社、2004年 2,310 円

履修上の注意・学習支援

- ・毎回の授業レジュメ・資料は、クラスルームにアップ・ロードしておくので、復習に確認しておくこと。
- ・授業は、クラスルームにアップしたレジュメ・資料で実施し、ネットで調べ学習等もするので、各自、必ず クロームブックを持参すること。
- ・毎回の授業時の課題は、各自、完成して、グーグルクラスルームにアップしておくこと。
- ・わからないことは、授業中に積極的に質問して理解しておくこと。

オフィスアワー

質問等があれば、オフィスアワー(原則、講義終了後(開始前でも可)15 分間程度、1 号館 1 階「講師教員センター」)でお応えします。

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
21HC1BP9	生活技術	1年	後期	演習	1	百田 裕子

福祉専門職として利用者の生活の自立支援をするためには、支援者自身が自立・自律した生活ができることが求められる。本科目は、社会人として自立・自律した家事生活(被服・食・住)の必要性を学び、健康で快適な生活を営むために必要な最低限の生活技術を学習する。快適な被服の選択・管理法、バランスのとれた食品の選択・調理法、住生活環境の整え方、および災害の緊急時の生活等について、演習を通して学ぶ。

到達目標(学習の成果)

- 1. 社会人として自立・自律した家事生活(被服・食・住)の必要性を理解し、説明できる(知識)。
- 2. 被服・食・住生活に関する基本的な技術の科学的根拠が説明できる(知識)。
- 3. 演習を通して自己の心身の健康を考えた自立・自律した家事の実践ができる(技術、方法)。
- 4. 福祉の現場で個々の利用者のニーズに対し、気配りをもって生活の自立支援ができるようになる(態度)。

□	表題	学習内容
1 🗉	授業の進め方 家事生活技術の必要性を 知ろう	授業計画、授業方法、予習・復習、成績の評価基準・方法等を知る。 社会生活を営む上での生活行為と家事(被服・食・住生活)の大切さ、発 達段階に合わせた生活技術の自立過程を学ぶ。福祉職の支援者は自立・ 自律した生活者であることの必要性を理解する。 (予習) シラバスを読んでおく。 (復習) 福祉職として科学的根拠による家事支援技術の必要性をまとめ る。
2日	洗剤・洗浄剤を知ろう	洗剤・洗浄剤は生活のあらゆる場面で使われる。その種類と使用方法について学ぶ。また、「生活排水」と「環境汚染」の実態を知り、持続可能な循環型社会生活のために、どのように行動すべきかを考える。 (予習)洗剤・洗浄剤による環境汚染の実態を調べる。 (復習)自宅で使用している洗剤・洗浄剤とその使用方法を確認する。
3日	食生活の基本を知ろう	地域や自己の食生活の現状について確認する。健康の維持・向上のための食事内容・食事リズム・衛生管理等についてチェックし、改善策を考える。 (予習) 栄養バランスの良い食事について調べる。 (復習) 自己の食事について栄養バランスを確認する。
4 回	部屋のレイアウトを考え よう	日本人の家屋は生活用品が多い。自分の家・部屋の間取りを見直し、理想の部屋を考える。この演習を通して、快適な室内環境について学ぶ。 (予習)快適な住環境について教科書を読んでおく。 (復習)自己の部屋の生活用品についてまとめ、快適な住環境を営むための改善策を考える。
5 回	部屋を片付けよう	掃除の目的を理解する。居室(和室・洋室)の汚れの特徴と掃除用具の種類・使用方法を知る。実践を通して掃除方法を確認する。施設における掃除の意味について考える。 (予習)掃除方法について教科書を読んでまとめる。 (復習)施設における掃除の意味をまとめる。
6回	被服のTPOを知ろう	被服の役割と機能を理解する。布の素材と名称・特徴を知る。自己の体型特徴・足型を知り、TP0に合わせた被服の選択法を学ぶ。 (予習) 布の素材についてインターネットで調べておく。 (復習) 就職活動における服装と服飾品についてまとめる。

7回	朝ごはんを作ろう	朝食の大切さと特徴を知る。朝食の基本的な献立(パン・卵料理・サラダ・飲み物等)と調理方法を、実習を通して理解する。 (予習)配付した資料を読んでおく。 (復習)自宅で応用して実践する。
8日	水周りをきれいにしよう	水周り(台所・トイレ・浴室)の汚れの特徴と掃除方法を、実習を通して理解する。 (予習)汚れの種類について教科書を読んでおく。 (復習)自宅で水回りの掃除を実施してレポートにまとめる。
9回	小物を作ろう	被服の修繕・縫製の基礎として、布の扱い方、縫製用具の種類・使用方法等を学ぶ。 (予習) アイロンやミシンの使用方法と注意事項を調べておく。 (復習) 学んだことをまとめる。
10回	昼ごはんを作ろう	昼食の特徴を知る。昼食に多く喫食される洋食の献立(スパゲティ・サラダ等)と調理方法を、実習を通して学ぶ。 (予習)配付した資料を読んでおく。 (復習)食材と栄養及び調理例についてレポートにまとめる。
11回	衣服をきれいにしよう	素材の特徴、汚れの成分を学び、素材・汚れに合わせた洗濯方法を理解する。一般衣料とウール製品の洗濯方法を、実践を通して学ぶ。 (予習) 衣料品の洗濯に用いる洗剤の種類について復習しておく。 (復習) 自宅で、洗濯を実践する。
12回	夕ご飯を作ろう	和食の献立の基本を知る。和食の献立(ご飯・味噌汁・魚料理・煮物等) と調理方法を、実習を通して学ぶ。 (予習)配付した資料を読んでおく。 (復習)自宅で応用して実践する。
13回	お弁当を作ろう	栄養バランスがよく見た目もおいしいお弁当の献立と調理方法を、実践 を通して学ぶ。 (予習)配付した資料を読んでおく。 (復習)自宅で応用して実践する。
14回	衣服を大切に管理しよう	素材や服種に合わせた衣服の管理方法(アイロンかけ、たたみ方、防虫剤の種類と使用方法、収納の仕方等)を学ぶ。 (予習)素材とアイロン温度の関係を調べる。 (復習)自宅で使用している防虫剤の種類と使用方法についてまとめる。
15回	災害等の緊急時の被服・ 食・住生活	居住地域のハザードマップを知る。災害等の緊急時の生活方法について 学ぶ。 (予習) 災害時に備えた食生活についてインターネットで調べる。 (復習) 自宅のある地域のハザードマップについて調べる。災害時の対応 についてレポートにまとめる。

本科目は、演習科目1単位ですので、授業時間90分以外に、15時間の授業外学習が必要になります。 授業外学習方法に記載された予習・復習課題を実践して内容の理解を深めてください。日常生活の中で、家事 に関するいろいろな情報に興味・関心をもち、新しい知識を取り入れてください。また、調理実習は、事前に レシピを配付するので、よく読んで実習に臨むと共に、実習後は家庭で応用して技術を高めてください。

被服・食・住生活に関するレポートを課すので、調べるとともに、実践を通して日常の生活に活かしてください。

成績評価の基準・方法

評価項目	S	A	В	С	D
1. 家事生活技術の科学的根拠	完全にない	若干不十分	不十分な点	到達目標の	到達目標を
の理解(知識)	しほぼ完全	な点は認め	は認められ	最低限を達	達成してい
2. 家事生活技術の習得度(技	に到達目標	られるもの	るものの、	成している	ない
術、方法)	を達成して	の、到達目	到達目標を		
3. 生活の自立支援への応用性	いる	標を達成し	達成してい		
(態度)		ている	る		
100点法	90点以上	80点以上	70点以上	69点以上	59点以下

- ・定期試験(筆記試験)30%
- ・授業外課題(レポート)30%、授業内・外課題(ワークシート・作品)40%

教科書

奥田都子 編著、「生活支援の基礎を学ぶ-介護・福祉・看護実践のための家政学-」、建帛社、2024年、2,750円

参考書等

「いちばんわかりやすい家事の基本大事典」、成美堂出版、2020年, 1,760円 田﨑裕美・百田裕子 編著、「改訂 生活支援のための調理実習」第4版、建帛社、2023年、2,310円

履修上の注意・学習支援

- 1. 「生活科学」を履修することが望ましい。
- 2. 調理実習室では、シューズを履くこと。実習内容に合わせて身支度をきちんとする。特に、調理実習では、エプロンと三角巾を着用すること。
- 3. 実習したことを日常生活の中で繰り返し実践し、理解を深めて技術を体得すること。
- 4. 学んだことを福祉の現場でどのように応用していくか、常に考えながら学習すること。

オフィスアワー

疑問等があれば、事前予約及びオフィスアワーを活用すること。事前予約(momo@ujc.ac.jp)のうえ、時間を設定する。具体的な時間帯は追って掲示する。

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
21HS1BP10	英語 I	1年	前期	演習	1	阿部 巧

日常に関連した様々な場面を設定した題材を通して、これまでに学んできた語彙、英語表現や一般的に必要とされる基礎的文法などを復習し、より実践的な技能を高める。また、文章読解、聴解、作文、発話等を通して、「リーディング、リスニング、スピーキング、ライティング」の4技能を総合的に学習し、英語コミュニケーション能力の向上を目指す。

到達目標 (学習の成果)

- ・コミュニケーションに必要な文法、語彙、音声等を理解し、実際に使うことができる(知識・応用)。
- ・場面や状況に応じた表現を選択し、適切にコミュニケーションを図ることができる(知識・思考・応用)。
- ・積極的にコミュニケーションを図るとともに、協働して課題に取り組むことができる(応用)。

田	表題	学習内容
1回	受講の仕方、授業の内容や 目標について確認 レディネステスト	英語の授業の受け方について知り、前期の学習の見通しを持つ。 レディネステストを受け、自分の英語のレベルを確認する。 (予習) 高校で習った文法事項の復習 (復習) Task1:動画を視聴し内容をまとめる。
2回	Unit1: Occupations Conversation & Grammar	職業に関する語彙を理解し、文法や表現の復習をする。 (予習) Listening Section の音声を聞き、Roleplay で話す内容を準備する。 Reading Section の本文の音声を聞き、わからない単語を調べる。 (復習) Task1:トピックを考え、内容を整理する。
3回	Unit1: Occupations Reading & Writing	職業に関する表現活動を通して、語彙、表現、文法等の定着を目指す。 (予習) Reading Section の本文をすべて日本語に訳す。 Writing Section に目を通し、トピックを考える。 (復習) Task1: 原稿を準備する。
4回	Unit2: At the dinner table Conversation & Grammar	食事に関する語彙を理解し、文法や表現の復習をする。 (予習) Listening Section の音声を聞き、Roleplay で話す内容を準備する。 Reading Section の本文の音声を聞き、わからない単語を調べる。 (復習) Task1:資料を準備する。
5回	Unit2: At the dinner table Reading & Writing	食事に関する表現活動を通して、語彙、表現、文法等の定着を目指す。 (予習) Reading Section の本文をすべて日本語に訳す。 Writing Section に目を通し、トピックを考える。 (復習) Task1:動画を撮影・編集する。
6回	Unit3: Sports Conversation & Grammar	スポーツに関する語彙を理解し、文法や表現の復習をする。 (予習) Listening Section の音声を聞き、Roleplay で話す内容を準備する。 Reading Section の本文の音声を聞き、わからない単語を調べる。 (復習) Task2:動画を視聴し内容をまとめる。
7回	Unit3: Sports Reading & Writing	スポーツに関する表現活動を通して、語彙、表現、文法等の定着を目指す。 (予習) Reading Section の本文をすべて日本語に訳す。 Writing Section に目を通し、トピックを考える。 (復習) Task2:トピックを考え、内容を整理する。
8回	Unit1 [~] Unit3の復習	Unit1~Unit3の復習をし、学習内容を定着させる。 (予習) Unit1~Unit3の問題に再度取組む。 (復習) Task2:原稿を準備する。

9回	Unit4: Health Conversation & Grammar	健康に関する語彙を理解し、文法や表現の復習をする。 (予習) Listening Section の音声を聞き、Roleplay で話す内容を準備する。 Reading Section の本文の音声を聞き、わからない単語を調べる。 (復習) Task2:資料を準備する。
10回	Unit4: Health Reading & Writing	健康に関する表現活動を通して、語彙、表現、文法等の定着を目指す。 (予習) Reading Section の本文をすべて日本語に訳す。 Writing Section に目を通し、トピックを考える。 (復習) Task2:動画を撮影・編集する。
11 回	Unit5: What's on Your Playlist? Conversation & Grammar	音楽に関する語彙を理解し、文法や表現の復習をする。 (予習) Listening Section の音声を聞き、Roleplay で話す内容を準備する。 Reading Section の本文の音声を聞き、わからない単語を調べる。 (復習) Task3:動画を視聴し内容をまとめる。
12 回	Unit5: What's on Your Playlist? Reading & Writing	音楽に関する表現活動を通して、語彙、表現、文法等の定着を目指す。 (予習) Reading Section の本文をすべて日本語に訳す。 Writing Section に目を通し、トピックを考える。 (復習) Task3:トピックを考え、内容を整理する。
13 回	Unit6: At the Movies? Conversation & Grammar	映画に関する語彙を理解し、文法や表現の復習をする。 (予習) Listening Section の音声を聞き、Roleplay で話す内容を準備する。 Reading Section の本文の音声を聞き、わからない単語を調べる。 (復習) Task3: 原稿を準備する。
14 回	Unit6: At the Movies? Reading & Writing	映画に関する表現活動を通して、語彙、表現、文法等の定着を目指す。 (予習) Reading Section の本文をすべて日本語に訳す。 Writing Section に目を通し、トピックを考える。 (復習) Task3:資料を準備する。
15 回	Review 1 & speaking task	夏学期の学習を振り返り、弱点を克服する。 speaking task に取り組み、前期の成果を確認する。 (予習) Unit5~Unit6の問題に再度取組む。 (復習) Task3:動画を撮影・編集する。

本科目は、演習科目1単位ですので授業時間90分以外に15時間の授業外学習が必要になります。 授業外学習方法に記載された予習・復習課題を実践して内容の理解を深めてください。

成績評価の方法・基準

成績評価の基準

	評価項目	S	A	В	С	D
	1. コミュニケーショ	完全ないしほぼ	若干不十分な点	不十分な点は認	到達目標の最低	到達目標を達成
	ンに必要な文法、語彙、	完全に到達目標	は認められるも	められるもの	限を達成してい	していない
	音声等を理解し、実際	を達成している	のの、到達目標	の、到達目標を	る	
	に使うことができる。		を達成している	達成している		
	2. 場面や状況に応じた表現を選択し、適切にコミュニケーションを図ることができる。					
	3. 積極的にコミュニ					
	ケーションを図るとと					
	もに、協働して課題に					
	取り組むことができ					
	る。					
	100 点法	100点~90点	89 点~80 点	79 点~70 点	69 点~60 点	59 点以下
l						

成績評価の方法

期末試験50%、課題30%、実技(スピーキングテスト)20%

課題の評価についてはクラスルーム上で個別にフィードバックを行う。

教科書

角山 照彦/LiveABC editors 著,『Live Escalate Book 2: Trekking』,成美堂,2021年,2,750円

参考書等

墺タカユキ編著,『総合英語 Evergreen』, いいずな書店, 2017年, 1,870円 必要な資料やプリントは(予習)もしくは授業時に配付する。

履修上の注意・学修支援

- ・授業の内容は英検準2級程度を基本することから、英語が苦手な学生は各自自習に取り組むこと。
- ・授業は英語で行うことを基本とする。
- ・授業前に単語の意味を調べ、予習をしてくること。※予習と復習の内容は授業の初めに毎回確認します。
- ・間違いを恐れず、積極的に参加すること。
- ・どのような質問でも積極的に聞くこと。

オフィスアワー

質問等があれば、メールを利用、または研究室へ来ること。

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
21HS1BP11	英語Ⅱ	1年	後期	演習	1	阿部巧

日常に関連した様々な場面を設定した題材を通して、これまでに学んできた語彙、英語表現や一般的に必要とされる基礎的文法などを復習し、より実践的な技能を高める。また、文章読解、聴解、作文、発話等を通して、「リーディング、リスニング、スピーキング、ライティング」の4技能を総合的に学習し、英語コミュニケーション能力の向上を目指す。

到達目標(学習の成果)

- ・コミュニケーションに必要な文法、語彙、音声等を理解し、実際に使うことができる(知識・応用)。
- ・場面や状況に応じた表現を選択し、適切にコミュニケーションを図ることができる(知識・思考・応用)。
- ・積極的にコミュニケーションを図るとともに、協働して課題に取り組むことができる(応用)。

	1久未印画				
旦	表題	学習内容			
1回	受講の仕方、授業の内容や目標について確認	英語の授業の受け方について知り、前期の学習の見通しを持つ。 レディネステストを受け、自分の英語のレベルを確認する。			
	レディネステスト	(予習)高校で習った文法事項の復習 (復習)Task4:動画を視聴し内容をまとめる。			
2回	Unit7: Technology in Daily Life Conversation & Grammar	テクノロジーに関する語彙を理解し、文法や表現の復習をする。 (予習) Listening Section の音声を聞き、Roleplay で話す内容を準備する。 Reading Section の本文の音声を聞き、わからない単語を調べる。 (復習) Task4: トピックを考え、内容を整理する。			
3回	Unit7: Technology in Daily Life Reading & Writing	テクノロジーに関する表現活動を通して、語彙、表現、文法等の定着を目指す。 (予習) Reading Section の本文をすべて日本語に訳す。 Writing Section に目を通し、トピックを考える。 (復習) Task4: 原稿を準備する。			
4回	Unit8: Social Network Conversation & Grammar	SNS に関する語彙を理解し、文法や表現の復習をする。 (予習) Listening Section の音声を聞き、Roleplay で話す内容を準備する。 Reading Section の本文の音声を聞き、わからない単語を調べる。 (復習) Task4: 資料を準備する。			
5回	Unit8: Social Network Reading & Writing	SNS に関する表現活動を通して、語彙、表現、文法等の定着を目指す。 (予習) Reading Section の本文をすべて日本語に訳す。 Writing Section に目を通し、トピックを考える。 (復習) Task4: 動画を撮影・編集する。			
6回	Unit9: Looking on the Bright Side Conversation & Grammar	マインドセットに関する語彙を理解し、文法や表現の復習をする。 (予習)Listening Sectionの音声を聞き、Roleplayで話す内容を準備する。 Reading Sectionの本文の音声を聞き、わからない単語を調べる。 (復習)Task5:動画を視聴し内容をまとめる。			
7回	Unit9: Looking on the Bright Side Reading & Writing	マインドセットに関する表現活動を通して、語彙、表現、文法等の定着を目指す。 (予習) Reading Sectionの本文をすべて日本語に訳す。 Writing Sectionに目を通し、トピックを考える。 (復習) Task5:トピックを考え、内容を整理する。			
8回	Unit7~Unit9の復習	(予習) Unit1~Unit3の問題に再度取組む。 (復習)Task5:原稿を準備する。			

		恋愛に関する語彙を理解し、文法や表現の復習をする。
9回	Unit10: Love Affairs	(予習) Listening Section の音声を聞き、Roleplay で話す内容を準備する。
	Conversation & Grammar	Reading Sectionの本文の音声を聞き、わからない単語を調べる。
		(復習) Task5:資料を準備する。
		恋愛に関する表現活動を通して、語彙、表現、文法等の定着を目指す。
10 🖃	Unit10: Love Affairs	(予習)Reading Sectionの本文をすべて日本語に訳す。
10 回	Reading & Writing	Writing Sectionに目を通し、トピックを考える。
		(復習) Task5:動画を撮影・編集する。
		物語に関する語彙を理解し、文法や表現の復習をする。
11 回	Unit11: Storytelling?	(予習)Listening Sectionの音声を聞き、Roleplayで話す内容を準備する。
	Conversation & Grammar	Reading Sectionの本文の音声を聞き、わからない単語を調べる。
		(復習) Task6:動画を視聴し内容をまとめる。
		物語に関する表現活動を通して、語彙、表現、文法等の定着を目指す。
10 🗆	Unit11: Storytelling?	(予習)Reading Sectionの本文をすべて日本語に訳す。
12 回	Reading & Writing	Writing Sectionに目を通し、トピックを考える。
		(復習) Task6:トピックを考え、内容を整理する。
	Unit12: The Power of	言葉に関する語彙を理解し、文法や表現の復習をする。
10 🖃		(予習)Listening Sectionの音声を聞き、Roleplayで話す内容を準備する。
13 回	Words?	Reading Sectionの本文の音声を聞き、わからない単語を調べる。
	Conversation & Grammar	(復習)Task6:原稿を準備する。
	U.:410. TI D . C	言葉関する表現活動を通して、語彙、表現、文法等の定着を目指す。
14 🗔	Unit12: The Power of Words?	(予習)Reading Sectionの本文をすべて日本語に訳す。
14 回		Writing Sectionに目を通し、トピックを考える。
	Reading & Writing	(復習)Task6:資料を準備する。
		後期の学習を振り返り、弱点を克服する。
15 回	Pavious 2 h appelring took	speaking taskに取り組み、前期の成果を確認する。
15円	Review 2 & speaking task	(予習)Unit5~Unit6の問題に再度取組む。
		(復習) Task6: 動画を撮影・編集する。

本科目は、演習科目1単位ですので授業時間90分以外に15時間の授業外学習が必要になります。 授業外学習方法に記載された予習・復習課題を実践して内容の理解を深めてください。

成績評価の方法・基準

成績評価の基準

	評価項目	S	A	В	С	D
	1. コミュニケーショ	完全ないしほぼ	若干不十分な点	不十分な点は認	到達目標の最低	到達目標を達成
	ンに必要な文法、語彙、	完全に到達目標	は認められるも	められるもの	限を達成してい	していない
	音声等を理解し、実際	を達成している	のの、到達目標	の、到達目標を	る	
	に使うことができる。		を達成している	達成している		
	2. 場面や状況に応じた表現を選択し、適切にコミュニケーションを図ることができる。					
	3. 積極的にコミュニ					
	ケーションを図るとと					
	もに、協働して課題に					
	取り組むことができ					
	る。					
	100 点法	100点~90点	89 点~80 点	79 点~70 点	69 点~60 点	59 点以下
l						

成績評価の方法

期末試験50%、課題30%、実技(スピーキングテスト)20%

課題の評価についてはクラスルーム上で個別にフィードバックを行う。

教科書

角山 照彦/LiveABC editors 著,『Live Escalate Book 2: Trekking』,成美堂,2021年,2,750円

参考書等

墺タカユキ編著,『総合英語 Evergreen』, いいずな書店, 2017年, 1,870円 必要な資料やプリントは(予習)もしくは授業時に配付する。

履修上の注意・学修支援

- ・授業の内容は英検準2級程度を基本することから、英語が苦手な学生は各自自習に取り組むこと。
- ・授業は英語で行うことを基本とする。
- ・授業前に単語の意味を調べ、予習をしてくること。※予習と復習の内容は授業の初めに毎回確認します。
- ・間違いを恐れず、積極的に参加すること。
- ・どのような質問でも積極的に聞くこと。

オフィスアワー

質問等があれば、メールを利用、または研究室へ来ること。

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
21 HS1BP12	情報処理I	1年	前期	演習	1	堀 圭三

人と生活を理解するために、情報化社会において必須である情報リテラシーを身につけることを目的とする。インターネットの利用方法、Googleアプリケーションの基本的な操作方法を学ぶ。また、情報モラルやネットトラブルについて理解する。

到達目標(学習の成果)

- 1. 情報リテラシーについて理解し、コンピュータを利用するにあたってのモラルを理解する(知識)。
- 2. 日本情報処理検定協会の日本語ワープロ検定2級(タイピング、文書デザイン)、表計算検定3級程度(四則計算や関数の使い方)、プレゼンテーション3級程度の技術を身につける(技術)。
- 3. 以上により、社会生活でコンピュータを適切に使うことができる。

	文美計画 				
回	表題	学習内容			
1回	授業の進め方 情報モラルとグーグルワーク スペース基本操作①	授業計画・準備学習・成績評価の方法・基準等について理解する。 情報モラルやネットトラブルについて説明する。そして、本学発行の ユーザアカウントを用いてコンピュータシステムにログインし、基本 的な操作方法を学ぶ。 復習:情報モラルやインターネットトラブルについてまとめる。			
2回	グーグルワークスペースの基 本操作②	クラスルーム、ドライブ、meet などの利用方法を学ぶ。あわせて、スマートフォンとのリンクの方法を学ぶ。 予習:時間を見つけてタイピング練習を行う。 復習:授業で示された課題を行う。			
3回	グーグルワークスペースの基 本操作 ドキュメント①	ドキュメントの基本的機能を、文書作成を通して学ぶ。 予習:時間を見つけてタイピング練習を行う。 復習:授業で示された課題を行う。			
4回	グーグルワークスペースの基 本操作 ドキュメント②	文書作成を通して、段組み。表の挿入の方法を学ぶ。 予習:時間を見つけてタイピング練習を行う。 復習:授業で示された課題を行う。			
5回	グーグルワークスペースの基 本操作 ドキュメント③	文書作成を通して、さまざまな表や写真、グラフの挿入の方法を学 ぶ。 予習:時間を見つけてタイピング練習を行う。 復習:授業で示された課題を行う。			
6 回	グーグルワークスペースの基 本操作 ドキュメント④	実際に、課題としてポスターの作成を行う(小テスト)。 予習:時間を見つけてタイピング練習を行う。 復習:授業で示された課題を行う。			
7回	グーグルワークスペースの基 本操作 スプレットシート①	表計算問題を通して、スプレッドシートの基本操作、四則計算を学 ぶ。 予習:時間を見つけてタイピング練習を行う。 復習:授業で示された課題を行う。			
8回	グーグルワークスペースの基 本操作 スプレットシート②	表計算問題を通して、基本関数(sum、average、min関数)を学ぶ。 予習:時間を見つけてタイピング練習を行う。 復習:授業で示された課題を行う。			
9回	グーグルワークスペースの基 本操作 スプレットシート③	表計算問題を通して、ROUND関数の使い方を学ぶ。 予習:時間を見つけてタイピング練習を行う。 復習:授業で示された課題を行う。			

10回	グーグルワークスペースの基 本操作 スプレットシート④	表計算問題を通して、IF関数の使い方を学ぶ。 予習:時間を見つけてタイピング練習を行う。 復習:授業で示された課題を行う。
11回	グーグルワークスペースの基 本操作 スプレットシート⑤	表計算問題を通して、罫線や表示形式を学ぶ。 予習:時間を見つけてタイピング練習を行う。 復習:授業で示された課題を行う。
12回	グーグルワークスペースの基 本操作 スプレットシート⑥	実際に課題として、表計算問題を行う(小テスト)。 予習:時間を見つけてタイピング練習を行う。 復習:授業で示された課題を行う。
13回	グーグルワークスペースの基 本操作 スライド①	プレゼンテーション問題を通して、文書作成を学ぶ。 予習:時間を見つけてタイピング練習を行う。 復習:授業で示された課題を行う。
14回	グーグルワークスペースの基 本操作 スライド②	プレゼンテーション問題を通して、図形、写真の挿入と加工などを学ぶ。 予習:時間を見つけてタイピング練習を行う。 復習:授業で示された課題を行う。
15回	グーグルワークスペースの基 本操作 スライド③	実際に課題として、プレゼンテーション問題を行う(小テスト)。あ わせてタイピングの小テストを行う。 予習:時間を見つけてタイピング練習を行う。 復習:授業で示された課題を行う。

この科目は、演習科目(1単位)ですので、授業時間の他に準備学習15時間が必要になります。

- ・自宅でもクロムブックを使って、タイピングの練習、課題を行う。
- ・授業記録を記入し、復習を行う。

成績評価の基準・方法

成績評価の基準

評価項目	S	A	В	С	D
①タイピングの速度(600以上、500以上、400以上、300以上) ②文書デザイン課題の時間内作成 ③表計算課題の時間内作成 ④プレゼンテーション課題の時間内 作成	完全にない しほぼ完全 に到達目標 を達成して いる。	若にはいる。 おいるのでは、 おいるのでは、 を達成している。	不十分な点 は認めのの る 動達 は で で で で で で で で で で で る り の の で を う に る り る り る し て る し て る し て る し て る し て る り る 。 る 。 る 。 る 。 る 。 る 。 る 。 る 。 る 。	到達目標の 最低限を達 成してい る。	到達目標を 達成してい ない。
100点法	90点以上	80点以上	70点以上	60点以上	59点以下

成績評価の方法

定期試験(実技試験) 100%

教科書

レジュメを配付する。

参考書

グットナビ編集部『500円でわかるエクセル関数2024 (ONE COMPUTER MOOK) 』 2024年、550円

履修上の注意・学習支援

授業の最初に、タイピングの練習を行う。自宅でも練習し、タイピングの速度向上を目指す。 Google classroomにて、課題の提出等を行う。

オフィスアワー

疑問があれば、オフィスアワーを利用すること。事前予約(k3@ujc.ac.jp) のうえ、時間を設定する。具体的な時間帯は追って掲示する。

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
21 HS1BP13	情報処理Ⅱ	1年	後期	演習	1	堀 圭三

人と生活を理解するために、情報化社会において必須である情報リテラシーを身につけることを目的とする。インターネットの利用方法、Googleアプリケーションの基本的な操作方法を学ぶ。また、情報モラルやネットトラブルについて理解する。

到達目標(学習の成果)

- 1. 状況に応じて適切にソフトを選び、文書作成や表計算をすることができる(知識)。
- 2. 日本情報処理検定協会の日本語ワープロ検定初段程度(タイピング、文書デザイン)、表計算検定2級程度(四則計算や関数の使い方)、プレゼンテーション検定1級程度の技術を身につける(技術)。
- 3. 以上により、社会生活でコンピュータを適切に使うことができる。

	<u> </u>	1X未时间
回	表題	学習内容
1回	授業の進め方 グーグルワークスペース操作 ①	授業計画・準備学習・成績評価の方法・基準等について理解する。 情報処理 I の基本操作を踏まえて、効率よく文書を作成する方法を学 ぶ。 復習:授業で示された課題を行う。
2回	グーグルワークスペースの操 作 ドキュメント①	ドキュメントの機能を、文書作成を通して学ぶ。 予習:時間を見つけてタイピング練習を行う。 復習:授業で示された課題を行う。
3回	グーグルワークスペースの操 作 ドキュメント②	文書作成を通して、より複雑な表の挿入の方法を学ぶ。 予習:時間を見つけてタイピング練習を行う。 復習:授業で示された課題を行う。
4回	グーグルワークスペースの操 作 ドキュメント③	文書作成を通して、写真・グラフの挿入・グラフ加工の方法を学ぶ。 予習:時間を見つけてタイピング練習を行う。 復習:授業で示された課題を行う。
5 回	グーグルワークスペースの操 作 ドキュメント④	実際に、課題としてポスターの作成を行う(小テスト)。 予習:時間を見つけてタイピング練習を行う。 復習:授業で示された課題を行う。
6 旦	グーグルワークスペースの操作 スプレットシート①	表計算問題を通して、スプレッドシートの操作、四則計算と関数を学ぶ。 予習:時間を見つけてタイピング練習を行う。 復習:授業で示された課題を行う。
7 回	グーグルワークスペースの操作 スプレットシート②	表計算問題を通して、関数を学ぶ。 予習:時間を見つけてタイピング練習を行う。 復習:授業で示された課題を行う。
8回	グーグルワークスペースの操作 スプレットシート③	表計算問題を通して、if・round関数の使い方を学ぶ。 予習:時間を見つけてタイピング練習を行う。 復習:授業で示された課題を行う。
9回	グーグルワークスペースの操作 スプレットシート④	表計算問題を通して、より複雑なif関数の使い方を学ぶ。 予習:時間を見つけてタイピング練習を行う。 復習:授業で示された課題を行う。
10回	グーグルワークスペースの操作 スプレットシート⑤	表計算問題を通して、vlookup、dsum関数を学ぶ。 予習:時間を見つけてタイピング練習を行う。

		復習:授業で示された課題を行う。
11回	グーグルワークスペースの操作 スプレットシート⑥	表計算問題を通して、その他の関数、グラフ作成などを学ぶ。 予習:時間を見つけてタイピング練習を行う。 復習:授業で示された課題を行う。
12回 グーグルワークスペースの操 作 スプレットシート⑦		実際に課題として、表計算問題を行う(小テスト)。 予習:時間を見つけてタイピング練習を行う。 復習:授業で示された課題を行う。
13回	グーグルワークスペースの操作 スライド①	プレゼンテーション問題を通して、文書作成を学ぶ。 予習:時間を見つけてタイピング練習を行う。 復習:授業で示された課題を行う。
がーグルワークスペースの操作 スライド②		プレゼンテーション問題を通して、図形、写真の挿入と加工などを学ぶ。 予習:時間を見つけてタイピング練習を行う。 復習:授業で示された課題を行う。
15回	グーグルワークスペースの操作 スライド③	実際に課題として、プレゼンテーション問題を行う(小テスト)。あ わせてタイピングの小テストを行う。 予習:時間を見つけてタイピング練習を行う。 復習:授業で示された課題を行う。

この科目は、演習科目(1単位)ですので、授業時間の他に準備学習15時間が必要になります。

- ・自宅でもクロムブックを使って、タイピングの練習、課題を行う。
- ・授業記録を記入し、復習をおこなう。

成績評価の基準・方法

成績評価の基準

評価項目	S	A	В	С	D
①タイピングの速度(600以上、500以上、400以上、300以上) ②文書デザイン課題の時間内作成 ③表計算課題の時間内作成 ④プレゼンテーション課題の時間内 作成	完全にない しほぼ完全 に到達目標 を達成して いる	若中は おいる おいる を達成 でいる でいる	不十分なられるもののでは るものの標を を を を を を を を を を のので を を る を る を る を る を る を る と る と る と る と	到達目標の 最低限を達 成している	到達目標を 達成してい ない
100点法	100点~90点	89点~80点	79点~70点	69点~60点	59点以下

成績評価の方法

定期試験(実技試験) 100%

教科書

レジュメを配付する。

参考書

グットナビ編集部『500円でわかるエクセル関数2024 (ONE COMPUTER MOOK) 』 2024年、550円

履修上の注意・学習支援

授業の最初に、タイピングの練習を行う。自宅でも練習し、タイピングの速度向上を目指す。 Google classroomにて、課題の提出等を行う。

オフィスアワー

疑問があれば、オフィスアワーを利用すること。事前予約(k3@ujc.ac.jp) のうえ、時間を設定する。具体的な時間帯は追って掲示する。

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
21HS2SC14	社会保障 I	2年	前期	講義	2	宮脇文恵

現代社会における我が国の社会保障制度の現状を踏まえ、社会保障の概念や対象及びその理念を学び、社会保障と財政、社会保障と社会扶助の関係について理解を深める。本講義における学びを通して、社会保障に関する広い教養と、自立・自律した生活者としての行動規範を身につける。

到達目標 (学習の成果)

- 1. 社会保障の概念や対象及びその理念について、社会保障制度の展開過程も含めて理解する。(知識)
- 2. 現代社会における社会保障制度の役割と意義、取り組むべき課題について理解し、日常生活での関わりに活かせるようになる(方法・態度)
- 3. 社会保障制度の財政について理解する。(知識)

回	表題	学習内容			
1 🗉	授業の進め方 社会保障制度の全体像を 知る	社会保障制度の全体像、社会保障制度を取り巻く環境の変化(人口・労働・家族等)について理解する。 【予習】新聞やインターネットなどで、「社会保障」という言葉が入っている記事を1つ以上読んでおく。 【復習】資料とテキストによって授業を振り返り、学びとなったことを記録する。			
2回	現代社会における社会保 障制度の現状(少子高齢 化と社会保障制度の関係 を含む)①	人口動態の変化(少子高齢化、人口減少社会) 【予習】新聞やインターネットなどで、日本の近現代の人口動態について 取り上げている記事を1つ以上読んでおく。 【復習】資料とテキストによって授業を振り返り、学びとなったことを記 録する。			
3回	現代社会における社会保 障制度の現状(少子高齢 化と社会保障制度の関係 を含む)②	経済環境の変化(低成長社会と社会保障の持続可能性) 【予習】新聞やインターネットなどで、1970年以降の日本の経済状態について取り上げている記事を1つ以上読んでおく。 【復習】資料とテキストによって授業を振り返り、学びとなったことを記録する。			
4回	現代社会における社会保 障制度の現状(少子高齢 化と社会保障制度の関係 を含む)③	労働環境の変化 ① 正規雇用と非正規雇用, ② 労働関係法規(男女雇用機会均等法、障害者雇用促進法) ③ ワーク・ライフ・バランス について理解する。 【予習】新聞やインターネットなどで、障害者雇用について取り上げている記事を1つ以上読んでおく。 【復習】資料とテキストによって授業を振り返り、学びとなったことを記録する。			
5回	社会保障の概念や対象及 びその理念①	社会保障の概念と範囲について学ぶ。 【予習】新聞やインターネットなどで、社会保障問題について取り上げている記事を1つ以上読んでおく。 【復習】資料とテキストによって授業を振り返り、学びとなったことを記録する。			
6 回	社会保障の概念や対象及 びその理念②	社会保障の役割と意義(セーフティネット)について理解する。 【予習】新聞やインターネットなどで、「セーフティネット」について取り上げている記事を1つ以上読んでおく。			

		Filester Viscolity and a second secon
		【復習】資料とテキストによって授業を振り返り、学びとなったことを記録する。
		社会保障の理念について理解する。
	ᆈᇫᄱᅉᇰᄦᇫᇰᆔᇫ	【予習】新聞やインターネットなどで、「自助」「共助」について取り上げ
7 回	社会保障の概念や対象及	ている記事を1つ以上読んでおく。
	<u>びその理念</u> ③	【復習】資料とテキストによって授業を振り返り、学びとなったことを記
		録する。
		社会保障の対象について理解する。
		【予習】新聞やインターネットなどで、日本の近現代の人口動態について
8回	社会保障の概念や対象及	取り上げている記事を1つ以上読んでおく。
	<u>びその理念</u> ④	【復習】資料とテキストによって授業を振り返り、学びとなったことを記
		録する。
		社会保障制度の展開(社会保障制度の歴史的変遷)について理解する。
		【予習】新聞やインターネットなどで、日本の近現代の社会保障について
9回	社会保障の概念や対象及	取り上げている記事を1つ以上読んでおく。
	<u>びその理念</u> ⑤	【復習】資料とテキストによって授業を振り返り、学びとなったことを記
		【後自】 貝付とノイヘトによう C技業を振り返り、子いこなうにことを記録する。
		社会保障の財源(一般会計・地方経費・社会保険料・利用者負担・財政調
		整)について理解を深める。
		(全) について (理解を休める。 【予習】 新聞やインターネットなどで、「一般会計」について取り上げて
10 回	<u>社会保障と財政</u> ①	
		いる記事を1つ以上読んでおく。
		【復習】資料とテキストによって授業を振り返り、学びとなったことを記
		録する。
		社会保障給付費(内訳・動向)について理解する。
		【予習】新聞やインターネットなどで、最新の社会保障給付費について取
11 回	社会保障と財政②	り上げている記事を1つ以上読んでおく。
		【復習】資料とテキストによって授業を振り返り、学びとなったことを記
		録する。
		国民負担率について、理解する。
		【予習】新聞やインターネットなどで、「国民負担率」について取り上げ
12 回	社会保障と財政③	ている記事を1つ以上読んでおく。
		【復習】資料とテキストによって授業を振り返り、学びとなったことを記
		録する。
		社会保障と経済について、理解する。
		【予習】新聞やインターネットなどで、最新の社会保障給付費について取
13 回	社会保障と財政④	り上げている記事を1つ以上読んでおく。
		【復習】資料とテキストによって授業を振り返り、学びとなったことを記
		録する。
		社会保険の概念と範囲について、理解する。
	社会保険と社会扶助の関	【予習】新聞やインターネットなどで、「社会保険」について取り上げて
14 回	係①	いる記事を1つ以上読んでおく。
	<u> </u>	【復習】資料とテキストによって授業を振り返り、学びとなったことを記
		録する。
		社会扶助の概念と範囲について、理解する。
15 回	社会保険と社会扶助の関	【予習】新聞やインターネットなどで、「社会扶助」「公的扶助」について
10 🖂	<u>係</u> ②	取り上げている記事を1つ以上読んでおく。
		【復習】資料とテキストによって授業を振り返り、学びとなったことを記

録する。

準備学習(予習・復習について)

本科目は、講義科目(2単位)ですので、授業時間90分以外に60時間の授業外学習が必要になります。

- ・授業前に、学習内容に示した部分の教科書や資料を予め読んでくること。
- ・最近の社会保障の動向等について、新聞やメディア・SNSを通して確認しておくこと。不明なことがあれば、調べたり質問したりすること。

成績評価の基準・方法

成績評価の基準

評価項目	S	A	В	C	D
①社会保険の役割の理解 ②社会福祉制度への理解	完全にない しほぼ完全	若干不十分 な点は認め	不十分な点 は認められ	到達目標の 最低限を達	到達目標を 達成してい
③社会扶助への理解 ④保険医療・公衆衛生への 理解	に到達目標 を達成して いる	られるもの の、到達目 標を達成し	るものの、 到達目標を 達成してい	成している	ない
*-11/11	, 2	ている	<i>を</i>		
100 点法	100 点~90	89 点~80	79 点~70	69 点~60	59 点以下
	点	点	点	点	

成績評価の基準・方法 (%表記)

- ① 授業内課題(20%)
- ② 単元に対する小レポート (30%)
- ③ 定期試験 (レポート) (50%)

教科書

・山田芳子 編著 米山裕実 編『図解でわかる 社会保険いちばん最初に読む本(改定第6版)』アニモ出版 2024年 1760円(税込)

参考書等

- ・結城康博・河村秋・大津唯 編著『わかりやすい社会保障制度 はじめて福祉に携わる人へ(改訂版)』(ぎょうせい) 2023 年 3520 円 (税込)
- ・その他、授業において、随時紹介する。

履修上の注意・学習支援

- ・授業中は、主体的に積極的に学習する。
- ・不明なことは、常に調べ、質問する習慣を身につける。

オフィスアワー

- ・質問等があれば、オフィスアワーを利用すること。
- ・担当教員との連絡方法は、授業時に提示する。

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
21HS2SC15	社会保障Ⅱ	2年	後期	講義	2	宮脇文恵

社会保障の概念、目的、機能を踏まえた上で、その内容について、社会保険、公的扶助、社会福祉、、公衆衛生および医療等について多面的に学ぶ。また、ソーシャルワークを実践する上で理解すべき医療保障・介護保障・所得保障・公的扶助について理解を深め、地域住民、サービス利用者および家族への適切な支援に活かせるように学習する。本講義における学びを通して、社会保障に関する広い教養と、自立・自律した生活者としての行動規範を身につける。

到達目標 (学習の成果)

- 1. 公的保険制度と民間保険制度の関係について理解している。(知識)
- 2. 社会保障制度の体系とそれぞれの制度の概要について理解し、制度改正などについて調べたり、生活の中で活用できたりするようになる。(方法・態度)
- 3. 諸外国における社会保障制度の概要について理解している。(知識)

旦	表題	学習内容				
1 🗉	授業の進め方 公的保険制度と民間保険 制度の関係	授業計画、授業方法、予習・復習、成績の評価基準・方法等を知る。 公的保険と民間保険の現状(公的保険と民間保険の主な種類・公的保険と 民間保険の違い)について理解する。 【予習】新聞やインターネットなどで、「社会保険」「民間保険」について 取り上げている記事を1つ以上読んでおく。 【復習】資料とテキストによって授業を振り返り、学びとなったことを記 録する。				
2回	社会保障制度の体系①	医療保険制度等の概要(制度の目的、対象、給付内容、財源構成等)について、理解する。 【予習】自分の属している医療保険について調べてくる。 【復習】資料とテキストによって授業を振り返り、学びとなったことを記録する。				
3回	社会保障制度の体系②	医療保険制度等の概要(公費負担医療)について、理解する。 【予習】新聞やインターネットなどで、「公費負担医療」について取り上 げている記事を1つ以上読んでおく。 【復習】資料とテキストによって授業を振り返り、学びとなったことを記 録する。				
4回	社会保障制度の体系③	介護保険制度の概要(制度の目的、対象、給付内容、財源構成)について学ぶ。それらがわが国の社会保障制度にどのような影響をもたらしているのかを理解していく。 【予習】新聞やインターネットなどで、「家族のみによる介護」について取り上げている記事を1つ以上読んでおく。 【復習】資料とテキストによって授業を振り返り、学びとなったことを記録する。				
5回	社会保障制度の体系④	介護保険制度の概要(給付内容、財源構成)について学ぶ。 【予習】インターネットなどで、自分の地域の介護保険料やサービスについて調べてくる。 【復習】資料とテキストによって授業を振り返り、学びとなったことを記録する。				
6 回	社会保障制度の体系⑤	年金保険制度の概要(制度の目的、対象、給付内容、財源構成) について 理解する。				

	<u> </u>	Facilities and the sense of the
		【予習】新聞やインターネットなどで、「国民年金」について取り上げて
		いる記事を1つ以上読んでおく。
		【復習】資料とテキストによって授業を振り返り、学びとなったことを記録する。
		年金保険制度の概要(給付内容、財源構成)について理解する。
		【予習】新聞やインターネットなどで、「厚生年金」について取り上げて
7 回	社会保障制度の体系⑥	いる記事を1つ以上読んでおく。
		【復習】資料とテキストによって授業を振り返り、学びとなったことを記
		録する。
		労災保険制度と雇用保険制度の概要(制度の目的、対象、給付内容、財源
		構成)について理解する。
8回	社会保障制度の体系⑦	【予習】新聞やインターネットなどで、「労働災害」または「失業問題」
	<u>在去休停顺及少件水①</u>	について取り上げている記事を1つ以上読んでおく。
		【復習】資料とテキストによって授業を振り返り、学びとなったことを記
		録する。
		生活保護制度の概要(制度の目的、対象、給付内容、財源構成)について
		理解する。
9回	社会保障制度の体系⑧	【予習】新聞やインターネットなどで、「生活困窮者自立支援制度」につ
	TAMPIAX VII NO	いて取り上げている記事を1つ以上読んでおく。
		【復習】資料とテキストによって授業を振り返り、学びとなったことを記
		録する。
	社会保障制度の体系③	生活保護制度の概要(給付内容、財源構成)について理解する。 【予習】新聞やインターネットなどで、「生活保護」について取り上げて
10 回		【
10円		いる記事を 1 つ以上試んでわく。 【復習】資料とテキストによって授業を振り返り、学びとなったことを記
		は では、 は では できます。
		社会手当制度の概要(制度の目的、対象、給付内容、財源構成)について
		理解する。
,,	打人切除制度ではその	【予習】新聞やインターネットなどで、「社会手当」について取り上げて
11 回	社会保障制度の体系⑩	いる記事を1つ以上読んでおく。
		【復習】資料とテキストによって授業を振り返り、学びとなったことを記
		録する。
		社会福祉制度の概要(制度の目的、対象、給付内容、財源構成)について、
		高齢者・児童・母子寡婦分野から理解する。
		【予習】新聞やインターネットなどで、「高齢者福祉」・「児童福祉」・「母
12 回	社会保障制度の体系⑪	子寡婦福祉」それぞれについて取り上げている記事を 1 つ以上読んでお
		【復習】資料とテキストによって授業を振り返り、学びとなったことを記
		録する。
		社会福祉制度の概要(制度の目的、対象、給付内容、財源構成)について、際字者、社会的ですなどの公野など、理解する
		障害者・社会的孤立などの分野から理解する。 【予習】新聞やインターネットなどで、「障害者福祉」・「社会的孤立」そ
13 回	社会保障制度の体系⑫	【丁省】 新聞やインターネットなどで、「障害有偏位」・「任会的加立」で れぞれについて取り上げている記事を1つ以上読んでおく。
		【復習】資料とテキストによって授業を振り返り、学びとなったことを記
		【後自】 貝付こ ノイハドによう C 技業を振り返り、子いこなうにここを記録する。
	諸外国における社会保障	諸外国における社会保障制度の概要(先進諸国の社会保障制度の歴史と概
14 回	制度①	要)について学ぶ。
	<u></u>	

		【予習】新聞やインターネットなどで、アメリカの社会保障制度について
		取り上げている記事を1つ以上読んでおく。
		【復習】資料とテキストによって授業を振り返り、学びとなったことを記
		録する。
		社会保障制度の国際比較(高齢化と社会保障の給付規模、社会保障給付費
		の内訳)について学ぶ。
15 回	諸外国における社会保障	【予習】新聞やインターネットなどで、フランスの社会保障制度について
	制度②	取り上げている記事を1つ以上読んでおく。
		【復習】資料とテキストによって授業を振り返り、学びとなったことを記
		録する。

本科目は、講義科目 (2 単位) ですので、授業時間 90 分以外に 60 時間の授業外学習時間が必要になります。

- ・各回授業前までに、次回の授業で解説する教科書の箇所を予習しておく。次回の授業については、前回授業 時に指示する。
- ・最近の社会保障の動向等を新聞やメディア・SNSを通して確認しておくこと。不明なことがあれば、調べたり質問したりすること。

成績評価の方法・基準

成績評価の基準

評価項目	S	A	В	С	D
①社会保険の役割の理解	完全にない	若干不十分	不十分な点	到達目標の	到達目標を
②社会福祉制度への理解	しほぼ完全	な点は認め	は認められ	最低限を達	達成してい
③社会扶助への理解	に到達目標	られるもの	るものの、	成している	ない
④保険医療・公衆衛生への 理解	を達成して いる	の、到達目 標を達成し	到達目標を 達成してい		
7生丹4	(, 2	保を達成し ている	達成している		
		, , ,	<u> </u>		
100 点法	100 点~90	89 点~80	79 点~70	69 点~60	59 点以下
	点	点	点	点	

成績評価の方法・基準 (%表記)

- ① 授業内課題 (20%)
- ② 単元に対する小レポート (30%)
- ③ 定期試験 (レポート) (50%)

教科書

・山田芳子 編著 米山裕実 編『図解でわかる 社会保険いちばん最初に読む本(改定第6版)』アニモ出版 2024年 1760円(税込)

参考書等

- ・結城康博・河村秋・大津唯 編著『わかりやすい社会保障制度 はじめて福祉に携わる人へ(改訂版)』(ぎょうせい) 2023 年 3520 円 (税込)
- ・その他、授業において、随時紹介する。

履修上の注意・学習支援

- ・授業中は、主体的に積極的に学習する。
- ・不明なことは、常に調べ、質問する習慣を身につける。

オフィスアワー

- ・質問等があれば、オフィスアワーを利用すること。
- ・担当教員との連絡方法は、授業時に提示する。

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
21HS1SC16	高齢者福祉	1年	後期	講義	2	宮脇文恵

高齢者とはどういう存在なのか、その定義と特性を学び、高齢者の生活実態と取り巻く社会環境、高齢者福祉の歴史、法制度への理解を踏まえて、高齢者と家族等との関係構築と支援の実際など、高齢者福祉への理解を深める。本講義における学びを通して、高齢者福祉の意義を学び、福祉の基本的な知識、技術・方法、態度を身につけ、社会の一員として、協働して課題に取り組むことができることを目指す。

到達目標 (学習の成果)

- 1. 高齢者の定義と特性を踏まえ、高齢者とその家族の生活とこれを取り巻く社会環境について理解する。(知識)
- 2. 高齢者福祉の歴史と高齢者観の変遷、制度の発展過程について理解する。(知識)
- 3. 高齢者に対する法制度と支援の仕組みについて理解し、適切に援助できるようになる。(方法・態度)
- 4. 高齢期における生活課題を踏まえて、適切な支援の在り方を理解し、適切に援助できるようになる。(方法・態度)

態度)		
		授業計画
口	表題	学習内容
1 🗉	授業の進め方 <u>高齢者の定義と特性</u> ①	授業計画、授業方法、予習・復習、成績の評価基準・方法等を知る。 高齢者に対して抱いているイメージ、社会における位置づけ、自分と高齢 者との関わりなどについて自らを見つめて、今後の学びに対する心構えを つくる。 高齢者とは、どのような存在なのか。その定義を学ぶ。 【予習】これまでの、自分と高齢者との関わりについて、具体的なエピソ ードを1つ以上盛り込んで、400 字以上でまとめてくる。 【復習】資料とテキストによって授業を振り返り、学びとなったことを記 録する。
2回	高齢者の定義と特性②	高齢者の特性について、高齢者への社会的、身体的、精神的理解を深め、関わるための基盤をつくる。 【予習】新聞やインターネットなどで、高齢者の気持ちについて取り上げている記事を1つ以上読んでおく。 【復習】資料とテキストによって授業を振り返り、学びとなったことを記録する。
3回	高齢者の生活実態とこれ を取り巻く社会環境①	高齢者の生活実態について、住居、所得、世帯、雇用・就労、介護需要、介護予防に関する理解を深める。 【予習】新聞やインターネットなどで、高齢者の所得について取り上げている記事を1つ以上読んでおく。 【復習】資料とテキストによって授業を振り返り、学びとなったことを記録する。
4回	高齢者の生活実態とこれ を取り巻く社会環境②	高齢者を取り巻く社会環境について、独居、老々介護、ダブルケア、8050 問題など、事例を通して学ぶ。 高齢者虐待、介護者の離職などについて、事例を通して学ぶ。 【予習】新聞やインターネットなどで、「老々介護」「ダブルケア」「8050 問題」のどれかについて取り上げている記事を1つ以上読んでおく。 【復習】資料とテキストによって授業を振り返り、学びとなったことを記録する。
5回	高齢者福祉の歴史①	高齢者の理念について、人権尊重、尊厳の保持の理解を深める。 老人福祉法、介護保険法における理念について学ぶ。 【予習】新聞やインターネットなどで、高齢者の人権について取り上げている記事を1つ以上読んでおく。 【復習】資料とテキストによって授業を振り返り、学びとなったことを記録する。
6 回	高齢者福祉の歴史②	高齢者観の変遷と高齢者福祉制度の発展過程について、敬老思想、エイジズム、社会的弱者、アクティブエイジングの観点から、理解を深める。 高齢者福祉制度がどのように発展してきたのか、学ぶ。

		【ヱ羽】 如用め ハッカーラットカドボ 「□田小の古典 老細 にっこて 耳 !!!
		【予習】新聞やインターネットなどで、近現代の高齢者観について取り上 ばている記事なよっとには話りでおく
		げている記事を1つ以上読んでおく。
		【復習】資料とテキストによって授業を振り返り、学びとなったことを記録する。
7回	<u>高齢者に対する法制度</u> ①	「介護保険制度」から、介護保険法と介護保険制度の概要、介護報酬の概要、介護保険制度における組織及び団体の役割、保険者と被保険者、保険料、要介護認定の仕組みとプロセス、居宅サービス、施設サービスの種類について学ぶ。 「老人福祉法」から、老人福祉法の概要、老人福祉法に基づく措置について学ぶ。 【予習】新聞やインターネットなどで、「介護保険制度」について取り上げている記事を1つ以上読んでおく。 【復習】資料とテキストによって授業を振り返り、学びとなったことを記
		録する。 「高齢者の医療の確保に関する法律」から、高齢者の医療の確保に関する
8回	<u>高齢者に対する法制度</u> ②	法律の概要を学ぶ。 「高齢者虐待の防止、高齢者の擁護者に対する支援等に関する法律(高齢者虐待防止法)」から、高齢者虐待防止法の概要、高齢者虐待の未然防止、通報義務、早期発見について学ぶ。 「高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律(バリアフリー新法)」から、バリアフリー新法の概要、施設設置管理者等の責務について学ぶ。 【予習】新聞やインターネットなどで、「高齢者虐待」について取り上げている記事を1つ以上読んでおく。 【復習】資料とテキストによって授業を振り返り、学びとなったことを記
		録する。
9回	高齢者に対する法制 <u>度</u> ③	「高齢者の居住の安定確保に関する法律(高齢者住まい法)」から、高齢者住まい法の概要について学ぶ。 「高年齢者等の雇用の安定等に関する法律(高齢者雇用安定法)」から、高齢者雇用安定法の概要について学ぶ。 「育児・介護休業法」から、の意義や仕組み、内容と援助の実際を理解する。育児・介護休業法の概要について学ぶ。 【予習】新聞やインターネットなどで、「高齢者の住まい」について取り上げている記事を1つ以上読んでおく。 【復習】資料とテキストによって授業を振り返り、学びとなったことを記録する。
10 回	高齢者と家族等の支援に おける関係機関と専門職 の役割①	高齢者と家族等の支援における関係機関の役割について、国、都道府県、市町村、指定サービス事業者、国民健康保険団体連合会、地域包括支援センター、ハローワーク、シルバー人材センターなどの担う役割について学ぶ。 【予習】新聞やインターネットなどで、自分の住んでいる地域の「地域包括支援センター」について調べてくる。 【復習】資料とテキストによって授業を振り返り、学びとなったことを記録する。
11 回	高齢者と家族等の支援に おける関係機関と専門職 の役割②	関連する専門職等の役割について、介護福祉士、医師、看護師、理学療法士、作業療法士等・介護支援専門員、訪問介護員、介護職員、福祉用具専門相談員等、フォーマルな社会資源について、事例を用いながら理解を深める。 【予習】新聞やインターネットなどで、「高齢者に関わる福祉専門職」「高齢者に関わる医療専門職」のそれぞれについて取り上げている記事を1つ以上読んでおく。 【復習】資料とテキストによって授業を振り返り、学びとなったことを記録する。
12 回	高齢者と家族等の支援に おける関係機関と専門職 の役割③	支援に関連する専門職等の役割について、認知症サポーター、介護相談員・家族、住民、ボランティア等、インフォーマルな社会資源について、事例を用いながら理解を深める。

		【予習】新聞やインターネットなどで、自分の地域の高齢者に関するボラ
		ンティアについて調べてくる。
		【復習】資料とテキストによって授業を振り返り、学びとなったことを記
		録する。
		高齢者領域における社会福祉士の役割として何を果たすべきか、事例を通
		して学ぶ。
13 回	高齢者と家族等に対する	【予習】新聞やインターネットなどで、施設における高齢者支援について
19 回	<u>支援の実際</u> ①	取り上げている記事を1つ以上読んでおく。
		【復習】資料とテキストによって授業を振り返り、学びとなったことを記
		録する。
	高齢者と家族等に対する 支援の実際 (多職種連携 を含む)②	高齢者、家族の就労に対する支援事例について、事例を通して学ぶ。
		介護予防における支援について、事例を通して学ぶ。
14 回		【予習】新聞やインターネットなどで、「高齢者の就労」について取り上げ
14 [4]		ている記事を1つ以上読んでおく。
		【復習】資料とテキストによって授業を振り返り、学びとなったことを記
		録する。
		地域包括ケアシステムにおける認知症高齢者支援について、事例を通して
		学ぶ。
15 0	高齢者と家族等に対する	【予習】新聞やインターネットなどで、認知症高齢者への支援について取
15 回	<u>支援の実際</u> (多職種連携 を含む) ③	り上げている記事を1つ以上読んでおく。
	(T T T T)	【復習】資料とテキストによって授業を振り返り、学びとなったことを記
		録する。

本科目は、講義科目 (2 単位) ですので、授業時間 90 分以外に 60 時間の授業外学習時間が必要になります。 ・次回の授業内容に対して、メディアやSNSなどで、高齢者福祉に関する話題について関心を抱き、調べて、 授業において発言できるようにする。

・「現代社会と福祉」「相談援助の理論と方法」「障害者福祉」などの講義と関連させて、学びを深める。

成績評価の方法・基準(%表記)

成績評価の基準

評価項目	S	A	В	С	D
①高齢者の生活実態の理解	完全にない	若干不十分	不十分な点	到達目標の	到達目標を
②高齢者の心理への理解	しほぼ完全	な点は認め	は認められ	最低限を達	達成してい
③高齢者を支援する法制度	に到達目標	られるもの	るものの、	成している	ない
への理解	を達成して	の、到達目	到達目標を		
④高齢者と家族等の支援へ	いる	標を達成し	達成してい		
の理解		ている	る		
100 点法	100 点~90	89 点~80	79 点~70	69 点~60	59 点以下
	点	点	点	点	

- ① 授業内課題 (20%)
- ② 単元に対する小レポート (30%)
- ③ 定期試験(レポート課題) (50%)

教科書

社会福祉士養成講座編集委員会 編『最新 社会福祉士養成講座第2巻 高齢者福祉』(第5版)中央法規出版 2021年 2750円(税込)

参考書等

・授業において、随時紹介する。

履修上の注意・学習支援

- ・授業中は、主体的に積極的に学習する。
- ・不明なことは、常に調べ、質問する習慣を身につける。

オフィスアワー

- ・質問等があれば、オフィスアワーを利用すること。
- ・担当教員との連絡方法は、授業時に提示する。

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
21 HS1SC17	医学概論	1 年	前期	講義	2	菊池 芳子

- ・多様化している社会福祉のニーズに応えるために必要な人体の基本的な構造や機能を学ぶ。
- ・ライフステージにおける心身の変化と健康課題を理解する。
- ・公衆衛生の観点から、人々の健康に影響を及ぼす要因や対策を理解する。
- ・社会福祉実践との関連の中で、専門職に必要な人体の構造と機能に関する知識や概念を多面的に理解していく。

到達目標(学習の成果)

- 1 人体の構造と機能が理解できる。(知識)
- 2 疾病と障害の成り立ち及び回復過程について理解できる。 (知識)
- 3 利用者を取り巻く主要な疾患及び症状が説明できる。(知識・態度)

旦	表題	学習内容
	授業の進め方	授業計画、授業方法、予習・復習、成績の評価基準・方法等を知る。
1回	ライフステージにおける心身の 変化と健康課題①	ライフステージにおける心身の変化と健康課題 心身の加齢・老化 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】配布資料を整理する。
2回	ライフステージにおける心身の 変化と健康課題②	ライフステージ別の健康課題(乳幼児期 学童期、思春期、青年期) 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】配布資料を整理する。
3回	ライフステージにおける心身の 変化と健康課題③	ライフステージ別の健康課題(成人期、前期高齢期、後期高齢期) 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】配布資料を整理する。
4 回	健康及び疾病の捉え方 健康の概念 (WHO 憲章)	疾病の概念(疾患 疾病 病気の違い) 国際生活機能分類 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】配布資料を整理する。
5 回	身体構造と心身機能 人体部位 の名称	器官系と臓器の役割 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】配布資料を整理する。
6 回	疾病と障害の成り立ち 及び回復過程①	疾病の発生原因(外的要因 内的要因) 病変の成立機序(炎症、変性、虚血、発癌、免疫反応等) 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】配布資料を整理する。
7回	疾病と障害の成り立ち 及び回復過程②	第1回確認テスト 障害の概要 (視覚障害 聴覚障害 平衡機能障害) 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】配布資料を整理する。
8回	疾病と障害の成り立ち 及び回復過程③	障害の概要(肢体不自由 内部障害 知的障害) 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】配布資料を整理する。
9 回	疾病と障害の成り立ち 及び回復過程④	障害の概要 (精神障害 発達障害 高次脳機能障害 認知症) 【予習】テキストの該当する部分を読む。

		【復習】配布資料を整理する。
10回	疾病と障害の成り立ち 及び回復過程⑤	リハビリテーションの定義、目的、対象、方法 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】配布資料を整理する。
11回	疾病と障害の成り立ち 及び回復過程⑥	疾病の概要 (悪性腫瘍と緩和ケア 生活習慣病 脳血管疾患 心疾患 消化器疾患 内分泌・代謝疾患 血液疾患 膠原病) 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】配布資料を整理する。
12回	疾病と障害の成り立ち 及び回復過程⑦	疾病の概要(腎臓疾患 泌尿器系疾患 骨・関節疾患 目・耳の疾患 呼吸器疾患) 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】配布資料を整理する。
13回	疾病と障害の成り立ち 及び回復過程®	疾病の概要(感染症・神経疾患・難病・先天性疾患) 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】配布資料を整理する。
14回	公衆衛生①	公衆衛生の考え方 健康の社会的決定要因 (SDH) 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】配布資料を整理する。
15回	公衆衛生②	第2回確認テスト 健康増進と保健医療対策 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】配布資料を整理する。

本科目は、講義科目(2単位)ですので、授業時間以外に60時間の授業外学習が必要になります。

- ・授業内容に示した部分のテキストを予め読んでまとめてくること。
- ・授業で指示した事柄について、参考文献で調べてまとめてくること。
- ・各回の授業内容に係る確認テスト(2回)を実施するので、必ず復習すること。

成績評価の基準・方法

評価項目	S	A	В	С	D
1. 人体の構造と機能の理解の理解	完全にない	若干不十分	不十分な点	到達目標の	到達目標を
2. 疾病と障害の成り立ち及び回復過	しほぼ完全	な点は認め	は認められ	最低限を達	達成してい
程についての理解	に到達目標	られるもの	るものの、	成してい	ない。
3. 利用者を取り巻く主要な疾患及び	を達成して	の、到達目	到達目標を	る。	
症状の習熟度	いる。	標を達成し	達成してい		
		ている。	る。		
100点法	90点以上	80点以上	70点以上	69点以上	59点以下

- · 定期試験(筆記試験) 50%
- ・授業内確認テスト (2回) 30%
- ・ワークシート、リアクションペーパー 20%

教科書

一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校教育連盟編 『医学概論』(最新社会福祉士養成講座精神保健福祉士養成講座) 2021 中央法規出版 2750円

参考書等

履修上の注意・学習支援

・提出されたレポートや確認テストは、コメントをつけて返却する。

- ・レポートの提出期限を厳守する。
- ・不明なことは常に調べ、質問すること。
- ・日頃から新聞紙上に取り上げられる医療に関する記事、社会事象に注目して情報収集をすること。

オフィスアワー

質問等があれば、授業前後及びオフィスアワーを利用すること(事前予約の上、時間を設定する)。

実務経験の概要

看護師として、病院(内科・外科・小児科)等の医療機関において患者の医療や生活を含む看護に関する業務に従事してきた。

実務経験と科目との関連性

医療機関等における看護の実務経験は、本科目の授業内容との関連性が非常に高く、現場での実務 経験を活かした講義が実施できる。また、関連する科目とも深い関連性がある。

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
21 HS1SC18	社会福祉の原理と政策	1年	前・後 (通年)	講義	4	勝浦 美智恵

社会福祉を必要とする現代社会の構造や機能について理解し、課題解決の方法を学ぶ。過去の社会と現代社会の同質性と異質性を理解するプロセスにおいて福祉や社会福祉ニーズ発生のメカニズムを考えていく。自立・自律した生活者、そして専門職として、現代社会における福祉・社会福祉諸施策の変化や展開過程を学習し、より優れた福祉あるいは社会福祉の構造や機能を展望できるようにする。アクティブラーニングとして、現代における社会問題に関する調べ学習や考察を表明する機会を設ける。

到達目標(学習の成果)

- 1. 福祉の意義を学び、基本的な専門知識、技術・方法、態度を身につけ、社会の一員として課題解決について考え表現ができる。(態度)
- 2. 今日の福祉・現代社会における課題を理解し、福祉・医療・健康の専門職として倫理観や広い視野を持ち、その課題への対応策や地域貢献について考えて表現できる。 (知識・方法)

旦	表題	学習内容
1回	授業の進め方 社会福祉の原理①	授業計画、授業方法、予習・復習、成績の評価基準・方法等を知る。 社会福祉の歴史、思想・哲学、理論、社会福祉の原理と実践 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
2回	社会福祉の原理②	社会福祉学の構造と特徴 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
3回	社会福祉の歴史①	歴史観、政策史、実践史、発達史、時代区分、日本と欧米の社会福祉 の比較史 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
4回	社会福祉の歴史②	日本の社会福祉の歴史的展開(慈善事業 博愛事業) 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
5回	社会福祉の歴史③	日本の社会福祉の歴史的展開(社会福祉事業 社会福祉) 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
6 回	社会福祉の歴史④	欧米の社会福祉の歴史的展開 (救貧法 慈善事業 博愛事業) 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
7 回	社会福祉の歴史⑤	欧米の社会福祉の歴史的展開(社会事業 社会保険 福祉国家 福祉社会 国際的潮流) 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
8回	社会福祉の思想・哲学、理論①	社会福祉の思想・哲学(人間の尊厳人間の尊厳社会正義平和主義) 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
9回	社会福祉の思想・哲学、理論②	社会福祉の理論 戦後社会福祉の展開と社会福祉理論 【予習】テキストの該当する部分を読む。

		【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
10回	社会福祉の思想・哲学、理 論③	社会福祉の理論(政策論 技術論 固有論 統合論 運動論 経営論) 欧米の社会福祉の理論 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
11回	社会福祉の思想・哲学、理論④	社会福祉の論点(公私関係 効率性と公平性 普遍主義と選別主義) 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
12回	社会福祉の思想・哲学、理論⑤	社会福祉の論点 (自立と依存 自己選択・自己決定とパターナリズム 参加とエンパワメント ジェンダー 社会承認) 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
13回	社会福祉の思想・哲学、理論⑥	社会福祉の対象とニーズ (ニーズと需要の概念 社会福祉の対象とニーズ ニーズの種類と次元 ニーズの理論とその課題) 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
14回	社会問題と社会構造①	現代における社会問題(貧困 孤立 失業 要援護性 偏見と差別) 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】とりあげた事象について、書籍やインターネット等で調べノ ートにまとめる。
15回	社会問題と社会構造②	現代における社会問題(社会排除 ヴァルネラビリティ ニューリスク 依存症 自殺) 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】とりあげた事象について、書籍やインターネット等で調べノートにまとめる。
16回	社会問題と社会構造③	社会問題の構造的背景(低成長経済 グローバル化 格差・貧困) 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
17回	社会問題と社会構造④	社会問題の構造的背景(少子高齢化 人口減少 社会意識・価値観の変化) 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
18回	福祉政策の基本的な視点①	現代の社会問題と福祉政策 福祉政策の概念・理念 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
19回	福祉政策の基本的な視点②	福祉政策と社会保障 社会政策 福祉レジームと福祉政策 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
20回	福祉政策におけるニーズと 資源①	ニーズの種類と内容 ニーズの把握方法 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
21回	福祉政策におけるニーズと 資源②	資源の種類と内容 資源の把握方法と開発方法 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
22回	福祉政策の構成要素と過程 ①	福祉政策の役割・機能 (政府 市場 事業者 国民 措置制度 多元化する福祉サービス提供方式) 【予習】テキストの該当する部分を読む。

		【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
23回	福祉政策の構成要素と過程 ②	福祉政策の過程(政策決定・実施・評価 福祉政策の方法・手段 政策 評価・行政評価 福祉政策と福祉計画) 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
24回	福祉政策の動向と課題	福祉政策と包括的支援(社会福祉法 地域包括ケアシステム 地域共生 社会 多文化共生 持続可能性) 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
25回	福祉政策と関連施策	保健医療政策 教育政策 住宅政策 労働政策 経済政策 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
26 回	福祉サービスの供給と利用 過程①	福祉供給部門(公的部門 民間部門 ボランタリー部門 インフォーマル部門 部門間の調整・連携・協働) 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
27回	福祉サービスの供給と利用 過程②	福祉供給過程(公私関係 再配分・割り当て 市場・準市場) 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
28回	福祉サービスの供給と利用 過程③	福祉供給過程(福祉行財政 福祉計画 福祉開発) 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
29回	福祉サービスの供給と利用 過程④	福祉利用過程(スティグマ 情報の非対称性 受給資格とシティズンシップ) 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
30回	福祉政策の国際比較	国際比較の視点と方法 福祉政策の類型 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。

本科目は、講義科目(4単位)ですので、授業時間以外に120時間の授業外学習が必要となります。学習内容に記載された予習・復習を実践して内容の理解を深めてください。

成績評価の基準・方法

評価項目	S	A	В	С	D
1. 現代社会における福祉課題に関す	完全にない	若干不十分	不十分な点	到達目標の	到達目標を
る理解	しほぼ完全	な点は認め	は認められ	最低限を達	達成してい
2. 現代社会における課題に対する福祉	に到達目標	られるもの	るものの、	成してい	ない。
政策に関する理解	を達成して	の、到達目	到達目標を	る。	
3. 福祉課題に対する専門職としての対	いる。	標を達成し	達成してい		
応に関する習熟度		ている。	る。		
100点法	90点以上	80点以上	70点以上	60点以上	59点以下

- ・定期試験 (レポート試験) 50%
- ・授業内課題(レポート) 50%

教科書

日本ソーシャルワーク教育学校連盟編著 『社会福祉の原理と政策』 中央法規出版株式会社 2021 年 3,190円

参考書等

ミネルヴァ書房編集部 『社会福祉小六法 2025』 ミネルヴァ書房 2022 年 1,980円

履修上の注意・学習支援

教科書及び社会福祉小六法、配布したレジュメは、授業時には必ず持参すること。 質問があれば、オフィスアワーを利用すること(事前予約のうえ、時間を設定する)。

オフィスアワー

疑問があれば、オフィスアワーを利用すること。事前予約(katsuura@ujc.ac.jp) のうえ、時間を設定する。具体的な時間帯は追って指示する。

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
21HS1SC19	障害者福祉	1年	後期	講義	2	小野篤司・長 秀紀

福祉の基本的な知識として障害者福祉を理解するための考え方、障害に関わる重要な思想・理念、法制度、支援のしくみについて理解する。また、障害者とその家族の生活とそれらを取り巻く社会環境および生活課題について理解を深め、障害者や家族の生活を支えるソーシャルワーカーに係わる基本的な知識・方法・態度を学ぶことをめざす。人間尊重の精神と倫理性をもち、障害者を取り巻く社会環境の課題解決に貢献できるようになることをめざす。

到達目標(学習の成果)

- 1. 福祉の基本的な知識として、障害の概念と特性、障害者福祉の歴史、障害者の生活実態とこれを取り巻く社会環境や法制度を理解し説明できる(知識)。
- 2. 障害者の生活実態、生活課題を踏まえて、障害者と家族等の生活を支えるためにソーシャルワーカーに係わる知識・方法・態度を理解し、自分の意見を言うことができる(方法・態度)。

田	表題	学習内容				
1回	授業の進め方 障害概念と特性①	授業計画、授業方法、予習・復習・成績評価の方法等を理解する。 障害者の定義と特性について学ぶ (小野) 【予習】テキストの該当する部分を読んで理解する 【復習】授業で学んだ内容等を理解しまとめる				
2回	障害者の生活実態とこれを取り 巻く社会環境①	障害者の生活実態を学ぶ (小野) 【予習】テキストの該当する部分を読んで理解する 【復習】授業で学んだ内容等を理解しまとめる				
3回	障害者の生活実態とこれを取り 巻く社会環境②	障害者を取り巻く社会環境について学ぶ 国際生活機能分類(ICF)、医学モデルと社会モデルについて学ぶ (小野) 【予習】テキストの該当する部分を読んで理解する 【復習】授業で学んだ内容等を理解しまとめる				
4回	障害概念と特性②	障害者福祉の理念、障害観の変遷、障害への偏見、スティグマについて学ぶ (小野) 【予習】テキストの該当する部分を読んで理解する 【復習】授業で学んだ内容等を理解しまとめる				
5 回	障害者福祉の歴史	障害者福祉制度の発展過程、障害者権利条約と障害者基本法の概要について学ぶ (小野) 【予習】テキストの該当する部分を読んで理解する 【復習】授業で学んだ内容等を理解しまとめる				
6 回	障害者に対する法制度①	障害者総合支援法の理念と全体像、障害者総合支援法の自立支援給付、地域生活支援事業、障害福祉サービスの利用法について学ぶ(小野) 【予習】テキストの該当する部分を読んで理解する 【復習】授業で学んだ内容等を理解しまとめる				
7回	障害者に対する法制度②	身体障害、知的障害、精神障害、発達障害の法体系について学ぶ (小野) 【予習】テキストの該当する部分を読んで理解する 【復習】授業で学んだ内容等を理解しまとめる				
8回	障害者に対する法制度③	バリアフリー法の概要を学び、障害者を取り巻く社会環境の課題				

		を理解する (小野) 【予習】テキストの該当する部分を読んで理解する 【復習】授業で学んだ内容等を理解しまとめる
9回	障害者に対する法制度④	障害者虐待防止法の概要を学び、関係機関や専門職等の役割を理解する (小野) 【予習】テキストの該当する部分を読んで理解する 【復習】授業で学んだ内容等を理解しまとめる
10回	障害者に対する法制度⑤	障害者差別解消法を学び、差別解消に向けた課題ついて考える。 (小野) 【予習】テキストの該当する部分を読んで理解する 【復習】授業で学んだ内容等を理解しまとめる
11回	障害者に対する法制度⑥	障害者雇用促進法の概要を学び、合理的配慮や就労支援のあり方を考える (小野) 【予習】テキストの該当する部分を読んで理解する 【復習】授業で学んだ内容等を理解しまとめる
12回	障害者の生活実態とこれを取り 巻く社会環境③	障害者と家族の生活実態、障害児・者のいる家族への支援 (小野) 【予習】テキストの該当する部分を読んで理解する 【復習】授業で学んだ内容等を理解しまとめる
13回	障害者の生活実態とこれを取り 巻く社会環境④	障害者福祉の理念・概念や法制度を踏まえて、障害者への理解を進めていくための課題を考える (小野) 【予習】テキストの該当する部分を読んで理解する 【復習】授業で学んだ内容等を理解しまとめる
14回	障害者と家族等の支援における 関係機関と専門職の役割	障害者と家族等の生活を支えるために関係機関と専門職の役割 を理解し、地域でのサポート体制づくりについて学ぶ。(長) 【予習】テキストの該当する部分を読んで理解する ※14回と15回は連続授業
15回	障害者と家族等に対する支援の 実際	多職種連携による支援の実際を理解し、障害者の地域での自立生活を支える方法を考える。 (長) 【復習】授業で学んだ内容等を理解しまとめる ※14回と15回は連続授業

本科目は、講義科目(2単位)ですので、授業時間90分以外に60時間の授業外学習が必要になります。 学習内容に記載された予習・復習を実践して内容の理解を深めてください。

成績評価の基準・方法

評価項目	S	A	В	С	D
1. 障害の概念と特性、障害者福祉の	完全にない	若干不十分	不十分な点	到達目標の	到達目標を
歴史、障害者の生活実態とこれを取	しほぼ完全	な点は認め	は認められ	最低限を達	達成してい
り巻く社会環境や法制度の理解	に到達目標	られるもの	るものの、	成してい	ない。
2. 障害者の生活実態、生活課題を踏ま	を達成して	の、到達目	到達目標を	る。	
えて、障害者と家族等の生活を支え	いる。	標を達成し	達成してい		
るためにソーシャルワーカーに係わ		ている。	る。		
る知識・方法・態度の理解					
100点法	90点以上	80点以上	70点以上	60点以上	59点以下

- ・定期試験(筆記試験) 60%(小野)
- ・授業外課題 (レポート課題) 40% (長)

教科書

一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集 最新社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座8 『障害者福祉 第2版』中央法規、2025年(2,970円)

参考書等

小沢温「よくわかる障害者福祉」ミネルヴァ書房、2020年(2750円)

渡辺 一史「こんな夜更けにバナナかよ」文藝春秋、2013年 (968円)

宇都宮市「障がい者サービスのしおり」

http://www.city.utsunomiya.tochigi.jp/kurashi/shogai/gaishutsu/1004231.html

内閣府「障害者白書」

http://www8.cao.go.jp/shougai/whitepaper/index-w.html

二本柳覚『図解でわかる障害福祉サービス』中央法規、2022年(2420円)

履修上の注意・学習支援

- ・授業に必要のない私語は慎むこと。
- ・質問等があれば、オフィスアワーなどを利用すること。
- ・必要な配慮がある場合は事前に相談すること。

オフィスアワー

疑問があれば、オフィスアワーを利用すること(事前予約 ono@ujc.ac.jp のうえ、時間を設定する)。具体的な時間帯は追って指示する。

実務経験の概要

社会福祉士として障がい者の生活全般の相談業務に従事している。障がい者本人およびその家族や関係機関などからの幅広い相談に対し、ソーシャルワークの原理・原則を基本に関係機関等と連携して応じている。

実務経験と科目との関連性

相談援助の現場においては、就労に関する相談も寄せられる。各関係機関と連携し対象者のニーズをかなえてい く過程は、就労支援サービスの科目とも深く関連し、実務経験をもとにした講義が実施できる。

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
21HS2SC20	保健医療と福祉	2年	前期	講義	2	西澤利朗・北爪あゆみ

この講義は「医療保険制度」、「保健医療機関・政策」、「保健医療機関におけるソーシャルワーク」という3部構成の授業となる。保健医療機関の中でのソーシャルワークや事務職員を必要としている部分を垣間見られるよう、また並行受講している各対象者のソーシャルワーク実践における医療領域における役割についても、随時ふれる。それらをもとに社会福祉専門職そして医療事務職としての知識や支援方法を学ぶ。

到達目標(学習の成果)

- 1. 「医療保険制度」や「医療機関で活躍するソーシャルワーカーや医療事務の役割」が説明できる。
- 2. 「社会保障」や各対象者別の福祉で学ぶ内容が、医療機関の中でどう展開されているのかが説明できる。
- 3. 1、2を通して社会福祉専門職や医療事務職としての知識、支援方法が身についている。

旦	表題	学習内容
1回	授業の進め方 社会福祉の枠組み	授業計画、授業方法、予習・復習、成績評価の基準・方法等を知る。 同時に社会福祉の枠組みを理解する。 【予習】社会福祉の基礎について1年時学習内容を振り返り理解する 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる(西澤)
2回	患者の権利を考える①	社会福祉と権利擁護 制度と実践の両軸と実践の重要性 【予習】テキストの該当する部分を読む 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる(西澤)
3回	患者の権利を考える②	福祉の原理「インフォームド・コンセント」「セカンドオピニオン」「アカウンタビリティ」「コンプライアンス」「アドボケイト」等を理解する。 【予習】テキストの該当する部分を読む 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる(西澤)
4日	保健医療政策	医療法改定を前提に「難病」「感染症」「心の病」への制度施策について、意義を含め理解する。EBM(根拠に基づいた医療)について考える。 【予習】テキストの該当する部分を読む 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる(西澤)
5 回	保健医療分野のソーシャルワー クについて①	保健医療分野のソーシャルワークの歴史・役割について理解する。 【予習】テキストの該当する部分を読む 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる(西澤)
6 回	保健医療分野のソーシャルワー クについて②	「医療ソーシャルワーカー等の業務指針」を学ぶ。 【予習】テキストの該当する部分を読む 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる(西澤)
7回	保健医療分野のソーシャルワー クについて③	事例(「経済問題援助」「退院援助」)から考える。 【予習】テキストの該当する部分を読む 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる(西澤)
8回	保健医療分野のソーシャルワー クについて④	事例(「他専門職との連携」「地域とのネットワーク」)から考える。 【予習】テキストの該当する部分を読む 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる(西澤)

9回	医療保険制度①	医療保険制度、後期高齢者医療制度についてその仕組みや内容を理解する。 【予習】該当箇所を読み、キーワードを調べる。 【復習】専門用語、重要事項をノート等にまとめ、授業で示した課題等を行う。(北爪)
10回	医療保険制度②	「診療報酬」「高額療養費制度」について理解する。 【予習】該当箇所を読み、キーワードを調べる。 【復習】専門用語、重要事項をノート等にまとめ、授業で示した課題 等を行う。(北爪)
11回	医療保険制度③	「医療費」に関する政策の動向を理解する。 【予習】該当箇所を読み、キーワードを調べる。 【復習】専門用語、重要事項をノート等にまとめ、授業で示した課題 等を行う。(北爪)
12回	保健医療機関①	「病院」「診療所」の制度面の違いやその役割、機能を理解する。 【予習】該当箇所を読み、キーワードを調べる。 【復習】専門用語、重要事項をノート等にまとめ、授業で示した課題 等を行う。(北爪)
13回	保健医療機関②	医療施設の機能について理解する。 【予習】該当箇所を読み、キーワードを調べる。 【復習】専門用語、重要事項をノート等にまとめ、授業で示した課題 等を行う。(北爪)
14回	保健医療機関③	保健所、介護老人保健施設等についてその役割や機能を理解する。 【予習】該当箇所を読み、キーワードを調べる。 【復習】専門用語、重要事項をノート等にまとめ、授業で示した課題 等を行う。(北爪)
15回	保健医療機関④	「コメディカル」と呼ばれるそれぞれの専門職の役割や機能を考える。 【予習】該当箇所を読み、キーワードを調べる。 【復習】専門用語、重要事項をノート等にまとめ、授業で示した課題等を行う。(北爪)

この科目は、講義科目(2単位)ですので、授業時間の他に60時間の授業外学習が必要です。

- ・上に挙げた各制度やテーマについて、教科書・参考書や新聞記事などを活用しながらそれらの仕組みを理解 し、これらの制度についての課題問題点などについて調べ、まとめること。
- ・「障害者福祉」「高齢者福祉」「社会保障」などの講義と関連させること。

成績評価の基準・方法

評価項目	S	A	В	C	D
1. 医療保険制度の理解	完全にない	若干不十分	不十分な点	到達目標の	到達目標を
2. 保健医療機関-政策の理解	しほぼ完全	な点は認め	は認められ	最低限を達	達成してい
3. 保健医療機関におけるソーシャルワ	に到達目標	られるもの	るものの、	成してい	ない。
ークの理解	を達成して	の、到達目	到達目標を	る。	
	いる。	標を達成し	達成してい		
		ている。	る。		
100点法	90点以上	80点以上	70点以上	60点以上	59点以下

・定期試験 (筆記試験) 50% (西澤) ・授業ごとのリアクションペーパー提出を筆記試験に加える(10%) ・レポート 40% (北爪)

教科書

・社会福祉士養成講座編集委員会 編『新・社会福祉士養成講座 保健医療と福祉』中央法規出版、2021年、2750 円

参考書等

- ・日本社会福祉士会ほか編『改訂 保健医療ソーシャルワーク実践全3巻』中央法規出版、2009年
- ・椋野美智子、田中耕太郎著『はじめての社会保障』有斐閣アルマ、2017年、1980円
- ・利根川恵子著『福祉・介護職のための 病院・医療のしくみまるわかりブック』中央法規出版、2015年、2200円

履修上の注意・学習支援

- ・授業中の私語は厳に慎むこと。ただし、講義内容に関する発言は積極的にしていただきたい。
- ・不明なことは、常に調べ、質問する習慣を身につけること。

オフィスアワー

- ・質問等があれば、オフィスアワーを利用すること(担当教員のオフィスアワーは別途提示する)。
- ・担当教員メールアドレス: kitazume@ujc.ac.jp

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
21 HS1SE21	ソーシャルワーク の基盤と専門職	1年	前期	講義	2	勝浦 美智恵

社会福祉士の職域と求められる役割、ソーシャルワークにかかる専門職の概念と範囲について深く理解し、福祉専門職としての倫理性、知識・方法・態度を学ぶ。アクティブラーニングとして、社会福祉士が対応している事例の検討を行い、倫理性、知識・方法・態度の理解を深める。

到達目標 (学習の成果)

- ・社会福祉士と精神保健福祉士の法的な位置づけ、意義や役割について説明することができるようになる。 (知識)
- ・ソーシャルワークの基盤となる考え方とその形成過程について説明することができる。(知識)
- ・ソーシャルワークの価値規範と倫理について説明することができる。(知識)
- ・ソーシャルワークの意義・役割とその基盤となる価値規範・倫理を、他者に共感しながら地域など身近な環境で実践することができる。(方法・態度)

□	表題	学習内容						
1回	授業の進め方 社会福祉士及び精神保健福祉士 の法的位置づけ	授業計画、授業方法、予習・復習、成績の評価基準・方法等を知る 社会福祉士及び介護福祉士の定義 義務法制度成立の背景 法制度見直しの背景 【予習】テキストの該当する部分を読む 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。						
2回	社会福祉士及び精神保健福祉士の法的位置づけ②	法制度見直しの背景 社会福祉士に求められる専門性 【予習】テキストの該当する部分を読む 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。						
3回	社会福祉士及び精神保健福祉士 の法的位置づけ③	精神保健福祉士の定義 義務法制度成立の背景 法制度見直しの背景 【予習】テキストの該当する部分を読む 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。						
4日	社会福祉士及び精神保健福祉士 の法的位置づけ④	社会福祉士 精神保健福祉士の専門性 事例 【予習】テキストの該当する部分を読む 【復習】事例を読み、考察したことをノートにまとめる。						
5 回	ソーシャルワークの概念	ソーシャルワーク専門職のグローバル定義 【予習】テキストの該当する部分を読む 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。						
6 回	<u>ソーシャルワークの基盤となる</u> <u>考え方①</u>	ソーシャルワークの原理(社会正義 人権の尊重) 【予習】テキストの該当する部分を読む 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。						
7 回	<u>ソーシャルワークの基盤となる</u> <u>考え方②</u>	ソーシャルワークの原理(集団的責任 多様性の尊重) 【予習】テキストの該当する部分を読む 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。						
8回	<u>ソーシャルワークの基盤となる</u> <u>考え方③</u>	ソーシャルワークの理念(当事者主権 尊厳の保持 権利擁護) 【予習】テキストの該当する部分を読む 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。						
9回	<u>ソーシャルワークの基盤となる</u> <u>考え方④</u>	ソーシャルワークの理念 (自立支援 ソーシャルインクルージョン ノーマライゼーション)【予習】テキストの該当する部分を読む 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。						
10回	<u>ソーシャルワークの形成過程</u> ①	慈善組織協会 【予習】テキストの該当する部分を読む 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。						
11回	<u>ソーシャルワークの形成過程</u> ②	セツルメント 【予習】テキストの該当する部分を読む 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。						

12回	ソーシャルワークの形成過程 ③	医学モデルから生活モデルへ ソーシャルワークの統合化 【予習】テキストの該当する部分を読む 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
13回	ソーシャルワークの倫理①	専門職倫理の概念,必要性 【予習】テキストの該当する部分を読む 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
14回	ソーシャルワークの倫理②	ソーシャルワーカーの倫理綱領 社会福祉士の倫理綱領 精神保健福祉士の倫理綱領 【予習】テキストの該当する部分を読む 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
15回	ソーシャルワークの倫理③	倫理的ジレンマ 事例 【予習】テキストの該当する部分を読む 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。

本科目は、講義科目(2単位)ですので、授業時間以外に60時間の授業外学習が必要となります。 学習内容に記載された予習・復習を実践して内容の理解を深めてください。

成績評価の方法・基準 (%表記)

成績評価の基準

評価項目	S	A	В	С	D
①社会福祉士法的な位置づけ、意義や役割の理解 ②ソーシャルワークの基盤となる考え方とその形成過程の理解 ③ソーシャルワークの価値規範と倫理についての習熟度	完全にない しほぼ完全 に到達目標 を達成して いる	若干不十分 な点は認め られるも連成 の、到達成し でいる	不十分な点 は認めのの、 到達はしてい る	到達目標の 最低限を達 成している	到達目標を達成していない
100点法	100点~90 点	89点~80 点	79点~70 点	69点~60点	59点以下

授業内課題(学習内容の要約や専門用語を適切に説明できるかを確認する課題)50% 定期試験(レポート試験)(福祉専門職の知識や支援方法についての自らの考えを表明できる)50%

教科書

日本ソーシャルワーク教育学校連盟編著 『ソーシャルワークの基盤と専門職[共通・社会専門]』 中央法 規出版 2021 年 3,190 円

参考図書

・ミネルヴァ書房編集部 『社会福祉小六法 2025』 ミネルヴァ書房 2023 年 1,980 円

履修上の注意・学習支援

- ・授業中は学生の皆さんが、授業の環境を良くするようお互い心配りをして受講すること。
- ・テキスト・配付したレジュメ・筆記用具等授業で必要な物は必ず持参すること。
- ・疑問があれば、オフィスアワーを利用すること(事前予約のうえ、時間を設定する)。

オフィスアワー

疑問があれば、オフィスアワーを利用すること。事前予約(katsuura@ujc.ac.jp) のうえ、時間を設定する。 具体的な時間帯は追って指示する。

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
21H1SE22	ソーシャルワーク 演習	1年	前期	演習	1	宮脇文恵

援助のために不可欠である自己覚知、基本的なコミュニケーション技術、基本的な面接技術、ソーシャルワークの展開過程、ソーシャルワークの記録、グループダイナミクス、プレゼンテーション技術などを学ぶ。本科目を学ぶことを通して、ソーシャルワーカーに係わる基礎的な専門的知識、技術・方法、態度を身につけ、職業人として、他者に共感し、倫理性をもって地域に貢献できる力を身につける。授業は、個別学習並びに集団学習を通して、具体的な援助場面を想定した実技(ロールプレイング等)を中心とする演習形態によって、行われる。

到達目標 (学習の成果)

- 1. ソーシャルワークの知識と技術に係る他の科目との関連性を確認しつつ、社会福祉士として求められる基礎的な能力を身につける。(知識・方法・態度)
- 2. ソーシャルワークの価値規範と倫理を実践的に理解し、援助の現場で活かすことができるようになる。(知識・方法・態度)
- 3. ソーシャルワークの実践に必要なコミュニケーション能力を学び、援助の現場で実践できるようになる。 (方法・態度)
- 4. ソーシャルワークの展開過程において用いられる知識と技術を実践的に理解し、援助の現場で用いて、活かすことができるようになる。(知識・方法・態度)

口	表題	学習内容
1回	学習の進め方 ソーシャルワークとは	授業計画、授業方法、予習・復習、成績の評価基準・方法等を知る。 ソーシャルワーカーとして、相談援助を学ぶ意義について理解する。 ソーシャルワークの枠組みについて、学ぶ。 【予習】新聞やインターネットなどで、「ソーシャルワーク」について 取り上げている記事を1つ以上読んでおく。 【復習】資料によって授業を振り返り、学びとなったことを記録する。
2回	自己覚知①	「自分」と「他者」を理解する。ワーカーとしての自己と、個人としての自己を理解する。 【予習】自分がこれまで困ったことがあった時に、他者に相談した体験について、自分の気持ちと当時の状況について、400 字以上でまとめておく。 【復習】資料によって授業を振り返り、学びとなったことを記録する。
3日	自己覚知②	「他者」の気持ち・状態を理解する。自己理解と他者理解を踏まえた援助関係について考察する。受容と共感について、学ぶ。 【予習】第2回授業の予習でとりあげた自分の事例について、相談相手の気持ちと当時の状況について、400字以上でまとめておく。 【復習】資料によって授業を振り返り、学びとなったことを記録する。
4日	<u>基</u> 本的なコミュニケーショ <u>ン技術</u> ①	言語的技術(質問,促し,言い換え,感情の反映,繰り返し,要約など)を演習を通して,理解する。 【予習】自分の普段の生活の中で、他者の相談に乗るときに、会話の中でどのようなことを意識しているか、400字以上でまとめておく。 【復習】資料によって授業を振り返り、学びとなったことを記録する。
5回	基本的なコミュニケーション技術②	非言語技術(表情,態度,身振り,位置取り等)を演習を通して,理解する。 【予習】自分の普段の生活の中で、他者の相談に乗るときに、音声言語以外でどのようなことを意識しているか、400字以上でまとめておく。 【復習】資料によって授業を振り返り、学びとなったことを記録する。
6 回	基本的な面接技術①	構造化された面接について、演習を通して、理解する。 【予習】新聞やインターネットなどで、各種相談所などにおける面接

		,
		について取り上げている記事を1つ以上読んでおく。
		【復習】資料によって授業を振り返り、学びとなったことを記録する。
		面接の場の設定(面接室,生活場面,自宅等)について,演習を通して,理解する。
		面接のためのツールの活用(電話, e-mail 等)について, 面接の場の設
7回	基本的な面接技術②	定(面接室, 生活場面, 自宅等)について, 演習を通して, 理解する。
		【予習】新聞やインターネットなどで、各種相談所以外における面接
		について取り上げている記事を1つ以上読んでおく。
		【復習】資料によって授業を振り返り、学びとなったことを記録する。
		「ケースの発見」,「インテーク」,「アセスメント」,「プランニング」,
		「支援の実施」、「モニタリング」、「支援の終結と事後評価」、「アフタ
	ソーシャルワークの展開過	ーケア」について学ぶ。
8回	程①	【予習】新聞やインターネットなどで、福祉的な関わりについて取り
	<u></u> -	上げている記事を1つ以上読み、その流れについて意識しておく。
		【復習】資料によって授業を振り返り、学びとなったことを記録する。
		事例を用いて、ソーシャルワークの展開過程を学ぶ。
		【予習】前回予習で取り上げた以外の、福祉的な関わりについて取り
9回	ソーシャルワークの展開過	上げている記事を1つ以上読み、第8回授業に照合して援助の流れを
	<u>程</u> ②	意識しておく。
		【復習】資料によって授業を振り返り、学びとなったことを記録する。
		ソーシャルワークの記録の意義と目的,記述の方法について学ぶ。
		【予習】この授業における自分の授業記録について、どのようなこと
10 回	<u>ソーシャルワークの記録</u> ①	を意識して記録しているか、200字以上でまとめてくる。
		を思慮して記録しているが、200 子以上でまとめてくる。 【復習】資料によって授業を振り返り、学びとなったことを記録する。
		支援経過の把握と管理について、理解する。
		【予習】新聞やインターネットなどで、福祉的な援助の記録について
11 回	ソーシャルワークの記録②	取り上げている記事を1つ以上読んでおく。
		【復習】資料によって授業を振り返り、学びとなったことを記録する。
		グループワークの意義と目的を理解し、グループワークの構成(グルー
	グループダイナミクスの活	プリーダー・コリーダー・グループメンバー)について、学ぶ。
12 回	用①	【予習】自分の生活において、集団ならではのメリットやデメリット
	. <u></u> .	について体験したことを、400字以上でまとめておく。
		【復習】資料によって授業を振り返り、学びとなったことを記録する。 グループワークの展開過程(準備期・開始期・作業機・終結期)につい
		フループラークの展開過程(幸福朔・開始朔・下来機・終福朔/につい て、事例を用いて学ぶ。
	<u>グループダイナミクスの活</u>	【予習】第12回授業の予習で取り上げた自分の事例について、その取
13 回	<u>用</u> ②	り組みの流れについて、状況が進行するポイントを意識して、200 字
		以上でまとめ直す。
		【復習】資料によって授業を振り返り、学びとなったことを記録する。
		個人プレゼンテーションとグループプレゼンテーションについて、事
		例を用いて理解する。
14 回	プレゼンテーション技術①	【予習】自分がこれまで行ったことがあるプレゼンテーションについ
		て、5W1H を盛り込んで 400 字以上でまとめておく。 【復習】次約によって極業な振り返り、 学びよなったことな記録する
		【復習】資料によって授業を振り返り、学びとなったことを記録する。 個人プレゼンテーションとグループプレゼンテーションについて、演
		習を通して、理解する。
15 回	プレゼンテーション技術②	【予習】新聞やインターネットなどで、有名なプレゼンテーションを
		1つ以上読んでおく。
		【復習】資料によって授業を振り返り、学びとなったことを記録する。
準備学	習(予習・復習について)	

本科目は、演習科目ですので、授業時間(30 時間)と準備学習時間(15 時間)の合わせて 45 時間の学習時間が必要になります。

- 1. 自分の普段の生活の中で、自分を見つめ、人と人との関係性について気づき、考えるようにする。
- 2. 自分と他者との間のコミュニケーションについて、気づきを得るようにする。
- 3. 映像視聴課題, 資料を読むなどの課題に取り組む。
- 4. 授業における学びを、自分の生活に活かしていこうとすること。

成績評価の方法・基準

成績評価の基準

評価項目	S	A	В	С	D
①ソーシャルワーカーとし	完全にない	若干不十分	不十分な点	到達目標の	到達目標を
て、自己覚知の意義を理解	しほぼ完全	な点は認め	は認められ	最低限を達	達成してい
する	に到達目標	られるもの	るものの、	成している	ない
②コミュニケーションの意	を達成して	の、到達目	到達目標を		
味の理解と、技術の習熟	いる	標を達成し	達成してい		
③ソーシャルワークの展開		ている	る		
過程への理解					
④グループワークの意義と					
目的を理解し、技術を身に					
着ける					
100 点法	100 点~90	89 点~80	79 点~70	69 点~60	59 点以下
	点	点	点	点	

成績評価の方法・基準 (%表記)

- ① 授業内課題(単元ごとに、ソーシャルワークの意義と目的、その技術への理解を記述する)30%
- ② 事例に対する小レポート (ソーシャルワーカーとして、どう考え、どう自らに活かすかを記述する) 20%
- ③ 定期試験(レポート)(授業で学んだソーシャルワークの意義と目的への理解、その技術の活用に関して適切に記述する)50%

教科書

使用しない。授業において、適宜資料を配布する。視聴覚教材を多用する。

参考書等

ミネルヴァ書房編集部『社会福祉小六法 2024』ミネルヴァ書房 2023年 1980円 (税込)

履修上の注意・学習支援

- ・授業において、ディスカッションやロールプレイなどは、積極的な参加をすること。
- ・視聴覚教材の視聴の際には、メモを取りながら観ること。

オフィスアワー

- ・質問等があれば、オフィスアワーを利用すること。
- ・担当教員との連絡方法は、授業時に提示する。

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
21 HS2SE23	地域福祉と包括的 支援体制 I	2 年	前期	講義	2	小野 篤司

地域福祉の基本的な考え方として、地域福祉の概念、理論、歴史、動向や、地域福祉の推進主体と主体形成について基礎的な理解を深める。ケアリングコミュニティの構築に向けてソーシャルワーカーに係わる専門的知識、方法、態度を理解し、他者に共感し、倫理性をもって、地域の課題を解決する知識、方法を学ぶ。

到達目標(学習の成果)

- 1. 地域福祉の基本的考え方を理解し、地域福祉のあり方を説明できる。 (知識)
- 2. 地域福祉の推進主体と主体形成の方法を理解し説明できる。 (知識)
- 3. 地域生活課題の変化と現状を踏まえ、誰もが住み慣れた地域で安心して生活できるコミュニティの実現に向けて、ソーシャルワーカーに係わる知識・方法・態度を理解し、自分の意見を言えるようになる。(知識、方法、態度)

	5					
回	表題	学習内容				
1回	授業の進め方 地域福祉の基本的な考え方 (1)	授業計画、授業方法、予習・復習・成績評価の方法等を理解する。 地域福祉の概念、地域福祉の構造と機能を理解する。 【予習】テキストの該当する部分を読んで理解する 【復習】授業で学んだ内容等を理解しまとめる				
2回	地域福祉の基本的な考え方(2)	地域福祉の理論について、福祉コミュニティ論、在宅福祉サービス 論、ボランティア・市民活動論、共生社会の考え方を理解する。 【予習】テキストの該当する部分を読んで理解する 【復習】授業で学んだ内容等を理解しまとめる				
3回	地域福祉の動向①	地域福祉の動向について、ケアリングコミュニティを理解する。 【予習】テキストの該当する部分を読んで理解する 【復習】授業で学んだ内容等を理解しまとめる				
4回	地域福祉の動向②	地域福祉の動向について、コミュニティソーシャルワークを理解する。 【予習】テキストの該当する部分を読んで理解する 【復習】授業で学んだ内容等を理解しまとめる				
5 回	地域福祉の推進主体①	地域福祉における当事者と当事者団体について理解する。 【予習】テキストの該当する部分を読んで理解する 【復習】授業で学んだ内容等を理解しまとめる				
6 回	地域福祉の推進主体②	町内会・自治会等地縁組織について理解する。 【予習】テキストの該当する部分を読んで理解する 【復習】授業で学んだ内容等を理解しまとめる				
7 回	地域福祉の推進主体③	地域福祉におけるボランティア・市民活動と NPO、市民活動組織、中間支援組織について理解する。 【予習】テキストの該当する部分を読んで理解する 【復習】授業で学んだ内容等を理解しまとめる				
8回	地域福祉の推進主体④	民生委員、児童委員、主任児童委員、保護司について理解する。 【予習】テキストの該当する部分を読んで理解する 【復習】授業で学んだ内容等を理解しまとめる				
9 回	地域福祉の推進主体⑤	社会福祉協議会について理解する。 【予習】テキストの該当する部分を読んで理解する				

		【復習】授業で学んだ内容等を理解しまとめる
10回	地域福祉の推進主体⑥	社会福祉法人、企業、コミュニティサービス、地域再生について理解する。 【予習】テキストの該当する部分を読んで理解する 【復習】授業で学んだ内容等を理解しまとめる
11回	地域福祉の主体と形成①	参加と協働、エンパワメント、アドボカシーについて理解する。 【予習】テキストの該当する部分を読んで理解する 【復習】授業で学んだ内容等を理解しまとめる
12回	地域福祉の主体と形成②	地域福祉の主体形成と福祉教育について理解する。 【予習】テキストの該当する部分を読んで理解する 【復習】授業で学んだ内容等を理解しまとめる
13回	地域福祉の主体と形成③	福祉教育の実践について理解する。 【予習】テキストの該当する部分を読んで理解する 【復習】授業で学んだ内容等を理解しまとめる
14回	地域福祉の展開①	地域福祉の歴史について、欧米における地域福祉の源流を理解する。 【予習】テキストの該当する部分を読んで理解する 【復習】授業で学んだ内容等を理解しまとめる
15回	地域福祉の展開②	地域福祉の歴史について、日本の戦前における地域福祉の源流と戦後の地域福祉の発展を理解する。 【予習】テキストの該当する部分を読んで理解する 【復習】授業で学んだ内容等を理解しまとめる

本科目は、講義科目(2単位)ですので、授業時間90分以外に60時間の授業外学習が必要になります。 学習内容に記載された予習・復習を実践して内容の理解を深めてください。

成績評価の基準・方法

評価項目	S	A	В	С	D
1. 地域福祉の基本的考え方の理解	完全にない	若干不十分	不十分な点	到達目標の	到達目標を
2. 地域福祉の推進主体と主体形成の	しほぼ完全	な点は認め	は認められ	最低限を達	達成してい
方法の理解	に到達目標	られるもの	るものの、	成してい	ない。
3. 地域生活課題の変化と現状を踏ま	を達成して	の、到達目	到達目標を	る。	
え、誰もが住み慣れた地域で安心し	いる。	標を達成し	達成してい		
て生活できるコミュニティの実現に		ている。	る。		
向けて、ソーシャルワーカーに係わ					
る知識・方法・態度の理解					
100点法	90点以上	80点以上	70点以上	60点以上	59点以下

・定期試験(筆記試験)100%

教科書

・川村匡由編著『入門 地域福祉と包括的支援体制』ミネルヴァ書房、2021 年 (3,080円)

参考書等

- ・井村圭壯・相澤譲治編著『地域福祉の原理と方法 第 3 版』学文社, 2019 年 (2420円)
- ・西尾敦史著『横浜発助けあいの心がつむぐまちづくり』ミネルヴァ書房,2017年(1980円)
- ・豊中市社会福祉協議会『セーフティネット コミュニティソーシャルワーカーの現場』筒井書房 (880円)
- ・清成忠男監修『人生 100 年時代の地域ケアシステムー三鷹市の地域ケア実践の検証を通して』ぶんしん出版, 2019 年 (1650円)
- ・川村匡由編著『市町村合併と地域福祉』ミネルヴァ書房、2007 年 (4400円)
- ・コミュニティソーシャルワーク実践研究会「コミュニティソーシャルワークと社会資源開発」全国コミュニティライフサポートセンター、2014 年 (1320円)

- ・上野谷加代子・原田正樹監修『新・福祉教育実践ハンドブック』全国社会福祉協議会、2014年(1980円)
- ・川村匡由編著『福祉ライブラリ 相談援助』建帛社,2018 年 (2970円)

履修上の注意・学習支援

- ・授業に必要のない私語は慎むこと。
- ・質問等があれば、オフィスアワーなどを利用すること。

オフィスアワー

疑問があれば、オフィスアワーを利用すること(事前予約 ono@ujc.ac.jp のうえ、時間を設定する)。具体的な時間帯は追って指示する。

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
21 H S2SE24	地域福祉と包括的 支援体制Ⅱ	2 年	後期	講義	2	小野 篤司

福祉行財政の実施体制や福祉計画の意義や策定と運用、包括的支援体制の整備および多機関協働など具体的なしくみや方法について理解を深めるとともに、地域社会の変化と多様で複雑な地域生活課題の現状やニーズ、災害等の非常時、緊急時における包括的な支援の課題等を理解し、地域の中の様々な文化や価値観を背景とする人々と相互に尊重し合いながら共生する社会の実現に向けて、ソーシャルワーカーに係わる専門的知識、方法、態度を理解し、他者に共感し、倫理性をもって、地域の課題を解決する知識、方法を学ぶ。

到達目標(学習の成果)

- 1. 地域福祉を推進するための 福祉行財政システムや地域福祉計画をはじめとした福祉計画の意義・目的及び展開方法を理解し説明できる。(知識)
- 2. 包括的支援体制の考え方と、多職種および 多機関協働の意義と実際を理解し説明できる。(知識)
- 3. 地域生活課題の変化と現状および、ソーシャルワーカーに係わる方法、態度を理解し、誰もが住み慣れた地域で安心して生活できるコミュニティの実現、課題解決について、自分の意見を言えるようになる。(方法・態度)

回	表題	学習内容
1 回	授業の進め方 福祉行財政システム	授業計画、授業方法、予習・復習・成績評価の方法等を理解する。 国、都道府県、市町村の役割、国と地方の関係、福祉行政の組織および専門職の役割について理解する。 【予習】テキストの該当する部分を読んで理解する 【復習】授業で学んだ内容等を理解しまとめる
2回	福祉計画の意義と種類①	福祉計画の意義・目的と展開、福祉における財源について理解する。 【予習】テキストの該当する部分を読んで理解する 【復習】授業で学んだ内容等を理解しまとめる
3回	福祉計画の意義と種類②	市町村地域福祉計画・都道府県地域福祉支援計画の内容、地域福祉活動計画との関係について理解する。 【予習】テキストの該当する部分を読んで理解する 【復習】授業で学んだ内容等を理解しまとめる
4回	福祉計画の策定と運用	地域福祉計画の策定過程と方法、福祉計画の実施と評価について理解する。 【予習】テキストの該当する部分を読んで理解する 【復習】授業で学んだ内容等を理解しまとめる
5 回	地域社会の変化と多様化複雑 化した地域生活課題①	地域社会の概念と理論、地域社会の変化について理解する。 【予習】テキストの該当する部分を読んで理解する 【復習】授業で学んだ内容等を理解しまとめる
6 回	地域社会の変化と多様化複雑 化した地域生活課題②	多様化・複雑化した地域生活課題の現状とニーズについて理解する。 【予習】テキストの該当する部分を読んで理解する 【復習】授業で学んだ内容等を理解しまとめる
7 回	地域社会の変化と多様化複雑 化した地域生活課題③	地域福祉と社会的孤立、社会的排除について理解する。 【予習】テキストの該当する部分を読んで理解する 【復習】授業で学んだ内容等を理解しまとめる
8回	地域共生社会の実現に向けた 包括的支援体制①	包括的支援体制の考え方、地域包括ケアシステムについて理解する。 【予習】テキストの該当する部分を読んで理解する

		【復習】授業で学んだ内容等を理解しまとめる
9回	地域共生社会の実現に向けた 包括的支援体制②	生活困窮者自立支援法の考え方、地域共生社会の実現に向けた各種施策について理解する。 【予習】テキストの該当する部分を読んで理解する 【復習】授業で学んだ内容等を理解しまとめる
10回	地域共生社会の実現に向けた 包括的支援体制③	包括的支援体制の整備、重層的支援体制整備事業について理解する。 【予習】テキストの該当する部分を読んで理解する 【復習】授業で学んだ内容等を理解しまとめる
11回	地域共生社会の実現に向けた多機関協働①	多機関協働を促進する仕組み、他職種連携について理解する。 【予習】テキストの該当する部分を読んで理解する 【復習】授業で学んだ内容等を理解しまとめる
12回	地域共生社会の実現に向けた 多機関協働②	福祉以外の分野との機関協働の実際について理解する。 【予習】テキストの該当する部分を読んで理解する 【復習】授業で学んだ内容等を理解しまとめる
13回	災害時における総合的かつ包 括的な支援①	非常時や災害時における法制度について理解する。 【予習】テキストの該当する部分を読んで理解する 【復習】授業で学んだ内容等を理解しまとめる
14回	災害時における総合的かつ包 括的な支援②	非常時や災害時における総合的かつ包括的な支援について理解する。 【予習】テキストの該当する部分を読んで理解する 【復習】授業で学んだ内容等を理解しまとめる
15回	地域福祉と包括的支援体制の 課題と展開	地域福祉ガバナンス、地域共生社会の構築と課題について理解する。 【予習】テキストの該当する部分を読んで理解する 【復習】授業で学んだ内容等を理解しまとめる

本科目は、講義科目(2単位)ですので、授業時間90分以外に60時間の授業外学習が必要になります。 学習内容に記載された予習・復習を実践して内容の理解を深めてください。

成績評価の基準・方法

評価項目	S	A	В	С	D
1. 地域福祉を推進するための福祉行	完全にない	若干不十分	不十分な点	到達目標の	到達目標を
財政システム や地域福祉計画をはじ	しほぼ完全	な点は認め	は認められ	最低限を達	達成してい
めとした福祉計画の意義・目的及び展	に到達目標	られるもの	るものの、	成してい	ない。
開方法の理解	を達成して	の、到達目	到達目標を	る。	
2. 包括的支援体制の考え方と、多職	いる。	標を達成し	達成してい		
種および多機関協働の意義と実際の理		ている。	る。		
解					
3. 地域生活課題 の変化と現状を踏ま					
え、誰もが住み慣れた地域で安心して					
生活できるコミュニティの実現に向け					
て、ソーシャルワーカーに係わる方					
法、態度の理解					
100点法	90点以上	80点以上	70点以上	60点以上	59点以下

- ・定期試験(筆記試験) 80%
- ・授業内課題(レポート課題)20%

教科書

・川村匡由編著『入門 地域福祉と包括的支援体制』ミネルヴァ書房,2021 年 (3,080円)

参考書等

- ・井村圭壯・相濹譲治編著『地域福祉の原理と方法 第 3 版』学文社、2019 年 (2420円)
- ・西尾敦史著『横浜発助けあいの心がつむぐまちづくり』ミネルヴァ書房,2017年(1980円)
- ・豊中市社会福祉協議会『セーフティネット コミュニティソーシャルワーカーの現場』筒井書房(880円)
- ・清成忠男監修『人生 100 年時代の地域ケアシステムー三鷹市の地域ケア実践の検証を通して』ぶんしん出版,2019 年(1650円)
- ・川村匡由編著『市町村合併と地域福祉』ミネルヴァ書房、2007 年(4400円)
- ・コミュニティソーシャルワーク実践研究会「コミュニティソーシャルワークと社会資源開発」全国コミュニティライフサポートセンター、2014 年 (1320円)
- ・上野谷加代子・原田正樹監修『新・福祉教育実践ハンドブック』全国社会福祉協議会、2014年(1980円)
- ・川村匡由編著『福祉ライブラリ 相談援助』建帛社,2018 年(2970円)

履修上の注意・学習支援

- ・授業に必要のない私語は慎むこと。
- ・質問等があれば、オフィスアワーなどを利用すること。

オフィスアワー

疑問があれば、オフィスアワーを利用すること(事前予約 ono@ujc.ac.jp のうえ、時間を設定する)。具体的な時間帯は追って指示する。

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
21 H S2SE25	福祉サービスの組織と 経営	2 年	前期	講義	2	塩澤 達俊

福祉専門職として福祉の基礎とその意義を理解するために、福祉サービスを提供する組織にはどのようなものがあり、それがどのように経営されているのか、また福祉の組織と経営には何が求められるのかを学ぶとともに、より質の高い福祉サービスを提供するための組織と人間のあり方を学ぶ。

授業の進め方は、教科書の単元(章)ごとに進める。また、グループワークなどアクティブ・ラーニングを多用する。

到達目標(学習の成果)

- 1. 社会福祉サービスを提供する組織の種類とその活動内容について説明することができる。(知識)
- 2. 福祉組織の維持・管理法と、より質の高い組織を目指す手法について述べることができる。(知識・方法)
- 3. 組織において質の高い能力を発揮するために必要な専門職のスキルについて述べることができる。 (技術・方法)

旦	表題	学習内容
1 回	授業の進め方 福祉サービスに係る組織や団体 の概要と役割①	授業計画、授業方法、予習・復習・成績評価の方法等を理解する。 福祉サービスの沿革と概況 福祉サービスの歴史 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
2 回	福祉サービスに係る組織や団体の概要と役割②	福祉サービスを提供する組織① 社会福祉施設の現状や推移 各種法人の特性・非営利法人、営利法人 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
3日	福祉サービスに係る組織や団体の概要と役割③	福祉サービスを提供する組織② 特定非営利活動法人の概要、管理運営の基本、活動の現状について学 ぶ。 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
4 回	福祉サービスに係る組織や団体の概要と役割④	福祉サービスを提供する組織③ ・医療法人・公益法人・一般社団法人・株式会社・福祉サービスと連携するその他の法人・法人格を有しない団体(ボランティア団体)等など、福祉関係の組織や団体について学ぶ。 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
5 回	福祉サービスに係る組織や団体の概要と役割⑤	組織間連携と促進 公益的活動の推進・多機関協働・地域連携、地域マネジメント 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
6 回	福祉サービスの組織と運営に係る基礎理論①	組織運営に関する基礎理論 福祉サービスの組織と戦略について学ぶ。 組織運営の基礎・組織における意思決定・問題解決の思考と手順 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。

7回	福祉サービスの組織と運営に係る基礎理論②	集団の力学に関する基礎理論 チームアプローチと集団力学・チームの機能と構成 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
8回	福祉サービスの組織と運営に係る基礎理論③	リーダーシップに関する基礎理論 リーダーシップ、フォロワーシップ・リーダーの機能と役割 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
9回	福祉サービス提供組織の経営と 実際	経営体制・理事会、評議会等の役割 経営戦略、事業計画・マーケティング 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
10回	福祉サービス提供組織の経営と 実際②	福祉サービス提供組織のコンプライアンスとガバナンス 社会的ルールの遵守 ・説明責任の遂行・業務管理体制、内部管理体制の整備・権限委譲と 責任のルール化自己評価や第三者評価の実際について学ぶ。 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
11回	福祉サービス提供組織の経営と 実際③	適切な福祉サービスの管理 品質マネジメントシステム・PDCA と SDCA 管理サイクル・リスクマネジメント体制・権利擁護制度と苦情解決体制・福祉サービスの質と評価 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
12回	福祉サービス提供組織の経営と 実際④	情報管理・個人情報保護法・公益情報保護法・情報公開、パブリックリレーションズ会計管理と財務管理自・主財源、寄付金、各種制度に基づく報酬・資金調達、ファンドレイジング・資金運用、利益管理 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
13回	福祉人材のマネジメント①	福祉人材の育成・OJT、OFF-JT、SDS・職能別研修と階層別研修・スーパービジョン体制・キャリアパス 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
14回	福祉人材のマネジメント②	福祉人材マネジメント・目標管理制度・人事評価システム・報酬システム テム 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
15回	福祉人材のマネジメント③	働きやすい労働環境の整備・労働三法及び労働関係法令・育児休業、 介護休業 等・メンタルヘルス対策・ハラスメント対策 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。

本科目は、講義科目(2単位)ですので、準備学習60時間が必要になります。

授業計画で示された教科書の範囲を読み込むこと。 学習内容に示された「アクティブ・ラーニング」項目について自分なりに考えて講義に臨むこと。 また、配布された補助教材を参照すること。

成績評価の基準・方法

評価項目	S	A	В	С	D
1. 福祉サービス提供組織と他の一般組	完全にない	若干不十分	不十分な点	到達目標の	到達目標を
織との相違について理解できた。	しほぼ完全	な点は認め	は認められ	最低限を達	達成してい
2. 効果的な組織運営についてモチベー	に到達目標	られるもの	るものの、	成してい	ない。
ションの観点から理解ができた。	を達成して	の、到達目	到達目標を	る。	
3. 福祉サービス提供の今日的潮流につ	いる。	標を達成し	達成してい		
いて知見が得られた。		ている。	る。		
100点法	90点以上	80点以上	70点以上	60点以上	59点以下

- ・定期試験 (レポート試験) 55 %
- ・授業内課題 (3回) 45 %

教科書

一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟 編『最新・社会福祉士養成講座』 1 福祉サービスの組織と経営中央央法規出版、2021年、2750円

参考書等

履修上の注意・学習支援

人間はなぜ福祉を行うのか?そのために福祉の組織と経営には何が求められるのか?をテーマとします。

オフィスアワー

質問や疑問などあれば、オフィスアワー(原則, 講義終了後 15 分間程度, 1号館1階「講師教員センター」) にてお受けします。

実務経験の概要

社会福祉法人(とちぎYMCA福祉会)、学校法人(学校法人宇都宮YMCA学園)、公益財団法人(とちぎYMCA)の各法人業務執行責任者(常務理事)として、法人運営、各事業(保育園、認定子ども園、介護保険事業、宇都宮市指定管理者事業など)の経営統括(2015年度より)を行っております。

実務経験と科目との関連性

社会福祉法人と福祉事業の運営管理、経営などの実際、現場の様子など実務経験に基づく教材を提供しております。

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
21 HS2SE26	貧困に対する支援	2 年	前期	講義	2	船水 浩行

- ・低所得階層の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉需要とその実際について理解する。
- ・相談援助活動において必要となる生活保護制度や生活保護制度に係る他の法制度について理解する。
- ・自立支援プログラムの意義とその実際について理解する。

「公的扶助≒生活保護」は、社会福祉、社会保障のもっとも基底的課題である貧困の救済を目的とする。貧困 状態(自らの力で自分自身や家族の生活を支えられない依存状態)にある人々に対する援助である扶助が、国 等の公的団体により社会的扶養制度として実施されるものである。基底的な部分で国民の生活を守る「最終的 な手だて」ということができる。本科目では、この「公的扶助」のあり方を左右する貧困認識のプロセスをお さえながら、公的扶助の理念と制度がどのように展開してきたかをふまえた上で、現代社会における公的扶助 の意義と役割はどのような点にあるのか、わが国において代表的な公的扶助制度とされる生活保護制度の現状 と課題はどのような点にあるのか、昨今の「地方分権」「社会保障構造改革」「社会福祉基礎構造改革」等の中 で今後の方向性はどのようにあるべきかを中心に考察していく。

到達目標(学習の成果)

- □公的扶助の理念とその史的発展について理解する。
- □現代における公的扶助の意義について理解する。
- □わが国における生活保護制度の仕組みと動向、さらに課題点について理解する。
- □低所得階層の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉需要とその実際について理解する。
- □相談援助活動において必要となる生活保護制度や生活保護制度に係る他の法制度について理解する。
- □自立支援プログラムの意義とその実際について理解する。

旦	表題	学習内容
1回	授業の進め方貧困の概念	・授業計画、授業方法、予習・復習、成績の評価基準・方法等を知る ・貧困の概念(絶対的貧困、相対的貧困、社会的排除、社会的孤立 等) ・公的扶助の意義と範囲(狭義、広義) 【予習】このシラバスを精読してくる 【復習】配布資料等を参考に復習課題に取り組む
2 回	貧困状態にある人の生活実態と これを取り巻く社会環境	・貧困状態にある人の生活実態(健康、居住、就労、教育、社会関係資本) ・貧困状態にある人を取り巻く社会環境(経済構造の変化 家族・地域の変化、格差の拡大、社会的孤立) 【予習】配布資料を精読してくる 【復習】配布資料等を参考に復習課題に取り組む
3回	貧困の歴史①	・貧困様態にある人に対する福祉の理念(人権の尊重、尊厳の保持、 貧困、格差、差別の解消) ・貧困観の変遷(スティグマ、貧困の測定、貧困の発見) 【予習】配布資料を精読してくる 【復習】配布資料等を参考に復習課題に取り組む
4 回	貧困の歴史②	貧困に対する制度の発展過程(救貧制度、生活保護、ホームレス自立 支援法、生活困窮者自立支援法、子どもの貧困対策の推進に関する法 律) 【予習】配布資料を精読してくる 【復習】配布資料等を参考に復習課題に取り組む
5 回	貧困に対する法制度①	生活保護法 ・生活保護法の原理原則と概要 ・生活保護制度の動向

		・最低生活費と生活保護基準 【予習】配布資料を精読してくる 【復習】配布資料等を参考に復習課題に取り組む
6 回	貧困に対する法制度②	生活保護法 ・福祉事務所の機能と役割、相談支援の流れ、自立支援・就労支援の 考え方と自立支援プログラム ・生活保護施設の役割 【予習】配布資料を精読してくる 【復習】配布資料等を参考に復習課題に取り組む
7回	貧困に対する法制度③	生活困窮者自立支援法 ・生活困窮者自立支援法の理念と概要 ・生活困窮者自立支援制度の動向 ・自律支援支援事業と任意事業 ・生活困窮者自立支援制度における組織と実施体制 ・相談支援の流れ 【予習】配布資料を精読してくる 【復習】配布資料等を参考に復習課題に取り組む
8回	貧困に対する法制度④	低所得者対策 ・生活福祉資金貸付制度 ・無料低額診療所 ・求職者支援制度 ・法律扶助 ・低所得者への住宅政策と住居支援 【予習】配布資料を精読してくる 【復習】配布資料等を参考に復習課題に取り組む
9日	貧困に対する法制度⑤	ホームレス対策 ・ホームレスの自立の支援等に関する特別措置法の概要 ・ホームレスの考え方と動向 ・ホームレス支援施策 【予習】配布資料を精読してくる 【復習】配布資料等を参考に復習課題に取り組む
10回	貧困に対する支援における関係 機関と専門職の役割①	・貧困に対する支援における公私の役割関係(行政の業務、公私の役割関係) ・国の役割、都道府県の役割、市町村の役割 【予習】配布資料を精読してくる 【復習】配布資料等を参考に復習課題に取り組む
11回	貧困に対する支援における関係 機関と専門職の役割②	・福祉事務所の役割(福祉事務所の組織 福祉事務所の役割)・自立相談支援機関の役割(自立相談支援機関の組織 自立相談支援機関の業務)【予習】配布資料を精読してくる【復習】配布資料等を参考に復習課題に取り組む
12回	貧困に対する支援における関係 機関と専門職の役割③	その他の貧困における関係機関の役割 ・社会福祉協議会 ・ハローワーク、地域若者サポートステーション、民間支援団体 【予習】配布資料を精読してくる 【復習】配布資料等を参考に復習課題に取り組む
13回	貧困に対する支援における関係 機関と専門職の役割④	関連する専門職等の役割 ・精神保健福祉士、医師、保健師、看護師、理学療法士、作業療法士 等 ・介護支援専門員、サービス管理責任者等 ・ハローワーク就職支援ナビゲーター等

		・教諭、スクールソーシャルワーカー等 ・弁護士、保護観察官、保護司 等 ・民生委員、児童委員、主任児童委員 ・家族、住民、ボランティア 等 【予習】配布資料を精読してくる 【復習】配布資料等を参考に復習課題に取り組む
14回	貧困に対する支援の実際①	社会福祉士の役割 【予習】配布資料を精読してくる 【復習】配布資料等を参考に復習課題に取り組む
15回	貧困に対する支援の実際②	・生活ほど制度及び生活保護施設における自立支援、就労支援、居住支援 ・生活困窮者自立支援制度における自立支援、就労支援、居住支援 ・生活福祉資金貸付を通じた自立支援 ・多機関及び多職種、住民、企業等との連携による地域づくりや参加 の場づくり 【予習】配布資料を精読してくる 【復習】配布資料等を参考に復習課題に取り組む

本科目は、講義科目(2単位)ですので、授業時間30時間と準備学習60時間が必要になります。

- ・原則として、各回の学習内容に示した部分に関する資料を事前配布するので、予め読んでまとめてくること。
- ・授業内容に係る復習課題を提示するので、これを利用して復習すること。
- ・生活保護法と社会福祉法を参照できるようにしておくこと。

成績評価の基準・方法

評価項目	S	A	В	С	D
1. 低所得階層の生活実態とこれを取	完全にない	若干不十分	不十分な点	到達目標の	到達目標を
り巻く社会情勢、福祉需要とその実際	しほぼ完全	な点は認め	は認められ	最低限を達	達成してい
について理解する。	に到達目標	られるもの	るものの、	成してい	ない。
	を達成して	の、到達目	到達目標を	る。	
2. 相談援助活動において必要となる生	いる。	標を達成し	達成してい		
活保護制度や生活保護制度に係る他の		ている。	る。		
法制度について理解する。					
3.					
自立支援プログラムの意義とその実際					
について理解する。					
100点法	90点以上	80点以上	70点以上	60点以上	59点以下

- ・定期試験(筆記試験) 90%・授業内課題等平常点 10%
- 教科書

使用しない

参考書等

『社会福祉士養成講座4 貧困に対する支援』 一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟 中央法規出版 2021年 2,750円

『生活保護手帳 2024年度版』 中央法規出版 2024 2,860円

履修上の注意・学習支援

疑問があれば、オフィスアワーを利用すること。

オフィスアワー

原則,講義終了後15分間程度,1号館1階「講師教員センター」で行う。事前予約することが望ましい。

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
21 HS2SE27	刑事司法と福祉	2年	後期	講義	2	岩原 俊行

刑事事件を犯し、刑事施設に収容されている障害者や高齢者が福祉支援を必要としている実情を学部と同時に、彼らの更生や社会復帰のためには、どのような支援が必要とされているのかを視聴覚教材を用いて考察し、更生保護に携わる福祉専門職としての基礎知識を学ぶことをめざす。

アクティブラーニングとして、視聴覚教材を通して、自身の考えを発表すると同時に他者の考えに触れ、考え 方などを増やし、深めていく。

到達目標(学習の成果)

- ・刑事司法の現状と課題を把握することを目標とする。犯罪者や非行少年の「更生」だけでなく、犯罪そのものが起きにくい社会づくりを考えることができるようになる。 (知識)
- ・更生保護を中心に、刑事司法・少年司法分野で活動する組織、団体及び専門職について理解することができるようになる。(知識)
- ・刑事司法・少年司法分野の他機関等の連携の在り方について理解し、自身の今後のキャリアを通して、偏見などを持たずに福祉的支援に活かしていく。 (方法・態度)

回	表題	学習内容
1回	授業の進め方 刑事司法における近年の動向と これを取り巻く社会環境	授業計画、授業方法、予習・復習、成績の評価基準・方法等を知る 1 刑事司法における近年の動向 2 刑事司法を取り巻く社会環境 3 社会福祉士及び精神保健福祉士の役割 【予習】テキストの該当する部分を読む 【復習】自分自身でも調べ、実情を知る。
2日	刑事司法	1 刑法 2 刑事事件の手続き, 処遇 【予習】テキストの該当する部分を読む 【復習】刑事事件の流れを確認する。
3回	更生保護制度①	1制度の概要 2生活環境調整 3仮釈放 【予習】テキストの該当する部分を読む 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
4 回	更生保護制度②	4 更生緊急保護 5 恩赦 6 被害者支援 7 更生保護における犯罪予防 活動

		【予習】テキストの該当する部分を読む
		【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
5 回		1 少年法 児童福祉法 2 少年事件の手続き,処遇
	少年司法	【予習】テキストの該当する部分を読む
		【復習】少年事件の流れを確認する。
6 回		1保護観察官 2保護司 3社会復帰調整官の役割について学ぶ。
	更生保護の担い手①	【予習】テキストの該当する部分を読む
		【復習】更生保護についてノートにまとめる。
7 回		1 更生保護施設 民間協力者 (BBS会・協力雇用主 自立準備ホーム等)
	更生保護の担い手②	【予習】テキストの該当する部分を読む
		【復習】更生保護についてノートにまとめる。
8回		制度の概要 審判・処遇の流れと内容
	医療観察制度①	【予習】テキストの該当する部分を読む
		【復習】医療観察制度についてノートにまとめる。
9回		関係機関・専門職等の役割と連携
	医療観察制度②	【予習】テキストの該当する部分を読む
		【復習】医療観察制度についてノートにまとめる。
10回		犯罪被害者支援に関する法及び制度 団体・専門職等の役割と連携
	犯罪被害者支援	【予習】テキストの該当する部分を読む
		【復習】犯罪被害者保護についてノートにまとめる。
11回		急増する高齢犯罪者,孤立した高齢者の居場所
	高齢犯罪者の更生	【予習】テキストの該当する部分を読む
		【復習】高齢犯罪者への福祉の役割についてノートにまとめる。
12回		知的障害の特性について整理する。地域定着支援センターの役割
	累犯知的障害者の地域生活支援	【予習】テキストの該当する部分を読む
		【復習】知的障害犯罪者への福祉の役割について、まとめる。
13回		就労支援を中心に
	事例検討①	【予習】テキストの該当する部分を読む
		【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。

14回		薬物事犯者を中心に
	事例検討②	【予習】テキストの該当する部分を読む
		【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
15回		更生保護分野において期待される社会福祉士の役割
	更生保護分野の社会福祉士	【予習】テキストの該当する部分を読む
		【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。

本科目は、講義科目 2 単位ですので、授業時間 90 分以外に 60 時間の授業外学習が必要になります。授業 外学習方法に記載された予習・復習課題を実践して内容の理解を深めてください。

準備学習として、テレビ、新聞等メディアで報道される事件などに関心を持ち、その背景や原因、予防策について自分なりに考察しておく。

その中でも特に、高齢者や障害者が関係した事件については、福祉的支援についてまで考察を行うこと。

成績評価の基準・方法

評価項目	S	A	В	С	D
1. 刑事司法の現状と課題の理解 2. 更生保護を中心とした各組織, 団体 及び専門職について理解 3. 刑事司法・少年司法分野の他機関等 の連携の在り方について理解	完全にない しほぼ完全 に到達目標 を達成して いる。	若干不は認められるも達している。	不十分な点 は認められ るものの、 到達目標を 達成してい る。	到達目標の 最低限を達 成してい る。	到達目標を 達成してい ない。
100点法	90点以上	80点以上	70点以上	69点以上	59点以下

定期試験 (レポート) 100%

期末レポートのテーマ「罪を犯した障がい者・高齢者に福祉ができること」

教科書

『刑事司法と福祉』、一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟、中央出版、2021年、2,750円(税込) 教員作成レジュメ配布

参考書等

触法障害者や累犯障害者に関する文献や更生保護関係の書籍を読んでおくとよい。

履修上の注意・学習支援

・自分であればどのような支援ができるのかなど主体性を持って授業に参加すること。

オフィスアワー

・疑問があれば、オフィスアワー(原則、講義終了後 15 分間程度、1号館1階「講師教員センター」)を利用すること。

実務経験の概要

4年制大学卒業後、栃木県内の矯正施設にて勤務。矯正施設内において、受刑者への教育業務、面接業務及び 出所時の保護業務を担当する。保護業務では高齢受刑者等の出所時支援を、精神保健福祉士や社会福祉士と共に あたる。

現在は刑事施設での経験を活かし、地域での人との関わり方について事業を展開している。

実務経験と科目との関連性

高齢社会となった日本。高齢者の犯罪は増加し、刑務所の中での処遇の在り方が見直されている。受刑者の中には親族などの関係が疎遠となるなどの理由で、帰る場所のない者が少なくない。こうした者の再犯を防止し、社会復帰を支援するには、刑務所に限らず、支援を必要とする者を医療機関や福祉機関などにつなげる事が重要である。これまでの経験により、刑務所において、福祉や年金に関する基礎的知識の付与、対人スキルの向上等、出所後の生活へのスムーズな適応を目指した指導の充実を図る。

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
21 H S2 SE 28	権利擁護を支える法制度	2 年	後期	講義	2	飯島 惠子

福祉専門職として利用者の自立生活を支える「権利擁護」について学習する意義を念頭に置き、日本国憲法、行政法、民法、成年後見制度、日常生活自立支援事業等の概要を学び、関連する諸制度や社会資源について理解を深め、日常生活上の支援が必要な人に対する権利擁護活動、意思決定支援の実際について学びます。

到達目標(学習の成果)

- ①権利擁護を支える福祉専門職として、権利擁護の概念と関連する法律・制度の概要を理解し、相談援助活動に 求められる法知識について理解する。(知識)
- ②成年後見制度の実際や権利擁護において重要な本人の意思を尊重する意思決定支援、本人の最善の利益について、実践と結び付けて考察することができるようになる。 (知識・態度)
- ③地域で、安心して暮らし続けていくことを支えるために、誰も排除しない、誰も差別されない、共に生き支え合う「地域共生社会」を実現していくための権利擁護の本質を理解する。(知識)
- ④広い分野で活躍するソーシャルワーカーや社会福祉の視点をもった医療事務従事者等になるために、人権や権利侵害などに問題意識を持ち権利擁護の課題について考えることができるようになる。 (方法・態度)

旦	表題	学習内容
1回	授業の進め方 ソーシャルワークと法のかかわ り その1	授業計画、授業方法、予習・復習、成績の評価基準・方法等を知る権利擁護に必要な法制度権利擁護における人権の役割 市民生活と法ソーシャルワークにかかわる行政法きめ細やかなソーシャルワークにかかわる法制度【予習】テキストの該当する部分を読む【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる
2日	ソーシャルワークと法のかかわ り その2	憲法 憲法の概要 基本的人権と公共の福祉 平等性 自由権の内容 精神的自由 自由権 経済的自由と人身の自由 社会権 幸福追求権 統治機構 【予習】テキストの該当する部分を読む 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる
3回	ソーシャルワークと法の関わり その 3	民法 総則 契約 不法行為 親族 相続 【予習】テキストの該当する部分を読む 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる
4 回	ソーシャルワークと法の関わり その4	行政法 ソーシャルワークにかかわる行政法 行政法とは 行政の組織に関する法分野 行政の活動に関する法分野 行政の活動からの救済に関する法分野 【予習】テキストの該当する部分を読む 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる
5 回	法の基礎 その1	法と規範 我々を取り巻く決まり事 法とその他の規範 法の体系、種類、機能 【予習】テキストの該当する部分を読む 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる
6 回	法の基礎 その2	法律の基礎知識、法の解釈 裁判制度・判例を学ぶ意義 【予習】テキストの該当する部分を読む

		【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる
7回	権利擁護の意義と支える仕組み その1	権利擁護の意義 福祉サービスの適切な利用 【予習】テキストの該当する部分を読む 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる
8回	権利擁護の意義と支える仕組みその2	苦情解決の仕組み 虐待・暴力防止法関係法の概要 障害者差別解消法の概要 【予習】テキストの該当する部分を読む 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる
9回	権利擁護活動と意思決定支援その1	意思決定支援とは 意思決定支援ガイドライン 【予習】テキストの該当する部分を読む 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる
10回	権利擁護活動と意思決定支援 その2	インフォームド・コンセント その法的概念と判例 秘密・プライバシー・個人情報 権利擁護活動と社会の安全 【予習】テキストの該当する部分を読む 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる
11回	権利擁護にかかわる組織、団体	家庭裁判所 法務局 自治体 社会福祉協議会 児童相談所 権利擁護支援の地域連携ネットワークの中核機関 【予習】テキストの該当する部分を読む 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる
12回	権利擁護にかかわる専門職	社会福祉士による権利擁護 精神保健福祉士による権利擁護 弁護士の役割 司法書士の役割 公証人の役割 医師の役割 【予習】テキストの該当する部分を読む 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる
13回	成年後見制度 その1	成年後見制度の概要 後見の概要 保佐の概要 補助の概要 任意後見の概要 【予習】テキストの該当する部分を読む 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる
14回	成年後見制度 その2	成年後見制度の最近の動向 成年後見制度利用促進事業 日常生活自立支援事業 【予習】テキストの該当する部分を読む 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる
15回	総括 社会福祉士と権利擁護	振り返り 社会福祉士に求められる法の関わり、権利擁護の視点、意思 決定支援、成年後見制度の役割等を総括し授業全体を振り返る。 【予習】テキストの該当する部分を読む 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる

本科目は、講義科目(2単位)ですので、授業時間30時間と準備学習60時間が必要です。

・学習内容に記載された予習・復習を実践して内容の理解を深めてください。 授業内容を理解するため、事前に教科書の範囲を読み込んで、講義にのぞむこと。 授業内で提示した参考書、配布したレジュメを読むこと。

予習の際わからなかった部分を講義で集中して聴くようにして下さい。

事例検討などの話し合いに積極的に参加しましょう。毎回、ふりかえりシートを記入して活用します。 興味関心を持ったこと、理解できないことについて積極的に質問して下さい。時間外はオフィスアワーで。

成績評価の基準・方法

評価項目	S	A	В	C	D
1. 人々の権利を擁護するソーシャルワ	完全にない	若干不十分	不十分な点	到達目標の	到達目標を
ーカーの仕事を理解する	しほぼ完全	な点は認め	は認められ	最低限を達	達成してい
2. 権利擁護と意思決定支援、身近な所	に到達目標	られるもの	るものの、	成してい	ない。
にある自己決定の大切さに気付き、理	を達成して	の、到達目	到達目標を	る。	
解する	いる。	標を達成し	達成してい		
3. ソーシャルワーカーとして意思決定		ている。	る。		
支援、成年後見制度の最善の方法につ					
いて考える					
100点法	90点以上	80点以上	70点以上	60点以上	59点以下

- ・ふりかえりシート(毎回の授業終了後に提出、気づき、感想、興味関心、質問など)20%
- ・小テスト授業内課題(学習内容の要約や専門用語を適切に説明できるかを確認する課題)30%
- ・定期試験(レポート試験)(権利擁護、意思決定支援について、自らの考えを表明できる)50%

教科書

一般社団法人 日本ソーシャルワーク教育学校連盟 編集 『最新 社会福祉士養成講座 9 権利擁護を支える法制度 第2版』中央法規 2025 年発行 定価 2.970 円

参考書等

各自任意の社会福祉小六法 参考文献 必要に応じて授業の中で紹介する。 毎回、レジュメ・資料を配布する。

履修上の注意・学習支援

- ・授業中は学生の皆さんが、授業の環境を良くするようお互い心配りをして受講すること。
- ・テキスト・配付したレジュメ・筆記用具等授業で必要な物は必ず持参すること。
- ・人として、福祉職として、法の基礎を理解し、権利擁護の本質を理解することは、福祉職を目指すあなた自身がどう生きていくかを考えることにつながります。日常生活上の支援が必要な人に対する権利擁護活動、意思決定支援の重要性を学ぶとともに、日々の権利擁護に関するニュース報道などに気づき、興味関心を持って、権利擁護について、自ら考える機会を持つこと。講義を中心に、事例検討などを行う。
- ・配布資料、PPT や視聴覚教材を利用した講義。教科書を読みこむことで、より体系的に理解を深める。
- ・授業中にできなかった質問、疑問があれば、オフィスアワーを利用すること。

オフィスアワー

疑問、質問等があれば、オフィスアワーを利用すること。事前予約のうえ、時間を設定する。具体的な時間帯は 追って指示する

実務経験の概要

NPO法人のコミュニティ・ソーシャルワーカー、コミュニティ・ケアマネジャーとしての活動。包括的支援体制整備事業(重層的支援体制)の断らない相談支援の現場で相談支援包括化推進員として、実践を行ってきた。権利擁護センター・ぱあとなあとちぎ 栃木県社会福祉士会会員として、学びと研究を重ねつつ、日々の活動、現場の支援継続中。

触法障がい者入所施設のお話を聴く人(カウンセラー)、理事、オンブズマンを経験。 成年後見人(身上保護)及び任意後見人をつとめる。宇都宮事件実行委員(2005年)。

実務経験と科目との関連性

社会福祉士、介護支援専門員、公認心理師として、地域で暮らす人の各種相談対応や様々な生きにくさを抱えた人の声を聴く活動及び後見人の経験と実践を踏まえ、すべての人が人間としての尊厳を有し、価値ある存在としての暮らしが保証されるための権利擁護、その人らしく安心して自由に生きる権利を守ること、意思決定支援の大切さ、難しさを事例とともに学びます。

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
21 HS1SE29	児童・家庭福祉	1年	後期	講義	2	石本 真紀

- 1. 児童や家庭、妊産婦の生活実態や児童及び家庭を取り巻く社会環境について理解する。
- 2. 児童が権利の主体であることを踏まえて相談援助活動の実際について理解する。
- 3. 児童・家庭福祉に関する法制度や支援の仕組みについて学び、子どもの健やかな成長を支える児童・家庭福祉のあるべき姿について考える。

到達目標(学習の成果)

- 1. 日常生活の中で、児童家庭福祉に関する福祉的ニーズや生活課題に注目できる。(知識)
- 2. 現代社会における児童家庭福祉の意義、理念、歴史的変遷について学び、児童家庭福祉制度・活動におけるる社会福祉士の役割について説明できる。(知識)
- 3. 福祉専門職として専門的な知識・方法や態度を身につけ専門職として実践的に活用できる。 (方法・態度)

回	表題	学習内容
	授業の進め方 児童・家庭の定義	授業計画、授業方法、予習・復習・成績評価の方法等を理解する。 児童家庭福祉の基本的な考え方について学び、児童と家庭を取り巻 く生活問題について把握する。
1回	児童・家庭の足務 児童・家庭の生活実態とこれを取り巻く社会環境(1)	【予習】 現代における子どもに関する問題について整理しておく。 【復習】 児童家庭福祉の理念と概念について授業の学びを復習する。
2回	<u>児童・家庭の生活実態とこれを取り巻く社会環境</u> (2)	少子化の現状や、少子化が進行する背景について学び、国の少子化対策の経緯と現在の対策について理解する。 【予習】 統計資料やテキストで出生数や合計特殊出生率の年次推移について確認し、少子化が進行する背景について理解しておく。 【復習】 少子高齢社会における問題点について自分の意見をまとめる。 (400~600字程度)
3回	<u>児童・家庭福祉の歴史(1)</u> 児童観の変遷と <u>児童の権利</u>	児童観の変遷や子どもと家庭の権利保障について学び、児童福祉法やこども基本法の理念について理解する。 【予習】 テキストを読み、児童の権利に関する条約ができた背景や、子どもの権利の内容について理解しておく。 【復習】 児童の権利に関する条約の条文を読み配布プリントで復習する。
4回	児童・家庭福祉の歴史(2)	児童家庭福祉の歴史から児童・家庭福祉制度の発展過程を学ぶ。 【予習】 児童家庭福祉の歴史的変遷について確認しておく。 【復習】 戦後から現在までの子どもの権利擁護の歴史について復習する。
5 回	児童・家庭に対する法制度(1)	児童福祉法の概要や国・都道府県・市町村の役割、行政の仕組みや 手続きを規定する法制度について理解する。 【予習】 こども基本法、こども大綱等の内容について確認しておく。 【復習】 国、都道府県、市町村の役割と業務、児童家庭福祉の実施機関の

		目的や業務について復習する。
6回	児童・家庭福祉に対する法制度(2)	子ども・子育て支援法の概要、保育施策、児童健全育成施策、保育・教育施設での支援の実際について理解する。 【予習】 子ども・子育て支援制度の概要について確認しておく。 自分の住む市町の子育て支援サービスについて調べておく。 【復習】 テキストの事例を読み、保育におけるソーシャルワーク実践の 意義を学び、支援の実際について理解する。
7回	児童・家庭福祉に対する法制度(3)	母子保健の理念、母子保健法の概要、母子保健サービスの実施と体系を学び、子ども・子育て妊婦への <u>支援の実際</u> について理解する。 【予習】 母子保健法の目的や対象、母子保健施策について確認しておく。 【復習】 テキストの事例を読み、母子保健や医療との協働による支援の実際について理解する。
8回	児童・家庭福祉に対する法制度 (4)	母子及び父子並びに寡婦福祉法の概要を理解する。ひとり親家庭の 現状を理解し、ひとり親家庭への <u>支援の実際</u> について学ぶ。 【予習】 ひとり親家庭の生活状況を確認しておく。 【復習】 ひとり親家庭への支援策とひとり親家庭支援の課題について自分 の意見をまとめる。(800字程度)
9回	児童・家庭福祉に対する法制度 (5)	児童虐待の防止等に関する法律の概要を学び、児童虐待の種類や現状、対応方法について理解する。児童相談所における虐待予防や防止、虐待の連鎖を防ぐための支援の実際を学ぶ。 【予習】 児童虐待における支援の基本理念、児童虐待の定義、現状についてテキストや統計資料をもとに確認しておく。 【復習】 テキストの事例を読み、児童虐待対応の流れについて理解する。
10回	児童・家庭福祉に対する法制度(6)	DVの定義、DV防止法の概要、DVの現状と対応について学ぶ。 女性福祉にかかわる <u>支援の実際</u> について学ぶ。 【予習】 DVの定義、現状、DV防止法の目的について確認しておく。 【復習】 テキストの事例を読み、DV被害者への支援の実際について理解する。
11回	児童・家庭福祉に対する法制度 (7)	社会的養護を必要とする児童や家庭対する支援の実際や今後の課題について学ぶ。 【予習】 社会的養護の動向や社会的養護を必要とする子どもが生活する場について確認しておく。 【復習】 テキストの事例を読み、社会的養護にかかわる実践について理解する。
12回	児童・家庭福祉に対する法制度 (8)	非行少年への支援と関係機関との連携について学ぶ。 【予習】 非行少年への支援の歴史と動向について確認しておく。 【復習】

		テキストの事例を読み、非行少年への支援と関係機関との連携に ついて理解する。
13回	児童・家庭福祉に対する法制度 (9) 障害がある子どもへの <u>支援の実際</u>	障害の定義、障害児施策の概要、主要な法律について理解し、障害がある子どもへの <u>支援の実際</u> について学ぶ。 【予習】 障害児の概念と定義、障害のある子どもに対する支援体系の概要 について確認しておく。 【復習】 テキストの事例を読み、障害がある子どもと家庭への支援の実際 を理解する。
14回	児童・家庭福祉に対する支援にお ける関係機関との専門職の役割 (1)	貧困家庭や外国籍の子どもと家庭への支援、いじめ防止対策など、 地域における相談援助活動の方法について学ぶ。医療、保健、教 育、司法など関連分野の専門職の役割と、連携について理解する。 【予習】 子どもと家庭、学校を取り巻く課題やヤングケアラーの現状について確認しておく。 【復習】 テキストを読み困難を抱える若者支援の実際について理解する。
15回	児童・家庭福祉に対する支援にお ける関係機関との専門職の役割 (2)	子ども・若者への <u>支援の実際</u> について学ぶ。児童・家庭福祉に対する支援の実際から社会福祉士の役割について理解する。 【予習】 テキストを読み、当事者参画とアドボカシーにかかわる支援の 実際について理解する。 【復習】 児童家庭福祉における専門職の役割について自分の意見をまとめる。(800字程度)

本科目は、講義科目(2単位)ですので、授業時間30時間と準備学習60時間が必要となります。

- 1. 授業計画で示された教科書の範囲を読み込み、指示された事柄について参考文献で調べまとめてくること。
- 2. 児童・家庭福祉法に関連する法律や制度について授業後に復習すること。

成績評価の基準・方法

評価項目	S	A	В	С	D
1. 児童家庭の生活実態とこれを取り巻	完全にない	若干不十分	不十分な点	到達目標の	到達目標を
く社会環境についての理解	しほぼ完全	な点は認め	は認められ	最低限を達	達成してい
2. 児童や家庭に対する法制度と支援の	に到達目標	られるもの	るものの、	成してい	ない。
の仕組みについての理解	を達成して	の、到達目	到達目標を	る。	
3. 専門職としての役割や具体的な支援	いる。	標を達成し	達成してい		
内容の理解		ている。	る。		
100点法	90点以上	80点以上	70点以上	60点以上	59点以下

20%

50%

- ・各回の授業に対するコメントシート(学習内容を理解し、自分の意見を表明できる)
- ・課題 (児童家庭福祉の現状と課題について根拠を示して自らの言葉で表現できる) 30%
- ・定期試験(学習内容の要約や専門用語を適切に説明できる)

教科書

・一般社団法人 日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『児童・家庭福祉』第2版 中央法規出版 2024年 2,970 円 (税別)

参考書等

- ・ミネルヴァ書房編集部 『社会福祉小六法 2025』 ミネルヴァ書房 2024 年 1,980 円
- ・幸重忠孝著 『まちの子どもソーシャルワーク』 かもがわ出版 2018 年 1,400 円+税

履修上の注意・学習支援

- ・受講者の主体的参加を重視します。次回の授業範囲を予習して授業に臨みましょう。
- ・授業中に配慮することがある場合は、お知らせ下さい。

オフィスアワー

・オフィスアワーは、授業日のお昼休み(12:25~12:55)です。その他の時間を希望する場合は、事前予約の上時間を設定します。(メールアドレスは、m. ishimoto@ujc. ac. jp です)

実務経験の概要

児童福祉施設の児童指導員として、子どもの生活支援や保護者支援など相談援助に関する業務に従事してきた。 現在も地域にある「子どもの居場所」で小中学生を対象とした生活支援に携わっている。

実務経験と科目との関連性

児童福祉施設(入所型施設)における日常生活支援や相談援助の実務経験は、本科目の授業内容との関連性が高く、現場での実務経験を生かした講義が実施できる。

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
21 HS2SE30	社会福祉調査の基礎	2年	後期	講義	2	堀 圭三

世論調査や視聴率調査など、巷では様々な調査が行われているが、収集したデータはただの数字である。この数字から社会生活・社会福祉に関係している「何か」を見つけることが重要である。そのために必要な社会福祉調査に関する基本事項を講義する。

到達目標(学習の成果)

- 1. 社会福祉調査の意義、目的について説明できる。 (知識)
- 2. 量的調査の方法を理解している。 (知識)
- 3. 質的調査の方法を理解している。 (知識)

1文未可四						
回	表題	学習内容				
1 回	授業の進め方 社会福祉調査の意義と目的①	授業計画・準備学習・成績評価の方法・基準等について理解する。 ソーシャルワーク実践の可視化や理論化について学び、公的統計と政 策決定について理解する。 復習:身近で行われている社会調査を3つ調べまとめる。				
2回	社会福祉調査の意義と目的②	ブース、ラウントリー、タウンゼントの社会調査の意義を理解する。 予習:授業で示された課題を調べまとめる。 復習:授業で示された課題を行う。				
3回	社会福祉調査における倫理	社会福祉調査に置いて配慮すべき個人情報保護や倫理について理解する。 予習:授業で示された課題を調べまとめる。 復習:授業で示された課題を行う。				
4 回	社会福祉調査のデザイン①	理論と調査の関係、調査の目的、社会学の方法(帰納法、演繹法)について理解する。 予習:授業で示された課題を調べまとめる。 復習:授業で示された課題を行う。				
5 回	社会福祉調査のデザイン②	全数調査と標本調査、量的調査と質的調査など、調査をデザインする うえで必要な基礎的な違いを理解する。 予習:授業で示された課題を調べまとめる。 復習:授業で示された課題を行う。				
6 回	社会福祉調査のデザイン③	母集団と標本抽出、サンプリング 精度と信頼度 標本の大きさと標本 誤差について理解する。 予習:授業で示された課題を調べまとめる。 復習:授業で示された課題を行う。				
7回	量的調査の方法①	横断調査、縦断調査、パネル調査、コホート調査などの特徴について 理解する。 予習:授業で示された課題を調べまとめる。 復習:授業で示された課題を行う。				
8回	量的調査の方法②	質問紙の作成方法と留意点、質問紙の配布と回収の方法について理解する。 予習:授業で示された課題を調べまとめる。 復習:授業で示された課題を行う。				

9 回	量的調査の方法③	量的調査の集計と分析(単純集計、クロス集計)について理解する。 予習:授業で示された課題を調べまとめる。 復習:授業で示された課題を行う。
10回	量的調査の方法④	量的調査の集計と分析(散布図、相関分析、回帰分析)について理解する。 予習:授業で示された課題を調べまとめる。 復習:授業で示された課題を行う。
11回	質的調査の方法①	観察法(参与観察、非参与観察、統制的観察)と面接法について理解する。 予習:授業で示された課題を調べまとめる。 復習:授業で示された課題を行う。
12回	質的調査の方法②	質的調査のデータ分析 (グランデッドセオリーアプローチ、ナラティブアプローチ、アクションリサーチ) を理解する。 予習:授業で示された課題を調べまとめる。 復習:授業で示された課題を行う。
13回	ソーシャルワークにおける評価 ①	ソーシャルワークにおける評価の意義(ミクロ・メゾ・マクロレベルの実践評価、EBP や NBT)について理解する。 予習:授業で示された課題を調べまとめる。 復習:授業で示された課題を行う。
14回	ソーシャルワークにおける評価 ②	ソーシャルワークにおける評価対象(実践・構造・過程・結果・影響)と方法(シングル・システム・デザイン、質的な評価法)について理解する。 予習:授業で示された課題を調べまとめる。 復習:授業で示された課題を行う。
15回	社会調査とITの活用	社会調査とITの活用、統計調査のウソとホントについて理解する。 予習:授業で示された課題を調べまとめる。 復習:授業で示された課題を行う。

この科目は、講義科目(2単位)ですので、授業時間の他に準備学習60時間が必要になります。

- ・ニュースやコラム等で授業に関係することがあれば、その内容をノートにまとめること。
- ・授業記録の記入し、基本概念についてはきちんとノートにまとめておく。

成績評価の基準・方法

評価項目	S	A	В	С	D
1. 社会福祉調査・社会調査の意義につ	完全にない	若干不十分	不十分な点	到達目標の	到達目標を
いて理解している。	しほぼ完全	な点は認め	は認められ	最低限を達	達成してい
2. 量的調査の考え方、サンプリング、	に到達目標	られるもの	るものの、	成してい	ない。
調査票の作り方、集計の仕方等を理解	を達成して	の、到達目	到達目標を	る。	
している。	いる。	標を達成し	達成してい		
3. 社会調査に必要な統計学の知識を理		ている。	る。		
解している。					
100点法	90点以上	80点以上	70点以上	60点以上	59点以下

· 定期試験(筆記試験) 100%

教科書

第1回目にレジュメを配付する。

参考書等

新・社会福祉士養成講座『社会福祉調査の基礎』中央法規 2021年、2,750円 (税込)

履修上の注意・学習支援

質問等がある場合は、電子メールで受け付ける。また、オフィスアワーでも受け付ける。前予約(k3@ujc.ac.jp)のうえ、時間を設定する。具体的な時間帯は追って指示する。 Google classroomにて、課題の提出等を行う。

オフィスアワー

疑問があれば、オフィスアワーを利用すること。事前予約(k3@ujc.ac.jp) のうえ、時間を設定する。具体的な時間帯は追って指示する。

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
21HS1SE31	ソーシャルワークの基盤 と専門職(専門)	1年	前期	講義	2	勝浦 美智恵

社会福祉士の職域と求められる役割、そして、ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲と広い分野のソーシャルワークについて理解を深め、専門職としての倫理、知識・方法・態度を学ぶことをめざす。アクティブラーニングとして、社会福祉士が対応している事例の検討を行い、倫理性、知識・方法・態度の理解を深める。

到達目標(学習の成果)

- ・社会福祉士の職域と求められる役割について説明することができるようになる。(知識)
- ・ソーシャルワークに係る概念と範囲について説明することができる。(知識)
- ・総合的かつ包括的な支援と他職種連携の意義と内容について説明することができる。(知識)
- ・ソーシャルワークの実践について学んだことを、職業人として他者に共感し倫理性をもって地域など身近な環境で実践することができる。(方法・態度)

		以太阳西
旦	表題	学習内容
1回	授業の進め方 ソーシャルワークに係る専門職 の概念と範囲①	授業計画、授業方法、予習・復習、成績の評価基準・方法等を知る ソーシャルワーク専門職の概念と範囲 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
2回	ソーシャルワークに係る専門職 の概念と範囲②	社会福祉士の職域(行政関係・福祉関係・医療関係) 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
3回	ソーシャルワークに係る専門職 の概念と範囲③	社会福祉士の職域(教育関係・司法関係・独立型事務所)と社会福祉士の職域の拡大 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
4回	ソーシャルワークに係る専門職 の概念と範囲④	福祉行政等における専門職 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
5 回	ソーシャルワークに係る専門職 の概念と範囲⑤	民間の施設・組織における専門職 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
6 回	ソーシャルワークに係る専門職 の概念と範囲⑥	ミクロ・メゾ・マクロレベルの連関性 【予習】テキストの該当する部分を読む 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
7 回	ミクロ・メゾ・マクロレベルに おけるソーシャルワーク①	ミクロ・メゾ・マクロレベルの意味 【予習】テキストの該当する部分を読む 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
8回	ミクロ・メゾ・マクロレベルに おけるソーシャルワーク②	ミクロ・メゾ・マクロレベルの対象 【予習】テキストの該当する部分を読む 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
9回	ミクロ・メゾ・マクロレベルに おけるソーシャルワーク③	ミクロ・メゾ・マクロレベルの介入 【予習】テキストの該当する部分を読む 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。

10回	ミクロ・メゾ・マクロレベルに おけるソーシャルワーク④	ミクロ・メゾ・マクロレベルの連関性 【予習】テキストの該当する部分を読む 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
11回	ミクロ・メゾ・マクロレベルに おけるソーシャルワーク⑤	ミクロ・メゾ・マクロレベルの支援の実際 【予習】テキストの該当する部分を読む 【復習】事例を読み、考察したことをノートにまとめる。
12回	総合的かつ包括的な支援と多職 種連携の意義と内容①	多機関による包括的支援体制 【予習】テキストの該当する部分を読む 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
13回	総合的かつ包括的な支援と多職 種連携の意義と内容②	フォーマル・インフォーマルな社会資源との協働体制 ソーシャサポートネットワーキング 【予習】テキストの該当する部分を読む 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
14回	総合的かつ包括的な支援と多職 種連携の意義と内容③	多職種連携及びチームアプローチの意義 【予習】テキストの該当する部分を読む 【復習】事例を読み、考察したことをノートにまとめる。
15回	総合的かつ包括的な支援と多職 種連携の意義と内容④	機関・団体間の合意形成と相互関係 利用者・家族の参画 【予習】テキストの該当する部分を読む 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。

本科目は、講義科目(2単位)ですので、授業時間以外に60時間の授業外学習が必要となります。 学習内容に記載された予習・復習を実践して内容の理解を深めてください。

成績評価の基準・方法

評価項目	S	A	В	С	D
1. 社会福祉士の職域と求められる役	完全にない	若干不十分	不十分な点	到達目標の	到達目標を
割に関する理解	しほぼ完全	な点は認め	は認められ	最低限を達	達成してい
2. ソーシャルワークに係る概念と範	に到達目標	られるもの	るものの、	成してい	ない。
囲に関する理解	を達成して	の、到達目	到達目標を	る。	
3. 総合的かつ包括的な支援と他職種	いる。	標を達成し	達成してい		
連携の意義に関する習熟度		ている。	る。		
100点法	90点以上	80点以上	70点以上	60点以上	59点以下

授業内課題(学習内容の要約や専門用語を適切に説明できるかを確認する課題)50% 定期試験(レポート試験)(福祉専門職の知識や支援方法についての自らの考えを表明できる)50%

教科書

日本ソーシャルワーク教育学校連盟編著 『ソーシャルワークの基盤と専門職[共通・社会専門]』 中央法 規出版 2021 年 3,190 円

参考書等

・ミネルヴァ書房編集部 『社会福祉小六法 2025』 ミネルヴァ書房 2024 年 1,980 円

履修上の注意・学習支援

- ・授業中は学生の皆さんが、授業の環境を良くするようお互い心配りをして受講すること。
- ・テキスト・配付したレジュメ・筆記用具等授業で必要な物は必ず持参すること。
- ・疑問があれば、オフィスアワーを利用すること(事前予約のうえ、時間を設定する)。

オフィスアワー

疑問があれば、オフィスアワーを利用すること。事前予約(katsuura@ujc.ac.jp) のうえ、時間を設定する。具体的な時間帯は追って指示する。

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
21 HS1SE32	ソーシャルワークの理論 と方法	1年	後期	講義	4	勝浦 美智恵

ソーシャルワークの理論と支援方法を学ぶとともに、福祉の専門職としての問題解決能力を身につける。また、人間尊厳の姿勢や倫理を持ちクライエントに対応する援助について理解を深める。アクティブラーニングとして、ソーシャルワーカーが対応している事例の検討を行い、倫理、知識・方法・態度の理解を深める。

到達目標(学習の成果)

- ・ソーシャルワークの方法について学んだことを用い、相談援助の場面でどのように実践するかを考え話すことができる。 (知識)
- ・専門的な知識・方法や態度を身につけ、ソーシャルワークの実践について学んだことを、職業人として他者に 共感し倫理性をもって地域など身近な環境で実践することができる。(方法・態度)

以未们 四		
田	表題	学習内容
1 回	授業の進め方 人と環境との交互作用に関する 理論とミクロ・メゾ・マクロレ ベルにおけるソーシャルワーク ①	授業計画、授業方法、予習・復習、成績の評価基準・方法等を知るシステム理論(一般システム理論 サイバネティクス 自己組織性) 生態学理論 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
2回	人と環境との交互作用に関する 理論とミクロ・メゾ・マクロレ ベルにおけるソーシャルワーク ②	バイオ・サイコ・ソーシャルモデル バイオ・サイコ・ソーシャルモデルにおけるソーシャルワーク 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
3日	ソーシャルワークの実践モデル とアプローチ①	治療モデル 生活モデル ストレングスモデル 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】事例を読み考察したことをノートにまとめる。
4 回	ソーシャルワークの実践モデル とアプローチ②	心理社会的アプローチ 機能的アプローチ 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】事例を読み考察したことをノートにまとめる。
5 回	ソーシャルワークの実践モデル とアプローチ③	問題解決アプローチ 機能的アプローチ 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】事例を読み考察したことをノートにまとめる。
6 回	ソーシャルワークの実践モデル とアプローチ④	危機介入アプローチ 行動変容アプローチ 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】事例を読み考察したことをノートにまとめる。
7日	ソーシャルワークの実践モデル とアプローチ⑤	エンパワメントアプローチ ナラティブアプローチ 解決志向アプローチ 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】事例を読み考察したことをノートにまとめる。

8回	ソーシャルワークの過程①	ケース発見(アウトリーチ スクリーニング) 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
9回	ソーシャルワークの過程②	インテーク (インテークの意義 目的 方法 留意点) 契約 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
10回	ソーシャルワークの過程③	アセスメント (アセスメントの意義 目的 方法 留意点) 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
11回	ソーシャルワークの過程④	プランニング(プランニングの意義 目的 方法 留意点 効果の限界と予測 支援方法・内容の説明・同意) 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
12回	ソーシャルワークの過程⑤	支援の実施(支援の意義 目的 留意点) 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】事例を読み考察したことをノートにまとめる。
13回	ソーシャルワークの過程⑥	モニタリング(モニタリングの意義 目的 方法 留意点)効果測定 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】事例を読み考察したことをノートにまとめる。
14回	ソーシャルワークの過程⑦	支援の終結と事後評価(支援の終結と事後評価の目的 方法 留意点) 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】事例を読み考察したことをノートにまとめる。
15回	ソーシャルワークの過程⑧	アフターケア (アフターケアの目的 方法 留意点) 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
16回	ソーシャルワークの記録①	記録の意義と目的(ソーシャルワークの質の向上 支援の継続性 一貫性) 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
17回	ソーシャルワークの記録②	記録の意義と目的(教育 研究 アカウンタビリティ) 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
18回	ソーシャルワークの記録③	記録の方法と実際(記録の文体 フェースシート) 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
19回	ソーシャルワークの記録④	記録の方法と実際(図表式) 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
20回	ケアマネジメント①	ケアマネジメントの原則 (ケアマネジメントの歴史 適応と対象) 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
21回	ケアマネジメント②	ケアマネジメントの意義と方法(ケアマネジメントの意義プロセス モデル) 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】事例を読み考察したことをノートにまとめる。
22回	集団を活用した支援①	グループダイナミクス 【予習】テキストの該当する部分を読む。

		【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
23回	集団を活用した支援②	グループワークの原則 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
24回	集団を活用した支援③	グループワークの展開過程 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】事例を読み考察したことをノートにまとめる。
25回	集団を活用した支援④	セルフヘルプグループ (共感性 分かち合い ヘルパーセラピー原則 体験的知識 役割モデルの習得 援助者の役割) 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
26回	コミュニティワーク①	コミュニティワークの意義と目的 ソーシャルインクルーション 住民参加 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
27回	コミュニティワーク②	コミュニティワークの展開(地域アセスメント 地域課題 の発見・認識 実施計画とモニタリング) 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
28回	コミュニティワーク③	コミュニティワークの展開(組織化 社会資源の開発 評価と実施計画の更新) 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】事例を読み考察したことをノートにまとめる。
29回	スーパービジョンとコンサルテ ーション①	スーパービジョンの意義 目的 方法 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】事例を読み考察したことをノートにまとめる。
30回	スーパービジョンとコンサルテ ーション②	方法と留意点 プレゼンテーション 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。

本科目は、講義科目(2単位)ですので、授業時間以外に120時間の授業外学習が必要となります。 学習内容に記載された予習・復習を実践して内容の理解を深めてください。

成績評価の基準・方法

評価項目	S	A	В	С	D
1. ソーシャルワークの理論と支援方	完全にない	若干不十分	不十分な点	到達目標の	到達目標を
法に関する理解	しほぼ完全	な点は認め	は認められ	最低限を達	達成してい
2. 福祉専門職としての倫理的姿勢に	に到達目標	られるもの	るものの、	成してい	ない。
関する習熟度	を達成して	の、到達目	到達目標を	る。	
3. 専門職として相談援助の場面におけ	いる。	標を達成し	達成してい		
る問題解決に関する習熟度		ている。	る。		
100点法	90点以上	80点以上	70点以上	60点以上	59点以下

成績評価の方法・基準 (%表記)

授業内課題(学習内容の要約や専門用語を適切に説明できるかを確認する課題)50% 定期試験(レポート試験) (福祉専門職の知識や支援方法についての自らの考えを表明できる)50%

教科書

・一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟 『ソーシャルワークの理論と方法 [共通]』 中央法規 出版 2021 年 3,190 円

参考書等

・ミネルヴァ書房編集部 『社会福祉小六法 2025』 ミネルヴァ書房 2024 年 1,980円

履修上の注意・学習支援

授業中は学生の皆さんが、授業の環境をよくするようお互い心配りをして受講すること。 テキスト・配付したレジュメ・筆記用具等授業で必要な物は必ず持参すること。 疑問があれば、オフィスアワーを利用すること(事前予約のうえ、時間を設定する)。

オフィスアワー

疑問があれば、オフィスアワーを利用すること。事前予約(katsuura@ujc.ac.jp) のうえ、時間を設定する。 具体的な時間帯は追って指示する。

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
21 H S2SE33	ソーシャルワークの理論 と方法(専門)	2 年	前後	講義	4	勝浦 美智恵

社会福祉専門職として、相談援助過程の知識と支援方法を学ぶとともに、福祉の専門職としての問題解決能力を身に着ける。また、人間尊厳の姿勢や倫理を持ちクライエントに対応する援助について理解を深める。アクティブラーニングとして、ソーシャルワーカーが対応している事例の検討を行い、倫理、知識・方法・態度の理解を深める。

到達目標(学習の成果)

- ・ソーシャルワークにおける理論・支援方法に関する語句を説明することができる。(知識)
- ・ソーシャルワークについて学んだことを用い対応場面でどのように実践するかを考え話すことができる。(知識)
- ・ソーシャルワーク知識・方法や態度を身につけ、職業人として他者に共感し倫理性をもって地域など身近な環境で実践することができる。(方法・態度)

田	表題	
1回	授業の進め方 ソーシャルワークにおける援助 関係の形成①	授業計画、授業方法、予習・復習、成績の評価基準・方法等を知る 援助関係の意義と概念 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
2回	ソーシャルワークにおける援助 関係の形成②	自己覚知と他者理解 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
3回	ソーシャルワークにおける援助 関係の形成③	コミュニケーションとラポール 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
4回	ソーシャルワークにおける援助 関係の形成④	面接の意義、目的、方法、留意点 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
5回	ソーシャルワークにおける援助 関係の形成⑤	面接の場面と構造 面接の技法 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
6 回	ソーシャルワークにおける援助 関係の形成⑥	アウトリーチの意義、目的、方法、留意点 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
7回	ソーシャルワークにおける援助 関係の形成⑦	アウトリーチを必要とする対象 ニーズの掘り起こし 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】事例を読み考察したことをノートにまとめる。
8回	ソーシャルワークにおける社会 資源の活用・調整・開発①	社会資源の活用・調整・開発の意義、目的、方法、留意点 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
9 回	ソーシャルワークにおける社会 資源の活用・調整・開発②	ニーズの集約、提言、計画策定、実施、評価 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。

10回	ソーシャルワークにおける社会 資源の活用・調整・開発③	ソーシャルアクションの意義、目的 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
11回	ソーシャルワークにおける社会 資源の活用・調整・開発④	ソーシャルアクションの方法、留意点 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】事例を読み考察したことをノートにまとめる。
12回	ネットワーク形成①	ネットワーキングの意義、目的、方法、留意点 セーフティネットの構築とネットワーキング 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
13回	ネットワーク形成②	家族や住民、提供者間のネットワーキング 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
14回	ネットワーク形成③	・重層的な範囲(ミクロ・メゾ・マクロ)におけるネットワーキング・多様な分野の支援機関とのネットワーキング【予習】テキストの該当する部分を読む。【復習】事例を読み考察したことをノートにまとめる。
15回	ネットワーク形成④	コーディネーションの意義、目的、方法、留意点 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
16回	ソーシャルワークに関連する方 法①	ネゴシエーションの意義、目的、方法、留意点 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】事例を読み考察したことをノートにまとめる。
17回	ソーシャルワークに関連する方 法②	ファシリテーションの意義、目的、方法、留意点 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
18回	ソーシャルワークに関連する方 法③	プレゼンテーションの意義、目的、方法、留意点 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】事例を読み考察したことをノートにまとめる。
19回	カンファレンス①	カンファレンスの意義 目的 留意点 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
20回	カンファレンス②	カンファレンスの運営と展開 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】教材を視聴して考察したことをノートにまとめる。
21回	事例分析①	事例分析の意義、目的 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
22回	事例分析②	事例検討、事例研究の意義、目的、方法、留意点 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
23回	ソーシャルワークにおける総合 的かつ包括的な支援の実際①	多様化、複雑化した生活への対応 分野 領域を横断する支援 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
24回	ソーシャルワークにおける総合 的かつ包括的な支援の実際②	今日的な地域福祉課題への対応 【予習】テキストの該当する部分を読む。
		•

		【復習】事例を読み考察したことをノートにまとめる。
25回	ソーシャルワークにおける総合 的かつ包括的な支援の実際③	家族が抱える複合的な生活課題 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】事例を読み考察したことをノートにまとめる。
26回	ソーシャルワークにおける総合 的かつ包括的な支援の実際④	家族支援の目的・方法・留意点 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】事例を読み考察したことをノートにまとめる。
27回	ソーシャルワークにおける総合 的かつ包括的な支援の実際⑤	地域が抱える課題 地域アセスメント 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
28回	ソーシャルワークにおける総合 的かつ包括的な支援の実際⑥	他機関協働 地域住民と協働 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
29回	ソーシャルワークにおける総合 的かつ包括的な支援の実際⑦	非常時や災害時の生活課題 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】事例を読み考察したことをノートにまとめる。
30回	ソーシャルワークにおける総合 的かつ包括的な支援の実際®	非常時や災害時における支援の目的、方法、留意点 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】教材を視聴して考察したことをノートにまとめる。

本科目は、講義科目(2単位)ですので、授業時間以外に120時間の授業外学習が必要となります。 学習内容に記載された予習・復習を実践して内容の理解を深めてください。

成績評価の基準・方法

評価項目	S	A	В	С	D
1. ソーシャルワークの理論と支援方	完全にない	若干不十分	不十分な点	到達目標の	到達目標を
法に関する理解	しほぼ完全	な点は認め	は認められ	最低限を達	達成してい
2. 福祉専門職としての倫理的姿勢に関	に到達目標	られるもの	るものの、	成してい	ない。
する習熟度	を達成して	の、到達目	到達目標を	る。	
3. 専門職として相談援助の場面におけ	いる。	標を達成し	達成してい		
問題解決に関する習熟度		ている。	る。		
100点法	90点以上	80点以上	70点以上	69点以上	59点以下

成績評価の方法・基準(%表記)

授業内課題(学習内容の要約や専門用語を適切に説明できるかを確認する課題)50% 定期試験(レポート試験)(福祉専門職の知識や支援方法についての自らの考えを表明できる)50%

教科書

一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟著 『ソーシャルワークの理論と方法[社会専門]』 中央法 規出版 2021 年 3190 円

参考書等

ミネルヴァ書房編集部 『社会福祉小六法 2025』 ミネルヴァ書房 2024 年 1980 円

履修上の注意・学習支援

授業中は学生の皆さんが、授業の環境をよくするようお互い心配りをして受講すること。 テキスト・配付したレジュメ・筆記用具等授業で必要な物は必ず持参すること。 疑問があれば、オフィスアワーを利用すること(事前予約のうえ、時間を設定する)。

オフィスアワー

疑問があれば、オフィスアワーを利用すること。事前予約(katsuura@ujc.ac.jp) のうえ、時間を設定する。 具体的な時間帯は追って指示する。

5	科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
21	1H1SE34	ソーシャルワーク 演習(専門) I	1年	前期	演習	1	宮脇文恵

ひきこもり、貧困、認知症、その他の危機状態にある事例をとりあげて、具体的な事例等を活用し、支援を必要とする人が抱える複合的な課題に対する総合的かつ包括的な支援について、ロールプレーイング等を用いて、実践的に習得する。本科目を学ぶことを通して、ひきこもり、貧困、認知症、その他の危機状態にある人々への援助に関する知識、技術・方法、態度を身につけ、社会の一員として、協働して課題に取り組むことができるための基礎的な力を得る。

到達目標(学習の成果)

- 1. ひきこもり、貧困、認知症などを中心に事例に触れて、困難な状況に置かれている人について理解を深める(知識)
- 2. ソーシャルワークの実践に必要な知識と技術の統合を行い、専門的援助技術として概念化し、また理論化し、体系立てていくことができる能力を習得する。(方法・態度)
- 3. 社会福祉士に求められるソーシャルワークの価値規範を理解し、倫理的な判断能力を養い、支援に活かすことができるようになる。(方法・態度)
- 4. 支援を必要とする人を中心とした分野横断的な総合的かつ包括的な支援について実践的に理解し、支援に活かすことができるようになる。(方法・態度)

旦	表題	学習内容
1 🗉	学習の進め方 「社会的排除」と「社会 的孤立」	授業計画、授業方法、予習・復習、成績の評価基準・方法等を知る。 社会的排除と社会的孤立の概念および実態を学び、身近に存在する社会的 排除と社会的孤立に気づきを得て、社会的排除を自分事としてとらえる。 社会的排除と社会的孤立の事例の学習から、ソーシャルワークの価値規範 を理解し、倫理的な判断能力を身につける。 【予習】新聞やインターネットなどで、「社会的排除」について取り上げて いる記事を1つ以上読んでおく。 【復習】資料によって授業を振り返り、学びとなったことを記録する。
2回	<u>ひきこもり</u> への援助①	ひきこもりの定義と特性について、学ぶ。 【予習】新聞やインターネットなどで、「ひきこもり」について取り上げている記事を1つ以上読んでおく。 【復習】資料によって授業を振り返り、学びとなったことを記録する。
3回	<u>ひきこもり</u> への援助②	若者のひきこもりの生活実態と支援について、中間的就労支援など、事例を通して学ぶ。 中高年のひきこもりと家族等への支援について、8050問題を中心に、事例を通して学ぶ。 【予習】新聞やインターネットなどで、「8050問題」について取り上げている記事を1つ以上読んでおく。 【復習】資料によって授業を振り返り、学びとなったことを記録する。
4回	<u>ひきこもり</u> への援助③	ひきこもり状態の人へのアウトリーチによる支援について、事例を通して、 <u>ロールプレーイング</u> を用いて学ぶ。 【予習】新聞やインターネットなどで、「アウトリーチ」について取り上げ ている記事を1つ以上読んでおく。 【復習】資料によって授業を振り返り、学びとなったことを記録する。
5回	<u>貧困</u> 問題への援助①	貧困状態にある人の生活実態について、ホームレス状態を中心に、事例を通して学ぶ。 【予習】新聞やインターネットなどで、「ホームレス状態の人への支援」に ついて取り上げている記事を1つ以上読んでおく。 【復習】資料によって授業を振り返り、学びとなったことを記録する。
6 回	貧困問題への援助②	貧困状態にある人の生活実態について、依存症・高齢・子ども家庭の貧困を中心に、事例を通して学ぶ。 【予習】新聞やインターネットなどで、「依存症」について取り上げている

		記事を1つ以上読んでおく。
		【復習】資料によって授業を振り返り、学びとなったことを記録する。
		 貧困状態にある人への支援について,多職種の連携・関係機関の連携を中
		心に、事例を通して学ぶ。
7 回	貧困問題への援助③	【予習】新聞やインターネットなどで、貧困状態の人への支援機関の取り
	<u></u>	 組みについて取り上げている記事を1つ以上読んでおく。
		【復習】資料によって授業を振り返り、学びとなったことを記録する。
		貧困状態にある人への支援について、事例を通して、ロールプレーイング
		を用いて学ぶ。
8回	貧困問題への援助④	【予習】これまでの授業で学んだ貧困状態の人の状況を踏まえ、アウトリ
		ーチについても振り返っておく。
		【復習】資料によって授業を振り返り、学びとなったことを記録する。
		認知症の定義とその特性について、アルツハイマー型認知症・レビー小体
		型認知症・前頭側頭型認知症・若年性認知症を中心に、事例を通して学ぶ。
9回	認知症への援助①	【予習】新聞やインターネットなどで、認知症ついて取り上げている記事
		を1つ以上読んでおく。
		【復習】資料によって授業を振り返り、学びとなったことを記録する。 認知症の本人の気持ちを主体とした支援について、ケースの発見、インテ
		応知症の本人の気持らを主体とした文後について、 <u>ケー人の発見、インケー</u> 一ク、アセスメント、プランニング、支援の実施、モニタリング、支援の
		終結と事後評価、アフターケアまで、事例を通してロールプレーイング等
10 回	認知症への援助②	を用いて学ぶ。
10 🖂	<u> </u>	【予習】新聞やインターネットなどで、認知症高齢者への具体的な支援に
		ついて取り上げている記事を1つ以上読んでおく。
		【復習】資料によって授業を振り返り、学びとなったことを記録する。
		認知症カフェ,認知症本人による自助グループなどの支援について,集団
		<u>に対する事例</u> を用いて、学ぶ。
11 回	認知症への援助③	【予習】新聞やインターネットなどで、「認知症カフェへ」について取り上
		げている記事を1つ以上読んでおく。
		【復習】資料によって授業を振り返り、学びとなったことを記録する。
		認知症の本人と家族への支援について、 フォーマル・インフォーマルなソーシャルサポートネットワーク形成を中心に、事例を通して学ぶ。
12 回	認知症への援助④	「一ンヤルリホートイットソークル成を中心に、事例を通じく子ぶ。 【予習】自分の地域における認知症高齢者の当事者組織・家族会などにつ
14 円	<u> </u>	1 丁自 1 日 カツ 地域におり 3 応加 加 同 即 日 ツ ヨ 事 日 紅 楓 ・
		いて、調べてわく。 【復習】資料によって授業を振り返り、学びとなったことを記録する。
		「複音 質性によって技業を振り返り、手びとなったことを記録する。 認知症本人が生き生きと暮らせる地域包括ケアシステムの形成について,
		社会福祉士としての活動を、事例を通して学ぶ。
13 回	認知症への援助⑤	【予習】自分の地域における認知症高齢者を支える社会資源などについて、
		調べておく。
		【復習】資料によって授業を振り返り、学びとなったことを記録する。
		性的マイノリティ,外国にルーツを持つ人の生活実態と支援について,事
		例を通して学ぶ。
14 回	その他の危機状態にあ	【予習】新聞やインターネットなどで、「性的マイノリティ」「外国にルー
177 [2]	<u>る事例</u> ①	ツを持つ人」が阻害されている問題について取り上げている記事を 1 つ以
		上読んでおく。
		【復習】資料によって授業を振り返り、学びとなったことを記録する。
		支援を必要とする人が抱える複合的な課題に対する総合的かつ包括的な支援になった。東側などして営べ
15 17	複合的な課題な課題を	<u>援について</u> ,事例を通して学ぶ。 【子習】 新聞めインターネットなどで、複合的な調題を拘って世界の主任
15 回	抱える人への支援	【予習】新聞やインターネットなどで、複合的な課題を抱える世帯の支援
		について取り上げている記事を1つ以上読んでおく。 【復習】 盗料によって極業な振り返り、学びよなったことな記録する
維性学	 翌 <i>(</i> 予翌・復翌について	【復習】資料によって授業を振り返り、学びとなったことを記録する。 へ

本科目は、演習科目ですので、授業時間 (30 時間) と準備学習時間 (15 時間) の合わせて 45 時間の学習時

間が必要になります。

- 1. 自分の普段の生活の中で、社会的排除や社会的孤立について、気づきを得るようにする。
- 2. 授業における学びを、自分の生活に活かしていこうとすること。

成績評価の方法・基準

成績評価の基準

評価項目	S	A	В	C	D
①ひきこもり本人や社会へ	完全にない	若干不十分	不十分な点	到達目標の	到達目標を
の理解	しほぼ完全	な点は認め	は認められ	最低限を達	達成してい
②貧困状態とその背景への	に到達目標	られるもの	るものの、	成している	ない
理解	を達成して	の、到達目	到達目標を		
③認知症本人と周囲の人、	いる	標を達成し	達成してい		
制度への理解		ている	る		
④複合的な課題を抱える人					
と援助への理解					
100 点法	100 点~90	89 点~80	79 点~70	69 点~60	59 点以下
	点	点	点	点	

成績評価の方法・基準(%表記)

- ① 授業内課題 (30%)
- ② 事例に対する小レポート (ソーシャルワーカーとして、どう考え、どう自らに活かすかを記述すること。) 20%
- ③ 定期試験(レポート)(ソーシャルワークを学ぶ「私」の意見を表明できているかどうか。)50%

教科書

使用しない。授業において,適宜資料を配布する。視聴覚教材を多用する。

参考書等

ミネルヴァ書房編集部『社会福祉小六法 2024』ミネルヴァ書房 2023年 1980円 (税込)

履修上の注意・学習支援

- ・授業に関係のない私語や内職は、慎むこと。
- ・授業において、ディスカッションやロールプレイなどに、積極的な参加をすること。
- ・視聴覚教材の視聴の際には、メモを取りながら観ること。

オフィスアワー

- ・質問等があれば、オフィスアワーを利用すること(担当教員のオフィスアワーは別途提示する)。
- ・担当教員との連絡方法は、授業時に提示する。

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
21HS1SE35	ソーシャルワーク演習 (専門) I I	1 年	後期	演習	1	勝浦 美智恵

ソーシャルワーカーが取り組むべき相談援助活動について理解を深めていく。具体的な事例を利用しながら「ケースの発見」「インテーク」「アセスメント」「プランニング」「支援の実施」「モニタリング」「支援の終結と事後評価」「アフターケア」という一連の相談援助過程を、事例検討やグループワーク、実技演習を行いながら学び、ソーシャルワーカーとしての価値規範と倫理、知識や問題解決能力を身につける。

到達目標(学習の成果)

- 1. ソーシャルワークに関する語句の説明ができる。(知識)
- 2. 社会福祉の諸制度やソーシャルワークの方法が実際の援助場面でどのように活用されているのかを考え話すことできる。 (知識)
- 3. 演習で経験したソーシャルワークの方法や価値規範や倫理的姿勢を、他者に共感し地域など身近な環境で自立・自律的に実践することができる。(方法・態度)

旦	表題	学習内容
1 回	授業の進め方 導入 事例から学ぶことについて	授業計画、授業方法、予習・復習、成績の評価基準・方法等を知る「事例から学ぶ」ということはどういうことかを考える? 【予習】ニュース・新聞等で子どもへの支援について調べる。 【復習】教材を視聴し、考察したことをノートにまとめる。
2回	児童(虐待)への援助①	「インテーク」について理解する。 【予習】関連科目テキストのソーシャルワークの展開の部分を読む。 【復習】専門用語を関連科目テキスト等で確認しノートにまとめる。
3回	児童(虐待)への援助②	「アセスメント」「プランニング」について理解する。 【予習】関連科目テキストのソーシャルワークの展開の部分を読む。 【復習】専門用語を関連科目テキスト等で確認しノートにまとめる。
4回	児童(虐待)への援助③	「支援の終結と事後評価」「アフターケア」について理解する。 【予習】関連科目テキストのソーシャルワークの展開の部分を読む。 【復習】事例検討し、考察したことをノートにまとめる。
5 回	高齢者(虐待)への援助①	「インテーク」「アセスメント」「プランニング」について理解する。 【予習】関連科目テキストのソーシャルワークの展開の部分を読む。 【復習】専門用語を関連科目テキスト等で確認しノートにまとめる。
6 回	高齢者(虐待)への援助②	「支援の実施」「モニタリング」について理解する。 【予習】関連科目テキストのソーシャルワークの展開の部分を読む。 【復習】専門用語を関連科目テキスト等で確認しノートにまとめる。
7 回	高齢者(虐待)への援助③	「支援の終結と事後評価」「アフターケア」について理解する。 【予習】関連科目テキストのソーシャルワークの展開の部分を読む。 【復習】事例検討し、考察したことをノートにまとめる。
8回	障害者(虐待)への援助①	「アセスメント」「プランニング」について理解する。 【予習】関連科目テキストのソーシャルワークの展開の部分を読む。 【復習】専門用語を関連科目テキスト等で確認しノートにまとめる。
9回	障害者(虐待)への援助②	「支援の実施」「モニタリング」について理解する。 【予習】関連科目テキストのソーシャルワークの展開の部分を読む。 【復習】専門用語を関連科目テキスト等で確認しノートにまとめる。

10回	障害者(虐待)への援助③	「支援の終結と事後評価」「アフターケア」について理解する。 【予習】関連科目テキストのソーシャルワークの展開の部分を読む。 【復習】事例検討し、考察したことをノートにまとめる。
11回	家庭内暴力DVへの援助	「権利擁護活動」について理解する。 【予習】関連科目テキストの権利擁護の部分を読む。 【復習】事例検討し、考察したことをノートにまとめる。
12回	依存症への援助	「チームアプローチ」について理解する。 【予習】関連科目テキストのチームアプローチの部分を読む。 【復習】事例検討し、考察したことをノートにまとめる。
13回	災害時ケア①	「アウトリーチ」について理解する。 【予習】関連科目テキストのアウトリーチの部分を読む。 【復習】事例検討し、考察したことをノートにまとめる。
14回	災害時ケア②	「チームアプローチ」について理解する。 【予習】ニュース・新聞等で災害・防災について調べる。 【復習】教材を視聴し、考察したことをノートにまとめる。
15回	終末期ケア	事例を用いた演習 【予習】書籍・新聞等で終末期について調べる。 【復習】事例検討し、考察したことをノートにまとめる。

本科目は、演習科目(1単位)ですので、授業時間以外に15時間の授業外学習が必要となります。 学習内容に記載された予習・復習を実践して内容の理解を深めてください。

成績評価の基準・方法

評価項目	S	A	В	С	D
1. ソーシャルワークに関する語句に	完全にない	若干不十分	不十分な点	到達目標の	到達目標を
関する習熟度	しほぼ完全	な点は認め	は認められ	最低限を達	達成してい
2. ソーシャルワークの方法に関する習	に到達目標	られるもの	るものの、	成してい	ない。
熟度	を達成して	の、到達目	到達目標を	る。	
3. ソーシャルワークの価値規範や倫	いる。	標を達成し	達成してい		
理に関する習熟度		ている。	る。		
100点法	90点以上	80点以上	70点以上	60点以上	59点以下

授業内課題(学習内容の要約や専門用語を適切に説明できるかを確認する課題)50% 定期試験(レポート試験)(福祉専門職の知識や支援方法についての自らの考えを表明できる)50%

教科書

テキスト使用しない。授業ごとにレジュメを配付する。

参考書等

ミネルヴァ書房編集部 『社会福祉小六法 2025』 ミネルヴァ書房 2024年 1980 円

履修上の注意・学習支援

- ・演習科目であるので、積極的に動き、発言すること。
- ・学んだ内容をどのように応用できているか、自分でチェックすること。
- ・毎回、社会福祉小六法と筆記など必要なものは机に準備しておくこと。
- ・疑問があれば、オフィスアワーを利用すること(事前予約のうえ、時間を設定する)。

オフィスアワー

疑問があれば、オフィスアワーを利用すること。事前予約(katsuura@ujc.ac.jp) のうえ、時間を設定する。 具体的な時間帯は追って指示する。

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
21 H S2SE36	ソーシャルワーク 演習(専門) Ⅲ	2 年	前期	演習	1	勝浦 美智恵・宮脇 文恵

この演習ではソーシャルワーカーとして必要不可欠な「地域援助(コミュニティワーク)」について学んでいく。「ネットワーキング」「社会資源の活用・調整・開発」「サービスの評価」「地域福祉の計画」などについて、調べ学習とグループワーク、事例検討をしながら理解を深め、専門職としての倫理、知識・方法・態度を学ぶ。

到達目標(学習の成果)

- 1. メゾ、マクロのソーシャルワークに関する語句の説明ができる。 (知識)
- 2. ソーシャルワークの方法を地域社会にどのように活かすかを考えて話すことができる。 (知識・方法)
- 3. 演習で理解を深めたソーシャルワークの方法や価値規範や倫理を、他者に共感し地域など身近な環境で実践することができる。

回	表題	学習内容
1回	授業の進め方 導入	授業計画、授業方法、予習・復習、成績の評価基準・方法等を知る。 「地域福祉」や「地域支援」の必要性を考える。勝浦 【予習】関連科目テキストの地域福祉の部分を読む。 【復習】専門用語を関連科目テキスト等で確認しノートにまとめる。
2回	地域援助を考える①	ワーク「私たちの地域について知り、地域の未来を考えよう」勝浦 【予習】ニュースやインターネット等で、自分の住んでいる地域に ついて調べる。 【復習】グループワークをして、考察したことをノートにまとめる。
3回	地域援助を考える②	ワーク「福祉教育について考えよう」勝浦 【予習】関連科目テキストの福祉教育の部分を読む。 【復習】専門用語を関連科目テキスト等で確認しノートにまとめる。
4回	地域援助を考える③	ワーク「地域アセスメントをしてみよう」勝浦 【予習】関連科目テキストのコミュニティワークの部分を読む。 【復習】専門用語を関連科目テキスト等で確認しノートにまとめる。
5回	地域援助を考える④	ワーク「地域の福祉計画を調べよう」勝浦 【予習】福祉小六法で地域福祉計画の部分を読む。 【復習】グループワークをして、考察したことをノートにまとめる。
6 回	地域援助を考える⑤	ワーク「プレゼンテーションを行ってみよう」勝浦 【予習】関連科目テキストのプレゼンテーションの部分を読む。 【復習】専門用語を関連科目テキスト等で確認しノートにまとめる。
7回	地域援助を考える⑥	ワーク「ファシリテーションを体験しよう」勝浦 【予習】関連科目テキストのファシリテーションの部分を読む。 【復習】専門用語を関連科目テキスト等で確認しノートにまとめる。
8回	地域援助を考える⑦	ワーク「ネゴシエーションを体験しよう」勝浦 【予習】関連科目テキストのネゴシエーションの部分を読む。 【復習】専門用語を関連科目テキスト等で確認しノートにまとめる。
9回	地域援助事例①	「地域住民参加と組織化活動」を理解する。勝浦 【予習】関連科目テキストのコミュニティワークの部分を読む。 【復習】専門用語を関連科目テキスト等で確認しノートにまとめる。

10回	地域援助事例②	「地域住民に対するアウトリーチやニーズ」について理解する。勝浦 【予習】関連科目テキストのアウトリーチの部分を読む。 【復習】事例検討し考察したことをノートにまとめる。
11回	地域援助事例③	「地域におけるネットワーキング」について理解する。勝浦 【予習】関連科目テキストのネットワーキングの部分を読む。 【復習】事例検討し考察したことをノートにまとめる。
12回	地域援助事例④	「地域におけるコーディネーション」について理解する。勝浦 【予習】関連科目テキストのコーディネーションの部分を読む。 【復習】事例検討し考察したことをノートにまとめる。
13回	地域援助事例⑤	「社会資源の活用・調整・開発」について理解する。勝浦 【予習】関連科目テキストの社会資源の活用の部分を読む。 【復習】事例検討し考察したことをノートにまとめる。
14回	地域援助事例⑥	「サービスの評価」について理解する。勝浦 【予習】関連科目テキストのサービスの評価の部分を読む。 【復習】事例検討し考察したことをノートにまとめる。
15回	地域援助事例⑦	「ソーシャルアクション」について理解する。勝浦 【予習】関連科目テキストのソーシャルアクションの部分を読む。 【復習】事例検討し考察したことをノートにまとめる。

本科目は、演習科目 (1単位) ですので、授業時間以外に15時間の授業外学習が必要となります。 学習内容に記載された予習・復習を実践して内容の理解を深めてください。

成績評価の基準・方法

評価項目	S	A	В	С	D
1. ソーシャルワークに関する語句に	完全にない	若干不十分	不十分な点	到達目標の	到達目標を
関する習熟度	しほぼ完全	な点は認め	は認められ	最低限を達	達成してい
2. ソーシャルワークの方法を地域に活	に到達目標	られるもの	るものの、	成してい	ない。
かすことに関する習熟度	を達成して	の、到達目	到達目標を	る。	
3. ソーシャルワークの価値規範や倫	いる。	標を達成し	達成してい		
理に関する習熟度		ている。	る。		
100点法	90点以上	80点以上	70点以上	60点以上	59点以下

授業内課題(学習内容の要約や専門用語を適切に説明できるかを確認する課題)50% 定期試験(レポート試験)(福祉専門職の知識や支援方法についての自らの考えを表明できる)50%

教科書

テキストは使用しない。授業ごとにレジュメ・資料を配付する。

参考書等

ミネルヴァ書房編集部 『社会福祉小六法 2025』 ミネルヴァ書房 2024年 1980 円

履修上の注意・学習支援

- ・授業中の必要のない私語は厳に慎むこと。
- ・毎回、社会福祉小六法と筆記など必要なものは机に準備しておくこと。
- ・積極的に発言し、考察すること。そしてこの学びを身近な環境で活かせるように心がけること。
- ・疑問があれば、オフィスアワーを利用すること(事前予約のうえ、時間を設定する)。

オフィスアワー

疑問があれば、オフィスアワーを利用すること。事前予約(katsuura@ujc.ac.jp) のうえ、時間を設定する。 具体的な時間帯は追って指示する。

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
21H1SE37	ソーシャルワーク 演習(専門) Ⅳ	2年	後期	演習	1	宮脇文恵・勝浦美智恵

本演習は、ソーシャルワーカーとして必要となる知識・支援方法体得の総仕上げと位置づけて、「ソーシャルワーク演習」「ソーシャルワーク演習(専門) $I \sim IV$ 」で学んだことをまとめる。本科目における学びを通して、各科目やソーシャルワーク実習で学んだことを踏まえて、さらに深い援助に関する知識、技術・方法、態度を身につけ、社会の一員として、高い倫理性をもって、協働して課題に取り組むことができるための力を得る。授業内ではディスカッションやロールプレーイングなどの演習に取り組み、総合的にソーシャルワークを理解していく。

到達目標 (学習の成果)

- 1. ソーシャルワークの価値規範を理解し、倫理的な判断ができる。(態度)
- 2. 実習で体験した事例について事例検討・事例研究を行い、その意義や具体的方法について表明できる。(方法・態度)
- 3. 実践の質の向上を図るためのスーパービジョンについて理解し、実践できるようになる(知識・態度・方法)

4557	業	⊋ 1.	-
~~		=+	ІННІ

田	表 題	学習内容
1 🗉	授業の進め方 ソーシャルワーク演習専門 I ~専門 Ⅲに関するリフレクション	授業計画、授業方法、予習・復習、成績の評価基準・方法等を知る。これまでのソーシャルワーク演習を振りかえり、自分にとっての課題を考える。 【予習】ソーシャルワーク実習の中で、ソーシャルワーク演習の授業で学んだことを活かすことが体験について、400字以上でまとめてくる。 【復習】資料によって授業を振り返り、学びとなったことを記録する。
2回	ソーシャルワークにおける援助関係	利用者との援助関係について、学びを深める。 【予習】新聞やインターネットなどで、「クライエントとの 援助関係」について取り上げている記事を 1 つ以上読んで おく。 【復習】資料によって授業を振り返り、学びとなったこと を記録する。
3回	社会福祉施設機関の運営管理①	ソーシャルワークを実践する「組織」と「経営」について、学ぶ。 【予習】新聞やインターネットなどで、社会福祉施設の「組織」または「経営」について取り上げている記事を 1 つ以上読んでおく。 【復習】資料によって授業を振り返り、学びとなったことを記録する。
4回	社会福祉施設機関の運営管理②	ソーシャルワークを実践する組織の「運営理念・方針」と「苦情対応」について理解する。 【予習】新聞やインターネットなどで、社会福祉施設の「運営理念」について取り上げている記事を 1 つ以上読んでおく。 【復習】資料によって授業を振り返り、学びとなったことを記録する。
5回	「社会福祉士倫理綱領」から学ぶ①	「価値と原則」を理解する。 【予習】新聞やインターネットなどで、「ソーシャルワーク の価値」について取り上げている記事を 1 つ以上読んでお く。 【復習】資料によって授業を振り返り、学びとなったこと

		を記録する。
		C HO73 / 60 0
		「倫理基準」を理解する。
	「社会福祉士倫理綱領」から学ぶ②	【予習】新聞やインターネットなどで、「ソーシャルワーク
6 回		の倫理」について取り上げている記事を 1 つ以上読んでお く。
		へ。 【復習】資料によって授業を振り返り、学びとなったこと を記録する。
		「行動規範」を理解する。
		【予習】新聞やインターネットなどで、ソーシャルワーカ
7 回	「社会福祉士倫理綱領」から学ぶ③	を1つ以上読んでおく。
		【復習】資料によって授業を振り返り、学びとなったこと を記録する。
		「社会福祉士の責務」を考える。
		【予習】新聞やインターネットなどで、ソーシャルワーカ
	[4] A 1=1 1 /A 211 /EI /AT	│ │ 一の責務について取り上げている記事を 1 つ以上読んでお
8回	「社会福祉士倫理綱領」から学ぶ④	< </td
		【復習】資料によって授業を振り返り、学びとなったこと を記録する。
		実習の振り返りを行い、最も印象に残っているエピソード
	「ソーシャルワーク実習」後の学び①	について、丁寧にリフレクションを行い、演習での学びと 照合する。
9回		【予習】自身の実習記録を読み直し、最も印象に残ってい
		るエピソードについて取り上げ、読んでおく。
		【復習】資料によって授業を振り返り、学びとなったこと を記録する。
		実習の振り返りを行い、苦しかったエピソードについて、
		丁寧にリフレクションを行い、演習での学びと照合し、自
		己の課題を考える。
10 回	「ソーシャルワーク実習」後の学び②	【予習】自身の実習記録を読み直し、最も苦しかったエピ
		ソードについて取り上げ、読んでおく。 【復習】資料によって授業を振り返り、学びとなったこと
		を記録する。
		実習の振り返りを行い、具体的な事例検討・事例研究を通 し、個別援助について学んで、現場で活かせるようになる。
		し、個別援助について子んで、現場で估かせるようになる。 【予習】自身の実習における個別援助について1つエピソ
11 回	「ソーシャルワーク実習」後の学び③	一ドを取り上げ、読んでおく。
		【復習】資料によって授業を振り返り、学びとなったこと
		を記録する。
		実習の振り返りを行い、具体的な事例検討・事例研究を通
		し、集団援助について学んで、現場で活かせるようになる。
12 回	「ソーシャルワーク実習」後の学び④	【予習】自身の実習における集団援助について1つエピソ
		ードを取り上げ、読んでおく。
		【復習】資料によって授業を振り返り、学びとなったこと を記録する。
		実習の振り返りを行い、具体的な事例検討・事例研究を通
		し、地域を基盤とした援助について学んで、現場で活かせ
		るようになる。
13 回	「ソーシャルワーク実習」後の学び⑤	【予習】自身の実習における地域を基盤とした援助につい
		て1つエピソードを取り上げ、読んでおく。
		【復習】資料によって授業を振り返り、学びとなったこと を記録する。
		CHOMY / WO

14 回	「ソーシャルワーク実習」後の学び⑥	実習で得た学びから、「スーパービジョン」のあり方を理解し、現場で実践できるようになる。 【予習】自身の実習におけるスーパービジョンについて1つエピソードを取り上げ、読んでおく。 【復習】資料によって授業を振り返り、学びとなったことを記録する。
15 回	「ソーシャルワーク実習」後の学び⑦	第14回授業を踏まえて、ロールプレーイングを用いて、「スーパービジョン」のあり方を理解する。 【予習】第14回授業での学びを復習し、ロールプレーイングの方法について、過去の演習授業から振り返りを行っておく。 【復習】資料によって授業を振り返り、学びとなったことを記録する。

本科目は、演習科目ですので、授業時間 (30 時間) と準備学習時間 (15 時間) の合わせて 45 時間の学習 時間が必要になります。

- ・日常生活の中で、メディアなどから社会的に孤独な状態に置かれている人の情報を集め、議論できるようにする。
- ・今までの学びの総仕上げという位置づけなので、これまでの学びについて整理し、演習内で理解をさらに 深め、授業後に振り返る課題に取り組む。
- ・ソーシャルワーク実習後は「専門職としての自分」の達成した課題と有している課題について、授業前に自らの考えを振り返ってまとめ、授業に臨む。
- ・授業後は、自己覚知を深める作業に取り組む。

成績評価の方法・基準

成績評価の基準

/ 例 例 四 ~ 至 十					
評価項目	S	A	В	С	D
①社会福祉施設機関の運	完全にない	若干不十分	不十分な点	到達目標	到達目標を
営管理の理解	しほぼ完全	な点は認め	は認められ	の最低限	達成してい
②ソーシャルワークの倫	に到達目標	られるもの	るものの、	を達成し	ない
理への理解	を達成して	の、到達目	到達目標を	ている	
③ソーシャルワーク実習	いる	標を達成し	達成してい		
からの自己覚知を深める		ている	る		
100 点法	100 点~90	89 点~80	79 点~70	69 点~60	59 点以下
	点	点	点	点	

成績評価の方法・基準 (%表記)

- ① 授業内課題 (30%)
- ② 事例に対する小レポート (ソーシャルワーカーとして、どう考え、どう自らに活かすかを記述すること。) 20%
- ③ 定期試験(レポート)(ソーシャルワークを学ぶ「私」の意見を表明できているかどうか。)50%

教科書

使用しない。授業において、適宜資料を配布する。視聴覚教材を多用する。

参考書等

授業内で、適宜紹介する。

履修上の注意・学習支援

- ・授業に関係のない私語や内職は、慎むこと。
- ・授業において、ディスカッションやロールプレイなどに、積極的な参加をすること。
- ・視聴覚教材の視聴の際には、メモを取りながら観ること。

オフィスアワー

- ・質問等があれば、オフィスアワーを利用すること。
- ・担当教員との連絡方法は、授業時に提示する。

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
21HS1SE38	ソーシャルワーク実習	1・2 年	前・後	実習	5	宮脇文恵・勝浦美智恵 ・小野篤司

「ソーシャルワーク実習指導」をふまえて、実習の目的を理解し、実習生として「私はこの実習で、何を体験し何を学ぶのか」という実習の目標を立てる。次に、この目標を達成するために、実習の課題とする具体的内容を設定する。実習生が、実習担当教員、実習指導者と協議し、実習形態や施設・機関を考慮して達成可能な課題を設定して実習を行う。なお、実習では、講義・演習で得た福祉専門職としての知識・支援方法を確認し、問題解決について自立・自律的に考え実践できるようにする。

到達目標(学習の成果)

- ・福祉専門職としての知識・支援方法・態度を理解し、実践することができる。(知識・方法)
- ・自己を捉え、基盤となる価値・倫理を持ち、自律的に福祉専門職としての態度を示すことができる。(態度)
- ・ソーシャルワークの意義や専門職の役割について実習を通して考えたことを他者に共感し地域など身近な環境で実践することができる。(知識)

回	表題	学習内容
1年次ソー シャルワー ク実習	(60 時間以上) 【2025年度1年生】 2025 年 11 月中旬~ 2025 年 12 月上旬 予定	ア. 利用者やその関係者(家族・親族・友人等)、施設・事業所・機関・団体、地域住民やボランティア等との基本的なコミュニケーションや円滑な人間関係の形成 イ. 利用者やその関係者(家族・親族・友人等)との援助関係の形成 ウ. 利用者や地域の状況を理解し、その生活上の課題の課題(ニーズ)の把握 エ. 利用者やその関係者(家族・親族、友人等)への権利擁護活動 オ. 多職種連携及びチームアプローチの実践的理解 カ. 当該実習先が地域社会の中で果たす役割の理解及び具体的な地域 社会への働きかけ キ. 地域おける分野横断的・業種横断的な関係形成と社会資源の活用・調整・開発に関する理解 ク. 施設・事業者・機関・団体等の経営やサービスの管理運営の実際 (チームマネジメントや人材管理の理解を含む) ケ. 社会福祉士としての職業倫理と組織の一員と責任の理解 コ. ソーシャルワーク実践に求められる アウトリーチ、ネットワーキング、コーディネーション、の技術の実践的理解 サ. 実習での自己を振り返り、自己の課題を明確にする。 【事後】実習終了後、実習日誌を整理し、「実習を振り返って思ったこと」を記述して、実習指導者へ提出する。
2 年次ソー シャルワー ク実習	(180 時間以上) 【2025年度2年生】 2025年 9 月中旬~ 2025年 10 月下旬 予定	 シ. 利用者やその関係者(家族・親族・友人等)、施設・事業所・機関・団体、地域住民やボランティア等との基本的なコミュニケーションや円滑な人間関係の形成 ス. 利用者やその関係者(家族・親族・友人等)との援助関係の形成セ. 利用者や地域の状況を理解し、その生活上の課題の課題(ニーズ)の把握、支援計画の作成と実施及び評価 ソ. 利用者やその関係者(家族・親族、友人等)への権利擁護活動とその評価 タ. 多職種連携及びチームアプローチの実践的理解 チ. 当該実習先が地域社会の中で果たす役割の理解及び具体的な地域社会への働きかけ

- ツ. 地域おける分野横断的・業種横断的な関係形成と社会資源の活用・調整・開発に関する理解
- テ. 施設・事業者・機関・団体等の経営やサービスの管理運営の実際 (チームマネジメントや人材管理の理解を含む)
- ト. 社会福祉士としての職業倫理と組織の一員と責任の理解
- ナ. ソーシャルワーク実践に求められる ネゴシエーション、ファシリテーション、プレゼンテーション、ソーシャルアクションの技術の 実践的理解
- 二、実習での自己を振り返り、自己の課題を明確にする。

【事前】実習先へ事前訪問(オリエンテーション)を行う。そこで、実習指導者への質問を通して、ソーシャルワーク実習の理解を深める。 【事後】実習終了後、実習日誌を整理し、「実習を振り返って思ったこと」を記述して、実習指導者へ提出する。

準備学習(予習・復習について)

学習内容に記載された事前・事後を実践して内容の理解を深めてください。

成績評価の基準・方法

- ・実習先の評価と実習担当教員の総合評価(60%)
- ※成績の評価項目は、ソーシャルワーク実習記録ノートのソーシャルワーク実習評価に記載されている。
- ・授業外課題(レポート)「実習を振り返って思ったこと」(40%)

教科書

使用しない。

参考書等

ミネルヴァ書房編集部 『社会福祉小六法 2025』 ミネルヴァ書房 2024年 1980 円

履修上の注意・学習支援

実習先(指導者、職員、利用者)との三者が密接にかかわってくることをよく認識し、実習に臨むこと。

オフィスアワー

疑問があれば、オフィスアワーを利用すること。具体的な時間帯は追って指示する。事前予約(宮脇: miyawaki@ujc.ac.jp 勝浦: katsuura@ujc.ac.jp) のうえ、時間を設定する。

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
21HS1SE39	ソーシャルワーク実習指導	1・2 年	前・後	演習	3	宮脇 文恵・勝浦 美智恵 小野 篤司

ソーシャルワーク実習に向けて、ソーシャルワークに係る知識と支援方法について理解し、問題解決能力、実践的な支援方法を体得する。また、社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得することを目的とする。効果的な実習ができるように、各実習のオリエンテーション、事前準備指導を行う。実習記録の整理・実習のまとめ・ケーススタディの発表を通し、各自の課題を明確にするとともに、学びの共有をはかる。

到達目標(学習の成果)

- ・ソーシャルワークに係る知識と支援方法について説明することができる。(知識)
- ・自己覚知や自己に求められる課題把握を通して福祉の専門職としての態度について考え、他者に共感し地域など身近な環境で実践することができる。(技術・方法・態度)
- ・実習における経験から、福祉専門職における問題解決について表明することができる。(知識)

旦	表題	学習内容
1回	授業の進め方 1年次ソーシャルワーク実習指導	授業計画、授業方法、予習・復習、成績の評価基準・方法等を知る 1年次のソーシャルワーク実習と実習指導の授業について 今後の予定 宮脇 【予習】厚労省IP等で「ソーシャルワーク」を調べる。 【復習】専門用語を関連科目テキスト等で確認する。
2回	実習の意義と目的	実習及び実習指導の意義(スーパービジョン含む。)宮脇 【予習】関連科目テキストで「スーパービジョン」を調べる。 【復習】専門用語を関連科目テキスト等で確認する。
3回	実習施設の理解①	実際に実習を行う実習分野(利用者理解を含む)と施設・機関・地域社会等に関する基本的な理解 宮脇 【予習】福祉施設・機関について書籍やインターネット等で調べる。 【復習】専門用語を関連科目テキスト等で確認する。
4 回	実習施設の理解②	実習先で関わる他の職種の専門性や業務に関する基本的な理解 宮脇 【予習】福祉専門職の職種・業務について書籍やインターネット等で調べる。 【復習】教材を視聴して考察したことをノートにまとめる。
5回	相談援助技術の実際①	実習先で必要とされるソーシャルワークの価値規範と倫理・知識及び技術に関する理解(講義) 宮脇 【予習】関連科目テキストの「ソーシャルワークの価値」の部分を 読む。 【復習】専門用語を関連科目テキスト等で確認する。
6回	相談援助技術の実際②	実習先で必要とされるソーシャルワークの価値規範と倫理・知識及び技術に関する理解(演習) 宮脇 【予習】福祉小六法で、「社会福祉士及び介護福祉士法」「ソーシャルワークの倫理綱領」を読む。 【復習】演習を通して、考察したことをノートにまとめる。
7回	実習における個人のプライバ シーの保護と守秘義務の理解	個人情報保護法、ガイドライン、社会福祉士の倫理綱領等 【予習】個人情報保護法を読む。 宮脇

		【復習】個人のプライバシーと守秘義務について考察したことをノ - トにまとめる。
8回	相談援助の実際①	多様な施設や事業所における現場体験学習や見学実習 の準備 【予習】多様な施設・事業所について調べる。 【復習】見学時の留意したいこと等をまとめる。宮脇
9回	相談援助の実際②	多様な施設や事業所における現場体験学習や見学実習 【予習】多様な施設・事業所について調べる。 【復習】見学時の留意したいこと等をまとめる。宮脇
10回	1年次実習計画書の作成①	実習生、実習担当教員、実習先の実習指導者との三者協議を踏まえた実習計画の作成 (講義) 宮脇 勝浦 【予習】ソーシャルワーク実習の「ねらい」「教育に含むべき事項」を確認する。 【復習】講義の内容を踏まえ、実習で目標にしたいことを考える。
11回	1年次実習計画書の作成②	実習生、実習担当教員、実習先の実習指導者との三者協議を踏まえた実習計画の作成 宮脇 勝浦 【予習】自らの考える実習の目標を様式に記述する。 【復習】目標に対する具体的な課題を考え、記述する。
12回	記録の書き方①	実習記録への記録内容及び記録方法に関する理解 (講義) 実習記録ノート配布 宮脇 【予習】関連科目テキストで「ソーシャルワークの記録」の部分を 読む。 【復習】実習記録ノートと実習マニュアルの記録の部分を確認する
13回	記録の書き方②	実習記録への記録内容及び記録方法に関する理解 (演習) 宮脇 【予習】実習記録に関するワークシートに取り組む。 【復習】演習に取り組み、考察したことをノートにまとめる。
14回	1 年次実習直前ガイダンス	実習の心構え 緊急時等の対応について実習期間中 巡回指導 宮脇 勝浦 小野 【予習】実習マニュアルと実習オリエンテーションでの指導内容を 確認する。 【復習】自らの実習の心構えについてノートにまとめる。
15回	1 年次実習振り返り①	実習体験や実習記録を踏まえた実習課題の整理(演習) 宮脇 【予習】実習日誌等を読み、学びを振り返る。 【復習】グループワークを踏まえ考察したことをノートにまとめ る。
16回	1 年次実習振り返り②	実習体験や実習記録を踏まえた実習課題の整理(演習) 宮脇 【予習】実習日誌等を読み、実習課題をノートに書く。 【復習】グループワークを踏まえ考察したことをノートにまとめ る。
17回	1年次実習振り返り③	実習体験や実習記録を踏まえた実習課題の整理(演習) 宮脇 【予習】実習日誌等を読み、実習課題をノートに書く。 【復習】グループワークを踏まえ考察したことをノートにまとめ る。
18回	実習総括レポートの作成①	実習総括レポートについての説明 宮脇 【予習】実習に関連する資料の確認をする。 【復習】実習総括レポートに向けたワークシートを記述する。
19回	実習総括レポートの作成②	実習総括レポートの構想 宮脇 勝浦 【予習】実習に関連する資料の確認をする。

		【復習】実習総括レポートに向けたワークシートを記述する。
20回	実習総括レポートの作成③	実習総括レポートの推敲(実習担当教員との協議を踏まえる) 宮脇 勝浦 【予習】実習総括レポートのワークシートをもとに、実習総括レポートを記述する。 【復習】実習担当教員との協議をもとに、実習総括レポートを記述する。
21回	実習総括レポートの作成④	実習総括レポート完成 宮脇 勝浦 【予習】実習担当教員との協議をもとに、実習総括レポートを記述 する。 【復習】実習総括レポートを踏まえ、実習報告の準備をする。
22回	1年次実習報告会①	1 年次実習グループ①②の報告、質疑応答、講評 宮脇 【予習】実習総括レポートを踏まえ、実習報告の準備をする。 【復習】質疑応答や講評を踏まえ、実習報告を振り返る。
23回	1年次実習報告会②	1 年次実習グループ③④の報告、質疑応答、実習の評価及び全体の 総括 宮脇 【予習】実習総括レポートを踏まえ、実習報告の準備をする。 【復習】質疑応答や講評を踏まえ、実習全体を振り返る。
24回	授業の進め方 2年次 ソーシャルワーク実習指導	授業計画、授業方法、予習・復習、成績の評価基準・方法等を知る 2年次のソーシャルワーク実習と実習指導の授業について 今後の予定 勝浦 【予習】ソーシャルワーク実習の「ねらい」「教育に含むべき事項」を確認する。 【復習】1年時のソーシャルワーク実習の体験をワークシートに記述する。
25回	実習施設の理解①	実際に実習を行う実習分野(利用者理解含む。)と施設・機関、地域社会等に関する基本的な理解 勝浦 【予習】福祉施設・機関について書籍やインターネット等で調べる。 【復習】専門用語を関連科目テキスト等で確認する。福祉小六法で関連する法制度を調べる。
26回	実習施設の理解②	実習先で関わる他の職種の専門性や業務に関する基本的な理解 勝浦 【予習】福祉専門職の職種・業務について書籍やインターネット等で調べる。 【復習】教材を視聴して考察したことをノートにまとめる。
27回	実習分野でのグループ事前学習①	実習先で必要とされるソーシャルワークの価値規範と倫理・知識及び技術に関する理解 勝浦 【予習】福祉小六法で、「社会福祉士及び介護福祉士法」「ソーシャルワークの倫理綱領」を読む。 【復習】グループワークを通して考察したことをノートにまとめる。
28回	実習分野でのグループ事前 学習②	実習先で必要とされるソーシャルワークの価値規範と倫理・知識及び技術に関してグループ学習 勝浦 【予習】福祉小六法で、「社会福祉士及び介護福祉士法」「ソーシャルワークの倫理綱領」を読む。 【復習】グループワークを通して考察したことをノートにまとめる。

29回	実習における個人のプライバ シーの保護と守秘義務の理解	個人情報保護法、ガイドライン、社会福祉士の倫理綱領等 勝浦 【予習】個人情報保護法を読む。 【復習】個人のプライバシーと守秘義務について考察したことをノ ートにまとめる。
30回	2 年次実習計画書の作成①	実習計画書の意義,実習計画書の構想 宮脇 勝浦 【予習】ソーシャルワーク実習の「ねらい」「教育に含むべき事項」を確認する。 【復習】講義の内容を踏まえ、実習で目標にしたいことを考える。
31回	2 年次実習計画書の作成②	実習生、実習担当教員、実習先の実習指導者との三者協議を踏まえた実習計画の作成 宮脇 勝浦 【予習】自らの考える実習の目標を様式に記述する。 【復習】協議を踏まえ、実習の目標と具体的な課題を考える。
32回	2年次実習計画書の作成③	実習計画書 完成 宮脇 勝浦 【予習】自らの考える実習の目標を様式に記述する。 【復習】目標に対する具体的な課題を考え、記述する。
33回	記録の書き方①	実習記録への記録内容及び記録方法に関する理解 (講義) 勝浦 【予習】関連科目テキストで「ソーシャルワークの記録」の部分を 読む。 【復習】実習記録ノートと実習マニュアルの記録の部分を確認する
34回	記録の書き方②	実習記録への記録内容及び記録方法に関する理解 (演習) 宮脇 勝浦 【予習】実習記録に関するワークシートに取り組む。 【復習】演習に取り組み、考察したことをノートにまとめる。
35回	2 年次実習直前ガイダンス	実習の心構え 緊急時等の対応について 実習期間中 巡回指導 宮脇 勝浦 小野 【予習】実習マニュアルと実習オリエンテーションでの指導内容を 確認する。 【復習】自らの実習の心構えについてノートにまとめる。
36回	2 年次実習振り返り①	実習体験や実習記録を踏まえた実習課題の整理(演習)勝浦 【予習】実習日誌等を読み、学びを振り返る。 【復習】グループワークを踏まえ考察したことをノートにまとめる。
37回	2 年次実習振り返り②	実習体験や実習記録を踏まえた実習課題の整理(演習)勝浦 【予習】実習日誌等を読み、実習課題をノートに書く。 【復習】グループワークを踏まえ考察したことをノートにまとめ る。
38回	2 年次実習振り返り③	実習体験や実習記録を踏まえた実習課題の整理(演習)勝浦 【予習】実習日誌等を読み、実習課題をノートに書く。 【復習】グループワークを踏まえ考察したことをノートにまとめる。

39回	実習総括レポートの作成①	実習総括レポートについての説明 勝浦 【予習】実習に関連する資料の確認をする。 【復習】実習総括レポートに向けたワークシートを記述する。
40回	実習総括レポートの作成②	実習総括レポートの構想 宮脇 勝浦 【予習】実習に関連する資料の確認をする。 【復習】実習総括レポートに向けたワークシートを記述する。
41回	実習総括レポートの作成③	実習総括レポートの推敲(実習担当教員との協議を踏まえる) 宮脇 勝浦 【予習】実習総括レポートのワークシートをもとに、実習総括レポートを記述する。 【復習】実習担当教員との協議をもとに、実習総括レポートを記述する。
42回	実習総括レポートの作成④	実習総括レポート完成 宮脇 勝浦 【予習】実習担当教員との協議をもとに、実習総括レポートを記述 する。 【復習】実習総括レポートを踏まえ、実習報告の準備をする。
43回	2年次実習報告会①	実習報告会準備(発表原稿作成等) 宮脇 勝浦 【予習】実習総括レポートを踏まえ、実習報告の準備をする。 【復習】質疑応答や講評を踏まえ、実習報告を振り返る。
44回	2 年次実習報告会②	第 2 段階実習グループ①②の報告、質疑応答、講評 宮脇 勝浦 【予習】実習総括レポートを踏まえ、実習報告の準備をする。 【復習】質疑応答や講評を踏まえ、実習全体を振り返る。
45回	2年次実習報告会③	第 2 段階実習グループ③④の報告、質疑応答、講評、実習の評価及び全体の総括 宮脇 勝浦 【予習】実習総括レポートを踏まえ、実習報告の準備をする。 【復習】質疑応答や講評を踏まえ、実習全体を振り返る。

本科目は、演習科目 (1単位) ですので、授業時間以外に45時間の授業外学習が必要となります。 学習内容に記載された予習・復習を実践して内容の理解を深めてください。

成績評価の基準・方法

評価項目	S	A	В	С	D
1. ソーシャルワークに係る知識と支	完全にない	若干不十分	不十分な点	到達目標の	到達目標を
援方法に関する理解度	しほぼ完全	な点は認め	は認められ	最低限を達	達成してい
2. 社会福祉士として求められる資	に到達目標	られるもの	るものの、	成してい	ない。
質、技能、倫理に関する習熟度	を達成して	の、到達目	到達目標を	る。	
3. 実習の経験から福祉専門職におけ	いる。	標を達成し	達成してい		
る問題解決に関する理解度		ている。	る。		
100点法	90点以上	80点以上	70点以上	60点以上	59点以下

成績評価の方法・基準 (%表記)

- ① 授業外課題 (30%)
- □実習先アセスメントワークシート
- □夏休みレポート(事前学習)
- □実習報告原稿

- ② 授業内での課題 (30%)
- ③ 定期試験(レポート試験) (40%)

教科書

使用しない。

参考書等

ミネルヴァ書房編集部 『社会福祉小六法 2024』 ミネルヴァ書房 2023年 1980 円

履修上の注意・学習支援

原則として欠席は認めない。遅刻はしないこと。 疑問があれば、担当教員のオフィスアワーを利用すること(事前予約のうえ、時間を設定する)。

オフィスアワー

疑問があれば、オフィスアワーを利用すること。事前予約 (宮脇:miyawaki@ujc.ac.jp

勝浦: katsuura@ujc. ac. jp) のうえ、時間を設定する。

具体的な時間帯は追って指示する。

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
21HS1SE40	医療事務論 I	1 年	前期	講義	2	北爪 あゆみ

福祉と医療事務の専門知識を深め、医療機関の運営に携わるにあたり信頼できる知識・技術の基礎を身に付けることを目標とする。医療事務とは何か、その意義・役割と求められる資質を理解した上で、医療機関の機能と目的、診療報酬制度のしくみなど、医療事務として必要な知識の概要を中心に講義形式で学ぶ。

到達目標(学習の成果)

- 1. 医療事務職として組織における役割を理解し、医療機関の機能・目的と診療報酬制度のしくみについて説明ができる(知識)。
- 2. 診療報酬の算定項目について正しく理解し、点数算定ができるようになる(知識・技術)。

	汉朱山 四						
回	表題	学習内容					
1 回	授業の進め方 医療機関の機能と目的	授業計画、授業方法、予習・復習、成績評価の基準・方法等を知る。 医療機関の機能と目的、医療機関の特色、診療報酬制度のしくみを理解 する。 予習:シラバスを精読する。 復習:専門用語、重要事項をノート等にまとめる。					
2回	診療報酬点数算定①	初診料の算定方法、留意点を理解する。 予習:テキストの該当箇所を読む。 復習:専門用語、重要事項をノート等にまとめ、授業で示した課題等を 行う。					
3 回	診療報酬点数算定②	再診料の算定方法、留意点を理解する。 予習:テキストの該当箇所を読む。 復習:専門用語、重要事項をノート等にまとめ、授業で示した課題等を 行う。					
4回	診療報酬点数算定③	医学管理等の算定方法、留意点を理解する。 予習:テキストの該当箇所を読む。 復習:専門用語、重要事項をノート等にまとめ、授業で示した課題等を 行う。					
5 回	診療報酬点数算定④	在宅医療について算定方法、留意点を理解する。 予習:テキストの該当箇所を読む。 復習:専門用語、重要事項をノート等にまとめ、授業で示した課題等を 行う。					
6 回	診療報酬点数算定⑤	投薬の算定方法、留意点を理解する① (内服・屯服・外用薬、薬剤料) 予習:テキストの該当箇所を読む。 復習:専門用語、重要事項をノート等にまとめ、授業で示した課題等を 行う。					
7 回	診療報酬点数算定⑥	投薬の算定方法、留意点を理解する② (調剤料、処方料等) 予習:テキストの該当箇所を読む。 復習:専門用語、重要事項をノート等にまとめ、授業で示した課題等を 行う。					
8日	診療報酬点数算定⑦	注射の算定方法、留意点を理解する。 予習:テキストの該当箇所を読む。 復習:専門用語、重要事項をノート等にまとめ、授業で示した課題等を 行う。					

9回	診療報酬点数算定⑧	処置の算定方法、留意点を理解する。 予習:テキストの該当箇所を読む。 復習:専門用語、重要事項をノート等にまとめ、授業で示した課題等を 行う。
10回	診療報酬点数算定⑨	手術・麻酔の算定方法、留意点を理解する。 予習:テキストの該当箇所を読む。 復習:専門用語、重要事項をノート等にまとめ、授業で示した課題等を 行う。
11回	診療報酬点数算定⑩	検査・病理診断の算定方法、留意点を理解する①(検体検査等) 予習:テキストの該当箇所を読む。 復習:専門用語、重要事項をノート等にまとめ、授業で示した課題等を 行う。
12回	診療報酬点数算定⑪	検査・病理診断の算定方法、留意点を理解する②(生体検査、病理診断等)
13回	診療報酬点数算定⑫	画像診断の算定方法、留意点を理解する。 予習:テキストの該当箇所を読む。 復習:専門用語、重要事項をノート等にまとめ、授業で示した課題等を 行う。
14回	診療報酬点数算定⑬	リハビリテーション・精神科専門療法・放射線治療の算定方法、留意点を理解する。 予習:テキストの該当箇所を読む。 復習:専門用語、重要事項をノート等にまとめ、授業で示した課題等を 行う。
15回	診療報酬点数算定⑭	総合実践を通して診療報酬の算定方法と留意点を理解する。 予習:テキストの該当箇所を読む。 復習:専門用語、重要事項をノート等にまとめ、授業で示した課題等を 行う。

この科目は、講義科目(2単位)ですので、授業時間の他に60時間の授業外学習が必要です。

- ・事前にテキストを精読の上授業記録を残し、学習内容や関連事項についてはノート等にまとめること。
- ・講義内で提示する学習課題(ワークシート)を実施し、繰り返し復習を行うこと。

成績評価の基準・方法

評価項目	S	A	В	С	D
1. 医療機関の機能についての理解度	完全にない	若干不十分	不十分な点	到達目標の	到達目標を
2. 診療報酬制度概要の理解度	しほぼ完全	な点は認め	は認められ	最低限を達	達成してい
3. 診療報酬算定項目の理解度	に到達目標	られるもの	るものの、	成してい	ない。
	を達成して	の、到達目	到達目標を	る。	
	いる。	標を達成し	達成してい		
		ている。	る。		
100点法	90点以上	80点以上	70点以上	60点以上	59点以下

・定期試験(筆記試験)50%・授業内課題20%・授業内小テスト30%

教科書

- ・ニチイ学館著『医療保険制度の仕組み(医科・歯科)』 ニチイ学館 第2024版 2,750円
- ・ニチイ学館著『医療現場での接遇マナー(医科・歯科)』 ニチイ学館 第2024版 2,200円
- ・ニチイ学館著『診療報酬の算定ルール』 ニチイ学館 第2024版 3,300円
- ・ニチイ学館著『レセプト点検』 ニチイ学館 第2024版 2,750円
- ・ニチイ学館著『医療事務講座 医科スタディブック』 ニチイ学館 第2024版 1,320円

- ·社会保険研究所著『医科診療報酬点数表 点数早見表』 社会保険研究所 令和6年4月版 2,970円
- ・ニチイ学館著『医科ハンドブック (医科)』 ニチイ学館 2022年版 1,886円

参考書等

・医学通信社著『診療報酬点数早見表 (医科)』医学通信社 2024年版 5,060円

履修上の注意・学習支援

- ・事前に電卓を用意し、教科書及び電卓は、授業時には必ず持参すること。
- ・GoogleClassroomにて課題等連絡を行うため、必ず確認すること。
- ・不明な点は自主的に質問すること。
- ・授業への積極的な姿勢を望む。

オフィスアワー

疑問点があれば授業時間内及びオフィスアワーを利用し解決すること。(事前予約の上、時間を設定する。)なお、オフィスアワーの具体的な日時は追って指示する。 ※担当者アドレス: kitazume@ujc.ac. jp

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
21HS1SE41	医療事務実践演習	1年	後期	演習	1	北爪 あゆみ

保険診療の根幹となる診療報酬点数の算定についての知識を深め、迅速かつ正確に診療報酬明細書の作成や点検ができるよう、事例、ロールプレイを通しながらより実践的な事務業務を演習形式で学ぶ。正しく診療録、診療報酬点数表、各種関連法を読み解き、実務に対応できる専門的技術を習得する事を目標とする。また、診療報酬の実例を通し、医療・福祉政策の現状についても触れる。

到達目標(学習の成果)

- 1. 医療事務職において業務の中心となる診療報酬について、多様な症例に対応できる算定方法の知識を獲得し診療報酬明細書の点検ができる(知識・技術)。
- 2. 診療録を読み取り、各法令、政策に基づき正確に診療報酬明細書に反映し、それを説明できる。 (知識)。

回	表題	学習内容
1回	授業の進め方 明細書の点検①	授業計画、授業方法、予習・復習、成績評価の基準・方法等を知る。 診療報酬明細書における患者基本情報について理解する。 予習:シラバスを精読する。 復習:重要事項をノート等にまとめ、授業で示した課題を実践する。
2回	明細書の点検②	カルテとつきあわせ点検 実例① (点検の基礎的な実施方法) 予習:該当する事例に目を通し、点検箇所を検討する。 復習:重要事項をノート等にまとめ、授業で示した課題を実践する。
3回	明細書の点検③	カルテとつきあわせ点検 実例② (時間外来院患者ケース) 予習:該当する事例に目を通し、点検方法を検討する。 復習:重要事項をノート等にまとめ、授業で示した課題を実践する。
4回	明細書の点検④	カルテとつきあわせ点検 実例③(乳幼児患者ケース) 予習:該当する事例に目を通し、点検方法を検討する。 復習:重要事項をノート等にまとめ、授業で示した課題を実践する。
5 回	明細書の点検⑤	カルテとつきあわせ点検 実例④ (幼児患者ケース) 予習:該当する事例に目を通し、点検方法を検討する。 復習:重要事項をノート等にまとめ、授業で示した課題を実践する。
6 回	明細書の点検⑥	カルテとつきあわせ点検 実例⑤ (悪性腫瘍を主病とする患者ケース) 予習:該当する事例に目を通し、点検方法を検討する。 復習:重要事項をノート等にまとめ、授業で示した課題を実践する。
7回	明細書の点検⑦	カルテとつきあわせ点検 実例⑥ (在宅医療患者ケース) 予習:該当する事例に目を通し、点検方法を検討する。 復習:重要事項をノート等にまとめ、授業で示した課題を実践する。
8回	明細書の点検⑧	カルテとつきあわせ点検 実例⑦ (院外処方ケース) 予習:該当する事例に目を通し、点検方法を検討する。 復習:重要事項をノート等にまとめ、授業で示した課題を実践する。
9回	明細書の点検⑨	カルテとつきあわせ点検 実例® (処置患者ケース) 予習:該当する事例に目を通し、点検方法を検討する。 復習:重要事項をノート等にまとめ、授業で示した課題を実践する。
10回	明細書の点検⑩	カルテとつきあわせ点検 実例⑨ (日帰り手術ケース) 予習:該当する事例に目を通し、点検方法を検討する。

		復習:重要事項をノート等にまとめ、授業で示した課題を実践する。
11回	明細書の点検⑪	カルテとつきあわせ点検 実例⑩ (検査項目 内視鏡下生検法等) 予習:該当する事例に目を通し、点検方法を検討する。 復習:重要事項をノート等にまとめ、授業で示した課題を実践する。
12回	明細書の点検⑫	カルテとつきあわせ点検 実例⑪(入院手術ケース) 予習:該当する事例に目を通し、点検方法を検討する。 復習:重要事項をノート等にまとめ、授業で示した課題を実践する。
13回	明細書の点検⑬	カルテとつきあわせ点検 実例⑫ (即日入院ケース) 予習:該当する事例に目を通し、点検方法を検討する。 復習:重要事項をノート等にまとめ、授業で示した課題を実践する。
14回	明細書の点検⑭	カルテとつきあわせ点検 実例③ (リハビリテーションケース) 予習:該当する事例に目を通し、点検方法を検討する。 復習:重要事項をノート等にまとめ、授業で示した課題を実践する。
15回	明細書の点検⑮	総合演習を通して、診療報酬算定要件に則り、正確なレセプト点検を理解し実践する。 予習:該当する事例に目を通し、点検方法を検討する。 復習:重要事項をノート等にまとめ、授業で示した課題を実践する。

この科目は、演習科目(1単位)ですので、授業時間の他に15時間の授業外学習が必要です。

- ・事前にテキストを精読し、要点をまとめること。
- ・講義内で提示する学習課題(ワークシート)を実施し、復習を行うこと。
- ・レセプト点検攻略ドリル等問題集は繰り返し実践すること。

成績評価の基準・方法

評価項目	S	A	В	С	D
1. 症例に基づく正確なレセプト点検	完全にない	若干不十分	不十分な点	到達目標の	到達目標を
の熟達度	しほぼ完全	な点は認め	は認められ	最低限を達	達成してい
2. 診療録の読解力とレセプト反映の	に到達目標	られるもの	るものの、	成してい	ない。
実践力	を達成して	の、到達目	到達目標を	る。	
	いる。	標を達成し	達成してい		
		ている。	る。		
100点法	90点以上	80点以上	70点以上	60点以上	59点以下

定期試験(筆記試験) 50%

·授業内課題 20%

・授業内小テスト 30%

教科書

- ・ニチイ学館著『医療保険制度の仕組み(医科・歯科)』 ニチイ学館 第2024版 2,750円
- ・ニチイ学館著『診療報酬の算定ルール』 ニチイ学館 第2024版 3,300円
- ・ニチイ学館著『レセプト点検』 ニチイ学館 第2024版 2,750円
- ・ニチイ学館著『医療事務講座 医科スタディブック』 ニチイ学館 第2024版 1,320円
- ·社会保険研究所著『医科診療報酬点数表 点数早見表』 社会保険研究所 令和6年4月版 2,970円
- ・ニチイ学館著『完全攻略!!一般財団法人日本医療教育財団医療事務技能審査試験 受験対策問題集<医科>問題編・解答編』 ニチイ学館 2024版 3,982円
- ・ニチイ学館著『医科ハンドブック(医科)』 ニチイ学館 2022年版 1,886円

参考書等

・医学通信社著『診療報酬点数早見表(医科)』医学通信社 2024年版 5,060円

履修上の注意・学習支援

- ・事前に電卓を用意し、教科書及び電卓は、授業時には必ず持参すること。
- ・GoogleClassroomにて課題等連絡を行うため、必ず確認すること。
- ・不明な点は自主的に質問すること。
- ・授業への積極的な姿勢を望む。

オフィスアワー

疑問点があれば授業時間内及びオフィスアワーを利用し解決すること。(事前予約の上、時間を設定する。)なお、オフィスアワーの具体的な日時は追って指示する。 ※担当者アドレス: kitazume@ujc.ac. jp

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
21 HS1SE42	医療事務関連法規 I	1年	後期	講義	2	北爪 あゆみ

医療・福祉の現場に関連する専門知識を法律・政策という観点から学習することにより、幅広い対応力と実践力を身に付けることを目標とする。医療保険制度の中心となる健康保険法の理解を深め、病院を訪れる多様な人の状況に沿った適切な対応ができる知識を学習する。また、保険医やコメディカルが遵守すべき保険医療機関及び保健医療用担当規則、医療・社会福祉関連法規についての知識を習得する。

到達目標(学習の成果)

- 1. 医療事務業務を適切に遂行するために必要な知識である健康保険法、国民健康保険法について説明ができる。 (知識)
- 2. 療養担当規則、福祉に関連する法律の内容について理解し説明できる。 (知識・技術)

回	表題	学習内容				
1回	授業の進め方 医療機関と医事業務	授業計画、授業方法、予習・復習、成績評価の基準・方法等を知る。 医療機関の分類と体系、その役割について学ぶ。 予習:シラバスを精読する。 復習:専門用語、重要事項をノート等にまとめる。				
2回	健康保険法①	健康保険の体系(社保・国保等)について学ぶ。 予習:テキストの該当箇所を読む。 復習:専門用語、重要事項をノート等にまとめ、授業で示した課題等を 行う。				
3回	健康保険法②	健康保険法における保険給付(保険給付の種類)について学ぶ。 予習:テキストの該当箇所を読む。 復習:専門用語、重要事項をノート等にまとめ、授業で示した課題等を 行う。				
4回	健康保険法③	健康保険法における保険給付(高額療養費・移送費等)について学ぶ。 予習:テキストの該当箇所を読む。 復習:専門用語、重要事項をノート等にまとめ、授業で示した課題等を 行う。				
5回	健康保険法④	健康保険法における保険給付(傷病手当金・出産育児一時金等)について学ぶ。 予習:テキストの該当箇所を読む。 復習:専門用語、重要事項をノート等にまとめ、授業で示した課題等を行う。				
6回	健康保険法⑤	健康保険法における保険給付(給付調整・給付制限等)について学ぶ。 予習:テキストの該当箇所を読む。 復習:専門用語、重要事項をノート等にまとめ、授業で示した課題等を 行う。				
7 回	健康保険法⑥	国民健康保険制度について学ぶ。 予習:テキストの該当箇所を読む。 復習:専門用語、重要事項をノート等にまとめ、授業で示した課題等を 行う。				
8回	療養担当規則①	保険医療機関療養担当規則について学ぶ。 予習:テキストの該当箇所を読む。 復習:専門用語、重要事項をノート等にまとめ、授業で示した課題等を				

		行う。
9回	療養担当規則②	保健医療養担当規則について学ぶ。 予習:テキストの該当箇所を読む。 復習:専門用語、重要事項をノート等にまとめ、授業で示した課題等を 行う。
10回	福祉に関する仕組み①	生活保護法について学ぶ。 予習:テキストの該当箇所を読む。 復習:専門用語、重要事項をノート等にまとめ、授業で示した課題等を 行う。
11回	福祉に関する仕組み②	老人福祉法について学ぶ。 予習:テキストの該当箇所を読む。 復習:専門用語、重要事項をノート等にまとめ、授業で示した課題等を 行う。
12回	福祉に関する仕組み③	身体障害者福祉法、障害者総合支援法について学ぶ。 予習:テキストの該当箇所を読む。 復習:専門用語、重要事項をノート等にまとめ、授業で示した課題等を 行う。
13回	福祉に関する仕組み④	障害者基本法、精神保健福祉法について学ぶ。 予習:テキストの該当箇所を読む。 復習:専門用語、重要事項をノート等にまとめ、授業で示した課題等を 行う。
14回	福祉に関する仕組み⑤	介護保険法について学ぶ。 予習:テキストの該当箇所を読む。 復習:専門用語、重要事項をノート等にまとめ、授業で示した課題等を 行う。
15回	福祉に関する仕組み⑥	医療関連法規の必要性について考える。 予習:テキストの該当箇所を読む。 復習:専門用語、重要事項をノート等にまとめ、授業で示した課題等を 行う。

この科目は、講義科目(2単位)ですので、授業時間の他に60時間の授業外学習が必要です。

- ・事前にテキストを精読の上授業記録を残し、学習内容や関連事項についてはノート等にまとめること。
- ・講義内で提示する学習課題(ワークシート)を実施し、繰り返し復習を行うこと。

成績評価の基準・方法

評価項目	S	A	В	С	D
1. 健康保険法の理解度	完全にない	若干不十分	不十分な点	到達目標の	到達目標を
2. 国民健康保険法の理解度	しほぼ完全	な点は認め	は認められ	最低限を達	達成してい
3. 療養担当規則の理解度	に到達目標	られるもの	るものの、	成してい	ない。
4. 福祉に関連する法規の理解度	を達成して	の、到達目	到達目標を	る。	
	いる。	標を達成し	達成してい		
		ている。	る。		
100点法	90点以上	80点以上	70点以上	60点以上	59点以下

・定期試験 (筆記試験)50%・授業内課題20%・授業内小テスト30%

・ニチイ学館著『医療保険制度の仕組み(医科・歯科)』 ニチイ学館 第2024版 2,750円

- ・ニチイ学館著『メディカルドクターズクラーク講座 (医師事務作業補助過程) テキスト1』 ニチイ学館 2023版 2,410円
- ・ニチイ学館著『メディカルドクターズクラーク講座(医師事務作業補助過程)テキスト3』 ニチイ学館 2023版 2,410円
- ・ニチイ学館著『医科ハンドブック (医科)』 ニチイ学館 2022年版 1,886円
- ・ニチイ学館著『完全攻略!!一般財団法人日本医療教育財団医療事務技能審査試験 受験対策問題集<医科>問題編・解答編』 ニチイ学館 2024版 3,982円

参考書等

・医学通信社著『診療報酬点数早見表(医科)』医学通信社 2024年版 5,060円

履修上の注意・学習支援

- ・事前に電卓を用意し、教科書及び電卓は、授業時に必ず持参すること。
- ・不明な点は自主的に質問すること。
- ・GoogleClassroomにて課題等連絡を行うため、必ず確認すること。
- ・授業への積極的な姿勢を望む。

オフィスアワー

疑問点があれば授業時間内及びオフィスアワーを利用し解決すること。(事前予約の上、時間を設定する)なお、オフィスアワーの具体的な日時は追って指示する。 ※担当者アドレス: kitazume@ujc. ac. jp

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
21 HS1SE43	医療事務関連法規Ⅱ	1年	後期	講義	2	北爪 あゆみ

医療事務関連法規 I の内容を踏まえ、医療・福祉の現場に関連する法規、医療・福祉政策の理解を深めることを目標とする。特に、公費負担制度をはじめ、労働者災害補償保険法、自動者損害賠償保障法等医療に関連する法規を通し、現場での多様なケースに対応できる知識を深める。また、個人情報保護法などの法規・政策にも触れ、医療事務として遵守すべき事務と患者の守られる権利についても学習する。

到達目標(学習の成果)

- 1. 医療保険制度ならびに関連する法規について、説明ができる。 (知識)
- 2. 医療事務として遵守すべき医療現場で守られている個人情報保護法、安全管理対策について説明・対応ができる。(知識・技術)

CACHI FE				
旦	表題	学習内容		
1回	授業の進め方 社会保障制度	授業計画、授業方法、予習・復習、成績評価の基準・方法等を知る。 我が国の社会保障制度の概要について学ぶ。 予習:シラバスを精読する。 復習:専門用語、重要事項をノート等にまとめる。		
2回	医療保険制度①	保険診療の概要とそのしくみについて学ぶ。 予習:テキストの該当箇所を読む。 復習:専門用語、重要事項をノート等にまとめ、授業で示した課題等を 行う。		
3回	医療保険制度②	高齢者の医療の確保に関する法律について学ぶ。 予習:テキストの該当箇所を読む。 復習:専門用語、重要事項をノート等にまとめ、授業で示した課題等を 行う。		
4回	公費負担制度①	地域保健法の概要について学ぶ。 予習:テキストの該当箇所を読む。 復習:専門用語、重要事項をノート等にまとめ、授業で示した課題等を 行う。		
5 回	公費負担制度②	公費負担制度の概要について学ぶ。 予習:テキストの該当箇所を読む。 復習:専門用語、重要事項をノート等にまとめ、授業で示した課題等を 行う。		
6 回	医療関連法規①	自動車損害賠償保障法について学ぶ。 予習:テキストの該当箇所を読む。 復習:専門用語、重要事項をノート等にまとめ、授業で示した課題等を 行う。		
7回	医療関連法規②	労働者災害補償保険法について学ぶ。 予習:テキストの該当箇所を読む。 復習:専門用語、重要事項をノート等にまとめ、授業で示した課題等を 行う。		
8回	医療関連法規③	医療法について学ぶ。 予習:テキストの該当箇所を読む。 復習:専門用語、重要事項をノート等にまとめ、授業で示した課題等を 行う。		

9回	医療関連法規④	医師法について学ぶ。 予習:テキストの該当箇所を読む。 復習:専門用語、重要事項をノート等にまとめ、授業で示した課題等を 行う。
10回	医療関連法規⑤	保健師助産師看護師法について学ぶ。 予習:テキストの該当箇所を読む。 復習:専門用語、重要事項をノート等にまとめ、授業で示した課題等を 行う。
11回	医療関連法規⑥	感染症法について学ぶ。 予習:テキストの該当箇所を読む。 復習:専門用語、重要事項をノート等にまとめ、授業で示した課題等を 行う。
12回	個人情報保護法	個人情報保護法、ガイドラインの概要・重要性を学ぶ。 予習:テキストの該当箇所を読む。 復習:専門用語、重要事項をノート等にまとめ、授業で示した課題等を 行う。
13回	安全管理①	院内感染防止と感染症のサーベランス事業について学ぶ。 予習:テキストの該当箇所を読む。 復習:専門用語、重要事項をノート等にまとめ、授業で示した課題等を 行う。
14回	安全管理②	医療機関における安全管理について学ぶ。 予習:テキストの該当箇所を読む。 復習:専門用語、重要事項をノート等にまとめ、授業で示した課題等を 行う。
15回	医療関連法規の現状	医療関連法規の現状と課題について考える。 予習:テキストの該当箇所を読む。 復習:専門用語、重要事項をノート等にまとめ、授業で示した課題等を 行う。

この科目は、講義科目(2単位)ですので、授業時間の他に60時間の授業外学習が必要です。

- ・事前にテキストを精読の上授業記録を残し、学習内容や関連事項についてはノート等にまとめること。
- ・講義内で提示する学習課題(ワークシート)を実施し、繰り返し復習を行うこと。

成績評価の基準・方法

評価項目	S	A	В	С	D
1. 医療保険制度の理解	完全にない	若干不十分	不十分な点	到達目標の	到達目標を
2. 医療関連法規の理解	しほぼ完全	な点は認め	は認められ	最低限を達	達成してい
3. 個人情報保護・安全管理対策の理解	に到達目標	られるもの	るものの、	成してい	ない。
	を達成して	の、到達目	到達目標を	る。	
	いる。	標を達成し	達成してい		
		ている。	る。		
100点法	90点以上	80点以上	70点以上	60点以上	59点以下

・定期試験(筆記試験) 50%・授業内課題 20%

・授業内小テスト 30%

教科書

- ・ニチイ学館著『医療保険制度の仕組み(医科・歯科)』 ニチイ学館 第2024版 2,750円
- ・ニチイ学館著『メディカルドクターズクラーク講座(医師事務作業補助過程)テキスト 1 』 ニチイ学館 2023版 2,410円

- ・ニチイ学館著『メディカルドクターズクラーク講座 (医師事務作業補助過程) テキスト 3 』 ニチイ学館 2023版 2,410円
- ・ニチイ学館著『医科ハンドブック(医科)』 ニチイ学館 2022年版 1,886円
- ・ニチイ学館著『完全攻略!!一般財団法人日本医療教育財団医療事務技能審査試験 受験対策問題集<医科>問題編・解答編』 ニチイ学館 2024版 3,982円

参考書等

・医学通信社著『診療報酬点数早見表 (医科)』医学通信社 2024年版 5,060円

履修上の注意・学習支援

- ・事前に電卓を用意し、教科書及び電卓は、授業時に必ず持参すること。
- ・不明な点は自主的に質問すること。
- ・GoogleClassroomにて課題等連絡を行うため、必ず確認すること。
- ・授業への積極的な姿勢を望む。

オフィスアワー

疑問点があれば授業時間内及びオフィスアワーを利用し解決すること。(事前予約の上、時間を設定する)なお、オフィスアワーの具体的な日時は追って指示する。 ※担当者アドレス: kitazume@ujc. ac. jp

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
21 HS2SE44	医療事務作業実践演習 I	2年	前期	演習	1	北爪 あゆみ

医師事務作業補助の必要性と意義について学び、病院勤務医の負担軽減のために必要な知識・技術を習得し、チーム医療に貢献するために自ら実践できる力を養うことを目標とする。医師事務作業補助者としての業務を想定し、診療録記載時の留意点や診断書作成についてモデルケースを元に演習形式で学ぶ。また、DPC制度、電子カルテシステムといった近年の医療現場のシステムにも触れ、診療録を中心とする各文書の重要性について理解を深め、信頼できる事務処理能力の向上に努める。

到達目標(学習の成果)

- 1. 医師事務作業補助者の定義及び診療記録の種類と意義について説明できる。(知識)
- 2. 医療事務職および医師事務作業補助者の取り扱う診療記録の重要性について理解し、診療記録を基に適切な診断書作成ができる。 (技術)

垣	表題	学習内容
1回	授業の進め方 医師事務作業補助者とは	授業計画、授業方法、予習・復習、成績評価の基準・方法等を知る。 医師事務作業補助者の定義、診療報酬制度における医師事務作業補助 体制加算の概要について学ぶ。 予習:シラバスを精読する。 復習:重要事項をノート等にまとめ、授業で示した課題を実践する。
2回	診療記録①	診療録記載の法的根拠、診療録の定義等について学ぶ。 予習:テキストの該当箇所を読む。 復習:重要事項をノート等にまとめ、授業で示した課題を実践する。
3回	診療記録②	診療記録記載の原則、診療録の様式と作成、POMRについて学ぶ。 予習:テキストの該当箇所を読む。 復習:重要事項をノート等にまとめ、授業で示した課題を実践する。
4回	診療記録③	外来診療録、入院診療録の代行入力について学ぶ。 予習:テキストの該当箇所を読む。 復習:重要事項をノート等にまとめ、授業で示した課題を実践する。
5回	診療記録④	検査・手術記録、分娩記録等について学ぶ。 診療録記載及び管理に関する病院機能評価について学ぶ。 予習:テキストの該当箇所を読む。 復習:重要事項をノート等にまとめ、授業で示した課題を実践する。
6 回	診療記録⑤	DPC について学ぶ。 予習:テキストの該当箇所を読む。 復習:重要事項をノート等にまとめ、授業で示した課題を実践する。
7回	診療記録⑥	電子カルテシステム (オーダリングシステム) の概略、電子カルテの 三原則・医療情報システムの安全管理について学ぶ。 予習:テキストの該当箇所を読む。 復習:重要事項をノート等にまとめ、授業で示した課題を実践する。
8回	診療記録⑦	医療情報システムの安全管理について学ぶ。 予習:テキストの該当箇所を読む。 復習:重要事項をノート等にまとめ、授業で示した課題を実践する。
9 回	診療記録の代行入力	電子署名および認証業務、手術・処置、検査等その他予約、オーダについて学ぶ。

		予習:テキストの該当箇所を読む。 復習:重要事項をノート等にまとめ、授業で示した課題を実践する。
10回	診断書作成①	診断書作成時の法的規制、一般的留意事項について学ぶ。 予習:テキストの該当箇所を読む。 復習:重要事項をノート等にまとめ、授業で示した課題を実践する。
11回	診断書作成②	診断書作成(病院書式)の作成例について学ぶ(診断書)。 予習:テキストの該当箇所を読む。 復習:重要事項をノート等にまとめ、授業で示した課題を実践する。
12回	診断書作成③	診断書作成(病院書式)の作成例について学ぶ(健康診断書)。 予習:テキストの該当箇所を読む。 復習:重要事項をノート等にまとめ、授業で示した課題を実践する。
13回	診断書作成④	診断書作成(病院書式)の作成例について学ぶ(出席停止証明書等)。 予習:テキストの該当箇所を読む。 復習:重要事項をノート等にまとめ、授業で示した課題を実践する。
14回	診断書作成⑤	診断書作成(公費、その他保険会社等)の作成例について学ぶ。 予習:テキストの該当箇所を読む。 復習:重要事項をノート等にまとめ、授業で示した課題を実践する。
15回	まとめ	診療録記載、診断書作成演習を通し、適切な文書作成方法を理解する。 予習:テキストの該当箇所を読む。 復習:重要事項をノート等にまとめ、授業で示した課題を実践する。

本科目は演習科目(1単位)です。授業時間30時間と準備学習15時間が必要になります。

- ・事前にテキストを精読し、要点をまとめること。
- ・講義内で提示する学習課題(ワークシート)を実施し、復習を行うこと。
- ・検定対策資料は繰り返し実践すること。

成績評価の基準・方法

評価項目	S	A	В	С	D
1. 医師事務作業補助者への理解度	完全にない	若干不十分	不十分な点	到達目標の	到達目標を
2. 診療記録への理解度	しほぼ完全	な点は認め	は認められ	最低限を達	達成してい
3. 正確な診断書作成の熟達度	に到達目標	られるもの	るものの、	成してい	ない。
	を達成して	の、到達目	到達目標を	る。	
	いる。	標を達成し	達成してい		
		ている。	る。		
100点法	90点以上	80点以上	70点以上	60点以上	59点以下

・定期試験(筆記試験) 50%

授業内課題 20%

・授業内小テスト 30%

教科書

- ・ニチイ学館著『メディカルドクターズクラーク講座(医師事務作業補助過程)テキスト 1 』 ニチイ学館 2023版 2,410円
- ・ニチイ学館著『メディカルドクターズクラーク講座 (医師事務作業補助過程) テキスト2』 ニチイ学館 2023版 2,410円
- ・ニチイ学館著『メディカルドクターズクラーク講座 (医師事務作業補助過程) テキスト 3』 ニチイ学館 2023版 2,410円
- ・ニチイ学館著『メディカルドクターズクラーク講座(医師事務作業補助過程)テキスト 4』 ニチイ学館 2023版 2,410円

- ・ニチイ学館著『メディカルドクターズクラーク講座 (医師事務作業補助過程) テキスト 5 』 ニチイ学館 2023版 2,410円
- ・ニチイ学館著『医科ハンドブック(医科)』 ニチイ学館 2022年版 1,886円
- ・ニチイ学館著『一般財団法人日本医療教育財団医師事務作業補助技能認定試験 受験のための 技能認定試験 問題集 問題編・解答編』 ニチイ学館 2024年版 2,933円

参考書等

- ・小林俊彦著『医師事務作業補助者のための32時間教本〜繰り返し読んでほしい解説書〜改定第4版』 洋學社 2022 3,300円
- ・医学通信社著『実務者のための医師事務作業補助実践入門BOOk』 医学通信社 2022-2023年版 2,420円

履修上の注意・学習支援

- ・事前に電卓を用意すること。
- ・教科書及び電卓は、授業時には必ず持参すること。
- ・不明な点は自主的に質問すること。
- ・授業への積極的な姿勢を望む。

オフィスアワー

疑問点があれば授業時間内及びオフィスアワーを利用し解決すること。(事前予約の上、時間を設定する)なお、オフィスアワーの具体的な日時は追って指示する。 ※担当者アドレス: kitazume@ujc. ac. jp

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
21 H S2SE45	医療事務作業実践演習Ⅱ	2年	前期	演習	1	北爪 あゆみ

医療事務作業実践演習 I の内容を踏まえ、証明書・申請書等医療機関で発行すべき文書の使用目的を理解し、各種書類の正しい作成方法を、モデルケースを用いながら演習形式で学ぶ。医療関連法規・政策を遵守し、医師事務作業補助として必要な技術であるより迅速かつ正確な事務処理の体得を目標とする。

到達目標(学習の成果)

- 1. 医療事務職および医師事務作業補助者の取り扱う各種医療文書の使用目的について説明ができる。(知識)
- 2. 医療機関にて発行・使用される証明書等書類について理解し、必要に応じた文書作成ができる。(技術)

旦	表題	学習内容
1 回	授業の進め方 医療文書の作成	授業計画、授業方法、予習・復習、成績評価の基準・方法等を知る。 医療文書作成業務、各種証明書・申請書等について学ぶ。 病院管理(医療サービスの特質、病院会計と病院経営)、院内統計と 調査について触れる。 予習:シラバスを精読する。 復習:重要事項をノート等にまとめ、授業で示した課題を実践する。
2回	医師事務作業補助演習①	入院、手術証明書の作成例について学ぶ。 予習:テキストの該当箇所を読み、要点を確認する。 復習:重要事項をノート等にまとめ、授業で示した課題を実践する。
3回	医師事務作業補助演習②	出生証明書の作成例について学ぶ。 予習:テキストの該当箇所を読み、要点を確認する。 復習:重要事項をノート等にまとめ、授業で示した課題を実践する。
4回	医師事務作業補助演習③	傷病手当金支給申請書について学ぶ。 予習:テキストの該当箇所を読み、要点を確認する。 復習:重要事項をノート等にまとめ、授業で示した課題を実践する。
5 回	医師事務作業補助演習④	死亡診断書・死体検案書について学ぶ。 予習:テキストの該当箇所を読み、要点を確認する。 復習:重要事項をノート等にまとめ、授業で示した課題を実践する。
6 回	医師事務作業補助演習⑤	院外処方せんについて学ぶ。 予習:テキストの該当箇所を読み、要点を確認する。 復習:重要事項をノート等にまとめ、授業で示した課題を実践する。
7 回	医師事務作業補助演習⑥	診療情報提供書について学ぶ。 予習:テキストの該当箇所を読み、要点を確認する。 復習:重要事項をノート等にまとめ、授業で示した課題を実践する。
8回	医師事務作業補助演習⑦	医療要否意見書について学ぶ。 予習:テキストの該当箇所を読み、要点を確認する。 復習:重要事項をノート等にまとめ、授業で示した課題を実践する。
9回	医師事務作業補助演習⑧	休業補償給付支給申請書について学ぶ。 予習:テキストの該当箇所を読み、要点を確認する。 復習:重要事項をノート等にまとめ、授業で示した課題を実践する。
10回	医師事務作業補助演習⑨	自動車賠償責任保険診断書について学ぶ。 予習:テキストの該当箇所を読み、要点を確認する。

		復習:重要事項をノート等にまとめ、授業で示した課題を実践する。
11回	医師事務作業補助演習⑩	治療用装具証明書について学ぶ。 予習:テキストの該当箇所を読み、要点を確認する。 復習:重要事項をノート等にまとめ、授業で示した課題を実践する。
12回	医師事務作業補助演習⑪	介護保険主治医意見書について学ぶ。 予習:テキストの該当箇所を読み、要点を確認する。 復習:重要事項をノート等にまとめ、授業で示した課題を実践する。
13回	医学知識	医学一般について触れる。 予習:テキストの該当箇所を読み、要点を確認する。 復習:重要事項をノート等にまとめ、授業で示した課題を実践する。
14回	薬学知識	薬学一般について触れる。 予習:テキストの該当箇所を読み、要点を確認する。 復習:重要事項をノート等にまとめ、授業で示した課題を実践する。
15回	まとめ	各種証明書、文書作成演習を通し、適切な文書作成方法を理解する。

この科目は、演習科目(1単位)ですので、授業時間の他に15時間の授業外学習が必要です。

- ・事前にテキストを精読し、要点をまとめること。
- ・講義内で提示する学習課題(ワークシート)を実施し、復習を行うこと。
- ・検定対策資料は繰り返し実践すること。

成績評価の基準・方法

評価項目	S	A	В	C	D
1. 各種医療文書の意義、目的の理解度 2. 正確な各種文書作成の熟達度	完全にない しほぼ完全 に到達目標 を達成して いる。	若たはるも産成ののでである。	不十分かられ おいる もの目標 を は で で で に で に で の の に で に で に で に に で に に に に に に に に に に に に に	到達目標の 最低限を達 成してい る。	到達目標を 達成してい ない。
		ている。	る。		
100点法	90点以上	80点以上	70点以上	60点以上	59点以下

・定期試験(筆記試験) 50%・授業内課題 20%・授業内小テスト 30%

教科書

- ・ニチイ学館著『メディカルドクターズクラーク講座 (医師事務作業補助過程) テキスト1』 ニチイ学館 2023版 2,410円
- ・ニチイ学館著『メディカルドクターズクラーク講座(医師事務作業補助過程)テキスト 2 』 ニチイ学館 2023版 2,410円
- ・ニチイ学館著『メディカルドクターズクラーク講座(医師事務作業補助過程)テキスト 3 』 ニチイ学館 2023版 2,410円
- ・ニチイ学館著『メディカルドクターズクラーク講座(医師事務作業補助過程)テキスト 4』 ニチイ学館 2023版 2,410円
- ・ニチイ学館著『メディカルドクターズクラーク講座(医師事務作業補助過程)テキスト 5 』 ニチイ学館 2023版 2,410円
- ・ニチイ学館著『医科ハンドブック(医科)』 ニチイ学館 2022年版 1,886円
- ・ニチイ学館著『一般財団法人日本医療教育財団医師事務作業補助技能認定試験 受験のための 技能認定試験 問題集 問題編・解答編』 ニチイ学館 2024年版 2,933円

参考書等

・小林俊彦著『医師事務作業補助者のための32時間教本~繰り返し読んでほしい解説書~改定第4版』

洋學社 2022 3,300円

・医学通信社著『実務者のための医師事務作業補助実践入門BOOk』医学通信社 2022-2023年版 2,420円

履修上の注意・学習支援

- ・事前に電卓を用意し、教科書及び電卓は、授業時には必ず持参すること。
- ・GoogleClassroomにて課題等連絡を行うため、必ず確認すること。
- ・不明な点は自主的に質問すること。
- ・授業への積極的な姿勢を望む。

オフィスアワー

疑問点があれば授業時間内及びオフィスアワーを利用し解決すること。(事前予約の上、時間を設定する)なお、オフィスアワーの具体的な日時は追って指示する。 ※担当者アドレス: kitazume@ujc. ac. jp

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
21 HS1SE46	医療秘書	1年	前期	講義	2	北爪 あゆみ

福祉と医療事務の専門知識をもち、医療機関を訪れる人の立場に立ち寄り添う対応をするために必要な知識・教養を習得する事を目的とする。窓口業務の観点から医療サービスやホスピタリティ、医療機関の特色、守秘義務などの医療事務が遵守すべき基本的な法律・政策など、医療事務の応対において中心となる基本的知識を講義形式で学ぶ。

到達目標(学習の成果)

- 1. 医療事務職の具体的な業務内容を理解し、求められる資質を説明することができる(知識)。
- 2. 医療機関で業務に携わる際必要な応対・事務対応を実践することができる(方法・態度)。

	及太阳西					
回	表題	学習内容				
1回	授業の進め方 医療事務の業務・求め られる資質	授業計画、授業方法、予習・復習、成績評価の基準・方法等を知る。 医療事務の業務内容、コメディカルと医療事務の繋がりを学ぶ。また、医療事務として必要とされる資質を理解する。 予習:シラバスを精読する。 復習:専門用語、重要事項をノート等にまとめる。				
2回	受付・案内業務①	患者接遇の基本態度、身だしなみ、言葉遣いを理解する。 予習:テキストの該当箇所を読む。 復習:専門用語、重要事項をノート等にまとめ、授業で示した課題等を行う。				
3回	受付・案内業務②	患者への理解と援助、コミュニケーション技術(気配り、対応)を学ぶ。 予習:テキストの該当箇所を読む。 復習:専門用語、重要事項をノート等にまとめ、授業で示した課題等を行う。				
4回	受付・案内業務③	医療事務の業務の流れを理解する。 予習:テキストの該当箇所を読む。 復習:専門用語、重要事項をノート等にまとめ、授業で示した課題等を行う。				
5 回	受付・案内業務④	トラブル、クレーム応対について学ぶ。 予習:テキストの該当箇所を読む。 復習:専門用語、重要事項をノート等にまとめ、授業で示した課題等を行う。				
6 回	秘書実務①	来客応対について学ぶ。 予習:テキストの該当箇所を読む。 復習:専門用語、重要事項をノート等にまとめ、授業で示した課題等を行う。				
7 回	秘書実務②	外部との対応(郵便物、電話応対)を学ぶ。 予習:テキストの該当箇所を読む。 復習:専門用語、重要事項をノート等にまとめ、授業で示した課題等を行う。				
8回	秘書実務③	情報管理、文書作成の方法を理解する。 予習:テキストの該当箇所を読む。 復習:専門用語、重要事項をノート等にまとめ、授業で示した課題等を行う。				
9回	社会・組織①	保険の種類と被保険者証の知識を学ぶ。 予習:テキストの該当箇所を読む。 復習:専門用語、重要事項をノート等にまとめ、授業で示した課題等を行う。				
10回	社会・組織②	医療保険制度の位置づけ、仕組みについて理解する。 予習:テキストの該当箇所を読む。				

		復習:専門用語、重要事項をノート等にまとめ、授業で示した課題等を行う。
11回	社会・組織③	医療サービスとは何かを学び、医の倫理、守秘義務等を理解する。 予習:テキストの該当箇所を読む。 復習:専門用語、重要事項をノート等にまとめ、授業で示した課題等を行う。
12回	患者応対の実際①	窓口応対の事例(受付事例)から学ぶ。 予習:テキストの該当箇所を読む。 復習:専門用語、重要事項をノート等にまとめ、授業で示した課題等を行う。
13回	患者応対の実際②	窓口応対の事例(窓口での確認事項)から学ぶ。 予習:テキストの該当箇所を読む。 復習:専門用語、重要事項をノート等にまとめ、授業で示した課題等を行う。
14回	患者応対の実際③	窓口応対の事例(照会事例)から学ぶ。 予習:テキストの該当箇所を読む。 復習:専門用語、重要事項をノート等にまとめ、授業で示した課題等を行う。
15回	患者応対の実際④	総合実践の事例から窓口応対について考える。 予習:テキストの該当箇所を読む。 復習:専門用語、重要事項をノート等にまとめ、授業で示した課題等を行う。

この科目は、講義科目(2単位)ですので、授業時間の他に60時間の授業外学習が必要です。

- ・事前にテキストを精読の上授業記録を残し、学習内容や関連事項についてはノート等にまとめること。
- ・講義内で提示する学習課題(ワークシート)を実施し、繰り返し復習を行うこと。

成績評価の基準・方法

評価項目	S	A	В	С	D
1. 医療事務の業務内容への理解度	完全にない	若干不十分	不十分な点	到達目標の	到達目標を
2. 医療事務の求められる資質への理	しほぼ完全	な点は認め	は認められ	最低限を達	達成してい
解度	に到達目標	られるもの	るものの、	成してい	ない。
3. 応対力・事務力の熟達度	を達成して	の、到達目	到達目標を	る。	
	いる。	標を達成し	達成してい		
		ている。	る。		
100点法	90点以上	80点以上	70点以上	60点以上	59点以下

・定期試験(筆記試験) 50%・授業内課題 20%・授業内小テスト 30%

教科書

- ・ニチイ学館著『医療保険制度の仕組み(医科・歯科)』 ニチイ学館 第2024版 2,750円
- ・ニチイ学館著『医療現場での接遇マナー(医科・歯科)』 ニチイ学館 第2024版 2,200円
- ・ニチイ学館著『メディカルドクターズクラーク講座 (医師事務作業補助過程) テキスト3』 ニチイ学館 2023版 2,410円
- ・ニチイ学館著『メディカルドクターズクラーク講座(医師事務作業補助過程)テキスト 5 』 ニチイ学館 2023版 2,410円
- ・ニチイ学館著『医科ハンドブック (医科)』 ニチイ学館 2022年版 1,886円

参考書等

・医学通信社著『診療報酬点数早見表(医科)』医学通信社 2024年版 5,060円

履修上の注意・学習支援

- ・事前に電卓を用意し、教科書及び電卓は、授業時には必ず持参すること。
- ・GoogleClassroomにて課題等連絡を行うため、必ず確認すること。
- ・不明な点は自主的に質問すること。
- ・授業への積極的な姿勢を望む。

オフィスアワー

疑問点があれば授業時間内及びオフィスアワーを利用し解決すること。(事前予約の上、時間を設定する。)なお、オフィスアワーの具体的な日時は追って指示する。 ※担当者アドレス: kitazume@ujc. ac. jp

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
21HS1SE47	医療事務論Ⅱ	1年	後期	講義	2	北爪 あゆみ

医療事務論 I を踏まえ、カルテ症例を通じてより具体的な診療報酬明細書の作成方法について実践的に学ぶ。特に外来症例を取り上げ、医療機関を訪れる多種多様な方々の状況に応じた診療報酬請求事務の知識、技術の習得を目指す。また、医療・福祉に関する法的規則の学修を通し、幅広いケースにおいても対応できる実践力を身につける。

到達目標(学習の成果)

- 1. 医療事務が医療現場で求められる法、レセプト作成における算定要件、留意点を説明することができる(知識)。
- 2. 医療事務職において業務の中心となる診療報酬(外来)の基本的なレセプト点検ができるようになる(知識・技術)。

	DANIE				
□	表題	学習内容			
1 回	授業の進め方 診療報酬点数算定①	授業計画、授業方法、予習・復習、成績評価の基準・方法等を知る。 医療事務論 I の復習を通し、各項目の算定条件、注意事項について理解を深める。 予習:シラバスを精読する。 復習:専門用語、重要事項をノート等にまとめる。			
2回	診療報酬点数算定②	外来レセプト記載について理解する(基本診療料) 予習:テキストの該当箇所を読む。 復習:専門用語、重要事項をノート等にまとめ、授業で示した課題等 を行う。			
3回	診療報酬点数算定③	外来レセプト記載について理解する(医学管理料) 予習:テキストの該当箇所を読む。 復習:専門用語、重要事項をノート等にまとめ、授業で示した課題等 を行う。			
4回	診療報酬点数算定④	外来レセプト記載について理解する(在宅医療) 予習:テキストの該当箇所を読む。 復習:専門用語、重要事項をノート等にまとめ、授業で示した課題等 を行う。			
5 回	診療報酬点数算定⑤	外来レセプト記載について理解する(投薬料) 予習:テキストの該当箇所を読む。 復習:専門用語、重要事項をノート等にまとめ、授業で示した課題等 を行う。			
6 回	診療報酬点数算定⑥	外来レセプト記載について理解する(注射料) 予習:テキストの該当箇所を読む。 復習:専門用語、重要事項をノート等にまとめ、授業で示した課題等 を行う。			
7 回	診療報酬点数算定⑦	外来レセプト記載について理解する(処置・手術・麻酔料) 予習:テキストの該当箇所を読む。 復習:専門用語、重要事項をノート等にまとめ、授業で示した課題等 を行う。			
8回	診療報酬点数算定⑧	外来レセプト記載について理解する(検査・病理診断料) 予習:テキストの該当箇所を読む。			

		復習:専門用語、重要事項をノート等にまとめ、授業で示した課題等 を行う。
9回	診療報酬点数算定⑨	外来レセプト記載について理解する(画像診断料) 予習:テキストの該当箇所を読む。 復習:専門用語、重要事項をノート等にまとめ、授業で示した課題等 を行う。
10回	診療報酬点数算定⑩	外来レセプト記載について理解する(リハビリテーション等) 予習:テキストの該当箇所を読む。 復習:専門用語、重要事項をノート等にまとめ、授業で示した課題等 を行う。
11回	診療報酬算定要件①	診療報酬の内容を理解し、法的規則を学ぶ①(基本診療料・医学管理) 予習:テキストの該当箇所を読む。 復習:専門用語、重要事項をノート等にまとめ、授業で示した課題等を行う。
12回	診療報酬算定要件②	診療報酬の内容を理解し、法的規則を学ぶ②(在宅・投薬・注射) 予習:テキストの該当箇所を読む。 復習:専門用語、重要事項をノート等にまとめ、授業で示した課題等 を行う。
13回	診療報酬算定要件③	診療報酬の内容を理解し、法的規則を学ぶ③(処置・手術・麻酔) 予習:テキストの該当箇所を読む。 復習:専門用語、重要事項をノート等にまとめ、授業で示した課題等 を行う。
14回	診療報酬算定要件④	診療報酬の内容を理解し、法的規則を学ぶ④(検査・画像診断・その他) 予習:テキストの該当箇所を読む。 復習:専門用語、重要事項をノート等にまとめ、授業で示した課題等 を行う。
15回	診療報酬算定要件⑤	総合実践を通して、診療報酬算定要件にかかる法的規則を遵守した、 正確な外来レセプト記載を理解する。 予習:テキストの該当箇所を読む。 復習:専門用語、重要事項をノート等にまとめ、授業で示した課題等 を行う。

この科目は、講義科目(2単位)ですので、授業時間の他に60時間の授業外学習が必要です。

- ・事前にテキストを精読の上授業記録を残し、学習内容や関連事項についてはノート等にまとめること。
- ・講義内で提示する学習課題(ワークシート)を実施し、繰り返し復習を行うこと。
- ・レセプト点検攻略ドリル等問題集は繰り返し実践すること。

成績評価の基準・方法

評価項目	S	A	В	C	D
1. 診療報酬算定における留意点の理解	完全にない	若干不十分	不十分な点	到達目標の	到達目標を
度	しほぼ完全	な点は認め	は認められ	最低限を達	達成してい
2. 外来レセプト点検の熟達度	に到達目標	られるもの	るものの、	成してい	ない。
	を達成して	の、到達目	到達目標を	る。	
	いる。	標を達成し	達成してい		
		ている。	る。		
100点法	90点以上	80点以上	70点以上	60点以上	59点以下

· 定期試験 (筆記試験) 50%

・授業内課題 20%・授業内小テスト 30%

教科書

- ・ニチイ学館著『医療保険制度の仕組み(医科・歯科)』 ニチイ学館 第2024版 2,750円
- ・ニチイ学館著『診療報酬の算定ルール』 ニチイ学館 第2024版 3,300円
- ・ニチイ学館著『レセプト点検』 ニチイ学館 第2024版 2,750円
- ・ニチイ学館著『医療事務講座 医科スタディブック』 ニチイ学館 第2024版 1,320円
- ·社会保険研究所著『医科診療報酬点数表 点数早見表』 社会保険研究所 令和6年4月版 2,970円
- ・ニチイ学館著『完全攻略!!一般財団法人日本医療教育財団医療事務技能審査試験 受験対策問題集<医科>問題編・解答編』 ニチイ学館 2024版 3,982円
- ・ニチイ学館著『医科ハンドブック(医科)』 ニチイ学館 2022年版 1,886円

参考書等

・医学通信社著『診療報酬点数早見表 (医科)』医学通信社 2024年版 5,060円

履修上の注意・学習支援

- ・事前に電卓を用意し、教科書及び電卓は、授業時には必ず持参すること。
- ・GoogleClassroomにて課題等連絡を行うため、必ず確認すること。
- ・不明な点は自主的に質問すること。
- ・授業への積極的な姿勢を望む。

オフィスアワー

疑問点があれば授業時間内及びオフィスアワーを利用し解決すること。(事前予約の上、時間を設定する。)なお、オフィスアワーの具体的な日時は追って指示する。 ※担当者アドレス: kitazume@ujc.ac.jp

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
21HS1SE48	医療事務論Ⅲ	1年	後期	講義	2	北爪 あゆみ

医療事務論 I を踏まえ、カルテ症例を通じてより具体的な診療報酬明細書の作成方法について実践的に学ぶ。特に入院症例を取り上げ、医療機関を訪れる多種多様な方々の状況に応じた診療報酬請求事務の知識、技術の習得を目指す。また、外来症例・入院症例の特性を理解し、医療・福祉政策の観点からより専門的に対応できる実践力を身につける。

到達目標(学習の成果)

- 1. 外来・入院それぞれの診療報酬の特性を正確に理解し、説明することができる(知識)
- 2. 医療事務職において業務の中心となる診療報酬(入院)の基本的なレセプト点検ができるようになる(知識・技術)。

	-t- tre	MA VIVI L. pha
回	表題	学習内容
1 回	授業の進め方 診療報酬点数算定①	授業計画、授業方法、予習・復習、成績評価の基準・方法等を知る。 外来症例と入院症例の診療報酬算定上の違いについて理解を深める。 予習:シラバスを精読する。 復習:専門用語、重要事項をノート等にまとめる。
2回	診療報酬点数算定②	入院料の算定方法、留意点について理解する。 予習:テキストの該当箇所を読む。 復習:専門用語、重要事項をノート等にまとめ、授業で示した課題等を行う。
3回	診療報酬点数算定③	食事療養費の算定方法、留意点について理解する。 予習:テキストの該当箇所を読む。 復習:専門用語、重要事項をノート等にまとめ、授業で示した課題等を行う。
4回	診療報酬点数算定④	入院時における医学管理等の算定方法、留意点について理解する。 予習:テキストの該当箇所を読む。 復習:専門用語、重要事項をノート等にまとめ、授業で示した課題等を行う。
5 回	診療報酬点数算定⑤	入院時における投薬の算定方法、留意点について理解する。 予習:テキストの該当箇所を読む。 復習:専門用語、重要事項をノート等にまとめ、授業で示した課題等を行う。
6 回	診療報酬点数算定⑥	入院時における注射の算定方法、留意点について理解する。 予習:テキストの該当箇所を読む。 復習:専門用語、重要事項をノート等にまとめ、授業で示した課題等を行う。
7 回	診療報酬点数算定⑦	入院時における処置の算定方法、留意点について理解する。 予習:テキストの該当箇所を読む。 復習:専門用語、重要事項をノート等にまとめ、授業で示した課題等を行う。
8回	診療報酬点数算定⑧	入院時における手術の算定方法、留意点について理解する。 予習:テキストの該当箇所を読む。 復習:専門用語、重要事項をノート等にまとめ、授業で示した課題等を行う。
9回	診療報酬点数算定⑨	入院時における麻酔の算定方法、留意点について理解する。 予習:テキストの該当箇所を読む。 復習:専門用語、重要事項をノート等にまとめ、授業で示した課題等を行う。
10回	診療報酬点数算定⑩	入院時における検査・画像の算定方法、留意点について理解する。 予習:テキストの該当箇所を読む。

		復習:専門用語、重要事項をノート等にまとめ、授業で示した課題等を行う。
11回	診療報酬点数算定⑪	入院レセプトの作成方法について理解する(症例①)(入院基本料等) 予習:テキストの該当箇所を読む。 復習:専門用語、重要事項をノート等にまとめ、授業で示した課題等を行う。
12回	診療報酬点数算定⑫	入院レセプトの作成方法について理解する(症例②)(投薬・注射) 予習:テキストの該当箇所を読む。 復習:専門用語、重要事項をノート等にまとめ、授業で示した課題等を行う。
13回	診療報酬点数算定⑬	入院レセプトの作成方法について理解する(症例③)(処置・手術・麻酔) 予習:テキストの該当箇所を読む。 復習:専門用語、重要事項をノート等にまとめ、授業で示した課題等を行う。
14回	診療報酬点数算定⑭	入院レセプトの作成方法について理解する(症例④)(検査・画像診断) 予習:テキストの該当箇所を読む。 復習:専門用語、重要事項をノート等にまとめ、授業で示した課題等を行う。
15回	診療報酬点数算定⑮	総合実践を通して、診療報酬算定要件にかかる法的規則を遵守した、正確な外入院レセプト記載を理解する。 予習:テキストの該当箇所を読む。 復習:専門用語、重要事項をノート等にまとめ、授業で示した課題等を行う。

この科目は、講義科目(2単位)ですので、授業時間の他に60時間の授業外学習が必要です。

- ・事前にテキストを精読の上授業記録を残し、学習内容や関連事項についてはノート等にまとめること。
- ・講義内で提示する学習課題(ワークシート)を実施し、復習を行うこと。
- ・レセプト点検攻略ドリル等問題集は繰り返し実践すること。

成績評価の基準・方法

評価項目	S	A	В	С	D
1. 外来・入院レセプトの特性につい	完全にない	若干不十分	不十分な点	到達目標の	到達目標を
ての理解度	しほぼ完全	な点は認め	は認められ	最低限を達	達成してい
2. 入院レセプト点検の熟達度	に到達目標	られるもの	るものの、	成してい	ない。
	を達成して	の、到達目	到達目標を	る。	
	いる。	標を達成し	達成してい		
		ている。	る。		
100点法	90点以上	80点以上	70点以上	60点以上	59点以下

・定期試験(筆記試験) 50%・授業内課題 20%・授業内小テスト 30%

教科書

- ・ニチイ学館著『医療保険制度の仕組み(医科・歯科)』 ニチイ学館 第2024版 2,750円
- ・ニチイ学館著『診療報酬の算定ルール』 ニチイ学館 第2024版 3,300円
- ・ニチイ学館著『レセプト点検』 ニチイ学館 第2024版 2,750円
- ・ニチイ学館著『医療事務講座 医科スタディブック』 ニチイ学館 第2024版 1,320円
- 社会保険研究所著『医科診療報酬点数表 点数早見表』 社会保険研究所 令和6年4月版 2,970円
- ・ニチイ学館著『完全攻略!!一般財団法人日本医療教育財団医療事務技能審査試験 受験対策問題集<医科>問題編・解答編』 ニチイ学館 2024版 3,982円
- ・ニチイ学館著『医科ハンドブック (医科)』 ニチイ学館 2022年版 1,886円

参考書等

・医学通信社著『診療報酬点数早見表(医科)』医学通信社 2024年版 5,060円

履修上の注意・学習支援

- ・事前に電卓を用意し、教科書及び電卓は、授業時には必ず持参すること。
- ・GoogleClassroomにて課題等連絡を行うため、必ず確認すること。
- ・不明な点は自主的に質問すること。
- ・授業への積極的な姿勢を望む。

オフィスアワー

疑問点があれば授業時間内及びオフィスアワーを利用し解決すること。(事前予約の上、時間を設定する。)なお、オフィスアワーの具体的な日時は追って指示する。 ※担当者アドレス: kitazume@ujc.ac. jp

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
21 HS2SE49	医療事務コンピュータ 処理演習	2	後期	演習	1	勅使河原 隆行

医療機関で必要とされているコンピュータの知識・技術について学ぶことを目的とする。具体的には、情報セキュリティや個人情報保護に関する事項、SNS の適正な活用方法、Microsoft Office をはじめ、各種医療事務コンピュータの活用について学ぶ。

到達目標(学習の成果)

- 1. 個人情報保護や SNS について理解し、医療機関においてコンピュータを利用するにあたってのモラルに ついての知識を身につける。 (知識)
- 2. 医療機関で必要とされるコンピュータの操作方法を学び、各種処理ができるようになる。 (技術・態度)

	士 時	以未们 回 以未们 回
田	表題	学習内容
1回	授業の進め方 情報セキュリティ	授業計画、授業方法、予習・復習、成績評価の基準・方法等を知る。 個人情報保護、情報倫理、セキュリティについて 予習:新聞等で関心を持った医療事務に関する記事を切り抜く。 復習:講義で取り上げた医療事務に関する内容を復習する。
2回	SNS の活用(1)	SNS の適正な活用方法(Facebook、X(旧twitter) など) 予習:新聞等で関心を持った医療事務に関する記事を切り抜く。 復習:講義で取り上げた医療事務に関する内容を復習する。
3回	SNS の活用(2)	SNS のリスクマネジメント 予習:新聞等で関心を持った医療事務に関する記事を切り抜く。 復習:講義で取り上げた医療事務に関する内容を復習する。
4回	文書作成ソフトの活用(1)	医療機関で必要とされる word の活用 (人的資源管理) 予習:新聞等で関心を持った医療事務に関する記事を切り抜く。 復習:講義で取り上げた医療事務に関する内容を復習する。
5 回	文書作成ソフトの活用(2)	医療機関で必要とされる word の活用 (労務管理) 予習:新聞等で関心を持った医療事務に関する記事を切り抜く。 復習:講義で取り上げた医療事務に関する内容を復習する。
6 回	文書作成ソフトの活用(3)	医療機関で必要とされる word の活用 (患者管理) 予習:新聞等で関心を持った医療事務に関する記事を切り抜く。 復習:講義で取り上げた医療事務に関する内容を復習する。
7 回	文書作成ソフトの活用(4)	医療機関で必要とされる word の活用 (事務処理) 予習:新聞等で関心を持った医療事務に関する記事を切り抜く。 復習:講義で取り上げた医療事務に関する内容を復習する。
8回	表計算ソフトの活用(1)	医療機関で必要とされる Excel の活用 (人的資源管理) 予習:新聞等で関心を持った医療事務に関する記事を切り抜く。 復習:講義で取り上げた医療事務に関する内容を復習する。
9回	表計算ソフトの活用(2)	医療機関で必要とされる Excel の活用 (労務管理) 予習:新聞等で関心を持った医療事務に関する記事を切り抜く。 復習:講義で取り上げた医療事務に関する内容を復習する。
10回	表計算ソフトの活用(3)	医療機関で必要とされる Excel の活用 (患者管理) 予習:新聞等で関心を持った医療事務に関する記事を切り抜く。

		復習:講義で取り上げた医療事務に関する内容を復習する。
11回	表計算ソフトの活用(4)	医療機関で必要とされる Excel の活用 (事務処理) 予習:新聞等で関心を持った医療事務に関する記事を切り抜く。 復習:講義で取り上げた医療事務に関する内容を復習する。
12回	医療事務コンピュータの 活用(1)	医療機関で必要とされる医療事務コンピュータの活用(人的資源管理) 予習:新聞等で関心を持った医療事務に関する記事を切り抜く。 復習:講義で取り上げた医療事務に関する内容を復習する。
13回	医療事務コンピュータの 活用(2)	医療機関で必要とされる医療事務コンピュータの活用(労務管理) 予習:新聞等で関心を持った医療事務に関する記事を切り抜く。 復習:講義で取り上げた医療事務に関する内容を復習する。
14回	医療事務コンピュータの 活用(3)	医療機関で必要とされる医療事務コンピュータの活用(患者管理) 予習:新聞等で関心を持った医療事務に関する記事を切り抜く。 復習:講義で取り上げた医療事務に関する内容を復習する。
15回	医療事務コンピュータの 活用(4)	これまでのまとめと振り返り 予習:新聞等で関心を持った医療事務に関する記事を切り抜く。 復習:講義で取り上げた医療事務に関する内容を復習する。

この科目は、演習科目(1単位)ですので、授業時間の他に15時間の授業外学習が必要です。

- ・テキストを読み、要点をまとめること。
- ・新聞・テレビ・インターネット・雑誌等で医療に関する内容を見てまとめる。

成績評価の基準・方法

評価項目	S	A	В	С	D
1. 医療事務職における情報セキュリテ	完全にない	若干不十分	不十分な点	到達目標の	到達目標を
イの理解	しほぼ完全	な点は認め	は認められ	最低限を達	達成してい
2. 資料作成およびプレゼンテーション	に到達目標	られるもの	るものの、	成してい	ない。
の手法の理解と発表	を達成して	の、到達目	到達目標を	る。	
	いる。	標を達成し	達成してい		
		ている。	る。		
100点法	90点以上	80点以上	70点以上	60点以上	59点以下

・定期試験 (レポート課題)50%・提出物25%・発表25%

なお、提出物の内容に関するフィードバックは、次回の授業時に全受講生を対象としてコメントを行う。

教科書

・ニチイ学館著『メディカルドクターズクラーク講座(医師事務作業補助過程)テキスト 5 』 ニチイ学館 2022版 2,410円

参考書等

- ・国本温子『Word 2019 やさしい教科書』SB クリエイティブ、2020 年、1298円
- ・門脇香奈子『Excel 2019 やさしい教科書』SB クリエイティブ、2020 年、1298円
- ・その他にも適宜、授業中に紹介する。

履修上の注意・学習支援

・熱意を持って積極的に授業に参加することが必要。

オフィスアワー

・疑問があれば、オフィスアワー(原則)、講義終了後 15 分程度、1 号館 1 階「講師教員センター」)を利用すること。

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
21 HS1SE50	薬学一般	1 年	後期	講義	1	本田 雅巳

全人教育(人間形成の教育)のもと、病院・クリニック・薬局などの医療機関を訪れる患者の立場に立って、福祉の基本と医療事務の専門知識をもち、人にやさしい配慮・対応することができることを目的として、医療事務に必要な薬学の知識を講義形式で学ぶ。

到達目標(学習の成果)

- ・医療事務の従事者として「薬物療法」の意義を理解し必要な知識を得て薬に関する説明ができるようになる。 (知識)
- ・医薬品の使用に関する法的なことを理解し説明できるようになる。(知識・方法)
- ・医薬品費の計算など保険者に診療報酬を請求する上での医薬品に関する注意点を理解できるようになる。 (知識・方法)
- ・病気の名前や症状と処方薬の名前・効果・効能について最低限の知識を身につけ説明できるようになる。 (知識)

		以未旧 日
回	表題	学習内容
1回	授業の進め方 薬学一般 その1 〔薬品に関する公定書と法律〕	・授業計画、授業方法、予習・復習、成績評価方法を知る。 ・医薬品と保健機能食品や食品との違いを理解する。 ・薬品に関する公定書と法律(医薬品医療機器等法・麻薬及び向精神 薬取締法)及び関連書類の実際を理解する。 【予習】テキストを見て、教科の全体像を把握する。 【復習】関連用語の要点を整理しまとめる。
2 回	薬学一般 その2 〔薬の名称および種類〕	・医薬品の名称を理解する。・医薬品、医薬部外品、化粧品の違いを理解する。・医薬品の承認過程とジェネリック医薬品(後発品)を理解する。【予習】テキストの該当する部分を見て、疑問点等を探す。【復習】関連用語の要点を整理しまとめる。
3回	薬学一般 その3 〔薬品の貯蔵法と表示〕	・医薬品の容器や保管方法を理解する。・処方箋(保険処方箋)の記載事項と注意点を理解する。【予習】テキストの該当する部分を見て、疑問点等を探す。【復習】関連用語の要点を整理しまとめる。
4回	薬学一般 その4 〔薬物療法 ①〕	・薬の生体における作用や体内での流れ、併用時の注意を理解する。 【予習】テキストの該当する部分を見て、疑問点等を探す。 【復習】関連用語の要点を整理しまとめる。
5回	薬学一般 その5 [薬物療法 ②]	・薬物の投与経路と剤形について理解する。・医薬品の副作用・毒性及び使用時に注意を要するものを理解する。【予習】テキストの該当する部分を見て、疑問点等を探す。【復習】関連用語の要点を整理しまとめる。
6 回	薬学一般 その6 〔神経系・循環器系に 作用する薬〕	・薬物の作用 (神経系、循環器系に作用する薬物)を理解する。 【予習】テキストの該当する部分を見て、疑問点等を探す。 【復習】関連用語の要点を整理しまとめる。
7回	薬学一般 その7 〔呼吸器系・消化器系・血液系に 作用する薬 他〕	・薬物の作用 (呼吸器系、消化器系、血液系、腎・泌尿器系に作用する薬物)を理解する。 【予習】テキストの該当する部分を見て、疑問点等を探す。 【復習】関連用語の要点を整理しまとめる。

8回

薬学一般 その8 [内分泌系・アレルギー および皮膚・眼・その他に 作用する薬 他] ・薬物の作用 (内分泌系、アレルギー・免疫系・その他に作用する薬物)を理解する。

【予習】テキストの該当する部分を見て、疑問点等を探す。

【復習】関連用語の要点を整理しまとめる。

準備学習(予習・復習について)

本科目は、講義科目15時間1単位ですので授業時間以外に30時間の授業外学習が必要になります。学習内容に記載された予習・復習を実践して内容の理解を深めてください。

- ・授業計画で示された教科書の範囲を読み込み、疑問などを抽出しておくこと。
- ・補助資料は、要点をまとめてあるので、復習に利用すること。

成績評価の方法・基準

成績評価の基準

	評価項目	S	A	В	С	D
1	医薬品に関する規則や法律の	完全にないし	若干不十分	不十分な点	到達目標の	到達目標を
	理解	ほぼ完全に到	な点は認め	は認められ	最低限を達	達成してい
2	医療事務に必要な薬学的知識	達目標を達成	られるもの	るものの、	成してい	ない。
	の理解	している。	の、到達目	到達目標を	る。	
3	医療用医薬品に関する理解度		標を達成し	達成してい		
			ている。	る。		
	100点法	100点~90点	89点~80点	79点~70点	69点~60点	59点以下

成績評価の方法

定期試験(レポート試験) 100% (薬学一般の関する要点のまとめ)

教科書

(株) ニチイ学館著『メディカルドクターズクラーク講座』 (株) 東京丸の内出版 市販の書籍ではないため、現在確認中

参考書等

担当教員作成の補助資料を毎回授業時に配布

履修上の注意・学習支援

講義中に疑問が生じたら積極的に随時質問すること。

補助資料は、要点をまとめてあるので、復習に利用すること。

以前の講義について(復習時)や講義終了後に疑問が生じた場合はオフィスアワーを利用すること。

オフィスアワー

・疑問があれば、オフィスアワー (原則、講義終了後 (開始前でも可)15 分間程度、1号館1階「講師教員センター」)を利用すること。事前予約 (m. honda@ujc. ac. jp) のうえ、時間を設定する。

実務経験の概要

1979 年から 獨協医科大学病院薬剤部勤務

2022 年 3月まで、 同 薬剤部長

・病院薬剤師として医事担当者やソーシャルワーカー、医師、看護師など多くの職種との連携を経験してきた。

実務経験と科目との関連性

- ・医療現場 (病院) において、処方箋に基づく調剤から保険請求における相談や法的判断の必要な事例など、数 多くの事例経験を活かした講義が実践できる。
- ・授業内容全般に関して、現在も継続的に情報収集している。

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
21 HS2SE51	医療事務実習 (事前事後指導含む)	2年	前期	実習	1	堀 圭三 北爪 あゆみ

実習体験を通して医療事務職としての基本的な知識・技術・態度を学び、医療事務に関連する専門科目で学習した知識・技術と総合し、現場で通用する自立・自律した医療事務職としての実践力を習得する。職員・患者とのコミュニケーションを通し医療事務職の業務を理解し、チーム医療に必要となる業務遂行力・問題解決力を体得することを目標とする。実習体験によって各自の課題を明確にするとともに、各医療機関の特色を肌で感じ、医療・福祉政策の現状や課題を把握する。

到達目標(学習の成果)

- 1. 実習を通して学んだ医療事務職としての知識・技術・態度を理解し、実践することができる。 (知識・方法)
- 2. 実習体験から個々の課題を明確にし、医療事務職としての業務遂行力・問題解決力を表明することができる。 (態度)

	授業計画					
旦	表題	学習内容				
1回						
2回	 10 日間指定した医療機関にて.	医療事務に必要な業務内容について学ぶ。なお他に、事前・事後指導				
3回	を7コマ分(10 時間分)行う。					
4回	実習時間:1日8時間×10日間	引=合計 80 時間				
5回	事前・事後実習指導:10 時間(1 1回:実習中の心構え、基礎知					
6回	2回:実習記録の記載方法を理解・実践する。 3回:接遇・マナー・身だしなみを理解する。					
7回	4回:医療機関・患者の基本を理解する。 5回:患者応対の基本、コミュニケーション技術を身に着ける。					
8回	6回:個人情報保護法、保険の知識、医療関連法規を理解する。 7回:実習の振り返り・自己の課題を明確にする。					
9回	【予習】					
10回	実習内容:医事課業務:外来業務 など	S(窓口業務)・入院業務・カルテ管理業務・レセプト業務・会計業務				
11回	総務課業務:病院運営管理・その他 医師、看護師、他の医療機関・関連施設との連携 など					
12回		最、実習を行う上で必要な法的知識、応対マナー、医療関係時事などに				
13回	ついて調べ、ノートにまとめる。 【事後】実習記録に本日のふり返りを行い、課題等を記入する。また、翌日の実習について準備を行					
14回	う。					
15回						

準備学習(予習・復習について)

- ・学習内容に記載された事前・事後学習を実践して内容の理解を深めて下さい。
- ・インターネットや学内資料を用いて、実習先の概要等を情報収集しまとめておくこと。
- ・医療事務論・医療秘書・医療事務関連法規・医療事務実践演習の授業を復習し、実践に備えておくこと。
- ・実習後は学習・経験したことをまとめ残し、業務に携わることを念頭に置き復習すること。

成績評価の基準・方法

	評価項目	S	A	В	С	D
1.	医療事務の知識・技術・態度に対	完全にない	若干不十分	不十分な点	到達目標の	到達目標を
	する理解度・習得度	しほぼ完全	な点は認め	は認められ	最低限を達	達成してい
2.	医療事務職としての業務遂行力・	に到達目標	られるもの	るものの、	成してい	ない。
	問題解決力の理解度・習得度	を達成して	の、到達目	到達目標を	る。	
3.	実習体験における個々の課題の	いる。	標を達成し	達成してい		
	認識度		ている。	る。		
	100点法	90点以上	80点以上	70点以上	60点以上	59点以下

・実習ごとに、実習指導者の評価(50%)と担当教員の評価(課題)(50%)を統合して評価する。 担当教員評価項目:授業外課題(レポート)、実習後振り返り(50%)

教科書

- ・ニチイ学館著『医療保険制度の仕組み(医科・歯科)』 ニチイ学館 第2024版 2,750円
- ・ニチイ学館著『医療現場での接遇マナー(医科・歯科)』 ニチイ学館 第2024版 2,200円
- ・ニチイ学館著『診療報酬の算定ルール』 ニチイ学館 第2024版 3,300円
- ・ニチイ学館著『レセプト点検』 ニチイ学館 第2024版 2,750円
- ・ニチイ学館著『医療事務講座 医科スタディブック』 ニチイ学館 第2024版 1,320円
- ·社会保険研究所著『医科診療報酬点数表 点数早見表』 社会保険研究所 令和6年4月版 2,970円
- ・ニチイ学館著『メディカルドクターズクラーク講座(医師事務作業補助過程)テキスト1』 ニチイ学館 2023版 2,410円
- ・ニチイ学館著『メディカルドクターズクラーク講座(医師事務作業補助過程)テキスト2』 ニチイ学館 2023版 2,410円
- ・ニチイ学館著『メディカルドクターズクラーク講座(医師事務作業補助過程)テキスト 3 』 ニチイ学館 2023版 2,410円
- ・ニチイ学館著『メディカルドクターズクラーク講座 (医師事務作業補助過程) テキスト4』 ニチイ学館 2023版 2,410円
- ・ニチイ学館著『メディカルドクターズクラーク講座 (医師事務作業補助過程) テキスト 5』 ニチイ学館 2023版 2,410円
- ・ニチイ学館著『医科ハンドブック (医科)』 ニチイ学館 2022年版 1,886円

その他必要な資料は事前に配布する。

参考書等

·医学通信社著『診療報酬点数早見表(医科)』医学通信社 2024年版 5,060円

履修上の注意・学習支援

- ・実習先の関連規定及び個人情報保護法を遵守すること。
- ・社会人・医療人として現場に立つ自覚と目的意識を持ち、十分な復習・準備を行ったうえで実習に臨むこと。
- ・不明な点は自主的に質問すること。
- ・授業への積極的な姿勢を望む。

オフィスアワー

疑問点があれば授業時間内及びオフィスアワーを利用し解決すること。(事前予約の上、時間を設定する。)なお、オフィスアワーの具体的な日時は追って指示する。 ※担当者アドレス: kitazume@ujc.ac.jp

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
21HS1SE52	医療事務特講 I	1年	後期	講義	2	北爪 あゆみ

医療事務業務に従事するにあたり、医療・福祉政策の運用についてより理解を深め、適切に対応できる知識、技能について学習する。窓口応対、診療報酬請求の事例を通し、信頼関係を作ることのできる応対力と迅速で正確な事務処理能力の習得を目指す。この科目は、メディカルクラークの資格取得の対策を兼ねている。

到達目標(学習の成果)

- 1. 法令に基づき、患者の状況に応じた制度利用、接遇・応対を実践することができる。(知識・技術・態度)
- 2. 医療事務職としてより高度な知識を備え、レセプト点検において多様な症例を迅速かつ的確に判断し対応することができる。(知識・技術)

回	表題	学習内容
1回	授業の進め方 制度の理解①	授業計画、授業方法、予習・復習、成績評価の基準・方法等を知る。 医療保険制度について理解を深める。 予習:シラバスを精読する。 復習:授業で示した課題を繰り返し実践する。
2回	制度の理解②	医療関連法規について理解を深める。 予習:該当箇所を読み調べておく。 復習:授業で示した課題を繰り返し実践する。
3回	制度の理解③	診療報酬制度について理解を深める① (基本診療料関連 学科) 予習:該当箇所を読み調べておく。 復習:授業で示した課題を繰り返し実践する。
4回	制度の理解④	診療報酬制度について理解を深める② (特掲診療料関連 学科) 予習:該当箇所を読み調べておく。 復習:授業で示した課題を繰り返し実践する。
5回	窓口応対①	患者応対の実際を学ぶ①(問い合わせ応対) 予習:該当箇所を読み調べておく。 復習:授業で示した課題を繰り返し実践する。
6回	窓口応対②	患者応対の実際を学ぶ②(トラブル応対) 予習:該当箇所を読み調べておく。 復習:授業で示した課題を繰り返し実践する。
7回	診療報酬請求事務①	レセプト点検・事例検討①(初・再診事例) 予習:該当箇所を読み調べておく。 復習:授業で示した課題を繰り返し実践する。
8回	診療報酬請求事務②	レセプト点検・事例検討②(乳幼児・幼児加算事例) 予習:該当箇所を読み調べておく。 復習:授業で示した課題を繰り返し実践する。
9回	診療報酬請求事務③	レセプト点検・事例検討③ (医学管理・特定疾患関連事例) 予習:該当箇所を読み調べておく。 復習:授業で示した課題を繰り返し実践する。
10回	診療報酬請求事務④	レセプト点検・事例検討④(在宅関連事例) 予習:該当箇所を読み調べておく。 復習:授業で示した課題を繰り返し実践する。

11回	診療報酬請求事務⑤	レセプト点検・事例検討⑤(処置関連事例) 予習:該当箇所を読み調べておく。 復習:授業で示した課題を繰り返し実践する。
12回	診療報酬請求事務⑥	レセプト点検・事例検討⑥ (手術・麻酔事例) 予習:該当箇所を読み調べておく。 復習:授業で示した課題を繰り返し実践する。
13回	診療報酬請求事務⑦	レセプト点検・事例検討⑦(検査・画像関連事例) 予習:該当箇所を読み調べておく。 復習:授業で示した課題を繰り返し実践する。
14回	診療報酬請求事務⑧	レセプト点検・事例検討®(入院事例) 予習:該当箇所を読み調べておく。 復習:授業で示した課題を繰り返し実践する。
15回	診療報酬請求事務⑨	事例を通し、状況に応じた応対、法の理解、適切なレセプト記載について学びを深める。 予習:該当箇所を読み調べておく。 復習:授業で示した課題を繰り返し実践する。

- この科目は、講義科目(2単位)ですので、授業時間の他に60時間の授業外学習が必要です。
- ・事前にテキストを精読の上授業記録を残し、学習内容や関連事項についてはノート等にまとめること。
- ・講義内で提示する学習課題(ワークシート)を実施し、繰り返し復習を行うこと。
- ・検定対策資料は繰り返し実践すること。

成績評価の基準・方法

評価項目	S	A	В	С	D
1. 接遇・応対の実践力・応用力	完全にない	若干不十分	不十分な点	到達目標の	到達目標を
2. 具体的な医療関連法の理解度	しほぼ完全	な点は認め	は認められ	最低限を達	達成してい
3. 多様な診療録に対する迅速かつ正確	に到達目標	られるもの	るものの、	成してい	ない。
なレセプト点検の熟達度	を達成して	の、到達目	到達目標を	る。	
	いる。	標を達成し	達成してい		
		ている。	る。		
100点法	90点以上	80点以上	70点以上	60点以上	59点以下

・定期試験(筆記試験) 50%・授業内小テスト 50%

教科書

- ・ニチイ学館著『医療保険制度の仕組み(医科・歯科)』 ニチイ学館 第2024版 2,750円
- ・ニチイ学館著『医療現場での接遇マナー(医科・歯科)』 ニチイ学館 第2024版 2,200円
- ・ニチイ学館著『診療報酬の算定ルール』 ニチイ学館 第2024版 3,300円
- ・ニチイ学館著『レセプト点検』 ニチイ学館 第2024版 2,750円
- ・ニチイ学館著『医療事務講座 医科スタディブック』 ニチイ学館 第2024版 1,320円
- ·社会保険研究所著『医科診療報酬点数表 点数早見表』 社会保険研究所 令和6年4月版 2,970円
- ・ニチイ学館著『完全攻略!!一般財団法人日本医療教育財団医療事務技能審査試験 受験対策問題集<医科>問題編・解答編』 ニチイ学館 2024版 3,982円
- ・ニチイ学館著『医科ハンドブック (医科)』 ニチイ学館 2022年版 1,886円

参考書等

・医学通信社著『診療報酬点数早見表(医科)』医学通信社 2024年版 5,060円

履修上の注意・学習支援

- ・事前に電卓を用意し、教科書及び電卓は、授業時に必ず持参すること。
- ・GoogleClassroomにて課題等連絡を行うため、必ず確認すること。

- ・不明な点は自主的に質問すること。
- ・授業への積極的な姿勢を望む。

オフィスアワー

疑問点があれば授業時間内及びオフィスアワーを利用し解決すること。(事前予約の上、時間を設定する。)なお、オフィスアワーの具体的な日時は追って指示する。 ※担当者アドレス: kitazume@ujc.ac.jp

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
21 HS2SE53	医療事務特講Ⅱ	2年	後期	講義	1	北爪 あゆみ

医師事務作業補助業務に従事するにあたり、医療・福祉政策の運用についてより理解を深め、適切に対応できる知識、技能について学習する。医師の業務負担軽減という役割を理解し、目的に応じた分かりやすい文書作成、またそれを説明のできる実践力と、迅速かつ正確な事務処理能力の習得を目指す。この科目は、ドクターズクラークの資格取得の対策を兼ねている。

到達目標(学習の成果)

- 1. 医療事務職および医師事務作業補助者としてより高度な知識を備え、各法律・法令の運用について説明ができる。(知識)
- 2. 法令に基づき、多様な患者の状況に応じた各種文書作成ができる。(知識・技術)

授業計画

回	表題	学習内容
1回	授業の進め方 制度の理解①	授業計画、授業方法、予習・復習、成績評価の基準・方法等を知る。 医療保障制度、医療関連法規について理解を深める①(医療法、医師法等) 予習:シラバスを精読する。 復習:授業で示した課題を繰り返し実践する。
2回	制度の理解②	医療保障制度、医療関連法規について理解を深める② (医療関連法規、個人情報・安全管理等) 予習:該当箇所を読み調べておく。 復習:授業で示した課題を繰り返し実践する。
3回	制度の理解③	各種文書における作成上の留意点について理解を深める。 予習:該当箇所を読み調べておく。 復習:授業で示した課題を繰り返し実践する。
4回	文書作成①	診断書・証明書・申請書 事例検討① (診断書・健康診断書等) 予習:該当箇所を読み調べておく。 復習:授業で示した課題を繰り返し実践する。
5 回	文書作成②	診断書・証明書・申請書 事例検討②(自動車損害賠償責任保険診断書・主 治医意見書等) 予習:該当箇所を読み調べておく。 復習:授業で示した課題を繰り返し実践する。
6 回	文書作成③	診断書・証明書・申請書 事例検討③ (入院 (手術) 証明書・医療要否意見書等) 予習:該当箇所を読み調べておく。 復習:授業で示した課題を繰り返し実践する。
7 回	文書作成④	診断書・証明書・申請書 事例検討④ (診療情報提供書・処方箋等) 予習:該当箇所を読み調べておく。 復習:授業で示した課題を繰り返し実践する。
8回	まとめ	事例を通し、法の理解、適切な文書作成について学びを深める。 予習:該当箇所を読み調べておく。 復習:授業で示した課題を繰り返し実践する。

準備学習(予習・復習について)

この科目は、講義科目(1単位)ですので、授業時間の他に30時間の授業外学習が必要です。

・事前にテキストを精読の上授業記録を残し、学習内容や関連事項についてはノート等にまとめること。

- ・講義内で提示する学習課題(ワークシート)を実施し、繰り返し復習を行うこと。
- ・検定対策資料は繰り返し実践すること。

成績評価の基準・方法

評価項目	S	A	В	С	D
1. 医療関連法規・各種法制度の理解度	完全にない	若干不十分	不十分な点	到達目標の	到達目標を
2. 各種文書への理解度	しほぼ完全	な点は認め	は認められ	最低限を達	達成してい
3. 多様な文書作成における熟達度	に到達目標	られるもの	るものの、	成してい	ない。
	を達成して	の、到達目	到達目標を	る。	
	いる。	標を達成し	達成してい		
		ている。	る。		
100点法	90点以上	80点以上	70点以上	69点以上	59点以下

・定期試験(筆記試験) 50%・授業内小テスト 50%

教科書

- ・ニチイ学館著『メディカルドクターズクラーク講座(医師事務作業補助過程)テキスト1』 ニチイ学館 2022版 2,410円
- ・ニチイ学館著『メディカルドクターズクラーク講座(医師事務作業補助過程)テキスト2』 ニチイ学館 2022版 2,410円
- ・ニチイ学館著『メディカルドクターズクラーク講座 (医師事務作業補助過程) テキスト3』 ニチイ学館 2022版 2,410円
- ・ニチイ学館著『メディカルドクターズクラーク講座(医師事務作業補助過程)テキスト4』 ニチイ学館 2022版 2,410円
- ・ニチイ学館著『メディカルドクターズクラーク講座(医師事務作業補助過程)テキスト5』 ニチイ学館 2022版 2,410円
- ・ニチイ学館著『医科ハンドブック (医科)』 ニチイ学館 2022年版 1,886円
- ・ニチイ学館著『一般財団法人日本医療教育財団医師事務作業補助技能認定試験 受験のための 技能認定試験 問題集 問題編・解答編』 ニチイ学館 2022年版 2,933円

参考書等

- ・小林俊彦著『医師事務作業補助者のための32時間教本〜繰り返し読んでほしい解説書〜改定第4版』 洋學社 2022 3,300円
- ・医学通信社著『実務者のための医師事務作業補助実践入門B00 k』 医学通信社 2022-2023年版 2,420円

履修上の注意・学習支援

- ・事前に電卓を用意し、教科書及び電卓は、授業時に必ず持参すること。
- ・GoogleClassroomにて課題等連絡を行うため、必ず確認すること。
- ・不明な点は自主的に質問すること。
- ・授業への積極的な姿勢を望む。

オフィスアワー

疑問点があれば授業時間内及びオフィスアワーを利用し解決すること。(事前予約の上、時間を設定する。)なお、オフィスアワーの具体的な日時は追って指示する。 ※担当者アドレス: kitazume@ujc.ac. jp

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
21HS1SP54	レクリエーション概論	1年	前期	講義	1	河田 隆・霜触 智紀 ・本並 健太

レクリエーション概論として、「レクリエーションとは」、「レクリエーション支援とは」、「レクリエーション・インストラクターの役割」、楽しさと心の元気づくりの理論として、「楽しさをとおした元気づくりと対象者の心の元気」、「心の元気と地域のきずな」、レクリエーション支援の理論として、「コミュニケーションと信頼関係づくりの理解」、「良好な集団づくりの理論」、「自主的、主体的に楽しむ力を育む理論」を学習する。また、福祉領域において遊びやレクリエーション活動がいかに重要であるか深く理解し、個人・集団を対象にしたレクリエーション事業のプログラムの組み立て方や運営方法を福祉専門職として学習する。

到達目標(学習の成果)

- ・レクリエーション支援の理論について深く理解する。 (知識)
- ・レクリエーションおよびレクリエーション活動について説明できる。 (知識・態度)
- ・福祉領域における個人・集団に対するレクリエーション活動の果たす効果を深く理解する。(知識)
- ・対象者または目的に合わせたレクリエーションプログラムを計画することができる。(知識)
- ・ 高齢者や障がい者に関連する得意な分野の専門性を深める。 (技術・態度)

回	表題	学習内容
1 🗉	授業の進め方 レクリエーション概論	授業計画、授業方法、予習・復習・成績評価の方法等を説明する。 レクリエーションとはについて学ぶ。レクリエーション支援とはについて学ぶ。レクリエーション・インストラクターの 2 つの役割について学ぶ。 予習:レクリエーション支援、レクリエーション・インストラクターに関して調べておく。 復習:レクリエーションがもたらす恩恵について振り返り、理解を深める。
2 🗉	楽しさをとおした心の元気づく りと対象者の心の元気	楽しさをとおした心の元気づくりを理解する。ライフステージと心の元気づくりについて学ぶ。子どもや高齢者の心の元気づくり、障がいのある人の心の元気づくりの課題について学ぶ。予習:心の元気づくりに関して、授業内容の理解を深めるため教科書の該当ページを読んでおく。 復習:心の元気づくりに関して、子ども、高齢者、障がいのある人等に対する支援について具体案を考えるとともに学習内容を振り返り、理解を深める。
3回	心の元気と地域のきずな	地域のきずなづくり、子どもを育む地域のきずなについて学ぶ。高齢者を支える地域のきずな、きずなづくりとレクリエーションについて学ぶ。予習:心の元気と地域のきずなに関して、授業内容の理解を深めるため教科書の該当ページを読んでおく。 復習:地域のきずなとレクリエーションとの関連について振り返り、理解を深める。
4 回	コミュニケ―ションと信頼関係 づくりの理論	レクリエーション支援におけるコミュニケーションを学ぶ。対象者と 支援者の信頼関係、および信頼関係づくりの方法を学ぶ。 予習:コミュニケーションと信頼関係づくりに関して、授業内容の理 解を深めるため教科書の該当ページを読んでおく。 復習:レクリエーション支援におけるコミュニケーションの重要性、 具体的な方法について振り返り、理解を深める。

5回	良好な集団づくりの理論	レクリエーション活動をとおした良好な集団づくり、集団内のコミュニケーションの促進について学ぶ。 予習:集団づくりに関して、授業内容の理解を深めるため教科書の該当ページを読んでおく。 復習:集団づくりにおけるレクリエーション活動の効果について振り返り、理解を深める。
6回	自主的・主体的に楽しむ力を育 む理論	自主的・主体的にレクリエーション活動を楽しむ力について学ぶ。やる気の変化とやる気が生じる心の仕組み、成功体験を支え合う対象者のかかわりについて学ぶ。 予習:自主的・主体的に楽しむ力に関して、授業内容の理解を深めるため教科書の該当ページを読んでおく。 復習:対象者のレクリエーション活動と自主性、やる気、成功体験との関連について振り返り、理解を深める。
7回	レク活動の安全管理	安全管理の考え方(事故・事件への対応)や、救急法の基礎知識について学ぶ。 予習:安全管理に関して、授業内容の理解を深めるため教科書の該当ページを読んでおく。 復習:レクリエーション活動を安全に実施するため、気をつけるべき点について振り返り、理解を深める。
8回	レクリエーション事業	レクリエーション事業の現状を理解し、レクリエーションプログラムがより良いものになるため現状の課題等を発見し改善の方法を学ぶ。 予習:レクリエーション事業に関して、授業内容の理解を深めるため 教科書の該当ページを読んでおく。 復習:レクリエーションプログラムがより良いものになるため現状の 課題を踏まえ、解決策を考える。
9日	レクリエーションプログラムの 立案1	個人、集団に対するレクリエーションプログラムや市民サービス型レクリエーション事業の組立て方や運営方法について学ぶ。 予習:レクリエーションプログラムの立案に関して、授業内容の理解を深めるため教科書の該当ページを読んでおく。 復習:レクリエーションプログラムの組立て方や運営方法について振り返り、理解を深める。
10回	レクリエーションプログラムの 立案2	レクリエーションプログラム立案方法を学ぶ。 予習:前時の内容を復習し、レクリエーションプログラムの立案に関して、理解を深めておく。 復習:レクリエーションプログラム創作方法について、実践をイメージしながら具体的に振り返り、理解を深める。

本科目は講義科目 (1単位) ですので、授業時間90分以外に25時間の授業外学習が必要になります。 授業外学習方法に記載された予習・復習課題を実践して内容の理解を深めてください。

成績評価の基準・方法

評価項目	S	A	В	С	D
① レクリエーション、レクリエーシ	完全にない	若干不十分	不十分な点	到達目標の	到達目標を
ョン活動、レクリエーション支援	しほぼ完全	な点は認め	は認められ	最低限を達	達成してい
についての理解	に到達目標	られるもの	るものの、	成してい	ない。
② 福祉領域における個人・集団に対	を達成して	の、到達目	到達目標を	る。	
するレクリエーション活動の果た	いる。	標を達成し	達成してい		
す効果の理解		ている。	る。		

③ 対象者または目的に合わせたレク リエーションプログラムを計画す ることの習熟度					
100点法	90点以上	80点以上	70点以上	60点以上	59点以下

定期試験(筆記試験またはレポート課題) 100%

- ・レクリエーション概論・楽しさと心の元気づくりの理論・レクリエーション支援の支援について深く理解している。
- ・福祉領域における個人・集団に対するレクリエーション活動の果たす効果を深く理解している。
- ・対象に合わせた、また目的に合わせたレクリエーションプログラムを計画することができる。
- ・レクリエーション概論の理解を深めようと努めている。

教科書

公益財団法人日本レクリエーション協会編「楽しさをとおした心の元気づくり レクリエーション支援の理論と方法」公益財団法人日本レクリエーション協会,2019年、1980円(税込み)

参考書等

なし

履修上の注意・学習支援

- ・授業における課題の提出期限は厳守する。
- ・他者の迷惑になる授業態度は一切しないこと。
- ・疑問があれば、オフィスアワーを利用すること(事前予約のうえ、時間を設定する)。
- ・本授業はいずれの回も担当教員3名にて行う

オフィスアワー

疑問があれば、オフィスアワーを利用すること。事前予約(t. shimofure@ujc. ac. jp)のうえ、時間を設定する。具体的な時間は追って連絡する。

科目番号	科目名	開講年 次	学期	授業形態	単位	担当教員	
21 HS1SP55	レクリエーション演習	1年	前・後 (通年)	演習	2	月橋 春美・本並健太	

学生がグループで一般の人や福祉領域の人を対象としたレクリエーション支援を実際に体験することにより、レクリエーション支援者として役割や援助方法について学習する。また、その際、福祉の現場において目的に合わせた効果的なレクリエーション支援ができるよう、支援方法についても学ぶ。

到達目標(学習の成果)

- ・レクリエーション支援の体験を通して、一般の人や福祉領域の人に合わせたレクリエーション・ワーク、対象者に合わせたレクリエーション活動の展開方法やアレンジ法を身につける。(技術・態度)
- ・ レクリエーション支援後のふりかえりを通して、レクリエーション支援者としての基本的考え方や姿勢について理解する (知識)

旦	表題	学習内容
1 回	授業の進め方 信頼関係づくりの方法・ホスピ タリティ1	授業計画、授業方法、予習・復習・成績評価の方法等を理解する。 あたたかくもてなす意識と配慮について学ぶ 予習:信頼関係づくりについてテキストを読む 復習:ホスピタリティについてまとめる
2回	信頼関係づくりの方法・ホスピ タリティ2	気持ちをひとつにするコミュニケーション技術について学ぶ 予習:コミュニケーション技術についてテキストを読む 復習:コミュニケーション技術についてまとめる
3回	良好な集団づくりの方法・アイ スブレーキング1	アイスブレーキングとはについて学ぶ 予習:アイスブレーキングについてテキストを読む 復習:アイスブレーキングとしてのゲームについて調べる
4 回	良好な集団づくりの方法・アイ スブレーキング2	集団支援におけるアイスブレーキングのプログラムについて学ぶ 予習:アイスブレーキングプログラムについてテキストを読む 復習:アイスブレーキングプログラムを考える
5 回	良好な集団づくりの方法・アイ スブレーキング3	アイスブレーキングの効果を高める支援技術について学ぶ 予習:アイスブレーキングの効果についてテキストを読む 復習:アイスブレーキングの効果についてまとめる
6 回	レクリエーション活動の実際1	健常者を対象としたゲーム、歌、体操やダンスなどのレクリエーション活動の体験し、その援助方法を学ぶ 予習:今までやったことのあるゲームについて書く 復習:授業で体験したゲームの進め方をまとめる
7 回	レクリエーション活動の実際2	健常者を対象としたゲーム、歌、体操やダンスなどのレクリエーション活動を体験し、その援助方法について理解を深める 予習:好きな歌を一曲選び、歌詞を書く 復習:授業で紹介された歌の感想を書く
8日	レクリエーション活動の実際3	高齢者を対象としたゲーム、歌、体操やダンスなどのレクリエーション活動を体験し、その援助方法を学ぶ 予習:最近の幼児の体操を調べる 復習:授業で体験した体操(ダンス)の動きをまとめる
9回	レクリエーション活動の実際4	障がい者を対象としたゲーム、歌、体操やダンスなどのレクリエー ション活動を体験し、その援助方法について理解を深める

		予習:障がい者を対象にしたゲームを調べる 復習:授業で体験したゲームの進め方をまとめる
10回	レクリエーション活動の実際5	親子や祖父母と孫などを対象としたゲーム、歌、体操やダンスなどのレクリエーション活動を体験し、その援助方法を学ぶ 予習:親子で楽しめるレクリエーション活動を調べる 復習:授業で紹介された親子でのレクリエーション活動をまとめる
11回	レクリエーション活動の実際6	子どもを対象としたクラフトなどのレクリエーション活動を体験し、 その援助方法を学ぶ 予習:幼児を対象としたクラフト活動を調べる 復習:幼児とクラフトを行う際の援助方法のポイントをまとめる
12回	自主的・主体的に楽しむ力を育むレクリエーション活動の展開 法1	楽しむ力を高める目標設定の方法について学ぶ 予習:楽しむ力を高める目標設定の方法について、テキストを読む 復習:レクリエーション活動での目標設定の方法についてまとめる
13回	自主的・主体的に楽しむ力を育むレクリエーション活動の展開法2	レクリエーション活動を対象者に合わせるアレンジについて学ぶ 予習:対象者に合わせるアレンジについて、テキストを読む 復習:対象者に合わせたレクリエーション活動のアレンジのポイント についてまとめる
14回	自主的・主体的に楽しむ力を育むレクリエーション活動の展開法3	対象者の相互作用を促進するコミュニケーション技術の活用方法について学ぶ 予習:対象者の相互作用を促進するコミュニケーション技術の活用方法について、テキストを読む 復習:相互作用を促進するコミュニケーション技術についてまとめる
15回	レクリエーション活動における 楽しさと支援方法	レクリエーション活動を楽しくするための支援方法について理解を 深める 予習:「楽しさとは」について考える 復習:レクリエーション活動に楽しく参加してもらうための支援のポイントについてまとめる
16回	活動領域に合わせたレクリエーション活動1	福祉の現場では、高齢者を対象とした際、どのようなレクリエーション活動を取り入れているのか。また、そのレクリエーション活動をどのように行っているのかについて学ぶ 予習:高齢者を対象としたレクリエーション活動について考える 復習:高齢者を対象としたレクリエーション活動の支援方法をまとめる
17回	活動領域に合わせたレクリエーション活動2	福祉の現場では、障がい者を対象とした際、どのようなレクリエーション活動を取り入れているのか。また、そのレクリエーション活動をどのように行っているのかについて学ぶ 予習:障がい者を対象としたレクリエーション活動について考える 復習:障がい者を対象としたレクリエーション活動の支援方法をまとめる
18回	活動領域に合わせたレクリエーション活動3	リハビリを目的とした現場では、実際にどのようなレクリエーション 活動を取り入れているのか。また、そのレクリエーション活動を どのように行っているのかについて学ぶ 予習:リハビリを目的としたレクリエーション活動について考える 復習:リハビリを目的として行われているレクリエーション活動の支 援方法をまとめる
19回	活動領域に合わせたレクリエー ション活動4	デイサービスでは、高齢者や障がい者を対象にどのようなレクリエーション活動を取り入れているのか。また、そのレクリエーション活動をどのように行っているのかについて学ぶ 予習:デイサービスでのレクリエーション活動について考える

		復習:デイサービスでのレクリエーション活動の支援方法をまとめる
20回	活動領域に合わせたレクリエーション活動5	レクリエーション活動が取り入れられているさまざまな現場と対象者 およびその内容について知る 予習:レクリエーション活動が取り入れられている現場について調べる 復習:レクリエーション活動が行われている現場と対象者についてま とめる
21回	演習形式での支援体験1	全体で行うゲームや2~3人組で行うゲームを体験し、それぞれのゲームの楽しさや流れ、進め方について学ぶ予習:ゲームを支援する準備をする 復習:支援したゲームの楽しさや流れ、進め方についてまとめる
22回	演習形式での支援体験2	高齢者を対象としたレクリエーション活動を体験し、その財の楽しさや特徴、支援の方法やポイントについて学ぶ予習:レクリエーション活動を体験する準備をする復習:体験したレクリエーション活動の楽しさや特徴、支援の方法やポイントについてまとめる
23回	演習形式での支援体験3	障がい者を対象としたレクリエーション活動を体験し、その財の楽しさや特徴、支援の方法やポイントについて学ぶ 予習:レクリエーション活動を体験する準備をする 復習:体験したレクリエーション活動の楽しさや特徴、支援の方法や ポイントについてまとめる
24回	演習形式での支援体験4	福祉の現場で行われているレクリエーション活動を体験し、その活動の楽しさや特徴、支援の方法やポイントについて学ぶ 予習:レクリエーション活動を体験する準備をする 復習:体験したレクリエーション活動の楽しさや特徴、支援の方法や ポイントについてまとめる
25回	演習形式での支援体験5	デイサービスの現場で行われているレクリエーション活動を体験し、 その財の楽しさや特徴、支援の方法やポイントについて学ぶ 予習:レクリエーション活動を体験する準備をする 復習:体験したレクリエーション活動の楽しさや特徴、支援の方法や ポイントについてまとめる
26回	演習形式での支援体験6	高齢者を対象としたイベントなどで行われているレクリエーション活動を体験し、その財の楽しさや特徴、支援の方法やポイントについて学ぶ 予習:レクリエーション活動を体験する準備をする 復習:体験したレクリエーション活動の楽しさや特徴、支援の方法やポイントについてまとめる
27回	演習形式での支援体験7	親子や祖父母と孫などを対象としたレクリエーションのイベントや教室で行われているレクリエーション活動を体験し、その活動の楽しさや特徴、支援の方法やポイントについて学ぶ予習:レクリエーション活動を体験する準備をする復習:体験したレクリエーション活動の楽しさや特徴、支援の方法やポイントについてまとめる
28回	演習形式での支援体験8	高齢者や障がい者を対象者に合わせたクラフトを体験し、そのクラフトの楽しさや特徴、支援の方法やポイントについて学ぶ予習:レクリエーション活動を体験する準備をする復習:体験したクラフトの楽しさや特徴、支援の方法やポイントについてまとめる

29回	演習形式での支援体験9	子どもを対象としたクラフトを体験し、そのクラフトの楽しさや特 徴、支援の方法やポイントについて学ぶ 予習:レクリエーション活動を体験する準備をする 復習:体験したクラフトの楽しさや特徴、支援の方法やポイントにつ いてまとめる
30回	レクリエーション活動の効果	高齢者や障がい者におけるレクリエーション活動の効果について理解し、効果的なレクリエーション支援を行うための方法やポイントについて理解を深める 予習:レクリエーション活動の効果について考える 復習:高齢者や障がい者における、効果的なレクリエーション支援を 行うための方法やポイントについてまとめる

本科目は、演習科目(2単位)ですので、授業時間60時間と準備学習30時間が必要になります。

- 1. 授業時に取り上げた「レクリエーション活動」や授業内容について、毎時間ノートなどにまとめること。
- 2. 地域などで行われているレクリエーションイベントには、ボランティアや一般参加者として積極的に参加すること。

成績評価の基準・方法

評価項目	S	A	В	С	D
到達目標(学習の成果)	完全にない	若干不十分	不十分な点	到達目標の	到達目標を
1. 対象者や目的に合わせたレクリエ	しほぼ完全	な点は認め	は認められ	最低限を達	達成してい
ーション活動の支援方法について	に到達目標	られるもの	るものの、	成してい	ない。
の理解	を達成して	の、到達目	到達目標を	る。	
2. 対象者や目的に合わせたレクリエ	いる。	標を達成し	達成してい		
ーション活動のアレンジ法の習得		ている。	る。		
度					
3. レクリエーション支援者としての					
基本的考え方や姿勢についての理					
解					
100点法	90点以上	80点以上	70点以上	60点以上	59点以下

定期試験 (レポート試験) 50%

・対象者や目的に合わせた効果的なレクリエーション支援を立案できる

実技発表 50%

- ・対象者(健常者や福祉領域の人)を対象にレクリエーション支援を行い、効果的な支援技術が身についている
- ・レクリエーション支援者として役割や援助方法を理解している

教科書

・公益財団法人日本レクリエーション協会編「楽しさをとおした心の元気づくり レクリエーション支援の理論と方法」公益財団法人日本レクリエーション協会,2024年、1,980円(税込み)

参考書等

- ・廣池利邦他著「レリエーション・ワーク」同文書院、1998年、2,310円
- ・宇田川光雄著「リーダーのゲーム指導法」遊戯社、1994 年、3,000 円

履修上の注意・学習支援

- ・動きやすい服装で出席すること(シューズ持参)。
- ・演習の際には、指定された服装(シューズも含む)を着用すること。
- ・疑問があれば、オフィスアワーを利用すること(事前予約のうえ、時間を設定する)。

オフィスアワー

疑問があれば、オフィスアワーを利用すること。事前予約(tsukihashi@kyowa-u.ac.jp)のうえ、時間を設定する。具体的な時間は迫って指示する。

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
21HS1SP56	福祉レクリエーション論	1年	後期	講義	2	相田 美智子

福祉を豊かに実践するために、その領域におけるレクリエーション援助の方法・目的、レクリエーションサービスについて理解を深め、福祉現場のレクリエーション総合計画について具体的な事例を確認しながら福祉レクリエーションを学ぶ。

福祉の専門職として不可欠なコミュニケーション能力を学び、対象者の気持ちを受け止め、寄り添い、居心地よさ、生きがいや張り合いのある生活を支援するための理論を学ぶ。

到達目標(学習の成果)

- 1. 福祉サービスを活用する人々を理解し、自立・自律したレクリエーションの知識を身につけることをできるようになる。(知識)
- 2. 福祉レクリエーション実践に欠かせない「楽しさの追求を支える支援」を明確にすることで「楽しさ」について説明ができるようになる。(知識)
- 3. 福祉領域のレクリエーション・ワーカーの使命と姿勢、役割について理解し説明、実践できるようになる。(技術)

回	表題	学習内容
1回	授業の進め方 福祉レクリエーションとは	授業計画、授業方法、予習・復習、成績の評価基準・方法等を知る。 福祉領域のレクリエーションが目指す「楽しさの追求を通した、生きがいや張り合いのある生活の実現を支援すること」と「楽しさの追求を通した、生きる喜び・生きる力の獲得を支援すること」を理解する。 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
2 回	福祉レクリエーション支援の理 解	福祉領域のレクリエーション活動が利用者の生活の質の向上をめざし、 多種多様なレクリエーション活動の中からその人らしい「楽しさ」の追 求を支援することを理解する。 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
3回	福祉レクリエーションと楽しさ	福祉レクリエーションの視点から、楽しさへの欲求や福祉サービスにおける「楽しさ」の必要性を理解する。 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
4回	レジャー・レクリエーションの 概念	チクセントミハイの「フロー体験 喜びの現象学」やナッシュのレジャーレクリエーション体験のあり方、および援助者との関わりについてグループダイナミックスを通して理解する。 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
5回	福祉レクリエーションの楽しさ を巡る理論	人間交流の形式についてアベドンの社会的相互作用の段階やグループメンバーの心のあり方についてジョハリの窓を理解する。 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
6 回	福祉レクリエーションワーカー に求められるもの	福祉領域のレクリエーション援助者に求められる2つの使命「生活の再創造」「生きる力の再創造」と3つの姿勢「寄り添う」「実践する」「認識する」を理解する。 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。

7回	個人支援の手順APIEプロセ スと長期・短期目標	ひとりひとりのニーズを把握し、目的や目標をたて、個々に合ったプログラムを提供するためのアセスメント・計画・実施・評価を理解する。 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
8日	総合的な支援セラピューティック・レクリエーションサービス (トラム)	病気や障害だけに目を向けるだけでなく、対象者の可能性やできることを活かし生きがいを見つけられるよう支援し、より良い生活の質の向上をめざし余暇活動を提供するサービスを理解する。 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
9 П	レジャーアビリティモデルやヘ ルスプロモーションモデル	TRサービスの使用モデルとして最も一般的なモデルから機能向上・余暇教育・レクリエーション参加を理解し、最終到達目標である「自立した余暇生活」を確立できるよう援助者としての関わりを理解する。 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
10回	高齢者を対象とした福祉サービス	デイサービスセンターでの福祉レクリエーション援助について、居心地 のよい時間を提供し、利用者がやりたいことを見つけ出して実現できる ことを理解する。 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
11回	高齢者を対象とした福祉サービス	小規模多機能型施設での福祉レクリエーション援助について、ひとりひとりに寄り添い、見守り、本人に合った楽しさをともに見つけ、ともに実現できることを理解する。 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
12回	高齢者を対象とした福祉サービス	特別養護老人ホームでの福祉レクリエーション援助について、こころ安 らぐひと時や心が弾むひと時を過ごせるように支援できることを理解す る。 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
13回	高齢者を対象とした福祉サービ ス	地域の高齢者支援活動での福祉レクリエーション援助について、高齢者が参加をすることを楽しみにできるような介護予防サロンを開設し、地域住民主導で継続運営ができることを理解する。 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
14回	障がい児・障がい者を対象とし た福祉レクリエーション支援	毎日を楽しく過ごせるレクリエーション活動を利用者ひとりひとりが何をしたいのか本人の目線で考え自己決定し、その活動に楽しみ、張り合い、喜びを見いだすことを理解する。 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
15回	子育て支援サービスでの福祉レ クリエーション支援	保育園や子育てサークルでの福祉レクリエーション援助について、遊びを通し創造性や協調性を高められる環境を提供する。個々の園児が周囲の人や環境とかかわりながら遊びをつくり、夢中になれる力を育むこと。子どもの笑顔を引出し、そこから喜びを得る体験を積み重ねることで、子育ての楽しさ、子育てへの自信を高めることを理解する。 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。

本科目は、講義科目(2単位)ですので、準備学習60時間が必要になります。

- ① 1回目の授業前に「楽しさをとおした心の元気づくり」レクリエーションの理論と方法を復習しておく。
- ② 授業前には各回の授業予定単元を予習しておく。

成績評価の基準・方法

評価項目	S	A	В	С	D
1. 福祉サービスを活用する人の自立	完全にない	若干不十分	不十分な点	到達目標の	到達目標を
や自律したレクリエーションの知識に	しほぼ完全	な点は認め	は認められ	最低限を達	達成してい
ついての理解	に到達目標	られるもの	るものの、	成してい	ない。
2. 「楽しさの追求を支える支援」の	を達成して	の、到達目	到達目標を	る。	
理解	いる。	標を達成し	達成してい		
3. 福祉領域のレクリエーション援助		ている。	る。		
者の役割についての理解					
100点法	90点以上	80点以上	70点以上	60点以上	59点以下

・定期試験 (レポート試験) 50% ・授業内課題 (10回程度) 50%

教科書

公益財団法人日本レクリエーション協会 事例でなっとく!よくわかる福祉レクリエーション サービス実施マニュアル1 『楽しさの追及を支える理論と支援の方法』 2013年

参考書等

(税込 1,540 円)

なし

履修上の注意・学習支援

- ・他の学生の学習を妨げるような行為は慎むこと。
- ・疑問があれば、オフィスアワー(原則、1号館1階「講師教員センター」にて実施)を利用すること。

オフィスアワー

・疑問があれば、講義終了後、1 号館 1 階「講師教員センター」を利用すること

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
21HS2SP57	福祉レクリエーション 援助論	2 年	前期	講義	2	相田 美智子

福祉サービスの中で提供されるレクリエーションが「幸福」をもたらすひとつの役割を担っている。福祉を豊かに実践するため、人々の生活に楽しさや喜びをもたらすため、対象者個人の「楽しさ」追求を支えるレクリエーション・サービスの根拠をもったプログラムや行事の企画、運営、実施および評価の方法について理解を深かめ、具体的な事例を学ぶ。

到達目標(学習の成果)

- 1. 福祉の専門職として基本的なレクリエーションの知識・方法・態度を知り、説明できるようになる。(知識)
- 2. 対象者の楽しさの経験、豊かな生活、QOLの向上を目指すレクリエーションの方法を知り、説明・実践できるようになる。(方法・技術)
- 3. レクリエーションを活用した支援のプロセスを示し、一人ひとりの援助に反映させ、説明・実践できるようになる。(方法・技術)

回	表題	学習内容
1 回	福祉レクリエーション総合計画 の意義と全体像	誰のために、何のために、何を提供するのかを検討し、サービス提供する組織とサービスを受ける利用者とそのプログラムが全て整合性を持って提供されることを理解する。 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
2 回	在宅サービスの中での福祉レク リエーション総合計画	デイサービスとデイケアの役割の違い、サービスの使命を明確にし、 レクリエーションサービスの基本方針や目的がそれぞれの役割に沿っ たものであることを理解する。 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
3回	入居サービスの中での福祉レク リエーション総合計画	特別養護老人ホーム、老人保健施設、グループホームのサービスの種類の違いを明確に示し、利用者が選択するときやサービスを提供する側が何のためにどのようにレクリエーションを提供するのかを理解する。 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
4回	個人のニーズと総合計画の流れ	対象者個人が望むレジャーのニーズと一貫した方向性をもつレクリエーションサービスを提供するための総合計画の立案を理解する。 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
5回	総合計画と利用者のニーズ	対象者とともに段階的に目的を作るクリエーションサービス活用の長期・短期目標づくりを理解する。 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
6 回	利用者の思いと支援者の視点の融合	福祉レクリエーション援助における総合計画と福祉レクリエーション活用支援プラン統合の福祉的背景と実践の意義を理解する。 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
7回	福祉レクリエーション援助の実際1	事例を通した施設別による援助計画の視点 介護予防デイサービスセンター利用者に対する福祉レクリエーションサービス活用とワーカーの支援を理解する。

		【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
8回	福祉レクリエーション援助の実際2	事例を通した施設別による援助計画の視点 認知症デイサービスセンター利用者に対する福祉レクリエーションサービス活用とワーカーの支援を理解する。 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
9回	福祉レクリエーション援助の実際3	事例を通した施設別による援助計画の視点 グループホーム利用者に対する福祉レクリエーションサービス活用とワーカーの援助を理解する。 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
10回	グループレクリエーションの計 画立案と評価	グループレクリエーションの考え方と立案サイクルAPIEプロセス 個別の把握と個別目標の設定、グループの把握とグループ目標の設定 を理解する 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
11回	グループレクリエーションの計 画立案と評価	個別目標を視野に入れたグループ評価、課題分析と活動分析、事業実施後の評価を理解する。 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
12回	ひとりひとりを支える行事・イ ベント計画 1	特別養護老人ホーム、介護老人保健施設それぞれの行事例と準備、実施のポイントを理解する。 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
13回	ひとりひとりを支える行事・イ ベント計画 2	ショートステイ、小規模多機能型居宅介護それぞれの行事例と準備、 実施のポイントを理解する。 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
14回	行事・イベント計画のポイント 3	利用者個々の生活のリズムを取りもどすことの意義、他のレクリエーション・プログラムとの連動を理解する。 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
15回	福祉レクリエーション支援の評 価	総合計画、レクリエーション・サービス活用プラン、個人やグループへの関わりと行事に対する評価の方法を理解する。 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。

本科目は、講義科目 (2単位) ですので、準備学習60時間が必要になります。 ・授業前に各回の授業予定単元を予習しておく。

成績評価の基準・方法

評価項目	S	A	В	С	D
1. 福祉の基本的なレクリエーション	完全にない	若干不十分	不十分な点	到達目標の	到達目標を
の知識・方法・態度の理解	しほぼ完全	な点は認め	は認められ	最低限を達	達成してい
2. 対象者の楽しさの経験、豊かな生	に到達目標	られるもの	るものの、	成してい	ない。
活、QOLの向上を目指すレクリエー	を達成して	の、到達目	到達目標を	る。	
ション方法の理解	いる。	標を達成し	達成してい		
3. レクリエーションを活用した援助		ている。	る。		
プロセスの理解					
100点法	90点以上	80点以上	70点以上	60点以上	59点以下

- ・定期試験 (レポート課題) 70%
- ·授業内課題(10回程度) 30%

教科書

公益財団法人日本レクリエーション協会 よくわかる福祉レクリエーション サービス実施マニュアル 2 『楽しさの追及を支えるサービスの企画と実施』 2013年 (税込 1,870 円)

参考書等

なし

履修上の注意・学習支援

・他の学生の学習を妨げるような行為は慎むこと。

オフィスアワー

・疑問があれば、講義終了後、1 号館 1 階「講師教員センター」を利用すること

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
21HS2SP58	福祉レクリエーション 援助技術	2 年	前・後 (通年)	演習	2	相田 美智子

福祉を豊かに実践するために、その領域における楽しさの追求を支えるレクリエーション援助を身につけ、各援助場面の事例を確認し、自身の福祉領域における援助の課題を考察しながら「個人への介入方法」「グループ(小集団)を活かした介入方法」「レクリエーション活動への参加を促す環境づくりの方法」について実践できるようにする。

到達目標(学習の成果)

- 1. 人間尊重の精神と豊かな人間性を身につけ、福祉サービスの中では対象者が健康で幸せな生活を送ることができるよう環境づくりやレクリエーション援助技術を創造することができるようになる。(知識・技術)
- 2. 福祉レクリエーションに関する個別介入技術を理解し、福祉領域におけるレクリエーション援助者として必要な技術・能力を身につけることができるようになる。 (技術)
- 3. 小集団の介入技術を理解し、福祉領域におけるレクリエーション援助者として必要な技術・能力を身につけプログラム立案技術を身につけることができるようになる。(知識・技術)

回	表題	学習内容
1 回	授業の進め方 福祉レクリエーションの介入技 術1	授業計画、授業方法、予習・復習、成績の評価基準・方法等を知る個人への介助方法 ラポール(信頼関係)構築のための面談、余暇生活を開発するための支援、個人で楽しむ活動の支援など適切なコミュニケーション技術を理解する。 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
2日	福祉レクリエーションの介入技術2	個人で楽しむレクリエーション活動の展開として「他の利用者とともに活動を楽しむ」「利用者の訴えを結びつけた活動の提案」「社会資源を活用した活動」を理解する。 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
3回	福祉レクリエーションの介入技 術3	介護予防事業の展開例として「五感を刺激し昔話を楽しむ」「ニーズを 把握し可能な代替活動を提案」「見学を通し新たなニーズを開拓」など を理解する。 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
4回	福祉レクリエーションの介入技 術 4	認知症グループホームなどで用いやすい1対1のレクリエーション活動を理解する。 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
5回	福祉レクリエーションの介入技 術 5	対象者同士の相互作用を引き出す、集団での交流と心の状態、人間の交流と心の状態、場の効果、グループ活動におけるリスクマネジメントを理解する。 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
6 回	福祉レクリエーションの介入技 術 6	小集団を活かした支援のためのプログラムづくりの方法 アセスメント・計画・プログラムの基本的な流れを理解する。 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
7回	福祉レクリエーションの介入技 術7	小集団(特別養護老人ホーム、老人保健施設、ショートステイ、デイケアセンター、介護予防デイ)での力を引き出し活かしやすいレクリエー

		ション活動を理解する。 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
8回	福祉レクリエーションの介入技 術8	レクリエーション活動への参加を促す環境づくりの方法を理解する。 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
9回	福祉レクリエーションの介入技 術 9	生きがい活動・余暇自立促進の方法 自立的な生きがい活動追及のポイントと自立生活の意義について理解する。 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
10回	福祉レクリエーションの介入技 術 10	生きがい活動・余暇自立促進の展開 障がい者も健常者もともに楽しめる多様なレクリエーションづくり 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
11回	福祉レクリエーション・アクテ ィビティの創作 1	レクリエーション活動のアレンジとは既成のレクリエーション活動を目線や現場の理念に合わせて、意図的に進め方や構造に工夫を加え、新しい活動を作り出すことを理解する。 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
12回	福祉レクリエーション・アクティビティの創作 2	対象者に合わせたレクリエーション活動の創作 アレンジ演習 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
13回	福祉レクリエーション・アクティビティの創作3	対象者に合わせたレクリエーション活動の創作 アレンジ発表 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
14回	コミュニケーション技法1	言語伝達技術 親密な人間関係を基盤として創造力や言語能力を高め、 精神状態を落ち着かせる活動を理解する。 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
15回	コミュニケーション技法2	言語伝達技術 話し言葉を他人に伝達するためには、はっきりした発音でしゃべる必要があり、その訓練として落ち着いて丁寧に発音する早口言葉を理解する。 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
16 回	コミュニケーション技法3	非言語伝達技術 利用者との伝達方法として動作・表情・目の動きによって気持ちを伝えることがでる。不完全な言い方であっても非言語情報によって伝達できることを理解する。 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
17 回	コミュニケーション技法4	よく使われるコミュニケーション技法 利用者の喜びや悲しみの感情を 正確に理解し利用者の言葉に耳を傾けることの大切さや難しさをそれぞ れの技法で理解する。 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
18 回	コミュニケーション技法 5	言葉かけとリスニング 利用者に対して支援者がその場に合わせてメッセージを送る伝達法を理解する。 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
19 回	コミュニケーションボード作成	昔の思い出、あそびやスポーツの一場面のイラストをボードに作成す る。

		【予習】イラストボードについて調べる。【復習】イラストボードについて再確認する。
20 回	コミュニケーションボードの進 め方及び回想法	遊びの回想、余暇活動の紹介と情報提供。回想法の手法について学ぶ。 【予習】回想法について調べる。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
21 回	ケーススタディー1	グループ援助(目的や対象に合わせたプログラム作成)① 予習:目的や対象に合わせたプログラムについて考える。 復習:グループ援助の内容を再確認すること。
22 回	ケーススタディー 2	グループ援助(目的や対象に合わせたプログラム作成)② 予習:目的や対象に合わせたプログラムについて考える。 復習:グループ援助の内容を再確認すること。
23 回	ケーススタディー3	グループ援助(目的や対象に合わせたプログラム実習)① 予習:目的や対象に合わせたプログラムについて考える。 復習:グループ援助の内容を再確認すること。
24回	ケーススタディー 4	グループ援助(目的や対象に合わせたプログラム実習)② 予習:目的や対象に合わせたプログラムについて考える。 復習:グループ援助の内容を再確認すること。
25回	ケーススタディー 5	グループ援助(目的に合わせたプログラムの評価) 予習:目的や対象に合わせたプログラムについて考える。 復習:グループ援助の内容を再確認すること。
26回	ケーススタディー 6	個人を対象にしたプログラム案の作成① 予習:個人を対象にしたプログラムについて考える。 復習:個人への援助の内容を再確認すること。
27回	ケーススタディー 7	個人を対象にしたプログラム案の作成② 予習:個人を対象にしたプログラムについて考える。 復習:個人への援助の内容を再確認すること。
28回	ケーススタディー8	個人を対象にしたプログラム実習① 予習:個人を対象にしたプログラムについて考える。 復習:個人への援助の内容を再確認すること。
29回	ケーススタディー 9	個人を対象にしたプログラム実習② 予習:個人を対象にしたプログラムについて考える。 復習:個人への援助の内容を再確認すること。
30回	福祉レクリエーションワーカー について	個人を対象にしたプログラム評価。福祉レクリエーション介入技術のまとめ 予習:プログラム評価について考える。 復習:授業内容を振り返り、ノートにまとまめる。

本科目は、演習科目 (2単位) ですので、準備学習30時間が必要になります。

・授業前に各回の授業予定単元を予習しておく

成績評価の基準・方法

評価項目	S	A	В	C	D
1. 福祉現場の環境づくりや、レクリ	完全にない	若干不十分	不十分な点	到達目標の	到達目標を
エーション援助技術を理解	しほぼ完全	な点は認め	は認められ	最低限を達	達成してい
2. 個別援助について理解と援助の習熟	に到達目標	られるもの	るものの、	成してい	ない。
度		の、到達目	到達目標を	る。	

3. グループ援助について理解と援助の習熟度	を達成して いる。	標を達成し ている。	達成してい る。		
100点法	90点以上	80点以上	70点以上	60点以上	59点以下

- ・定期試験 (レポート試験) 50%
- ・授業内課題(2回)個別援助、グループ援助のプログラム作成と実習 50%

教科書

公益財団法人日本レクリエーション協会 よくわかる福祉レクリエーション サービス実施マニュアル 3 『楽しさの 追求を支えるための介入技術』 2013年 (税込 1,870 円)

参考書等

なし。

履修上の注意・学習支援

- ・他の学生の学習を妨げるような行為は慎むこと。
- ・疑問があれば、オフィスアワー(原則、1号館1階「講師教員センター」にて)を利用すること。

オフィスアワー

・疑問があれば、講義終了後、1 号館 1 階「講師教員センター」を利用すること

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
21HS1SP59	野外活動 I	1年	前期	演習	1	河田 隆・月橋 春美・ 霜触 智紀・本並 健太

野外活動は、高度な技術を要求されないプログラムに限り、幼児から高齢者に至るまで、また障害を持った人達にとっても楽しむことのできる活動である。そこで、野外活動について理解し、キャンプ活動の動機付けを行い、キャンプ活動における基礎知識と活動技術を演習形式で理解を深め、対象者に合わせたキャンププログラムの計画方法を福祉専門職として学習する。

到達目標(学習の成果)

- ・野外活動の意義について理解する。 (知識)
- ・キャンプ活動の基礎知識に関して説明できようになる。(知識、技術)
- ・キャンプ活動を安全に行うための技術を身につける。(技術)
- ・福祉領域の対象者に合わせたキャンププログラムが計画・運営できるようになる。(技術)
- ・他者理解を深め、相手とのコミュニケーション能力を身につける。(態度)

回	表題	学習内容
1回	授業の進め方野外活動とは	授業計画、授業方法、予習・復習・成績評価の方法等を説明する。 野外活動の概念、内容について学ぶ。 予習:野外活動の概念や内容について教科書をもとに予習し、理解を 深めておく。 復習:事前学習と講義内容を振り返り、野外活動がもたらす効果につ いて考える。
2日	野外活動の現状と課題、施設、 関係法規	野外活動における自然環境、安全対策、施設等に関する課題について 学ぶ。 予習:野外活動の現状と課題、施設、関係法規について調べておく。 復習:野外活動に関する自然環境、安全対策、施設、関係法規等に関 する現状と課題について学んだことを振り返り、理解を深める。
3回	野外活動の用具1 (基本装備)	主にキャンプ用具の基本装備について、実践的に学ぶ。 予習:野外活動用具(キャンプ用具、主に基本装備)について調べておく。 復習:用具の使用方法等について振り返り、理解を深める。
4回	野外活動の用具2(ロープ)	ロープワークについて、実践的に学ぶ。 予習:野外活動におけるロープの扱い方について調べておく。 復習:ロープの扱いについて振り返り、理解を深める。
5 回	野外活動の用具3 (ポール)	ポールの扱い方について、実践的に学ぶ。 予習:野外活動におけるポールの扱い方について調べておく。 復習:ポールの扱いについて振り返り、理解を深める。
6回	野外活動の用具4(テント)	テントの設営について、実践的に学ぶ。 予習:テントの設営方法について調べておく。 復習:テントの設営方法等について振り返り、理解を深める。
7 回	キャンプの特性、歴史	キャンプ活動の意義や目的、内容について学ぶ。 予習:キャンプの特性(目的、意義、歴史等)について調べておく。 組織キャンプについても調べておく。

		復習:事前学習と講義内容を振り返り、キャンプの意義とキャンプが もたらす効果について考える。
8回	キャンプの指導者と組織化	キャンプ・インストラクターの資質と役割について学ぶ。 実習に向けて、実際に組織化を行う。 予習:キャンプの指導者の資質・役割と組織キャンプについて調べて おく。 復習:キャンプを指導する上で求められる資質・役割について振り返 り、理解を深める。
9回	キャンプの組織・マネジメント 活動	キャンプ実習の係を決めて、仕事内容を確認し、プログラムマネジメントを行う。 予習:組織キャンプの各役割について調べておく。 復習:担当する係の役割について振り返り、理解を深める。
10回	キャンプ及び野外活動のルールとマナー	自然環境、音、色彩、明るさ、狩猟活動、排せつ等に関するルールマナーについて学ぶ。 野外アクティビティ(キャンプファイヤー等)について学ぶ。 予習:キャンプ及び野外活動のルールとマナー、野外アクティビティ(キャンプファイヤー等)について調べておく。 復習:キャンプ及び野外活動のルールとマナー、野外アクティビティ(キャンプファイヤー等)について振り返り、理解を深める。
11回	キャンプ及び野外活動での安全 管理1	救急処置及び看護法(心肺蘇生法、運搬法等)について実践的に学 ぶ。 予習:救急処置及び看護法について調べておく。 復習:救急処置及び看護法について、学習したことを振り返り、理解 を深める。
12回	キャンプ及び野外活動での安全 管理2	キャンプ活動の計画、運営、評価の具体的な方法を学ぶ。 予習:鉈(なた)の扱い、火の取り扱いについて調べておく。 復習:鉈(なた)の扱い、火の取り扱いについての実践を振り返り、 理解を深める。
13回	キャンプにおける指導内容・指 導技術	キャンプ活動の指導内容やコミュニケーション・スキル、点呼について、実践的に学ぶ。 予習:キャンプの指導内容、指導技術について調べておく。 復習:キャンプの活動効果を高める指導内容やコミュニケーション・スキルについて振り返り、理解を深める。
14回	キャンプにおけるクラフト活動	自然のものを用いたクラフト活動について、実践的に学ぶ。 予習:キャンプにおけるクラフト活動について調べておく。 復習:クラフト活動を振り返り、理解を深める。
15回	野外活動の計画・運営・評価	野外活動の計画、運営、評価の具体的な方法について実践的に学ぶ。 予習:野外活動の計画、運営、評価の具体的な方法について調べてお く。 復習:野外活動を計画する、運営する、評価するための具体的な方法 について振り返り、理解を深める。

本科目は演習科目 (1単位) ですので、授業時間90分以外に15時間の授業外学習が必要になります。 授業外学習方法に記載された予習・復習課題を実践して内容の理解を深めてください。

成績評価の基準・方法

評価項目	S	A	В	С	D
1. 野外活動の意義やキャンプ活動の	完全にない	若干不十分	不十分な点	到達目標の	到達目標を
基礎知識の理解	しほぼ完全	な点は認め	は認められ	最低限を達	達成してい
2. キャンプ活動を安全に行うための	に到達目標	られるもの	るものの、	成してい	ない。
技術の習熟度	を達成して	の、到達目	到達目標を	る。	
3. 対象者に合わせたキャンププログ	いる。	標を達成し	達成してい		
ラムの計画・運営の習熟度		ている。	る。		
4. 他者理解を深め、相手とのコミュ					
ニケーション能力の習熟度					
100点法	90点以上	80点以上	70点以上	60点以上	59点以下

定期試験 (レポート試験) 60%

- ・野外活動の意義やキャンプ活動の基礎知識を理解している
- ・現場に合わせたキャンププログラムが計画・運営できる

授業課題に対する積極的なスキルアップと課題克服度 40%

・キャンプ活動を安全に行うための技術が身につく

教科書

日本キャンプ協会指導者養成委員会編『キャンプ指導者入門』(社)日本キャンプ協会 2017 年、2,200円 参考書等

- •星野敏男 他著『野外教育入門』小学館 2001年、1,980円
- ・日本野外教育研究会編『野外活動 その考え方と実際』杏林書院、2001年、2,860円

履修上の注意・学習支援

2泊3日のキャンプ実習への参加を含む(キャンプ・インストラクター資格取得のため)キャンプ実習費用10,000円(2泊3日)を、実習前に徴収する 疑問があれば必ず授業担当に相談すること(t. shimofure@ujc. ac. jp)に相談すること 本授業はいずれの回も担当教員4名で行う

オフィスアワー

疑問があれば、オフィスアワーを利用すること。事前予約(t. shimofure@ujc. ac. jp)のうえ、時間を設定する。 具体的な時間は追って連絡する。

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
21HS1SP60	野外活動Ⅱ	1年	集中	演習	1	月橋 春美・ 霜触 智紀・本並 健太

実習前に、冬季野外活動(スキー・スノーボード)について学習する。また、2泊3日の学外施設でのスキー 実習では、現地インストラクターによるスキー・スノーボードのレベル別グループ技術指導を受け基礎技術を 学習する。宿泊施設においてはスキー・スノーボードに関する講義を受け、基礎技術に関しての理論を深く理 解する。実習後は自己評価レポートを提出することにより実習振り返りを行う。福祉領域において福祉専門職 として、生涯スポーツとしてのスキー、スノーボードの健康的効果を学習する。

到達目標(学習の成果)

- ・2泊3日のスキー実習を通して、冬季の自然環境について理解する。(知識)
- ・冬季野外活動に関する基礎理論を深く理解する。(知識)
- ・基礎技術を身につけることにより安全で楽しく冬季野外活動ができるようになる。 (技術・態度)
- ・理論を通して、実践できる。(技術・態度)

回	表題	学習内容
1回	授業の進め方 事前学習1	授業計画、授業方法、予習・復習・成績評価の方法等を説明する。 冬季野外活動(スキー・スノーボード)について学ぶ 予習:スキー・スノーボードの本や映像から、知識や技術について理解を深めておく。 復習:事前学習で得た知識と本実習の関連について振り返り、冬季野外活動意義の理解を深める。
2 回	事前学習2	スキー・スノーボード実習の概要に関して学ぶ 予習:スキー・スノーボードの本や映像から、知識や技術について理解を深めておく。 復習:事前学習で得た知識と本実習の関連について振り返り、冬季野外活動意義の理解を深める。
3回	講義(基礎技術の理論) 1	車中にて、スキー・スノーボードの基礎技術をビデオ学習 予習:スキー・スノーボードの本や映像から、知識や技術について理解を深めておく。 復習:事前学習で得た知識と本実習の関連について振り返り、冬季野外活動意義の理解を深める。
4回	実技レッスン1	現地インストラクターによる実技レッスン (スキー・スノーボード) 予習:スキー・スノーボードの本や映像から、知識や技術について理解を深めておく。 復習:実践を踏まえ、スキー・スノーボードの技術について振り返り、理解を深める。
5回	実技レッスン2	現地インストラクターによる実技レッスン (スキー・スノーボード) 予習:スキー・スノーボードの本や映像から、知識や技術について理解を深めておく。 復習:実践を踏まえ、スキー・スノーボードの技術について振り返り、理解を深める。
6回	講義 (基礎技術の理論) 2	現地インストラクターによる基礎技術について学ぶ 予習:スキー・スノーボードの本や映像から、知識や技術について理 解を深めておく。

		復習:前時までの学習で得た基礎技術について振り返り、基本用語の 理解及び技術の理解を深める。
7回	実技レッスン3	現地インストラクターによる実技レッスン (スキー・スノーボード) 予習:スキー・スノーボードの本や映像から、知識や技術について理解を深めておく。 復習:実践を踏まえ、スキー・スノーボードの技術について振り返り、理解を深める。
8日	実技レッスン4	現地インストラクターによる実技レッスン(スキー・スノーボード) 予習:スキー・スノーボードの本や映像から、知識や技術について理解を深めておく。 復習:実践を踏まえ、スキー・スノーボードの技術について振り返り、理解を深める。
9日	実技レッスン5	現地インストラクターによる実技レッスン (スキー・スノーボード) 予習:スキー・スノーボードの本や映像から、知識や技術について理解を深めておく。 復習:実践を踏まえ、スキー・スノーボードの技術について振り返り、理解を深める。
10回	実技レッスン6	現地インストラクターによる実技レッスン (スキー・スノーボード) 予習:スキー・スノーボードの本や映像から、知識や技術について理解を深めておく。 復習:実践を踏まえ、スキー・スノーボードの技術について振り返り、理解を深める。
11回	講義(実習成果)3	現地インストラクターによる実習成果についての評価を受ける。 予習:スキー・スノーボードの本や映像から、知識や技術について理解を深めておく。 復習:評価を踏まえ、スキー・スノーボードの技術について自身のスキルを把握するとともに課題を明確にしておく。
12回	実技レッスン7	現地インストラクターによる実技レッスン (スキー・スノーボード) 予習:スキー・スノーボードの本や映像から、知識や技術について理解を深めておく。 復習:実践を踏まえ、スキー・スノーボードの技術について振り返り、理解を深める。
13回	実技レッスン8	現地インストラクターによる実技レッスン (スキー・スノーボード) 予習:スキー・スノーボードの本や映像から、知識や技術について理解を深めておく。 復習:実践を踏まえ、スキー・スノーボードの技術について振り返り、理解を深める。
14回	講義(振り返り)4	車中にて、実習の記録ビデオの鑑賞を行い、自分の実習での技術向上 の成果を振り返る 予習:実技レッスンを振り返り、成果及び課題を考えておく。 復習:自分の技術を客観的に把握し、実習での技術向上の成果及び課 題を明確にする。
15回	事後学習	スキー・スノーボード実習の振り返りをし、実習に対する自己評価を まとめる 予習:実習の全行程を振り返り、成果及び課題を考えておく。 復習:スキー・スノーボード実習の振り返りから、自己評価をまと め、成果及び課題を明確にする。

本科目は演習科目(1単位)ですので、授業時間90分以外に15時間の授業外学習が必要になります。 授業外学習方法に記載された予習・復習課題を実践して内容の理解を深めてください。

成績評価の基準・方法

評価項目	S	A	В	С	D
1. 冬季の自然環境の理解	完全にない	若干不十分	不十分な点	到達目標の	到達目標を
2. 冬季野外活動に関する基礎理論の	しほぼ完全	な点は認め	は認められ	最低限を達	達成してい
理解	に到達目標	られるもの	るものの、	成してい	ない。
3、スキーまたはスノーボードの基礎	を達成して	の、到達目	到達目標を	る。	
技術の習熟度	いる。	標を達成し	達成してい		
		ている。	る。		
100点法	90点以上	80点以上	70点以上	60点以上	59点以下

定期試験 (レポート試験) 60%

- ・安全で楽しくスキー・スノーボードができるようになるための基本知識を理解している技術の習得および向上 40%
- ・スキー・スノーボードに関する基礎理論を深く理解している
- スキー・スノーボードの基礎技術を身につけている

教科書

第1回:事前学習、第6回:講義、第15回:事後学習にて、資料を配布する。

参考書等

- ・渡辺一樹監修『DVD上達レッスン スキー』成美堂出版、2010年、1,500円(税別)
- ・松沢聖佳『スキー初中級レッスン』株式会社実業之日本社、2011年、1,700円(税込み)
- ・平敷慶彦監修『ゼロからはじめるスノーボード入門』コスミック出版、2014年、1,204円(税別)

履修上の注意・学習支援

- ・集中講義のため、2 泊 3 日のスキー実習は全日参加すること。
- ・実習費として47,000円程度(44名参加、昨年度実績)を、徴収する。用具をレンタルする場合は、以下を追加で徴収する。

フルセット(スキー板orスノーボード、ブーツ、ストック(スキーのみ)、ウェア、小物セット(グローブ・帽子・ゴーグル)) 13,500円

ウェアなしセット(スキー板orスノーボード、ブーツ、ストック(スキーのみ)、小物セット(グローブ・帽子・ゴーグル)) 10,500円

- ・疑問があれば、オフィスアワーを利用すること。事前予約のうえ、時間を設定する。
- ・本授業はいずれの回も担当教員3名にて行う

オフィスアワー

疑問があれば、オフィスアワーを利用すること。事前予約(t. shimofure@ujc. ac. jp)のうえ、時間を設定する。具体的な時間は追って連絡する。

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
21 HS2SP61	人間関係論	2年	後期	講義	2	堀 圭三

福祉を実践するために、人間関係や、他者への情報の伝達に必要な基礎的なコミュニケーション能力について理解を深める。

到達目標(学習の成果)

- 1. 快い人間関係を築くために必要な態度を理解している。(知識)
- 2. 自己も他者も尊重できる表現をすることができる。 (技術)
- 3. より良い人間関係を築く態度が身についている。(態度)

□	表題	学習内容
1回	授業の進め方 人間関係とは何か	授業計画・準備学習・成績評価の基準・方法を理解する。 対人関係,三者関係を理解する。 予習:参考書から少なくとも1冊選び授業終了までに理解する。 復習:授業で示された課題を行う。
2回	人間関係の形成①	相互行為の概念、儀礼的相互行為について理解する。 予習:授業で示された課題を調べまとめる。 復習:授業で示された課題を行う。
3回	人間関係の形成②	他者理解、ラポール、文脈の概念を理解する。 予習:授業で示された課題を調べまとめる。 復習:授業で示された課題を行う。
4回	人間関係の形成③	役割取得、役割遂行、役割演技の概念を理解する。 予習:授業で示された課題を調べまとめる。 復習:授業で示された課題を行う。
5回	人間関係の形成④	バーバルコミュニケーションとノンバーバル・コミュニケーションの 多様な使い方について理解する。 予習:授業で示された課題を調べまとめる。 復習:授業で示された課題を行う。
6 回	コミュニケーションの技法①	ボディメッセージと動作と表情、目の使い方と身体接触の概念について理解する。 予習:授業で示された課題を調べまとめる。 復習:授業で示された課題を行う。
7回	コミュニケーションの技法②	周辺言語と沈黙、空間と距離、時間、色彩について理解する。 予習:授業で示された課題を調べまとめる。 復習:授業で示された課題を行う。
8回	コミュニケーションの技法③	受容・共感・傾聴の方法とその考え方を理解する。 予習:授業で示された課題を調べまとめる。 復習:授業で示された課題を行う。
9回	コミュニケーションの技法④	アサーティブな表現、DESC法、Iメッセージについて理解する。 予習:授業で示された課題を調べまとめる。 復習:授業で示された課題を行う。
10回	人間関係と文化①	贈与慣行と人間関係、日米の贈与慣行の違いを理解する。 予習:授業で示された課題を調べまとめる。

		復習:授業で示された課題を行う。
11回	人間関係と文化②	職場の人間関係、感情労働、ホーソン実験について理解する。 予習:授業で示された課題を調べまとめる。 復習:授業で示された課題を行う。
12回	人間関係と文化③	異文化理解、提示儀礼と回避儀礼の文化の違いを理解する。 予習:授業で示された課題を調べまとめる。 復習:授業で示された課題を行う。
13回	人間関係と文化④	ホスピタリティともてなしの違いについて理解する。 予習:授業で示された課題を調べまとめる。 復習:授業で示された課題を行う。
14回	人間関係トレーニング①	さまざまなコミュニケーション・モードでの表現を体験する。 予習:授業で示された課題を調べまとめる。 復習:授業で示された課題を行う。
15回	人間関係トレーニング②	「させていただく」という表現について考える。 予習:授業で示された課題を調べまとめる。 復習:授業で示された課題を行う。

この科目は、講義科目(2単位)ですので、授業時間以外に準備学習60時間が必要になります。

- ・参考書から少なくとも1冊選び授業終了までに読んで理解する。
- ・ニュースやコラム等で授業に関係することがあれば、その内容をノートにまとめること。

成績評価の基準・方法

評価項目	S	A	В	С	D
1. 表題ごとのポイントと具体的な行為	完全にない	若干不十分	不十分な点	到達目標の	到達目標を
について説明できる。	しほぼ完全	な点は認め	は認められ	最低限を達	達成してい
2. 授業内容と参考書で示された内容と	に到達目標	られるもの	るものの、	成してい	ない。
は関連付けられ理解している。	を達成して	の、到達目	到達目標を	る。	
	いる。	標を達成し	達成してい		
		ている。	る。		
100点法	90点以上	80点以上	70点以上	60点以上	59点以下

・定期試験 (レポート試験) 100%

教科書

第1回目にレジュメを配付する

参考書等

- ・竹内一郎『人は見た目が9割』新潮新書 2005年、836円(税込)
- ・竹内一郎『やっぱり人は見た目が9割』新潮新書 2014年、814円 (税込)
- ・ヴァーガス『非言語コミュニケーション』新潮選書 1987年、1,870円 (税込)
- ・平田オリザ『わかりあえないことから』講談社現代新書 2012年、968円 (税込)
- ・井出他『ソーシャルワーカー』ちくま新書 2019年、902円(税込)

履修上の注意・学習支援

準備学習の指定図書だけでなく、参考書や授業中に紹介した本を読むこと。 Google classroomにて、課題の提出等を行う。

オフィスアワー

疑問があれば、オフィスアワーを利用すること。事前予約(k3@ujc.ac.jp) のうえ、時間を設定する。具体的な

時間帯は追って指示する。

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
21 HS2SP62	学校ソーシャルワーク	2 年	後期	講義	2	矢野善教

学校を基盤としたソーシャルワークについて理解を深め、支援者としての援助技術について学ぶ。 学校・家庭・地域が、子どもの発達や学び・自立にとってどのような意味をもつのかに着目し、学校における今 日的課題への対応を、具体的な事例で考察していく。

到達目標(学習の成果)

学校(スクール)ソーシャルワークについての知見を得る。 学校現場の多様性を捉えることにより、チーム援助のありかた及び包括的な視点を養う。 事例検討やケース会議を通して、具体的な支援計画を立てられるようになる。

□	表題	学習内容					
1回	授業の進め方	授業計画、授業方法、予習・復習、成績の評価基準・方法等を知る 学校(スクールソーシャルワーカーの仕事と役割)(DVD視聴)					
	学校ソーシャルワーク入門	【予習】配布資料とテキストの該当する部分を読む。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。					
2回	学校ソーシャルワーク入門	学校とソーシャルワーク 学校ソーシャルワークの歴史と動向 【予習】配布資料とテキストの該当する部分を読む。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。					
3回	学校文化・教師文化	学校教育の特徴 学校に勤務するスクールソーシャルワーカーの同僚 【予習】配布資料とテキストの該当する部分を読む。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。					
4 回	学校の福祉機能	学校の福祉機能の再生 学校がソーシャルワークに求めるもの 【予習】配布資料とテキストの該当する部分を読む。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。					
5 回	学校ソーシャルワークに必要な 理論 I	エコロジカル視点、ストレングス視点等のスクールソーシャルワーク 実践への適用 【予習】配布資料とテキストの該当する部分を読む。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。					
6 回	学校ソーシャルワークに必要な 理論 Ⅱ	家族構造論等のスクールソーシャルワーク実践への応用 【予習】配布資料とテキストの該当する部分を読む。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。					
7回	学校ソーシャルワークの実際 1	学校が抱える課題① いじめと学校ソーシャルワーク 不登校と学校ソーシャルワーク 学力保障と学校ソーシャルワーク 非行と学校ソーシャルワーク ま行と学校ソーシャルワーク 【予習】配布資料とテキストの該当する部分を読む。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。					
8回	学校ソーシャルワークの実際 2	学校が抱える課題② 貧困と学校ソーシャルワーク					

		,
		【予習】配布資料とテキストの該当する部分を読む。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
9回	学校ソーシャルワークの実際 3	学校が抱える課題③ 児童虐待と学校ソーシャルワーク 児童福祉施設と学校ソーシャルワーク
10回	学校ソーシャルワークの実際 4	学校が抱える課題④ 特別支援教育と学校ソーシャルワーク ソーシャルスキルトレーニングと学校ソーシャルワーク 災害支援と学校ソーシャルワーク 【予習】配布資料とテキストの該当する部分を読む。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
110	学校ソーシャルワークの実際 5	青年期の課題と学校ソーシャルワーク 若者の貧困 性的マイノリティにとっての学校の安心・安全 高等学校における学校ソーシャルワーク 大学における学校ソーシャルワーク 【予習】配布資料を読む。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
12回	個別支援の実際	学校ソーシャルワークの援助プロセスケース会議(事例検討会議)についてエコマップについて 【予習】配布資料とテキストの該当する部分を読む。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
13回	学校ソーシャルワーク実践事例 の検討 I	発達障害事例の検討(事例を読み、グループで討議) 【予習】配布資料とテキストの該当する部分を読む。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
14回	学校ソーシャルワーク実践事例 の検討Ⅱ	不登校事例・ヤングケアラーの検討(事例を読み,グループで討議) 【予習】配布資料とテキストの該当する部分を読む。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
15回	学校ソーシャルワーク実践事例 の検討Ⅲ	虐待事例の検討(事例を読み,グループで討議) ミニレポートの作成 【予習】配布資料とテキストの該当する部分を読む。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。

本科目は、講義科目(2単位)ですので、授業時間以外に60時間の授業外学習が必要となります。 学習内容に記載された予習・復習を実践して内容の理解を深めてください。

成績評価の基準・方法

評価項目	S	A	В	С	D
・学校ソーシャルワークに関する知識	完全にない	若干不十分	不十分な点	到達目標の	到達目標を
・学校現場のチーム援助のありかたに	しほぼ完全	な点は認め	は認められ	最低限を達	達成してい
関する習熟度	に到達目標	られるもの	るものの、	成してい	ない。
・事例やケース会議を通しての具体的	を達成して	の、到達目	到達目標を	る。	
支援計画に関する習熟度	いる。	標を達成し	達成してい		
		ている。	る。		
100点法	90点以上	80点以上	70点以上	60点以上	59点以下

- ・授業内課題(学習内容の要約や専門用語を適切に説明できるかを確認する課題)50%
- ・定期試験(レポート試験)(福祉専門職の知識や支援方法についての自らの考えを表明できる)50%

教科書

参考書等

内田 宏明【編著】入門スクールソーシャルワーク論 ミネルヴァ書房

馬場 幸子【著】スクールソーシャルワーク実践スタンダード - 実践の質を保証するためのガイドライン (第 2版) 明石書店

山野 則子/野田 正人/半羽 利美佳【編著】よくわかるスクールソーシャルワーク やわらかアカデミズム・〈わかる〉シリーズ (第2版) ミネルヴァ書房

履修上の注意・学習支援

真摯な姿勢での取り組みを期待する。 積極的な発言を歓迎する。

オフィスアワー

疑問があれば、オフィスアワーを利用すること。オフィスアワーの時間等については、第1回目の講義時に提示する。

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
21 HS2SP63	ボランティア論	2年	前期	講義	1	矢野 正広

- ①ボランティア/市民活動の動力・行動原理について理解する。
- ②その組織化としての NPO/NGO のマネジメント方法を探る。
- ③さらに、ボランティアや NGO/NPO が行うソーシャル・アクション、アドボカシーによって現在の社会福祉の法制度が作られてきたことにも言及し、現在も同様の実践がなされていることを実感するため、県内の NPO 代表をゲストに招くとともに、現場見学をおこなう。

到達目標(学習の成果)

- ① ボランティア/市民活動の動力・行動原理について理解を深める。(知識)
- ② その組織化としての NPO/NGO のマネジメント方法を知ることで、ボランティア/市民活動の実践の中に、 社会福祉の現場の改善に応用できる考え方や技術があることを理解する。(方法・技術)

回	表題	学習内容
1 П		授業計画、授業方法、予習・復習、成績の評価基準・方法等を知る 目的/ボランティアの行動原理を理解する(長所、短所、ボランティアのリスクと可能性を考える) 講義内容/①定義と本質、用語(市民活動、NPO、NPO法人、
2回	授業の進め方 講義:ボランティアの行動原理 ゲストの講話(1人)	認定NPO法人、NGO) について。②ボランティアを活性化する技術(ボランティア・コーディネーション)とボランティアの限界について。 ゲスト①「DV 被害者支援」の現場から(14:45-)栃木県内の NP 0 リーダーによる「市民活動の今」を聞く・認定 NPO 法人ウィメンズハウスとちぎ 丸山文子(予定)予習:「ウイメンズハウスとちぎ」について調べる復習:なぜ「民間の活動」として行うのかをまとめる
3回		内容/災害図上訓練 (DIG) を行い、災害をシュミレーションし、 自らが行うボランティアプログラムを作成する。また、被災者の ニー ズの想定と事例検討を行う。
4回	講義: 災害シュミレーション ゲストの講話(1人)	目的/①ボランティア活動の実際を理解する。②ボランティア・プログラムの作り方を理解する。 ゲスト②「重度障害者が街で暮らす」現場から栃木県内の NPO リーダーによる「市民活動の今」を聞く・自立生活センター栃木/NPO 法人ホワイトバード 箱石充子&岡田 予習:「自立生活運動」について歴史や哲学を調べる。 復習:「自立とは何か」をまとめる。
5 回	ボランティア (NPO) の現場に行く	※宇都宮市内に外出します。県庁前バス停徒歩3分(現地解散予定) 内容/フードバンク宇都宮の見学。現地でゲスト2人の話を聞く。 ゲスト③「生活困窮者支援」の現場、ゲスト④「福島・原発避難
6 回	ゲストの講話(2人)	者の支援ラジオ」の現場から栃木県内の NPO リーダーによる「市民活動の今」を聞く ・NPO法人フードバンクうつのみや&困窮者支援:小澤勇治さん ・認定 NPO 法人とちぎボランティアネットワーク・学生ラジオ・インターン:櫻井脩弥さん(宇大4年・予定) 予習:ケースワークとフードバンクについて調べる

		復習: (NPOにおいて)活動を支える人材や予算についてまと める
7 回	- 講義:NPOの法律と資金調達	講義内容/NPOの法律・支援策とファンドレイジング(資金調達) について講義する。また、市民活動と社会福祉の現代的意義につ
8回	(寄付) (寄付) ゲストの講話(1人)	いて考える。 ゲスト⑤「薬物依存とセルフヘルプ」の現場から栃木県内のNPO リーダーによる「市民活動の今」を聞く NPO 法人茨城ダルク・女性センター 不動さん・予定) 予習:薬物依存についての法律を調べる 復習:「セルフヘルプグループ」についてまとめる

本講義は、講義科目(1単位)ですので、準備学習30時間が必要になります。

まちぴあ、ぽぽら、社会福祉協議会等の紹介で福祉施設、ボランティア団体、NPO等に行き、実践的にボランティア活動を体験することが望ましい(任意。活動しなくても可)。

成績評価の基準・方法

評価項目	S	A	В	С	D
1. ボランティア・市民活動の行動原理	完全にない	若干不十分	不十分な点	到達目標の	到達目標を
についての理解 (習熟度)	しほぼ完全	な点は認め	は認められ	最低限を達	達成してい
2、ボランティア・プロジェクト作成	に到達目標	られるもの	るものの、	成してい	ない。
の習熟度	を達成して	の、到達目	到達目標を	る。	
3. NPO/NGOの財源と寄付集めについて	いる。	標を達成し	達成してい		
の理解		ている。	る。		
100点法	90点以上	80点以上	70点以上	60点以上	59点以下

- ・定期試験 (レポート試験) 100%
- ·授業内課題 (3回) 0%

教科書 なし。毎回コピー等を配布。講義内容・ゲストへの意見・感想を授業終了時に提出 **参考書等** 寄付白書 日本ファンドレイジング協会 2021 寄付白書発行協会 3,300円

履修上の注意・学習支援

興味を持って、積極的に参加する受講者を歓迎する。

オフィスアワー

疑問があれば、オフィスアワー(原則、講義終了後 15 分間程度、1 号館 1 階「講師教員センター」)を利用すること。

実務経験の概要

- ○1995 年から、とちぎボランティアネットワーク設立と当時に常勤職員(事務局長)として、ボランティアコーディネーション、ボランティア育成、ボランティア情報誌の発行などに従事。
- 〇災害救援活動は 1995 年から現在までに 49 回実施。派遣ボランティア人数 15,216 人、寄付で支援した額 は 1543 万円。

実務経験と科目との関連性

- ○県域のボランティア・NPO 支援センターであることから、各種の市民活動とのネットワークがある。
- ○ボランティアプログラムの作成は市民活動の根幹である。災害時には多様なボランティア活動が必要と されることからシュミレーションとともに自分には何ができるかを考えさせるようにした。

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
21 HS2SP64	NPOコミュニティヒ゛シ゛ネス論	1年	前期	講義	2	和田佐英子

本講義では、各種NPO団体や社会福祉法人等を中心に、非営利組織に着目し、日本社会におけるそれらの存在意義、内包する課題、今後の展望などについて検討する。また、地域社会の課題解決の手段の一つとして期待されているコミュニティビジネスについても理解を深め、NPO等それぞれが持つミッションと社会的課題の解決の方策を模索するともに、その組織としての持続性の維持とそこで働く人達の抱える問題について考える。NPO等を勉強することによって、受講者の多くが就職先として選択するのであろう非営利組織の組織構造を理解することができるようになることを目的とする。

到達目標(学習の成果)

非営利組織の現状、可能性と課題について理解している。また、福祉や子育て環境の充実におけるコミュニティビジネスの可能性について理解を持つとともに、自らの参加の可能性について考えることができる(知識・方法)。

	以未们 凹					
旦	表題	学習内容				
1 回	授業の進め方 オリエンテーション、NPOと は何か	授業計画、授業方法、予習・復習、成績の評価基準・方法等を知る NPOとは何か、NPOの機能とは何かなど、非営利組織の基礎について考える。 事前:保育園や介護事業所のホームページを見てみよう。(2時間) 事後:本日、勉強した内容を整理し、自分の意見や感想をまとめておく。(2時間)				
2 回	非営利組織の諸相	特定非営利活動法人、公益法人など非営利組織の諸相について学ぶ。 また、ボランティア、ボランティアグループとの違いについても紹介 する。 事前:事前に指示のあった資料や参考文献を読んでおく。(2時間) 事後:本日、勉強した内容を整理し、自分の意見や感想をまとめておく。 (2時間)				
3回	非営利組織の歴史的背景	非営利組織がどのような背景のなかで誕生し、機能を発揮するようになってきたのか、歴史的観点から概括する。 事前:事前に指示のあった資料や参考文献を読んでおく。(2時間) 事後:本日、勉強した内容を整理し、自分の意見や感想をまとめておく。(2時間)				
4 回	非営利組織のマネジメント	非営利組織が十分な成果を得るために、どのようなマネジメントが必要なのかを考える。 事前:事前に指示のあった資料や参考文献を読んでおく。(2時間) 事後:本日、勉強した内容を整理し、自分の意見や感想をまとめておく。 (2時間)				
5回	コミュニティビジネスとは何か	コミュニティビジネスの基本について学ぶとともに、非営利組織との 関係性について理解を深める。 事前:事前に指示のあった資料や参考文献を読んでおく。(2時間) 事後:本日、勉強した内容を整理し、自分の意見や感想をまとめておく。 (2時間)				
6回	非営利組織、コミュニティビジ ネス事例(1) 保育	非営利組織、コミュニティビジネスにおける保育の取組について学ぶ。 事前:事前に指示のあった資料や参考文献を読んでおく。(2時間) 事後:本日、勉強した内容を整理し、自分の意見や感想をまとめておく。 (2時間)				

7回	非営利組織、コミュニティビジネス事例(2)まちづくり	非営利組織、コミュニティビジネスにおけるまちづくりの取組について学ぶ。 事前:事前に指示のあった資料や参考文献を読んでおく。(2時間) 事後:本日、勉強した内容を整理し、自分の意見や感想をまとめておく。 (2時間)
8日	非営利組織、コミュニティビジ ネス事例(3) 環境問題	非営利組織、コミュニティビジネスにおける環境問題の取組について 学ぶ。 事前:事前に指示のあった資料や参考文献を読んでおく。(2時間) 事後:本日、勉強した内容を整理し、自分の意見や感想をまとめておく。 (2時間)
9回	非営利組織、コミュニティビジネス事例(4) まちづくり	非営利組織、コミュニティビジネスにおけるまちづくりの取組について学ぶ。 事前:事前に指示のあった資料や参考文献を読んでおく。(2時間) 事後:本日、勉強した内容を整理し、自分の意見や感想をまとめておく。 (2時間)
10回	非営利組織、コミュニティビジネス(事例) (5) 国際理解・国際協力	非営利組織、コミュニティビジネスにおける国際理解・国際協力の取組について学ぶ。 事前:事前に指示のあった資料や参考文献を読んでおく。(2時間) 事後:本日、勉強した内容を整理し、自分の意見や感想をまとめておく。 (2時間)
11回	非営利組織と地域社会について考える	非営利組織と地域社会について考える。 事前:事前に指示のあった資料や参考文献を読んでおく。(2時間) 事後:本日、勉強した内容を整理し、自分の意見や感想をまとめておく。 (2時間)
12回	地域社会における地域集団と NPOについて考える	地域社会における地域集団とNPOについて考える。 事前:事前に指示のあった資料や参考文献を読んでおく。(2時間) 事後:本日、勉強した内容を整理し、自分の意見や感想をまとめておく。 (2時間)
13回	自分で、非営利組織、コミュニ ティビジネスを立ち上げる (1)構想	自分で、非営利組織、コミュニティビジネスを立ち上げる (1)構想 事前:自分でコミュニティビジネスを立ち上げるとしたら、どのようなテーマ のビジネスを立ち上げるか、各自自分の意見をまとめておく。 (2時間) 事後:本日の授業をもとに、自分のアイディアを修正する (2時間)
14回	非営利組織、コミュニティビジ ネスを立ち上げる(2)計画	非営利組織、コミュニティビジネスを立ち上げる(2)計画 事前:自分のアイディアを計画に落とし込む。(2時間) 事後:本日の授業をもとに、自分のアイディアを修正する。(2時間)
15回	自分の構想を発表する	実際に各自が解決すべき課題を設定し、自分が作りたいNpoの構想を 発表する。 事前:自分の構想の発表準備をする。(2時間) 事後:本日の発表を振り返り、レポートにまとめる。(2時間)

この科目は、講義2単位ですので、事前・事後学習60時間が必要になります。

成績評価の基準・方法

定期試験を実施 100% (レポートで実施予定)

評価項目	S	A	В	C	D
1. NPOやコミュニティビジネスについてよく理解し、どのような組織が望ましいか提案できる。 2. NPOや社会福祉法人等非営利組織の現状を知り、課題を考察できる。	十分でき ている	ほぼ十分 できてい る	一定程度 できてい る	努力して いる	できていない

i					
100点法	90点以上	80点以上	70点以上	60点以上	59点以下

教科書

毎回講義の時に、配布する。

参考書等

雨森 孝悦 (著)

『テキストブックNPO(第3版): 非営利組織の制度・活動・マネジメント』 有斐閣 2020/2/28 3080円

履修上の注意・学習支援

毎回、講義された内容について、自分なりに整理して復習し、自分なりの意見を持てるよう努力しよう。

オフィスアワー

疑問があれば、オフィスアワー(原則、講義終了後15 分程度、1号館1階「講師教員センター」)を利用すること。

科目	番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
21 HS	S1SP65	美容福祉 I	1年	後期	講義	2	川津孝代・信夫扶美子

生涯自分らしく、美しくありたいという願いを実現するため、また、人間尊重の精神と豊かな人間性をもった福祉や医療の専門職として、高齢者や障がいをもった人々に美容を通して豊かな生活の支援ができる知識と技術を学んでいく。

(川津孝代/7回) 美容アクティビティの必要性と効果を学ぶ。更にシャンプー、車椅子着付けを、実践を通して学ぶ。また、美容効果を高めるための室内環境(色彩やアロマ)の取り入れ方を理解する。

(信夫扶美子/8回)自己表現の一つとして、メイク、ネイルの必要性を学び、現場で出来るように実技を学ぶ。

到達目標(学習の成果)

- ・美容福祉の意義と社会的位置づけ、目的や活用方法を説明できるようになる(知識)
- ・美容福祉の概念から、一般的な「美容」との違いを説明できるようになる(知識)
- ・美容福祉に必要かつ福祉の現場でも役立つ技術の習得(技術)
- ・美容福祉の授業で習得した技術を応用して、現場での新しい活用方法の構築を試みる(方法・態度)

旦	表題	学習内容
1 回	授業の進め方 美容福祉学総論	授業計画、授業方法、予習・復習、成績の評価基準・方法等を知る。 美容福祉の意義と目的を理解する。(川津) 【予習】高齢者のオシャレについて調べる。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
2回	オシャレの楽しみ方	形態別オシャレの楽しみについて理解する。(川津) 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
3回	整容における現場の現状	介護現場での整容の現状と課題点からの美の意識について考える。 (川津) 【予習】高齢者のオシャレについて調べる。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
4回	色彩が及ぼす影響について	在宅や施設での生活環境の中に色彩を取り入れる方法とその効果(川津) 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
5 回	アロマ(精油)が及ぼす影響につ いて	在宅や施設での生活環境の中に、アロマ(精油)を取り入れる方法とその効果を理解する。(川津) 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
6 回	美容技術 ①	気持ちいいシャンプー、マッサージ方法及びブロー方法を学ぶ。 (川津) 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
7 回	美容技術 ②	車椅子での浴衣着付けの仕方を学ぶ。(川津) 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
8回	高齢者、障がい者への美容につ	美容は高齢者、障がい者にとってどのような影響があるのかをエビデ

	いて	ンスをもとに学ぶ。(信夫) 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
9回	美容技術 ③	高齢者、障がい者への「ネイルケア」の方法を学ぶ。(信夫) 【予習】技術の練習をする。 【復習】授業で学んだ技術を練習する。
10回	美容技術 ④	高齢者、障がい者への「ハンドトリートメント」の方法を学ぶ。(信夫) 【予習】技術の練習をする。 【復習】授業で学んだ技術を練習する。
11回	美容技術 ⑤	高齢者、障がい者への「スキンケア」の方法を学ぶ。(信夫) 【予習】技術の練習をする。 【復習】授業で学んだ技術を練習する。
12回	美容技術 ⑥	高齢者、障がい者への「ポイントメイク」の方法を学ぶ。(信夫) 【予習】技術の練習をする。 【復習】授業で学んだ技術を練習する。
13回	美容アクティビティの取り入れ ①	美容アクティビティの必要性と効果を理解する。(信夫) 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
14回	美容アクティビティの取り入れ ②	発表を通して、美容アクティビティについて理解を深める。(信夫) 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
15回	まとめ	これまでの授業での学びを基に今後の福祉美容の未来について考える。(信夫) 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。

本科目は、講義科目(2単位)ですので、授業時間30時間と準備学習60時間が必要になります。 学習内容に示した部分のテキストを予め読んでまとめておくこと。 授業で指示した事柄について教科書を調べてまとめてくること。 授業で学んだ技術を練習する。

成績評価の基準・方法

評価項目	S	A	В	С	D
1. 美容福祉についての座学理解	完全にない	若干不十分	不十分な点	到達目標の	到達目標を
2. 演習での積極的参加と習得度	しほぼ完全	な点は認め	は認められ	最低限を達	達成してい
3. アイデアと意欲性	に到達目標	られるもの	るものの、	成してい	ない。
	を達成して	の、到達目	到達目標を	る。	
	いる。	標を達成し	達成してい		
		ている。	る。		
100点法	90点以上	80点以上	70点以上	69点以上	59点以下

- ・毎時授業レポート(授業内容にそった理解度を表現する) 30%
- ・小テスト(学習内容を理解し、技術を身につけ適切にできる) 30%
- ・定期試験(レポート・美容福祉の基礎知識だけでなく、その社会活用性について具体的に表現する)40%

教科書

学校法人山野学苑, 『四訂 美容福祉概論: その知識と実践技術』,中央法規出版,2020年,2,860円

参考書等

- ・七江亜紀 著, 『知って役立つ色の事典』, 宝島社, 2013年, 1,518円
- ・松江朋子 監修, 『アロマテラピー』, メイツ出版, 2012年, 1,760円

履修上の注意・学習支援

- 1. 積極的かつ主体的に参加すること。
- 2・美容に興味を持ち、私生活での実践を心がける。
- 3・疑問があれば、オフィスアワーを利用すること(授業前後)。

オフィスアワー

疑問があれば、オフィスアワー(原則、講義終了後15分間程度、1号館1階「講師教員センター」)を利用すること。

実務経験の概要

美容福祉師として、認知症をはじめ、障がい、難病、闘病中の方など、幅広いお客様に対応し、美容の仕事を通して美容福祉活動に力を入れてきた。

実務経験と科目との関連性

美容福祉の現場に立ち、自らの実践経験を生かし、生の声を伝えていく事は、本科目の内容との関連性が高くよりリアリティの高い講義が実践できる。

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
21HS1SP66	美容福祉Ⅱ	2年	前期	演習	1	川津 孝代

- ・・人間尊重の精神と豊かな人間性を持った福祉専門職を目指す為、福祉と美容においての必要な知識と技術を学ぶ。
- ・美容福祉の中でも美容の基礎であるメイクアップ技術の習得をめざす。
- ・アクティブラーニングとして、メイクの実習を行う。

到達目標(学習の成果)

- ・美容におけるメイクアップの意義と役割・効果を理解する。 (知識)
- ・メイクアップの基礎知識・テクニックを理解し実践できるようになる。(演習)
- ・メイクアップ技術検定 3 級取得をめざす。 (演習)

旦	表題	学習内容
1 回	授業の進め方 メイクアップの前に…	授業計画、授業方法、予習・復習、成績の評価基準・方法等を知る メイク 3 級試験概要説明、道具検品、手入れ、基本セッティングを 学ぶ。 【予習】テキストの該当する部分を読む 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる
2回	スキンケア①	基本のスキンケア順序、基本スキンケア化粧品の目的、特徴を学ぶ。 気持ち良いと思ってもらえるスキンケア。 技術者の立ち位置、重心移動、声掛けを学ぶ。 【予習】テキストの該当する部分を読む 【復習】授業内容を自主練習する。
3回	スキンケア②	皮膚・表情筋・顔の名称を学ぶ 【予習】テキストの該当する部分を読む 【復習】授業内容を自主練習する。
4回	スキンケア③	ポイントクレンジング・クレンジング実践 化粧水・美容液・乳液テクニックの復習 【予習】テキストの該当する部分を読む 【復習】授業内容を自主練習する。
5 回	スキンケア④	スキンケアテクニックの実践・トータルレッスン。 【予習】テキストの該当する部分を読む 【復習】授業内容を自主練習する。
6 回	ベースメイク①	ベースメイク化粧品の目的・特徴、ベースメイクの手順を学ぶ。 メイクアップベース〜ファンデーション〜パウダーの流れを学ぶ。 ブラシ・テクニック・スポンジパフテクニックを学ぶ。 【予習】テキストの該当する部分を読む 【復習】授業内容を自主練習する。
7回	ベースメイク②	情格・肌色について学ぶ。 メイクアップベース〜ファンデーション〜パウダーの流れを復習 ブラシ・テクニック・スポンジパフテクニックを学ぶ。 【予習】テキストの該当する部分を読む 【復習】授業内容を自主練習する。
8回	ベースメイク③	ベースメイクの質感・肌トラブルとメイクアップを学ぶ。

		メイクアップベース〜ファンデーション〜パウダーの流れを実践。 【予習】テキストの該当する部分を読む 【復習】授業内容を自主練習する。
9 回	ベースメイク④	メイクアップベース〜コントロールカラー〜ファンデーション 〜コンシーラー〜パウダーの流れを実践。 【予習】テキストの該当する部分を読む 【復習】授業内容を自主練習する。
10回	ベースメイク⑤	ベースメイクのトータルレッスン。 【予習】テキストの該当する部分を読む 【復習】授業内容を自主練習する。
11回	ベースメイク⑥	化粧水・美容液~ベースメイクのトータルレッスン。 【予習】テキストの該当する部分を読む 【復習】授業内容を自主練習する。
12回	トータルレッスン①	スキンケア〜ベースメイクのトータル実践 【予習】テキストの該当する部分を読む 【復習】授業内容を自主練習する。
13回	顔の分析	顔分析理論・修正理論・ハイライト、ローライト、チークの効果 ブロッキング知識・メイクプランを学ぶ 顔分析実践・ベースメイクを仕上げたうえで実践・メイクプラン 【予習】テキストの該当する部分を読む 【復習】授業内容を自主練習する。
14回	模擬試験レッスン①	3 級実技模擬試験に向けてレッスンする。 【予習】テキストの該当する部分を読む 【復習】授業内容を自主練習する。
15回	模擬試験レッスン②	3級実技模擬試験に向けてレッスンする。 【予習】テキストの該当する部分を読む 【復習】授業内容を自主練習する。

本科目は、演習科目(1単位)ですので、授業時間以外に15時間の授業外学習が必要となります。 学習内容に記載された予習・復習を実践して内容の理解を深めてください。

成績評価の基準・方法

評価項目	S	A	В	С	D
1.3級ベースメイクの技術と理解	完全にない	若干不十分	不十分な点	到達目標の	到達目標を
2. 検定試験合格に向けての意欲性	しほぼ完全	な点は認め	は認められ	最低限を達	達成してい
	に到達目標	られるもの	るものの、	成してい	ない。
	を達成して	の、到達目	到達目標を	る。	
	いる。	標を達成し	達成してい		
		ている。	る。		
100点法	90点以上	80点以上	70点以上	60点以上	59点以下

小テスト (3級知識レベル) 20% 小テスト (3級実技レベル) 40% 定期試験(実技試験) 40% 16回目に実施

教科書

一般社団法人 JMA、日本メイクアップ技術検定公式テキスト 2級 3級 2025年 5,170円

参考書等

学校法人山野学苑、『四訂 美容福祉概論:その知識と実践技術』、中央法規出版、2020年、2,860円

履修上の注意・学習支援

- ・身だしなみに注意し、動きやすい服装で授業を受けること。
- ・道具の管理を良くし、相モデル同士迷惑をかけないよう心配りに注意する。

オフィスアワー

疑問があれば、オフィスアワー(原則、講義終了後 15 分間程度、1号館1階「講師教員センター」)を利用すること。

実務経験の概要

美容福祉師として、福祉現場での美容の実践を通し、美容は全ての人に生きる活力として 今の時代に無くてはならないことだと実感している。

実務経験と科目との関連性

福祉施設での美容アクティビティ、ファッションショーなどのメイク経験は、本科目の内容との関連性が非常に高く、現場での実践を活かした講義と、学生の意欲を沸き立たせる関連性がある。

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
21 HS1SP67	美容福祉Ⅲ	2年	前期	演習	1	信夫 扶美子

ネイルケア、メイクアップによる心理的変化や基礎知識、技術を身につけ、福祉現場での実践を目指すことを目的とする。

アクティブラーニングとして技術習得のための実習を行う。

到達目標(学習の成果)

福祉現場での利用者一人一人の個性に沿って対応できる福祉専門職を目指し、美容の知識や技術を身につける。(知識・技術)

	授業計画					
回	表題	学習内容				
1回	授業の進め方 ネイル、メイクがもたらす効果	授業計画、授業方法、予習・復習、成績の評価基準・方法等を知る。 認知症改善の研究から、ネイル、ハンドトリートメント、メイクアップの役割、効果を学ぶ。 【予習】授業でまとめたものをよみかえす。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。				
2回	ハンドトリートメント (1)	ハンドトリートメントについての注意点を学びアプローチ法と技術を 学ぶ。 【予習】授業で学んだ技術を練習する。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。				
3回	ハンドトリートメント (2)	ハンドトリートメントを実際に施術する。 【予習】授業でまとめたものをよみかえす。技術の練習をする。 【復習】授業で学んだ技術を練習する。				
4回	ハンドトリートメント(3)	ハンドトリートメントの技術チェック。 【予習】技術の練習をする。 【復習】授業で学んだ技術を練習する。				
5 回	ネイルケア	ネイルケアの技術を学ぶ。 【予習】技術の練習をする。 【復習】授業で学んだ技術を練習する。				
6 回	カラーリング(1)	道具の説明、注意点、ポリッシュの塗り方、オフの方法を学ぶ。 【予習】技術の練習をする。 【復習】授業で学んだ技術を練習する。				
7回	カラーリング(2)	カラーリングの技術チェック。 【予習】技術の練習をする。 【復習】授業で学んだ技術を練習する。				
8回	ネイルアート	ネイルアートの方法と実践。 【予習】技術の練習をする。 【復習】授業で学んだ技術を練習する。				
9回	福祉現場でのメイクアップ(1)	福祉現場でのメイクアップ方法、注意点を学ぶ。 【予習】技術の練習をする。 【復習】授業で学んだことをまとめて、技術を練習する。				
10回	福祉現場でのメイクアップ(2)	実際に相モデルで福祉現場でのメイクアップを施術していく。 【予習】技術の練習をする。 【復習】授業で学んだ技術を練習する。				
11回	顔分析	自分の顔の形や骨格などを理解し、自分に似合うメイクは何かを知る。 【予習】技術の練習をする。 【復習】授業で学んだことをまとめて、技術を練習する。				

12回	メイクアップ(1)	理想の顔になるためのテクニックを習得し、実践する。 【予習】技術の練習をする。 【復習】授業で学んだ技術を練習する。
13回	メイクアップ(2)	ベースメイク〜リップまでのメイクのやり方を習得し、実践する。 【予習】技術の練習をする。 【復習】授業で学んだ技術を練習する。
14回	メイクアップ(3)	ベースメイク〜リップまでのメイクのやり方を習得し、実践する。 【予習】技術の練習をする。 【復習】授業で学んだ技術を練習する。
15回	メイクアップ(4)	テーマに沿ってセルフでメイクアップしていく。(技術チェック) 【予習】技術の練習をする。 【復習】授業で学んだ技術を練習する。

本科目は、演習科目(1単位)ですので、授業時間以外に15時間の授業外学習が必要となります。 学習内容に記載された予習・復習を実践して内容の理解を深めてください。

- ・美容福祉 I の復習をしておくこと。
- ・学習内容に示してある内容で気になる点を事前に調べておくこと。
- ・授業で習得した技術は復習してできるようにしておくこと。

成績評価の基準・方法

評価項目	S	A	В	С	D
1. 美容(ネイル、メイク部門)の知識・	完全にない	若干不十分	不十分な点	到達目標の	到達目標を
注意点の理解	しほぼ完全	な点は認め	は認められ	最低限を達	達成してい
2. 美容技術習得とアプローチ法の理解	に到達目標	られるもの	るものの、	成してい	ない。
3. 美容福祉の必要性の理解と習得度	を達成して	の、到達目	到達目標を	る。	
	いる。	標を達成し	達成してい		
		ている。	る。		
100点法	90点以上	80点以上	70点以上	60点以上	59点以下

- ・授業内課題(学習内容を理解し、技術を身に付け適切にできる)50%
- ・定期試験 (レポート試験) (学習内容を理解し自らの考えを表明できる)50%

教科書

使用しない。必要に応じて資料を配布する。

参考書等

学校法人山野学苑,『指定 美容福祉概論:その知識と実践技術』,中央法規出版,2020年,2860円 社団法人日本メイクアップ技術検定協会,『セルフメイクブック』,凸版印刷株式会社,2009年,2619円

履修上の注意・学習支援

- ・授業中は学生の皆さんが、授業の環境を良くするようお互い心配りをして受講すること。
- ・授業内容でわからないことはその都度、またはそれ以外でも積極的に質問したりしてきちんと内容を理解しておくようにすること。
- ・授業で習った実技は自主練習すること。
- ・忘れ物をしないこと。

オフィスアワー

疑問があれば、オフィスアワー(原則、講義終了後 15 分間程度、1 号館 1 階「講師教員センター」)を利用すること。

実務経験の概要

介護福祉士、生活相談員として高齢者施設において、利用者の介護や生活に関わり、相談援助に関する業務にも 従事してきた。また、美容師、ネイリストとしてサロンワークはもちろん、福祉美容師、福祉ネイリストとして 利用者に対してカットやネイル、メイクなど美のアプローチに従事。

実務経験と科目との関連性

介護現場における美容の実務経験は、本科目の授業内容との関連性が非常に高く、現場での実務経験を生かした講義が実施できる。

介護福祉専攻 C2021

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
21HC1BC1	全人教育講座	1年	前期	講義	1	須賀・百田・堀・ 益川・久保田・布川・ 小野・阿久澤

本学の建学の精神である「全人教育(人間形成の教育)」について、オムニバス形式で学習していく。この講座を通して、本学科の教育目標と学習成果及び3つのポリシーとの関係について学び、基礎教育科目や専門教育科目の大切さを理解していく。

到達目標 (学習の成果)

- ・本学の建学の精神、人間福祉学科・食物栄養学科の教育目標と学習成果及び3つのポリシーとの関係が説明できる(知識)。
- ・学習の成果を理解し、各自の目的に合わせて学ぶ姿勢ができている(態度)。

旦	表 題	学習内容	担当教員
1回	須賀学園の「建 学の精神」につ いて	本学での学びを始めるに当たり、須賀学園の創設者『須賀栄子先生の生涯』と、建学の精神「全人教育(人間形成の教育)」について理解する。 (予習)「光り輝く『全人教育』須賀学園の100年」を読んでおくこと。 (復習)全人教育とは何かを自分の言葉にしておくこと。	須賀 英之
2回	授業の進め方 生活教育①	授業計画、授業方法、予習・復習、成績の評価基準・方法等を知る。 大学では、各自が履修する科目を選び、将来の夢に向かって学習していく。 充実した生活を送るために、生活とは何かを理解し、限られた大学生活をど のように過ごすべきか、今の自己の生活時間の内容を顧みることで考える。 (予習)自己の所属する学科の教育の目的・目標と学習成果について、学生 便覧をみておくこと。 (復習)自己の一日の生活時間に関する課題をまとめて提出する。	百田 裕子
3回	生活教育②	コミュニケーションとは、情報だけを伝えているのではなく、情動も一緒に 伝えているといわれている。バーバルコミュニケーションとノンバーバルコ ミュニケーション、メッセージとメタ・メッセージなど、コミュニケーショ ンに関連する概念を理解することは大切なことである。 (予習) 事前にクラスルームに配付された資料を読みまとめる。 (復習) 授業で示された課題を行う。	堀 圭三
4回	健康教育	人類の普遍的課題である「健康」の理解に焦点を当て、生命・健康がいかに して保たれているか、なぜ人は病気になるのか、精神的・身体的・社会的な 側面から国内外の健康問題について学ぶ。 (予習)本科目のシラバスの記載内容について、読んでおくこと。 (復習)配付された資料を読んで、精神的、身体的、社会的健康について考 える(考察)。	益川 順子
5回	学問教育	福祉や食の専門分野において「学びを深めること」や「学びを実践すること」 の意義を考える。さらに、学びを深め、実践するために必要な手段(知識の 習得、スキルの獲得、情報調査、データの分析など)について考える。 (予習)本学で学ぶ目的について各自考えておくこと。 (復習)各自の目的を達成するために取り組みたいことについてまとめる (提出課題)。	久保田浩美
6回	食育	健康の維持・向上を図るために、栄養バランスや食事のタイミングなどの食生活を実践することはとても大切である。自己の食生活を振り返るとともに、福祉や食の専門職として、食について学ぶ必要性を理解し、支援するための学びの内容を習得する。 (予習) 食事チェックシートを行い自分の食生活を振り返ってみる。 (復習) リアクションペーパーを行う。今後の食生活にとりいれていく。	布川かおる

		私たちが生活する地域は、どんなひとたちが生活しているのか、だれもが安	
		心、安全、幸せに生活していくにはどんなことが大切かを理解する。	
7回	福祉教育	(予習) 本科目のシラバスの記載内容について、関連する新聞記事やニュース	小野 篤司
		を見て各自で考えておくこと。	
		(復習) 授業で示された課題を行う。	
		「音楽」によって養われる人間形成と感受性とは何かを理解し、彩音祭賛歌	
		をテーマに音楽で培う情操教育について学ぶ。充実した大学生活を送るため	
		に、音楽教養を身につける。	
8回	芸術教育	(予習) 大学祭にて歌われる「彩音祭賛歌」について、作詞の内容を確認し	阿久澤政行
		ておくこと。	
		(復習) 音楽の魅力を再認識し、大学生活の中で「彩音祭賛歌」の果たす役	
		割についてまとめて提出すること。	

本科目は、講義科目1単位ですので、授業時間90分以外に30時間の授業外学習が必要になります。授業外学習に記載された予習・復習を実践して内容の理解を深めてください。

- ・各担当教員から紹介された図書やメディアを通して興味・関心を広げて教養を身につけていくこと。
- ・8回終了後に、建学の精神と各学科の教育目標・学習成果・3つのポリシー等に関するレポート課題がある。日頃から、各授業内容が建学の精神とどのような関係にあるのかをまとめておくこと。

成績評価の基準・方法

成績評価の基準

評価項目	S	A	В	С	D
①建学の精神と教育目標・学習成果・3つのポリシーとの関係の理解②各自の目的に合わせて学習に取り組み	完全にないし ほぼ完全に到 達目標を達成 している	若干不十分な 点は認められ るものの、到達 目標を達成し ている	不十分な点は 認められるも のの、到達目標 を達成してい る	到達目標の最 低限を達成し ている	到達目標を達 成していない
100 点法	100点~90点	89 点~80 点	79 点~70 点	69 点~60 点	59 点以下

成績評価の方法

定期試験(レポート試験)50%と、各担当教員の授業内のリアクションペーパーや授業外課題50%で総合評価する。

教科書

使用しない。必要に応じて資料を配付する。

参考書等

- ・小原國芳著,『全人教育論』, 玉川大学出版部, 1994年、1,707円
- ・ショーン・コヴィー 著,『7つの習慣ティーンズ』, キングベアー出版, 2014年、1,760円

履修上の注意・学習支援

- ・授業日程や教室が不規則になるので、日程変更等の掲示を確認すること。
- ・不明なことがあれば、質問すること。

オフィスアワー

・教員のオフィスアワーについては、別途提示する。

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
21 HC1BC2	キャリアデザイン	1年	前期	講義	1	江田 郁夫

本授業では、広い教養を身につけ、自立・自律した生活者としての行動規範を身につけるために、自分自身のキャリア(仕事を通じた人生)を設計・形成していく力を習得することを目的とする。具体的には、キャリア設計に不可欠な基礎知識として、現代の社会・経済環境に関連する社会・経済動向をニュースや新聞記事等をもとに学ぶ。あわせて自分らしい人生や職業・職場選択をより深く考えるために調べ学習等も取り入れて、自身の将来設計をより明確化する。

到達目標(学習の成果)

- 1. 現代の社会・経済動向を正確に理解できる(知識)。
- 2. 自分自身の将来設計をより明確なものとし、それらをもとにして自己および他者を理解できる(技術・方法・態度)。
- 3. 人間尊重の精神と倫理性をもち、自立・自律した生活者となることができる(技術)。

授業計画

旦	表題	学習内容
1回	授業の進め方 自己理解を深める①	授業の進め方等を確認し、ライフサイクルと発達課題について学ぶ。 【予習】シラバスを精読する【復習】授業内容を授業記録にまとめる
2回	自己理解を深める②	職業生活と社会参加について学ぶ。 【予習】自身の生きがいを考える【復習】授業内容をまとめる
3回	社会理解を深める①	こんにちの労働問題について学ぶ。 【予習】労働問題の具体例をあげる【復習】授業内容をまとめる
4回	社会理解を深める②	働き方を具体的に考える。 【予習】自身のキャリアプランを考える【復習】授業内容をまとめる
5 回	社会理解を深める③	医療制度・介護制度・年金問題について学ぶ。 【予習】社会保険の現状を調べる【復習】授業内容をまとめる
6 回	社会理解を深める③	公的扶助と社会福祉について学ぶ。 【予習】社会福祉の課題を調べる【復習】授業内容をまとめる
7 回	社会人基礎力を身につける①	社会人基礎力について学ぶ。 【予習】企業が求める人材像を調べる【復習】授業内容をまとめる
8回	社会人基礎力を身につける②	自己分析を通じて自身の長・短所を確認する。 【予習】キャリア・プランシートを作成する【復習】授業内容を授業 記録にまとめる

準備学習(予習・復習について)

本科目は、講義科目 (1単位) なので、授業時間以外に30時間の授業外学習が必要になる。 学習内容中に記載された予習・復習課題を実践して内容の理解を深めてください。 その他、毎回の授業ごとに自分自身の考えをまとめた課題を提出してください。

成績評価の基準・方法

評価項目	S	A	В	С	D
1. 現代の社会・経済動向を正確に理	完全にない	若干不十分	不十分な点	到達目標の	到達目標を
解できている。	しほぼ完全	な点は認め	は認められ	最低限を達	達成してい
2. 自分の将来設計をより明確なもの	に到達目標	られるもの	るものの、	成してい	ない。
とし、自己および他者を理解できる	を達成して	の、到達目	到達目標を	る。	
3. 自立・自律した生活者となること	いる。	標を達成し	達成してい		
ができる。		ている。	る。		
100点法	100点~90 点	89点~80点	79点~70点	69点~60点	59点以下

定期試験 (レポート課題) (授業の内容を理解したうえで、自分自身の将来設計を明確に示せる) 60% 授業内課題 (毎回) (授業の内容を理解し、自分の考えを的確に表現できるかを確認する課題) 40%

教科書

使用しない。

毎回、プリント(レジュメ・関連資料等)を配付する。

参考書等

『2025ズームアップ公共資料』実教出版、2025年、990円

履修上の注意・学習支援

授業中に関連事項を質問するので積極的に発言すること。

オフィスアワー

授業後にも質問に対応する。その他、疑問があれば、オフィスアワーを利用すること。事前予約 (i.eda@ujc.ac. jp) の上、時間を設定する。具体的な時間は追って掲示する。

実務経験の概要

県立高等学校地歴科教諭として17年間、日本史・世界史等の教科教育や進路・生活指導全般を担当。そのほか、栃木県立文書館指導主事として6年間、歴史資料の調査・整理・展示等の業務に携わった。また、栃木県立博物館学芸員として12年間、多様な資料の調査・展示・保存業務等を行った。以上の実務を通じて、歴史学の前提となる史資料の特徴やその役割・重要性に関しての知見を深めることができた。

[実務経験と授業科目との関連性]

上記の教員経験や博物館での経験、とくに高校での進路・生活指導経験をいかして、より具体的でわかりやすい 講義を行うことができる。

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
21HC1BL3	法学	2年	前期	講義	2	渡辺 靖明

私たちの現実の身近な暮らしと生活に、具体的にいかなる法がどのように関わっているのか、憲法を中心にして、その基礎を学びます。また、家族や福祉に深く関わる重要な法的問題も学びます。

適宜、重要な事例や問題について、クラスルームの機能などを使って意見を書いてもらい、一覧にまとめられた他の人の意見も見て、自分の考えをさらに深めてもらう予定です。

到達目標(学習の成果)

- 1. 憲法を中心とした法について基本的な知識を身につける(知識)。
- 2. 法の基本的な知識を具体的事例に当てはめることができる(知識・方法)。
- 3. 様々な社会的問題について法的な観点から考えることができる(知識・方法)。

回	表題	学習内容
1 回	授業の進め方 法がなぜ必要なのか	授業計画、授業方法 予習・復習、成績の評価基準・方法等を知る。私たちの社会、生活での法の分類、意義、役割などを学ぶ。 【予習】事前配布のレジュメに目を通しつつ、法についての自分のイメージや知っている法、関心のある法などを整理しておく。 【復習】法の意義、役割、自分たちの生活や暮らしとの関わりなどを振り返っておく。
2日	法令の体系及び法の分類	法令の種類・体系(システム)の概要、憲法の最高法規性、憲法と条約との関係などを学ぶ。 【予習】事前配布のレジュメに目を通しつつ、「憲法」、「法令」、「法律」、「条例」などの言葉の意味を調べて整理しておく。 【復習】授業を振り返り、用語の意味・考え方や、具体的事例があればその内容を整理して、さらに考えを深める。
3回	日本国憲法の基礎	市民の「あたりまえ」を守る法としての憲法の意義、基本構造、憲法の定める人権とその制約などを学ぶ。 【予習】事前配布のレジュメに目を通しつつ、高校等で習ったことを思い出しながら、「日本国憲法」とはどのような法かを整理しておく。 【復習】授業を振り返り、用語の意味・考え方や、具体的事例があればその内容を整理して、さらに考えを深める。
4 回	基本的人権	憲法の定める平等権、自由権、社会権、参政権、幸福追求権及び国民の義務を学ぶ。 【予習】事前配布のレジュメに目を通しつつ、高校等で習った「日本国憲法」の知識を思い出しながら、憲法の「人権」の種類や内容について調べて整理しておく。 【復習】授業を振り返り、用語の意味・考え方や、具体的事例があればその内容を整理して、さらに考えを深める。
5回	平等とは?	具体的な事例から、平等とは何かをさらに考えてみる。 【予習】前回の授業での「平等」の項目を踏まえつつ、事前配布のレジュメに目を通して、「事例」について自分はどう考えるか整理しておく。 【復習】授業を振り返り、用語の意味・考え方や、具体的事例があればその内容を整理して、さらに考えを深める。
6 回	表現の自由(1)表現の自由の 基礎	表現の自由はなぜ保障されるのか、検閲の禁止、集団行動の自由、報道の自由・知る権利などを学ぶ。 【予習】事前配布のレジュメに目を通しつつ、前回までの関連する授業を踏まえながら、「表現の自由」、「検閲」、「知る権利」などについて調べておく。

		【復習】授業を振り返り、用語の意味・考え方や、具体的事例があればその 内容を整理して、さらに考えを深める。
7回	表現の自由(2)刑法の犯罪との関係	表現の自由と刑法によるビラの貼り付け・配布の規制、名誉毀損罪との関係を学ぶ。基本的人権の保障のうち、精神的自由権の保障の内容を理解する。 【予習】事前配布のレジュメに目を通しつつ、前回までの関連する授業を踏まえながら、「刑法」とはどのような法律か、「住居侵入罪」、「名誉毀損罪」とはどのような犯罪かを調べておく。 【復習】授業を振り返り、用語の意味・考え方や、具体的事例があればその内容を整理して、さらに考えを深める。
8回	自己決定権	自己決定権の意義、憲法における幸福追求権との関係や、生命をめぐる 自己決定権の尊重の限界などを学ぶ。 【予習】事前配布のレジュメに目を通しつつ、前回までの関連する授業を踏まえながら、「輸血拒否事件」について調べておく。 【復習】授業を振り返り、用語の意味・考え方や、具体的事例があればその内容を整理して、さらに考えを深める。
9日	家族と法(1)夫婦(婚姻・離婚)	家族に関する憲法の規定、民法における夫婦関係(婚姻・離婚)の基礎を学ぶ。夫婦別姓をめぐる判例(裁判所の判断)についても考える。 【予習】事前配布のレジュメに目を通しつつ、家族に関する憲法の規定や、民法における「婚姻」、「離婚」、「夫婦別姓」について調べておく。 【復習】授業を振り返り、用語の意味・考え方や、具体的事例があればその内容を整理して、さらに考えを深める。
10回	家族と法(2)親子、相続	民法における親子、相続の基礎を学ぶ。 【予習】事前配布のレジュメに目を通しつつ、民法における「親子」と「相続」 について調べておく。 【復習】授業を振り返り、用語の意味・考え方や、具体的事例があればその 内容を整理して、さらに考えを深める。
11回	学校教育と法	憲法における学問の自由、教育を受ける権利、学校での平等と学校でのいじめの問題を学ぶ。 【予習】事前配布のレジュメに目を通しつつ、前回までの関連する授業を踏まえながら、「学問の自由」や「教育を受ける権利」などについて調べておく。 【復習】授業を振り返り、用語の意味・考え方や、具体的事例があればその内容を整理して、さらに考えを深める。
12回	子どもの貧困と法	子どもの貧困の現状と対策や社会権、生存権との関係などを学ぶ。 【予習】事前配布のレジュメに目を通しつつ、前回までの関連する授業を 踏まえながら、「社会権」や「生存権」について調べておく。 【復習】授業を振り返り、用語の意味・考え方や、具体的事例があればその 内容を整理して、さらに考えを深める。
13回	生命と法	法ではいつから「人」になるか、また人の「死」とはいつか、などの基礎を学ぶ。 【予習】事前配布のレジュメに目を通しつつ、民法と刑法とでの人の始まりや、人の終わり(死)をめぐる「心臓死説」と「脳死説」について調べておく。 【復習】授業を振り返り、用語の意味・考え方や、具体的事例があればその内容を整理して、さらに考えを深める。
14回	労働と法	憲法の労働権、労働基準法の原則、職場での平等の基礎を学ぶ。 【予習】事前配布のレジュメに目を通しつつ、「労働法」の意味や憲法との関係を調べておく。 【復習】授業を振り返り、用語の意味・考え方や、具体的事例があればその内容を整理して、さらに考えを深める。

これまでの総括とこれからの展望

15回

※授業の進み具合に応じて、内容変更の可能性がある。

これまでの授業で得た知識をもとに、具体的事例についてどのように考えるべきか、自分の理解を整理する。

【予習】これまでの授業を振り返って、理解が充分でないと思うところについて調べて整理しておく。

【復習】授業の内容を振り返り、自分の理解を整理する。

準備学習(予習・復習について)

本科目は、講義科目(2単位)ですので、準備学習60時間が必要になります。

学習内容に記載された予習・復習を実践して内容の理解を深めてください。その際には、授業で扱った具体的事例の内容を見直すとともに、レジュメや図書を用いて、授業中に充分に理解できなかった部分を補いノートにまとめるなどして整理してください。

日ごろから自身が関係しそうな社会の問題について関心を持ち、法的な観点からどのような解決ができるかを 考える癖をつけることが望ましいです。

成績評価の基準・方法

評価項目	S	A	В	С	D
1. 法の基本的な用語の意味・考え方	完全にない	若干不十分	不十分な点	到達目標の	到達目標を
を理解できている。	しほぼ完全	な点は認め	は認められ	最低限を達	達成してい
2. 法の基本的な知識を具体的事例に	に到達目標	られるもの	るものの、	成してい	ない。
当てはめて考えることができている。	を達成して	の、到達目	到達目標を	る。	
3. 様々な社会的問題について法的な	いる。	標を達成し	達成してい		
観点から考えることができている。		ている。	る。		
100点法	90点以上	80点以上	70点以上	60点以上	59点以下

• 定期試験(筆記試験)

70%

・授業外での小テスト (クラスルームを使用する予定) 3回 25%

・授業内での質問への回答等

5%

教科書

なし

参考書等

村中洋介ほか『嫌いにならない法学入門』 (2版、信山社、2023年) 2,750円 斎藤一久・城野一憲編著『教職のための憲法』 (ミネルヴァ書房、2020年) 2,200円

履修上の注意・学習支援

- ・授業中の不要な私語はつつしんでください。他の人の迷惑を考えられなければ、法 (ルール) を正しく学べません。
- ・特に最初は難しく感じるかもしれませんが、理解度を確認しながら、楽しく学べるよう心がけたいと思っています。
- ・授業を受けて分からなかったところは気軽に質問してください。

オフィスアワー

質問等があれば、オフィスアワー(原則、講義終了後(開始前でも可)15分間程度、1号館1階「講師教員センター」)を利用すること。

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
21HC2BL4	経済学	2 年	前期	講義	2	漆戸 宏宣

この授業は、経済学に関連する基礎的な理論や、政策について学ぶ授業である。具体的には、経済や経済活動とは何か、経済学を学ぶ目的、需要と供給ならびに価格を媒介した市場の意義と役割、市場の限界と政府の意義と役割、国民経済計算と景気ならびに経済成長について学ぶ。

到達目標(学習の成果)

- ・経済学に関連する基礎的な理論や政策について理解し、説明することができる。
- ・現在の経済の問題点を見出し、その解決に関して自分なりの見解を持つことができる。

	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·						
田	表題	学習内容					
1 🗉	授業の進め方、経済とは何か、 経済活動(生産、分配、支出)	授業計画、授業方法、予習・復習、成績の評価基準・方法等を知る。 経済とは何か、ならびに、経済活動には生産、分配、支出の3つの活動があることについて学ぶ。 (予習)事前にレジュメを通読する。 (復習)授業内容を復習しポイントをまとめ理解を深める。					
2回	生産(資源、生産要素、(資源の)希(稀)少性、財・サービス、経済体制)	生産活動、具体的には、資源、生産要素、(資源の)希(稀)少性、 財・サービス、経済体制について学ぶ。 (予習)事前にレジュメを通読する。 (復習)授業内容を復習しポイントをまとめ理解を深める。					
3回	分配(所得、所得の分配)、支 出(消費、投資、政府支出、納 税、貯蓄)	分配活動、具体的には、所得、所得の分配、ならびに、支出活動、具体的には、消費、投資、政府支出、納税、貯蓄について学ぶ。 (予習)事前にレジュメを通読する。 (復習)授業内容を復習しポイントをまとめ理解を深める。					
4 回	経済主体(家計、企業、政 府)、経済循環(経済活動の循 環)	経済主体には家計、企業、政府の3つがあり、各経済主体の経済活動は循環していることについて学ぶ。 (予習)事前にレジュメを通読する。 (復習)授業内容を復習しポイントをまとめ理解を深める。					
5 回	市場(1)(財・サービス市場 (商品市場)、生産要素市場 (要素市場))	市場には、財・サービス市場(商品市場)と生産要素市場(要素市場)の2つがあることについて学ぶ。 (予習)事前にレジュメを通読する。 (復習)授業内容を復習しポイントをまとめ理解を深める。					
6 回	消費(1)(消費行動の原理、 効用、支払意思額、価格)	消費について、具体的には、消費行動の原理、効用、支払意思額、価格について学ぶ。 (予習)事前にレジュメを通読する。 (復習)授業内容を復習しポイントをまとめ理解を深める。					
7回	消費(2)(限界効用、限界効 用逓減の法則)	消費について、具体的には、限界効用、限界効用逓減の法則について 学ぶ。 (予習)事前にレジュメを通読する。 (復習)授業内容を復習しポイントをまとめ理解を深める。					
8回	生産(生産行動の原理、利潤、 総収入、総費用)	生産について、具体的には、生産行動の原理、利潤、総収入、総費用について学ぶ。 (予習)事前にレジュメを通読する。 (復習)授業内容を復習しポイントをまとめ理解を深める。					

9回	需要と供給(1)(需要、供 給、価格の関係、需要曲線、供 給曲線)	需要と供給について、具体的には、需要と供給と価格の関係、需要曲線、供給曲線について学ぶ。 (予習)事前にレジュメを通読する。 (復習)授業内容を復習しポイントをまとめ理解を深める。
10回	市場(2)(完全競争市場、価格の自動調整機能、資源の最適配分、独占・寡占市場(不完全競争市場))	市場について、具体的には、完全競争市場、価格の自動調整機能、資源の最適配分、独占・寡占市場(不完全競争市場)について学ぶ。 (予習)事前にレジュメを通読する。 (復習)授業内容を復習しポイントをまとめ理解を深める。
11回	需要と供給(2)(需要曲線、 供給曲線とそのシフト)	需要と供給について、具体的には、需要曲線、供給曲線とそのシフトについて学ぶ。 (予習)事前にレジュメを通読する。 (復習)授業内容を復習しポイントをまとめ理解を深める。
12回	市場の失敗(政府の役割)(1 公共財(例:道路)の供給と私 的財、2外部性(例:地域にお ける環境問題)、3独占・寡占 (例:規制))	市場の失敗と政府の役割について、具体的には、1公共財(例:道路)の供給と私的財、2外部性(例:地域における環境問題)、3独占・寡占(例:規制))について学ぶ。 (予習)事前にレジュメを通読する。 (復習)授業内容を復習しポイントをまとめ理解を深める。
13回	景気(好況、不況、景気循環)	景気について、具体的には、景気とは何か、好況、不況、また、景気 は循環していることについて学ぶ。 (予習)事前にレジュメを通読する。 (復習)授業内容を復習しポイントをまとめ理解を深める。
14回	GDP(国民経済計算、国民所得、国際貿易、三面等価の原則)	GDPについて、具体的には、GDPとは何か、国民経済計算、国民所得、 国際貿易、三面等価の原則について学ぶ。 (予習)事前にレジュメを通読する。 (復習)授業内容を復習しポイントをまとめ理解を深める。
15回	物価(インフレーション、デフ レーション)	物価について、具体的には、物価とは何か、インフレーション、デフレーションについて学ぶ。 (予習)事前にレジュメを通読する。 (復習)授業内容を復習しポイントをまとめ理解を深める。

本科目は、講義科目(2単位)ですので、授業時間以外に60時間の授業外学習が必要になります。 学習内容に記載された予習・復習を実践して内容の理解を深めてください。

成績評価の基準・方法

評価項目	S	A	В	C	D
1. 経済学に関連する基礎的な理論や	完全にない	若干不十分	不十分な点	到達目標の	到達目標を
政策についての理解	しほぼ完全	な点は認め	は認められ	最低限を達	達成してい
2. 経済における問題点とその解決に	に到達目標	られるもの	るものの、	成してい	ない。
関する見解	を達成して	の、到達目	到達目標を	る。	
	いる。	標を達成し	達成してい		
		ている。	る。		
100点法	90点以上	80点以上	70点以上	60点以上	59点以下

成績評価の方法 ・定期試験(筆記試験)70%+授業外の課題(課題レポート)15%+授業内の課題(小テスト、小レポート)15%

教科書

特に指定しない。授業用に私自身が作成したレジュメを用いる。

参考書等

根岸毅宏・中泉真樹編著『アクティブ・ラーニングで学ぶ日本の経済』東洋経済新報社、2021年、2,200円

履修上の注意・学習支援

レジュメの該当箇所を事前に熟読して予習をし、疑問点を明らかにしておく。授業後はレジュメ等を用いて復習をする。その際、特に重要な点として、レジュメの穴埋め欄の理解を深め知識を定着させる。また、随時提出を求められる、授業外の課題(課題レポート)の提出のための準備を必ずする。

課題等の提出の期限を厳守する。課題等の提出物を提出しない者、提出期限を過ぎて提出した者は、減点する場合もある。

オフィスアワー

質問等があれば、オフィスアワー(原則、講義終了後(開始前でも可)15分間程度、1号館1階「講師教員センター」)を利用すること。

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
21HC1BL5	歴史学	1年	後期	講義	2	江田 郁夫

「伝記のみが真の歴史である」。イギリスの著名な歴史家カーライル(1795~1881)がのこした言葉です。伝記とは、個人の一生の出来事をまとめたもので、それだけが「真の歴史である」とは一体どういうことでしょうか?そこで今回は、日本の室町時代を生きた一人の武将、足利持氏(1398~1439)の生涯をつうじて、その言葉のもつ意味を考えてみたいと思います。現代社会を生きる私たちにとって、歴史とは?

到達目標(学習の成果)

- ・歴史上の転換点に関する基礎知識を身につけ、自立・自律した生活者への一助とする。(知識・態度)
- ・歴史における個人の役割を理解し、人間尊重の精神と豊かな人間性を身につける(知識・方法・態度)

回	表題	学習内容
1回	授業の進め方 日本史と大河ドラマ	授業の進め方を確認し、その後大河ドラマからみた歴史像を学ぶ。 【予習】大河ドラマを調べる【復習】授業内容をまとめる
2回	地味な室町時代と足利将軍家1	鎌倉幕府と室町幕府の関連性について学ぶ。 【予習】足利尊氏について調べる【復習】授業内容をまとめる
3回	地味な室町時代と足利将軍家2	幕府所在地の理由について学ぶ。 【予習】京都・鎌倉について調べる【復習】授業内容をまとめる
4回	地味な室町時代と足利将軍家3	北山文化と東山文化の特徴を考える。 【予習】金閣・銀閣について調べる【復習】授業内容をまとめる
5 回	もうひとつの幕府、鎌倉府と鎌 倉公方足利氏1	鎌倉幕府と鎌倉府のちがいを考える。 【予習】鎌倉の史跡を調べる【復習】授業内容をまとめる
6 回	もうひとつの幕府、鎌倉府と鎌 倉公方足利氏2	鎌倉公方足利氏歴代について学ぶ。 【予習】鎌倉公方の系譜を調べる【復習】授業内容をまとめる
7 回	もうひとつの幕府、鎌倉府と鎌 倉公方足利氏3	鎌倉公方に従った武士たちについて学ぶ。 【予習】地元の武士団を調べる【復習】授業内容をまとめる
8回	4代鎌倉公方足利持氏の生涯1	4代目公方持氏の就任前後について学ぶ。 【予習】鎌倉御所について調べる【復習】授業内容をまとめる
9 回	4代鎌倉公方足利持氏の生涯2	持氏の補佐役上杉禅秀の反乱について考える。 【予習】関東管領について調べる【復習】授業内容をまとめる
10回	4代鎌倉公方足利持氏の生涯3	持氏と関東・東北地方との関連性について学ぶ。 【予習】関東・東北の関連史跡を調べる【復習】授業内容をまとめる
11回	4代鎌倉公方足利持氏の生涯4	持氏と室町幕府の対立の原因を考える。 【予習】幕府への反乱を調べる【復習】授業内容をまとめる
12回	4 代鎌倉公方足利持氏の生涯 5	持氏と将軍足利義教との関係について学ぶ。 【予習】歴代将軍の事績を調べる【復習】授業内容をまとめる
13回	4代鎌倉公方足利持氏の生涯6	持氏と補佐役上杉憲実の対立の原因を考える。 【予習】上杉憲実と足利学校を調べる【復習】授業内容をまとめる

14回	室町時代と現代社会 1	享徳の乱・応仁の乱について学ぶ。 【予習】茨城県古河市を調べる【復習】授業内容をまとめる
15回	室町時代と現代社会 2	室町時代と現代社会を対比する。 【予習】室町時代の印象を書き出す【復習】授業内容をまとめる

本科目は、講義科目(2単位)ですので、授業時間以外に60時間の校外学習が必要になります。 学習内容中に記載された予習・復習を実践して、内容の理解を深めてください。 その他、毎回の授業ごとに自分自身の考えをまとめた課題を提出してください。

成績評価の基準・方法

評価項目	S	A	В	С	D
① 学ぶ姿勢ができている。	完全にない	若干不十分	不十分な点	到達目標の	到達目標を
②日本史上の転換点として室町時代の	しほぼ完全	な点は認め	は認められ	最低限を達	達成してい
特徴が理解できている。	に到達目標	られるもの	るものの、	成してい	ない。
③歴史における個人の役割と社会との	を達成して	の、到達目	到達目標を	る。	
関係性が理解できている。	いる。	標を達成し	達成してい		
		ている。	る。		
100点法	100点~90 点	89点~80点	79点~70点	69点~60点	59点以下

定期試験(筆記試験) (授業の内容を正確に理解し、それを的確に表現できる)70% 授業内課題(毎回) (授業の内容を理解したうえで、それへの考えを表現できているかを確認する課題)30%

教科書

『図説日本史通覧』帝国書院、2025年度、1,020円

参考書等

丸山裕之『図説室町幕府』戎光祥出版、2018年、1,980円 杉山一弥編著『図説鎌倉府』戎光祥出版、2018年、1,980円

履修上の注意・学習支援

・授業中に関連事項をみなさんに質問しますので、積極的に発言してください。

オフィスアワー

授業後にも質問に対応する。その他、疑問があれば、オフィスアワーを利用すること。事前予約(i.eda@ujc.ac. jp)の上、時間を設定する。具体的な時間は追って掲示する。

実務経験の概要

県立高等学校地歴科教諭として17年間、日本史・世界史等の教科教育や進路・生活指導全般を担当。そのほか、栃木県立文書館指導主事として6年間、歴史資料の調査・整理・展示等の業務に携わった。また、栃木県立博物館学芸員として12年間、多様な資料の調査・展示・保存業務等を行った。以上の実務を通じて、歴史学の前提となる史資料の特徴やその役割・重要性に関しての知見を深めることができた。

[実務経験と授業科目との関連性]

上記の教員経験や博物館での経験、とくに高校での進路・生活指導経験をいかして、より具体的でわかりやすい 講義を行うことができる。

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
21HC2BL6	社会学	2年	後期	講義	2	堀 圭三

自立・自律した生活者として必要な、社会の仕組みについて理解を深めることを目的とする。現代社会の問題、 人と社会の関係などについて、具体的な事例を挙げながら講義をしていく。

到達目標(学習の成果)

- 1. 授業の中で示された社会学の「テクニカルターム」について理解している。
- 2. 社会学のテクニカルタームを使い、身近な現象を説明することができる。
- 3. 以上により、自分自身や社会生活を考える態度を身につける。

	表題	学習内容
1回	授業の進め方 社会学小史・社会学の視 点	授業計画・準備学習・成績評価の方法・基準等について理解する。 19C 後半の、デュルケム、ジンメル、ウェーバーなどの社会学者が活躍した 時代背景について理解する。 予習・復習:参考書から少なくとも1冊選び授業終了時までに読むこと。 復習:授業で示されたテクニカルタームを整理する。
2 回	社会学の考え方	逆説思考、順機能、逆機能などのテクニカルタームを理解し、社会学的なものの見方について理解する。 予習:授業で示されたテクニカルタームを調べておく。 復習:授業で示されたテクニカルタームを整理する。
3回	人と社会との関係1(社 会構造と変動①)	社会システムの考え方として、パーソンズのAGIL理論を理解する。 予習:授業で示されたテクニカルタームを調べておく。 復習:授業で示されたテクニカルタームを整理する。
4回	人と社会との関係 2 (社 会構造と変動②)	社会規範や役割期待の相補性について理解する。 予習:授業で示されたテクニカルタームを調べておく。 復習:授業で示されたテクニカルタームを整理する。
5回	人と社会との関係3(社 会構造と変動③)	社会集団の概念について理解し、primary group や基礎集団、官僚制について理解する。 予習:授業で示されたテクニカルタームを調べておく。 復習:授業で示されたテクニカルタームを整理する。
6 回	現代社会の理解1 (社会 構造と変動④)	近代の人口動態、少子化、高齢化の実態について、統計から理解する。 予習:授業で示されたテクニカルタームを調べておく。 復習:授業で示されたテクニカルタームを整理する。
7回	現代社会の理解 2 (社会 構造と変動⑤)	地域の概念、コミュニティの定義、都市生活の特徴について理解する。 予習:授業で示されたテクニカルタームを調べておく。 復習:授業で示されたテクニカルタームを整理する。
8回	現代社会の理解3 (市民 生活と公共性①)	所得、教育、健康の社会的格差について理解する。 予習:授業で示されたテクニカルタームを調べておく。 復習:授業で示されたテクニカルタームを整理する。
9回	現代社会の理解4 (市民 生活と公共性②)	ラベリング理論、マイノリティ、ジェンダーなど、社会のなかの偏見について理解する。 予習:授業で示されたテクニカルタームを調べておく。 復習:授業で示されたテクニカルタームを整理する。

10回	生活の理解1 (生活と人 生①)	家族の概念、とくに核家族の定義、定位家族と生殖家族の考え方と性別役割分業意識について理解する。 予習:授業で示されたテクニカルタームを調べておく。 復習:授業で示されたテクニカルタームを整理する。
11回	生活の理解 2 (生活と人 生②)	デュルケムの主著『自殺論』の考え方について理解する。自殺と個人主義について社会学的に考える視点を理解する。 予習:授業で示されたテクニカルタームを調べておく。 復習:授業で示されたテクニカルタームを整理する。
12回	社会問題の理解1 (生活 と人生③)	感情労働の概念の理解やウェーバーの「倫理」の概念から、働くことの意味を考える。 予習:授業で示されたテクニカルタームを調べておく。 復習:授業で示されたテクニカルタームを整理する。
13回	社会問題の理解 2 (自己 と他者①)	社会の変化と「自己」の理解について、ミードの学説(社会的自我と内なる会話)を理解する。 予習:授業で示されたテクニカルタームを調べておく。 復習:授業で示されたテクニカルタームを整理する。
14回	社会問題の理解3 (自己 と他者②)	「共在」の概念とお互いに相手を尊重する儀礼的相互行為を理解する。 予習:授業で示されたテクニカルタームを調べておく。 復習:授業で示されたテクニカルタームを整理する。
15回	社会問題の理解4(自己 と他者③)	人間関係づくりの基礎となるコミュニケーションについて考える。 予習:授業で示されたテクニカルタームを調べておく。 復習:授業で示されたテクニカルタームを整理する。

この科目は、講義科目(2単位)ですので、授業時間の他に準備学習60時間が必要になります。

- ・ニュースやコラム等で授業に関係することがあれば、その内容をノートにまとめること。
- ・授業記録の記入し、基本概念についてはきちんとノートにまとめておく。

成績評価の基準・方法

成績評価の基準

評価項目	S	A	В	С	D
 テクニカルタームの定義を記述できる。 テクニカルタームを、範例を使って説明できる。 テクニカルタームを、自身の問題意識と結び付けている。 	完全にない しほぼ完全 に到達目標 を達成して いる。	若干不十分 な点は認め られるもの の、到達目 標を達成し ている。	不十分な点 は認められ るものの、 到達目標を 達成してい る。	到達目標の 最低限を達 成してい る。	到達目標を 達成してい ない。
100点法	90点以上	80点以上	70点以上	60点以上	59点以下

成績評価の方法

・定期試験(筆記試験)100%

教科書

授業開始時にレジュメを配付する。

参考書等

- ・日本所シャルワーク教育学校連盟編『社会学と社会システム』中央法規 2021年、2,750円(税込)
- ・森下伸也『社会学がわかる事典』日本実業出版社 2000年、1,650円(税込)
- ・森下伸也『逆説思考』光文社新書 2006年、777円(税込)
- · 奥村隆『社会学の歴史 I』 有斐閣 2014年、2,090円(税込)
- ・奥村隆『社会学の歴史Ⅱ』有斐閣 2023年、2,860円(税込)
- ・橋爪大三郎他『社会学講義』ちくま新書 2016年、946円(税込)
- ・出口剛司『大学4年間の社会学が10時間でざっと学べる』 角川文庫 2022年、682円 (税込)

履修上の注意・学習支援

質問等がある場合は、電子メールで受け付ける。また、オフィスアワーでも受け付ける。 Google classroomにて、課題の提出等を行う。

オフィスアワー

疑問があれば、オフィスアワーを利用すること。事前予約(k3@ujc.ac.jp) のうえ、時間を設定する。具体的な時間帯は追って指示する。

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
21HC1BL7	生活科学	1年	前期	講義	2	中川英子

本授業では、広い教養を身につけ、自立・自律した生活者としての行動規範を身につけるために、まず、①生活とは何か、自立した生活者とはどういうことなのかについて考える。次に、②科学的生活知識について、生活経営・食生活・被服生活・住生活などの各生活領域から理解する。

さらに予習で課された課題 (ワークシートや調べ学習等) について、アクティブ・ラーニング (プレゼンテーション やグループディスカッション等) により、理解を深める。

毎回の授業最後には、学んだ知識についての、まとめ作業をおこなう。

到達目標(学習の成果)

- ・自己および他者を理解できるようになる (知識)。
- ・生活に関わる多様な科学的知識について、理解を深める(知識)。
- ・人間尊重の精神と生活に係る知識をもつ専門職として、地域・社会に貢献できる (態度)。

		ANALI E				
口	表題	学習内容				
	1. 授業の進め方	授業計画、授業方法、予習・事前、成績の評価基準・方法等を知る				
		a.自立した生活者を目指すためには、家政学の知識・技術が不可欠であることを				
	2. 自立した生活者を目指	学ぶ。 b.社会人として、家政学の重要性について学ぶ。 c.生活について「発達				
1 回	して	と老化による身体と生活の変化」からライフステージ毎の生活課題を考える。				
		準備学習				
		【予習】シラバスを読んで本授業 の概要を把握する。				
		【復習】自立した生活者を目指すための本授業の意義を再確認する。				
		a.家族の意義と機能について学ぶ。b.ファミリー・アイデンティティについて理				
		解する。				
2 回	生活経営(1)	 準備学習				
	家族の意義と機能	【予習】ワークシート「サザエさん一家について考えてみよう」(教科書 P18)				
		【復習】家族の意義と機能を再確認する。				
		a.家族の変容について世帯構造、結婚と離婚、子育てをめぐる問題などから				
		学ぶ。b. aの家族の変容がもたらした現代的課題について考える。				
		準備学習				
3 回	生活経営(2)	【予習】ワークシート「家族のジェンダー平等について考えてみよう」				
	家族の変容 	 (教科書 P23)				
		【復習】家族の変容を、世帯構造、結婚と離婚、子育てをめぐる問題などから				
		再確認する。				
		a.家族に関する法律(民法、家族法(親族法・相続法)から、家族間の権利・義				
		務、相続と遺言、成年後見制度などについて学ぶ。b.家族・親族に関する用語				
	生活経営(3)	の意味を踏まえたうえで、相続法における現代的課題を考える。				
4 回	家族と法律	準備学習				
		【予習】 フークシート 「家族・親族に関する用語の意味を確認しよう」 (教科書 P29)				
		(教科書 F29) 【復習】家族に関する法律について、再確認する。				
		a.マクロ経済とミクロ経済の関係、家計の構造等について学ぶ。b.生活者に				
	生活経営(4)	とって、家計についての知識が不可欠なことを理解する。				
5 回	家計	準備学習				
		【予習】ワークシート 「入院患者の小野さんが家計を心配している理由を考				

		えてみよう」(教科書 P38-39)
		【復習】家計の構造について、再確認する。
		a.生涯、自立・自律した生活者として生きていくためには生活設計が必要なこと
		を学ぶ。b.Net の生活設計のシュミレーション・ツールから自身の生活設計を作
		成することで、自身の将来を考える。
6 旦	生活経営(5)	準備学習
	生活設計	【予習】自身の生活設計の大枠を考える。
		【復習】ワークシート 授業で作成した生活設計を再確認し、必要に応じて再
		度、生活設計を作成してみる。(教科書 P41)
		a.今日の様々な消費者問題とその対処法(クーリング・オフなど)について、
7 回		DVD『若者が被害にあいやすい問題商法』から学ぶ。b. 若者・高齢者の消費者
	生活経営(6)	被害の実態を理解する。
	消費者問題	準備学習
		【予習】調べ学習 「高齢者の消費者トラブルの一覧表を作成しよう!
		【復習】若者・高齢者の消費者被害について再確認する。
		a.ひとが食べることについて、人体の組織や代謝のしくみ、栄養素の種類と
		人体の代謝のしくみから学ぶ。 b.DVD『女子サッカー部員とマネジャーが考
	食生活(1)	えた食事戦略』から食事バランスの重要性について理解する。
8 回	栄養素の種類と 消化・吸収・代謝	進備学習
		【予習】調べ学習 「5大栄養素の種類と機能(働き)」について一覧表を作
		成する。
		【復習】栄養素の種類と機能について再確認する。
		a.バランスの良い食生活のために食品の分類について学ぶ。b.厚労省・農水
		省『食事バランスガイド』から、自身の栄養バランスをチェックすることで、
	食生活(2)	食品の分類と選択の方法を身につける。
9 回	栄養素と食事摂取基準	準備学習
	不受示し及事以似至年	【予習】 ワークシート 「食事バランスガイドを使って食事のチェックをして
		みましょう」(教科書P72-73)
		【復習】あなたの食事バランスを再確認する。
		a 食の安全、食中毒と食物アレルギー、HACCP などから食の安全と食中毒につ
	食生活(3)	いて学ぶ。献立作成について学ぶ。B. 政府インターネットテレビ(You Tube)
10 🖃	食の安全と食中毒	から食中毒予防の6つのポイントについて、理解する。
10 回	献立作成	準備学習
	MALATE <i>D</i> X	【予習】「表 2-14 主な食中毒の種類」を理解する。(教科書 P80)
		【復習】HACCP について再確認する。
		a. 被服の役割と機能について、被服に関する語句、被服着用の目的、環境温
		度と衣服内気候、服装の TPO について学ぶ。b.被服の TPO について、調べ学
	被服生活(1)	習「礼装について、インターネットから調べてみましょう」から理解する。
11 回	被服の役割と機能	準備学習
		【予習】調べ学習 TPO とは何か、意味を調べる。(教科書 P102)
		【復習】TPO について、「男女の礼装(和装・洋装)から再確認する。
		TOTAL TIME TO STATE OF STATE O

	T	T
		a.被服の素材について、被服素材の種類、被服素材の性能と加工、JIS 規格とサ
		イズ表示についても学ぶ b. 被服の選択・洗濯について、DVD『記号をよく見て
	被服生活(2)	洗濯上手に!』や政府インターネットテレビ「新しい洗濯表示の記号」から理
		解する。
12 回	被服の素材・選択・管理	準備学習
		【予習】調べ学習 洗濯絵表示(家庭用品品質管理法)について一覧表を作成
		する。(教科書 P116)
		【復習】洗濯絵表示を再確認したうえで、実際に洗濯をしてみる。
		a.住まいについて、役割、ファミリーライフサイクルと生活空間、住まいの機能
		や役割の変化、住生活と生活空間などから学ぶ。b.住まいの役割や住生活空間
	D (1) (4)	について理解する。
13 回	住生活(1) 住まいの役割と生活空間 住生活(2) 住まいの室内環境	準備学習
		【予習】ワークシート 「あなたの住まいについて調べてみましょう」から住
		まいの役割について理解する。」(教科書 P133)
		【復習】住まいの役割と生活空間について、本授業内容から再確認する。
		a.住まいの室内環境について、光、温度、音などから学ぶ。b.快適な室内環境に
		ついて考える。
14 回		準備学習
		【予習】調べ学習 住まいの室内環境としてどのようなものがあるか調べる。
		【復習】住まいの室内環境について、本授業内容から再確認する。
		a.持続可能な生活実現のために、SDG s の観点から地球の温暖化・資源・エ
		ネルギー問題について考えていくことの重要性を理解する。b.SDG s について
		インターネットから調べ、理解を深める。
		準備学習
15 回	生活と環境 	【予習】調べ学習 "持続可能な社会を目指す"とは、どういうことなのか、具
		体例を交えて説明する。
		【復習】SDG s の観点から持続可能な生活を実現を目指すことの必要性を再確
		認する。
		,

本科目は、講義科目(2単位)で、授業時間(30時間)に加えて、60時間の授業外学習(予習・復習)が必要となります。 学習内容に記載された予習・復習を実践して内容の理解を深めることが求められています。

*毎回の授業のレジュメ・資料等は、グーグル・クラスルームにアップ・ロードしてあります。

成績評価の基準・方法

	評価項目	頁目 S		A B		D
1	1. 広く教養を学び、社会規	完全にないし	若干不十分	不十分な点	到達目標の	到達目標を
	範や自己管理力、基本的	ほぼ完全に到	な点は認め	は認められ	最低限を達	達成してい
	なスキルを身につけ、自	達目打ち合わ	られるもの	るものの、	成してい	ない。
	立・自律した生活者とな	せ標を達成し	の、到達目	到達目標を	る。	
	ることができる。	ている。	標を達成し	達成してい		
			ている。	る。		
	100 点法	100 点~90 点	89 点~80 点	79 点~70 点	69 点~60 点	59 点以下

定期試験(筆記試験)50% +授業内の課題50%(課題内容はグーグルクラスルームの授業用資料をご確認ください)

教科書

・奥田都子編著・百田裕子・田崎裕美・大塚順子・中川英子ほか『生活支援の基礎を学ぶ』建帛社、2024 年、2,750 円 参考書等

- ・中川英子編著ほか『新版 福祉のための家政学』建帛社、2017/2021 年 2,530 円
- ・中川英子編著ほか『福祉のための家政学』建帛社、2010年 2,530円
- ・田﨑裕美・中川英子編著ほか『生活支援のための調理実習(第3版)』建帛社、2022年 2,090円
- ・中川英子編著ほか『介護福祉のための家政学実習』建帛社、2005 年 2,530 円
- ・中川英子編著ほか『介護福祉のための家政学』建帛社、2004年 2,310 円

履修上の注意・学習支援

- ・毎回の授業レジュメ・資料は、クラスルームにアップ・ロードしておくので、復習に確認しておくこと。
- ・授業は、クラスルームにアップしたレジュメ・資料で実施し、ネットで調べ学習等もするので、各自、必ず クロームブックを持参すること。
- ・毎回の授業時の課題は、各自、完成して、グーグルクラスルームにアップしておくこと。
- ・わからないことは、授業中に積極的に質問して理解しておくこと。

オフィスアワー

質問等があれば、オフィスアワー(原則、講義終了後(開始前でも可)15 分間程度、1 号館 1 階「講師教員センター」)でお応えします。

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
21HC1BP8	生活技術	1年	後期	演習	1	百田 裕子

福祉専門職として利用者の生活の自立支援をするためには、支援者自身が自立・自律した生活ができることが求められる。本科目は、社会人として自立・自律した家事生活(被服・食・住)の必要性を学び、健康で快適な生活を営むために必要な最低限の生活技術を学習する。快適な被服の選択・管理法、バランスのとれた食品の選択・調理法、住生活環境の整え方、および災害の緊急時の生活等について、演習を通して学ぶ。

到達目標(学習の成果)

- 1. 社会人として自立・自律した家事生活(被服・食・住)の必要性を理解し、説明できる(知識)。
- 2. 被服・食・住生活に関する基本的な技術の科学的根拠が説明できる(知識)。
- 3. 演習を通して自己の心身の健康を考えた自立・自律した家事の実践ができる(技術、方法)。
- 4. 福祉の現場で個々の利用者のニーズに対し、気配りをもって生活の自立支援ができるようになる(態度)。

□	表題	学習内容
1 🗉	授業の進め方 家事生活技術の必要性を 知ろう	授業計画、授業方法、予習・復習、成績の評価基準・方法等を知る。 社会生活を営む上での生活行為と家事(被服・食・住生活)の大切さ、発 達段階に合わせた生活技術の自立過程を学ぶ。福祉職の支援者は自立・ 自律した生活者であることの必要性を理解する。 (予習) シラバスを読んでおく。 (復習) 福祉職として科学的根拠による家事支援技術の必要性をまとめ る。
2回	洗剤・洗浄剤を知ろう	洗剤・洗浄剤は生活のあらゆる場面で使われる。その種類と使用方法について学ぶ。また、「生活排水」と「環境汚染」の実態を知り、持続可能な循環型社会生活のために、どのように行動すべきかを考える。 (予習)洗剤・洗浄剤による環境汚染の実態を調べる。 (復習)自宅で使用している洗剤・洗浄剤とその使用方法を確認する。
3日	食生活の基本を知ろう	地域や自己の食生活の現状について確認する。健康の維持・向上のための食事内容・食事リズム・衛生管理等についてチェックし、改善策を考える。 (予習) 栄養バランスの良い食事について調べる。 (復習) 自己の食事について栄養バランスを確認する。
4 回	部屋のレイアウトを考え よう	日本人の家屋は生活用品が多い。自分の家・部屋の間取りを見直し、理想の部屋を考える。この演習を通して、快適な室内環境について学ぶ。 (予習)快適な住環境について教科書を読んでおく。 (復習)自己の部屋の生活用品についてまとめ、快適な住環境を営むための改善策を考える。
5 回	部屋を片付けよう	掃除の目的を理解する。居室(和室・洋室)の汚れの特徴と掃除用具の種類・使用方法を知る。実践を通して掃除方法を確認する。施設における掃除の意味について考える。 (予習)掃除方法について教科書を読んでまとめる。 (復習)施設における掃除の意味をまとめる。
6回	被服のTPOを知ろう	被服の役割と機能を理解する。布の素材と名称・特徴を知る。自己の体型特徴・足型を知り、TP0に合わせた被服の選択法を学ぶ。 (予習) 布の素材についてインターネットで調べておく。 (復習) 就職活動における服装と服飾品についてまとめる。

7回	朝ごはんを作ろう	朝食の大切さと特徴を知る。朝食の基本的な献立(パン・卵料理・サラダ・飲み物等)と調理方法を、実習を通して理解する。 (予習)配付した資料を読んでおく。 (復習)自宅で応用して実践する。
8回	水周りをきれいにしよう	水周り(台所・トイレ・浴室)の汚れの特徴と掃除方法を、実習を通して理解する。 (予習)汚れの種類について教科書を読んでおく。 (復習)自宅で水回りの掃除を実施してレポートにまとめる。
9回	小物を作ろう	被服の修繕・縫製の基礎として、布の扱い方、縫製用具の種類・使用方法等を学ぶ。 (予習) アイロンやミシンの使用方法と注意事項を調べておく。 (復習) 学んだことをまとめる。
10回	昼ごはんを作ろう	昼食の特徴を知る。昼食に多く喫食される洋食の献立(スパゲティ・サラダ等)と調理方法を、実習を通して学ぶ。 (予習)配付した資料を読んでおく。 (復習)食材と栄養及び調理例についてレポートにまとめる。
11回	衣服をきれいにしよう	素材の特徴、汚れの成分を学び、素材・汚れに合わせた洗濯方法を理解する。一般衣料とウール製品の洗濯方法を、実践を通して学ぶ。 (予習) 衣料品の洗濯に用いる洗剤の種類について復習しておく。 (復習) 自宅で、洗濯を実践する。
12回	夕ご飯を作ろう	和食の献立の基本を知る。和食の献立(ご飯・味噌汁・魚料理・煮物等) と調理方法を、実習を通して学ぶ。 (予習)配付した資料を読んでおく。 (復習)自宅で応用して実践する。
13回	お弁当を作ろう	栄養バランスがよく見た目もおいしいお弁当の献立と調理方法を、実践 を通して学ぶ。 (予習)配付した資料を読んでおく。 (復習)自宅で応用して実践する。
14回	衣服を大切に管理しよう	素材や服種に合わせた衣服の管理方法(アイロンかけ、たたみ方、防虫剤の種類と使用方法、収納の仕方等)を学ぶ。 (予習)素材とアイロン温度の関係を調べる。 (復習)自宅で使用している防虫剤の種類と使用方法についてまとめる。
15回	災害等の緊急時の被服・食・住生活	居住地域のハザードマップを知る。災害等の緊急時の生活方法について 学ぶ。 (予習) 災害時に備えた食生活についてインターネットで調べる。 (復習) 自宅のある地域のハザードマップについて調べる。災害時の対応 についてレポートにまとめる。

本科目は、演習科目1単位ですので、授業時間90分以外に、15時間の授業外学習が必要になります。 授業外学習方法に記載された予習・復習課題を実践して内容の理解を深めてください。日常生活の中で、家事 に関するいろいろな情報に興味・関心をもち、新しい知識を取り入れてください。また、調理実習は、事前に レシピを配付するので、よく読んで実習に臨むと共に、実習後は家庭で応用して技術を高めてください。

被服・食・住生活に関するレポートを課すので、調べるとともに、実践を通して日常の生活に活かしてください。

成績評価の基準・方法

評価項目	S	A	В	С	D
1. 家事生活技術の科学的根拠	完全にない	若干不十分	不十分な点	到達目標の	到達目標を
の理解(知識)	しほぼ完全	な点は認め	は認められ	最低限を達	達成してい
2. 家事生活技術の習得度(技	に到達目標	られるもの	るものの、	成している	ない
術、方法)	を達成して	の、到達目	到達目標を		
3. 生活の自立支援への応用性	いる	標を達成し	達成してい		
(態度)		ている	る		
100点法	90点以上	80点以上	70点以上	69点以上	59点以下

- ・定期試験(筆記試験)30%
- ・授業外課題(レポート)30%、授業内・外課題(ワークシート・作品)40%

教科書

奥田都子 編著、「生活支援の基礎を学ぶ-介護・福祉・看護実践のための家政学-」、建帛社、2024年、2,750円

参考書等

「いちばんわかりやすい家事の基本大事典」、成美堂出版、2020年, 1,760円 田崎裕美・百田裕子 編著、「改訂 生活支援のための調理実習」第4版、建帛社、2023年、2,310円

履修上の注意・学習支援

- 1. 「生活科学」を履修することが望ましい。
- 2. 介護福祉専攻の学生は2年次の必修科目である「生活支援技術V」「栄養・調理」の基礎となる科目であるため、履修することをすすめる。
- 3. 調理実習室では、シューズを履くこと。実習内容に合わせて身支度をきちんとする。特に、調理実習では、エプロンと三角巾を着用すること。
- 4. 実習したことを日常生活の中で繰り返し実践し、理解を深めて技術を体得すること。
- 5. 学んだことを福祉の現場でどのように応用していくか、常に考えながら学習すること。

オフィスアワー

疑問等があれば、事前予約及びオフィスアワーを活用すること。事前予約 (momo@ujc.ac.jp) のうえ、時間を設定する。具体的な時間帯は追って掲示する。

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
21HC1BP9	英語Ⅰ	1年	前期	演習	1	阿部 巧

日常に関連した様々な場面を設定した題材を通して、これまでに学んできた語彙、英語表現や一般的に必要とされる基礎的文法などを復習し、より実践的な技能を高める。また、文章読解、聴解、作文、発話等を通して、「リーディング、リスニング、スピーキング、ライティング」の4技能を総合的に学習し、英語コミュニケーション能力の向上を目指す。

到達目標(学習の成果)

- ・コミュニケーションに必要な文法、語彙、音声等を理解し、実際に使うことができる(知識・応用)。
- ・場面や状況に応じた表現を選択し、適切にコミュニケーションを図ることができる(知識・思考・応用)。
- ・積極的にコミュニケーションを図るとともに、協働して課題に取り組むことができる(応用)。

	及 太 川邑						
旦	表題	学習内容					
	立津の生土 極楽の中屋の	英語の授業の受け方について知り、前期の学習の見通しを持つ。					
100	受講の仕方、授業の内容や	レディネステストを受け、自分の英語のレベルを確認する。					
1回	目標について確認	(予習) 高校で習った文法事項の復習					
	レディネステスト	(復習) Task1:動画を視聴し内容をまとめる。					
		職業に関する語彙を理解し、文法や表現の復習をする。					
이글	Unit1: Occupations	(予習)Listening Sectionの音声を聞き、Roleplayで話す内容を準備する。					
2回	Conversation & Grammar	Reading Sectionの本文の音声を聞き、わからない単語を調べる。					
		(復習)Task1:トピックを考え、内容を整理する。					
		職業に関する表現活動を通して、語彙、表現、文法等の定着を目指す。					
3回	Unit1: Occupations	(予習) Reading Sectionの本文をすべて日本語に訳す。					
3凹	Reading & Writing	Writing Sectionに目を通し、トピックを考える。					
		(復習) Task1:原稿を準備する。					
		食事に関する語彙を理解し、文法や表現の復習をする。					
41=1	Unit2: At the dinner table	(予習)Listening Sectionの音声を聞き、Roleplayで話す内容を準備する。					
4回	Conversation & Grammar	Reading Sectionの本文の音声を聞き、わからない単語を調べる。					
		(復習) Task1:資料を準備する。					
		食事に関する表現活動を通して、語彙、表現、文法等の定着を目指す。					
5回	Unit2: At the dinner table	(予習) Reading Sectionの本文をすべて日本語に訳す。					
기브	Reading & Writing	Writing Section に目を通し、トピックを考える。					
		(復習) Task1:動画を撮影・編集する。					
		スポーツに関する語彙を理解し、文法や表現の復習をする。					
6回	Unit3: Sports	(予習) Listening Sectionの音声を聞き、Roleplayで話す内容を準備する。					
	Conversation & Grammar	Reading Sectionの本文の音声を聞き、わからない単語を調べる。					
		(復習) Task2:動画を視聴し内容をまとめる。					
		スポーツに関する表現活動を通して、語彙、表現、文法等の定着を目指す。					
7回	Unit3: Sports	(予習) Reading Sectionの本文をすべて日本語に訳す。					
(<u> </u>	Reading & Writing	Writing Section に目を通し、トピックを考える。					
		(復習)Task2:トピックを考え、内容を整理する。					
		Unit1~Unit3 の復習をし、学習内容を定着させる。					
8回	Unit1 [~] Unit3 の復習	(予習) Unit1 [*] Unit3 の問題に再度取組む。					
	5 51m6 7	(復習) Task2:原稿を準備する。					
		AND A THE PARTY OF THE A DO					

		健康に関する語彙を理解し、文法や表現の復習をする。
9回	Unit4: Health	(予習)Listening Sectionの音声を聞き、Roleplayで話す内容を準備する。
	Conversation & Grammar	Reading Sectionの本文の音声を聞き、わからない単語を調べる。
		(復習)Task2:資料を準備する。
		健康に関する表現活動を通して、語彙、表現、文法等の定着を目指す。
10 回	Unit4: Health	(予習)Reading Sectionの本文をすべて日本語に訳す。
10 🖭	Reading & Writing	Writing Sectionに目を通し、トピックを考える。
		(復習)Task2:動画を撮影・編集する。
	Unit5: What's on Your	音楽に関する語彙を理解し、文法や表現の復習をする。
11 回	Playlist?	(予習)Listening Sectionの音声を聞き、Roleplayで話す内容を準備する。
11 [1]	Conversation & Grammar	Reading Sectionの本文の音声を聞き、わからない単語を調べる。
		(復習)Task3:動画を視聴し内容をまとめる。
	Unit5: What's on Your Playlist? Reading & Writing	音楽に関する表現活動を通して、語彙、表現、文法等の定着を目指す。
12 回		(予習)Reading Sectionの本文をすべて日本語に訳す。
12 [1]		Writing Sectionに目を通し、トピックを考える。
		(復習)Task3:トピックを考え、内容を整理する。
		映画に関する語彙を理解し、文法や表現の復習をする。
13 回	Unit6: At the Movies?	(予習)Listening Sectionの音声を聞き、Roleplayで話す内容を準備する。
19 回	Conversation & Grammar	Reading Sectionの本文の音声を聞き、わからない単語を調べる。
		(復習)Task3:原稿を準備する。
		映画に関する表現活動を通して、語彙、表現、文法等の定着を目指す。
14 回	Unit6: At the Movies?	(予習) Reading Sectionの本文をすべて日本語に訳す。
14 [5]	Reading & Writing	Writing Sectionに目を通し、トピックを考える。
		(復習)Task3:資料を準備する。
		夏学期の学習を振り返り、弱点を克服する。
15 回	Review 1 & speaking task	speaking task に取り組み、前期の成果を確認する。
10 [5]	Neview 1 & speaking task	(予習)Unit5~Unit6の問題に再度取組む。
		(復習)Task3:動画を撮影・編集する。

本科目は、演習科目1単位ですので授業時間90分以外に15時間の授業外学習が必要になります。 授業外学習方法に記載された予習・復習課題を実践して内容の理解を深めてください。

成績評価の方法・基準

成績評価の基準

評価項目	S	A	В	С	D
1. コミュニケーショ	完全ないしほぼ	若干不十分な点	不十分な点は認	到達目標の最低	到達目標を達成
ンに必要な文法、語彙、	完全に到達目標	は認められるも	められるもの	限を達成してい	していない
音声等を理解し、実際	を達成している	のの、到達目標	の、到達目標を	る	
に使うことができる。		を達成している	達成している		
 2. 場面や状況に応じ					
た表現を選択し、適切					
にコミュニケーション					
を図ることができる。					
 3. 積極的にコミュニ					
ケーションを図るとと					
もに、協働して課題に					
取り組むことができ					
る。					
100 点法	100 点~90 点	89 点~80 点	79 点~70 点	69 点~60 点	59 点以下
_					

成績評価の方法

期末試験50%、課題30%、実技(スピーキングテスト)20%

課題の評価についてはクラスルーム上で個別にフィードバックを行う。

教科書

角山 照彦/LiveABC editors 著,『Live Escalate Book 2: Trekking』,成美堂,2021年,2,750円

参考書等

墺タカユキ編著,『総合英語 Evergreen』, いいずな書店, 2017年, 1,870円 必要な資料やプリントは(予習)もしくは授業時に配付する。

履修上の注意・学修支援

- ・授業の内容は英検準2級程度を基本することから、英語が苦手な学生は各自自習に取り組むこと。
- ・授業は英語で行うことを基本とする。
- ・授業前に単語の意味を調べ、予習をしてくること。※予習と復習の内容は授業の初めに毎回確認します。
- ・間違いを恐れず、積極的に参加すること。
- ・どのような質問でも積極的に聞くこと。

オフィスアワー

質問等があれば、メールを利用、または研究室へ来ること。

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
21HC1BP10	英語Ⅱ	1年	後期	演習	1	阿部 巧

日常に関連した様々な場面を設定した題材を通して、これまでに学んできた語彙、英語表現や一般的に必要とされる基礎的文法などを復習し、より実践的な技能を高める。また、文章読解、聴解、作文、発話等を通して、「リーディング、リスニング、スピーキング、ライティング」の4技能を総合的に学習し、英語コミュニケーション能力の向上を目指す。

到達目標 (学習の成果)

- ・コミュニケーションに必要な文法、語彙、音声等を理解し、実際に使うことができる(知識・応用)。
- ・場面や状況に応じた表現を選択し、適切にコミュニケーションを図ることができる(知識・思考・応用)。
- ・積極的にコミュニケーションを図るとともに、協働して課題に取り組むことができる(応用)。

旦	表題	学習内容
1回	受講の仕方、授業の内容や目標について確認 レディネステスト	英語の授業の受け方について知り、前期の学習の見通しを持つ。 レディネステストを受け、自分の英語のレベルを確認する。 (予習) 高校で習った文法事項の復習 (復習) Task4:動画を視聴し内容をまとめる。
2回	Unit7: Technology in Daily Life Conversation & Grammar	テクノロジーに関する語彙を理解し、文法や表現の復習をする。 (予習)Listening Sectionの音声を聞き、Roleplayで話す内容を準備する。 Reading Sectionの本文の音声を聞き、わからない単語を調べる。 (復習)Task4:トピックを考え、内容を整理する。
3回	Unit7: Technology in Daily Life Reading & Writing	テクノロジーに関する表現活動を通して、語彙、表現、文法等の定着を目指す。 (予習)Reading Section の本文をすべて日本語に訳す。 Writing Section に目を通し、トピックを考える。 (復習)Task4: 原稿を準備する。
4回	Unit8: Social Network Conversation & Grammar	SNS に関する語彙を理解し、文法や表現の復習をする。 (予習) Listening Section の音声を聞き、Roleplay で話す内容を準備する。 Reading Section の本文の音声を聞き、わからない単語を調べる。 (復習) Task4: 資料を準備する。
5回	Unit8: Social Network Reading & Writing	SNS に関する表現活動を通して、語彙、表現、文法等の定着を目指す。 (予習) Reading Section の本文をすべて日本語に訳す。 Writing Section に目を通し、トピックを考える。 (復習) Task4:動画を撮影・編集する。
6回	Unit9: Looking on the Bright Side Conversation & Grammar	マインドセットに関する語彙を理解し、文法や表現の復習をする。 (予習)Listening Sectionの音声を聞き、Roleplayで話す内容を準備する。 Reading Sectionの本文の音声を聞き、わからない単語を調べる。 (復習)Task5:動画を視聴し内容をまとめる。
7回	Unit9: Looking on the Bright Side Reading & Writing	マインドセットに関する表現活動を通して、語彙、表現、文法等の定着を目指す。 (予習) Reading Sectionの本文をすべて日本語に訳す。 Writing Sectionに目を通し、トピックを考える。 (復習) Task5:トピックを考え、内容を整理する。
8回	Unit7~Unit9 の復習	(予習)Unit1~Unit3の問題に再度取組む。 (復習)Task5:原稿を準備する。

		恋愛に関する語彙を理解し、文法や表現の復習をする。
9回	Unit10: Love Affairs	(予習) Listening Section の音声を聞き、Roleplay で話す内容を準備する。
	Conversation & Grammar	Reading Sectionの本文の音声を聞き、わからない単語を調べる。
		(復習) Task5:資料を準備する。
		恋愛に関する表現活動を通して、語彙、表現、文法等の定着を目指す。
10 回	Unit10: Love Affairs	(予習)Reading Sectionの本文をすべて日本語に訳す。
10回	Reading & Writing	Writing Sectionに目を通し、トピックを考える。
		(復習) Task5:動画を撮影・編集する。
		物語に関する語彙を理解し、文法や表現の復習をする。
11 🗔	Unit11: Storytelling?	(予習)Listening Sectionの音声を聞き、Roleplayで話す内容を準備する。
11 回	Conversation & Grammar	Reading Sectionの本文の音声を聞き、わからない単語を調べる。
		(復習) Task6:動画を視聴し内容をまとめる。
		物語に関する表現活動を通して、語彙、表現、文法等の定着を目指す。
10 🗆	Unit11: Storytelling?	(予習)Reading Sectionの本文をすべて日本語に訳す。
12 回	Reading & Writing	Writing Sectionに目を通し、トピックを考える。
		(復習) Task6:トピックを考え、内容を整理する。
	Unit12: The Power of	言葉に関する語彙を理解し、文法や表現の復習をする。
10 🖃		(予習)Listening Sectionの音声を聞き、Roleplayで話す内容を準備する。
13 回	Words?	Reading Sectionの本文の音声を聞き、わからない単語を調べる。
	Conversation & Grammar	(復習)Task6:原稿を準備する。
	U.:410. TI D . C	言葉関する表現活動を通して、語彙、表現、文法等の定着を目指す。
14 🗔	Unit12: The Power of Words?	(予習)Reading Sectionの本文をすべて日本語に訳す。
14 回		Writing Sectionに目を通し、トピックを考える。
	Reading & Writing	(復習)Task6:資料を準備する。
		後期の学習を振り返り、弱点を克服する。
15 回	Pavious 2 h appelring took	speaking taskに取り組み、前期の成果を確認する。
15円	Review 2 & speaking task	(予習)Unit5~Unit6の問題に再度取組む。
		(復習) Task6: 動画を撮影・編集する。

本科目は、演習科目1単位ですので授業時間90分以外に15時間の授業外学習が必要になります。 授業外学習方法に記載された予習・復習課題を実践して内容の理解を深めてください。

成績評価の方法・基準

成績評価の基準

	評価項目	S	A	В	С	D
	1. コミュニケーショ	完全ないしほぼ	若干不十分な点	不十分な点は認	到達目標の最低	到達目標を達成
	ンに必要な文法、語彙、	完全に到達目標	は認められるも	められるもの	限を達成してい	していない
	音声等を理解し、実際	を達成している	のの、到達目標	の、到達目標を	る	
	に使うことができる。		を達成している	達成している		
	2. 場面や状況に応じた表現を選択し、適切にコミュニケーションを図ることができる。					
	3. 積極的にコミュニ					
	ケーションを図るとと					
	もに、協働して課題に					
	取り組むことができ					
	る。					
	100 点法	100点~90点	89 点~80 点	79 点~70 点	69 点~60 点	59 点以下
l						

成績評価の方法

期末試験50%、課題30%、実技(スピーキングテスト)20%

課題の評価についてはクラスルーム上で個別にフィードバックを行う。

教科書

角山 照彦/LiveABC editors 著,『Live Escalate Book 2: Trekking』,成美堂,2021年,2,750円

参考書等

墺タカユキ編著,『総合英語 Evergreen』, いいずな書店, 2017年, 1,870円 必要な資料やプリントは(予習)もしくは授業時に配付する。

履修上の注意・学修支援

- ・授業の内容は英検準2級程度を基本することから、英語が苦手な学生は各自自習に取り組むこと。
- ・授業は英語で行うことを基本とする。
- ・授業前に単語の意味を調べ、予習をしてくること。※予習と復習の内容は授業の初めに毎回確認します。
- ・間違いを恐れず、積極的に参加すること。
- ・どのような質問でも積極的に聞くこと。

オフィスアワー

質問等があれば、メールを利用、または研究室へ来ること。

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
21HC1BP11	情報処理I	1年	前期	演習	1	堀 圭三

人と生活を理解するために、情報化社会において必須である情報リテラシーを身につけることを目的とする。インターネットの利用方法、Googleアプリケーションの基本的な操作方法を学ぶ。また、情報モラルやネットトラブルについて理解する。

到達目標(学習の成果)

- 1. 情報リテラシーについて理解し、コンピュータを利用するにあたってのモラルを理解する(知識)。
- 2. 日本情報処理検定協会の日本語ワープロ検定2級(タイピング、文書デザイン)、表計算検定3級程度(四則計算や関数の使い方)、プレゼンテーション3級程度の技術を身につける(技術)。
- 3. 以上により、社会生活でコンピュータを適切に使うことができる。

回	表題	学習内容
1回	授業の進め方 情報モラルとグーグルワーク スペース基本操作①	授業計画・準備学習・成績評価の方法・基準等について理解する。 情報モラルやネットトラブルについて説明する。そして、本学発行の ユーザアカウントを用いてコンピュータシステムにログインし、基本 的な操作方法を学ぶ。 予習:タイピングソフトを検索し練習を行う。 復習:情報モラルやインターネットトラブルについてまとめる。
2回	グーグルワークスペースの基 本操作②	クラスルーム、ドライブ、meet などの利用方法を学ぶ。あわせて、スマートフォンとのリンクの方法を学ぶ。 予習:時間を見つけてタイピング練習を行う。 復習:授業で示された課題を行う。
3回	グーグルワークスペースの基 本操作 ドキュメント①	ドキュメントの基本的機能を、文書作成を通して学ぶ。 予習:時間を見つけてタイピング練習を行う。 復習:授業で示された課題を行う。
4回	グーグルワークスペースの基 本操作 ドキュメント②	文書作成を通して、段組み。表の挿入の方法を学ぶ。 予習:時間を見つけてタイピング練習を行う。 復習:授業で示された課題を行う。
5回	グーグルワークスペースの基 本操作 ドキュメント③	文書作成を通して、さまざまな表や写真、グラフの挿入の方法を学 ぶ。 予習:時間を見つけてタイピング練習を行う。 復習:授業で示された課題を行う。
6 回	グーグルワークスペースの基 本操作 ドキュメント④	実際に、課題としてポスターの作成を行う(小テスト)。 予習:時間を見つけてタイピング練習を行う。 復習:授業で示された課題を行う。
7 回	グーグルワークスペースの基 本操作 スプレットシート①	表計算問題を通して、スプレッドシートの基本操作、四則計算を学ぶ。 予習:時間を見つけてタイピング練習を行う。 復習:授業で示された課題を行う。
8回	グーグルワークスペースの基 本操作 スプレットシート②	表計算問題を通して、基本関数(sum、average、min関数)を学ぶ。 予習:時間を見つけてタイピング練習を行う。 復習:授業で示された課題を行う。

9 回	グーグルワークスペースの基 本操作 スプレットシート③	表計算問題を通して、ROUND関数の使い方を学ぶ。 予習:時間を見つけてタイピング練習を行う。 復習:授業で示された課題を行う。
10回	グーグルワークスペースの基 本操作 スプレットシート④	表計算問題を通して、IF関数の使い方を学ぶ。 予習:時間を見つけてタイピング練習を行う。 復習:授業で示された課題を行う。
11回	グーグルワークスペースの基 本操作 スプレットシート⑤	表計算問題を通して、罫線や表示形式を学ぶ。 予習:時間を見つけてタイピング練習を行う。 復習:授業で示された課題を行う。
12回	グーグルワークスペースの基 本操作 スプレットシート⑥	実際に課題として、表計算問題を行う(小テスト)。 予習:時間を見つけてタイピング練習を行う。 復習:授業で示された課題を行う。
13回	グーグルワークスペースの基 本操作 スライド①	プレゼンテーション問題を通して、文書作成を学ぶ。 予習:時間を見つけてタイピング練習を行う。 復習:授業で示された課題を行う。
14回	グーグルワークスペースの基 本操作 スライド②	プレゼンテーション問題を通して、図形、写真の挿入と加工などを学ぶ。 予習:時間を見つけてタイピング練習を行う。 復習:授業で示された課題を行う。
15回	グーグルワークスペースの基 本操作 スライド③	実際に課題として、プレゼンテーション問題を行う(小テスト)。あ わせてタイピングの小テストを行う。 予習:時間を見つけてタイピング練習を行う。 復習:授業で示された課題を行う。

この科目は、演習科目(1単位)ですので、授業時間の他に準備学習15時間が必要になります。

- ・自宅でもクロムブックを使って、タイピングの練習、課題を行う。
- ・授業記録を記入し、復習を行う。

成績評価の基準・方法

成績評価の基準

評価項目	S	A	В	С	D
①タイピングの速度(600以上、500以上、400以上、300以上) ②文書デザイン課題の時間内作成 ③表計算課題の時間内作成 ④プレゼンテーション課題の時間内 作成	完全にない しほぼ完全 に到達目標 を達成して いる。	若干イン お点れるも あれるの でを達成し でいる。	不十分な点 は認めのの、 到達 達成してい る。	到達目標の 最低限を達 成してい る。	到達目標を 達成してい ない。
100点法	90点以上	80点以上	70点以上	60点以上	59点以下

成績評価の方法

定期試験(実技試験) 100%

教科書

レジュメを配付する。

参考書

グットナビ編集部『500円でわかるエクセル関数2024 (ONE COMPUTER MOOK) 』 2024年、550円

履修上の注意・学習支援

授業の最初に、タイピングの練習を行う。自宅でも練習し、タイピングの速度向上を目指す。 Google classroomにて、課題の提出等を行う。

オフィスアワー

疑問があれば、オフィスアワーを利用すること。事前予約(k3@ujc.ac.jp) のうえ、時間を設定する。具体的な時間帯は追って掲示する。

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
21HC1BP12	情報処理Ⅱ	1年	後期	演習	1	堀 圭三

人と生活を理解するために、情報化社会において必須である情報リテラシーを身につけることを目的とする。インターネットの利用方法、Googleアプリケーションの基本的な操作方法を学ぶ。また、情報モラルやネットトラブルについて理解する。

到達目標(学習の成果)

- 1. 状況に応じて適切にソフトを選び、文書作成や表計算をすることができる(知識)。
- 2. 日本情報処理検定協会の日本語ワープロ検定初段程度(タイピング、文書デザイン)、表計算検定2級程度 (四則計算や関数の使い方)、プレゼンテーション検定1級程度の技術を身につける(技術)。
- 3. 以上により、社会生活でコンピュータを適切に使うことができる。

回	表題	学習内容				
1回	授業の進め方 グーグルワークスペース操作 ①	授業計画・準備学習・成績評価の方法・基準等について理解する。 情報処理 I の基本操作を踏まえて、効率よく文書を作成する方法を学 ぶ。 予習:時間を見つけてタイピング練習を行う。 復習:授業で示された課題を行う。				
2回	グーグルワークスペースの操 作 ドキュメント①	ドキュメントの機能を、文書作成を通して学ぶ。 予習:時間を見つけてタイピング練習を行う。 復習:授業で示された課題を行う。				
3回	グーグルワークスペースの操 作 ドキュメント②	文書作成を通して、より複雑な表の挿入の方法を学ぶ。 予習:時間を見つけてタイピング練習を行う。 復習:授業で示された課題を行う。				
4回	グーグルワークスペースの操 作 ドキュメント③	文書作成を通して、写真・グラフの挿入・グラフ加工の方法を学ぶ。 予習:時間を見つけてタイピング練習を行う。 復習:授業で示された課題を行う。				
5 回	グーグルワークスペースの操 作 ドキュメント④	実際に、課題としてポスターの作成を行う(小テスト)。 予習:時間を見つけてタイピング練習を行う。 復習:授業で示された課題を行う。				
6回	グーグルワークスペースの操作 スプレットシート①	表計算問題を通して、スプレッドシートの操作、四則計算と関数を学ぶ。 予習:時間を見つけてタイピング練習を行う。 復習:授業で示された課題を行う。				
7 回	グーグルワークスペースの操作 スプレットシート②	表計算問題を通して、関数を学ぶ。 予習:時間を見つけてタイピング練習を行う。 復習:授業で示された課題を行う。				
8回	グーグルワークスペースの操作 スプレットシート③	表計算問題を通して、if・round関数の使い方を学ぶ。 予習:時間を見つけてタイピング練習を行う。 復習:授業で示された課題を行う。				
9回	グーグルワークスペースの操作 スプレットシート④	表計算問題を通して、より複雑なif関数の使い方を学ぶ。 予習:時間を見つけてタイピング練習を行う。 復習:授業で示された課題を行う。				

10回	グーグルワークスペースの操作 スプレットシート⑤	表計算問題を通して、vlookup、dsum関数を学ぶ。 予習:時間を見つけてタイピング練習を行う。 復習:授業で示された課題を行う。
11回	グーグルワークスペースの操作 スプレットシート⑥	表計算問題を通して、その他の関数、グラフ作成などを学ぶ。 予習:時間を見つけてタイピング練習を行う。 復習:授業で示された課題を行う。
12回	グーグルワークスペースの操作 スプレットシート⑦	実際に課題として、表計算問題を行う(小テスト)。 予習:時間を見つけてタイピング練習を行う。 復習:授業で示された課題を行う。
13回	グーグルワークスペースの操作 スライド①	プレゼンテーション問題を通して、文書作成を学ぶ。 予習:時間を見つけてタイピング練習を行う。 復習:授業で示された課題を行う。
14回	グーグルワークスペースの操作 スライド②	プレゼンテーション問題を通して、図形、写真の挿入と加工などを学ぶ。 予習:時間を見つけてタイピング練習を行う。 復習:授業で示された課題を行う。
15回	グーグルワークスペースの操作 スライド③	実際に課題として、プレゼンテーション問題を行う(小テスト)。あ わせてタイピングの小テストを行う。 予習:時間を見つけてタイピング練習を行う。 復習:授業で示された課題を行う。

この科目は、演習科目(1単位)ですので、授業時間の他に準備学習15時間が必要になります。

- ・自宅でもクロムブックを使って、タイピングの練習、課題を行う。
- ・授業記録を記入し、復習をおこなう。

成績評価の基準・方法

成績評価の基準

評価項目	S	A	В	С	D
①タイピングの速度(600以上、500	完全にない	若干不十分	不十分な点	到達目標の	到達目標を
以上、400以上、300以上)	しほぼ完全	な点は認め	は認められ	最低限を達	達成してい
②文書デザイン課題の時間内作成 ③表計算課題の時間内作成	に到達目標 を達成して	られるもの の、到達目	るものの、 到 達 目標を	成している	ない
④プレゼンテーション課題の時間内	と達成して	標を達成し	達成してい		
作成	_	ている	る		
100点法	100点~90点	89点~80点	79点~70点	69点~60点	59点以下

成績評価の方法

定期試験(実技試験) 100%

教科書

レジュメを配付する。

参考書

グットナビ編集部『500円でわかるエクセル関数2024 (ONE COMPUTER MOOK) 』 2024年、550円

履修上の注意・学習支援

授業の最初に、タイピングの練習を行う。自宅でも練習し、タイピングの速度向上を目指す。 Google classroomにて、課題の提出等を行う。

オフィスアワー

疑問があれば、オフィスアワーを利用すること。事前予約(k3@ujc.ac.jp) のうえ、時間を設定する。具体的な時間帯は追って掲示する。

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
21HC1SC13	人間の尊厳と自立	1年	前期	講義	2	宮脇 文恵

人間の尊厳と人権・福祉理念について学ぶことを通して,介護福祉士にとって不可欠である、「人間への理解」を深める。

そして、「自立」とは何か、その概念を学び、「人間の生活」について、「本人中心」のあり方を学ぶ。そのうえで、援助における「価値と倫理」について学び、人間尊重の精神と倫理性をもち、介護場面における倫理的な課題について対応できるための基礎的な能力を養う。将来的に、利用者の課題解決・支援のできる介護福祉士となることを目指す。授業では、演習やグループ討議を行い、映像鑑賞を多用しながら、学んでいく。

到達目標(学習の成果)

- 1. 人間の理解を基礎として、尊厳の保持と自立について理解し、介護福祉の倫理的課題への対応能力の基礎を養う。
- 2. 他者および自己の個性や多様性の尊重ができるようになる。
- 3. 1、2を通じて、介護福祉専門職としての心構えや態度が身につき、介護に活かすことができるようになる。

	授業計画					
回	表 題	学習内容				
1回	授業の進め方「人権」とは何か	授業計画、授業方法、予習・復習、成績の評価基準・方法等を知る。 なぜ介護福祉専門職は「人間の尊厳」を学ばねばならないのかを理解する。 【予習】新聞やインターネットなどで、「人権」について調べ、 説明できるようにしておく。 【復習】資料とテキストによって授業を振り返り、学びとなった				
2回	人間の尊厳と人権・福祉理念①	ことを記録する。 人間の「尊厳」とは何かを、理解する。 【予習】新聞やインターネットなどで、「人権」について取り上げている記事を1つ以上読んでおく。 【復習】資料とテキストによって授業を振り返り、学びとなったことを記録する。				
3回	人間の尊厳と人権・福祉理念②	人間の多面性、多様性を理解していく。 【予習】新聞やインターネットなどで、性的マイノリティの方の 気持ちや置かれている状況について取り上げている記事を 1 つ 以上読んでおく。 【復習】資料とテキストによって授業を振り返り、学びとなった ことを記録する。				
4回	人間の尊厳と人権・福祉理念③	「人権」についての歴史的変遷を学ぶ。 【予習】新聞やインターネットなどで「ナチスの障害者虐殺」「ハンセン病隔離政策」「日本における強制不妊手術」のどれかについて、調べておく。 【復習】資料とテキストによって授業を振り返り、学びとなったことを記録する。				
5回	人間の尊厳と人権・福祉理念④	人権と「排除」との関係について学び、福祉理念である「ノーマライゼーション」「(社会的)包摂」について理解する。 【予習】新聞やインターネットなどで、「排除のベンチ」ついて取り上げている記事を1つ以上読んでおく。 【復習】資料とテキストによって授業を振り返り、学びとなったことを記録する。				
6 回	人間の尊厳と人権・福祉理念⑤	「世界人権宣言」「日本国憲法」「障害者権利条約」「社会福祉法」				

	T	
		等から、人権について学ぶ。
		【予習】新聞やインターネットなどで、「世界人権宣言」につい
		て取り上げている記事を1つ以上読んでおく。
		【復習】資料とテキストによって授業を振り返り、学びとなった
		ことを記録する。
		介護における人権尊重及び権利擁護について学ぶ。
7 回	人間の尊厳と人権・福祉理念⑥	【予習】新聞やインターネットなどで、認知症高齢者への支援に
		ついて取り上げている記事を1つ以上読んでおく。
		【復習】資料とテキストによって授業を振り返り、学びとなった
		てとを記録する。
		ことを記録する。 人間にとっての「自立」の意味について、多面的に学ぶ。
8回	<u>自立</u> とは <u>~自立の概念~</u>	【予習】新聞やインターネットなどで、「自立」について取り上
		げている記事を1つ以上読んでおく。
0 🖹		りている記事を1つ以上就んでねる。 【復習】資料とテキストによって授業を振り返り、学びとなった
		【復音】真体とノイストによって役業を振り返り、子びとなった。
		本人主体の観点から、「尊厳の保持」「自立」について理解する。
	<u>自立</u> とは〜 <u>本人主体</u> 〜	【予習】新聞やインターネットなどで、アメリカの「自立生活運
9回		動 について取り上げている記事を1つ以上読んでおく。
		【復習】資料とテキストによって授業を振り返り、学びとなった
		ことを記録する。
	自立とは〜自己決定〜	本人主体の観点から、「自己決定」の考え方を理解する。
		【予習】新聞やインターネットなどで、ALS 患者の生活と、当事
10 回		者への支援について取り上げている記事を1つ以上読んでおく。
		【復習】資料とテキストによって授業を振り返り、学びとなった
		ことを記録する。
	介護における自立支援①	「身体的自立(自律)」について理解する。
11 🗔		【予習】新聞やインターネットなどで、高齢者のリハビリテーシ
11 回		ョンについて取り上げている記事を1つ以上読んでおく。
		【復習】資料とテキストによって授業を振り返り、学びとなった
		ことを記録する。 「精神的自立 (自律)」について理解する。
	介護における自立支援②	【予習】人が生きていくための「こころの力」について、自身の
12 回		生活の中でエピソードを取り上げ、400字以上でまとめておく。
12 [2]		【復習】資料とテキストによって授業を振り返り、学びとなった
		【後旬】 貝付とノイストにより(改業を減り返り、子びとなりに ことを記録する。
		「社会的自立(自律)」について理解する。
	介護における自立支援③	【予習】人が生きていくための「人と人との関係」について、自
		身の生活の中でエピソードを取り上げ、400字以上でまとめてお
13 回		\[\] \[\]
		、。 【復習】資料とテキストによって授業を振り返り、学びとなった
		ことを記録する。
	尊厳と自立	「尊厳」「人権」と「自立」との接点を考える。
		【予習】本講義の前半で学んだ「人間の尊厳」を踏まえた「自立」
14 回		を、自分の考えを 400 字以上でまとめておく。
		【復習】資料とテキストによって授業を振り返り、学びとなった
		ことを記録する。
15 回	まとめ	今後の介護福祉専門職としての働きを考える。
		【予習】本講義の前半で学んだ「人間の尊厳」を踏まえた「自立」
		を、どう援助していきたいか、自分の考えを 400 字以上でまとめ
		ておく。
		【復習】資料とテキストによって授業を振り返り、学びとなった
		ことを記録する。

本科目は、講義科目ですので、授業時間 (30 時間) と準備学習時間 (60 時間) の合わせて 90 時間の学習時間が必要になります。

- ・自身の「今までの他者や社会との関わり」についてよく振り返っておくこと。
- ・次回の授業で取り組む内容について、参考文献、新聞記事、TV のニュース、ドキュメンタリー等を積極的に 読み聴き、予習しておくこと。また、授業後は、授業で学んだ内容を深めていくこと。

成績評価の方法・基準

成績評価の基準

/ *///////////////////////////////////					
評価項目	S	A	В	C	D
①人間の尊厳への理解	完全にない	若干不十分	不十分な点	到達目標の	到達目標を
②人権への理解	しほぼ完全	な点は認め	は認められ	最低限を達	達成してい
③自立の理解	に到達目標	られるもの	るものの、	成している	ない
	を達成して	の、到達目	到達目標を		
	いる	標を達成し	達成してい		
		ている	る		
100 点法	100 点~90	89 点~80	79 点~70	69 点~60	59 点以下
	点	点	点	点	

成績評価の方法・基準(%表記)

- ① 授業内課題 (30%)
- ② 事例に対する小レポート (20%)
- ③ 定期試験 (レポート) (50%)

教科書

・介護福祉士養成講座編集委員会編『最新・介護福祉士養成講座第 1 巻 人間の理解(第 2 版)』中央法規出版 2022 年 2420 円(税込)

参考書等

・授業において、随時紹介する。

履修上の注意・学習支援

- ・授業中の私語は慎むこと。
- ・不明なことは、常に調べ、質問する習慣を身につけること。

オフィスアワー

- ・質問等があれば、オフィスアワーを利用すること。
- ・担当教員との連絡方法は、授業時に提示する。

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
21HC2SC14	人間関係とコミュニケーションI	2年	前期	講・演	1	堀 圭三

福祉を実践するために、人間関係や、他者への情報の伝達に必要な基礎的なコミュニケーション能力について理解を深める。

到達目標(学習の成果)

- 1. 快い人間関係を築くために必要な態度を理解している。(知識)
- 2. 自己も他者も尊重できる表現をすることができる。 (技術)
- 3. より良い人間関係を築く態度が身についている。(態度)

田	表題	学習内容
1回	授業の進め方 人間関係とは何か	授業計画・準備学習・成績評価の基準・方法を理解する。 対人関係,三者関係を理解する。 予習:参考書の『人間に理解』の第2章2節までを読んでまとめる。 復習:授業で示された課題を行う。
2回	人間関係の形成①	相互行為の概念、儀礼的相互行為について理解する。 予習:授業で示された課題を調べまとめる。 復習:授業で示された課題を行う。
3回	人間関係の形成②	他者理解、ラポール、文脈の概念を理解する。 予習:授業で示された課題を調べまとめる。 復習:授業で示された課題を行う。
4回	人間関係の形成③	役割取得、役割遂行、役割演技の概念を理解する。 予習:授業で示された課題を調べまとめる。 復習:授業で示された課題を行う。
5 回	人間関係の形成④	バーバルコミュニケーションとノンバーバル・コミュニケーションの多様な 使い方について理解する。 予習:授業で示された課題を調べまとめる。 復習:授業で示された課題を行う。
6回	コミュニケーションの技 法①	ボディメッセージと動作と表情、目の使い方と身体接触の概念について理解する。 予習:授業で示された課題を調べまとめる。 復習:授業で示された課題を行う。
7 回	コミュニケーションの技 法②	周辺言語と沈黙、空間と距離、時間、色彩について理解する。 予習:授業で示された課題を調べまとめる。 復習:授業で示された課題を行う。
8回	コミュニケーションの技 法③	受容・共感・傾聴の方法とその考え方を理解する。 予習:授業で示された課題を調べまとめる。 復習:授業で示された課題を行う。
9回	コミュニケーションの技 法④	アサーティブな表現、DESC法、Iメッセージについて理解する。 予習:授業で示された課題を調べまとめる。 復習:授業で示された課題を行う。
10回	人間関係と文化①	贈与慣行と人間関係、日米の贈与慣行の違いを理解する。 予習:授業で示された課題を調べまとめる。

		復習:授業で示された課題を行う。
11回	人間関係と文化②	職場の人間関係、感情労働、ホーソン実験について理解する。 予習:授業で示された課題を調べまとめる。 復習:授業で示された課題を行う。
12回	人間関係と文化③	異文化理解、提示儀礼と回避儀礼の文化の違いを理解する。 予習:授業で示された課題を調べまとめる。 復習:授業で示された課題を行う。
13回	人間関係と文化④	ホスピタリティともてなしの違いについて理解する。 予習:授業で示された課題を調べまとめる。 復習:授業で示された課題を行う。
14回	人間関係トレーニング①	さまざまなコミュニケーション・モードでの表現を体験する。 予習:授業で示された課題を調べまとめる。 復習:授業で示された課題を行う。
15回	人間関係トレーニング②	「させていただく」という表現について考える。 予習:授業で示された課題を調べまとめる。 復習:授業で示された課題を行う。

この科目は、講義・演習科目(1単位)ですので、授業時間以外に準備学習15時間が必要になります。

- ・参考書から少なくとも1冊選び授業終了までに読んで理解する。
- ・ニュースやコラム等で授業に関係することがあれば、その内容をノートにまとめること。

成績評価の基準・方法

評価項目	S	A	В	С	D
1. 表題ごとのポイントと具体的な行為	完全にない	若干不十分	不十分な点	到達目標の	到達目標を
について説明できる。	しほぼ完全	な点は認め	は認められ	最低限を達	達成してい
2. 授業内容と参考書で示された内容と	に到達目標	られるもの	るものの、	成してい	ない。
は関連付けられ理解している。	を達成して	の、到達目	到達目標を	る。	
	いる。	標を達成し	達成してい		
		ている。	る。		
100点法	90点以上	80点以上	70点以上	69点以上	59点以下

・定期試験 (レポート試験) 100%

教科書

第1回目にレジュメを配付する

参考書等

- ・『最新介護福祉士養成講座1人間の理解』中央法規出版 2022年、2,420円(税込)
- ・竹内一郎『人は見た目が9割』新潮新書 2005年、836円(税込)
- ・竹内一郎『やっぱり人は見た目が9割』新潮新書 2014年、814円 (税込)
- ・ヴァーガス『非言語コミュニケーション』新潮選書 1987年、1,870円 (税込)
- ・平田オリザ『わかりあえないことから』講談社現代新書 2012年、968円 (税込)

履修上の注意・学習支援

準備学習の指定図書だけでなく、参考書や授業中に紹介した本を読むこと。 Google classroomにて、課題の提出等を行う。

オフィスアワー

疑問があれば、オフィスアワーを利用すること。事前予約(k3@ujc. ac. jp)のうえ、時間を設定する。具体的な時間帯は追って指示する。

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
21HC1SC15	生活と福祉	1年	後期	講義	2	堀 圭三

福祉の基礎を学ぶために必要な、社会の仕組みについて学んでいく。福祉とは何か、私たちの生活と具体的にはどのように関連しているのかについて理解していく。さらに、現代社会の特徴を通して、よりよい生活をしていく方法を考えていく。

到達目標(学習の成果)

- 1. 「福祉とは何か」について、自身の生活と関連づけながら説明することができる(知識)。
- 2. 家族や地域社会の今後のあり方について、自分の考えを述べることができる(知識)。

回	表題	学習内容
1回	授業の進め方 生活の基本機能	授業計画・準備学習・成績評価の基準・方法を理解する。 社会生活、家族生活について理解する。 予習:教科書の第1章2節までをまとめておく。 復習:授業で示された課題を行う。
2回	ライフスタイルの変化	生活と働き方、少子高齢化社会を理解する。 予習:該当する教科書の部分を読んでまとめる。 復習:授業で示された課題を行う。
3回	家族の機能と役割	家族と世帯の変容、家族機能の変化について理解する。 予習:該当する教科書の部分を読んでまとめる。 復習:授業で示された課題を行う。
4回	社会・組織の機能と役割	社会・組織の概念を理解する。 予習:該当する教科書の部分を読んでまとめる。 復習:授業で示された課題を行う。
5 回	地域社会	コミュニティの概念、地域社会の変化を理解する。 予習:該当する教科書の部分を読んでまとめる。 復習:授業で示された課題を行う。
6 回	地域社会における生活支援	生活支援と福祉について理解する。 予習:該当する教科書の部分を読んでまとめる。 復習:授業で示された課題を行う。
7 回	地域福祉の発展	地域福祉の基本的な考え方を理解する。 予習:該当する教科書の部分を読んでまとめる。 復習:授業で示された課題を行う。
8回	地域福祉の推進	コミュニティ・ソーシャルワーク、地域福祉計画を理解する。 予習:該当する教科書の部分を読んでまとめる。 復習:授業で示された課題を行う。
9回	地域情勢社会	地域共生社会の理念について理解する。 予習:該当する教科書の部分を読んでまとめる。 復習:授業で示された課題を行う。
10回	地域共生社会の実現	3つの地域づくりの方向性と取り組みを理解する。 予習:該当する教科書の部分を読んでまとめる。 復習:授業で示された課題を行う。

11回	地域包括ケア	地域包括ケアの理念とシステムを理解する。 予習:該当する教科書の部分を読んでまとめる。 復習:授業で示された課題を行う。
12回	介護福祉士国家試験に向けて	社会の理解の過去問から、要点を確認する。 予習:授業で示された課題を調べてまとめる。 復習:授業で示された課題を行う。
13回	現代社会の諸相①	統計資料を基に、人口動態や出生率などを確認し、現代社会について理解する。 予習:授業で示された課題を調べてまとめる。 復習:授業で示された課題を行う。
14回	現代社会の諸相②	少子化の現状について統計資料を基に理解し、日本特有の問題(パラサイト・シングルなど)について理解する。 予習:授業で示された課題を調べてまとめる。 復習:授業で示された課題を行う。
15回	現代社会の諸相③	ファスト・フードとスロー・フードの概念から、日本の食生活やライフスタイルを理解する。 予習:授業で示された課題を調べてまとめる。 復習:授業で示された課題を行う。

この科目は、講義科目(2単位)ですので、授業時間30時間と準備学習60時間が必要になります。

- ・ニュースやコラム等で授業に関係することがあれば、その内容をノートにまとめること。
- ・授業記録の記入し、基本概念についてはきちんとノートにまとめておく。

成績評価の基準・方法

評価項目	S	A	В	С	D
1. 日本の社会の現状について、統計資	完全にない	若干不十分	不十分な点	到達目標の	到達目標を
料に基づいて理解している。	しほぼ完全	な点は認め	は認められ	最低限を達	達成してい
2. 福祉と取り巻く社会の仕組みについ	に到達目標	られるもの	るものの、	成してい	ない。
て、その基本概念を理解している。	を達成して	の、到達目	到達目標を	る。	
	いる。	標を達成し	達成してい		
		ている。	る。		
100点法	90点以上	80点以上	70点以上	60点以上	59点以下

・定期試験(筆記試験) 100%

教科書

・介護福祉士養成講座編集委員会『最新介護福祉士養成講座2 社会の理解』2022年、中央法規、2420円(税込)

参考書等

履修上の注意・学習支援

質問等がある場合は、電子メールでいつでも受け付ける。また、オフィス・アワーでも受け付ける。

オフィス・アワー

疑問があれば、オフィス・アワーを利用すること。事前予約(k3@ujc. ac. jp) のうえ、時間を設定する。具体的な時間帯は追って指示する。

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
21HC2SC16	社会保障	2年	後期	講義	2	宮脇文恵

社会における生活にとって不可欠である社会保障制度の基本的な考え方と仕組みを学習するとともに、介護 福祉士として理解すべき医療保障・介護保障・所得保障・公的扶助について理解を深める。本講義における学 びを通して、社会保障に関する広い教養と、自立・自律した生活者としての行動規範を身につける。

到達目標(学習の成果)

- 1. 介護福祉士として理解すべき社会保障制度、その概念、役割、範囲、及び具体的制度について体系的に学 ぶことができる。学びを実際の生活支援に活かすための基盤を身に着ける。 社会保障の概念 目的 機能 5つの社会保険の休系が説明できる

2. 社会化						
		授業計画				
回	表題	学習内容				
		授業計画、授業方法、予習・復習、成績の評価基準・方法等を知る。				
		介護福祉専門職にとって「社会保障制度」を学ぶこととは何かを考える。				
	学習の進め方	公的保険と民間保険の現状(公的保険と民間保険の主な種類・公的保険				
1回		と民間保険の違い)について理解する。				
1 1	公的保険制度と民間保険	【予習】新聞やインターネットなどで、「社会保険」「民間保険」につい				
	制度の関係	て取り上げている記事を1つ以上読んでおく。				
		【復習】資料とテキストによって授業を振り返り、学びとなったことを				
		記録する。				
		医療保険制度等の概要(制度の目的、対象、給付内容、財源構成等)につ				
		いて、理解する。				
2回	社会保障制度の体系①	【予習】自分の属している医療保険について調べてくる。				
		【復習】資料とテキストによって授業を振り返り、学びとなったことを				
		記録する。				
	<u>社会保障制度</u> の体系②	医療保険制度等の概要(公費負担医療)について、理解する。				
		【予習】新聞やインターネットなどで、「公費負担医療」について取り				
3回		上げている記事を1つ以上読んでおく。				
		【復習】資料とテキストによって授業を振り返り、学びとなったことを				
		記録する。				
		高齢者福祉への理解と、介護保険制度の概要(制度の目的、対象、給付				
		内容、財源構成)について学び、高齢者福祉制度の基本的な考え方とし				
	4.人口陸制度の仕ずの	くみ、介護保険制度の内容を理解する。それをもって、高齢者福祉の現				
4 🖃	社会保障制度の体系③	状と課題をとらえていく。				
4回	~ <u>高齢者福祉と介護保険</u>	【予習】新聞やインターネットなどで、「家族のみによる介護」につい				
	<u>制度</u> ~	て取り上げている記事を1つ以上読んでおく。				
		【復習】資料とテキストによって授業を振り返り、学びとなったことを				
		記録する。				
		介護保険制度の概要(給付内容、財源構成)について学ぶ。				
		【予習】インターネットなどで、自分の地域の介護保険料やサービスに				
5 回	社会保障制度の体系④	ついて調べてくる。				
		【復習】資料とテキストによって授業を振り返り、学びとなったことを				
		記録する。				
		年金保険制度の概要(制度の目的、対象、給付内容、財源構成)につい				
		て理解する。				
6 回	社会保障制度の体系⑤	【予習】新聞やインターネットなどで、「社会保険」「民間保険」につい				
		て取り上げている記事を1つ以上読んでおく。				
		【復習】資料とテキストによって授業を振り返り、学びとなったことを				
L	1					

		記録する。
		年金保険制度の概要(給付内容、財源構成)について理解する。
		【予習】新聞やインターネットなどで、「国民年金」「厚生年金」につい
7 回	社会保障制度の体系⑥	て取り上げている記事を1つ以上読んでおく。
		【復習】資料とテキストによって授業を振り返り、学びとなったことを
		記録する。
		労災保険制度と雇用保険制度の概要(制度の目的、対象、給付内容、財
		源構成)について理解する。 【予習】新聞やインターネットなどで、「労働災害」または「失業問題」
8回	社会保障制度の体系⑦	「いっぱっぱっぱっぱっぱっぱっぱっぱっぱっぱっぱっぱっぱっぱっぱっぱっぱっぱっぱ
		【復習】資料とテキストによって授業を振り返り、学びとなったことを
		記録する。
		生活保護制度の概要(制度の目的、対象、給付内容、財源構成)につい
		て理解する。
9回	社会保障制度の体系⑧	【予習】新聞やインターネットなどで、「生活困窮者自立支援制度」に
3 <u>m</u>	区区水库顺及	ついて取り上げている記事を1つ以上読んでおく。
		【復習】資料とテキストによって授業を振り返り、学びとなったことを
		記録する。
		生活保護制度の概要(給付内容、財源構成)について理解する。 【予習】新聞やインターネットなどで、「生活保護」について取り上げ
10 回	<u>社会保障制度</u> の体系⑨	「Tral 利用でインクーイットなどで、「生活休暖」について取り上りている記事を1つ以上読んでおく。
10 🖂		【復習】資料とテキストによって授業を振り返り、学びとなったことを
		記録する。
		社会手当制度の概要(制度の目的、対象、給付内容、財源構成)につい
		て理解する。
11 回	社会保障制度の体系⑩	【予習】新聞やインターネットなどで、「社会手当」について取り上げ
	TAMPING OF THE	ている記事を1つ以上読んでおく。
		【復習】資料とテキストによって授業を振り返り、学びとなったことを
		記録する。
		社会福祉制度の概要(制度の目的、対象、給付内容、財源構成)について、高齢者・児童・母子寡婦分野から理解する。
		【予習】新聞やインターネットなどで、「高齢者福祉」・「児童福祉」・「母
12 回	社会保障制度の体系⑪	子寡婦福祉 それぞれについて取り上げている記事を1つ以上読んでお
	<u> </u>	<.
		【復習】資料とテキストによって授業を振り返り、学びとなったことを
		記録する。
		社会福祉制度の概要(制度の目的、対象、給付内容、財源構成)につい
		て、障害者・社会的孤立などの分野から理解する。
13 回	社会保障制度の体系⑫	【予習】新聞やインターネットなどで、「社会保険」「民間保険」につい
	<u>一一口下时人</u> */ 作小曼	て取り上げている記事を1つ以上読んでおく。
		【復習】資料とテキストによって授業を振り返り、学びとなったことを 記録する。
		語 諸 外国 に お ける 社会 保障制度 の 概要 (先進諸国 の 社会 保障制度 の 歴史 と
		概要)について学ぶ。
14 回	諸外国における社会保障	【予習】新聞やインターネットなどで、「障害者福祉」・「社会的孤立」
	制度①	それぞれについて取り上げている記事を1つ以上読んでおく。
		【復習】資料とテキストによって授業を振り返り、学びとなったことを

		記録する。
		社会保障制度の国際比較(高齢化と社会保障の給付規模、社会保障給付
		費の内訳)について学ぶ。
15 (2)	諸外国における社会保障 制度②	【予習】新聞やインターネットなどで、アメリカとフランスの社会保障
15 回		制度について取り上げている記事を1つ以上読んでおく。
		【復習】資料とテキストによって授業を振り返り、学びとなったことを
		記録する。

本科目は、講義科目ですので、授業時間(30 時間)と準備学習時間(60 時間)の合わせて90 時間の学習時間が必要になります。

- ・各回授業前までに、次回の授業で解説する教科書の箇所を予習しておく。次回の授業については、前回授業 時に指示する。
- ・最近の社会保障の動向等を新聞やメディア・SNSを通して確認しておくこと。不明なことがあれば、調べたり質問したりすること。

成績評価の方法・基準

成績評価の基準

7,200					
評価項目	S	A	В	С	D
①社会保険の役割の理解	完全にない	若干不十分	不十分な点	到達目標の	到達目標を
②社会福祉制度への理解	しほぼ完全	な点は認め	は認められ	最低限を達	達成してい
③社会扶助への理解	に到達目標	られるもの	るものの、	成している	ない
④保険医療・公衆衛生への	を達成して	の、到達目	到達目標を		
理解	いる	標を達成し	達成してい		
		ている	る		
100 点法	100 点~90	89 点~80	79 点~70	69 点~60	59 点以下
	点	点	点	点	

成績評価の方法・基準 (%表記)

- ① 授業内にて中間レポート (30%)
- ② 単元に対するレポート (20%)
- ③ 定期試験(50%)

教科書

・山田芳子 編著 米山裕実 編『図解でわかる 社会保険いちばん最初に読む本(改定第6版)』アニモ出版 2024年 1760円(税込)

参考書等

- ・結城康博・河村秋・大津唯 編著『わかりやすい社会保障制度 はじめて福祉に携わる人へ(改訂版)』(ぎょうせい) 2023 年 3520 円 (税込)
- ・その他、授業において、随時紹介する。

履修上の注意・学習支援

- ・授業中は、主体的に積極的に学習する。
- ・不明なことは、常に調べ、質問する習慣を身につける。

オフィスアワー

- ・質問等があれば、オフィスアワーを利用すること。
- ・担当教員との連絡方法は、授業時に提示する。

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
21HC1SC17	介護の基本 I	1年	前期	講・演	1	阿部 正昭

介護の歴史や<u>介護福祉士の役割と機能</u>について学び、<u>介護福祉の基本となる理念</u>を理解する。 社会福祉士及び介護福祉士法の概要を学び、介護福祉士に求められている役割について理解する。 また、職能団体のはたらきや、専門的な技術や知識を高める研修制度の体系を確認し、介護人材の キャリアパスについて学習する。

授業内では、視聴覚教材(動画)やワークシートを使用し、個人ワーク・グループワークを行い、 そこで自分の考えを整理して発信し、他者の意見を聴くことで参考とすることができる。

到達目標(学習の成果)

- ・介護保険法制定までの歴史的背景の概要を説明することができる(知識)。
- ・社会福祉士及び介護福祉士法の概要を理解している(知識)。
- ・介護福祉士の役割と機能について理解している(知識・態度)

· 介	・介護福祉士の役割と機能について理解している (知識・態度)。					
		授業計画				
口	表題	学習内容				
1回	授業の進め方 介護の成り立ち	授業計画、授業方法、予習・復習、成績の評価基準・方法等を知る。 介護とは、福祉とは何かを考える。 予習 : あなたの考える福祉とは何か、考えてくる。 復習 : 配付資料や教科書を読み、用語を説明できるようにする。				
2回	社会福祉施策の歴史①	戦前から戦後直後の社会福祉施策について学ぶ。 予習 : 教科書第1章第2節1を読み、用語の意味を調べる。 復習 : 配付資料や教科書を読み、用語を説明できるようにする。				
3回	社会福祉施策の歴史②	生活困窮者の支援について「生活保護」・「低所得」の側面から学ぶ。 予習 : 教科書第1章第2節2・3を読み、用語の意味を調べる。 復習 : 配付資料や教科書を読み、用語を説明できるようにする。				
4回	社会福祉施策の歴史③	介護保険法の背景及び老人家庭奉仕員や介護福祉士について学ぶ。 予習 : 教科書第1章第2節4・5を読み、用語の意味を調べる。 復習 : 配付資料や教科書を読み、用語を説明できるようにする。				
5回	社会福祉施策の歴史④	介護福祉の基本理念について学ぶ。 予習 : 教科書第1章第3節1~3を読み、用語の意味を調べる。 復習 : 配付資料や教科書を読み、用語を説明できるようにする。				
6 回	介護専門職が誕生した社会 的背景	社会福祉士法及び介護福祉士法について学ぶ。 予習 : 教科書第2章第1節1・2を読み、用語の意味を調べる。 復習 : 配付資料や教科書を読み、用語を説明できるようにする。				
7 回	介護の概念の変化①	老人福祉法制定後の介護サービスの拡充施策について学ぶ。 予習 : 教科書第2章第2節を読み、用語の意味を調べる。 復習 : 配付資料や教科書を読み、用語を説明できるようにする。				
8回	介護の概念の変化②	介護福祉士を支える団体について学ぶ。 予習 : 教科書第1章第2節2・3を読み、用語の意味を調べる。 復習 : 配付資料や教科書を読み、用語を説明できるようにする。				
9回	介護の概念の変化③	ゴールドプラン・介護保険制度の創設について学ぶ。 予習 : 教科書第1章第2節3~5を読み、用語の意味を調べる。 復習 : 配付資料や教科書を読み、用語を説明できるようにする。				
10 回	介護福祉士の定義と生業	介護福祉士の定義と生業の変遷について学ぶ。 予習 : 教科書第1章第2節5を読み、用語の意味を調べる。 復習 : 配付資料や教科書を読み、用語を説明できるようにする。				
11 回	介護福祉の基本理念	介護福祉理念や尊厳や自立を支える介護について理解する。 予習 : 教科書第4章第1節1~3を読み、用語の意味を調べる。 復習 : 配付資料や教科書を読み、用語を説明できるようにする。				
12 回	介護福祉士の役割と機能①	社会福祉士及び介護福祉士法の概要について学ぶ。 予習 : 教科書第4章第2節4~6を読み、用語の意味を調べる。 復習 : 配付資料や教科書を読み、用語を説明できるようにする。				
13 回	介護福祉士の役割と機能②	介護福祉士の資格取得方法及び、外国人介護労働者について考える。 予習 : 教科書第4章第2節を読み、用語の意味を調べる。				

		復習 : 配付資料や教科書を読み、用語を説明できるようにする。
14 回	介護福祉士の役割と機能③	介護福祉士のカリキュラムの変遷について学ぶ。 予習 : 教科書第4章第3節を読み、用語の意味を調べる。 復習 : 配付資料や教科書を読み、用語を説明できるようにする。
15 回	介護福祉士の役割と機能④	自立支援と介護予防。 予習 : 教科書第1章第2節3~5を読み、用語の意味を調べる。 復習 : 配付資料や教科書を読み、用語を説明できるようにする。

本科目は、講義科目(1 単位)で、授業時間(30 時間)に加えて、15 時間の授業外学習(予習・復習)が必要となります。

学習内容に記載された予習・復習を実践して内容の理解を深めることが求められています。

成績評価の基準・方法

並在1 4月	C	٨	D	C	D
評価項目	5	A	В	C	D
①介護福祉の歴史的変遷	完全にない	若干不十分	不十分な点	到達目標の	到達目標を
の理解 (知識)	しほぼ完全	な点は認め	は認められ	最低限を達	達成してい
	に到達目標	られるもの	るものの、到	成している。	ない。
②介護福祉士の役割につ いての理解(知識)	を達成して いる。	の、到達目標を達成して	達目標を達 成している。		
		いる。			
100 点法	90 点以上	80 点以上	70 点以上	60 点以上	59 点以下

成績は、ワークシート等の授業における提出物30%と定期試験70%で評価する。

教科書

最新・介護福祉士養成講座 『介護の基本 I 』 中央法規 2022 年 2,420 円

参考書等

最新・介護福祉士養成講座 『介護の基本Ⅱ』 中央法規 2022 年 2,420 円

履修上の注意・学習支援

不明な点はそのままにせずに授業中に適時質問すること。 ほぼ毎授業時にレジメを配布するので、紛失のないように管理すること。

オフィスアワー

疑問等があれば、授業前後及びオフィスアワーを活用すること。事前予約の上、日時を決定する。

実務経験のある教員による授業科目

[実務経験の概要]

介護福祉士として、特別養護老人ホームで利用者への介護や生活支援に関する業務に従事してきた。

[実務経験と授業科目との関連性]

介護現場における実践経験は、本科目の授業内容と関連性が非常に高く、実例を踏まえて適宜発信していく 事ができる。

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
21HC1SC18	介護の基本Ⅱ	1年	前期	講・演	1	阿部 正昭

地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を養うため、<u>介護を必要とする人の生活を支えるしくみと介護福祉士の倫理</u>について学ぶ。 授業内では、視聴覚教材(動画)やワークシートを使用し、個人ワーク・グループワークを行い、そこで自分の考えを整理して発信し、他者の意見を聴くことで参考とすることができる。

到達目標(学習の成果)

- ・介護福祉専門職としての基本的な知識・方法・態度を身につけている (方法・態度)。
- ・日本介護福祉士会倫理綱領の内容を理解している(知識・態度)。
- ・介護保険法、障害者総合支援法の概要を整理して理解することができる(知識)。

• 介	護保険法、障害者総合支持	爰法の概要を整理して理解することができる(知識)。
		授業計画
□	表 題	学習内容
		授業計画、授業方法、予習・復習、成績の評価基準・方法等を知る。
	授業の進め方	倫理とは何か。介護に携わる人が持つべき職業倫理について学ぶ。
1回	介護福祉士の倫理①	予習 : 教科書 I 第 3 章第 1 節 1 を読み、用語の意味を調べる。
	7 IZ III III - 3 IIII - 3	復習: 配付資料や教科書を読み、用語を説明できるようにする。
		高齢者虐待防止法を学び、高齢者の虐待と身体拘束防止を理解する。
2回	介護福祉士の倫理②	予習 : 教科書 I 第 3 章第 1 節 1 を読み、用語の意味を調べる。
	71 段間區工 7 間に	復習: 配付資料や教科書を読み、用語を説明できるようにする。
		事例を基に倫理的問題の判断・解決の視点を学ぶ。
3回	介護福祉士の倫理③	予習: 教科書 I 第3章第1節2を読み、用語の意味を調べる。
3 🖾	月暖悃忸工の冊壁の	復習 : 配付資料や教科書を読み、用語を説明できるようにする。
		接首 . 配的資料や教科書を記み、用品を説明できるようにする。 日本介護福祉士会倫理綱領について学ぶ。
4回	へ	
4 凹	介護福祉士の倫理④	
		復習: 配付資料や教科書を読み、用語を説明できるようにする。
	高齢者のためのフォーマ	介護保険制度におけるサービス体系について学ぶ。
5 回	ルサービス①	予習: 教科書 I 第3章第2節1を読み、用語の意味を調べる。
		復習: 配付資料や教科書を読み、用語を説明できるようにする。
	高齢者のためのフォーマ	介護保険制度における居宅サービスについて学ぶ。
6 回	ルサービス②	予習: 教科書Ⅱ第2章第2節1を読み、用語の意味を調べる。
	,	復習: 配付資料や教科書を読み、用語を説明できるようにする。
	高齢者のためのフォーマ	介護保険制度の施設サービス及び地域密着型サービスについて学ぶ。
7 回	ルサービス③	予習 : 教科書Ⅱ第2章第2節1を読み、用語の意味を調べる。
	,	復習: 配付資料や教科書を読み、用語を説明できるようにする。
	高齢者のためのフォーマ	地域支援事業のサービスについて学ぶ。
8回	ルサービス④	予習 : 教科書Ⅱ第2章第2節1を読み、用語の意味を調べる。
	,, , <u> </u>	復習 : 配付資料や教科書を読み、用語を説明できるようにする。
	障害者のためのフォーマ	障害者総合支援法におけるサービス体系について学ぶ。
9 回	ルサービス①	予習 : 教科書Ⅱ第2章第2節2を読み、用語の意味を調べる。
	/• /	復習 : 配付資料や教科書を読み、用語を説明できるようにする。
	障害者のためのフォーマ	障害者総合支援法における介護給付について学ぶ。
10 回	ルサービス②	予習 : 教科書Ⅱ第2章第2節2を読み、用語の意味を調べる。
	7. 7 27.9	復習 : 配付資料や教科書を読み、用語を説明できるようにする。
	障害者のためのフォーマ	障害者総合支援法における訓練等給付について学ぶ。
11 回	ルサービス③	予習 : 教科書Ⅱ第2章第2節2を読み、用語の意味を調べる。
	70 9 2 2 3	復習 : 配付資料や教科書を読み、用語を説明できるようにする。
	陪宝老のためのフェーマ	障害者総合支援法における地域生活支援事業について学ぶ。
12 回	障害者のためのフォーマ ルサービス④	予習 : 教科書Ⅱ第2章第2節2を読み、用語の意味を調べる。
	7 V 9 L A (4)	復習 : 配付資料や教科書を読み、用語を説明できるようにする。
		インフォーマルサービスの種類及び提供者について学ぶ。
13 回	インフォーマルサービス	予習 : 教科書Ⅱ第2章第3節を読み、用語の意味を調べる。
		復習 : 配付資料や教科書を読み、用語を説明できるようにする。
14 回	地域連携①	地域連携に関わる組織や団体について理解する。
14 빈	<u>→□・以足功し</u>	予習 : 教科書Ⅱ第2章第4節1・2を読み、用語の意味を調べる。

		復習	:	配付資料や教科書を読み、用語を説明できるようにする。
		地域連携	髪に	関わる担い手について理解する。
15 回	地域連携②	予習	:	教科書Ⅱ第2章第4節2・3を読み、用語の意味を調べる。
		復習	:	配付資料や教科書を読み、用語を説明できるようにする。

本科目は、講義科目(1 単位)で、授業時間(30 時間)に加えて、15 時間の授業外学習(予習・復習)が必要となります。

学習内容に記載された予習・復習を実践して内容の理解を深めることが求められています。

成績評価の方法・基準

	評価項目	S	A	В	С	D
2	介護福祉士が持つべき倫理の理解(知識) 介護保険法の理解 (知識)	完全にない しほぼ完全 に到達目標 を達成して	若干不十分 な点は認め られるもの の、到達目標 を達成して	不十分な点 は認められ るものの、到 達目標を達	到達目標の 最低限を達 成している。	到達目標を 達成してい ない。
3	障害者総合支援法の 理解(知識)	いる。	いる。	成している。		
	100 点法	90 点以上	80 点以上	70 点以上	60 点以上	59 点以下

成績は、ワークシート等の授業における提出物30%と定期試験70%で評価する。

教科書

最新・介護福祉士養成講座 『介護の基本 I 』 中央法規 2022 年 2,420 円 最新・介護福祉士養成講座 『介護の基本 II 』 中央法規 2022 年 2,420 円

参考書等

なし。

履修上の注意・学習支援

不明な点はそのままにせずに授業中に適時質問すること。ほぼ毎授業時にレジメを配布するので、紛失のないように管理すること。

オフィスアワー

疑問等があれば、授業前後及びオフィスアワーを活用すること。事前予約の上、日時は決定する。

実務経験のある教員による授業科目

[実務経験の概要]

介護福祉士として、特別養護老人ホームで利用者への介護や生活支援に関する業務に従事してきた。

[実務経験と授業科目との関連性]

介護現場における実践経験は、本科目の授業内容と関連性が非常に高く、実例を踏まえて適宜発信していく 事ができる。

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
21HC1SC19	生活支援技術 I 生活支援の基礎	1年	前期	講・演	1	阿部 正昭

尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を学ぶ。

一人一人の利用者への介護に必要な観察の視点や工夫を学び、介護現場で実践していくことができるための<u>生活支援を理解</u>する。

授業内では、学んだ知識や技術を演習形式で実際に行う。授業内での生活支援技術を実践する中で、自身の知識・技術的課題に気づき、後の実習や介護業務に必要な理論と技術が身につけられる。

到達目標(学習の成果)

- ・生活における尊厳の保持や自立支援の視点がわかる (知識・態度)。
- ・様々な生活の場面に応じた生活支援の基本を理解できている(知識・技術)。

• 様	・様々な生活の場面に応じた生活支援の基本を理解できている(知識・技術)。					
		授業計画				
旦	表 題	学習内容				
		授業計画、授業方法、予習・復習、成績の評価基準・方法等を知る。				
1 🗔	授業の進め方	生活支援とは何か、意義と目的を理解する。				
1回	生活支援の意義と目的	予習 : 生活支援を行う上で、最初に必要なことは何か考えてくる。				
		復習 : 配付資料や教科書を読み、用語を説明できるようにする。				
		生活の豊かさの変化を理解し、生活支援のポイントを学ぶ。				
2 回	生活支援の理解	予習 : 祖父母、または父母から、20歳の頃の思い出話を聞いてくる。				
		復習 : 配付資料や教科書を読み、用語を説明できるようにする。				
		清潔な寝床の整備や快適な休息・睡眠環境の整備の方法を学ぶ。				
3 回	環境整備の意義と目的	予習 : 自宅以外で寝る場合、必要な物や環境について考えてくる。				
		復習 : 配付資料や教科書を読み、用語を説明できるようにする。				
		衣服のもつ役割や種類、衛生管理について学ぶ。				
4 回	更衣の意義と目的	予習 : 衣服の役割について、どんな役割があるか考えてくる。				
		復習: 配付資料や教科書を読み、用語を説明できるようにする。				
		洗顔、整髪、ひげ剃り、爪切り、耳の清潔等の整容について学ぶ。				
5 回	身じたくの意義	予習 : 自身や家族が朝行っている身支度の内容を控えてくる。				
		復習: 配付資料や教科書を読み、用語を説明できるようにする。				
	食事の意義と目的	自立した食事の一連の流れについて学ぶ。				
6 回		予習 : 朝食を食し、食事の意義は何か考えてくる。				
		復習 : 配付資料や教科書を読み、用語を説明できるようにする。				
		口腔ケアの方法・効果・留意点について学ぶ。				
7 回	口腔ケアの意義・目的	予習 : 自信を参考に、口腔ケアの必要な理由を考えてくる。				
		復習: 配付資料や教科書を読み、用語を説明できるようにする。				
		自立した排泄の一連の流れについて学ぶ。				
8回	排泄の意義・目的	予習: 排泄はなぜ必要か考えてくる。				
		復習: 配付資料や教科書を読み、用語を説明できるようにする。				
		自立した移動の一連の流れについて学ぶ。				
9回	移動・移乗の意義と目的	予習: 自立歩行以外の移動種案には何があるか考えてくる。				
		復習: 配付資料や教科書を読み、用語を説明できるようにする。				
	起居動作・体位変換の意	良肢位を理解するとともに円滑な起居動作、体位変換について学ぶ。				
10 回	義と目的	予習: 自身や家族が1日にとる体位(姿勢)を調べてくる。				
	7.C F 117	復習:配付資料や教科書を読み、用語を説明できるようにする。				
		褥瘡の理解・原因・予防の方法について学ぶ。				
11 回	安楽な姿勢・体位の理解	クッションなどの活用し姿勢保持の方法を実践する。				
	女术/4女为 仲世少程併	予習: 寝る(横になる)際に必要な物・環境条件を考えてくる。				
		復習: 配付資料や教科書を読み、用語を説明できるようにする。				
	移動のための道具の理	杖、歩行器・車いすの構造と名称を理解し使用時の注意点を学ぶ。				
12 回	解	予習: 身の回りにある「車椅子向け」の建物や構造を調べてくる。				
		復習:配付資料や教科書を読み、用語を説明できるようにする。				
1.0	1 W	自立した入浴の一連の流れについて学ぶ。				
13 回	入浴、清潔の意義・目的	予習 : 入浴の必要性と、入浴に必要な動作は何か考えてくる。				
		復習 : 配付資料や教科書を読み、用語を説明できるようにする。				

		介護ロボットも含めた福祉用具の種類と適切な使用方法を理解する。
14 回	福祉用具の意義と活用	予習 : 介護ロボットとは何か調べる、または考えてくる。
		復習 : 配付資料や教科書を読み、用語を説明できるようにする。
		ICF の視点を生活支援に活かすことの意義や思考過程について学ぶ。
15 回	生活支援と介護過程	予習 : 教科書「介護の基本 I 」第 4 章「ICF の考え方」を読んでくる。
		復習 : 配付資料や教科書を読み、用語を説明できるようにする。

本科目は、講義・演習科目(1 単位)で、授業時間(30 時間)に加えて、15 時間の授業外学習(予習・復習)が必要となります。

学習内容に記載された予習・復習を実践して内容の理解を深めることが求められています。

成績評価の方法・基準

評価項目	S	A	В	С	D
①生活支援における自立	完全にない	若干不十分	不十分な点	到達目標の	到達目標を
支援の視点を理解して	しほぼ完全	な点は認め	は認められ	最低限を達	達成してい
いる(知識)	に到達目標	られるもの	るものの、到	成している。	ない。
②様々な生活場面に応じ	を達成して	の、到達目標	達目標を達		
た生活支援の基本を理	いる。	を達成して	成している。		
解している (知識)		いる。			
100 点法	90 点以上	80 点以上	70 点以上	60 点以上	59 点以下

成績は、ワークシート等の授業における提出物30%と定期試験70%で評価する。

教科書

最新・介護福祉士養成講座 『生活支援技術 I 』 中央法規 2021 年 2,420 円 最新・介護福祉士養成講座 『生活支援技術 II 』 中央法規 2021 年 2,420 円

参考書等

なし。

履修上の注意・学習支援

不明な点はそのままにせずに授業中に適時質問すること。 ほぼ毎授業時にレジメを配布するので、紛失のないように管理すること。

オフィスアワー

疑問等があれば、授業前後及びオフィスアワーを活用すること。事前予約の上、日時を決定する。

実務経験のある教員による授業科目

[実務経験の概要]

介護福祉士として、特別養護老人ホームで利用者への介護や生活支援に関する業務に従事してきた。

[実務経験と授業科目との関連性]

介護現場における実践経験は、本科目の授業内容と関連性が非常に高く、実例を踏まえて適宜発信していく 事ができる。

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
21HC2SE20	人間関係とコミュニケー ションⅡ	2 年	前期	講義	2	塩澤 達俊

福祉専門職として福祉の基礎とその意義を理解するために、福祉サービスを提供する組織にはどのようなものがあり、それがどのように経営されているのか、また福祉の組織と経営には何が求められるのかを学ぶとともに、より質の高い福祉サービスを提供するための組織と人間のあり方を学ぶ。

授業の進め方は、教科書の単元(章)ごとに進める。また、グループワークなどアクティブ・ラーニングを多用する。

到達目標(学習の成果)

- 1. 社会福祉サービスを提供する組織の種類とその活動内容について説明することができる。(知識)
- 2. 福祉組織の維持・管理法と、より質の高い組織を目指す手法について述べることができる。(知識・方法)
- 3. 組織において質の高い能力を発揮するために必要な専門職のスキルについて述べることができる。 (技術・方法)

旦	表題	学習内容
1 回	授業の進め方 福祉サービスに係る組織や団体 の概要と役割①	授業計画、授業方法、予習・復習・成績評価の方法等を理解する。 福祉サービスの沿革と概況 福祉サービスの歴史 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
2 回	福祉サービスに係る組織や団体の概要と役割②	福祉サービスを提供する組織① 社会福祉施設の現状や推移 各種法人の特性・非営利法人、営利法人 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
3日	福祉サービスに係る組織や団体の概要と役割③	福祉サービスを提供する組織② 特定非営利活動法人の概要、管理運営の基本、活動の現状について学 ぶ。 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
4 回	福祉サービスに係る組織や団体の概要と役割④	福祉サービスを提供する組織③ ・医療法人・公益法人・一般社団法人・株式会社・福祉サービスと連携するその他の法人・法人格を有しない団体(ボランティア団体)等など、福祉関係の組織や団体について学ぶ。 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
5 回	福祉サービスに係る組織や団体の概要と役割⑤	組織間連携と促進 公益的活動の推進・多機関協働・地域連携、地域マネジメント 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
6 回	福祉サービスの組織と運営に係る基礎理論①	組織運営に関する基礎理論 福祉サービスの組織と戦略について学ぶ。 組織運営の基礎・組織における意思決定・問題解決の思考と手順 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。

7回	福祉サービスの組織と運営に係る基礎理論②	集団の力学に関する基礎理論 チームアプローチと集団力学・チームの機能と構成 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
8回	福祉サービスの組織と運営に係る基礎理論③	リーダーシップに関する基礎理論 リーダーシップ、フォロワーシップ・リーダーの機能と役割 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
9回	福祉サービス提供組織の経営と 実際	経営体制・理事会、評議会等の役割 経営戦略、事業計画・マーケティング 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
10回	福祉サービス提供組織の経営と 実際②	福祉サービス提供組織のコンプライアンスとガバナンス 社会的ルールの遵守 ・説明責任の遂行・業務管理体制、内部管理体制の整備・権限委譲と 責任のルール化自己評価や第三者評価の実際について学ぶ。 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
11回	福祉サービス提供組織の経営と 実際③	適切な福祉サービスの管理 品質マネジメントシステム・PDCA と SDCA 管理サイクル・リスクマネジメント体制・権利擁護制度と苦情解決体制・福祉サービスの質と評価 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
12回	福祉サービス提供組織の経営と 実際④	情報管理・個人情報保護法・公益情報保護法・情報公開、パブリックリレーションズ会計管理と財務管理自・主財源、寄付金、各種制度に基づく報酬・資金調達、ファンドレイジング・資金運用、利益管理 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
13回	福祉人材のマネジメント①	福祉人材の育成・OJT、OFF-JT、SDS・職能別研修と階層別研修・スーパービジョン体制・キャリアパス 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
14回	福祉人材のマネジメント②	福祉人材マネジメント・目標管理制度・人事評価システム・報酬システム テム 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
15回	福祉人材のマネジメント③	働きやすい労働環境の整備・労働三法及び労働関係法令・育児休業、 介護休業 等・メンタルヘルス対策・ハラスメント対策 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。

本科目は、講義科目(2単位)ですので、準備学習60時間が必要になります。

授業計画で示された教科書の範囲を読み込むこと。 学習内容に示された「アクティブ・ラーニング」項目について自分なりに考えて講義に臨むこと。 また、配布された補助教材を参照すること。

成績評価の基準・方法

評価項目	S	A	В	С	D
1. 福祉サービス提供組織と他の一般組	完全にない	若干不十分	不十分な点	到達目標の	到達目標を
織との相違について理解できた。	しほぼ完全	な点は認め	は認められ	最低限を達	達成してい
2. 効果的な組織運営についてモチベー	に到達目標	られるもの	るものの、	成してい	ない。
ションの観点から理解ができた。	を達成して	の、到達目	到達目標を	る。	
3. 福祉サービス提供の今日的潮流につ	いる。	標を達成し	達成してい		
いて知見が得られた。		ている。	る。		
100点法	90点以上	80点以上	70点以上	60点以上	59点以下

- ・定期試験 (レポート試験) 55 %
- ・授業内課題 (3回) 45 %

教科書

一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟 編『最新・社会福祉士養成講座』 1 福祉サービスの組織と経営中央央法規出版、2021年、2750円

参考書等

履修上の注意・学習支援

人間はなぜ福祉を行うのか?そのために福祉の組織と経営には何が求められるのか?をテーマとします。

オフィスアワー

質問や疑問などあれば、オフィスアワー(原則, 講義終了後 15 分間程度, 1号館1階「講師教員センター」) にてお受けします。

実務経験の概要

社会福祉法人(とちぎYMCA福祉会)、学校法人(学校法人宇都宮YMCA学園)、公益財団法人(とちぎYMCA)の各法人業務執行責任者(常務理事)として、法人運営、各事業(保育園、認定子ども園、介護保険事業、宇都宮市指定管理者事業など)の経営統括(2015年度より)を行っております。

実務経験と科目との関連性

社会福祉法人と福祉事業の運営管理、経営などの実際、現場の様子など実務経験に基づく教材を提供しております。

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
21HC2SE21	地域福祉と包括的 支援体制 I	2年	前期	講義	2	小野 篤司

地域福祉の基本的な考え方として、地域福祉の概念、理論、歴史、動向や、地域福祉の推進主体と主体形成について基礎的な理解を深める。ケアリングコミュニティの構築に向けてケアワーカーに係わる専門的知識、方法、態度を理解し、他者に共感し、倫理性をもって、地域の課題を解決する知識、方法を学ぶ。

到達目標(学習の成果)

- 1. 地域福祉の基本的考え方を理解し、地域福祉のあり方を説明できる。 (知識)
- 2. 地域福祉の推進主体と主体形成の方法を理解し説明できる。(知識)
- 3. 地域生活課題の変化と現状を踏まえ、誰もが住み慣れた地域で安心して生活できるコミュニティの実現に向けて、ケアワーカーに係わる知識、方法、態度を理解し、自分の意見を言えるようになる。(知識・方法、態度)

旦	表題	学習内容					
1回	授業の進め方 地域福祉の基本的な考え方 (1)	授業計画、授業方法、予習・復習・成績評価の方法等を理解する。 地域福祉の概念、地域福祉の構造と機能を理解する。 【予習】テキストの該当する部分を読んで理解する 【復習】授業で学んだ内容等を理解しまとめる					
2回	地域福祉の基本的な考え方 (2)	地域福祉の理論について、福祉コミュニティ論、在宅福祉サービス 論、ボランティア・市民活動論、共生社会の考え方を理解する。 【予習】テキストの該当する部分を読んで理解する 【復習】授業で学んだ内容等を理解しまとめる					
3回	地域福祉の動向①	地域福祉の動向について、ケアリングコミュニティを理解する。 【予習】テキストの該当する部分を読んで理解する 【復習】授業で学んだ内容等を理解しまとめる					
4回	地域福祉の動向②	地域福祉の動向について、コミュニティソーシャルワークを理解する。 【予習】テキストの該当する部分を読んで理解する 【復習】授業で学んだ内容等を理解しまとめる					
5 回	地域福祉の推進主体①	地域福祉における当事者と当事者団体について理解する。 【予習】テキストの該当する部分を読んで理解する 【復習】授業で学んだ内容等を理解しまとめる					
6 回	地域福祉の推進主体②	町内会・自治会等地縁組織について理解する。 【予習】テキストの該当する部分を読んで理解する 【復習】授業で学んだ内容等を理解しまとめる					
7 回	地域福祉の推進主体③	地域福祉におけるボランティア・市民活動と NPO、市民活動組織、中間支援組織について理解する。 【予習】テキストの該当する部分を読んで理解する 【復習】授業で学んだ内容等を理解しまとめる					
8回	地域福祉の推進主体④	民生委員、児童委員、主任児童委員、保護司について理解する。 【予習】テキストの該当する部分を読んで理解する 【復習】授業で学んだ内容等を理解しまとめる					
9 回	地域福祉の推進主体⑤	社会福祉協議会について理解する。 【予習】テキストの該当する部分を読んで理解する					

		【復習】授業で学んだ内容等を理解しまとめる
10回	地域福祉の推進主体⑥	社会福祉法人、企業、コミュニティサービス、地域再生について理解する。 【予習】テキストの該当する部分を読んで理解する 【復習】授業で学んだ内容等を理解しまとめる
11回	地域福祉の主体と形成①	参加と協働、エンパワメント、アドボカシーについて理解する。 【予習】テキストの該当する部分を読んで理解する 【復習】授業で学んだ内容等を理解しまとめる
12回	地域福祉の主体と形成②	地域福祉の主体形成と福祉教育について理解する。 【予習】テキストの該当する部分を読んで理解する 【復習】授業で学んだ内容等を理解しまとめる
13回	地域福祉の主体と形成③	福祉教育の実践について理解する。 【予習】テキストの該当する部分を読んで理解する 【復習】授業で学んだ内容等を理解しまとめる
14回	地域福祉の展開①	地域福祉の歴史について、欧米における地域福祉の源流を理解する。 【予習】テキストの該当する部分を読んで理解する 【復習】授業で学んだ内容等を理解しまとめる
15回	地域福祉の展開②	地域福祉の歴史について、日本の戦前における地域福祉の源流と戦後の地域福祉の発展を理解する。 【予習】テキストの該当する部分を読んで理解する 【復習】授業で学んだ内容等を理解しまとめる

本科目は、講義科目(2単位)ですので、授業時間90分以外に60時間の授業外学習が必要になります。 学習内容に記載された予習・復習を実践して内容の理解を深めてください。

成績評価の基準・方法

評価項目	S	A	В	С	D
1. 地域福祉の基本的考え方の理解	完全にない	若干不十分	不十分な点	到達目標の	到達目標を
2. 地域福祉の推進主体と主体形成の	しほぼ完全	な点は認め	は認められ	最低限を達	達成してい
方法の理解	に到達目標	られるもの	るものの、	成してい	ない。
3. 地域生活課題の変化と現状を踏ま	を達成して	の、到達目	到達目標を	る。	
え、誰もが住み慣れた地域で安心して	いる。	標を達成し	達成してい		
生活できるコミュニティの実現に向け		ている。	る。		
て、ケアワーカーに係わる知識、方					
法、態度の理解					
100点法	90点以上	80点以上	70点以上	60点以上	59点以下

・定期試験(筆記試験)100%

教科書

・川村匡由編著『入門 地域福祉と包括的支援体制』ミネルヴァ書房,2021 年(3,080円)

参考書等

- ・井村圭壯・相澤譲治編著『地域福祉の原理と方法 第 3 版』学文社, 2019 年 (2420円)
- ・西尾敦史著『横浜発助けあいの心がつむぐまちづくり』ミネルヴァ書房,2017年(1980円)
- ・豊中市社会福祉協議会『セーフティネット コミュニティソーシャルワーカーの現場』筒井書房 (880円)
- ・清成忠男監修『人生 100 年時代の地域ケアシステムー三鷹市の地域ケア実践の検証を通して』ぶんしん出版, 2019 年 (1650円)
- ・川村匡由編著『市町村合併と地域福祉』ミネルヴァ書房、2007 年 (4400円)
- ・コミュニティソーシャルワーク実践研究会「コミュニティソーシャルワークと社会資源開発」全国コミュニティライフサポートセンター、2014 年 (1320円)

- ・上野谷加代子・原田正樹監修『新・福祉教育実践ハンドブック』全国社会福祉協議会、2014年(1980円)
- ・川村匡由編著『福祉ライブラリ 相談援助』建帛社,2018 年 (2970円)

履修上の注意・学習支援

- ・授業に必要のない私語は慎むこと。
- ・質問等があれば、オフィスアワーなどを利用すること。

オフィスアワー

疑問があれば、オフィスアワーを利用すること(事前予約 ono@ujc.ac.jp のうえ、時間を設定する)。具体的な時間帯は追って指示する。

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
21HC2SE22	地域福祉と包括的 支援体制Ⅱ	2年	後期	講義	2	小野 篤司

福祉行財政の実施体制や福祉計画の意義や策定と運用、包括的支援体制の整備および多機関協働など具体的なしくみや方法について理解を深めるとともに、地域社会の変化と多様で複雑な地域生活課題の現状やニーズ、災害等の非常時、緊急時における包括的な支援の課題等を理解し、地域の中の様々な文化や価値観を背景とする人々と相互に尊重し合いながら共生する社会の実現に向けて、ケアワーカーに係わる専門的知識、方法、態度を理解し、他者に共感し、倫理性をもって、地域の課題を解決する知識、方法を学ぶ。

到達目標(学習の成果)

- 1. 地域福祉を推進するための 福祉行財政システムや地域福祉計画をはじめとした福祉計画の意義・目的及び展開方法を理解し説明できる。(知識)
- 2. 包括的支援体制の考え方と、多職種および 多機関協働の意義と実際を理解し説明できる。(知識)
- 3. 地域生活課題の変化と現状および、ケアワーカーに係わる方法、態度を理解し、誰もが住み慣れた地域で安心して生活できるコミュニティの実現、課題解決について、自分の意見を言えるようになる。 (方法・態度)

回	表題	学習内容
1回	授業の進め方 福祉行財政システム	授業計画、授業方法、予習・復習・成績評価の方法等を理解する。 国、都道府県、市町村の役割、国と地方の関係、福祉行政の組織および専門職の役割について理解する。 【予習】テキストの該当する部分を読んで理解する 【復習】授業で学んだ内容等を理解しまとめる
2回	福祉計画の意義と種類①	福祉計画の意義・目的と展開、福祉における財源について理解する。 【予習】テキストの該当する部分を読んで理解する 【復習】授業で学んだ内容等を理解しまとめる
3 回	福祉計画の意義と種類②	市町村地域福祉計画・都道府県地域福祉支援計画の内容、地域福祉活動計画との関係について理解する。 【予習】テキストの該当する部分を読んで理解する 【復習】授業で学んだ内容等を理解しまとめる
4回	福祉計画の策定と運用	地域福祉計画の策定過程と方法、福祉計画の実施と評価について理解する。 【予習】テキストの該当する部分を読んで理解する 【復習】授業で学んだ内容等を理解しまとめる
5 回	地域社会の変化と多様化複雑 化した地域生活課題①	地域社会の概念と理論、地域社会の変化について理解する。 【予習】テキストの該当する部分を読んで理解する 【復習】授業で学んだ内容等を理解しまとめる
6 回	地域社会の変化と多様化複雑 化した地域生活課題②	多様化・複雑化した地域生活課題の現状とニーズについて理解する。 【予習】テキストの該当する部分を読んで理解する 【復習】授業で学んだ内容等を理解しまとめる
7 回	地域社会の変化と多様化複雑 化した地域生活課題③	地域福祉と社会的孤立、社会的排除について理解する。 【予習】テキストの該当する部分を読んで理解する 【復習】授業で学んだ内容等を理解しまとめる
8回	地域共生社会の実現に向けた 包括的支援体制①	包括的支援体制の考え方、地域包括ケアシステムについて理解する。 【予習】テキストの該当する部分を読んで理解する 【復習】授業で学んだ内容等を理解しまとめる

9回	地域共生社会の実現に向けた 包括的支援体制②	生活困窮者自立支援法の考え方、地域共生社会の実現に向けた各種施策について理解する。 【予習】テキストの該当する部分を読んで理解する 【復習】授業で学んだ内容等を理解しまとめる
10回	地域共生社会の実現に向けた 包括的支援体制③	包括的支援体制の整備、重層的支援体制整備事業について理解する。 【予習】テキストの該当する部分を読んで理解する 【復習】授業で学んだ内容等を理解しまとめる
11回	地域共生社会の実現に向けた多機関協働①	多機関協働を促進する仕組み、他職種連携について理解する。 【予習】テキストの該当する部分を読んで理解する 【復習】授業で学んだ内容等を理解しまとめる
12回	地域共生社会の実現に向けた 多機関協働②	福祉以外の分野との機関協働の実際について理解する。 【予習】テキストの該当する部分を読んで理解する 【復習】授業で学んだ内容等を理解しまとめる
13回	災害時における総合的かつ包 括的な支援①	非常時や災害時における法制度について理解する。 【予習】テキストの該当する部分を読んで理解する 【復習】授業で学んだ内容等を理解しまとめる
14回	災害時における総合的かつ包 括的な支援②	非常時や災害時における総合的かつ包括的な支援について理解する。 【予習】テキストの該当する部分を読んで理解する 【復習】授業で学んだ内容等を理解しまとめる
15回	地域福祉と包括的支援体制の 課題と展開	地域福祉ガバナンス、地域共生社会の構築と課題について理解する。 【予習】テキストの該当する部分を読んで理解する 【復習】授業で学んだ内容等を理解しまとめる

本科目は、講義科目(2単位)ですので、授業時間90分以外に60時間の授業外学習が必要になります。 学習内容に記載された予習・復習を実践して内容の理解を深めてください。

成績評価の基準・方法

評価項目	S	A	В	С	D
1. 地域福祉を推進するための福祉行	完全にない	若干不十分	不十分な点	到達目標の	到達目標を
財政システム や地域福祉計画をはじ	しほぼ完全	な点は認め	は認められ	最低限を達	達成してい
めとした福祉計画の意義・目的及び展	に到達目標	られるもの	るものの、	成してい	ない。
開方法の理解	を達成して	の、到達目	到達目標を	る。	
2. 包括的支援体制の考え方と、多職	いる。	標を達成し	達成してい		
種および多機関協働の意義と実際の理		ている。	る。		
解					
3. 地域生活課題 の変化と現状を踏ま					
え、誰もが住み慣れた地域で安心して					
生活できるコミュニティの実現に向け					
て、ケアワーカーに係わる方法、態					
度、態度の理解					
100点法	90点以上	80点以上	70点以上	60点以上	59点以下

- · 定期試験 (筆記試験) 80%
- ・授業内課題(レポート課題)20%

教科書

・川村匡由編著『入門 地域福祉と包括的支援体制』ミネルヴァ書房,2021 年(3,080円)

・井村圭壯・相澤譲治編著『地域福祉の原理と方法 第 3 版』学文社,2019 年(2420円)

- ・西尾敦史著『横浜発助けあいの心がつむぐまちづくり』ミネルヴァ書房,2017年(1980円)
- ・豊中市社会福祉協議会『セーフティネット コミュニティソーシャルワーカーの現場』筒井書房(880円)
- ・清成忠男監修『人生 100 年時代の地域ケアシステムー三鷹市の地域ケア実践の検証を通して』ぶんしん出版,2019 年 (1650円)
- ・川村匡由編著『市町村合併と地域福祉』ミネルヴァ書房、2007 年(4400円)
- ・コミュニティソーシャルワーク実践研究会「コミュニティソーシャルワークと社会資源開発」全国コミュニティライフサポートセンター、2014 年 (1320円)
- ・上野谷加代子・原田正樹監修『新・福祉教育実践ハンドブック』全国社会福祉協議会、2014年(1980円)
- ・川村匡由編著『福祉ライブラリ 相談援助』建帛社,2018 年(2970円)

履修上の注意・学習支援

- ・授業に必要のない私語は慎むこと。
- ・質問等があれば、オフィスアワーなどを利用すること。

オフィスアワー

疑問があれば、オフィスアワーを利用すること(事前予約 ono@ujc.ac.jp のうえ、時間を設定する)。具体的な時間帯は迫って指示する。

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
21HC2SE23	介護の基本Ⅲ	2年	前期	講・演	1	境 敏一

利用者一人ひとりの生活の個別性に対応するために、生活の多様性や社会との関わりについて学び、介護を必要とする人の理解を深める。

個々の特性を伸長するために、「生活を支える介護」「尊厳を支える介護」について学ぶ。具体的には、生活とは何かを確認し、高齢者や障がいのある方の生活の現状を把握し、介護福祉士の生活支援の理念・原則・支援方法を理解する。尊厳を支える介護として、自立や尊厳を支える介護とは何かを学んでいく。

到達目標(学習の成果)

- 1. 人間の生活を理解し、高齢者や障害をもつ方が自立した生活をすることの大切さを説明できる(知識)。
- 2. 介護福祉士が実践する生活支援の理念・原則・支援方法、尊厳を支える介護の考え方、住環境整備のあり方を理解し、実践できるようになる(知識・方法・態度)。

回	表題	学習内容
1回	授業の進め方 生活とは何か	授業計画、授業方法、予習・復習、成績の評価基準・方法等を知る。 生活とは何か、その視点を理解する。 (予習)本科目のシラバスを読んでおく。生活の定義を調べる。 (復習)自身の生活について課題をまとめる。
2 回	生活の要素	生活とその基本的要素を理解する。 (予習)教科書の第1章第1節を読んでまとめておく。 (復習)自身の生活について要素に分けて考える。
3回	生活とかかわり	生活において様々な場との関わりの重要性について学ぶ。 (予習)通過儀礼と家族・親族との関係を調べる。 (復習)人間にとり、家庭・地域・社会との関わりの大切さをまとめる。
4回	生活の理解	生活の個別生や多様性を理解し、生活の特性について学ぶ。 (予習)年中行事と食べ物との関係を調べる。 (復習)ディスカッションからの学びをレポートする。
5 回	介護福祉を必要とする 人たちの暮らし	生活の個別生と多様性を理解する。 (予習) 自身が施設に入所した場合の生活のしづらさを考える。 (復習) その人らしさを支援する介護のあり方を考える。
6 回	「その人らしさ」と 「生活ニーズ」の理解	「その人らしさ」や「生活ニーズ」とその多様性について理解する。 (予習)教科書大1章第3節をよく読んでおく。 (復習)価値観の違いについて考える。
7回	介護福祉を必要とする 高齢者の暮らし	介護を必要とする高齢者の生活の個別生と多様性を理解する。 (予習)教科書第1章第2節の事例Aさんについて読んでまとめる。 (復習)介護を必要とする高齢者に適切な支援をするために生活歴を含め たアセスメントの大切さをまとめる。
8回	介護福祉を必要とする 障害者の暮らし	介護を必要とする障害者の多様性を理解する。 (予習)教科書第1章第2節の事例Bさんについて読んでまとめる。 (復習)介護を必要とする障害をもつ方に適切な支援をするために、生活 歴を含めたアセスメントの大切さをまとめる。
9回	生活のしづらさの理解 とその支援①	私たち自身と介護を必要とする人の生活のしづらさ、その具体的な支援について理解する。 (予習)教科書第1章第4節をよく読んでおく。

		(復習)生活のしづらさに対する支援のあり方をまとめる。
10回	生活のしづらさの理解 とその支援②	家族介護者を理解し、具体的な支援の方法について学ぶ。 (予習) ヤングケアラーについて調べる。 (復習) 家族介護者に対する具体的な支援についてまとめる。
11回	高齢者の生活を支える サービス	高齢者の生活を支えるフォーマルサービスについて理解する。 (予習)教科書第2章第1節、2節をよく読んでおく。 (復習)授業で学んだサービスをまとめる。
12回	障害者の生活を支える サービス	障害者の生活を支えるフォーマルサービスについて理解する。 (予習)教科書第2章、2節をよく読んでおく。 (復習)授業で学んだサービスをまとめる。
13回	生活を支えるインフォーマルサービス	フォーマルサービスとインフォーマルサービスの関係について理解する。 (予習)教科書第2章、第3節をよく読んでおく。 (復習)教科書p.70 演習2-2を調べる。
14回	地域連携に関わる職種と役割	地域連携の意義と目的、地域福祉に関わる組織・団体について学ぶ。 (予習)教科書第2章、第4節をよく読んでおく。 (復習)授業で学んだ組織・団体についてまとめる。
15回	地域連携の実際	利用者を取り巻く地域連携の実際を学ぶ。 (予習)教科書第2章第4節のAさんの事例を読んでおく。 (復習)介護福祉士としての地域連携のあり方を考える。

本科目は、講義・演習科目(1単位)ですので授業時間90分以外に15時間の授業外学習が必要になります。授業外学習方法に記載された予習・復習課題を実践して内容に理解を深めてください。

成績評価の基準・方法

評価項目	S	A	В	С	D
1. 人間の生活と要介護者の自	完全にない	若干不十分	不十分な点	到達目標の	到達目標を
立した生活の大切さの理解	しほぼ完全	な点は認め	は認められ	最低限を達	達成してい
(知識)	に到達目標	られるもの	るものの、	成してい	ない。
2. 介護福祉士が実践する生活	を達成して	の、到達目	到達目標を	る。	
支援の基本理念と尊厳ある	いる。	標を達成し	達成してい		
支援への理解(知識・技術・		ている。	る。		
態度)					
100点法	90点以上	80点以上	70点以上	60点以上	59点以下

- · 定期試験 (筆記試験) 50%
- ・授業内・外課題(小テスト・ワークシート)50%

教科書

介護福祉士養成講座編集委員会編 最新・介護福祉士養成講座 4 『介護の基本 II 』第 2 版、中央法規、2022 年、2,420円

参考書等

参考資料は随時配付する。

履修上の注意・学習支援

学びのポイントを常に意識しながら学習すること。

オフィスアワー

疑問等のある場合は、 $\underline{t-sakai@houtoku.~ac.~jp}$ までメールでお問い合わせください。

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
21HC2SE24	介護の基本IV	2年	前期	講・演	1	境一敏一

介護における安全の確保とリスクマネジメントの必要性を理解するとともに、安全の確保のための基礎的な 知識や事故への対応方法を理解する。

多職種連携・協働に求められる基本的な能力を理解し、保健医療職と連携できる方法を学ぶ。

到達目標(学習の成果)

- 1. 要介護者への安全な生活支援をするためのリスクマネジメントに関する知識や対応方法を身につける(知識、方法)。
- 2. 多職種連携・協働に求められる基本的な能力が理解できる(知識、方法)。

	(又未可固					
旦	表題	学習内容				
1 回	授業の進め方 介護における安全の確 保	授業計画、授業方法、予習・復習、成績の評価基準・方法等を知る。 セーフティマネジメントの考え方について理解する。 (予習)教科書第3章第1節を読んでまとめる。 (復習)安全を確保するためのポイントを確認する。				
2回	リスクマネジメントと は何か	過誤・事故・苦情とは何か、またその実情について学ぶ。 (予習)教科書第3章第2節を読んでまとめる。 (復習)ヒヤリハット事例集を再度確認する。				
3回	福祉サービスに求めら れる安全・安心	事故を防ぐための利用者の健康状態観察及び環境の整備について考える。 (予習)教科書第3章第2節の福祉サービスに求められる安全・安心部分を 読んでまとめる。 (復習)事故を防ぐための、利用者の健康状態の観察及び環境の整備につ いてまとめる。				
4回	事故防止のための対策	事故発生後の対応及び対策について学ぶ。 (予習)教科書第3章第2節事故防止・予防のための対策部分を読んでまと める。 (復習)医療行為でないものと条件付きで医療行為ではないと認めている 行為をまとめる。				
5回	介護福祉職に必要な感 染に関する知識	感染にまつわる基本的な知識を習得するとともに、恒常性維持機能の視点について学ぶ。 (予習)教科書第3章第3節を読んでまとめる。 (復習)配付した資料に再度目を通しておく。				
6 回	スタンダードプリコー ションの考え方	標準予防策と施設内の整理整頓および清潔保持の大切さについて学ぶ。 (予習)教科書第3章第3節の該当部分を読んでまとめる。 (復習)スタンダードプリコーションの手順、根拠をまとめる。				
7 回	スタンダードプリコー ションの実際	手洗い、手袋、マスク、ガウンの着脱の実際を体験する。<演習> (予習)スタンダードプリコーションの手順、根拠を見直しておく (復習)体験の実施を振り返る。				
8回	感染症対策	利用者の健康状態の把握の大切さと感染症の早期発見・早期対応・拡大防止の方法について学ぶ。 (予習)施設実習での感染症対策をまとめる。 (復習)感染症発生時の対応フローを再確認する。				

9日	安全な薬物療法を支える	個別の感染症対策と安全な薬物療法を支える視点とその連携を学ぶ。 (予習)教科書第3章第3節の薬物療法部分を読んでまとめる。 (復習)服薬管理と支援方法をまとめる。
10回	多職種連携・協働とは	多職種連携・協働の必要性、その目的と効果について学ぶ。 (予習)教科書第4章第1節を読んでまとめる。 (復習)現代の保健医療福祉がおかれている背景をまとめる。
11回	多職種連携・協働に求 められる基本的能力	多職種との関わりに必要な考え方と方法について学ぶ。 (予習)教科書第4章第2節を読んでまとめる。 (復習)
12回	保健・医療・福祉職の 役割と機能	多職種協働が機能するために専門職を理解する。 (予習)教科書第4章第3節を読んでまとめる。 (復習)専門職の業務目的と職務内容を見直す。
13回	多職種連携・協働の実 際	専門職連携実践 (IPW) のタイプと実際を学ぶ。 (予習) 教科書第4章第4節事例A、Bを読んでまとめる。 (復習) 授業内容を振り返り、介護福祉士の業務を明確にする。
14回	介護従事者の健康問題 と健康管理①	介護に従事することで生じやすい健康問題とこころの健康管理について学 ぶ。 (予習)教科書第5章第1節、第2節を読んでまとめる。 (復習)こころの健康についてできることを考える。
15回	介護従事者の健康問題 と健康管理②	介護に従事することで生じやすい健康問題と身体の健康管理、労働環境の 整備について学ぶ。 (予習)教科書第5章第3節、第4節を読んでまとめる。 (復習)身体の健康維持のために注意することを考える。

本科目は、講義・演習科目(1単位)ですので授業時間90分以外に15時間の授業外学習が必要になります。 授業外学習方法に記載された予習・復習課題を実践して内容の理解を深めてください。

成績評価の基準・方法

評価項目	S	A	В	C	D
1. 介護のリスクマネジメント	完全にない	若干不十分	不十分な点	到達目標の	到達目標を
に関する知識と対応方法の	しほぼ完全	な点は認め	は認められ	最低限を達	達成してい
理解(知識、方法)	に到達目標	られるもの	るものの、	成してい	ない。
2. 多職種連携・協働に必要な	を達成して	の、到達目	到達目標を	る。	
基本的能力を理解する。(知	いる。	標を達成し	達成してい		
識)		ている。	る。		
100点法	90点以上	80点以上	70点以上	60点以上	59点以下

- · 定期試験 (筆記試験) 50%
- ・授業内・外課題(小テスト・ワークシート)50%

教科書

介護福祉士養成講座編集委員会編 最新・介護福祉士養成講座 4 『介護の基本 II 』,中央法規,2022年,2,420円

参考書等

必要資料はその都度配布する。

履修上の注意・学習支援

学びのポイントを常に意識しながら、学習すること。

オフィスアワー

疑問等があれば、t-sakai@houtoku.ac.jpへメールでお問い合わせください。

科目	1番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
21H0	C2SE25	介護の基本V	2 年	前期	講・演	1	高橋 一将

ICF の視点に基づくアセスメントを理解し、エンパワメントの観点から、個々の状態に応じ環境整備や介護予防、リハビリテーション等の意義や方法を学び、自立に向けた介護の考え方について理解する。介護の対象となる高齢者や障害者の特徴を理解し、一人一人の状態及び場面に応じた支援の方法を学ぶ。「自立」や「ノーマライゼーション」の概念を深く考えることで、利用者の個別性に合わせた実践を行うことができる能力を養う。アクティブラーニングとして、ディスカッションを行う。

到達目標(学習の成果)

- ・リハビリテーション、介護予防の意義や目的について適切に理解できている。(知識)
- ・福祉専門職として利用者の状態に応じた支援の重要性を理解し、実践する能力を身につけている。 (態度・技術)

	[文 元] 四					
回	表題	学習内容				
1 回	授業の進め方 イントロダクション1	授業計画、授業方法、予習・復習、成績の評価基準・方法等を知る。 「自立」という言葉について考える。 予習:自身の考える「自立とは」を考えておくこと 復習:授業で学んだ内容をまとめること				
2回	イントロダクション2	「自立」という言葉について考える2 予習・復習:共に同上				
3回	自立支援の考え方1	利用者の意思決定・自己決定の支援の方法について学ぶ。 予習:該当する章について教科書を良く読んでおくこと 復習:授業で学んだ内容をまとめること				
4 回	自立支援の考え方2	利用者のストレングスに焦点をおいたエンパワメントの実践について 学ぶ (小テスト1)。 予習:該当する章について教科書を良く読んでおくこと 復習:小テストの不正解分に関して理解を深めること				
5 回	映画に観るリハビリテーション (1)	アクティブラーニング:若年性認知症の主人公を題材とした映画を視聴し、中途障害者の心身の経過を学ぶ。 予習:認知症の症状について理解しておくこと 復習:グループワークの内容を再確認すること				
6 回	映画に観るリハビリテーション (2)	アクティブラーニング:前回視聴した映画をもとに、主人公の心身の変化や自身の専門領域への活用をディスカッションする。 予習・復習:共に同上				
7回	国際生活機能分類(ICF)の考え 方	国際生活機能分類(ICF)の考え方を実例を挙げて理解する(小テスト2)。 予習:該当する章について教科書を良く読んでおくこと 復習:小テストの不正解分に関して理解を深めること				
8回	自立支援とリハビリテーション 1	リハビリテーションの目的や役割、体系、領域について学ぶ。 予習:該当する章について教科書を良く読んでおくこと 復習:授業で学んだ内容をまとめること				
9回	自立支援とリハビリテーション	リハビリテーションに従事する専門職について学ぶ(小テスト3)。				

	2	予習:該当する章について教科書を良く読んでおくこと 復習:小テストの不正解分に関して理解を深めること
10回	映画に観るリハビリテーション (3)	アクティブラーニング:障害を持った主人公を題材とした映画を視聴し、障害者の心身の経過を学ぶ。 予習:障害受容について理解を深めること 復習:グループワークの内容を再確認すること
11回	映画に観るリハビリテーション (4)	アクティブラーニング:前回視聴した映画をもとに、主人公の心身の変化や自身の専門領域への活用をディスカッションする。 予習・復習:共に同上
12回	介護予防とリハビリテーション 1	介護予防の目的と考え方について学ぶ。介護予防事業及び地域包括ケアシステムの考え方について学ぶ。 予習:該当する章について教科書を良く読んでおくこと 復習:授業で学んだ内容をまとめること
13回	介護予防とリハビリテーション 2	介護予防の種類と特徴について学ぶ。高齢者の身体特性について学ぶ。(フレイル・サルコペニア等) (小テスト4) 予習:該当する章について教科書を良く読んでおくこと 復習:授業で学んだ内容をまとめること
14回	介護従事者と労働	自身を守る方法として、医療安全や労働安全について学ぶ。 予習:該当する章について教科書を良く読んでおくこと 復習:小テストの不正解分に関して理解を深めること
15回	まとめ	1~14回の講義内容のまとめと復習。定期試験・国家試験でも求められる総合的な知識の整理を行い、理解を深める。 予習:これまでの講義内容を整理すること 復習:定期テストや国家試験対策を含め総合的に整理すること

本科目は、演習科目(1単位)ですので、準備学習15時間が必要になります。

- 1. 事前学習:授業計画で示された教科書の範囲を読み込むこと。
- 2. 事後学習:次の授業までに、前回の学修内容を復習しておくこと。

成績評価の基準・方法

評価項目	S	A	В	C	D
1. 自立支援を理解し、自身の専門領域	完全にない	若干不十分	不十分な点	到達目標の	到達目標を
と関連して説明できる。	しほぼ完全	な点は認め	は認められ	最低限を達	達成してい
2. ICFにおける生活の理解とリハビリ	に到達目標	られるもの	るものの、	成してい	ない。
テーションを理解できる。	を達成して	の、到達目	到達目標を	る。	
3. 障害予防・介護予防に視点をおいた	いる。	標を達成し	達成してい		
リハビリテーションの考え方を理解で		ている。	る。		
きる。					
100点法	90点以上	80点以上	70点以上	60点以上	59点以下

・定期試験(筆記試験):100%(60 点以上取ることを基準とする)

教科書

最新・介護福祉士養成講座 『介護の基本 I 』 中央法規 2019 年 2420円

参考書等

参考資料は随時配付する。

履修上の注意・学習支援

授業中の録音・撮影・携帯端末の使用は原則認めない。私語や居眠りを慎み、マナーを守ること。

オフィスアワー

疑問があれば、オフィスアワー(原則、講義終了後 15 分間程度、1 号館 1 階「講師教員センター」)を利用すること。(事前予約(ktakahashi.pt@ujc.ac.jp)が望ましい)。

実務経験の概要

理学療法士の資格取得後、大学院での研究活動、病院・老健・特養でのリハビリテーション業務に従事。病院においては、脳血管障害、運動器疾患、呼吸器疾患のリハビリテーションを担当。高齢者施設では介護保険下での高齢者のリハビリテーション業務に従事。

実務経験と科目との関連性

研究領域のみでなく、臨床(現場)レベルでの実務も行っており、特に高齢者の生活期リハビリテーションにおいては、介護・福祉領域と密接な関連性があるため、実際の症例の情報(経過や特徴的な症状の動画など)を具体的に示すことで、より実際に近い対象者像やニーズの理解を促す。

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
21HC2SE26	介護の基本VI	2年	後期	講・演	1	阿部 正昭

<u>協働する多職種の役割と機能</u>を理解するために、保健・医療・福祉に関する他の職種の専門性を学ぶ。 介護が必要な方の生活場面に応じた適切な支援を行うことができるように多職種連携・協働の重要性を理解 する。

<u>介護従事者の安全</u>を確保するために、自身の心身の健康管理と労働環境について学ぶ。

授業内では、視聴覚教材(動画)やワークシートを使用し、個人ワーク・グループワークを行い、そこで自分の考えを整理して発信し、他者の意見を聴くことで参考とすることができる。

到達目標(学習の成果)

- ・多職種協働における介護福祉士の役割を理解している (知識・方法)。
- ・介護従事者として注意するべき健康管理や労働環境の管理について把握できている (知識)。

旦	表題	学習内容						
1回	授業の進め方 多職種連携・協働の必要 性①	授業計画、授業方法、予習・復習、成績の評価基準・方法等を知る。 連携・協働することの意義を理解し、社会の変化について学ぶ。 予習 : 教科書II第4章第1節1・2を読み、用語の意味を調べる。 復習 : 配付資料や教科書を読み、用語を説明できるようにする。						
2回	多職種連携・協働の必要 性②	多職種連携・協働の必要性と効果、チームについて学ぶ。 予習 : 教科書Ⅱ第4章第1節3~5を読み、用語の意味を調べる。 復習 : 配付資料や教科書を読み、用語を説明できるようにする。						
3回	専門職の役割と機能	介護福祉職と協働するさまざまな専門職について学ぶ。 予習 : 教科書Ⅱ第4章第2節を読み、用語の意味を調べる。 復習 : 配付資料や教科書を読み、用語を説明できるようにする。						
4回	多職種連携・協働の実際①	利用者の各生活場面における多職種連携・協働について考える。 予習 : 教科書II第4章第3節を読み、用語の意味を調べる。 復習 : 配付資料や教科書を読み、用語を説明できるようにする。						
5 回	多職種連携・協働の実際 ②	介護における多職種連携・協働の実際について事例から考える。 予習 : 教科書Ⅱ第4章第4節1~3を読み、用語の意味を調べる。 復習 : 配付資料や教科書を読み、用語を説明できるようにする。						
6 回	健康管理の意義と目的	健康や生活を守る法制度について学ぶ。 予習 : 教科書Ⅱ第4章第4節4を読み、用語の意味を調べる。 復習 : 配付資料や教科書を読み、用語を説明できるようにする。						
7回	介護従事者の健康問題①	↑護従事者特有の健康問題とその管理の方法について学ぶ。 予習 : 教科書Ⅱ第5章第1節1~3を読み、用語の意味を調べる。 復習 : 配付資料や教科書を読み、用語を説明できるようにする。						
8回	介護従事者の健康問題②	ストレスの原因について理解し、その対処方法について学ぶ。 予習 : 教科書Ⅱ第5章第1節3~5を読み、用語の意味を調べる。 復習 : 配付資料や教科書を読み、用語を説明できるようにする。						
9 回	介護従事者の健康問題③	こころの病気について理解するとともに、健康管理の方法について学ぶ。 予習 : 教科書Ⅱ第5章第2節1・2を読み、用語の意味を調べる。 復習 : 配付資料や教科書を読み、用語を説明できるようにする。						
10 回	介護従事者の健康問題④	身体の健康障害の現状について理解し、その予防と対策について学ぶ。 予習 : 教科書Ⅱ第5章第2節3・4を読み、用語の意味を調べる。 復習 : 配付資料や教科書を読み、用語を説明できるようにする。						
11 回	介護従事者の健康問題⑤	VDT 作業による健康障害について理解し、その予防と対策について学ぶ。 予習 : 教科書Ⅱ第5章第3節を読み、用語の意味を調べる。 復習 : 配付資料や教科書を読み、用語を説明できるようにする。						
12 回	労働環境の整備①	労働組合の機能について学び、労働災害の実情について理解する。 予習 : 教科書Ⅱ第5章第4節1~3を読み、用語の意味を調べる。 復習 : 配付資料や教科書を読み、用語を説明できるようにする。						
13 回	労働環境の整備②	熱中症や転倒・転落など事故のリスクを回避する方法について学ぶ。 予習 : 教科書Ⅱ第5章第4節4を読み、用語の意味を調べる。 復習 : 配付資料や教科書を読み、用語を説明できるようにする。						

	介護現場におけるリスク	事故の発生と「ヒヤリハット」を報告する意義について学ぶ。
14 回	71 124 2 - 24 1 1 7 - 4 1	予習 : 教科書Ⅱ第5章第4節5を読み、用語の意味を調べる。
	マネジメント①	復習 : 配付資料や教科書を読み、用語を説明できるようにする。
	介護現場におけるリスク	事故を未然に防ぐための危険予知訓練を実践し、気づきの能力を高める。
15 回	7	予習 : 教科書Ⅱ第5章第4節6を読み、用語の意味を調べる。
		復習 : 配付資料や教科書を読み、用語を説明できるようにする。

本科目は、講義・演習科目(1 単位)で、授業時間(30 時間)に加えて、15 時間の授業外学習(予習・復習)が必要となります。

学習内容に記載された予習・復習を実践して内容の理解を深めることが求められています。

成績評価の方法・基準 (%表記)

評価項目	S	A	В	С	D
①多職種協働の重要性に	完全にない	若干不十分	不十分な点	到達目標の	到達目標を
関する理解(知識)	しほぼ完全	な点は認め	は認められ	最低限を達	達成してい
	に到達目標	られるもの	るものの、到	成している。	ない。
②介護従事者の健康管理	を達成して	の、到達目標	達目標を達		
や労働環境の管理に関	いる。	を達成して	成している。		
する理解 (知識)		いる。			
100 点法	90 点以上	80 点以上	70 点以上	60 点以上	59 点以下

成績は、ワークシート等の授業における提出物30%と定期試験70%で評価する。

教科書

最新・介護福祉士養成講座 『介護の基本 I』 中央法規 2022 年 2,420 円 最新・介護福祉士養成講座 『介護の基本 II』 中央法規 2022 年 2,420 円

参考書等

なし。

履修上の注意・学習支援

不明な点はそのままにせずに授業中に適時質問すること。 ほぼ毎授業時にレジメを配布するので、紛失のないように管理すること。

オフィスアワー

疑問等があれば、授業前後及びオフィスアワーを活用すること。事前予約の上、日時は決定する。

実務経験のある教員による授業科目

[実務経験の概要]

介護福祉士として、特別養護老人ホームで利用者への介護や生活支援に関する業務に従事してきた。

[実務経験と授業科目との関連性]

介護現場における実践経験は、本科目の授業内容と関連性が非常に高く、実例を踏まえて適宜発信していく 事ができる。

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
21HC1SE27	コミュニケーション技術 I	1年	前期	演習	1	小野 篤司

対象者との支援関係の構築やチームケアを実践するためのコミュニケーションの意義や技法、介護を必要とする利用者の理解や支援関係の構築や意思決定を支援するためのコミュニケーションの基本的な技術について理解を深め、人間尊重の精神と倫理性をもち、その人らしい生活の支援の実践に必要なコミュニケーションの知識、技術・方法を学ぶ。

援助場面を想定したロールプレイングや事例を通して、援助関係を構築するための基本的なコミュニケーションの知識、技術・方法の理解を深める。

到達目標(学習の成果)

- 1. 利用者や家族を支援するために、ケアワーカーに係わるコミュニケーションの基本的な知識、技術・方法など、演習を通じて理解し、説明できる。(知識・方法)
- 2. 他者に共感し倫理性をもって、介護を必要とする人に対する基本的なコミュニケーション技術を用いることができるようになる。 (方法・技術)

□	表題	学習内容
1 回	授業の進め方 介護を必要とする人とのコミュ ニケーション(1)	授業計画、授業方法、予習・復習・成績評価の方法等を理解する。 介護におけるコミュニケーションの意義・目的を理解する 【予習】テキストの該当する部分を読んで理解する 【復習】授業で学んだ方法等を理解しまとめる
2回	介護を必要とする人とのコミュ ニケーション(2)	介護におけるコミュニケーションの役割、対象を理解する 【予習】テキストの該当する部分を読んで理解する 【復習】授業で学んだ方法等を理解しまとめる
3回	介護を必要とする人とのコミュ ニケーション(3)	援助関係とコミュニケーションを理解する 【予習】テキストの該当する部分を読んで理解する 【復習】授業で学んだ方法等を理解し実践する
4回	介護を必要とする人とのコミュ ニケーション(4)	非言語コミュニケーションを理解する 【予習】テキストの該当する部分を読んで理解する 【復習】授業で学んだ方法等を理解し実践する
5 回	介護を必要とする人とのコミュ ニケーション(5)	傾聴のための技法を理解する(うなずき、相づち) 【予習】テキストの該当する部分を読んで理解する 【復習】授業で学んだ方法等を理解し実践する
6 回	介護を必要とする人とのコミュ ニケーション(6)	準言語コミュニケーションを理解する(声の大きさ・語調) 【予習】テキストの該当する部分を読んで理解する 【復習】授業で学んだ方法等を理解し実践する
7回	介護を必要とする人とのコミュ ニケーション (7)	言語的コミュニケーションを理解する 【予習】テキストの該当する部分を読んで理解する 【復習】授業で学んだ方法等を理解し実践する
8回	介護を必要とする人とのコミュ ニケーション(8)	話をする基礎的技法(適切な言語表現) 【予習】テキストの該当する部分を読んで理解する 【復習】授業で学んだ方法等を理解し実践する
9 回	介護を必要とする人とのコミュ ニケーション(9)	受容と共感の大切さを理解する 【予習】テキストの該当する部分を読んで理解する 【復習】授業で学んだ方法等を理解し実践する

10回	介護を必要とする人とのコミュ ニケーション (10)	感情を察する基礎的技法を理解する(くり返し) 【予習】テキストの該当する部分を読んで理解する 【復習】授業で学んだ方法等を理解し実践する
11回	介護を必要とする人とのコミュ ニケーション(11)	適切な質問の方法を理解する 【予習】テキストの該当する部分を読んで理解する 【復習】授業で学んだ方法等を理解し実践する
12回	介護を必要とする人とのコミュ ニケーション(12)	納得と同意を得る技法を理解する(要約・明確化) 【予習】テキストの該当する部分を読んで理解する 【復習】授業で学んだ方法等を理解し実践する
13回	介護を必要とする人とのコミュ ニケーション(13)	コミュニケーションにおける距離を理解する 【予習】テキストの該当する部分を読んで理解する 【復習】授業で学んだ方法等を理解し実践する
14回	介護を必要とする人とのコミュ ニケーション(14)	集団におけるコミュニケーション技術を理解する 【予習】テキストの該当する部分を読んで理解する 【復習】授業で学んだ方法等を理解しまとめる
15回	介護を必要とする人とのコミュ ニケーション(15)	介護場面におけるコミュニケーションの実際を理解する 【予習】テキストの該当する部分を読んで理解する 【復習】授業で学んだ方法等を理解しまとめる

本科目は、演習科目(1単位)ですので、授業時間90分以外に15時間の授業外学習が必要になります。 学習内容に記載された予習・復習を実践して内容の理解を深めてください。

成績評価の基準・方法

評価項目	S	A	В	С	D
1. ケアワーカーに求められる利用者や	完全にない	若干不十分	不十分な点	到達目標の	到達目標を
家族を支援するためのコミュニケー	しほぼ完全	な点は認め	は認められ	最低限を達	達成してい
ションの基本的な知識、技術・方法	に到達目標	られるもの	るものの、	成してい	ない。
の理解	を達成して	の、到達目	到達目標を	る。	
2. 他者に共感し倫理性をもち、介護を	いる。	標を達成し	達成してい		
必要とする人に対する基本的なコミ		ている。	る。		
ュニケーション技術の理解					
100点法	90点以上	80点以上	70点以上	60点以上	59点以下

- ·定期試験(筆記試験) 60%
- ・授業内課題(ワークシート)40%

教科書

・介護福祉士養成講座編集委員会、最新介護福祉士養成講座 5 『コミュニケーション技術 第2版』中央法規、2022年 (2,420円)

参考書等

関根健夫・杉山真知子『イラストでわかる介護職・福祉職のためのマナーと接遇』中央法規、2017年(2200円) 榊原宏昌『よくある場面から学ぶ マナーと接遇』中央法規、2019年(1980円)

大谷佳子『よくある場面から学ぶ コミュニケーション技術』中央法規、2019年(1980円)

竹内一郎『人は見た目が9割』新潮新書、2005年 (836円)

須藤昌寛『イラストでわかる対人援助職のためのコミュニケーション技術と面接技術』中央法規、2022年(2420円)

履修上の注意・学習支援

- ・授業に必要のない私語は慎むこと。
- ・演習形式のため、毎回休まず出席し積極的に取り組むこと。

・疑問等があれば、オフィスアワーなどを利用すること。

オフィスアワー

疑問があれば、オフィスアワーを利用すること(事前予約 ono@ujc.ac.jp のうえ、時間を設定する)。具体的な時間帯は追って指示する。

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
21HC1SE28	コミュニケーション 技術 II	1年	後期	演習	1	小野 篤司

障害の特性に応じたコミュニケーションの基本的な技術、家族への支援やパートナーシップを構築するためのコミュニケーションの基本的な技術、チームケアを実践するために必要なコミュニケーションについて理解を深め、人間尊重の精神と倫理性をもち、その人らしい生活の支援の実践に必要なコミュニケーションの知識、技術・方法を学ぶ。

実習体験や事例、援助場面を想定した演習等を通して、コミュニケーションの知識、技術・方法の理解を深める。

到達目標(学習の成果)

- 1. ケアワーカーに係わるチームのコミュニケーションに必要な記録や報告における表現・伝達方法等の知識、方法を理解し説明できる。(知識・方法)
- 2. 対象者の状況を理解し特性に応じたコミュニケーションの方法を理解して用いることができるようになる。 (方法・技術)
- 3. 家族の置かれている状況を理解し家族への支援やパートナーシップを構築するためのコミュニケーションの 方法を理解して用いることができるようになる。 (方法・技術)

□	表題	学習内容
1 回	授業の進め方 介護におけるチームのコミュニ ケーション(1)	授業計画、授業方法、予習・復習・成績評価の方法等を理解する。 記録の目的と意義を理解する 【予習】テキストの該当する部分を読んで理解する 【復習】授業で学んだ方法等を理解しまとめる
2回	介護におけるチームのコミュニ ケーション(2)	記録の種類を理解する 【予習】テキストの該当する部分を読んで理解する 【復習】授業で学んだ方法等を理解しまとめる
3回	介護におけるチームのコミュニ ケーション(3)	記録の方法と書き方を理解する 【予習】テキストの該当する部分を読んで理解する 【復習】授業で学んだ方法等を理解しまとめる
4回	障害の特性に応じたコミュニケ ーション (1)	コミュニケーション障害とは何か、コミュニケーション障害の原因を 理解する 認知症のある人の特性に応じたコミュニケーションを理解する 【予習】テキストの該当する部分を読んで理解する 【復習】授業で学んだ方法等を理解しまとめる
5 回	障害の特性に応じたコミュニケ ーション (2)	聴覚障害のある人の特性に応じたコミュニケーションを理解する 【予習】テキストの該当する部分を読んで理解する 【復習】授業で学んだ方法等を理解しまとめる
6 回	障害の特性に応じたコミュニケ ーション (3)	構音障害のある人の特性に応じたコミュニケーションを理解する 【予習】テキストの該当する部分を読んで理解する 【復習】授業で学んだ方法等を理解しまとめる
7回	障害の特性に応じたコミュニケ ーション (4)	失語症のある人の特性に応じたコミュニケーションを理解する 【予習】テキストの該当する部分を読んで理解する 【復習】授業で学んだ方法等を理解しまとめる
8回	介護におけるチームのコミュニ ケーション(4)	発達障害のある人の特性に応じたコミュニケーションを理解する 【予習】テキストの該当する部分を読んで理解する

		【復習】授業で学んだ方法等を理解しまとめる
9回	介護におけるチームのコミュニ ケーション (5)	記録の実際を理解する 【予習】テキストの該当する部分を読んで理解する 【復習】授業で学んだ方法等を理解しまとめる
10回	障害の特性に応じたコミュニケ ーション (5)	利用者の特性に応じたコミュニケーションの実際について、実習体験を振り返り理解する 【予習】テキストの該当する部分を読んで理解する 【復習】授業で学んだ方法等を理解しまとめる
11回	介護におけるチームのコミュニ ケーション(6)	報告・連絡・相談の技術を理解する 【予習】テキストの該当する部分を読んで理解する 【復習】授業で学んだ方法等を理解しまとめる
12回	介護におけるチームのコミュニ ケーション(7)	会議・議事進行・説明の技術を理解する 【予習】テキストの該当する部分を読んで理解する 【復習】授業で学んだ方法等を理解しまとめる
13回	介護における家族とのコミュニ ケーション(1)	家族との関係づくりを理解する 【予習】テキストの該当する部分を読んで理解する 【復習】授業で学んだ方法等を理解しまとめる
14回	介護における家族とのコミュニ ケーション (2)	家族への助言・指導・調整を理解する 【予習】テキストの該当する部分を読んで理解する 【復習】授業で学んだ方法等を理解しまとめる
15回	介護におけるチーム、利用者・ 家族とのコミュニケーション	介護場面に必要なコミュニケーションの基本的な技術を総合的に理解する 【予習】テキストの該当する部分を読んで理解する 【復習】授業で学んだ方法等を理解しまとめる

本科目は、演習科目(1単位)ですので、授業時間90分以外に15時間の授業外学習が必要になります。 学習内容に記載された予習・復習を実践して内容の理解を深めてください。

成績評価の基準・方法

評価項目	S	A	В	С	D
1. チームのコミュニケーションに必	完全にない	若干不十分	不十分な点	到達目標の	到達目標を
要な記録や報告における表現・伝達	しほぼ完全	な点は認め	は認められ	最低限を達	達成してい
方法等の専門的な知識・方法を理解	に到達目標	られるもの	るものの、	成してい	ない。
の理解	を達成して	の、到達目	到達目標を	る。	
2. 対象者の状況を理解し特性に応じ	いる。	標を達成し	達成してい		
たコミュニケーションの専門的な方		ている。	る。		
法の理解					
3. 家族の置かれている状況を理解し					
家族への支援やパートナーシップを					
構築するためのコミュニケーション					
方法の理解					
100点法	90点以上	80点以上	70点以上	60点以上	59点以下

- ・定期試験 (レポート試験) 80%
- ・授業内課題 (ワークシート) 20%

教科書

・最新介護福祉士養成講座 5 『コミュニケーション技術 第2版』介護福祉士養成講座編集委員会、中央法規、20 22年 (2,420円)

参考書等

関根健夫・杉山真知子『イラストでわかる介護職・福祉職のためのマナーと接遇』中央法規 2017 年 (2200円) NPO法人言語障害者の社会参加を支援するパートナーの会和音編集『三訂 失語症の人と話そう』中央法規, 2 024年 (2860円)

イヴ・ジネスト・ロゼット・マレスコッティ,本田美和子,『ユマニチュード入門』医学書院,2014 年(2200円)

大谷佳子『よくある場面から学ぶ コミュニケーション技術』中央法規、2019年(1980円)

須藤昌寛『イラストでわかる対人援助職のためのコミュニケーション技術と面接技術』中央法規、2022年(2420円)

馬淵敦士『書くべきことがよくわかる!介護記録の書き方』中央法規、2022年(1980円)

履修上の注意・学習支援

- ・授業に必要のない私語は慎むこと。
- ・演習形式のため、毎回休まず出席し積極的に取り組むこと。
- ・疑問等があれば、オフィスアワーなどを利用すること。

オフィスアワー

疑問があれば、オフィスアワーを利用すること(事前予約 ono@ujc. ac. jp のうえ、時間を設定する)。具体的な時間帯は迫って指示する。

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
21HC2SE29	生活支援技術 II 居住環境の整備と移動	1年	前期	演習	1	菊池芳子

利用者主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を学ぶ。 対象者の能力を活用・発揮し、自立を支援するための生活支援技術の基本を習得する。 本単元では、居住環境の整備(環境整備)の基本と、自立に向けた移動の介護の方法を実践的に学習する。 授業内では、学んだ知識や技術を演習形式で実際に行う。授業内での生活支援技術を実践する中で、自身の

到達目標(学習の成果)

・介護福祉専門職としての基本的知識を習得し、実践の根拠について説明できる(知識)。

課題に気づき、後の実習や介護業務に必要な理論と技術が身につけられる。

・利用者を支援するための、居住環境の整備と移動の知識と技術を習得し、実践できる(知識・技術・方法)。

* \(\bar{\pi}\)	四日で又抜りるためり、店	任環境の整備と移動の知識と技術を督得し、実践できる(知識・技術・方法)。 授業計画
旦	表題	学習内容
1 🗆	授業の進め方 生活支援技術の全体像	授業計画、授業方法、予習・復習、成績の評価基準・方法等を知る。 介護福祉職として必要な生活支援技術の全体像を学ぶ 予習 : 生活支援を行う上で、必要な技術は何か考えてくる。 復習 : 配付資料や教科書を読み、用語を説明できるようにする。
2回	姿勢と体位	身体の部位、姿勢と体位の名称を理解する。 予習 : 大まかな人体各部の名称について調べ、覚えてくる。 復習 : 配付資料や教科書を読み、用語を説明できるようにする。
3回	ボディメカニクス	ボディメカニクスの意義と活用方法を学ぶ。 予習 : あなたの腰や膝等、身体が痛くなる体勢を調べてくる。 復習 : 配付資料や教科書を読み、用語を説明できるようにする。
4回	ベッドの使用方法	ベッドの種類・関連用品を理解する。 予習 : 生活支援技術Ⅱ教科書の p246 を読んでくる。 復習 : 配付資料や教科書を読み、用語を説明できるようにする。
5回	環境整備①	ベッドメイキングに必要な物品と基本的な技術を学ぶ。 予習 : 生活支援技術Ⅱ第5章を読み、シーツのシワが与える影響を 考えてくる。 復習 : 配付資料や教科書を読み、用語を説明できるようにする。
6 回	環境整備②	ベッドメイキングの準備から後始末までを実践する。 予習 : ベッドメイキングで苦手な点を述べられるようにしてくる。 復習 : 配付資料や教科書を読み、用語を説明できるようにする。
7回	立ち上がり介護の実践	起居動作・立ち上がりの支援の方法を理解し、実践する。 予習 : 立ち上がるよう指示する際の具体的は声掛けを考えてくる。 復習 : 配付資料や教科書を読み、用語を説明できるようにする。
8回	移動介助の実践①	手引き歩行・杖歩行時の注意点を理解し、実践する。 予習 : 自身が手を引かれて歩く際、されたら嫌なことを考えてくる。 復習 : 配付資料や教科書を読み、用語を説明できるようにする。
9回	移動介助の実践②	段差・階段の移動における注意点を理解し、実践する。 予習 : 階段を昇降する際それぞれの危険な点を考えてくる。 復習 : 配付資料や教科書を読み、用語を説明できるようにする。
10 回	体位交換の実践①	一部介助の利用者への体位交換の支援方法を学ぶ。 予習 : 人体各部位の名称や体位についての配布資料を読んでくる。 復習 : 配付資料や教科書を読み、用語を説明できるようにする。
11 回	体位交換の実践②	全介助の利用者への体位交換の支援方法を学ぶ。 予習 : ボディメカニクスについての配布資料を読んでくる。 復習 : 配付資料や教科書を読み、用語を説明できるようにする。

12 回	車椅子使用の実践	車椅子での移動方法を学ぶ。 予習 : 生活支援技術 I 教科書の p146-147 を読んでくる。 復習 : 配付資料や教科書を読み、用語を説明できるようにする。
13 回	移乗介助の実践①	一部介助の利用者へのベッド⇔車いすの移乗方法を学ぶ。 予習 : 人体各部位の名称や体位についての配布資料を読んでくる。 復習 : 配付資料や教科書を読み、用語を説明できるようにする。
14 回	移乗介助の実践②	全介助の利用者へのベッド⇔車いすの移乗方法を学ぶ。 予習 : ボディメカニクスについての配布資料を読んでくる。 復習 : 配付資料や教科書を読み、用語を説明できるようにする。
15 回	移乗介助の実践③	全介助の利用者へのリクライニング式車いす⇔ベッドの移乗方法を学ぶ。 予習 : 移乗介助について教科書を読んでくる。 復習 : 配付資料や教科書を読み、用語を説明できるようにする。

本科目は、講義・演習科目(1単位)で、授業時間(30時間)に加えて、15時間の授業外学習(予習・復習)が必要となります。学習内容に記載された予習・復習を実践して内容の理解を深めることが求められています。

成績評価の方法・基準 (%表記)

評価項目	S	A	В	С	D
①居住環境の整備に関す	完全にない	若干不十分	不十分な点	到達目標の	到達目標を
る支援の実践(技術・	しほぼ完全	な点は認め	は認められ	最低限を達	達成してい
知識)	に到達目標	られるもの	るものの、到	成している。	ない。
	を達成して	の、到達目標	達目標を達		
②移動・移乗に関する支	いる。	を達成して	成している。		
援の実践(技術・知識)		いる。			
100 点法	90 点以上	80 点以上	70 点以上	60 点以上	59 点以下

成績は、中間試験(実技)50%と定期試験(実技)50%で評価する。

教科書

最新・介護福祉士養成講座 『生活支援技術 I』 中央法規 2021 年 2,420 円 最新・介護福祉士養成講座 『生活支援技術 II』 中央法規 2021 年 2,420 円

参考書等

なし。

履修上の注意・学習支援

- ・積極的に演習に参加すること。
- ・演習室には、決められた服装に着替えて入室すること。

オフィスアワー

疑問等があれば、授業前後及びオフィスアワーを活用すること。事前予約の上、日時を決定する。 連絡先: yosiko-k@snow. ucatv. ne. jp

実務経験のある教員による授業科目

「実務経験の概要]

看護師として病院等で、利用者一人一人の心身の状況に応じた看護の実践を行ってきた。

[実務経験と授業科目との関連性]

介護現場での利用者に対する生活支援の経験は、本科目の授業内容との関連性が非常に高い。様々な利用者 との関わりを通して熟達してきた直接介助の技術を、授業内の演習を通じ教示することができる

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
21HC2SE30	生活支援技術Ⅲ 食事・身じたく	1年	前期	演習	1	阿部 正昭

利用者主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を学ぶ。対象者の能力を活用・発揮し、自立を支援するための生活支援技術の基本を習得する。

本単元では、<u>自立に向けた食事・身じたくの介護</u>の方法を実践的に学習する。利用者の状況に合わせた介護を行うことができるように、安全で安心できる生活支援技術を習得する。

到達目標(学習の成果)

- ・介護専門職としての基本的知識を習得し、実践の根拠について説明できる (知識)。
- ・利用者を支援するための、食事・身じたくの知識と技術を習得し、実践できる(知識・技術・方法)。

	表 題	学習内容
		授業計画、授業方法、予習・復習、成績の評価基準・方法等を知る。
授	業の進め方	介護職としてのふさわしい服装や態度、身じたくについて学ぶ。
1 1 1 1 1 1	護職の身じたく	予習: 介護福祉職として相応し服装を考え、実際に身につけてくる。
		復習: 配付資料や教科書を読み、用語を説明できるようにする。
		関節の動きや麻痺・拘縮の状態を理解し、安全な支援のための知識を得る。
2回 関	節可動域・麻痺の理解	予習: 風呂上りと起床時の、自身の体の柔軟性を比べてくる。
		復習: 配付資料や教科書を読み、用語を説明できるようにする。
+-	極味にわけて ノンコ	支援における説明と同意を得るための方法について学ぶ。
7 101 1	援時におけるインフームドコンセント	予習 : 後から説明され、嫌な思いをした自身の経験を考えてくる。
	ームトコンセント	復習 : 配付資料や教科書を読み、用語を説明できるようにする。
		自立に向けた衣類の着脱介護を学ぶ。
4回 衣	類着脱介護の実践①	予習 : 関節可動域・麻痺の資料を読んでくる。
		復習 : 配付資料や教科書を読み、用語を説明できるようにする。
		一部介助が必要な利用者の座位での衣類着脱の支援を実践し習得する。
5回 衣	類着脱介護の実践②	予習 : 体位や身体の部位についての配布資料を読んでくる。
		復習 : 配付資料や教科書を読み、用語を説明できるようにする。
		麻痺の方・全介助の方の、座位での衣類着脱の支援を実践し習得する。
6回 衣	類着脱介護の実践③	予習 : ボディメカニクスについての配布資料を読んでくる。
		復習: 配付資料や教科書を読み、用語を説明できるようにする。
		自立に向けた食事の介護を学ぶ。食事時の姿勢や用具、環境整備について
7回 食	事介助の実践①	学び、自己摂取を支援するための技術を理解する。
	及事力列心人成伍	予習:食事をすることのメリットについて考えてくる。
		復習: 配付資料や教科書を読み、用語を説明できるようにする。
		麻痺などにより、一部介助が必要な利用者への支援の方法及び注意点を学
8回 食	事介助の実践②	び、適切な食事介助ができる技術を習得する。 予習: 自身を参考に、食事をする際に必要な動作を考えてくる。
		7音 : 自身を参考に、良事をする際に必要な動作を考えてくる。 復習 : 配付資料や教科書を読み、用語を説明できるようにする。
		全介助の利用者への支援の方法及び注意点を学び、安全な食事介助ができ
		全年が明め利用有べの支援の方法及び注息点を予び、女生な長事が明かできる技術を習得する。
9回 食	食事介助の実践③	る技術を首付する。 予習 : 食事をするために必要な関節可動域を考えてくる。。
		復習: 配付資料や教科書を読み、用語を説明できるようにする。
		自立に向けた身じたくの介護について学ぶ。
		洗顔・整髪・爪切り・耳掃除・髭剃りの介助を実践し学ぶ。
10回 身	じたくの介護①	予習: 自身が外出する際に気を付ける身だしなみを考えてくる。
		復習: 配付資料や教科書を読み、用語を説明できるようにする。
		口腔ケアの介助方法を実践し学ぶ。
11回 身	じたくの介護②	予習: 休日の日、外出しない際の自身の身だしなみを考えてくる。
		復習: 配付資料や教科書を読み、用語を説明できるようにする。
		一部介助が必要な利用者の臥位での衣類着脱の支援を実践し習得する。
12回 衣	類着脱介護の応用①	予習: 前日夜か当日朝、臥位で着替えをしてくる。
	.,	復習: 配付資料や教科書を読み、用語を説明できるようにする。
10 🗔 🕹	佐	全介助の利用者の臥位での衣類着脱の支援を実践し習得する。
13 回 衣	類着脱介護の応用②	予習: 臥位で着替えをし、どんな動作が必要か調べてくる。

		復習 : 配付資料や教科書を読み、用語を説明できるようにする。
		和式寝衣(ゆかた)の着用方法を学び、臥位での介助を実践する。
14 回	衣類着脱介護の応用③	予習 : 前開きの衣類を片手のみで着替える練習をしてくる。
		復習 : 配付資料や教科書を読み、用語を説明できるようにする。
		事例を基に利用者の状態に応じた支援を実践する。
15 回	生活支援技術の実際	予習 : 食事・着脱の資料・教科書該当部を読んでくる。
		復習 : 配付資料や教科書を読み、用語を説明できるようにする。

本科目は、演習科目(1 単位)で、授業時間(30 時間)に加えて、15 時間の授業外学習(予習・復習)が必要となります。

学習内容に記載された予習・復習を実践して内容の理解を深めることが求められています。

成績評価の方法・基準 (%表記)

評価項目	S	A	В	С	D
①食事に関する支援の実	完全にない	若干不十分	不十分な点	到達目標の	到達目標を
践(技術・知識)	しほぼ完全	な点は認め	は認められ	最低限を達	達成してい
②身じたくに関する支援	に到達目標	られるもの	るものの、到	成している。	ない。
の実践(技術・知識)	を達成して	の、到達目標	達目標を達		
	いる。	を達成して	成している。		
		いる。			
100 点法	90 点以上	80 点以上	70 点以上	60 点以上	59 点以下

成績は、中間試験(実技)50%と定期試験(実技)50%で評価する。

教科書

最新・介護福祉士養成講座 『生活支援技術 I』 中央法規 2021 年 2,420 円 最新・介護福祉士養成講座 『生活支援技術 II』 中央法規 2021 年 2,420 円

参考書等

なし

履修上の注意・学習支援

- ・積極的に演習に参加すること。
- ・演習室には、決められた服装に着替えて入室すること。

オフィスアワー

疑問等があれば、授業前後及びオフィスアワーを活用すること。事前予約の上、日時を決定する。

実務経験のある教員による授業科目

[実務経験の概要]

介護福祉士として、特別養護老人ホームで利用者への介護や生活支援に関する業務に従事してきた。

[実務経験と授業科目との関連性]

介護現場における実践経験は、本科目の授業内容と関連性が非常に高く、実例を踏まえて適宜発信していく 事ができる。

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
21HC1SE31	生活支援技術IV 排泄・入浴・清潔	1年	後期	演習	1	菊池 芳子・池田 藍 小林 直美

利用者主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を学ぶ。対象者の能力を活用・発揮し、自立を支援するための生活支援技術を習得する。

本単元では、<u>自立に向けた排泄、入浴・清潔保持の介護</u>の方法を実践的に学習する。利用者の状況に合わせた介護を行うことができるように、安全で安心できる生活支援技術を習得する。

到達目標(学習の成果)

- ・介護専門職としての基本的知識を習得し、実践の根拠について説明できる(知識)。
- ・利用者を支援するための排泄、入浴・清潔保持の介護における知識と技術を習得し、実践できる (知識・技術)。

الجملاد تما

授業計画					
回	表 題	学習内容	担当教員		
1回	授業の進め方 自立に向けた清潔保 持・入浴・排泄	授業計画、授業方法、予習・復習、成績の評価基準・方法等を知る。 利用者の状態応じた清潔保持・入浴・排泄の意義や目的及び介護を学ぶ。 【予習】テキストの該当する部分を読む 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる	菊池		
2 回	清潔保持・入浴の概要	利用者の状態、自立に向けた清潔保持・入浴の概要と方法を学ぶ。 【予習】テキストの該当する部分を読む 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる	菊池		
3 回	清潔保持の実践① (手浴)	清潔保持の介護の方法を学び実践する(手浴の介護方法)。 【予習】テキストの該当する部分を読む 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる	菊池		
4 回	清潔保持の実践② (足浴)	清潔保持の介護の方法を学び実践する(足浴の介護方法)。 【予習】テキストの該当する部分を読む 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる	菊池		
5 回	清潔保持の実践③ (全身清拭)	清潔保持の介護の方法を学び実践する。 (全身清拭及びベット上洗髪介護方法) 【予習】テキストの該当する部分を読む 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる	菊池		
6 回	清潔保持の実践④ (全身清拭)	清潔保持の介護の方法を学び実践する (全身清拭及びベット上洗髪介護方法)。 【予習】テキストの該当する部分を読む 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる	菊池		
7回	入浴介護の実践① (個浴・機械浴・洗髪)	利用者の状態に応じた自立に向けた入浴の介護方法を学ぶ(安全・安楽・尊厳順守)。 個浴・機械浴・洗髪の方法を学び実践する。 【予習】テキストの該当する部分を読む 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる	池田		
8回	入浴介護の実践② (個浴・機械浴・洗髪)	入浴介助(個浴・機械浴・洗髪)の介護の方法を学び実践する 【予習】テキストの該当する部分を読む 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる	池田		
9回	入浴介護の実践③ (個浴・機械浴・洗髪)	入浴介助(個浴・機械浴・洗髪)の介護の方法を学び実践する 【予習】テキストの該当する部分を読む 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる	池田		
10 回	入浴介護の実践④ (個浴・機械浴・洗髪)	入浴介助(個浴・機械浴・洗髪)の介護の方法を学び実践する 【予習】テキストの該当する部分を読む 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる	池田		
11 回	排泄介護の実践① (トイレ介助)	利用者の状態に応じた自立に向けた排泄の介護方法を学ぶ(排泄物の性状や量の目安の理解、羞恥心に配慮)。 トイレ介助(一部介助・全介助)の方法を学び実践する。 【予習】テキストの該当する部分を読む 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる	小林		

12 回	排泄介護の実践② (おむつ交換)	ベッド上でのオムツ交換(オムツやパッド類の正しい使用)の 方法を学び実践する。 【予習】テキストの該当する部分を読む 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる	小林
13 回	排泄介護の実践③ (尿器や便器による介 助)	ベット上での尿器や差し込み便器による介護の方法を学び実践する。 【予習】テキストの該当する部分を読む 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる	小林
14 回	排泄介護の実践④ (陰部洗浄)	ベット上での陰部洗浄の方法を学び実践する。 【予習】テキストの該当する部分を読む 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる	小林
15 回	まとめ (排泄)	事例をもとに、利用者の状態に応じた排泄介護に関する支援方法の学びを総括する。 排泄介助における一連の方法の実践と環境整備 【予習】テキストの該当する部分を読む 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる	小林

演習(30時間1単位)は、15時間相当の準備学習が必要になります。 予習:シラバスに示してある不明な用語は各自調べておくこと。 復習:授業時に配付したレジメや教科書を読み理解を深める。

成績評価の方法・基準(%表記)

評価項目	S	A	В	С	D
①入浴介護に関する支援	完全にない	若干不十分	不十分な点	到達目標の	到達目標を
の実践(技術・知識)	しほぼ完全	な点は認め	は認められ	最低限を達	達成してい
	に到達目標	られるもの	るものの、到	成している。	ない。
②排泄介護に関する支援	を達成して	の到達目標	達目標を達		
の実践(技術・知識)	いる。	を達成して	成している。		
		いる。			
100 点法	90 点以上	80 点以上	70 点以上	60 点以上	59 点以下

各担当教員の成績判定の合計をもとに評価する。

【菊池・池田】定期試験(筆記試験 70%) 【小林】定期試験(実技試験):30%

教科書

最新·介護福祉士養成講座 『生活支援技術Ⅱ』 中央法規 2021 年 2,420 円

参考書等

最新・介護福祉士養成講座 『生活支援技術 I 』 中央法規 2021 年 2,420 円 その他参考資料は随時配付する

履修上の注意・学習支援

- ・実技(手順)の予習必須(各回の演習内容を理解しておく)
- 遅刻厳禁
- ・実習着着用
- ・準備及び片付け、環境整備は協力して行う
- ・不明点は授業中に積極的に質問をする

オフィスアワー

質問があれば、オフィスアワー(原則、講義終了後 15 分間程度、1号館1階「講師教員センター」)を利用すること。

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
21HC2SE32	生活支援技術V	1年	後期	演習	1	百田 裕子

人間は、「楽しむ」ことや「家事生活」を自立・自律して実践する中で、いきがいやしあわせを感じている。本授業では、「楽しむ」ことと「家事」の意義について学び、そのこころとからだとの関係について理解していく。介護福祉士として利用者の「楽しむ」こと、「家事」に関する生活の自立・自律支援ができるように、利用者のアセスメント方法、支援に必要な基本的知識・技術を学ぶ。さらに、さまざまな家事生活の場面において、自立に向けた介助の技法を、演習を通して学習する。

到達目標(学習の成果)

- 1. 「楽しむ」ことや「家事生活」の意義・目的を理解し、これらが自立・自律した社会人として必要なことを説明できる(知識)。人間が「楽しみ」とする生活の具体的な内容を知る(知識)。
- 2. 利用者をアセスメントし、利用者の「楽しみ」を見出し、それを支援できるようになる(技術・方法)。
- 3. 「家事」では、利用者のさまざまな家事生活の場面において、心身の状態に応じて自立に向けた介助が適切にできるようになる(技術・態度)。

田	表題	学習内容
1 回	授業の進め方 「楽しむ」という生活の 支援(1)	授業計画、授業方法、予習・復習、成績の評価基準・方法等を知る。 「楽しむ」ことの意義を理解し、そのこころとからだの関係について、 利用者の立場で考える。「楽しむ」という生活の視点、支援の方法と留 意点を学ぶ。利用者のアクティビティ情報の把握方法を知る。 (予習)シラバスを読んでおく。 (復習)手の機能と手を動かすことの意義をまとめておく。
2回	「楽しむ」という生活の 支援(2)	利用者の外出での「楽しむ」について、事例を通して学ぶ。外出することの大切さと支援の必要性、支援するための知識・技術を確認する。 (予習)配付資料を読んでおく。 (復習)外出することの意義と支援の大切さをまとめる。
3回	「楽しむ」という生活の 支援(3)	利用者の室内での「楽しむ」について、事例を通して学ぶ。室内で「楽しむ」を支援するための知識・技術を確認する。 (予習)配付資料を読んでおく。 (復習)室内で楽しいと感じられる生活をすることの大切さと支援する ための知識・技術等をまとめる。
4 回	「楽しむ」という生活の 支援(4)	利用者と室内で一緒にできる小物づくりを通して、支援時の留意点を学ぶ。「楽しむ」ことの支援における医療ならびに他職種との連携について理解する。 (予習)配付資料を読んでおく。 (復習)小物づくりを通して学んだことをまとめる。
5回	「家事」という生活の支援(1)	「家事」の意義と目的を理解する。「家事」という生活とこころとからだの関係について、利用者の立場で考える。家事に関する利用者のアセスメント方法を学ぶ。 (予習)配付資料を読んでおく。 (復習)利用者にとり自立した家事生活の実践の必要性を再確認する。
6 回	「家事」という生活の支 援(2)	高齢者の家計を理解する。買い物・金銭管理などの支援をする際のアセスメント方法、留意点と実践方法を学ぶ。 (予習) 高齢者世帯の家計の実態を調べる。 (復習) 利用者自身で金銭管理ができなくなった場合の支援方法をまとめる。

-		
7 回	「家事」という生活の支 援(3)	食生活(調理を含む)の自立支援をする際のアセスメント方法、安全・ 衛生管理の留意点と実践方法について学ぶ。 (予習)食の安全に関する法律等を調べる。 (復習)利用者への安全・安心な食事支援についてまとめる。
8回	「家事」という生活の支援(4)	利用者の自立した家事生活を支援するための自助具について学ぶ。 (予習) 家事生活を支援するための自助具について調べる。 (復習) 様々な自助具の使用法についてまとめる。
9回	「家事」という生活の支 援(5)	被服生活(洗濯・乾燥・保管等)の自立支援をする際のアセスメント方法、リスク管理と実践方法について理解する。 (予習)被服の洗濯・乾燥・保管の基本を復習しておく。 (復習)利用者の被服管理の支援方法をまとめる。
10回	「家事」という生活の支 援(6)	住環境整備(清掃・部屋のレイアウト・ゴミ捨て等)の自立支援をする際のアセスメント方法、留意点と実践方法について理解する。 (予習) 住環境整備の基本を復習しておく。 (復習) 利用者の住環境整備の支援方法をまとめる。
11回	「家事」という生活の支 援(7)	施設実習を振り返り、利用者の家事生活支援(食・被服・住生活)の支援に関する自己の課題を考える。 (予習)施設実習での介護者の家事生活支援についてまとめておく。 (復習)施設での家事支援において、できなかった課題をまとめる。
12回	「家事」という生活の支 援(8)	被服生活 (繕い物・ものづくり) の自立支援・代行する際の縫製の基礎 とアセスメント方法、リスク管理、実践方法について理解する。 (予習) 縫製の基礎を調べる。 (復習) 縫製の基礎としてできなかったものを復習しておく。
13回	「家事」という生活の支 援(9)	利用者と室内で一緒にできる布を使ったものづくりを通して、支援時の 留意点を学ぶ。 (予習) 手の機能とはたらきについて復習しておく。 (復習) 裁縫用具を使用してものづくりの支援をする際のリスク管理に ついてまとめる。
14回	「家事」という生活の支援(10)	寝具の衛生管理の自立支援をする際のアセスメント方法、留意点と実践 方法について理解する。 (予習)寝具の管理の基本を復習しておく。 (復習)利用者の良質な睡眠の支援をするための支援方法についてまと める。
15回	「家事」という生活の支 援(11)	家事支援を行う際の医療ならびに他職種との連携について学ぶ。 (予習) 介護職以外の家事支援について調べる。 (復習) 家事支援における他職種との連携の大切さをまとめる。

本科目は、演習科目1単位ですので、授業時間90分以外に15時間の授業外学習が必要になります。授業外学習方法に記載された予習・復習課題を実践して、内容の理解を深めてください。

成績評価の基準・方法

S	A	В	C	D
完全にない	若干不十分	不十分な点	到達目標の	到達目標を
しほぼ完全	な点は認め	は認められ	最低限を達	達成してい
に到達目標	られるもの	るものの、	成している	ない
を達成して	の、到達目	到達目標を		
いる	標を達成し	達成してい		
	ている	る		
90点以上	80点以上	70点以上	69点以上	59点以下
	しほぼ完全 に到達目標 を達成して いる	しほぼ完全 に到達目標 を達成して いる の、到達目 標を達成している	しほぼ完全 に到達目標 を達成して いる	しほぼ完全 な点は認め は認められ 最低限を達に到達目標 られるもの るものの、 変達成している 一標を達成している でいる あんしている る

- ・定期試験(筆記試験) 50%
- ・授業内・外課題(小テスト・ワークシート)50%

教科書

- ・介護福祉士養成講座編集委員会 編集、最新・介護福祉士養成講座6『生活支援技術 I』、中央法規、2022年、2,420円
- ・奥田都子 編著、「生活支援の基礎を学ぶ-介護・福祉・看護実践のための家政学-」、建帛社、2024年、 2,750円

参考書

早川宏子編集、社団法人日本作業療法士協会監修 作業療法全書 『作業療法技術論2 日常生活活動』、協同医書出版社、2006年、3,300円

履修上の注意・学習支援

- 1. 「生活科学」「生活技術」を履修していることが望ましい。
- 2. 自己の趣味活動や家事に関する生活の自立・自律ができていることで、利用者の心身の状態に応じた支援ができるようになる。自己の楽しむ生活、家事生活の経験を積みながら、授業に臨むこと。

オフィスアワー

疑問等があれば、事前予約及びオフィスアワーを活用すること。事前予約の連絡先は、momo@ujc.ac.jp、オフィスアワーの具体的な時間帯は追って掲示する。

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
21HC2SE33	生活支援技術VI (居住環境・対象者の 状態に応じた支援)	2年	後期	演習	1	百田裕子・小林敏志

- ・自立に向けた居住環境の介護を実践するために、住まいの多様性を理解し、生活の豊かさや自立支援のための居住環境の整備について学ぶ。
- ・対象者の疾患や障害を理解するとともに、1年次に学んだ生活支援の基礎を踏まえ、困難事例を通して、その状態に応じた生活支援の応用方法を学習する。

到達目標 (学習の成果)

- ・自立支援の観点から居住環境の整備について理解できている(知識)。
- ・対象者の疾患や障害に応じた自立支援の思考を持ち、適切な知識と技術を習得できている(知識・技術)。

甲	表題	学習内容	担当 教員
1回	授業の進め方 食事介助の応用	授業計画、授業方法、予習・復習、成績の評価基準・方法等を知る。 1年次に学んだ生活支援の基礎を踏まえ、困難事例を通して食事介助 の応用を学ぶ。 (予習)1年次で学んだ食事介助の基本を復習しておく。 (復習)食事介助で様々な困難事例の応用を考える。	小林
2回	排泄介助の応用	1年次に学んだ生活支援の基礎を踏まえ、困難事例を通して排泄介助 の応用を学ぶ。 (予習)1年次で学んだ排泄介助の基本を復習しておく。 (復習)排泄介助で様々な困難事例の応用を考える。	小林
3回	入浴介助の応用	1年次に学んだ生活支援の基礎を踏まえ、困難事例を通して入浴介助の応用を学ぶ。 (予習)1年次で学んだ入浴介助の基本を復習しておく。 (復習)入浴介助の様々な困難事例の応用を考える。	小林
4回	移動・移乗介助の応用	1年次に学んだ生活支援の基礎を踏まえ、困難事例を通して移動・移 乗介助の応用を学ぶ。 (予習)1年次で学んだ移動・移乗介助の基本を復習しておく。 (復習)移動・移乗の様々な困難事例の応用を考える。	小林
5回	楽しみ生活支援の応 用① (外出)	1年次に学んだ生活支援の基礎を踏まえ、実践事例を通して楽しみの生活支援(外出支援)の応用を学ぶ。 (予習)1年次で学んだ外出支援の基本を復習しておく。 (復習)利用者に合わせた外出支援の応用を考える。	小林
6回	楽しみ生活支援の応 用② (レクリエーショ ン)	1年次に学んだ生活支援の基礎を踏まえ、実践事例を通して楽しみの生活支援(レクリエーション)の応用を学ぶ。 (予習)1年次で学んだレクリエーション支援の基本を復習しておく。 (復習)利用者に合わせたレクリエーション支援の応用を考える。	小林
7 回	認知症の生活支援	認知症のケアに関する困難事例を通して、認知症ケアの応用を学ぶ。 (予習)認知症の方の特徴について復習しておく。 (復習)一人ひとりの認知症の方に合わせたケアのあり方をまとめ る。	小林
8回	生活支援と記録	1年次に学んだ生活支援の基礎を踏まえ、実践事例を通して介護現場における生活支援と記録の重要性を学ぶ。 (予習)生活支援と記録の基本について復習しておく。 (復習)事例を通して生活支援と記録の重要性についてまとめる。	小林

9回	住まいの役割と機能	住まいの役割を知るとともに、家族関係と生活空間について学ぶ。 (ファミリーライフサイクル (家族周期) 同居・二世帯住宅) (予習) 教科書の該当部分を読んでおく。 (復習) ライフステージに合わせた住まいの役割と機能が異なることをまとめる。	百田
10 回	生活空間	生活空間を生活行為、人体寸法や起居様式とのかかわりでとらえ整備する際の留意点を理解する。(パブリックスペース・プライベートスペース 人体寸法 起居様式) (予習)教科書の該当部分を読んでおく。 (復習)1年次の施設実習先について、プライベートスペースやパブリックスペース等について確認する。	百田
11 回	加齢と生活空間	加齢に伴う身体機能の低下に対応した生活空間の整備に向けて、各室の留意点を学ぶ。(寝室・トイレ・浴室・洗面脱衣所・台所・居間、食事室) (予習)教科書の該当部分を読んでおく。 (復習)加齢に伴う生活空間の異なる理由をまとめる。	百田
12 回	快適な室内環境	快適な室内気候・明るさ・音環境の基本を理解し、住まいの維持・管理の方法を学ぶ。 (予習)1年次で学んだ快適な室内環境の基本を復習しておく。 (復習)加齢に伴う心身の変化に応じた快適な室内環境についてまとめる。	百田
13 回	安全に暮らすための 生活環境	日本家屋の特徴と住宅内における事故の現状を理解し、対応策を学ぶ。 (予習)加齢に伴う身体機能の低下について復習しておく。 (復習)身体の変化に伴う生活環境の整え方をまとめる。	百田
14 回	高齢者・障害者の住まい	高齢者・障害者の住まいを理解し、地域とのつながりを形成することの意義を理解する。(地域包括支援システム 自宅・自宅以外) (予習)地域包括支援システムについて復習しておく。 (復習)利用者が地域で暮らす住まいのあり方についてまとめる。	百田
15 回	居住環境の整備・多職種連携	居住環境整備にかかわる職種とその役割について学ぶ。(医療職・介護支援専門員・行政職・建築関係者) (予習)教科書の該当部分を読んでおく。 (復習)居住環境整備においても、多職種との連携が大切であることをまとめる。	百田

本科目は、演習科目1単位ですので、授業時間90分以外に15時間の授業外学習が必要になります。授業外学習方法に記載された予習・復習課題を実践して内容の理解を深めてください。

成績評価の方法・基準(%表記)

成績評価の基準

評価項目	S	A	В	С	D
1. 疾患や障害に応じた自立支援の知識と技術の習得(知識・技術) 2. 自立支援のための居住環境整備の理解(知識)	完全にないし ほぼ完全に到 達目標を達成 している	若干不十分な 点は認められ るものの、到 達目標を達成 している	不十分な点は 認められるも のの、到達 標を達成して いる	到達目標の最 低限を達成し ている	到達目標を達成していない
100 点法	100 点~90 点	89 点~80 点	79 点~70 点	69 点~60 点	59 点以下

成績は、以下の総合評価とする。

(百田)定期試験(筆記試験)50%

(小林)定期試験(筆記試験)15%、授業内小テスト(介助技術)15%、授業外課題(レポート)20%

教科書

介護福祉士養成講座編集委員会 編集、最新・介護福祉士養成講座 6『生活支援技術 I』、中央法規、2022 年、2,420 円

参考書等

介護福祉士養成講座編集委員会 編集、最新・介護福祉士養成講座 7『生活支援技術Ⅱ』、中央法規 2022 年、2,420 円

『完全図解 新しい介護 全面改訂版』講談社、2014年、4,180円 (小林)

履修上の注意・学習支援

わからないことは授業中に積極的に質問する等して、毎回の授業内容を理解しておくようにすること。

オフィスアワー

疑問等があれば、授業前後及びオフィスアワーを活用すること。事前予約の上、日時を決定する。 連絡先: (百田) momo@ujc.ac.jp (小林) s.kobayashi@ujc.ac.jp

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
21HC2SE34	生活支援技術Ⅶ	2年	後期	演習	1	【手話】渡邉純子・本澤恵 子 【点字】中村文

【手話】

- ①手話を理解・使用する能力を高め、聴覚障害者とのコミュニケーション力の向上を図るとともに会話する力を 養う。
- ②聴覚障害者との直接の会話、聴覚障害者に関する基本的な知識の習慣を通して、高齢者や障害者などと接する基本的姿勢を養う。

【点字】

- ①点字の学習を通し、コミュニケーションのあり方について、考えを深めていく。
- ②視覚障害についての知識・理解を深め、視覚障害者および高齢者支援の技術・方法を学ぶ。

到達目標(学習の成果)

【手話】

介護を必要とされる方のこころを受け止め、利用者のニーズに応じた知識・技術を実践的に学び、高齢者・聴 覚障害者の行動様式に対応するコミュニケーション力を養う。

【点字】

- ・点字の基本を理解し、読み書きができるようになる(知識・技術)。
- ・視覚障害についての知識・理解を深め、適切な支援ができるようになる(知識・態度)。

回	表題	学習内容
1 🗵	○授業の進め方○講義	・授業計画進め方、予習、復習、成績の評価基準を知る。 ◎演習の表現についてはペアでの練習を基本とする。 ・講義「聴覚障害者の生活」DVD使用 「聴覚障害ってどんな障害?」 ・福祉用具について学ぶ (聴覚障害者の生活、特性を理解出来るようになる) 予習 テキストP58.59.60.61指文字表を見ておく。 復習 テキストP58.59.60.61指文字を練習する (渡邉・本澤)
2回	○講義 ○手話表現(氏名)	・講義「手話の基礎」 ・氏名の表現を覚える(手話、指文字) ・コミュニケーション方法の工夫をする(筆談、独話、身振り) 予習 指文字が表現出来るよう確認をする ・テキストP9「知って欲しいこと①」を読んでおく。 復習 クラスの学生の氏名も表現出来るように練習する。 (渡邉・本澤)
3回	○講義 ○手話表現(挨拶、自己紹介)	・講義「ろう高齢者の実態」 ・テキスト講座1.2を学ぶ(挨拶、自己紹介が出来るようになる) 予習 テキストP13「知って欲しいこと②」読んでおく。 復習 挨拶、自己紹介を練習する。 (渡邉・本澤)
4回	○講義 ○手話表現(疑問詞、数字)	・講義「手話の言語的特性 ・テキスト講座3.4を学ぶ (数字を含めた疑問文の会話が出来るようになる) 予習 テキストP17.21「知って欲しいこと③④」読んでおく。 復習 疑問詞、数字の表現を練習する。 (テキストP62.63) (渡邉・本澤)

5回	○手話表現 (趣味、都道府県名)	・テキスト講座5.6を学ぶ(趣味、旅行の会話が出来るようになる) 予習 テキストP25「知って欲しいこと⑤」を読んでおく。 復習 趣味、地名の表現を練習する。 (渡邉・本澤)
6 回	○手話表現 (困った時、乗り物)	・テキスト講座7.8を学ぶ(連絡方法や移動手段の会話が出来るようになる) ・介護実習現場を想定した文章を各自で作り表現する。 予習 テキストP33.37を読んでおく。 復習 手話の特性に注意して表現練習をする。 (渡邉・本澤)
7回	○手話表現(買い物) ○ミニテスト	・テキスト講座9を学ぶ(指文字を含めた買い物の会話が出来るようになる) ・ミニテストの方法を知る。 ・終了後、回答の確認をする。 予習 テキストP41を読んでおく。・講座1~8までの復習をする。 復習 数字、疑問詞の表現練習をする。 (渡邉・本澤)
8回	○講義 ○手話表現(災害)	・講義「聴覚障害者の災害」 ・テキスト講座10.11を学ぶ。(災害時の困り事、支援方法を理解出来るよう二なる。) 予習 テキストP45.4951.53「知って欲しいこと⑥⑦⑧⑨」を読んでおく 復習 テキスト講座1~11までの復習をする。 (渡邉・本澤)
9回	授業の進め方 視覚障害者の状況(1) 〈視覚障害とは〉 点字とは(歴史・概要)	授業計画、授業方法、予習・復習、成績の評価基準・方法等を知る。 視覚障害とは。 点字の歴史と概要。点字器の使い方と書き方のポイント。点字の組み 立てと点字50音。 【予習】テキストのp39、資料の「点字の概要」を読む。 【復習】点字50音の規則性を復習する。間違えた個所を確認する。 (中村)
10回	語の書き表し方(1) 〈かなづかい〉	点字特有の仮名遣い、間違えやすい仮名遣い 清音・濁音・拗音・特殊音の表し方と読み書き 【予習】テキストの該当箇所を読む。 【復習】点字の組み立てを復習する。間違えた個所を確認する。 (中村)
11回	語の書き表し方(2) 〈数字〉 書き方の実際 〈本文の書き方〉	文の書き方について。数字の表し方と読み書き 【予習】前回までの内容を再確認。テキストの該当箇所を読む。 【復習】仮名と数字の表記の違いを復習する。間違えた個所を確認す る。 (中村)
12回	語の書き表し方(3) 〈数字・アルファベット〉 〈記号類①〉	数字とアルファベットの表し方と読み書き 【予習】テキストの該当箇所を読む。 【復習】数字とアルファベットの規則の違いを復習する。間違えた個 所を確認する。 (中村)
13回	語の書き表し方(4) 〈記号類②〉 分かち書き(1) 〈文節分かち書き〉	文節分かち書きについて 記号類の表し方と読み書き 【予習】テキストの p 64-68を読む。 【復習】資料の「主な助詞・主な助動詞」を確認する。間違えた個所 を確認する。

		(中村)
14回	分かち書き(2) 〈複合語・固有名詞〉	複合語・固有名詞の分かち書き 【予習】テキストの p 64-68を読む。 【復習】テキストの該当箇所を再読する。間違えた個所を確認する。 身近にある文を点訳してみる。 (中村)
15回	分かち書き(3) 書き方の実際	本文、見出し、名刺などの書き方 【予習】テキストの p 70-72を読む。 【復習】身近にある文を点訳してみる。 (中村)
16回	視覚障害者の状況(2)	視覚障害者が利用できる福祉制度 視覚障害に関する各種器具・用具 視覚障害者とICT 視覚障害者への接し方。 【予習】資料の「参考資料」を読む。 【復習】学習した内容をノートにまとめる。 (中村)

本科目は、演習科目(1単位)ですので、準備学習15時間が必要になります。学習内容に記載された予習・復習を実践して内容の理解を深めてください。

成績評価の基準・方法

評価項目	S	A	В	С	D
【手話】	完全にない	若干不十分	不十分な点	到達目標の	到達目標を
1. 筆記·実技試験	しほぼ完全	な点は認め	は認められ	最低限を達	達成してい
2. 手話の形がきちんと表現出来ている	に到達目標	られるもの	るものの、	成してい	ない。
【点字】	を達成して	の、到達目	到達目標を	る。	
1. 点字特有の表記の理解	いる。	標を達成し	達成してい		
2. 点訳・墨訳の習熟度		ている。	る。		
100点法	90点以上	80点以上	70点以上	60点以上	59点以下

【手話】

·定期試験(筆記試験) 100 %

【点字】

- ・定期試験(筆記試験) (点訳・墨訳) 60%
- ・授業内課題(点訳・墨訳の習熟度を確認する課題。4回) 40%

教科書

【手話】

- ・『今すぐはじめる手話テキスト』,全日本ろうあ連盟,990円(税込)
- ・『初級練習帳 THE点字習得テキスト』米谷忠男、ジアース教育新社,943円

参考書等

- ・聴覚障害ってなんだろう? 社会福祉法人栃木県社会福祉協議会とちぎ視聴覚障害者情報センター
- ・要約筆記ってなんだろう? 社会福祉法人栃木県社会福祉協議会とちぎ視聴覚障害者情報センター

【点字】

- ・『日本点字表記法 2018年版』日本点字委員会編集、博文館新社、1540円
- ・『何かお手伝いしましょうか』立花明彦著、産学社、1320円

配布資料

【点字】

・資料、点字版50音表、点字資料 *資料は講座開始前に配布。その他は演習初回(9回)に配布。

履修上の注意・学習支援

【点字】教科書、資料、点字器、点字用紙を必ず持参すること。

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
21HC2SE35	生活支援技術VIII 休息・睡眠・終末期	2年	後期	演習	1	阿部 正昭

利用者主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を学ぶ。対象者の能力を活用・発揮し、自立を支援するための生活支援技術を習得する。

本単元では、<u>自立に向けた休息・睡眠の介護</u>と、<u>人生の最終段階における介護</u>の方法を実践的に 学習する。自分の意向を伝えることが難しい利用者の尊厳を保持し、適切な支援を行うための知 識と技術を習得する。

異常を早期発見するための観察の視点を知り、予防策や支援の方法、改善策を学び実践する。また、緊急時の対応方法を学び、落ち着いて対応することができる能力を培う。

授業内では、学んだ知識や技術を演習形式で実際に行う。授業内での生活支援技術を実践する中で、自身の課題に気づき、後の実習や介護業務に必要な理論と技術が身につけられる。

到達目標(学習の成果)

- ・介護現場で求められる必要な生活支援技術に関する知識や技術を習得し、一人一人の利用者の 状態に応じ
 - た支援を実践することができる (知識・技術・態度)。
- ・休息・睡眠の介護と、終末期の利用者への支援の方法について理解し、実践することができる 能力を有している(知識・技術・態度)。

		授業計画
日	表題	学習内容
1 回	授業の進め方 多職種協働	授業計画、授業方法、予習・復習、成績の評価基準・方法等を知る。 適切な生活支援を実施するための多職種との報告・連絡・相談の必要性 について学ぶ。 予習 : 介護の基本II教科書を参考に、多職種を調べてくる。 復習 : 配付資料や教科書を読み、用語を説明できるようにする。
2 回	安楽な休息・睡眠の介護①	自立に向けた休息・睡眠の介護について学ぶ。睡眠障害とその支援の方法について学ぶ。 予習 : 生活支援技術 II 教科書の第5章を読んでくる。 復習 : 配付資料や教科書を読み、用語を説明できるようにする。
3回	安楽な休息・睡眠の介護②	利用者が臥床している状態でのシーツ交換を行う方法及び技術を学ぶ。 予習 : 生活支援技術 I 教科書の p125 を読んでくる。 復習 : 配付資料や教科書を読み、用語を説明できるようにする。
4回	安楽な睡眠のための介護③	利用者が臥床している状態でのシーツ交換を実践する。 予習 : 生活支援技術 II 教科書の p238-241 を読んでくる。 復習 : 配付資料や教科書を読み、用語を説明できるようにする。
5 回	安楽な睡眠のための介護④	エアマット使用方法と留意点を知り、ベッドメイキングを実践する。 予習 : 生活支援技術 I 教科書の p133-134 を読んでくる。 復習 : 配付資料や教科書を読み、用語を説明できるようにする。
6 回	人生の最終段階における介 護①	終末期の意思決定のあり方を学び、介護の方法について理解する。 予習 : 生活支援技術 II 教科書の第6章1節を読んでくる。 復習 : 配付資料や教科書を読み、用語を説明できるようにする。
7回	人生の最終段階における介 護②	エンゼルケア・グリーフケア・デスカンファレンスの意義を理解し、「死」 受け止める過程について学ぶ。 予習 : 生活支援技術Ⅱ教科書の第6章2-3節を読んでくる。 復習 : 配付資料や教科書を読み、用語を説明できるようにする。
8回	安楽な食事介護①	ベッド上臥位での食事介助の留意点を学び、介助する技術を習得する。 予習 : 生活支援技術Ⅱ教科書のp90-94を読んでくる。 復習 : 配付資料や教科書を読み、用語を説明できるようにする。
9回	安楽な食事介護②	ベッド上臥位での食事介助体験し、適切な支援の方法を学ぶ。 予習 : 生活支援技術 II 教科書の p95-99 を読んでくる。 復習 : 配付資料や教科書を読み、用語を説明できるようにする。

		消防署の専門家による救命救急の方法についての知識を学ぶ。
10 回	緊急時の対応①	予習 : 生活支援技術 I 教科書の第 6 章を読んでくる。
		復習 : 配付資料や教科書を読み、用語を説明できるようにする。
		消防署の専門家による救命救急の技術を学び実践する。
11 回	緊急時の対応②	予習 : 生活支援技術 I 教科書の第 6 章を読んでくる。
		復習 : 配付資料や教科書を読み、用語を説明できるようにする。
		応急手当の知識と技術について理解を深める。
12 回	緊急時の対応③	予習 : 生活支援技術 I 教科書の第 6 章を読んでくる。
		復習 : 配付資料や教科書を読み、用語を説明できるようにする。
		嘔吐物の処理に関する対応方法についての知識を学ぶ。
13 回	緊急時の対応④	予習 : 医療的ケア教科書の嘔吐に関する記述を読んでくる。
		復習 : 配付資料や教科書を読み、用語を説明できるようにする。
		被災地における生活支援の注意点と方法について学ぶ。
14 回	災害時における生活支援	予習 : 生活支援技術 I 教科書の第7章を読んでくる。
		復習 : 配付資料や教科書を読み、用語を説明できるようにする。
		生活支援技術の学びを振り返り、知識・技術を深める。
15 回	生活支援技術の振り返り	予習 : 授業の配布資料を読み、不明点を質問できるよう準備する。
		復習 : 配付資料や教科書を読み、用語を説明できるようにする。

本科目は、演習科目(1 単位)で、授業時間(30 時間)に加えて、15 時間の授業外学習(予習・復習)が必要となります。学習内容に記載された予習・復習を実践して内容の理解を深めることが求められています。

成績評価の方法・基準 (%表記)

評価項目	S	A	В	С	D
①居住環境の整備に関す	完全にない	若干不十分	不十分な点	到達目標の	到達目標を
る支援の実践(技術・	しほぼ完全	な点は認め	は認められ	最低限を達	達成してい
知識)	に到達目標	られるもの	るものの、到	成している。	ない。
②移動・移乗に関する支	を達成して	の、到達目標	達目標を達		
援の実践(技術・知識)	いる。	を達成して	成している。		
		いる。			
100 点法	90 点以上	80 点以上	70 点以上	60 点以上	59 点以下

成績は、中間試験(実技)50%と定期試験(レポート)50%で評価する。

教科書

最新・介護福祉士養成講座 『生活支援技術 I』 中央法規 2021年 2,420円 最新・介護福祉士養成講座 『生活支援技術 II』 中央法規 2021年 2,420円

参考書等

なし。

履修上の注意・学習支援

- ・積極的に演習に参加すること。
- ・演習室には、決められた服装に着替えて入室すること。

オフィスアワー

疑問等があれば、授業前後及びオフィスアワーを活用すること。事前予約の上、日時を決定する。

実務経験のある教員による授業科目

[実務経験の概要]

介護福祉士として、特別養護老人ホームで利用者への介護や生活支援に関する業務に従事してきた。

[実務経験と授業科目との関連性]

介護現場における実践経験は、本科目の授業内容と関連性が非常に高く、実例を踏まえて適宜発信していく 事ができる。

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
21HC1SE36	リハビリテーション	1年	後期	演習	1	髙橋 一将

自己および他者を尊重した支援を行うために必要な知識の一つとして、リハビリテーションの理念と基本原則を理解することを目的とし、障害や疾患の特徴について、具体的な例を挙げながら講義をしていく。 アクティブラーニングとしてディスカッションを行う。

到達目標(学習の成果)

- 1. 「リハビリテーション」の考え方と実践方法について、適切に理解することができる。(知識)
- 2. 「リハビリテーション」の理念を自らの専門領域と関連付けて説明することができる。 (知識・技術)
- 3. その人らしい生活の支援ができる介護福祉専門職として「リハビリテーション」を活用できる。 (知識・技術)

田	表題	学習内容
1回	授業の進め方 リハビリテーション:歴史と理 念、国際分類	授業計画、授業方法、予習・復習・成績評価の方法等を理解する。 リハビリテーションの歴史的な成り立ちや理念について理解する。 予習:自己紹介を考えておくこと 復習:リハビリテーションの歴史について自身で調べること
2日	国際障害分類と国際生活機能分 類、障害受容について	障害を国際障害分類 (ICIDH) と国際生活機能分類 (ICF) に基づき解説し、障害受容の過程について概説する(小テスト1)。 予習:該当する章について教科書を良く読んでおくこと 復習:小テストの不正解分に関して理解を深めること
3回	映画に観るリハビリテーション (1)	アクティブラーニング:脊髄損傷を受傷した主人公を題材とした映画 を視聴し、中途障害者の心身の経過を学ぶ。 予習:障害受容について理解を深めること 復習:グループワークの内容を再確認すること
4回	映画に観るリハビリテーション (2)	アクティブラーニング:前回視聴した映画をもとに、主人公の心身の変化や自身の専門領域への活用をディスカッションする。 予習・復習:共に同上
5 回	リハビリテーションの基礎知識	リハビリテーションの理解に必要な基礎知識 (解剖生理学) を学ぶ。 予習:該当する章について教科書を良く読んでおくこと 復習:興味を持った領域について調べること
6 回	リハビリテーションの基礎知識 2	リハビリテーションの理解に必要な基礎知識(運動学)を学ぶ。(小テスト2) 予習:該当する章について教科書を良く読んでおくこと 復習:小テストの不正解分に関して理解を深めること
7 回	脳血管障害のリハビリテーショ ン	脳血管障害の病態・症状と支援・環境整備について理解する。 予習:該当する章について教科書を良く読んでおくこと 復習:興味を持った領域について調べること
8回	運動器疾患のリハビリテーショ ン	運動器疾患の病態・症状と支援・環境整備について理解する。(小テスト3) 予習:該当する章について教科書を良く読んでおくこと 復習:小テストの不正解分に関して理解を深めること

9回	映画に観るリハビリテーション (3)	アクティブラーニング:運動器疾患(外傷)の主人公を題材とした映画 を視聴し、回復を含めた心身の経過を学ぶ。 予習:障害受容について理解を深めること 復習:グループワークの内容を再確認すること
10回	映画に観るリハビリテーション (4)	アクティブラーニング:前回視聴した映画をもとに、主人公の心身の変化や自身の専門領域への活用をディスカッションする。 予習・復習:共に同上
11回	疾患別リハビリテーション1	ケアの現場で出会う頻度の高い疾患(生活不活発病、パーキンソン病、脊髄損傷)の支援・環境整備について理解する。 予習:該当する章について教科書を良く読んでおくこと 復習:興味を持った領域について調べること
12回	疾患別リハビリテーション2	ケアの現場で出会う頻度の高い疾患(認知症など)の支援・環境整備について理解する(小テスト4)。 予習:該当する章について教科書を良く読んでおくこと 復習:小テストの不正解分に関して理解を深めること
13回	行動リハビリテーションと介護 場面への応用	重症例や困難例へのリハビリテーション・介護場面での対応を学ぶ。 予習:該当する章について教科書を良く読んでおくこと 復習:興味を持った領域について調べること
14回	基本動作と介助方法 (演習)	ケア場面で自身の心身を守るため、力学・運動学に基づき、身体負担の少ない基本動作介助の原則について理解する(演習、小テスト5)。 予習:該当する章について教科書を良く読んでおくこと 復習:小テストの不正解分に関して理解を深めること
15回	まとめ	1~14回の講義内容のまとめと復習。定期試験でも求められる総合的な知識の整理を行い、理解を深める。 予習:これまでの講義内容を整理すること 復習:定期テストや国家試験対策を含め総合的に整理すること

本科目は、演習科目(1単位)ですので、準備学習15時間が必要になります。

- 1. 事前学習:授業計画で示された教科書の範囲を読み込むこと。
- 2. 事後学習:次の授業までに、前回の学修内容を復習しておくこと。

成績評価の基準・方法

評価項目	S	A	В	С	D
1. リハビリテーション・障がいの捉え	完全にない	若干不十分	不十分な点	到達目標の	到達目標を
方の理念と歴史を、国際分類の変化と	しほぼ完全	な点は認め	は認められ	最低限を達	達成してい
共に理解する。	に到達目標	られるもの	るものの、	成してい	ない。
2. リハビリテーションの基礎知識を理	を達成して	の、到達目	到達目標を	る。	
解する。	いる。	標を達成し	達成してい		
3. 各疾患のリハビリテーションを理解		ている。	る。		
し、自身の領域と関連して説明でき					
る。					
100点法	90点以上	80点以上	70点以上	60点以上	59点以下

・定期試験(筆記試験):100%(60 点以上取ることを基準とする)

教科書

・『PT・OT・ST・ナースを目指す人のためのリハビリテーション総論』 椿原 彰夫 (編) 診断と治療社 2023 年 3,600 円 (改訂第4版)

参考書等

- ・『ICF 国際生活機能分類』 障害者福祉研究会(編) 中央法規出版 2002 年 3,675 円
- ・『絵でみる脳と神経』馬場元穀 第 3 版 2009 年 2,940 円

履修上の注意・学習支援

授業中の録音・撮影・携帯端末の使用は原則認めない。私語や居眠りを慎み、マナーを守ること。

オフィスアワー

疑問があれば、オフィスアワー(原則、講義終了後 15 分間程度、1 号館 1 階「講師教員センター」)を利用すること。(事前予約(ktakahashi.pt@ujc.ac.jp)が望ましい)。

実務経験の概要

理学療法士の資格取得後、大学院での研究活動、病院・老健・特養でのリハビリテーション業務に従事。病院においては、脳血管障害、運動器疾患、呼吸器疾患のリハビリテーションを担当。高齢者施設では介護保険下での高齢者のリハビリテーション業務に従事。

実務経験と科目との関連性

研究領域のみでなく、臨床(現場)レベルでの実務も行っており、特に高齢者の生活期リハビリテーションにおいては、介護・福祉領域と密接な関連性があるため、実際の症例の情報(経過や特徴的な症状の動画など)を具体的に示すことで、より実際に近い対象者像やニーズの理解を促す。

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
21HC2SE37	栄養調理	2 年	後期	演習	1	土橋 典子

食事の意義と目的を理解する。特に、介護を必要とする利用者がどのような状態であっても、食生活において自立・自律した生活ができるように、「おいしく食べる」ことと「調理する」ことを中心として、その支援方法について理解を深める。具体的には、食事に関する利用者のアセスメント方法、おいしく食べるための様々な介護の工夫、利用者の身体機能・疾病に応じた食事形態や調理方法、利用者自身の調理支援方法などについて学修する。

到達目標(学習の成果)

- 1. 喫食者の必要に応じた調理方法を理解し説明できる(知識)
- 2. 利用者の食事に関するアセスメントを行い、自立に向けたおいしく食べるための工夫、身体機能・疾病に応じた調理支援ができるようになる(技術・態度)
- 3. 福祉専門職として福祉の現場で個々の利用者のニーズに対し、臨機応変に活用できるようになる(態度)。

	DANIEL CONTRACTOR OF THE PROPERTY OF THE PROPE					
回	表題	学習内容				
1回	授業の進め方 調理支援のために心がけること	授業計画、授業方法、予習・復習、成績の評価基準・方法等を知る。 「食事」の意義と目的を理解する。教科書1章 予習:本科目のシラバスの記載内容について読んでおくこと。 復習:教科書を読むこと。				
2回	調理の基本(献立作成、計量)	調理の基本についてまなぶ。献立作成、調味料の計量、乾物の戻り方などについて。教科書5章 予習:次回学習する章を、教科書でよく読んでおくこと。 復習:教科書の該当部分を読み、指定された課題を提出する。				
3回	調理支援の実際	介護食の調理について学ぶ(軟菜食・ミキサー食)教科書6章 予習:次回学習する章を、教科書でよく読んでおくこと。 復習:教科書の該当部分を読み、指定された課題を提出する。				
4回	調理の基本(食材の切り方)	食材の切り方、栄養価、時間配分の目安、特徴について学ぶ。(和風の献立①)教科書7章 予習:次回学習する章を、教科書でよく読んでおくこと。 復習:教科書の該当部分を読み、指定された課題を提出する。				
5 回	調理の基本(調味の割合)	調味の割合、形態別調理について学ぶ。(和風の献立②)教科書8章 予習:次回学習する章を、教科書でよく読んでおくこと。 復習:教科書の該当部分を読み、指定された課題を提出する。				
6 回	調理の基本(嚥下食)	嚥下食について学ぶ。(和風の献立③)教科書9章 予習:次回学習する章を、教科書でよく読んでおくこと。 復習:教科書の該当部分を読み、指定された課題を提出する。				
7回	洋風の献立について	洋風の献立について学ぶ。在宅介護や施設介護における調理活動の支援について学ぶ。教科書10章 予習:次回学習する章を、教科書でよく読んでおくこと。 復習:教科書の該当部分を読み、指定された課題を提出する。				
8回	調理活動の支援	洋風の献立について学ぶ。在宅介護や施設介護における調理活動の支援について学ぶ。教科書10,11章 予習:次回学習する章を、教科書でよく読んでおくこと。				

		復習:教科書の該当部分を読み、指定された課題を提出する。
9回	家庭にある食材を使って	家庭に常備してある食品を使用して献立作成、実習を行う。教科書12章。献立作成、食材の購入計画、調理支援方法の実際を確認する。教科書12章 予習:次回学習する章を、教科書でよく読んでおくこと。 復習:教科書の該当部分を読み、指定された課題を提出する。
10回	糖尿病食について	エネルギーのコントロール食について学ぶ。教科書13,14章 予習:次回学習する章を、教科書でよく読んでおくこと。 復習:教科書の該当部分を読み、指定された課題を提出する。
11回	腎臓病食について	エネルギーのたんぱく質コントロール食について学ぶ。教科書13,14章 予習:次回学習する章を、教科書でよく読んでおくこと。 復習:教科書の該当部分を読み、指定された課題を提出する。
12回	脂質や無機質のコントロールと 食物繊維の摂取について	脂質異常症、骨粗鬆症予防食、貧血食等について学ぶ。 教科書15、16章 予習:次回学習する章を、教科書でよく読んでおくこと。 復習:教科書の該当部分を読み、指定された課題を提出する。
13回	脂質や無機質のコントロールと 食物繊維の摂取について	脂質異常症等について学ぶ。 教科書15、16章 予習:次回学習する章を、教科書でよく読んでおくこと。 復習:教科書の該当部分を読み、指定された課題を提出する。
14回	脂質や無機質のコントロールと 食物繊維の摂取について	骨粗鬆症予防食、貧血食等について学ぶ。 教科書15、16章 予習:実技の小テストを行うため練習しておくこと。 復習:教科書の該当部分を読み、指定された課題を提出する。
15回	調理支援の実際(自主献立)	行事食・郷土食の献立。レクリエーション活動とおやつ作りについて 学ぶ。教科書17,18章 小テストを行う。 復習:実際に作成した献立について振り返りを行う。

演習(30時間1単位)は、15時間相当の準備学習が必要になります。 学修内容に記載された予習・復習課題を行い内容の理解を深めてください。

課題はクラスルームに提出すること。

成績評価の基準・方法

評価項目	S	A	В	C	D
1. 喫食者の必要に応じた調理方法を	完全にない	若干不十分	不十分な点	到達目標の	到達目標を
理解し説明できる	しほぼ完全	な点は認め	は認められ	最低限を達	達成してい
2. 身体機能・疾病に応じた調理支援が	に到達目標	られるもの	るものの、	成してい	ない。
できるようになる(技術・態度)	を達成して	の、到達目	到達目標を	る。	
	いる。	標を達成し	達成してい		
		ている。	る。		
100点法	90点以上	80点以上	70点以上	60点以上	59点以下

・定期試験(レポート試験)40%及び授業外の課題(レポート課題)50% 授業内の課題(実技小テスト)10%により評価する。

教科書

田崎裕美・百田裕子著,『改訂 生活支援のための調理実習 第4版』,建帛社,建帛社,2024年,2,310円

参考書等

奥田郁子編著, 『生活支援の基礎を学ぶ』, 建帛社, 2024年, 2, 750円

履修上の注意・学習支援

- ・調理実習の日は、エプロン、三角巾等、室内用運動靴を着用すること。
- ・学んだことを介護の現場でどのように応用していくか、常に考えながら学習すること。
- ・実習したことを自宅で繰り返し実践し、理解を深めて体得すること。

オフィスアワー

疑問等があれば、オフィスアワーを利用すること。事前予約 (dobashi@ujc. ac. jp) のうえ、時間を設定する。具体的な時間帯は追って指示する。

「実務経験の概要」

特別養護老人ホームに栄養士として勤務し献立作成、栄養指導を行った。地域の包括支援センター主催の研修会では講師を務め地域包括ケア会議では助言者として加わっている。

[実務経験と授業科目との関連性]

管理栄養士として、介護施設、デイサービスでの栄養、調理指導の経験は、本科目の授業内容との関連性が非常に深く実践的な学習内容を指導することができる。

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
21HC1SE38	こころとからだの しくみ I	1年	前期	講・演	1	益川 順子

授業概要:介護を必要とする人の生活支援をするという観点から、人間の心理、健やかな生活を踏まえた人間の 欲求、自己概念、尊厳、 思考、感情の仕組みなどの精神構造及び機能について統合的にとらえるための知識を養 う。

到達目標(学習の成果)

- 1. 人間の心理的な働きに関する基礎的な概念が理解できる。 (知識)
- 2. 福祉専門職として大切な心のしくみを理解した上で、多様な環境に生きる利用者の心理特性を理解し、支援に必要な関わりについて思考及び分析ができる。 (知識、態度)

回	表題	学習内容					
1回	授業の進め方 こころのしくみを学ぶ意義	授業計画、授業方法、予習、復習、成績の評価基準・方法等を知る こころのしくみを学ぶ意義の理解 【予習】健康問題に関する新聞記事の検索 【復習】上記新聞記事の要約・考察					
2回	健康観	健康観の定義、健康概念 【予習】テキスト該当部分を調べる【復習】講義内容の考察					
3回	人間の欲求の基本的理解	援助に影響する要因としての欲求について考える 【予習】テキスト該当部分を調べる 【復習】講義内容の考察					
4回	自己概念に影響する要因①	歴史的背景と生活環境から生涯発達との関連で自己概念の形成理解 【予習】テキスト該当部分を調べる 【復習】講義内容の考察					
5回	自己概念に影響する要因②	乳児期から老年期における成長発達過程と自己概念の形成及び高齢者援助との関係の理解 【予習】テキスト該当部分を調べる 【復習】講義内容の考察					
6 回	自己概念と尊厳 ①	乳幼児期、児童期の自己概念の発達から援助のあり方を考える 【予習】テキスト該当部分を調べる 【復習】講義内容の考察					
7 回	自己概念と尊厳②	自己実現の尊厳について考える 【予習】テキスト該当部分を調べる 【復習】講義内容の考察					
8回	こころのしくみの基礎 ①	人間理解のモデル概略を理解し、性格とは何かについて考える 【予習】テキスト該当部分を調べる 【復習】講義内容の考察					
9回	こころのしくみの基礎 ②	「感情とともにある人生・人間」を理解し、感情(情動・気分・情緒)とは何かを考える 【予習】テキスト該当部分を調べる 【復習】講義内容の考察					
10回	こころのしくみの基礎③	欲求と動機づけの諸理論について理解し、介護援助場面での利用者の 葛藤や欲求不満について考える 【予習】テキスト該当部分を調べる 【復習】講義内容の考察					
11回	こころのしくみの基礎④	感覚・知覚・認知について理解し、「人間 (利用者)」の精神活動について関心をもつ大切さの理解 【予習】テキスト該当部分を調べる 【復習】講義内容の考察					

12回	こころのしくみの基礎⑤	学習と記憶、知能・創造性・思考のメカニズムについて理解し、「人間」(利用者)の精神活動について関心を深め、援助行動との関係について考える 【予習】テキスト該当部分を調べる 【復習】講義内容の考察
13回	こころのしくみの基礎⑥	共感の重要性と難しさの理解と考察 【予習】テキスト該当部分を調べる 【復習】講義内容の考察
14回	こころのしくみの基礎⑦	対人関係と他者の影響がもたらす利用者への諸影響についての理解と 考察 【予習】テキスト該当部分を調べる 【復習】講義内容の考察
15回	こころのしくみの基礎®	ストレスが心身に及ぼす影響について考える。 【予習】テキスト該当部分を調べる 【復習】講義内容の考察

本科目は、講義・演習科目(1単位)の為、授業時間以外に15時間の授業外学習が必要になります。 学習内容に記載された予習・復習を実践して内容の理解を深めてください。

成績評価の基準・方法

評価項目	S	A	В	С	D
1. 人間の心理的な働きに関する基礎	完全にない	若干不十分	不十分な点	到達目標の	到達目標を
的な概念が理解	しほぼ完全	な点は認め	は認められ	最低限を達	達成してい
2. 福祉専門職として大切な心のしく	に到達目標	られるもの	るものの、	成してい	ない。
みを理解した上で、多様な環境に生き	を達成して	の、到達目	到達目標を	る。	
る利用者の心理特性の理解と支	いる。	標を達成し	達成してい		
援に必要な関わりについての思考及び		ている。	る。		
分析					
100点法	90点以上	80点以上	70点以上	60点以上	59点以下

- ・定期試験 (レポート試験) 50%
- ・授業内課題(学習内容の要約や専門用語を適切に説明できるかを確認する課題、リアクションペーパー)50%

教科書

介護福祉士養成講座編著『最新介護福祉士養成講座「こころとからだのしくみ」』中央法規、2022年、2860円

参考書等

安田陸男『老いと暮らす』岩波書店、1998年、1760円

履修上の注意・学習支援

自由闊達、積極的な発言を求める。日頃から身近な介護や福祉の問題についての新聞や各種ニュースを読んでおくこと。

オフィスアワー

質問等があれば、授業前後及びオフィスアワーを利用すること(事前予約の上、時間を設定する)。 *連絡先: masukawa@u.jc. ac. jp

実務経験の概要

看護師として、大学病院等の医療機関において、患者の医療や生活を含む看護に関する業務に従事してきた。

実務経験と科目との関連性

医療機関等における看護の実務経験は、本科目の授業内容との関連性が非常に高く、現場での実務経験を活かした講義が実施できる。また、関連する科目とも深い関連性がある。

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
21HC1SE39	こころとからだの しくみⅡ	1年	前期	講・演	1	益川 順子

介護を必要とする人の生活支援をするという観点から、人間の人体と構造の機能の基礎的な知識や概念の理解を深め、根拠の基づく介護の実践ができる能力を養う。

到達目標(学習の成果)

- 1. 人体の構造と機能が理解できる(介護に必要な解剖生理学) (知識)。
- 2. 福祉専門職として基本的知識をもとに、実践及び支援に必要な能力を習得できる(知識、態度)。

回	表題	学習内容
1回	授業の進め方 からだのしくみの理解 (1)	授業計画、授業方法、予習・復習、成績の評価基準・方法等を知る 生命の維持・ホメオスタシス(恒常性)の仕組み 【予習】テキスト該当部分を調べる 【復習】講義内容の考察
2 回	からだのしくみの理解 (2)	生命活動を表す基礎的情報 (バイタルサイン) 観察の視点① 【予習】テキスト該当部分を調べる 【復習】講義内容の考察
3回	からだのしくみの理解 (3)	生命活動を表す基礎的情報 (バイタルサイン) 観察の視点② 【予習】テキスト該当部分を調べる 【復習】講義内容の考察
4回	からだのしくみの理解 (4)	人体の構造(神経系)を理解 【予習】テキスト該当部分を調べる 【復習】講義内容の考察
5回	からだのしくみの理解 (5)	人体の構造(骨・筋肉系)を理解 【予習】テキスト該当部分を調べる 【復習】講義内容の考察
6 旦	からだのしくみの理解 (6)	人体の構造(感覚器系:視覚器・平衡聴覚器)を理解 【予習】テキスト該当部分を調べる 【復習】講義内容の考察
7 回	からだのしくみの理解 (7)	人体の構造(感覚器系:嗅覚器・味覚器・皮膚感覚器)の理解 【予習】テキスト該当部分を調べる 【復習】講義内容の考察
8回	からだのしくみの理解 (8)	人体の構造(呼吸器系)の理解 【予習】テキスト該当部分を調べる 【復習】講義内容の考察
9回	からだのしくみの理解 (9)	人体の構造(消化器系)の理解 【予習】テキスト該当部分を調べる 【復習】講義内容の考察
10回	からだのしくみの理解 (10)	人体の構造(泌尿器・生殖器系)の理解 【予習】テキスト該当部分を調べる 【復習】講義内容の考察
11回	からだのしくみの理解 (11)	人体の構造(循環器系・内分泌系)の理解 【予習】テキスト該当部分を調べる 【復習】講義内容の考察
12回	からだのしくみの理解 (12)	肺循環と体循環、血液の仕組みの理解 【予習】テキスト該当部分を調べる 【復習】講義内容の考察
13回	からだのしくみの理解 (13)	ボディメカニックス、関節可動域と関節運動について学ぶ 【予習】テキスト該当部分を調べる 【復習】講義内容の考察

14回	からだのしくみの理解 (14)	人体の構造と各器官のまとめ 【予習】テキスト該当部分を調べる 【復習】講義内容の考察
15回	からだのしくみの理解 (15)	こころとからだの健康意義 【予習】心身の健康問題について調べる 【復習】講義内容の考察

本科目は、講義・演習科目(1単位)の為、授業時間以外に15時間の授業外学習が必要になります。

- ・学習内容に記載された予習・復習を実践して内容の理解を深めてください。
- ・講義で提示配布されたワークについて、記述要約してくること。
- ・講義の振り返り及び自分考察したものをまとめること。

成績評価の基準・方法

評価項目	S	A	В	С	D
1. 人体の構造と機能の理解(介護に	完全にない	若干不十分	不十分な点	到達目標の	到達目標を
必要な解剖生理学)	しほぼ完全	な点は認め	は認められ	最低限を達	達成してい
2. 福祉専門職として基本的知識をも	に到達目標	られるもの	るものの、	成してい	ない。
とに、実践及び支援に必要な能力の習	を達成して	の、到達目	到達目標を	る。	
得	いる。	標を達成し	達成してい		
		ている。	る。		
100点法	90点以上	80点以上	70点以上	60点以上	59点以下

- ・定期試験(期末レポート試験)50%
- ·授業内課題(4回)50%

教科書

介護福祉士養成講座編、最新介護福祉士養成講座『こころとからだのしくみ』中央法規、2022年、2860円

参考書等

いとう総研『介護福祉士国試ナビ』中央法規、2024年、2400円

履修上の注意・学習支援

自己覚知・他者への共感的理解を探究し、自由闊達、積極的な発言を求める。日頃から身近な医療や福祉の問題についての新聞や各種ニュースを読んでおくこと。

オフィスアワー

質問等があれば、授業前後及びオフィスアワーを利用すること(事前予約の上、時間を設定する) *連絡先: masukawa@ujc. ac. jp

実務経験の概要

看護師として、大学病院等の医療機関において、患者の医療や生活を含む看護に関する業務に従事してきた。

実務経験と科目との関連性

医療機関等における看護の実務経験は、本科目の授業内容との関連性が非常に高く、現場での実務経験を活かした講義が実施できる。また、関連する科目とも深い関連性がある。

科目	番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
21HC	C1SE40	こころとからだの しくみ Ⅲ	1 年	後期	講・演	1	益川 順子

- ・介護を必要とする人の生活支援をするという観点から、人体と構造の機能を介護実践との関連の中で、知識や概念を学び理解を深める。
- ・多様化している介護ニーズに応えるための根拠となる人体の生理機能「こころとからだのしくみ」の基礎について学ぶ。

到達目標(学習の成果)

- 1. 介護に必要な人体の構造と機能を理解し、こころとからだのしくみと日常生活との相互関係の説明ができる (知識、技術、態度)。
- 2. 福祉専門職として、基本的知識をもとに実践する態度と倫理観を身につけている(知識、技術、態度)。

	士 睹	% ZZI H- /축
回	表題 	学習内容
1 回	授業の進め方 身じたくに関連したこころから だのしくみ (1)	授業計画、授業方法、予習・復習、成績の評価基準・方法等を知る 身じたくを整える意義と感染予防の理解 【予習】テキスト該当部分を調べる 【復習】講義内容の考察
2回	身じたくに関連したこころとか らだのしくみ (2)	心身の機能低下と障害が身じたくに及ぼす影響の理解 【予習】テキスト該当部分を調べる 【復習】講義内容の考察
3回	移動に関連したこころとからだ のしくみ (1)	移動行為の意義と生理的意味の理解 【予習】テキスト該当部分を調べる 【復習】講義内容の考察
4回	移動に関連したこころとからだ のしくみ (2)	心身の機能低下と障害が移動行為に及ぼす影響の理解 【予習】テキスト該当部分を調べる 【復習】講義内容の考察
5回	食事に関連したこころとからだ のしくみ (1)	食べることの意義と生理的意味の理解 【予習】テキスト該当部分を調べる 【復習】講義内容の考察
6 回	食事に関連したこころとからだ のしくみ (2)	心身の機能低下と障害が食事に及ぼす影響の理解 【予習】テキスト該当部分を調べる 【復習】講義内容の考察
7 回	入浴・清潔に関連したこころと からだ (1)	清潔保持の生理的意味と皮膚の構造の理解 【予習】テキスト該当部分を調べる 【復習】講義内容の考察
8回	入浴・清潔に関連したこころと からだのしくみ (2)	心身の機能低下と障害が清潔保持に及ぼす影響についての理解 【予習】テキスト該当部分を調べる 【復習】講義内容の考察
9回	排泄に関連したこころとからだ のしくみ (1)	排泄の生理的意味の理解 【予習】テキスト該当部分を調べる 【復習】講義内容の考察
10回	排泄に関連したこころとからだ のしくみ (2)	心身の機能低下と障害が排泄に及ぼす影響についての理解 【予習】テキスト該当部分を調べる 【復習】講義内容の考察
11回	休息・睡眠に関連したこころと からだのしくみ (1)	睡眠の生理的意味の理解 【予習】テキスト該当部分を調べる 【復習】講義内容の考察
12回	睡眠に関連したこころとからだ のしくみ (2)	心身の機能低下と障害が睡眠に及ぼす影響についての理解 【予習】テキスト該当部分を調べる 【復習】講義内容の考察

13回	人生の最終段階のケアに関連したこころとからだのしくみ(1)	「死」の概念と「死」に対するこころの理解 【予習】テキスト該当部分を調べる 【復習】講義内容の考察
14回	人生の最終段階のケアに関連したこころとからだのしくみ(2)	終末期から危篤状態の心身の変化、死後のからだの変化の理解 【予習】テキスト該当部分を調べる 【復習】講義内容の考察
15回	人生の最終段階のケアに関連したこころとからだのしくみ (3)	終末期における医療職と介護職との連携の重要性を理解したチームケア 【予習】テキスト該当部分を調べる 【復習】講義内容の考察

本科目は、講義・演習科目(1単位)の為、授業時間以外に15時間の授業外学習が必要になります。 学習内容に記載された予習・復習を実践して内容の理解を深めてください。 講義で提示配布されたワークについて、記述要約してくること。 講義の振り返り及び自分考察したものをまとめること。

成績評価の基準・方法

評価項目	S	A	В	С	D
1. 介護に必要な人体の構造と機能を	完全にない	若干不十分	不十分な点	到達目標の	到達目標を
理解し、こころとからだのしくみと日	しほぼ完全	な点は認め	は認められ	最低限を達	達成してい
常生活との相互関係の理解と説明	に到達目標	られるもの	るものの、	成してい	ない。
2. 福祉専門職として、基本的知識を	を達成して	の、到達目	到達目標を	る。	
もとに実践する態度の習得	いる。	標を達成し	達成してい		
		ている。	る。		
100点法	90点以上	80点以上	70点以上	60点以上	59点以下

- ・定期試験(期末レポート試験)50%
- · 授業内課題 (4回) 50%

教科書

介護福祉士養成講座編、最新介護福祉士養成講座『こころとからだのしくみ』中央法規、2022、2860円

参考書等

山本健人著『すばらしい医学』ダイヤモンド社、2023年、1870円

履修上の注意・学習支援

介護をする上の必要な知識、概念の習熟定着を図るためのワークや確認テストを随時実施する。 自由闊達、積極的な発言を求める。日頃から身近な福祉や介護の問題についての新聞や各種ニュースを読ん でおくこと。

オフィスアワー

質問等があれば、授業前後及びオフィスアワーを利用すること(事前予約の上、時間を設定する)。 *連絡先:masukawa@ujc.ac.jp

「実務経験の概要]

看護師として、病院等の医療機関において患者の医療や生活を含む看護に関する業務に従事してきた。

[実務経験と科目との関連性]

医療機関等における看護の実務経験は、本科目の授業内容との関連性が非常に高く、現場での実務 経験を活かした講義が実施できる。また、関連する科目とも深い関連性がある。

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
21HC1SE41	こころとからだの しくみ IV	1年	後期	講・演	1	益川 順子

・介護を必要とする人の生活支援をするという観点から、多様化している利用者の機能低下、障害をもたらす疾病の理解および心身の異変に気づく根拠と知識について学ぶ。

到達目標(学習の成果)

- 1. 利用者と関わる上で必要な各領域の基礎的な疾病について理解し説明できる(知識)。
- 2. その疾病による機能低下及び障害が利用者の生活に及ぼす影響について考えることができる(知識、態度)。
- 3. 福祉専門職として基本的知識をもとに利用者に適した介護を実践する態度と倫理観を身につけている(知識、態度)。

旦	表題	学習内容
1回	授業の進め方 機能低下・障害が及ぼす生活 への諸影響	授業計画、授業方法、予習・復習、成績の評価基準・方法等を知る機能低下・障害がもたらす生活への影響について考え、本講義を学ぶ 意義について理解する 【予習】テキスト該当部分を調べる 【復習】講義内容の考察
2回	機能低下・障害をもたらす原 因と身じたくへの影響	眼の機能低下、老化(爪・毛髪・口腔等)による変化と観察方法を学ぶ 【予習】テキスト該当部分を調べる 【復習】講義内容の考察
3回	機能低下・障害をもたらす原 因と移動への影響①	機能低下と活動低下の移動行為との関連についての理解 【予習】テキスト該当部分を調べる 【復習】講義内容の考察
4回	機能低下・障害がもたらす移 動への影響②	褥瘡の原因と分類について理解し、予防法について考える 【予習】テキスト該当部分を調べる 【復習】講義内容の考察
5 回	機能低下・障害がもたらす食 事への影響①	嚥下障害に起因する脳血管障害や原疾患についての理解 【予習】テキスト該当部分を調べる 【復習】講義内容の考察
6 回	機能低下・障害がもたらす食 事への影響②	嚥下障害とその影響についての観察視点を理解し対応を考える 【予習】テキスト該当部分を調べる 【復習】講義内容の考察
7回	機能低下・障害がもたらす清 潔への影響①	疾患が清潔保持に及ぼす影響について考える 【予習】テキスト該当部分を調べる 【復習】講義内容の考察
8回	機能低下・障害がもたらす清 潔への影響②	疾患をもつ利用者の身体的影響と清潔行動との関連について理解し対 応について考える 【予習】テキスト該当部分を調べる 【復習】講義内容の考察
9回	機能低下・障害がもたらす排 泄への影響①	下痢・便秘及び尿の異常と尿路感染症についての対応と理解 【予習】テキスト該当部分を調べる 【復習】講義内容の考察
10回	機能低下・障害がもたらす排 泄への影響②	排泄現象の異常に気づく観察視点について理解し対応について考える 【予習】テキスト該当部分を調べる 【復習】講義内容の考察
11回	機能低下・障害がもたらす睡 眠への影響①	疾患に関連する睡眠障害についての理解 【予習】テキスト該当部分を調べる 【復習】講義内容の考察
12回	機能低下・障害がもたらす睡 眠への影響②	睡眠障害と観察視点について理解し対応を考える 【予習】テキスト該当部分を調べる 【復習】講義内容の考察

13回	死に向かう心の影響①	「死」に対する心理プロセスを理解し、受容について考える 【予習】テキスト該当部分を調べる 【復習】講義内容の考察
14回	死に向かう心の理解②	終末期、危篤時、臨終期の医療の実際についての理解 【予習】テキスト該当部分を調べる 【復習】講義内容の考察
15回	終末期における介護の役割	終末期の理解と医療・家族との連携方法を学ぶ 【予習】テキスト該当部分を調べる 【復習】講義内容の考察

本科目は、講義・演習科目(30時間1単位)の為、授業時間以外に15時間相当が必要になります。

- ・学習内容に示した事項に関連する資料・プリント等を予め読んでまとめてくること。
- ・講義で提示配布されたワークについて、記述要約してくること。
- ・講義の振り返り及び自分考察したものをまとめること。

成績評価の基準・方法

評価項目	S	A	В	С	D
1. 利用者と関わる上で必要な各領域の	完全にない	若干不十分	不十分な点	到達目標の	到達目標を
基礎的な疾病についての理解	しほぼ完全	な点は認め	は認められ	最低限を達	達成してい
2. その疾病による機能低下及び障害	に到達目標	られるもの	るものの、	成してい	ない。
が利用者の生活に及ぼす影響について	を達成して	の、到達目	到達目標を	る。	
考えることができる	いる。	標を達成し	達成してい		
3. 福祉専門職として基本的知識をも		ている。	る。		
とに利用者に適した介護を実践する態					
度の習得					
100点法	90点以上	80点以上	70点以上	60点以上	59点以下

- ・定期試験(期末レポート試験)50%
- ·授業内課題(4回)50%

教科書

介護福祉士養成講座編、最新介護福祉士養成講座『こころとからだのしくみ』中央法規、2022年、2860円

参考書等

ダニエル F. チャンブリス著、浅野祐子訳『ケアの向こう側』日本看護協会出版会、2002年、3300円

履修上の注意・学習支援

介護をする上の必要な知識、概念の習熟定着を図るためのワークや確認テストを随時実施する。 自由闊達、積極的な発言を求める。日頃から身近な福祉や介護の問題についての新聞や各種ニュースを読ん でおくこと。

オフィスアワー

質問等があれば、授業前後及びオフィスアワーを利用すること(事前予約の上、時間を設定する)。 *連絡先: masukawa@u jc. ac. jp

[実務経験の概要]

看護師として、病院等の医療機関において患者の医療や生活を含む看護に関する業務に従事してきた。

[実務経験と科目との関連性]

医療機関等における看護の実務経験は、本科目の授業内容との関連性が非常に高く、現場での実務 経験を活かした講義が実施できる。また、関連する科目とも深い関連性がある。

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
21HC1SE42	発達と老化の理解 I	1年	前期	講義	2	益川 順子

人間の、生まれてから死ぬまでの成長・発達する過程を理解する。特に、老年期における発達課題や高齢者に多い症状・疾病の特徴、老化がもたらす高齢者の生活への影響を、身体的、精神的、社会的側面から捉え、老化に伴う変化の特徴とその対応について必要な知識を学び、介護の実践ができる能力を養う。

到達目標(学習の成果)

- 1. 老化に伴う身体の変化を理解し、言語化できる(知識)。
- 2. 高齢者に多い病気や症状の特徴を理解し、言語化できる(知識)。
- 3. 福祉専門職として、基本的な知識をもとに、対応できる態度と倫理観を身につけている(知識、態度)。

回	表題	学習内容
1回	授業の進め方 人間の成長と発達①	人間の成長と発達ついて理解する。 【予習】テキスト該当部分を調べる 【復習】講義内容の考察
2回	人間の成長と発達②	発達と個人差を理解する。 【予習】テキスト該当部分を調べる 【復習】講義内容の考察
3回	人間の成長と発達③	成長・発達に影響する要因(遺伝、ホルモン,環境)について理解する。 【予習】テキスト該当部分を調べる 【復習】講義内容の考察
4 回	老年期の発達と成熟	老化と老年期及び加齢を理解し、発達課題の留意点について考える。 【予習】テキスト該当部分を調べる 【復習】講義内容の考察
5回	人間の発達段階と発達課題①	発達理論、発達段階と発達課題について理解する。 【予習】テキスト該当部分を調べる 【復習】講義内容の考察
6 回	人間の発達段階と発達課題②	身体的機能の成長と発達について理解する。 【予習】テキスト該当部分を調べる 【復習】講義内容の考察
7 回	人間の発達段階と発達課題③	心理的機能の発達について理解する。 【予習】テキスト該当部分を調べる 【復習】講義内容の考察
8回	人間の発達段階と発達課題④	社会的機能について理解する。 【予習】テキスト該当部分を調べる 【復習】講義内容の考察
9 回	老年期の特徴と発達課題①	老年期の定義について理解する。 【予習】テキスト該当部分を調べる 【復習】講義内容の考察
10回	老年期の特徴と発達課題②	老化の特徴について理解する。 【予習】テキスト該当部分を調べる 【復習】講義内容の考察
11回	老年期の特徴と発達課題③	老年期の発達課題(人格と尊厳・老いの価値・喪失体験・セクシャリティ)について理解する。 【予習】テキスト該当部分を調べる 【復習】講義内容の考察
12回	老年期の特徴と発達課題④	現代社会における老年期の諸問題について考える 【予習】テキスト該当部分を調べる 【復習】講義内容の考察
13回	老年期の特徴と発達課題⑤	高齢化・高齢者の多様性について考える。 【予習】テキスト該当部分を調べる 【復習】講義内容の考察

14回	保健医療職との連携	多職種との連携について理解する。 【予習】テキスト該当部分を調べる	【復習】講義内容の考察
15回	まとめ	福祉専門職としての対象理解の総括 【予習】テキスト該当部分を調べる	【復習】講義内容の考察

本科目は、講義(30時間2単位)ですので、授業時間以外に60時間相当の準備学習が必要になります。

- ・学習内容に示した事項に関連する資料・プリント等を予め読んでまとめてくること。
- ・講義で提示配布されたワークについて、記述要約してくること。
- ・講義の振り返り及び自分考察したものをまとめること。

成績評価の基準・方法

評価項目	S	A	В	С	D
1. 老化に伴う身体の変化を理解し、言	完全にない	若干不十分	不十分な点	到達目標の	到達目標を
語化できる。	しほぼ完全	な点は認め	は認められ	最低限を達	達成してい
2. 高齢者に多い病気や症状の特徴を	に到達目標	られるもの	るものの、	成してい	ない。
理解し、言語化できる。	を達成して	の、到達目	到達目標を	る。	
3. 福祉専門職として、基本的な知識	いる。	標を達成し	達成してい		
をもとに、対応できる態度を身につけ		ている。	る。		
ている。					
100点法	90点以上	80点以上	70点以上	60点以上	59点以下

- ・定期試験 (レポート試験) 50%
- ·授業内課題(4回)50%

教科書

介護福祉士養成講座編、最新・介護福祉士養成講座『発達と老化の理解』中央法規、2022年、2420円 **参考書**等

山際寿一著『京大総長、ゴリラから生き方を学ぶ』朝日文庫、2020年、660円

履修上の注意・学習支援

介護をする上の必要な知識、概念の習熟定着を図るためのワークや確認テストを随時実施する。 自由闊達、積極的な発言を求める。日頃から身近な福祉や介護の問題についての新聞や各種ニュースを読ん でおくこと。

オフィスアワー

質問等があれば、授業前後及びオフィスアワーを利用すること(事前予約の上、時間を設定する)。 *連絡先: masukawa@u jc. ac. jp

実務経験の概要

看護師として、病院等の医療機関において患者の医療や生活を含む看護に関する業務に従事してきた。

実務経験と科目との関連性

医療機関等における看護の実務経験は、本科目の授業内容との関連性が非常に高く、現場での実務 経験を活かした講義が実施できる。また、関連する科目とも深い関連性がある。

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
21HC1SE43	発達と老化の理解Ⅱ	1年	後期	講	2	菊池 芳子

人間の、生まれてから死ぬまでの成長・発達する過程を理解したうえで、老年期における発達課題や高齢者に多い症状・疾病の特徴、老化がもたらす高齢者の生活への影響を、身体的、精神的、社会的側面から捉え、老化に伴う変化の特徴とその対応について必要な知識を学び、介護の実践ができる能力を養う。

到達目標(学習の成果)

- 1. 老化に伴うこころとからだの変化を理解し、言語化できる。(知識)
- 2. 高齢者に多い病気や症状の特徴を理解した上で生活上の留意点が言語化できる。(知識・方法)

回	表題	学習内容
1回	授業の進め方 老化に伴う身体の変化 と生活への影響①	授業計画、授業方法、予習・復習、成績の評価基準・方法等を知る。 加齢による生理機能の全体的変化 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】配布資料を整理する。
2回	老化に伴う身体の変化 と生活への影響②	身体的機能の低下と日常生活への影響 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】配布資料を整理する。
3回	老化に伴う心の変化 と生活への影響①	認知機能の変化、知的機能の変化と心理的影響 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】配布資料を整理する。
4回	老化に伴う心の変化と 生活への影響②	パーソナリティの変化、老化と動機付け・適応 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】配布資料を整理する。
5 回	老化に伴う社会的な変化 と生活への影響①	老化に伴う生活上の課題、高齢者の社会活動の現状と課題 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】配布資料を整理する。
6 回	老化に伴う社会的変化 と生活への影響②	社会における老化理論 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】配布資料を整理する。
7 回	老化に伴う社会的変化 と生活への影響③	第1回確認テスト 中間まとめ 今までの講義内容の振り返り 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】配布資料を整理する。
8回	高齢者と健康 ①	健康長寿にむけての健康、サクセスフルエイジング 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】配布資料を整理する。
9回	高齢者と健康 ②	高齢者の症状と疾患(慢性、複数、非定型的、廃用症候群、老年症候群) 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】配布資料を整理する。
10回	高齢者と健康 ③	高齢者に多い疾患と症状(骨格系・筋系、脳神経系) 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】配布資料を整理する。

11回	高齢者と健康 ④	高齢者に多い疾患と症状(皮膚・感覚器系、循環器系、消化器系、 呼吸器系) 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】配布資料を整理する。
12回	高齢者と健康 ⑤	高齢者に多い疾患と症状(腎泌尿器系、内分泌代謝系、歯・口腔疾患) 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】配布資料を整理する。
13回	高齢者と健康 ⑥	高齢者に多い疾患と症状(悪性新生物、感染症、精神疾患) 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】配布資料を整理する。
14回	高齢者と健康 ⑦	保健医療職との連携 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】配布資料を整理する。
15回	高齢者と健康 ⑧	第2回確認テスト 後半まとめ 今までの講義内容の振り返り 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】配布資料を整理する。

本科目は、講義科目(2単位)ですので、授業時間以外に60時間の授業外学習が必要になります。

- ・学習内容に示した部分の教科書を予め読んでまとめてくること。
- ・各回の授業内容に係る確認テスト(2回)を実施するので、必ず復習すること。
- ・教科書以外にも高齢者に関する書籍や新聞記事を読み、またニュースに触れながら授業に臨む。
- ・自分自身の生活を振り返り、「健康」を意識した生活を送る。

成績評価の基準・方法

評価項目	S	A	В	С	D
1. 老化に伴うこころの変化の理解	完全にない	若干不十分	不十分な点	到達目標の	到達目標を
2. 老化に伴うからだの変化の理解	しほぼ完全	な点は認め	は認められ	最低限を達	達成してい
3. 高齢者に多い病気や症状の特徴につ	に到達目標	られるもの	るものの、	成してい	ない。
いての習熟度	を達成して	の、到達目	到達目標を	る。	
	いる。	標を達成し	達成してい		
		ている。	る。		
100点法	90点以上	80点以上	70点以上	60点以上	59点以下

- · 定期試験 (筆記試験) 50%
- ・授業内確認テスト(2回) 30%
- ・ワークシート、リアクションペーパー 20%

教科書

最新介護福祉士養成講座 『発達と老化の理解 第2版』 介護福祉士養成講座編 中央法規出版 2,420円

参考書等

履修上の注意・学習支援

他の講義(特に「こころとからだのしくみ」や「認知症の理解」)との関連性についても理解を深めながら学習にあたること。

オフィスアワー

疑問があれば、オフィスアワー(原則、講義終了後 15 分間程度、1 号館 1 階「講師教員センター」)を利用すること。

[実務経験の概要]

看護師として、病院(内科・外科・小児科)等の医療機関において患者の医療や生活を含む看護に関する業務に従事してきた。

[実務経験と科目との関連性]

医療機関等における看護の実務経験は、本科目の授業内容との関連性が非常に高く、現場での実務経験を活かした講義が実施できる。また、関連する科目とも深い関連性がある。

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
21HC2SE44	認知症の理解 I	2年	前期	講・演	1	益川順子

福祉専門職に必要な認知症に関する基礎的知識を学ぶともに、アクティブラーニングとして事例検討を行い、認知症を取り巻く状況や、認知症の医学的・心理学的側面を理解する。

到達目標(学習の成果)

- 1. 医学的・心理的側面からみた認知症が説明できる(知識)。
- 2. 認知症のある人や家族の支援について説明できる(知識)。
- 3. 福祉専門職として、認知症に関する基本的な知識をもとに、実践できる態度と倫理観を身につけている(知識、態度)。

回	表題	学習内容
1回	授業の進め方 認知症ケアの歴史と理念	授業計画・準備学習・成績評価の基準・方法の理解 【予習】テキスト該当部分を調べる 【復習】講義内容の考察
2回	認知症の基礎知識①	認知症の人の行動・心理症状について理解する 【予習】テキスト該当部分を調べる 【復習】講義内容の考察
3回	認知症の基礎知識②	認知症の人の脳のしくみと脳の変化について理解する。 【予習】テキスト該当部分を調べる 【復習】講義内容の考察
4回	認知症の基礎知識③	認知症の原因疾患について理解する 【予習】テキスト該当部分を調べる 【復習】講義内容の考察
5 回	認知症の基礎知識④	認知症の診断と治療及び予防について理解する。 【予習】テキスト該当部分を調べる 【復習】講義内容の考察
6 回	認知症の基礎知識⑤	認知症の人の心理とその関わりについて考える。 【予習】テキスト該当部分を調べる 【復習】講義内容の考察
7 回	認知症の人の生活理解①	認知症ケアに必要な対象理解と認知機能の変化が生活に及ぼす影響を学ぶ。 【予習】テキスト該当部分を調べる 【復習】講義内容の考察
8回	認知症の人の生活理解②	認知症の症状と環境との関係について理解し環境効果について考える。 【予習】テキスト該当部分を調べる 【復習】講義内容の考察
9回	認知症の人に対する介護①	認知症への気づき及び進行に応じた介護について理解する。 【予習】テキスト該当部分を調べる 【復習】講義内容の考察
10回	認知症の人に対する介護②	認知症の進行と必要な支援について考える。 【予習】テキスト該当部分を調べる 【復習】講義内容の考察
11回	地域との連携と協働	地域におけるサポート体制とチームアプローチの実際について理解 する。 【予習】テキスト該当部分を調べる 【復習】講義内容の考察
12回	家族の力を活かす認知症ケア①	認知症ケアと家族の苦悩及びレスパイトケアについて理解する。 【予習】テキスト該当部分を調べる 【復習】講義内容の考察

13回	家族の力を活かす認知症ケア②	家族へのエンパワメントの基本を理解し、家族の力の活かし方について考える。 【予習】テキスト該当部分を調べる 【復習】講義内容の考察
14回	認知症に関する法制度・医療機 関	認知症対策と介護保険制度について理解する。 【予習】テキスト該当部分を調べる 【復習】講義内容の考察
15回	まとめ	認知症における専門職の役割・総括と学習到達度の確認 【予習】テキスト該当部分を調べる 【復習】講義内容の考察

本科目は、講義・演習科目(1単位)の為、授業時間以外に30時間の授業外学習が必要になります。

- ・学習内容に示した事項に関連する資料・プリント等を予め読んでまとめてくること。
- ・講義で提示配布されたワークについて、記述要約してくること。
- ・講義の振り返り及び自分考察したものをまとめること。

成績評価の基準・方法

評価項目	S	A	В	С	D
1. 医学的・心理的側面からみた認知	完全にない	若干不十分	不十分な点	到達目標の	到達目標を
症が説明できる。	しほぼ完全	な点は認め	は認められ	最低限を達	達成してい
2. 認知症のある人や家族の支援につ	に到達目標	られるもの	るものの、	成してい	ない。
いて説明できる。	を達成して	の、到達目	到達目標を	る。	
3. 福祉専門職として、認知症に関す	いる。	標を達成し	達成してい		
る基本的な知識をもとに、実践できる		ている。	る。		
態度を身につけている。					
100点法	90点以上	80点以上	70点以上	60点以上	59点以下

- ・定期試験(期末レポート課題)50%
- ·授業内課題(4回)50%

教科書

介護福祉士養成講座編、最新介護福祉士養成講座 『認知症の理解』、中央法規、2022、2420円

参考書等

NHK取材班『ユマニチュード認知症ケア最前線』角川 o n e テーマ、2014年、880円

履修上の注意・学習支援

介護をする上の必要な知識、概念の習熟定着を図るためのワークや確認テストを随時実施する。 自由闊達、積極的な発言を求める。日頃から身近な福祉や介護の問題についての新聞や各種ニュースを読ん でおくこと。

オフィスアワー

質問等があれば、授業前後及びオフィスアワーを利用すること(事前予約の上、時間を設定する)。 *連絡先: masukawa@u jc. ac. jp

[実務経験の概要]

看護師として、病院等の医療機関において患者の医療や生活を含む看護に関する業務に従事してきた。

[実務経験と科目との関連性]

医療機関等における看護の実務経験は、本科目の授業内容との関連性が非常に高く、現場での実務 経験を活かした講義が実施できる。また、関連する科目とも深い関連性がある。

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
21HC2SE45	認知症の理解Ⅱ	2 年	後期	講・演	1	菊池芳子

認知症の原因疾患を理解したうえで、認知症の人々がどのような心理状態にあるか、BPSD(行動・心理症状)を理解する。福祉専門職として不可欠なコミュニケーション能力を身につけ、考える力、感じる力を養うために演習やグループワークを多く取り入れ、具体的な事例を通して学ぶとともに認知症の人や家族に対する具体的な地域での取り組みなど、認知症ケアの実践にも資する内容の知識を深める。

到達目標(学習の成果)

- 1. 福祉専門職として、認知症があっても安全かつ安心して、その人らしい生活が送れるように尊厳の尊重、自立支援を基本とする知識を身につけることができる。(知識)
- 2. 「パーソン・センタード・ケア(その人らしさを大切にする介護)」に基づく理論と実践を理解し、適切に説明することができる。(技術)

	1文 未 川 四					
回	表題	学習内容				
1回	授業の進め方 認知症ケアの実際(1)	授業計画、授業方法、予習・復習、成績の評価基準・方法を知る。 パーソン・センタード・ケア(その人らしさを大切にする介護) 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】配布資料を整理する。				
2回	認知症ケアの実際 (2)	認知症の人の理解と認知症の人の特性をふまえたアセスメント・ツール 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】配布資料を整理する。				
3回	認知症ケアの実際(3)	認知症の人とのコミュニケーション 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】配布資料を整理する。				
4回	認知症ケアの実際(4)	認知症の人へのケア(IADL障害のケア) 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】配布資料を整理する。				
5 回	認知症ケアの実際(5)	認知症の人へのケア(ADL障害のケア) 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】配布資料を整理する。				
6 回	認知症ケアの実際(6)	認知症の人へのさまざまなアプローチ(ユマニチュードを理解する) 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】配布資料を整理する。				
7 回	認知症ケアの実際(7)	認知症の人へのさまざまなアプローチ(バリデーションを理解する) 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】配布資料を整理する。				
8回	認知症ケアの実際(8)	第1回 確認テスト 今までの講義内容の振り返り 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】配布資料を整理する。				
9日	認知症ケアの実際 (9)	認知症の人へのさまざまなアプローチ(リアリティオリエンテーション、回想法を理解する) 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】配布資料を整理する。				

10回	認知症ケアの実際 (10)	認知症の人の終末期医療と介護 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】配布資料を整理する。
11回	認知症ケアの実際(11)	認知症と環境 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】配布資料を整理する。
12回	介護者支援	家族への支援、介護福祉職への支援 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】配布資料を整理する。
13回	認知症の人の地域生活支援 (1)	地域包括ケアシステムにおける認知症ケア 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】配布資料を整理する。
14回	認知症の人の地域生活支援 (2)	多職種連携と協働 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】配布資料を整理する。
15回	認知症の人の地域生活支援 (3)	第2回 確認テスト 今までの講義内容の振り返り 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】配布資料を整理する。

本科目は、講義・演習科目(1単位)ですので、授業時間以外に15時間の授業外学習が必要になります。

- ・学習内容に示した部分のテキストを予め読んでまとめること。
- ・各回の授業内容に係る確認テスト(2回)を実施するので、必ず復習すること。
- ・テキスト以外にも認知症に関する書籍や新聞記事を読み、またニュースに触れながら授業に臨む。

成績評価の基準・方法

<u> </u>					
評価項目	S	A	В	С	D
1. 認知症ケアの位置づけ、意義や目的	完全にない	若干不十分	不十分な点	到達目標の	到達目標を
の理解	しほぼ完全	な点は認め	は認められ	最低限を達	達成してい
2. パーソン・センタード・ケアに基	に到達目標	られるもの	るものの、	成してい	ない。
づく理論と実践の理解	を達成して	の、到達目	到達目標を	る。	
3. パーソン・センタード・ケアに基	いる。	標を達成し	達成してい		
づく認知症ケアの習熟度		ている。	る。		
100点法	90点以上	80点以上	70点以上	60点以上	59点以下

- ・定期試験(筆記試験)50%
- ・授業内確認テスト(2回) 30%
- ・ワークシート、リアクションペーパー(20%)

教科書

最新 介護福祉士養成講座 13 認知症の理解 中央法規出版 2,200円

参考書等

熊谷頼佳 著「タイプ別対応でよくわかる 認知症ケア」株式会社ナツメ社 2023年 2,420円

履修上の注意・学習支援

今後も増えると予想されている認知症についてしっかりと学習し、介護の基本として学習する。

オフィスアワー

疑問があれば、オフィスアワー(原則、講義終了後 15 分間程度、 1 号館 1 階「講師教員センター」)を利用すること。

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
21HC2SE46	障害の理解 I	2 年	前期	講・演	1	西澤 利朗・小野寺 みさ

本授業では、介護福祉専門職として障害のある人の生活を支える上で必要な知識と視点を学ぶ。前半は、障害を理解するための基本的な考え方を学び、障害に関わる思想・理念のうち重要なものを取り上げる。後半は、障害と環境との相互作用の中で生じる課題と、精神障害の基礎的な理解をはかる。それにより、障害者の生活を支える専門家として必要な知識の学習と課題への対応策を考える力を身につけることをめざす。

到達目標(学習の成果)

- ・障害を理解するための基本的な理念・思想を説明できる(知識)。
- ・精神障害の基本的な知識について説明できる(知識)。
- ・障害者が地域で自立した生活を送るために必要なケア理念(態度)を身につけ、実践に生かすことができる(技術・態度)。

	士 睹	ᄷᅍᅜᄷ
回	表題 	学習内容
1回	授業の進め方 障害の基礎的理解(1)	授業計画、授業方法、予習・復習、成績評価基準・方法等を知る 自身の障害イメージを確認し、「障害とは何か?」を考える。 現在の国内の障害の定義を学ぶ。 【予習】障害とは何かについて考えをまとめてみる 【復習】重要事項をノートにまとめる (西澤)
2回	障害の基礎的理解(2)	ライフステージで発生する「障害」の多様性を学び、国内外の障害者割合を確認する。 【予習】テキストの該当部分を読む 【復習】重要事項をノートにまとめる (西澤)
3回	障害の基礎的理解(3)	障害の医学モデルと社会モデル、国際生活機能分類 (ICF) など、障害を理解するための基本的視点を学ぶ。 【予習】テキストの該当部分を読む 【復習】重要事項をノートにまとめる (西澤)
4回	障害者をとりまく歴史と法律・ 制度	障害者および障害福祉の歴史と、現在の法律・制度の状況を学ぶ。 【予習】テキストの該当部分を読む 【復習】重要事項をノートにまとめる(西澤)
5回	思想・理念(1)	障害者と関わる際に重要な理念(ノーマライゼーション、エンパワメント、自己決定等)の変遷と内容を学ぶ。 【予習】テキストの該当部分を読む 【復習】重要事項をノートにまとめる(西澤)
6 回	思想・理念 (2)	障害者と関わる際に重要な理念について説明する方法をグループで考え、実践する。 【予習】テキストの該当部分を読む グループでの発言を準備する 【復習】重要事項をノートにまとめる (西澤)
7 回	障害支援の基本的視点(1)	障害者の自立生活運動の歴史から、支援者に求められる基本的姿勢を考える。 【予習】テキストの該当部分を読む 【復習】重要事項をノートにまとめる (西澤)

8回	障害支援の基本的視点(2)	障害を活用する最新の取り組みを知り、障害介助の考え方について学ぶ。障害者—介助者関係について考える。 【予習】テキストの該当部分を読む 【復習】重要事項をノートにまとめる (西澤)
9回	連携・資源	障害者の生活を支えるためにひと・もの・しくみがあることを理解する。専門職の役割と連携、補装具・自助具・支援機器、地域資源について学ぶ。 【予習】テキストの該当部分を読む 【復習】重要事項をノートにまとめる(西澤)
10回	障害と社会	障害への偏見、スティグマ、差別について学び、解消に向けた実践を考える。 【予習】テキストの該当部分を読む 【復習】重要事項をノートにまとめる (西澤)
11回	障害と個人	障害が本人・家族に与える心理的影響、障害受容過程を学ぶ。 11 回までの内容の理解度を確認する。 【予習】テキストの該当部分を読む 【復習】重要事項をノートにまとめる (西澤)
12回	障害のある人の生活と障害の特性に応じた支援(1)	精神障害とは・精神障害の発現の仕方 (小野寺) 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
13回	障害のある人の生活と障害の特性に応じた支援(2)	代表的な精神障害と日常生活の影響 (小野寺) 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
14回	障害のある人の生活と障害の特性に応じた支援(3)	精神障害の特性 (小野寺) 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
15回	障害のある人の生活と障害の特性に応じた支援(4)	精神障害への支援 (小野寺) 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。

この科目は、講義・演習科目(1単位)ですので、授業時間30時間と準備学習15時間が必要になります。

- 1. 障害に関する時事的なトピックを、新聞やニュース、インターネット等から得ておく。
- 2. 学習の前提となる既出の概念を、例を挙げて説明できるようにする。

成績評価の基準・方法

評価項目	S	A	В	С	D
【(小野寺)】	完全にない	若干不十分	不十分な点	到達目標の	到達目標を
1. 精神障害についての理解	しほぼ完全	な点は認め	は認められ	最低限を達	達成してい
2. 精神障害のある人への支援の方法の	に到達目標	られるもの	るものの、	成してい	ない。
理解	を達成して	の、到達目	到達目標を	る。	
	いる。	標を達成し	達成してい		
		ている。	る。		
100点法	90点以上	80点以上	70点以上	60点以上	59点以下

・定期試験(筆記試験) 50%・レポート課題 10%

【(小野寺)】

・定期試験(筆記試験) 40%

教科書

最新介護福祉士養成講座 14 「障害の理解 第2版」介護福祉士養成講座編集委員会編、中央法規、2022年(2,42 0円)

参考書等

佐藤 久夫・小澤 温 (2016) 「障害者福祉の世界 第 5 版」(有斐閣アルマ)

伊藤 亜紗 (2015) 「目の見えない人は世界をどう見ているのか」(光文社新書)

熊谷 晋一郎(2009)「≪シリーズ ケアをひらく≫リハビリの夜」(医学書院)

宇都宮市「障がい者サービスのしおり」 ※最新版を参考にすること

http://www.city.utsunomiya.tochigi.jp/kurashi/shogai/gaishutsu/1004231.html

内閣府「障害者白書」 ※最新のものを参考にすること

http://www8.cao.go.jp/shougai/whitepaper/index-w.html

履修上の注意・学習支援

- ・この授業はグループでの意見交換やワークを重視しているため、主体的な参加を求める。
- ・わからないこと、疑問に思ったことは、リアクションペーパーを活用するか、教員に直接質問すること。
- ・必要な配慮がある場合は事前に相談すること。
- ・教員への個別の質問・相談がある場合は、原則、事前にアポイントをとること(方法は授業内で提示する)。

オフィスアワー

・疑問があれば、オフィスアワー(原則、講義終了後 15 分間程度、1号館1階「講師教員センター」)を利用すること。

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
21HC2SE47	障害の理解Ⅱ	2年	後期	講・演	1	小野 篤司・菊池 芳子

障害のある人の心理や身体機能、社会的側面に関する専門的な知識を習得するとともに、障害のある人の地域での生活を理解し、本人のみならず家族や地域を含めた周囲の環境への支援を理解することをめざし、ケアワーカーに係わる専門的な知識、方法、態度を学ぶ。

到達目標(学習の成果)

- 1. 障害による心身への影響や心理的な変化を理解し説明できるようになる。(知識)
- 2. 障害のある人の生活や障害の特性を理解し説明できるようになる。 (知識)
- 3. ケアワーカーに係わる専門的な知識、方法として、障害のある人の生活を支えるための連携・協働を理解し説明できるようになる。(知識)
- 4. 障害のある人を支える家族の課題を理解し、家族への支援を実践できる方法を身につけて、自分の意見を言うことができる。 (方法・態度)

汉未可四						
回	表題	学習内容				
1回	授業の進め方 障害の医学的・心理的側面の基 礎的理解	授業計画、授業方法、予習・復習・成績評価の方法等を理解する。 障害による心身への影響や心理的な変化を理解する(菊池) 【予習】テキストの該当する部分を読んで理解する 【復習】授業で学んだ内容等を理解しまとめる				
2回	障害のある人の生活と障害の特性に応じた支援(1)	内部障害の種類や原因、支援方法を理解する(菊池) 【予習】テキストの該当する部分を読んで理解する 【復習】授業で学んだ内容等を理解しまとめる				
3回	障害のある人の生活と障害の特性に応じた支援(2)	高次脳機能障害の特性と支援方法を理解する(菊池) 【予習】テキストの該当する部分を読んで理解する 【復習】授業で学んだ内容等を理解しまとめる				
4回	障害のある人の生活と障害の特性に応じた支援(3)	難病の特性と支援方法を理解する(菊池) 【予習】テキストの該当する部分を読んで理解する 【復習】授業で学んだ内容等を理解しまとめる				
5 回	障害のある人の生活と障害の特性に応じた支援(4)	肢体不自由の状態・特性、支援の在り方を理解する(小野) 【予習】テキストの該当する部分を読んで理解する 【復習】授業で学んだ内容等を理解しまとめる				
6回	障害のある人の生活と障害の特性に応じた支援(5)	視覚障害の状態・特性、支援方法を理解する(小野) 【予習】テキストの該当する部分を読んで理解する 【復習】授業で学んだ内容等を理解しまとめる				
7 回	障害のある人の生活と障害の特性に応じた支援(6)	聴覚・言語障害の種類や原因、支援方法を理解する(小野) 【予習】テキストの該当する部分を読んで理解する 【復習】授業で学んだ内容等を理解しまとめる				
8回	障害のある人の生活と障害の特性に応じた支援 (7)	重複障害の種類や原因、支援方法を理解する(小野) 【予習】テキストの該当する部分を読んで理解する 【復習】授業で学んだ内容等を理解しまとめる				
9回	障害のある人の生活と障害の特性に応じた支援(8)	知的障害の特性と支援方法を理解する(小野) 【予習】テキストの該当する部分を読んで理解する 【復習】授業で学んだ内容等を理解しまとめる				

10回	障害のある人の生活と障害の特性に応じた支援(9)	発達障害の特性と支援方法を理解する(小野) 【予習】テキストの該当する部分を読んで理解する 【復習】授業で学んだ内容等を理解しまとめる
11回	障害のある人の生活と障害の特性に応じた支援 (10)	重症心身障害の定義、障害の特性と生活、支援の注意点を理解する。 (小野) 【予習】テキストの該当する部分を読んで理解する 【復習】授業で学んだ内容等を理解しまとめる
12回	連携と協働(1)	地域のサポート体制の概念と社会資源の考え方を理解する(小野) 【予習】テキストの該当する部分を読んで理解する 【復習】授業で学んだ内容等を理解しまとめる
13回	連携と協働(2)	チームアプローチの在り方を理解する(小野) 【予習】テキストの該当する部分を読んで理解する 【復習】授業で学んだ内容等を理解しまとめる
14回	家族への支援	障害のある人を支える家族の課題を理解し、家族の受容段階や介護力に応じた支援を理解する(小野) 【予習】テキストの該当する部分を読んで理解する 【復習】授業で学んだ内容等を理解しまとめる
15回	障害のある人の生活や障害の特性を理解し、生活を支えるための連携・協働による支援方法、 家族への支援方法のまとめ	障害のある人の生活や障害の特性を理解し、生活を支えるための連携・協働による支援方法、家族への支援方法を総合的に理解する(小野) 【予習】テキストの該当する部分を読んで理解する 【復習】授業で学んだ内容等を理解しまとめる

本科目は、講義・演習科目(1単位)ですので、授業時間90分以外に15時間の授業外学習が必要になります。 学習内容に記載された予習・復習を実践して内容の理解を深めてください。

成績評価の基準・方法

評価項目	S	A	В	С	D
1. 障害による心身への影響や心理的	完全にない	若干不十分	不十分な点	到達目標の	到達目標を
な変化の理解	しほぼ完全	な点は認め	は認められ	最低限を達	達成してい
2. 障害のある人の生活や障害の特性	に到達目標	られるもの	るものの、	成してい	ない。
の理解	を達成して	の、到達目	到達目標を	る。	
3. 障害のある人の生活を支えるため	いる。	標を達成し	達成してい		
の連携・協働の理解		ている。	る。		
4. 障害のある人を支える家族の課題					
を理解し、家族への支援を実践する					
方法の理解					
100点法	90点以上	80点以上	70点以上	60点以上	59点以下

- ・定期試験(筆記試験)(小野) 60%・授業内課題(小テスト)(菊池) 40%
- 教科書

介護福祉士養成講座編集委員会編、最新介護福祉士養成講座 14 「障害の理解 第2版」中央法規、2022年(2,42 0円)

参考書等

宇都宮市「障がい者サービスのしおり」

内閣府「障害者白書」

二本柳覚『図解でわかる障害福祉サービス』中央法規、2022年(2420円)

履修上の注意・学習支援

- ・授業に必要のない私語は慎むこと。
- ・疑問等があれば、オフィスアワーなどを利用すること。

オフィスアワー

疑問があれば、オフィスアワーを利用すること(事前予約 ono@ujc.ac.jp のうえ、時間を設定する)。具体的な時間帯は追って指示する。

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
21HC1SE48	医療的ケアI	1年	前期	講・演	1	益川 順子

医療的ケアは何か?なぜ介護福祉士が行うのか?医療的ケアを実施するための基本的な心構えを理解し、介護福祉士として必要な医療的ケアを、安全かつ適切に行うための知識を修得する。本授業では、特に医療的ケアの実施の基礎概念について学び、アクティブラーニングとして、医療的ケアの実践事例の検討を行う。

到達目標(学習の成果)

- 1. 医療的ケアを行う意義を理解し説明できる(知識)。
- 2. 安全・適切な医療的ケアを実施するために、必要な基本的知識と倫理観を身につけている(知識、態度)。

回	表題	学習内容
1 回	授業の進め方 医療的ケアの経緯と意義	授業計画・準備学習・成績評価の基準・方法の理解 【予習】テキスト該当部分を調べる 【復習】講義内容の考察
2回	医療的ケア実施の基礎	医療的ケア実施と基本的心構えの理解 【予習】テキスト該当部分を調べる 【復習】講義内容の考察
3回	個人の尊厳と自立	医療的ケアにおける個人の尊厳と自立についての理解と考察 【予習】テキスト該当部分を調べる 【復習】講義内容の考察
4回	医療の倫理	医療的ケアの倫理上の留意点、自己決定権、説明と同意、守秘義務の 理解と考察 【予習】テキスト該当部分を調べる 【復習】講義内容の考察
5回	医療的ケアと心理	利用者や家族の気持ちの理解、気持ちに寄り添うケア、拒否と対応の 理解と考察 【予習】テキスト該当部分を調べる 【復習】講義内容の考察
6 回	保健医療に関する制度	諸制度、医療的ケア実施の場の理解と考察 【予習】テキスト該当部分を調べる 【復習】講義内容の考察
7 回	医療的ケアと法律	医師法、医行為、医療的ケア実施の要件の理解と考察 【予習】テキスト該当部分を調べる 【復習】講義内容の考察
8回	多職種間の連携	チーム医療と介護職員との連携の理解と考察 【予習】テキスト該当部分を調べる 【復習】講義内容の考察
9回	医療的ケア安全な実施の重要性	喀痰吸引、経管栄養の理解 【予習】テキスト該当部分を調べる 【復習】講義内容の考察
10回	医療的ケアの事故防止と救急蘇 生	ヒヤリハットとアクシデント、一時救命処置の手順、胸骨圧迫、AE Dの使用の理解 【予習】テキスト該当部分を調べる 【復習】講義内容の考察
11回	感染予防	感染の定義、施設や組織、地域集団、介護職員の感染予防の理解 【予習】テキスト該当部分を調べる 【復習】講義内容の考察
12回	療養環境の清潔、消毒法	環境整備、血液,体液・排泄物の処理方法、医療廃棄物の処理方法の 理解 【予習】テキスト該当部分を調べる 【復習】講義内容の考察

13回	滅菌と消毒	消毒方法、滅菌方法の理解 【予習】テキスト該当部分を調べる 【復習】講義内容の考察
14回	健康状態の観察・把握	身体・精神の健康、バイタルサインの測定、急変時の対応の理解 【予習】テキスト該当部分を調べる 【復習】講義内容の考察
15回	安全管理体制	安全管理体制とリスクマネジメント 【予習】テキスト該当部分を調べる 【復習】講義内容の考察

本科目は、講義・演習科目(30時間1単位)の為、授業時間以外に15時間相当が必要になります。

- ・学習内容に示した事項に関連する資料・プリント等を予め読んでまとめてくること。
- ・講義で提示配布されたワークについて、記述要約してくること。
- ・講義の振り返り及び自分考察したものをまとめること。

成績評価の基準・方法

評価項目	S	A	В	С	D
1. 医療的ケアを行う意義を理解し説明	完全にない	若干不十分	不十分な点	到達目標の	到達目標を
できる。	しほぼ完全	な点は認め	は認められ	最低限を達	達成してい
2. 安全・適切な医療的ケアを実施す	に到達目標	られるもの	るものの、	成してい	ない。
るために、必要な基本的知識を身につ	を達成して	の、到達目	到達目標を	る。	
けている。	いる。	標を達成し	達成してい		
		ている。	る。		
100点法	90点以上	80点以上	70点以上	60点以上	59点以下

- ・定期試験(期末レポート試験)50%
- ·授業内課題(4回)50%

教科書

介護福祉士養成講座編集委員会編集、最新『医療的ケア(最新介護福祉士養成講座)』中央法規、2022年2860円 参考書等

生田陽二著『小児期発症慢性疾患患者に寄りそう希望の移行期医療』幻冬舎、2023年、1760円

履修上の注意・学習支援

罹病率、医療度の高まる介護の現場では、益々医療的ケアのニーズが高まることが推測されている。安全な 医療行為を他職種と連携して実施していくためには、上記の知識を理解する必要がある。日頃から身近な医療や福祉の問題についての新聞や各種ニュースを読んでおくこと。

オフィスアワー

質問等があれば、授業前後及びオフィスアワーを利用すること(事前予約の上、時間を設定する)。 *連絡先: masukawa@u jc. ac. jp

[実務経験の概要]

看護師として、大学病院等の医療機関において、患者の医療や生活を含む看護に関する業務に従事してきた。

[実務経験と授業科目との関連性]

医療機関等における看護の実務経験は、本科目の授業内容との関連性が非常に高く、現場での実務経験を活かした講義が実施できる。また、関連する科目とも深い関連性がある。

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
21HC1SE49	医療的ケアⅡ	1年	後期	講・演	1	益川 順子

医療的ケアは何か?なぜ介護福祉士が行うのか?医療的ケアを実施するための基本的な心構えを理解し、介護福祉士として必要な医療的ケアを、安全かつ適切に行うための知識を修得する。本授業では医療的ケア I で学んだ喀痰吸引、経管栄養、救急蘇生の基礎知識を踏まえ、アクティブラーニングとして実践方法について学ぶ。

到達目標(学習の成果)

- 1. 医療的ケアを行う意義を理解し、説明できる(知識、態度)。
- 2. 安全・適切な医療的ケアを実施するために、必要な基本的知識、方法・態度・倫理観を身につけている(知識、態度、技術)。

回	表題	学習内容
1回	授業の進め方 医療的ケア I の復習(喀痰吸引 の基礎知識)	授業計画・準備学習・成績評価の基準・方法の理解 【予習】テキスト該当部分を調べる 【復習】講義内容の考察
2回	喀痰吸引の基礎知識①	呼吸のしくみと働きの理解、呼吸の異常、喀痰吸引が必要な状態の理解 解 【予習】テキスト該当部分を調べる 【復習】講義内容の考察
3回	喀痰吸引の基礎知識②	喀痰吸引で用いる器具と器材としくみ、人工呼吸と吸引の理解 【予習】テキスト該当部分を調べる 【復習】講義内容の考察
4回	喀痰吸引の基礎知識③	小児の吸引、吸引を受ける利用者の気持ちの理解、説明と同意 【予習】テキスト該当部分を調べる 【復習】講義内容の考察
5回	喀痰吸引の基礎知識④	呼吸器系の感染予防、喀痰吸による生じる危険と事故防止、急変時の 対応の理解 【予習】テキスト該当部分を調べる 【復習】講義内容の考察
6 回	喀痰吸引の実際①	口腔内・鼻腔内吸引の実施手順と留意点についての理解 【予習】テキスト該当部分を調べる 【復習】講義内容の考察
7 回	経管栄養の基礎知識①	消化器系の構造と機能、消化器の主な症状の理解 【予習】テキスト該当部分を調べる 【復習】講義内容の考察
8回	経管栄養の基礎知識②	経管栄養とは、経管栄養が必要な状態(摂食・嚥下障害)、経管栄養のしくみの理解 【予習】テキスト該当部分を調べる 【復習】講義内容の考察
9回	経管栄養の基礎知識③	経管栄養注入内容に関する知識、経管栄養実による身体の異常、小児の経管栄養の理解 【予習】テキスト該当部分を調べる 【復習】講義内容の考察
10回	経管栄養の基礎知識④	経管栄養に必要なケア、利用者及び家族の心理と対応の理解 【予習】テキスト該当部分を調べる 【復習】講義内容の考察
11回	経管栄養の基礎知識⑤	経管栄養に関する感染と予防、危険と安全確認、急変・事故発生時の対応の理解 【予習】テキスト該当部分を調べる 【復習】講義内容の考察

12回	経管栄養の実際①	経管栄養で用いる器具と器材のしくみ管理法、清潔不潔の概念と清潔 保持 【予習】テキスト該当部分を調べる 【復習】講義内容の考察
13回	経管栄養の実際②	経鼻、胃ろう腸ろうによる経管栄養の実施手順と留意点について理解 【予習】テキスト該当部分を調べる 【復習】講義内容の考察
14回	急変時の対応	急変・事故発生時の対応、報告・連絡・応急処置、救急蘇生法の実際の理解 【予習】テキスト該当部分を調べる 【復習】講義内容の考察
15回	喀痰吸引、経管栄養の基礎知識 と実際	経管栄養の基礎知識と実施手順の方法と理解 【予習】テキスト該当部分を調べる 【復習】講義内容の考察

本科目は、講義・演習科目(30時間1単位)の為、授業時間以外に15時間相当が必要になります。

- ・学習内容に示した事項に関連する資料・プリント等を予め読んでまとめてくること。
- ・講義で提示配布されたワークについて、記述要約してくること。
- ・講義の振り返り及び自分考察したものをまとめること。

成績評価の基準・方法

評価項目	S	A	В	С	D
1. 医療的ケアを行う意義を理解し、	完全にない	若干不十分	不十分な点	到達目標の	到達目標を
説明できる。	しほぼ完全	な点は認め	は認められ	最低限を達	達成してい
2. 安全・適切な医療的ケアを実施す	に到達目標	られるもの	るものの、	成してい	ない。
るために、必要な基本的知識、方法・	を達成して	の、到達目	到達目標を	る。	
態度を身につけている。	いる。	標を達成し	達成してい		
		ている。	る。		
100点法	90点以上	80点以上	70点以上	60点以上	59点以下

- ・定期試験(期末レポート試験50%
- ·授業内課題(4回)50%

教科書

介護福祉士養成講座編集委員会編、最新『医療的ケア(最新介護福祉士養成講座)』中央法規、2022年、2860円 参考書等

内多勝康著『「医療的ケア」の必要な子どもたち』ミネルヴァ書房、2018年、2420円

履修上の注意・学習支援

罹病率、医療度の高まる介護の現場では益々医療的ケアのニーズが高まることが推測されている。安全な医療行為を他職種と連携して実施していくためには、上記の知識を理解する必要がある。日頃から医療の問題についての新聞や各種ニュースを読んでおくこと。自由闊達、積極的な発言を求める。

オフィスアワー

質問等があれば、授業前後及びオフィスアワーを利用すること(事前予約の上、時間を設定する)。 *連絡先: masukawa@u.jc. ac. jp

[実務経験の概要]

看護師として、大学病院等の医療機関において、患者の医療や生活を含む看護に関する業務に従事してきた。

[実務経験と授業科目との関連性]

医療機関等における看護の実務経験は、本科目の授業内容との関連性が非常に高く、現場での実務経験を活かした講義が実施できる。また、関連する科目とも深い関連性がある。

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
21HC2SE50	医療的ケアⅢ	2 年	前期	講・演	1	益川順子

医療的ケア実施における基礎知識を踏まえ、安全かつ適切に喀痰吸引、経管栄養、救急蘇生法等について実施できるよう、必要な知識と技術を習得する。また、医療的ケアの実施に伴い、必要な観察方法、清潔行為、感染予防、滅菌消毒について学び実践できる能力を養う。

到達目標(学習の成果)

- 1. 医療的ケアの基礎知識及び方法を理解し、安全・適切に実施できる(知識、態度、技術)。
- 2. 健康状態の把握とその観察方法、清潔不潔概念、感染予防、滅菌消毒について理解し、技術を身につけ実践できる(知識、態度、技術)。

		A4/146.1 [2]
回	表題	学習内容
1回	授業の進め方 医療的ケア演習の準備実践方法	授業計画・準備学習・成績評価の基準・方法の理解 【予習】テキスト該当部分を調べる 【復習】講義内容の考察
2回	医療的ケアの概要	医療的ケア I・Ⅱの復習と確認・実施手順と留意点 【予習】テキスト該当部分を調べる 【復習】講義内容の考察
3回	報告・記録	医師及び看護職員への報告及び連絡、緊急時の報告と連絡、記録の意義と方法 【予習】テキスト該当部分を調べる 【復習】講義内容の考察
4回	喀痰吸引・経管栄養の講義 (30分) 喀痰吸引・経管栄養の演習① (60分)	口腔内・鼻腔内吸引・気管カニューレ内部吸引の講義と演習・テスト 経鼻経管栄養・胃ろうまたは腸ろうによる経管栄養の講義と演習・テスト スト 【予習】テキスト該当部分を調べる 【復習】講義内容の考察
5 回	喀痰吸引・経管栄養の演習②	口腔内・鼻腔内吸引・気管カニューレ内部吸引の演習・テスト 経鼻経管栄養・胃ろうまたは腸ろうによる経管栄養の演習・テスト 【予習】テキスト該当部分を調べる 【復習】講義内容の考察
6 回	喀痰吸引・経管栄養の演習③	口腔内・鼻腔内吸引・気管カニューレ内部吸引の演習・テスト 経鼻経管栄養・胃ろうまたは腸ろうによる経管栄養の演習・テスト 【予習】テキスト該当部分を調べる 【復習】講義内容の考察
7 回	喀痰吸引・経管栄養の演習④	口腔内・鼻腔内吸引・気管カニューレ内部吸引の演習・テスト 経鼻経管栄養・胃ろうまたは腸ろうによる経管栄養の演習・テスト 【予習】テキスト該当部分を調べる 【復習】講義内容の考察
8回	喀痰吸引・経管栄養の演習⑤	口腔内・鼻腔内吸引・気管カニューレ内部吸引の演習・テスト 経鼻経管栄養・胃ろうまたは腸ろうによる経管栄養の演習・テスト 【予習】テキスト該当部分を調べる 【復習】講義内容の考察
9回	喀痰吸引・経管栄養の演習⑥	口腔内・鼻腔内吸引・気管カニューレ内部吸引の演習・テスト 経鼻経管栄養・胃ろうまたは腸ろうによる経管栄養の演習・テスト 【予習】テキスト該当部分を調べる 【復習】講義内容の考察
10回	喀痰吸引・経管栄養の演習⑦	口腔内・鼻腔内吸引・気管カニューレ内部吸引の演習・テスト 経鼻経管栄養・胃ろうまたは腸ろうによる経管栄養の演習・テスト 【予習】テキスト該当部分を調べる 【復習】講義内容の考察

11回	喀痰吸引・経管栄養の演習⑧	口腔内・鼻腔内吸引・気管カニューレ内部吸引の演習・テスト 経鼻経管栄養・胃ろうまたは腸ろうによる経管栄養の演習・テスト 【予習】テキスト該当部分を調べる 【復習】講義内容の考察
12回	喀痰吸引・経管栄養の演習⑨	口腔内・鼻腔内吸引・気管カニューレ内部吸引の演習・テスト 経鼻経管栄養・胃ろうまたは腸ろうによる経管栄養の演習・テスト 【予習】テキスト該当部分を調べる 【復習】講義内容の考察
13回	喀痰吸引・経管栄養の演習⑩	口腔内・鼻腔内吸引・気管カニューレ内部吸引の演習・テスト 経鼻経管栄養・胃ろうまたは腸ろうによる経管栄養の演習・テスト 【予習】テキスト該当部分を調べる 【復習】講義内容の考察
14回	喀痰吸引・経管栄養の演習⑪	口腔内・鼻腔内吸引・気管カニューレ内部吸引の演習・テスト 経鼻経管栄養・胃ろうまたは腸ろうによる経管栄養の演習・テスト 【予習】テキスト該当部分を調べる 【復習】講義内容の考察
15回	救急蘇生法の演習	救命処置(心肺蘇生等、AED、異物除去法)演習と手技演習・テスト ト 【予習】テキスト該当部分を調べる 【復習】講義内容の考察

本科目は、講義・演習科目(30時間1単位)の為、授業時間以外に15時間相当が必要になります。

- ・学習内容に示した事項に関連する資料・プリント等を予め読みDVDを視聴してくること。
- ・講義で提示配布されたワークについて、記述要約してくること。
- ・講義の振り返り及び自分考察したものをまとめること。

成績評価の基準・方法

評価項目	S	A	В	С	D
1. 医療的ケアの基礎知識及び方法を	完全にない	若干不十分	不十分な点	到達目標の	到達目標を
理解し、安全・適切に実施できる。	しほぼ完全	な点は認め	は認められ	最低限を達	達成してい
2・健康状態の把握とその観察方法、	に到達目標	られるもの	るものの、	成してい	ない。
清潔不潔概念、感染予防、滅菌消毒に	を達成して	の、到達目	到達目標を	る。	
ついて理解し、技術を身につけ実	いる。	標を達成し	達成してい		
践できる。		ている。	る。		
100点法	90点以上	80点以上	70点以上	60点以上	59点以下

- ・定期試験(期末試験)50%
- · 定期試験 (演習試験) 50%

教科書

介護福祉士養成講座編集委員会編集、最新『医療的ケア(最新介護福祉士養成講座)』中央法規、2022年、2860 円.

参考書等

和田忠志著『教科書が教えてくれない 介護職の医療的ケア22超入門: 訪問も夜勤もこれで安心!』メディカ出版、2015年、2090円

履修上の注意・学習支援

罹病率、医療度の高まる介護の現場では、益々医療的ケアのニーズが高まることが推測されている。安全な 医療行為を他職種と連携して実施していくためには、上記の知識を理解する必要がある。日頃から身近な医療や福祉の問題についての新聞や各種ニュースを読んでおくこと。

オフィスアワー

質問等があれば、授業前後及びオフィスアワーを利用すること(事前予約の上、時間を設定する)。 *連絡先: masukawa@ujc. ac. jp

[実務経験の概要]

看護師として、大学病院等の医療機関において、患者の医療や生活を含む看護に関する業務に従事し

てきた。

[実務経験と授業科目との関連性]

医療機関等における看護の実務経験は、本科目の授業内容との関連性が非常に高く、現場での実務経験を活かした講義が実施できる。また、関連する科目とも深い関連性がある。

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
21HC1SE51	介護過程I	1年	前・後 (通年)	講・演	2	阿部 正昭

利用者本人の望む生活の実現に向けて、生活課題の分析に基づく介護実践を伴う課題解決の思考過程を学習する。

<u>介護過程の意義と基礎的な理解</u>ができ、<u>介護過程の展開</u>方法について学ぶ。

利用者の支援における「アセスメント」(情報収集・情報分析)の重要性を学び、実践することができる能力を養う。

授業内では、事例検討やワークシートを使用した個人ワーク・グループワークや、実習での成果の報告(プレゼンテーション)等を通じ、自分の考えを整理して発信したり、他者の意見を聴くことで参考とすることができる。

到達目標(学習の成果)

- ・介護過程の意義と基礎的な理解ができている(知識・方法・技術)。
- ・「アセスメント」の具体的な実践方法を説明することができる(知識・方法)。
- ・介護福祉学における基本的な用語の意味を理解している (知識)。

ノロ・反目	・月度個性子における室本的な用品の息外を連携している(如画)。						
		授業計画					
旦	表 題	学習内容					
		授業計画、授業方法、予習・復習、成績の評価基準・方法等を知る。					
1回	授業の進め方	介護過程とは何か、介護過程の意義と目的を理解する。					
1 12	介護過程とは何か	予習 : あなたの考える理想の生活とは何か、考えてくる。					
		復習 : 配付資料や教科書を読み、用語を説明できるようにする。					
		日常生活において、無意識に介護過程と共通する展開が行われていること					
2回	介護過程のイメージの	を、演習を通し理解する。					
	理解①	予習: PDCAとは何か、調べてくる。					
		復習: 配付資料や教科書を読み、用語を説明できるようにする。					
	介護過程のイメージの	事例をもとに、「考える介護のイメージ」を養う。					
3回	理解②	予習: 教科書8~15ページを読み、用語の意味を調べてくる。					
		復習: 配付資料や教科書を読み、用語を説明できるようにする。					
	介護過程のイメージの	事例をもとに、なぜ「考える介護」を展開する必要があるのかを理解する。					
4回	理解③	予習: 教科書15~22ページを読み、用語の意味を調べてくる。					
		復習:配付資料や教科書を読み、用語を説明できるようにする。					
5回	ADL・日常生活自立度 とは	利用者の状態を把握するための視点や指標を学ぶ。					
		予習:介護する上で必要な情報は何か、教科書・資料から調べてくる。					
		復習: 配付資料や教科書を読み、用語を説明できるようにする。					
		事例をもとに、状況の観察方法を学ぶとともに、観察したことを正確に記るオスストの重要性な理解する。					
6 回	状況の観察①	録することの重要性を理解する。 予習 : 教科書28ページを読み、用語の意味を調べてくる。					
		復習: 配付資料や教科書を読み、用語を説明できるようにする。 事例をもとに、聞き取りを通した状況の観察方法を学ぶとともに、「推測」					
		事例をもとに、闻さ取りを通じた状况の観祭方伝を予かこともに、「推測」 と「事実」の違いについて学ぶ。					
7 回	状況の観察②	こ「事実」の建いについて子ぶ。 予習 : 教科書28~33ページを読み、用語の意味を調べてくる。					
		復習: 配付資料や教科書を読み、用語を説明できるようにする。					
		事例をもとに、世代の違いにおける価値観や、利用者一人一人の生活歴に					
		ついて考える。					
8回	状況の観察③	- 予習 : 教科書 5 3 ページを読み、用語の意味を調べてくる。					
		復習: 配付資料や教科書を読み、用語を説明できるようにする。					
		現在の高齢者世代が生きてきた時代背景について動画を参考に考える。					
9回	 状況の観察④	予習: 教科書58ページを読み、用語の意味を調べてくる。					
	VVDE - MEXICO	復習: 配付資料や教科書を読み、用語を説明できるようにする。					
		科学的思考と問題解決志向に基づく介護過程の全体像を学ぶ。					
10 回	介護過程の全体像①	予習: 教科書66~69ページを読み、用語の意味を調べてくる。					
	71,212	復習: 配付資料や教科書を読み、用語を説明できるようにする。					
		連続的なサイクルによる、継続的な支援の必要性を理解する。					
11 回	介護過程の全体像②	予習: 教科書58~69ページを読み、用語の意味を調べてくる。					
		復習: 配付資料や教科書を読み、用語を説明できるようにする。					

		事例をもとに、利用者や家族と初めて関わる際の対応方法について学ぶ。
12 回	インテーク	予習 : 教科書71ページを読み、用語の意味を調べてくる。
		復習 : 配付資料や教科書を読み、用語を説明できるようにする。
	アセスメント①	利用者の情報を収集する際に必要な視点及び注意点について学ぶ。
13 回	(情報収集)	予習 : 教科書75ページを読み、用語の意味を調べてくる。
		復習 : 配付資料や教科書を読み、用語を説明できるようにする。
	アセスメント②	事例をもとに、客観的で根拠に基づいた情報収集の重要性を学ぶ。
14 回	(情報収集)	予習 : 教科書79ページを読み、用語の意味を調べてくる。
	(1月報収集)	復習 : 配付資料や教科書を読み、用語を説明できるようにする。
	747710	「客観的情報」と「主観的情報」について理解する。確認テストの実施。
15 回	アセスメント③	予習 : 介護過程の意義と、介護過程の構成要素の内容を調べてくる。
	(情報収集)	復習: 配付資料や教科書を読み、用語を説明できるようにする。
	A 5#3P 4P 3 - 3 - 3 - 4	医学モデルと生活モデルを理解し、ICFへの移行の変遷を学ぶ。
16 回	介護過程における	予習 : ICF とは何の略称か調べてくる。
10 11	ICFの理解①	復習:配付資料や教科書を読み、用語を説明できるようにする。
		ICFの構成要素を理解するとともに、事例を通じ分類の方法を学ぶ。
17 回	介護過程における	予習: ICF に関する書籍を図書館で探し、読んでくる。
11 🖭	I C F の理解②	復習:配付資料や教科書を読み、用語を説明できるようにする。
10 🖃	介護過程における	ICFの概念に基づく、情報の統合方法について学ぶ。 予習 : ICFに関する書籍で知ったことを発信できるようにしてくる。
18 回	ICFの理解③	
		復習:配付資料や教科書を読み、用語を説明できるようにする。
1.0	実習における介護過程	本学における実習の介護過程の展開について理解する。
19 回	の展開	予習 : 介護過程の書類を確認し、項目とレイアウトを覚えてくる。
		復習 : 配付資料や教科書を読み、用語を説明できるようにする。
	アセスメント④	フェイスシートの作成方法について学び、事例をもとに作成する。
20 回	(情報収集)	予習 : フェースシートを確認し、不明な用語があれば調べてくる。
		復習 : 配付資料や教科書を読み、用語を説明できるようにする。
	アセスメント⑤	介護情報の作成方法について学び、事例をもとに作成する。
21 回	(情報収集)	予習 : 情報収集について、教科書や資料を熟読してくる。
	(1月報収集)	復習 : 配付資料や教科書を読み、用語を説明できるようにする。
		実習時の介護過程課題の実施方法の確認を行う。
22 回	第1段階実習の準備	予習 : 介護過程の書類と、教科書66~69ページを確認してくる。
		復習: 配付資料や教科書を読み、用語を説明できるようにする。
		課題対象者の選定・フェイスシートの作成における事後学習を行う。
23 回	実習の振り返り①	予習 : 実習書類を準備し、内容を発表できるようにしてくる。
		復習: 配付資料や教科書を読み、用語を説明できるようにする。
		介護情報の作成における事後学習を行う。実習の成果を発表する。
24 回	実習の振り返り②	予習: 実習書類を準備し、内容を発表できるようにしてくる。
21 [2]	天日の旅り返り包	復習: 配付資料や教科書を読み、用語を説明できるようにする。
		事例をもとに、情報の分析における思考の視点を学ぶ
25 回	アセスメント⑥(情報分	
25 凹	析)	
		復習 : 配付資料や教科書を読み、用語を説明できるようにする。
	71.70 10/1447	情報分析用紙の作成における留意点を確認する。
26 回	アセスメント⑦(情報分	事例(A様)をもとに、課題の分析方法を学ぶ。
	析)	予習 : 介護過程の書類と、教科書75~78ページを確認してくる。
		復習: 配付資料や教科書を読み、用語を説明できるようにする。
	アセスメント⑧(情報分	事例(A様)をもとに、課題の分析方法を学ぶ。
27 回	析)	予習 : 介護過程の書類と、教科書75~78ページを確認してくる。
	יועי	復習 : 配付資料や教科書を読み、用語を説明できるようにする。
_	アセスメント⑨(情報分	事例(B様)をもとに、課題の分析方法を学ぶ。
28 回	折)	予習 : 介護過程の書類と、教科書79ページを確認してくる。
	ן ער	復習 : 配付資料や教科書を読み、用語を説明できるようにする。
		情報分析をもと生活課題(ニーズ)の抽出方法を学ぶ。
00 [4. 江細暦の井山	生活課題の優先順位を考える上で、マズローの5段階欲求説を理解する。
29 回	生活課題の抽出	予習 : 介護過程の書類と、教科書83ページを確認してくる。
		復習: 配付資料や教科書を読み、用語を説明できるようにする。
		生活課題から介護目標を設定する。
30 回	介護目標の設定	予習: 教科書87ページを読み、用語の意味を調べてくる。
	Z. BATTON - BATT	復習:配付資料や教科書を読み、用語を説明できるようにする。
	i	

本科目は、講義・演習科目(2 単位)で、授業時間(60 時間)に加えて、30 時間の授業外学習(予習・復習)が必要となります。

学習内容に記載された予習・復習を実践して内容の理解を深めることが求められています。

成績評価の方法・基準(%表記)

評価項目	S	A	В	С	D
①介護過程の意義と全体	完全にない	若干不十分	不十分な点	到達目標の	到達目標を
像の理解(知識)	しほぼ完全に到達目標	な点は認められるもの	は認められるものの、到	最低限を達 成している。	達成してい ない。
②情報収集の実践方法の 理解と発表(知識・方 法)	を達成している。	の、到達目標 を達成して いる。	達目標を達成している。	及している。	74 / '0
100 点法	90 点以上	80 点以上	70 点以上	60 点以上	59 点以下

成績は、授業内での提出課題(情報分析)30%、定期試験(レポート)70%で評価する。

教科書

・最新介護福祉士養成講座「介護過程」介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規 2021 年 2,420 円

参考書等

履修上の注意・学習支援

演習が多い授業のため、積極的な実施と発言を求める。 配布資料は2年間使用するので、各自紛失のないように管理すること。

オフィスアワー

疑問等があれば、授業前後及びオフィスアワーを活用すること。事前予約の上、日時を決定する。 連絡先: d.sato@ujc.ac.jp

実務経験のある教員による授業科目

[実務経験の概要]

介護福祉士として、特別養護老人ホームで利用者への介護や生活支援に関する業務に従事してきた。

[実務経験と授業科目との関連性]

介護現場における実践経験は、本科目の授業内容と関連性が非常に高く、実例を踏まえて適宜発信していく 事ができる。

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
21HC2SE52	介護過程Ⅱ	2年	前・後 (通年)	講・演	2	阿部 正昭

利用者本人の望む生活の実現に向けて、生活課題の分析に基づく介護実践を伴う課題解決の思考過程を学習する。根拠のある介護過程の展開を行うことができるために、アセスメント・介護計画の立案・介護の実施・評価の際の留意点を適切に把握し、実践できる能力を養う。

授業内では、事例検討やワークシートを使用した個人ワーク・グループワークや、実習での成果の報告(プレゼンテーション)等を通じ、自分の考えを整理して発信し、他者の意見を聴くことで 参考とすることができる。

到達目標(学習の成果)

- ・介護過程の展開方法を理解し、アセスメントから介護計画の評価までの実践法を身につけている(知識・方法・技術)。
- ・利用者のより良い生活を実現するために、記録物の作成に関する知識や技術を習得できている(知識・技術)。

		授業計画
回	表題	学習内容
1回	授業の進め方 介護過程の全体像	授業計画、授業方法、予習・復習、成績の評価基準・方法等を知る。 介護過程の全体像について確認し、介護過程 I での学びを振り返る。 予習 : 教科書 1 0 ~ 1 6 ページを読み、用語の意味を調べてくる。 復習 : 配付資料や教科書を読み、用語を説明できるようにする。
2回	アセスメント①(情報分 析)	事例 (S 様) をもとに、課題の分析方法を学ぶ。 予習 : S 様の事例を読み、生活課題を検討してくる。 復習 : 配付資料や教科書を読み、用語を説明できるようにする。
3回	生活課題の抽出	事例(S様)をもとに、生活課題の抽出方法を学ぶ。 予習 : 教科書21~29ページを読み、用語の意味を調べてくる。 復習 : 配付資料や教科書を読み、用語を説明できるようにする。
4回	介護計画の立案①	事例をもとに介護目標(長期・短期)の設定方法について学ぶ。 予習 : 情報収集した内容から、生活課題を考えてくる。 復習 : 配付資料や教科書を読み、用語を説明できるようにする。
5 回	介護計画の立案②	事例を基に、介護計画の立案方法について学ぶ。 予習 : 教科書21~29ページを読み、用語の意味を調べてくる。 復習 : 配付資料や教科書を読み、用語を説明できるようにする。
6 回	介護計画の立案③	介護計画書作成時の留意点について学ぶ。 予習 : 教科書30~35ページを読み、用語の意味を調べてくる。 復習 : 配付資料や教科書を読み、用語を説明できるようにする。
7 回	介護計画の立案④	事例をもとに、支援内容の工夫について考える。 予習 : S様の事例を読み、支援内容を1つ考えてくる。 復習 : 配付資料や教科書を読み、用語を説明できるようにする。
8回	プロセスレコード①	プロセスレコードの意義及び作成方法を学ぶ。 予習 : S様の事例を読み、調べたい点を1つ考えてくる。 復習 : 配付資料や教科書を読み、用語を説明できるようにする。
9回	プロセスレコード②	事例をもとに、プロセスレコードを作成する。 予習 : 前回練習したプロセスレレコードの用紙を読んでくる。 復習 : 配付資料や教科書を読み、用語を説明できるようにする。
10 回	介護過程の展開①	事例をもとに、介護情報表・情報分析表を作成する。 予習 : 情報収集した内容から、生活課題を挙げてくる。 復習 : 配付資料や教科書を読み、用語を説明できるようにする。
11 回	介護過程の展開②	事例をもとに、介護計画表を作成する。 予習 : 前回の生活課題の内容から、支援内容を考えてくる。 復習 : 配付資料や教科書を読み、用語を説明できるようにする。
12 回	第2段階実習の準備	実習時の介護過程課題の実施方法の確認を行う。 予習 : 実習書類に目を通し、内容やレイアウトを覚えてくる。 復習 : 配付資料や教科書を読み、用語を説明できるようにする。
13 回	実習の振り返り①	プロセスレコード・課題対象者の選定・フェイスシート・介護情報表の作成における事後学習を行う。 予習 : 参考書168~169ページを読んでくる。。

		復習 : 配付資料や教科書を読み、用語を説明できるようにする。
	# 77 - IP to \P to @	情報分析表・介護計画書の作成における事後学習を行う。
14 回	実習の振り返り②	予習 : 参考書168~173ページを読んでくる。
		復習 : 配付資料や教科書を読み、用語を説明できるようにする。
15 🖃	本図の作りたりの	13~14回の授業をもとに、実習の成果を発表する。
15 回	実習の振り返り③	予習 : 参考書174~176ページを読んでくる。 復習 : 配付資料や教科書を読み、用語を説明できるようにする。
16 🖃	ケアカンフュレンフの	ケアカンファレンスの意義と目的を理解する。 予習 : 情報収集した内容から、生活課題を考えてくる。
16 回	ケアカンファレンス①	予省 : 情報収集した内谷から、生活課題を考えてくる。 復習 : 配付資料や教科書を読み、用語を説明できるようにする。
		「現自 ・ 町川貝科で教科者を加み、用語を説明できるようにする。
17 回	ケアカンファレンス②	季例をもこに、ケテカンファレンへ興音を行う。 予習 : 参考書159~163ページを読み、用語の意味を調べてくる。
17 [12]		復習 : 配付資料や教科書を読み、用語を説明できるようにする。
		なら ・ 配り負付く数件音を加め、用品を説明できるようにする。 介護現場における記録物を理解する。
18 回	 記録の意義と目的①	万霞光場における記録物を理解する。 予習 : 参考書92ページを読み、用語の意味を調べてくる。
10 円	記述のお我で自由が	復習 : 配付資料や教科書を読み、用語を説明できるようにする。
		ケア記録・ヒヤリハット報告書・事故報告書等の記載方法を学ぶ。
19 回	 記録の意義と目的②	予習 : 参考書155ページを読んでくる。
13 🖺	日本の一部教と日中の	復習 : 配付資料や教科書を読み、用語を説明できるようにする。
		介護計画の実施時に確認する事項、準備の方法等を学ぶ。
		事例をもとに実施時の注意点について理解する。
20 回	介護計画の実施・評価①	予習: 参考書105ページを読み、用語の意味を調べてくる。
		復習: 配付資料や教科書を読み、用語を説明できるようにする。
		事例をもとに、モニタリング・介護記録の作成方法について理解する。
21 回	介護計画の実施・評価②	予習: 教科書36~38ページを読み、用語の意味を調べてくる。
	1段11四少天池 11四色	復習:配付資料や教科書を読み、用語を説明できるようにする。
		介護計画の実施後の行う評価の方法について学ぶ。
		事例をもとに、評価時の留意点について理解する。
22 回	介護計画の実施・評価③	事例をもとに、モニタリング・介護記録の作成方法について理解する。
		予習 : S様の事例を読み、介護計画を検討してくる。
		復習: 配付資料や教科書を読み、用語を説明できるようにする。
		実習時で作成した課題対象者への介護計画の実施及び評価について考え
00 🖃	人業計画の実装 部団の	る。
23 回	介護計画の実施・評価④	予習 : S様の事例の評価内容を検討してくる。
		復習 : 配付資料や教科書を読み、用語を説明できるようにする。
		在宅生活の継続に向けた事例から介護過程を展開する。
24 回	介護過程の展開①	予習 : 参考書111ページを読み、用語の意味を調べてくる。
		復習 : 配付資料や教科書を読み、用語を説明できるようにする。
		介護施設から自宅へ外泊する利用者の事例から介護過程を展開する。
25 回	介護過程の展開②	予習 :参考書117ページを読み、用語の意味を調べてくる。
		復習 : 配付資料や教科書を読み、用語を説明できるようにする。
		介護過程の展開における全体像を振り返り理解を深める。
26 回	介護過程の展開③	予習 : 教科書10~38ページを読み、用語の意味を調べてくる。
		復習 : 配付資料や教科書を読み、用語を説明できるようにする。
		実習時の介護過程課題の実施方法の確認を行う。
27 回	第3段階実習の準備	予習 : 実習書類を確認し、実習の手引きを読んでくる。
		復習 : 配付資料や教科書を読み、用語を説明できるようにする。
		課題対象者の選定・フェイスシート・介護情報表の作成における事後学
28 回	実習の振り返り①	習を行う。
		予習: 実習で学んだことを発表できるよう、まとめてくる。
		復習: 配付資料や教科書を読み、用語を説明できるようにする。
	da 22 - 12 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10	情報分析表・介護計画書の作成における事後学習を行う。
29 回	実習の振り返り②	予習 : 行った実習の介護計画・評価内容を考えてくる。
		復習:配付資料や教科書を読み、用語を説明できるようにする。
00 -	#WOLVE	実習における介護過程の展開について総合的に確認する。
30 回	実習の振り返り③	予習 : 教科書・参考書・実習書類を読み、不明な点を挙げてくる。
1		復習 : 配付資料や教科書を読み、用語を説明できるようにする。

本科目は、講義・演習科目(2 単位)で、授業時間(60 時間)に加えて、30 時間の授業外学習(予習・復習)が必要となります。

学習内容に記載された予習・復習を実践して内容の理解を深めることが求められています。

成績評価の方法・基準 (%表記)

評価項目	S	A	В	С	D
①介護過程の展開方法の	完全にない	若干不十分	不十分な点	到達目標の	到達目標を
理解(知識・方法)	しほぼ完全	な点は認め	は認められ	最低限を達	達成してい
	に到達目標	られるもの	るものの、到	成している。	ない。
②介護過程の実践方法の	を達成して	の、到達目標	達目標を達		
理解と発表(知識・方	いる。	を達成して	成している。		
法)		いる。			
100 点法	90 点以上	80 点以上	70 点以上	60 点以上	59 点以下

成績は、授業内の成果(情報分析と発表資料)50%、期末試験(レポート)50%で評価する。

教科書

・最新介護福祉士養成講座「介護過程」介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規 2021 年 2,420 円

参考書等

履修上の注意・学習支援

演習が多い授業のため、積極的な実施と発言を求める。 配布資料は2年間使用するので、各自紛失のないように管理すること。

オフィスアワー

疑問等があれば、授業前後及びオフィスアワーを活用すること。事前予約の上、日時を決定する。

実務経験のある教員による授業科目

[実務経験の概要]

介護福祉士として、特別養護老人ホームで利用者への介護や生活支援に関する業務に従事してきた。

[実務経験と授業科目との関連性]

介護現場における実践経験は、本科目の授業内容と関連性が非常に高く、実例を踏まえて適宜発信していく 事ができる。

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
21HC2SE53	介護過程Ⅲ	2年	後期	講・演	1	阿部 正昭

介護過程の学びの集大成として、総合的な<u>介護過程の展開</u>を行うことができる能力の習得を目指す。利用者のより良い生活の実現のために、科学的思考及び根拠に基づく方法を適切に把握し、実践できる力をつける。 <u>介護過程とチームアプローチ</u>の関係性を理解し、多職種協働の重要性について学ぶ。

授業内では、視聴覚教材 (動画) やワークシートを使用し、個人ワーク・グループワークを行い、 そこで自分の考えを整理して発信し、他者の意見を聴くことで参考とすることができる。

到達目標(学習の成果)

- ・適切な介護過程の展開方法を理解し、根拠のある実践を行うことができる(知識・技術・方法)。
- ・利用者のより良い生活を実現するためのチームアプローチについて、知識や技術を習得できている(知識・技術)。

		授業計画
旦	表 題	学習内容
	,	授業計画、授業方法、予習・復習、成績の評価基準・方法等を知る。
1	授業の進め方	事例をもとに、利用者の「尊厳」について考える。
1回	尊厳を守る介護過程	予習 : 教科書2~12ページを読み、用語の意味を調べてくる。
		復習: 配付資料や教科書を読み、用語を説明できるようにする。
		利用者の有する価値観を尊重することの大切さについて考える。
2 回	価値の問題と介護過程	予習 : 教科書16~21ページを読み、用語の意味を調べてくる。
		復習 : 配付資料や教科書を読み、用語を説明できるようにする。
		介護過程の展開で生じる倫理的葛藤での利用者への影響と介護者の考え方
0 🖃	(全理的黄芩)、人类)原印	及び行動を考える。
3回	倫理的葛藤と介護過程	予習 : 教科書25~32ページを読み、用語の意味を調べてくる。
		復習 : 配付資料や教科書を読み、用語を説明できるようにする。
		日常生活の場面をもとに利用者の立場に立って考えることを考える。
4 回	利用者主体の介護過程	予習 : 教科書34~47ページを読み、用語の意味を調べてくる。
		復習 : 配付資料や教科書を読み、用語を説明できるようにする。
		介護過程を展開する上で個別化・自己選択・自己決定ができる支援が重要
5回	個別化の実践及び自立	であることを改めて考える。
9回	支援と介護過程	予習 : 教科書48~64ページを読み、用語の意味を調べてくる。
		復習 : 配付資料や教科書を読み、用語を説明できるようにする。
		通所介護事業所の管理職が担う業務内容や役割を理解する。
6回	ケアプランと個別援助	事例をもとに、通所介護計画書の作成過程を学ぶ。
	計画①	予習 : 教科書65~87ページを読み、用語の意味を調べてくる。
		復習 : 配付資料や教科書を読み、用語を説明できるようにする。
		訪問介護事業所のサービス提供責任者担う業務内容や役割を理解する。
7回	ケアプランと個別援助	事例をもとに、訪問介護計画書の作成過程を学ぶ。
	計画②	予習 : 教科書90~106ページを読み、用語の意味を調べてくる。
		復習 : 配付資料や教科書を読み、用語を説明できるようにする。
		利用者の人権侵害を防ぎその人らしい生活を支えるための支援を考える。
8回	人権と介護過程	予習 : 教科書107~131ページを読み、用語の意味を調べてくる。
		復習 : 配付資料や教科書を読み、用語を説明できるようにする。
	リスクマネジメントと	介護過程の展開におけるリスクを想定し、その対処方法について考える。
9回	介護過程	予習 : 教科書132~142ページを読み、用語の意味を調べてくる。
	万 段 超 生	復習 : 配付資料や教科書を読み、用語を説明できるようにする。
	チームケアの実践と介	他職種も含めたチームケアの実践が、利用者に与える影響について考える。
10 回	護過程	予習 : 教科書 1 4 4 ~ 1 5 5 ページを読み、用語の意味を調べてくる。
	反 地生	復習 : 配付資料や教科書を読み、用語を説明できるようにする。
		アセスメント(情報収集、分析)を学術的視点から再学習する。
11 回	介護過程の全体像①	予習: 教科書156~165ページを読み、用語の意味を調べてくる。
		復習 : 配付資料や教科書を読み、用語を説明できるようにする。
		介護計画の立案・介護計画の実施・評価を学術的視点から再学習する。
12 回	介護過程の全体像②	予習 : 教科書 1 6 8 ~ 1 7 8 ページを読み、用語の意味を調べてくる。
		復習 : 配付資料や教科書を読み、用語を説明できるようにする。

		ケアプラン(介護サービス計画)と個別援助計画の連動性について学術的
13 回	ケアプランと個別援助	視点から再学習する。
13 🖭	計画③	予習 : 教科書179~190ページを読み、用語の意味を調べてくる。
		復習 : 配付資料や教科書を読み、用語を説明できるようにする。
	14 回 国家試験対策	これまでの学びが国家試験ではどのように出題されているのか過去問題を
14 🖃		解き、分析し、知識を深める。
14 [4]		予習 : 教科書191~204ページを読み、用語の意味を調べてくる。
		復習 : 配付資料や教科書を読み、用語を説明できるようにする。
		実際の介護現場を想定した介護過程の展開方法についてまとめる。
15 回	介護過程の全体像	予習 : 教科書205~215ページを読み、用語の意味を調べてくる。
		復習 : 配付資料や教科書を読み、用語を説明できるようにする。

本科目は、講義・演習科目(1 単位)で、授業時間(30 時間)に加えて、15 時間の授業外学習(予習・復習)が必要となります。

学習内容に記載された予習・復習を実践して内容の理解を深めることが求められています。

成績評価の方法・基準 (%表記)

評価項目	S	A	В	С	D
①介護過程の展開方法の 理解(知識・方法)	完全にない しほぼ完全 に到達目標	若干不十分 な点は認め られるもの	不十分な点 は認められ るものの、到	到達目標の 最低限を達 成している。	到達目標を 達成してい ない。
②チームアプローチの理解(知識・方法)	を達成している。	の、到達目標 を達成して いる。	達目標を達成している。	,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,	3.1
100 点法	90 点以上	80 点以上	70 点以上	60 点以上	59 点以下

成績は、ワークシート等の授業における提出物30%と定期試験70%で評価する。

教科書

·最新介護福祉士養成講座「介護過程」介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規 2021 年 2,420 円

参考書等

履修上の注意・学習支援

演習が多い授業のため、積極的な実施と発言を求める。

配布資料は2年間使用するので、各自紛失のないように管理すること。

オフィスアワー

疑問等があれば、授業前後及びオフィスアワーを活用すること。事前予約の上、日時を決定する。

実務経験のある教員による授業科目

[実務経験の概要]

介護福祉士として、特別養護老人ホームで利用者への介護や生活支援に関する業務に従事してきた。

[実務経験と授業科目との関連性]

介護現場における実践経験は、本科目の授業内容と関連性が非常に高く、実例を踏まえて適宜発信していく 事ができる。

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
21HC1SE54	介護総合演習 I	1 年	前・後 (通年)	演習	2	小野 篤司

介護実践に必要な知識と技術の統合をおこなうとともに、介護観を形成し専門職としての態度を学ぶ。 実習に向けて、実習施設についての理解を深めるとともに各領域で学んだ知識と技術統合し、介護実践につなげることができるよう実習計画を作成できるようになる。

実習終了後は、実習を振り返り、介護の知識や技術を実践と結びつけて統合、深化させるとともに、自己の課題を明確にし専門職としての態度の理解を深める。

介護総合演習 I は、実習前の準備学習・実習体験・実習後の振り返り(実習担当教員の個別指導を含む)を通してケアワーカーに係わる専門的知識、技術・方法、態度を身につけることができるように、後期から始まる実習と組み合わせて学ぶ。

到達目標(学習の成果)

- 1. 実習の目的と意義を理解し説明できるようになる。 (知識)
- 2. 実習先の特徴と実習先での学びを理解し説明できるようになる。 (知識)
- 3. 各領域で学んだケアワーカーに係わる専門的知識と技術を統合して自己の目標を明確にし説明できるようになる。(知識)
- 4. 実習を振り返り、介護福祉に係わる専門的知識や技術を実践と結びつけて統合し、自己の課題を明確にし、自分の意見を言うことができる。 (態度)
- 5. ケアワーカーに係わる専門的技術や方法を身につけ、目的意識を持って実習に取り組み自分の意見を言うことができる。 (態度)

旦	表題	学習内容
1回	授業の進め方 介護実践に必要な 知識と技術 の統合 (1)	授業計画、授業方法、予習・復習・成績評価の方法等を理解する。 介護総合演習の位置付けを理解する 【予習】テキストの該当する部分を読んで理解する 【復習】授業で学んだ内容等を理解しまとめる
2回	介護実践に必要な 知識と技術の統合 (2)	介護総合演習の目的を理解する 【予習】テキストの該当する部分を読んで理解する 【復習】授業で学んだ内容等を理解しまとめる
3回	介護実践に必要な 知識と技術の統合 (3)	介護実習の意義と目的を理解する 【予習】テキストの該当する部分を読んで理解する 【復習】授業で学んだ内容等を理解しまとめる
4回	実習施設についての理解(1)	特別養護老人ホームにおけるサービス内容や利用者像、支援の視点、 実習での学ぶポイントを理解する 【予習】テキストの該当する部分を読んで理解する 【復習】身近な施設を調べてまとめる
5 回	実習施設についての理解 (2)	介護老人保健施設におけるサービス内容や利用者像、支援の視点、 実習での学ぶポイントを理解する 【予習】テキストの該当する部分を読んで理解する 【復習】身近な施設を調べてまとめる
6回	介護実践に必要な 知識と技術 の統合 (5)	介護実習の種類を理解する 実習Ⅱの目的と主な実習内容を理解する 【予習】テキストの該当する部分を読んで理解する 【復習】実習施設を調べてまとめる
7 回	実習施設についての理解 (3)	障害者支援施設におけるサービス内容や利用者像、支援の視点、実

		習での学ぶポイントを理解する 【予習】テキストの該当する部分を読んで理解する 【復習】身近な施設を調べてまとめる
8回	実習施設についての理解(4)	訪問介護におけるサービス内容や利用者像、支援の視点、実習での 学ぶポイントを理解する 【予習】テキストの該当する部分を読んで理解する 【復習】身近な施設を調べてまとめる
9回	実習施設についての理解(5)	通所介護におけるサービス内容や利用者像、支援の視点、実習での 学ぶポイントを理解する 【予習】テキストの該当する部分を読んで理解する 【復習】身近な施設を調べてまとめる
10回	実習施設についての理解(6)	グループホームにおけるサービス内容や利用者像、支援の視点、実習での学ぶポイントを理解する 【予習】テキストの該当する部分を読んで理解する 【復習】身近な施設を調べてまとめる
11回	実習施設についての理解 (7)	小規模多機能型居宅介護におけるサービス内容や利用者像、支援の 視点、実習での学ぶポイントを理解する 【予習】テキストの該当する部分を読んで理解する 【復習】身近な施設を調べてまとめる
12回	介護実践に必要な 知識と技術 の統合 (4)	介護実習の種類を理解する 実習 I の目的と主な実習内容を理解する 【予習】テキストの該当する部分を読んで理解する 【復習】実習施設を調べてまとめる
13回	介護実践に必要 な知識と技術の統合 (6)	実習前の学びと実習後の学びのいかし方を理解する 【予習】テキストの該当する部分を読んで理解する 【復習】授業で学んだ内容等を理解しまとめる
14回	介護実習Ⅱのねらいと実習モデ ル(1)	実習Ⅱのねらい実習モデルⅡの全体像を理解する 【予習】テキストの該当する部分を読んで理解する 【復習】授業で学んだ内容等を理解しまとめる
15回	介護実習Ⅱのねらいと実習モデ ル (2)	介護過程の展開を軸にした実習の目的を理解する。介護に必要な情報収集の方法を理解する。 【予習】テキストの該当する部分を読んで理解する 【復習】授業で学んだ内容等を理解しまとめる
16回	介護実習前の学習の内容と方法(1)	第1段階実習に向けて実習先を決め、実習先の概要を理解する 【予習】テキストの該当する部分を読んで理解する 【復習】身近な施設を調べてまとめる
17回	介護実習前の学習の内容と方法(2)	第1段階実習の目標・課題を確認する 【予習】テキストの該当する部分を読んで理解する 【復習】授業で学んだ内容等を理解しまとめる
18回	介護実習前の学習の内容と方法(3)	第1段階実習の実習計画書を作成する 【予習】テキストの該当する部分を読んで理解する 【復習】授業で学んだ内容等を理解しまとめる
19回	介護実習前の学習の内容と方法 (4)	第1段階実習に向けて、実習に必要な提出書類を作成する施設での事前オリエンテーションの流れを理解する 【予習】テキストの該当する部分を読んで理解する 【復習】授業で学んだ内容等を理解しまとめる

20回	介護実習前の学習の内容と方法 (1)	実習記録の意義と目的を理解する 【予習】テキストの該当する部分を読んで理解する 【復習】授業で学んだ内容等を理解しまとめる
21回	介護習前の学習の内容と方法 (2)	実習記録の種類を理解する 【予習】テキストの該当する部分を読んで理解する 【復習】授業で学んだ内容等を理解しまとめる
22回	介護実習前の学習の内容と方 法(3)	体験実習1および2に向けて実習先を決め、実習先の概要を理解する 【予習】テキストの該当する部分を読んで理解する 【復習】身近な施設を調べてまとめる
23回	介護実習 I のねらいと実習モデル(1)	実習 I のねらい実習モデル I の全体像を理解する 地域の様々な場における対象者の生活を理解する。生活支援やコミュニケーションの基礎的な方法を理解する。 【予習】テキストの該当する部分を読んで理解する 【復習】授業で学んだ内容等を理解しまとめる
24回	介護実習前の学習の内容と方法(4)	体験実習1および体験実習2に向けて、実習に必要な提出書類を作成する 施設での事前オリエンテーションの流れを理解する 【予習】テキストの該当する部分を読んで理解する 【復習】授業で学んだ内容等を理解しまとめる
25回	介護実習前の学習の内容と方法(5)	体験実習1および体験実習2の目標・課題を確認する 【予習】テキストの該当する部分を読んで理解する 【復習】授業で学んだ内容等を理解しまとめる
26回	介護実習前の学習の内容と方法(6)	体験実習1および体験実習2の実習計画を作成する 【予習】テキストの該当する部分を読んで理解する 【復習】授業で学んだ内容等を理解しまとめる
27回	介護実習後の学習内容と方法 (1)	第1段階実習の記録類を整理し実習ファイル提出をする 第1段階実習を振り返り自己評価をする 【予習】テキストの該当する部分を読んで理解する 【復習】授業で学んだ内容等を理解しまとめる
28回	介護実践に必要 な知識と技術 の統合 (7)	第1段階実習の振り返り介護の知識や技術を実践と結びつけ次の実習に向けて自己の課題を明確にする 実習目標に応じたテーマで体験と学びを報告・共有する 【予習】テキストの該当する部分を読んで理解する 【復習】授業で学んだ内容等を理解しまとめる
29回	介護実習後の学習内容と方法 (2)	体験実習1および体験実習2の記録類を整理し実習ファイル提出をする 体験実習1および体験実習2を振り返り自己評価をする 【予習】テキストの該当する部分を読んで理解する 【復習】授業で学んだ内容等を理解しまとめる
30回	介護実践に必要な知識と技術の 統合 (8)	体験実習1および体験実習2の振り返り介護の知識や技術を実践と 結びつけ次の実習に向けて自己の課題を明確にする 【予習】テキストの該当する部分を読んで理解する 【復習】授業で学んだ内容等を理解しまとめる

本科目は、演習科目(2単位)ですので、授業時間90分以外に30時間の授業外学習が必要になります。 学習内容に記載された予習・復習を実践して内容の理解を深めてください。 「介護過程」の授業と関連させて学びを深め、介護実習に向けて準備する。

成績評価の基準・方法

評価項目	S	A	В	С	D
1. 実習の目的と意義の理解	完全にない	若干不十分	不十分な点	到達目標の	到達目標を
2. 実習先の特徴と実習先での学びの	しほぼ完全	な点は認め	は認められ	最低限を達	達成してい
理解	に到達目標	られるもの	るものの、	成してい	ない。
3. 各領域で学んだケアワーカーに係	を達成して	の、到達目	到達目標を	る。	
わる専門的知識と技術を統合して自	いる。	標を達成し	達成してい		
己の目標を明確にする		ている。	る。		
4. 実習を振り返り、ケアワーカーに					
係わる専門的知識や技術を実践と結					
びつけて統合し、自己の課題を明確					
にする					
5. ケアワーカーに係わる専門的技術					
や方法を身につけ、目的意識を持っ					
て実習に取り組む					
100点法	90点以上	80点以上	70点以上	60点以上	59点以下

- ・定期試験 (レポート試験) 60%
- ・授業内課題(ワークシート) 40%

教科書

最新介護福祉士養成講座 10『介護総合演習・介護実習 第2版』介護福祉士養成講座編集委員会,中央法規,2022 年(2,420円)

参考書等

- · 『介護福祉実習要綱』字都宮短期大学人間福祉学科介護福祉専攻
- ・関根健夫・杉山真知子『イラストでわかる介護職・福祉職のためのマナーと接遇』中央法規、2017 年(2200円)
- ・青木宏心『介護実習で困らないためのQ&A』中央法規、2015 年(1980円)

履修上の注意・学習支援

- ・授業に必要のない私語は慎むこと。
- ・実習に向けて毎回準備をしていくため、休まずに出席し積極的に取り組むこと。
- ・授業中に示す課題・提出物は、必ず期限を守ること。
- ・質問等があれば、オフィスアワーなどを利用すること。

オフィスアワー

疑問があれば、オフィスアワーを利用すること(事前予約 ono@ujc. ac. jp のうえ、時間を設定する)。具体的な時間帯は追って指示する。

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
21HC2SE55	介護総合演習Ⅱ	2年	前・後 (通年)	演習	2	小野 篤司

介護実践に必要な知識と技術の統合をおこなうとともに、介護観を形成し専門職としての態度を学ぶ。 実習に向けて、実習施設についての理解を深めるとともに各領域で学んだ知識と技術統合し、介護実践につなげることができるよう実習計画を作成できるようになる。

実習終了後は、実習を振り返り、介護の知識や技術を実践と結びつけて統合、深化させるとともに、自己の課題を明確にし専門職としての態度の理解を深める。

介護総合演習IIは、実習前の準備学習・実習体験・実習後の振り返り(実習担当教員の個別指導を含む)を通して、介護福祉に係わる専門的知識、技術、方法を身につけることができるように、第2段階実習および第3段階実習と組み合わせて学び。また、3段階実習の体験を事例研究としてまとめ、質の高い介護実践やエビデンスの構築につながる実践研究の意義とその方法の理解を深める。

到達目標(学習の成果)

- 1. 実習の目的と意義を理解し説明できるようになる。(知識)
- 2. 実習先の特徴と実習先での学びを理解し説明できるようになる。(知識)
- 3. 各領域で学んだケアワーカーに係わる専門的知識と技術を統合して自己の目標を明確にし説明できるようになる。 (知識)
- 4. 実習を振り返り、ケアワーカーに係わる専門的知識や技術を実践と結びつけて統合し、自己の課題を明確にし自分の意見を言うことができる。 (態度)
- 5. 実習での学び・体験について、介護実践の科学的探求の視点からまとめて自分の意見を言うことができる。 (態度)
- 6. 実習体験を通してケアワーカーに係わる専門的知識、技術・方法について確認し、実習での学びと自らの課題を客観的に説明できる。(知識・態度)

旦	表題	学習内容
1回	授業の進め方 介護実習前の学習の内容と方法 (1)	授業計画、授業方法、予習・復習・成績評価の方法等を理解する。 第2段階実習に向けて実習先を決め、実習先の概要を理解する 【予習】テキストの該当する部分を読んで理解する 【復習】身近な施設を調べてまとめる
2回	介護実習前の学習の内容と方法 (2)	第2段階実習の目標・課題を確認する 【予習】テキストの該当する部分を読んで理解する 【復習】授業で学んだ内容等を理解しまとめる
3回	介護実習前の学習の内容と方法(3)	第2段階実習の実習計画書を作成する 【予習】テキストの該当する部分を読んで理解する 【復習】授業で学んだ内容等を理解しまとめる
4回	介護実習前の学習の内容と方法 (4)	第2段階の実習先の理解、実習に必要な提出書類を作成する施設での事前オリエンテーションの準備・確認する 【予習】テキストの該当する部分を読んで理解する 【復習】授業で学んだ内容等を理解しまとめる
5 回	介護実習前の学習の内容と方法 (5)	各実習段階に共通する実習記録を理解する 【予習】テキストの該当する部分を読んで理解する 【復習】授業で学んだ方法等を理解しまとめる
6 回	介護実習前の学習の内容と方法(6)	介護過程の展開に基づいた実習記録を理解する 【予習】テキストの該当する部分を読んで理解する 【復習】授業で学んだ方法等を理解しまとめる

7 回	介護実習Ⅱのねらいと実習モデ ル(1)	第2段階実習に向けて介護過程の展開を軸にした実習の目的を確認・ 理解する、介護計画の立案までの方法を理解できる 【予習】テキストの該当する部分を読んで理解する 【復習】授業で学んだ内容等を理解しまとめる
8回	介護実習後の学習内容と方法 (1)	第2段階実習の記録類を整理し実習ファイル提出をする 第2段階実習を振り返り自己評価をする 【予習】テキストの該当する部分を読んで理解する 【復習】授業で学んだ内容等を理解しまとめる
9回	介護実践に必要 な知識と技術 の統合 (1)	第2段階実習の体験から身体的介護、認知症の介護、レクリエーション活動について考える 【予習】テキストの該当する部分を読んで理解する 【復習】授業で学んだ内容等を理解しまとめる
10回	介護実践に必要 な知識と技術 の統合 (2)	実習中に学んだ介護過程の展開を振り返り、介護福祉士に求められる 課題を考える 【予習】テキストの該当する部分を読んで理解する 【復習】授業で学んだ内容等を理解しまとめる
11回	介護実践に必要 な知識と技術 の統合 (3)	第2段階実習を振り返り介護の知識や技術を実践と結びつけ次の実習に向けて自己の課題を明確にする 実習目標に応じたテーマで体験と学びを報告・共有する 【予習】テキストの該当する部分を読んで理解する 【復習】授業で学んだ内容等を理解しまとめる
12回	介護実践に必要 な知識と技術 の統合 (4)	第3段階実習に向けて実習先を決め、第3段階実習の目標・課題を確認する 【予習】テキストの該当する部分を読んで理解する 【復習】授業で学んだ内容等を理解しまとめる
13回	介護実習前の学習の内容と方法 (7)	第3段階実習の実習計画書を作成する 【予習】テキストの該当する部分を読んで理解する 【復習】授業で学んだ内容等を理解しまとめる
14回	護実習前の学習の内容と方法 (8)	第3段階の実習先の理解、実習に必要な提出書類を作成する 施設での事前オリエンテーションの準備・確認する
15回	介護実習Ⅱのねらいと実習モデル(2)	第3段階実習に向けて介護過程の展開を軸にした実習の目的を確認し、利用者や他職種とともに介護計画を立案する方法を理解できる 【予習】テキストの該当する部分を読んで理解する 【復習】授業で学んだ内容等を理解しまとめる
16回	介護実習Ⅱのねらいと実習モデ ル (3)	利用者の安全性、快適さ、自立に配慮した介護が実践できる 【予習】テキストの該当する部分を読んで理解する 【復習】授業で学んだ内容等を理解しまとめる
17回	介護実習Ⅱのねらいと実習モデ ル (4)	介護目標が達成できたか評価することができる。また、具体的な支援 内容が適切であったか評価することができる。評価の結果、介護計画 を修正する必要があるか判断することができる。 【予習】テキストの該当する部分を読んで理解する 【復習】授業で学んだ内容等を理解しまとめる
18回	介護実習後の学習内容 と方法 (2)	第3段階実習の記録類を整理し実習ファイル提出をする 第3段階実習を振り返り自己評価をする 【予習】テキストの該当する部分を読んで理解する 【復習】授業で学んだ内容等を理解しまとめる
19回	介護実践に必要 な知識と技術 の統合 (5)	第3段階実習を振り返り介護の知識や技術を実践と結びつけ、専門職 としての態度を養い今後の自己の課題を明確にする
	·	

		実習目標に応じたテーマで体験と学びを報告・共有する 【予習】テキストの該当する部分を読んで理解する 【復習】授業で学んだ内容等を理解しまとめる
20回	介護実践の科学的探求(1)	実習記録を活用して実習での経験を振り返る 【予習】テキストの該当する部分を読んで理解する 【復習】授業で学んだ内容等を理解しまとめる
21回	介護実践の科学的探求(2)	実習での経験をもとに事例研究を行う目的を理解する 【予習】テキストの該当する部分を読んで理解する 【復習】授業で学んだ内容等を理解しまとめる
22回	介護実践の科学的探求 (3)	事例研究を行う際の留意点について理解する 【予習】テキストの該当する部分を読んで理解する 【復習】授業で学んだ内容等を理解しまとめる
23回	介護実践の科学的探求(4)	事例研究のテーマを設定する 【予習】テキストの該当する部分を読んで理解する 【復習】授業で学んだ内容等を理解しまとめる
24回	介護実践の科学的探求 (5)	事例研究で扱う事例の情報を整理する 【予習】テキストの該当する部分を読んで理解する 【復習】授業で学んだ内容等を理解しまとめる
25回	介護実践の科学的探求(6)	実習で経験した事例の介護過程の展開を整理する 【予習】テキストの該当する部分を読んで理解する 【復習】授業で学んだ内容等を理解しまとめる
26回	介護実践の科学的探求 (7)	事例研究のテーマを軸にした分析を行う 【予習】テキストの該当する部分を読んで理解する 【復習】授業で学んだ内容等を理解しまとめる
27回	介護実践の科学的探求(8)	分析結果を根拠に考察をする 【予習】テキストの該当する部分を読んで理解する 【復習】授業で学んだ内容等を理解しまとめる
28回	介護実践の科学的探求 (9)	事例研究発表に向けて、発表内容を整理し発表方法を検討する。 【予習】テキストの該当する部分を読んで理解する 【復習】授業で学んだ内容等を理解しまとめる
29回	介護実践の科学的探求(10)	実習で経験した事例を事例研究として発表する。 【予習】テキストの該当する部分を読んで理解する 【復習】授業で学んだ内容等を理解しまとめる
30回	介護実践の科学的探求(11)	2年間の実習を振り返り介護観をまとめ、どのように実践していきたいか考える。 【予習】テキストの該当する部分を読んで理解する 【復習】授業で学んだ内容等を理解しまとめる

本科目は、演習科目(2単位)ですので、授業時間90分以外に30時間の授業外学習が必要になります。 学習内容に記載された予習・復習を実践して内容の理解を深めてください。 「介護過程」の授業と関連させて学びを深め、介護実習に向けて準備する。

成績評価の基準・方法

評価項目	S	A	В	С	D
1. 実習の目的と意義の理解	完全にない	若干不十分	不十分な点	到達目標の	到達目標を
2. 実習先の特徴と実習先での学びの	しほぼ完全	な点は認め	は認められ	最低限を達	達成してい
理解	に到達目標	られるもの	るものの、	成してい	ない。
3. 各領域で学んだケアワーカーに係	を達成して	の、到達目	到達目標を	る。	
わる専門的知識と技術を統合して自	いる。	標を達成し	達成してい		
己の目標を明確にする		ている。	る。		
4. 実習を振り返り、ケアワーカーに					
係わる専門的知識や技術を実践と結					
びつけて統合し、自己の課題を明確					
にする					
5. 実習での学び・体験について、介					
護実践の科学的探求の視点からまと					
める					
6. 実習体験を通してケアワーカー係					
わる専門的知識・技術・方法につい					
て確認し、実習での学びと自らの課					
題を客観的に説明する					
100点法	90点以上	80点以上	70点以上	60点以上	59点以下

- ・授業内課題 (レポート課題) 50%
- · 定期試験(事例研究) 50%

介護福祉士養成講座編集委員会、最新介護福祉士養成講座 10『介護総合演習・介護実習 第2版』中央法規、202 2 年 (2,420円)

参考書等

- · 『介護福祉実習要綱』宇都宮短期大学人間福祉学科介護福祉専攻
- ・関根健夫・杉山真知子『イラストでわかる介護職・福祉職のためのマナーと接遇』中央法規、2017 年(2200円)
- ・青木宏心『介護実習で困らないためのQ&A』中央法規、2015 年(1980円)

履修上の注意・学習支援

- ・授業に必要のない私語は慎むこと。
- ・実習に向けて毎回準備をしていくため、休まずに出席し積極的に取り組むこと。
- ・授業中に示す課題・提出物は、必ず期限を守ること。
- ・質問等があれば、オフィスアワーなどを利用すること。

オフィスアワー

疑問があれば、オフィスアワーを利用すること(事前予約 ono@ujc.ac.jp のうえ、時間を設定する)。具体的な時間帯は追って指示する。

科目番号		科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
21HC1SE5	5	介護実習 I	1年	後期	実習	3	小野 篤司・益川 順子・ 阿部 正昭

実習体験を通して、対象者一人ひとりに合わせた介護の実践や、介護過程の展開を通して対象者の特性を理解すること、多職種との協働の中で介護福祉士の役割を理解し、チームケアを体験的に学ぶ。また、地域における様々な場において、対象者の生活を理解すること、対象者の生活と地域とのかかわりや地域での生活をささえる施設・機関の役割を理解し、地域における生活支援の実践を学ぶ。他者に共感し、倫理性をもち、本人や家族とのコミュニケーションや生活支援を行うことができるよう、様々な実習体験を通して、ケアワーカーに係わる専門的知識・技術・方法を実践的に学ぶ。

到達目標(学習の成果)

- ・介護過程の展開を通して対象者の特性を理解できる。
- ・対象者の状況に合わせた基本的な生活支援技術を理解できる。
- ・地域における様々な対象者の生活を理解できる。
- ・地域での生活を支える様々な施設・機関の役割を理解できる。
- ・多職種連携やチームケアを体験的に学び、多職種との協働の中でケアワーカーの役割を理解できる。
- ・実習体験を通して 介護過程の展開や、利用者や家族とのコミュニケーションや生活支援の実践を学び、ケアワーカーに係わる専門的な知識、技術・方法が身についている。

旦	表題	学習内容
1年後 期	1 段階実習 (実習施設・事業等Ⅱ)	・実習前オリエンテーションへ行く ・10 日間 (80 時間)の介護実習を行う (特別養護老人ホーム、介護老人保健施設) ・実習における学習内容 ①介護過程の展開を通して対象者を理解する。 (フェイスシートの作成) ②対象者の生活を支える施設の役割を理解する。 ③多職種連携やチームケアを体験的に学び、多職種との協働の中で介護福祉士の役割を理解する。 ④対象者の状況に合わせた基本的な生活支援技術を理解する。 ・介護総合演習 I と連動し、事前学習および事後学習を行う。 【事前】実習先について、事前に各自で調べる。事前訪問(オリエンテーション)を行い、介護実習の目的・内容等の理解を深める。 介護総合演習、介護過程の授業を復習し、実習に備える。 【事後】実習終了後、実習課題を整理し、「成果と課題」を作成して、実習施設へ提出する。
1年後 期	体験実習 1 (実習施設・事業等 I)	・実習前オリエンテーションへ行く ・4日間(32 時間)の介護実習を行う(通所介護、小規模多機能型居宅介護、訪問介護) ・実習における学習内容 ①対象者の生活を支える多様な介護サービスに関する理解を深める。 ②利用者・家族との関わりを通して、コミュニケーションの実践について学ぶ。 ③多職種協働の実践について学ぶ。 ④基本的な介護技術について学ぶ・介護総合演習 I と連動し、事前学習および事後学習を行う。 【事前】実習先について、事前に各自で調べる。事前訪問(オリエンテーション)を行い、介護実習の目的・内容等の理解を深める。 介護総合演習、介護過程の授業を復習し、実習に備える。

		【事後】実習終了後、実習課題を整理し、「成果と課題」を作成して、実習施設へ提出する。
1年後期	体験実習 2 (実習施設・事業等 I)	・実習前オリエンテーションへ行く ・4日間(32 時間)の介護実習を行う(認知症対応型共同生活介護、障害者支援施設) ・実習における学習内容 ①対象者の生活を支える多様な介護サービスに関する理解を深める。 ②利用者・家族との関わりを通して、コミュニケーションの実践について学ぶ。 ③多職種協働の実践について学ぶ。 ④基本的な介護技術について学ぶ。 ・介護総合演習 I と連動し、事前学習および事後学習を行う。 【事前】実習先について、事前に各自で調べる。事前訪問(オリエンテーション)を行い、介護実習の目的・内容等の理解を深める。 介護総合演習、介護過程の授業を復習し、実習に備える。 【事後】実習終了後、実習課題を整理し、「成果と課題」を作成して、実習施設へ提出する。

学習内容に記載された事前・事後学習を実践して内容の理解を深めてください。

成績評価の基準・方法

評価項目	S	A	В	С	D
1. 介護過程の展開を通して対象者の	完全にない	若干不十分	不十分な点	到達目標の	到達目標を
特性の理解	しほぼ完全	な点は認め	は認められ	最低限を達	達成してい
2. 対象者の状況に合わせた基本的な	に到達目標	られるもの	るものの、	成してい	ない。
生活支援技術の理解	を達成して	の、到達目	到達目標を	る。	
3. 地域における様々な対象者の生活	いる。	標を達成し	達成してい		
の理解		ている。	る。		
4. 地域での生活を支える様々な施					
設・機関の役割の理解					
5. 多職種連携やチームケアを体験的					
に学び、多職種との協働の中で介護福					
祉士の役割の理解					
6. 介護過程の展開や、利用者や家族					
とのコミュニケーションや生活支援の					
実践を学び、ケアワーカーに係わる専					
門的な知識、技術・方法の習得度					
100点法	90点以上	80点以上	70点以上	60点以上	59点以下

- ・各実習の現場指導者の評価と、教員の評価の総合的に評価(50%)
- ・授業外課題 (「成果と課題」を含めた実習記録) (50%)

教科書

- ・介護福祉士養成講座編集委員会、最新介護福祉士養成講座 10『介護総合演習・介護実習 第2版』中央法規, 2022 年 (2,420円)
- · 『介護福祉実習要綱』字都宮短期大学人間福祉学科介護福祉専攻

参考書等

- ・関根健夫・杉山真知子『イラストでわかる介護職・福祉職のためのマナーと接遇』中央法規、2017 年 (2200円)
- ・青木宏心『介護実習で困らないためのQ&A』中央法規、2015 年 (1980円)

履修上の注意・学習支援

・質問等があれば、オフィスアワーなどを利用すること。

オフィスアワー

疑問があれば、オフィスアワーを利用すること(事前予約 ono@ujc.ac.jp のうえ、時間を設定する)。具体的な時間帯は追って指示する。

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
21HC2SE57	介護実習Ⅱ	2年	前・後 (通年)	実習	7	小野 篤司・益川 順子・ 阿部 正昭

福祉専門職としての基本的な知識・方法や方法を学ぶとともに、個々の個性を伸長するために、利用者一人ひとりに合わせた介護計画の立案・実施・評価およびこれを踏まえた修正までの一連の介護過程の展開を通して対象者を理解し、本人主体の生活と自立を支援するための介護過程を実践的に学ぶ。

実習体験を通して、対象者一人ひとりに合わせた介護の実践や、サービス担当者会議やケースカンファレンス参加等を通じて 多職種協働やチームケアを体験的に学ぶ。また、対象者の生活と地域とのかかわりや地域での生活をささえる施設・機関の役割を理解し、地域における生活支援の実践を学ぶ。他者に共感し、倫理性をもち、本人や家族とのコミュニケーションや生活支援を行うことができるよう、長期間の実習体験を通して、ケアワーカーに係わる専門的知識、技術・方法を実践的に学ぶ。

到達目標(学習の成果)

- ・本人の望む生活の実現に向けて、介護計画立案・実施・評価までの 介護過程の実践的展開を理解できる。
- ・対象者の生活を支える施設の役割を理解できる。
- ・サービス担当者会議やケースカンファレンス等を通じて、多職種連携やチームケアを理解できる。
- ・実習体験を通して 多職種協働やチームケア、介護過程の実践的展開を学び、ケアワーカーに係わる専門的知識、技術・方法が身についている。

回	表題	学習内容
2年前期	2 段階実習 (実習施設・事業等Ⅱ)	・実習前オリエンテーションへ行く ・17 日間 (135 時間) の介護実習を行う (特別養護老人ホーム、介護老人保健施設) ・実習における学習内容 ①本人の望む生活の実現に向けて、介護過程の実践的展開ができる。 (介護に必要な情報収集、生活課題の明確化、介護計画の立案) ②対象者の生活を支える施設の役割を理解する。 ③サービス担当者会議やケースカンファレンス等を通じて、多職種連携やチームケアを体験的に学ぶ。 ・介護総合演習IIと連動し、事前学習および事後学習を行う。 【事前】実習先について、事前に各自で調べる。事前訪問(オリエンテーション)を行い、介護実習の目的・内容等の理解を深める。 介護総合演習、介護過程の授業を復習し、実習に備える。 【事後】実習終了後、実習課題を整理し、「成果と課題」を作成して、 実習施設へ提出する。
2年後期	3 段階実習 (実習施設・事業等Ⅱ)	・実習前オリエンテーションへ行く ・23 日間 (180 時間) の介護実習を行う (特別養護老人ホーム、介護老人保健施設) ・実習における学習内容 ①本人の望む生活の実現に向けて、介護過程の実践的展開ができる。 (介護に必要な情報収集、生活課題の明確化、介護計画の立案・実施・評価) ②対象者の生活を支える施設の役割を理解する。 ③サービス担当者会議やケースカンファレンス等を通じて、多職種連携やチームケアを体験的に学ぶ。 ・介護総合演習IIと連動し、事前学習および事後学習を行う。また、3段階実習終了後は、事例研究としてまとめる。 【事前】実習先について、事前に各自で調べる。事前訪問(オリエンテーション)を行い、介護実習の目的・内容等の理解を深める。

介護総合演習、介護過程の授業を復習し、実習に備える。 【事後】実習終了後、実習課題を整理し、「成果と課題」を作成して、 実習施設へ提出する。

準備学習(予習・復習について)

学習内容に記載された事前・事後学習を実践して内容の理解を深めてください。

成績評価の基準・方法

評価項目	S	A	В	С	D
1. 介護計画立案・実施・評価までの	完全にない	若干不十分	不十分な点	到達目標の	到達目標を
介護過程の実践的展開の理解	しほぼ完全	な点は認め	は認められ	最低限を達	達成してい
2. 対象者の生活を支える施設の役割	に到達目標	られるもの	るものの、	成してい	ない。
の理解	を達成して	の、到達目	到達目標を	る。	
3. サービス担当者会議やケースカン	いる。	標を達成し	達成してい		
ファレンス等を通じて、多職種連携		ている。	る。		
やチームケアの理解					
4. 多職種協働やチームケア、介護過程					
の実践的展開を学び、ケアワーカー					
に係わる専門的知識・技術・方法の					
習得度					
100点法	90点以上	80点以上	70点以上	60点以上	59点以下

- ・各実習の現場指導者の評価と、教員の評価の総合的に評価 (50%)
- ・授業外課題(「成果と課題」を含めた実習記録) (50%)

教科書

- ・最新介護福祉士養成講座 10『介護総合演習・介護実習 第2版』介護福祉士養成講座編集委員会,中央法規, 2022 年 (2,420円)
- · 『介護福祉実習要綱』宇都宮短期大学人間福祉学科介護福祉専攻

参考書等

- ・関根健夫・杉山真知子『イラストでわかる介護職・福祉職のためのマナーと接遇』中央法規、2017 年(2200 円)
- ・青木宏心『介護実習で困らないためのQ&A』中央法規、2015 年 (1980円)
- ・川村匡由『三訂 福祉系学生のためのレポート&卒論の書き方』中央法規、2018年(1760円)

履修上の注意・学習支援

・質問等があれば、オフィスアワーなどを利用すること。

オフィスアワー

疑問があれば、オフィスアワーを利用すること(事前予約 ono@ujc.ac.jp のうえ、時間を設定する)。具体的な時間帯は追って指示する。

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
21HC2SP58	介護福祉特別演習 I	2年	前期	演習	1	小野 篤司

ケアワーカーに必要な知識・技術を身につけ、他者に共感し、倫理性をもって、地域に貢献できるよう、介護福祉士資格取得をめざす。1年次に学習した各科目の内容を中心として過去問をはじめとした様々な問題を解き、演習を通してケアワーカーに係わる専門的な知、・技術・方法の向上をめざして学ぶ。

到達目標(学習の成果)

- ・1 年次に学んだ各科目の内容を理解して、ケアワーカーに係わる専門的知識・技術・方法を説明できるようになる。 (知識)
- ・演習問題や模擬試験を通して、介護福祉に係わる専門的知識・技術・方法をアウトプットすることができる。 また、基礎知識を基に、自ら率先して専門的な知識、技術・方法を学び、介護福祉士資格取得に向けて学ぶ意識を高める(技術・方法)。

回	表題	学習内容
1 回	授業の進め方 国家試験の概要	授業計画、授業方法、予習・復習・成績評価の方法等を理解する。 授業の進め方、国家試験の概要を理解する。各自の現状と課題を理解 し、目標を設定する。 【予習】国家試験の出題範囲・出題傾向を調べて理解する 【復習】授業で示した課題をまとめる
2回	実力確認と課題の把握①	1年次の学びを確認し、出題範囲・出題傾向を理解する。 【予習】テキストの該当する部分を読んで理解する 【復習】授業で示した課題をまとめる
3回	実力確認と課題の把握②	1年次の学びを確認し、各自の課題を整理し理解を深める。 【予習】テキストの該当する部分を読んで理解する 【復習】授業で示した課題をまとめる
4 回	人間の尊厳と自立・人間関係と コミュニケーション	人間の尊厳と自立・自律に関する基本概念を確認・理解する。介護における尊厳の保持・自立支援の大切さを理解する。 対人関係とコミュニケーションの意義・概要を理解する。コミュニケーションの様々な技法と基本姿勢を理解する。 【予習】授業で示した課題を調べてまとめる 【復習】授業で示した課題をまとめる
5 回	コミュニケーション技術	介護におけるコミュニケーションの基本を確認する。利用者・家族・ 介護チーム間のコミュニケーションの実際を確認し、理解を深める。 【予習】授業で示した課題を調べてまとめる 【復習】授業で示した課題をまとめる
6回	社会の理解	人間の生活と社会との関わり、日本の社会保障制度の種類と概要について確認し、理解を深める。 【予習】授業で示した課題を調べてまとめる 【復習】授業で示した課題をまとめる
7回	介護の基本	介護を必要とする人を生活の観点から捉えて介護するために必要な基本的知識を確認し、理解を深める。 【予習】授業で示した課題を調べてまとめる 【復習】授業で示した課題をまとめる
8回	介護過程	介護サービスを受ける利用者のより良い生活を実現するために、利用 者の課題を解決する際の思考過程を確認し理解しを深める

		【予習】授業で示した課題を調べてまとめる 【復習】授業で示した課題をまとめる
9回	こころとからだのしくみ	こころとからだのしくみの基礎を確認し、理解を深める。 【予習】授業で示した課題を調べてまとめる 【復習】授業で示した課題をまとめる
10回	発達と老化の理解	人間の成長と発達、老年期の発達と成熟、老化に伴うこころとからだの変化と日常生活について確認し、介護の留意点と支援方法の理解を深める。 【予習】授業で示した課題を調べてまとめる 【復習】授業で示した課題をまとめる
11回	認知症の理解	認知症に関する基礎的知識と本人・周囲の環境にも配慮した介護の視点と介護方法を確認し、理解を深める。 【予習】授業で示した課題を調べてまとめる 【復習】授業で示した課題をまとめる
12回	障害の理解	障害のある人の心身に関する基礎的理解と本人・周囲の環境にも配慮 した介護の視点と介護方法を確認し、理解を深める。 【予習】授業で示した課題を調べてまとめる 【復習】授業で示した課題をまとめる
13回	生活支援技術	利用者の心身の状態に合わせた安全で適切な介護技術や知識について確認し、理解を深める。 【予習】授業で示した課題を調べてまとめる 【復習】授業で示した課題をまとめる
14回	医療的ケア	医療的ケア実施の基礎、喀痰吸引 (基礎的知識・実施手順)、経管栄養 (基礎的知識・実施手順)を確認し、理解を深める。 【予習】授業で示した課題を調べてまとめる 【復習】授業で示した課題をまとめる
15回	総合問題	人間と社会、介護、こころとからだのしくみ、医療的ケア 知識および技術横断的に問われる問題の理解を深める。 【予習】授業で示した課題を調べてまとめる 【復習】授業で示した課題をまとめる

本科目は、演習科目(1単位)ですので、授業時間90分以外に15時間の授業外学習が必要になります。 学習内容に記載された予習・復習を実践して内容の理解を深めてください。

成績評価の基準・方法

評価項目	S	A	В	С	D
1. 1 年次に学んだ各科目の内容を理	完全にない	若干不十分	不十分な点	到達目標の	到達目標を
解して、ケアワーカーに係わる専門的	しほぼ完全	な点は認め	は認められ	最低限を達	達成してい
知識、技術・方法の理解	に到達目標	られるもの	るものの、	成してい	ない。
2. 演習問題や模擬試験によるケアワ	を達成して	の、到達目	到達目標を	る。	
ーカーに係わる専門的知識・技術・方	いる。	標を達成し	達成してい		
法の習得度		ている。	る。		
100点法	90点以上	80点以上	70点以上	60点以上	59点以下

- ・定期試験 (レポート試験) 60%
- ・授業内課題 (小テスト) 40%

教科書

中央法規介護福祉士受験対策研究会編集『介護福祉士受験ワークブック・上』中央法規、2025年 (3410円) 中央法規介護福祉士受験対策研究会編集『介護福祉士受験ワークブック・下』中央法規、2025年 (3410円) 中央法規介護福祉士受験対策研究会編集『介護福祉士国家試験過去問解説集』中央法規、2025年(3520円) 参考書等

いとう総研資格取得支援センター編集『見て覚える介護福祉士国試ナビ』中央法規、2025年(2860円)

履修上の注意・学習支援

介護福祉士国家試験受験対策テキストや介護福祉士国家試験過去問解説集のみでなく、各教科のテキストや資料、自己の学習ノート等も合わせて、学びの内容を確認するとともに、総合的知識を高めていくこと。

オフィスアワー

疑問があれば、オフィスアワーを利用すること(事前予約 ono@ujc.ac.jp) のうえ、時間を設定する)。具体的な時間帯は追って指示する。

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
21HC2SP59	介護福祉特別演習Ⅱ	2年	後期	演習	1	小野、百田、堀、益川、 佐藤

ケアワーカーに必要な知識、技術を身につけ、他者に共感し、倫理性をもって、地域に貢献できるよう、介護福祉士資格取得をめざす。1年次と2年前期に学習した各科目の内容について、過去問をはじめとした様々な問題を理解し、演習を通してケアワーカーに係わる専門的な知識、技術・方法の向上をめざして学ぶ。

到達目標(学習の成果)

到達目標(学習の成果)

- ・ケアワーカーとして必要な各科目の内容を理解し、説明できるようになる。 (知識)
- ・演習問題や模擬試験を通して、知識・技術・方法をアウトプットすることが出来る。基礎知識を基に、自ら率先してケアワーカーに係わる専門的な知識・技術・方法を学び、介護福祉士資格取得に向けて学ぶ意識を高める(技術・方法)。

旦	表題	学習内容
1 回	授業の進め方現状の確認と課題の把握①	授業計画、授業方法、予習・復習・成績評価の方法等を理解する。 自己の現状と課題を再確認する。授業の進め方、自己学習の進め方を 確認する。これまでの学びを確認し、各自の課題を整理し理解を深め る。(小野) 【予習】テキストの該当する部分を読んで理解する 【復習】授業で示した課題をまとめる
2回	現状の確認と課題の把握②	前期の学習を確認し、国家試験の午前問題を中心に各自の課題を整理して理解を深める。(小野) 【予習】午前問題を中心にテキストの該当する部分を読んで理解する 【復習】授業で示した課題をまとめる
3回	現状の確認と課題の把握③	前期の学習を確認し、国家試験の午後問題を中心に各自の課題を整理して理解を深める。(小野) 【予習】午後問題を中心にテキストの該当する部分を読んで理解する 【復習】授業で示した課題をまとめる
4回	人間の尊厳と自立	「人間の尊厳と自立」について、頻出問題の傾向とその内容に関する理解を深める。(小野) 【予習】テキストの該当する部分を読んで理解する 【復習】授業で示した課題をまとめる
5 回	コミュニケーション技術	「コミュニケーション技術」について、頻出問題の傾向とその内容に 関する理解を深める。 (小野) 【予習】テキストの該当する部分を読んで理解する 【復習】授業で示した課題をまとめる
6 回	生活支援技術①	「生活支援技術」に関する内容のうち、介護技術の頻出問題の傾向と その内容について理解を深める。(佐藤) 【予習】テキストの該当する部分を読んで理解する 【復習】授業で示した課題をまとめる
7 回	介護過程・総合問題	「介護過程」「総合問題」について、頻出問題の傾向とその内容に関する理解を深める。(佐藤) 【予習】テキストの該当する部分を読んで理解する 【復習】授業で示した課題をまとめる

8回	医療的ケア・ 発達と老化の理解	「医療的ケア」「発達と老化の理解」について、頻出問題の傾向とその内容に関する理解を深める。(益川) 【予習】テキストの該当する部分を読んで理解する 【復習】授業で示した課題をまとめる
9回	介護の基本	「介護の基本」について、頻出問題の傾向とその内容に関する理解を深める。(小野) 【予習】テキストの該当する部分を読んで理解する 【復習】授業で示した課題をまとめる
10回	認知症の理解・ 障害の理解	「認知症の理解」「障害の理解」について、頻出問題の傾向とその内容に関する理解を深める。 (益川) 【予習】テキストの該当する部分を読んで理解する 【復習】授業で示した課題をまとめる
11回	こころとからだのしくみ	「こころとからだのしくみ」について、頻出問題の傾向とその内容に 関する理解を深める。 (百田) 【予習】テキストの該当する部分を読んで理解する 【復習】授業で示した課題をまとめる
12回	社会の理解	「社会の理解」について、頻出問題の傾向とその内容に関する理解を深める。(小野) 【予習】テキストの該当する部分を読んで理解する 【復習】授業で示した課題をまとめる
13回	人間関係とコミュニケーション	「人間関係とコミュニケーション」について、頻出問題の傾向とその内容に関する理解を深める。 (堀) 【予習】テキストの該当する部分を読んで理解する 【復習】授業で示した課題をまとめる
14回	生活支援技術②	「生活支援技術」に関する内容のうち、家庭・家族等、家事・食生活の頻出問題の傾向とその内容について理解を深める。(百田) 【予習】テキストの該当する部分を読んで理解する 【復習】授業で示した課題をまとめる
15回	本試験に向けてのまとめ	本試験に向けて、得意科目・苦手科目等の頻出問題について改めて確認し理解を深める。 (小野) 【予習】各自の得意科目・苦手科目についてテキストの該当する部分を読んで理解する 【復習】授業で示した課題をまとめる

本科目は、演習科目(1単位)ですので、授業時間90分以外に15時間の授業外学習が必要になります。 学習内容に記載された予習・復習を実践して内容の理解を深めてください。

成績評価の基準・方法

評価項目	S	A	В	C	D
1. ケアワーカーとして必要な各科目	完全にない	若干不十分	不十分な点	到達目標の	到達目標を
の内容の理解	しほぼ完全	な点は認め	は認められ	最低限を達	達成してい
2. 知識や技術をアウトプットするこ	に到達目標	られるもの	るものの、	成してい	ない。
とが出来る。基礎知識を基に、自ら率	を達成して	の、到達目	到達目標を	る。	
先して 先して	いる。	標を達成し	達成してい		
演習問題や模擬試験によるケアワーカ		ている。	る。		
ーに係わる専門的な知識・技術の習得					
度					
100点法	90点以上	80点以上	70点以上	60点以上	59点以下

・定期試験 (レポート試験) 60%

·授業外課題(模擬試験) 40%

教科書

いとう総研資格取得支援センター編集『見て覚える介護福祉士国試ナビ』中央法規、2025年(2860円)

履修上の注意・学習支援

介護福祉士国家試験受験対策テキストや介護福祉士国家試験過去問解説集のみでなく、各教科のテキストや資料、自己の学習ノート等も合わせて、学びの内容を確認するとともに、総合的知識を高めていくこと。

オフィスアワー

疑問があれば、オフィスアワーを利用すること(事前予約 ono@ujc.ac.jp) のうえ、時間を設定する)。具体的な時間帯は追って指示する。

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
21HC1SP60	レクリエーション概論	1年	前期	講義	1	河田 隆・霜触 智紀・ 本並 健太

レクリエーション概論として、「レクリエーションとは」、「レクリエーション支援とは」、「レクリエーション・インストラクターの役割」、楽しさと心の元気づくりの理論として、「楽しさをとおした元気づくりと対象者の心の元気」、「心の元気と地域のきずな」、レクリエーション支援の理論として、「コミュニケーションと信頼関係づくりの理解」、「良好な集団づくりの理論」、「自主的、主体的に楽しむ力を育む理論」を学習する。また、福祉領域において遊びやレクリエーション活動がいかに重要であるか深く理解し、個人・集団を対象にしたレクリエーション事業のプログラムの組み立て方や運営方法を福祉専門職として学習する。

到達目標(学習の成果)

- ・レクリエーション支援の理論について深く理解する。 (知識)
- ・レクリエーションおよびレクリエーション活動について説明できる。 (知識・態度)
- ・福祉領域における個人・集団に対するレクリエーション活動の果たす効果を深く理解する。(知識)
- ・対象者または目的に合わせたレクリエーションプログラムを計画することができる。(知識)
- ・ 高齢者や障がい者に関連する得意な分野の専門性を深める。 (技術・態度)

回	表題	学習内容
1 🗉	授業の進め方 レクリエーション概論	授業計画、授業方法、予習・復習・成績評価の方法等を説明する。 レクリエーションとはについて学ぶ。レクリエーション支援とはについて学ぶ。レクリエーション・インストラクターの 2 つの役割について学ぶ。 予習:レクリエーション支援、レクリエーション・インストラクターに関して調べておく。 復習:レクリエーションがもたらす恩恵について振り返り、理解を深める。
2 🗉	楽しさをとおした心の元気づく りと対象者の心の元気	楽しさをとおした心の元気づくりを理解する。ライフステージと心の元気づくりについて学ぶ。子どもや高齢者の心の元気づくり、障がいのある人の心の元気づくりの課題について学ぶ。予習:心の元気づくりに関して、授業内容の理解を深めるため教科書の該当ページを読んでおく。 復習:心の元気づくりに関して、子ども、高齢者、障がいのある人等に対する支援について具体案を考えるとともに学習内容を振り返り、理解を深める。
3回	心の元気と地域のきずな	地域のきずなづくり、子どもを育む地域のきずなについて学ぶ。高齢者を支える地域のきずな、きずなづくりとレクリエーションについて学ぶ。予習:心の元気と地域のきずなに関して、授業内容の理解を深めるため教科書の該当ページを読んでおく。 復習:地域のきずなとレクリエーションとの関連について振り返り、理解を深める。
4 回	コミュニケ―ションと信頼関係 づくりの理論	レクリエーション支援におけるコミュニケーションを学ぶ。対象者と 支援者の信頼関係、および信頼関係づくりの方法を学ぶ。 予習:コミュニケーションと信頼関係づくりに関して、授業内容の理 解を深めるため教科書の該当ページを読んでおく。 復習:レクリエーション支援におけるコミュニケーションの重要性、 具体的な方法について振り返り、理解を深める。

5 回	良好な集団づくりの理論	レクリエーション活動をとおした良好な集団づくり、集団内のコミュニケーションの促進について学ぶ。 予習:集団づくりに関して、授業内容の理解を深めるため教科書の該当ページを読んでおく。 復習:集団づくりにおけるレクリエーション活動の効果について振り返り、理解を深める。
6回	自主的・主体的に楽しむ力を育む理論	自主的・主体的にレクリエーション活動を楽しむ力について学ぶ。やる気の変化とやる気が生じる心の仕組み、成功体験を支え合う対象者のかかわりについて学ぶ。 予習:自主的・主体的に楽しむ力に関して、授業内容の理解を深めるため教科書の該当ページを読んでおく。 復習:対象者のレクリエーション活動と自主性、やる気、成功体験との関連について振り返り、理解を深める。
7回	レク活動の安全管理	安全管理の考え方(事故・事件への対応)や、救急法の基礎知識について学ぶ。 予習:安全管理に関して、授業内容の理解を深めるため教科書の該当ページを読んでおく。 復習:レクリエーション活動を安全に実施するため、気をつけるべき点について振り返り、理解を深める。
8回	レクリエーション事業	レクリエーション事業の現状を理解し、レクリエーションプログラムがより良いものになるため現状の課題等を発見し改善の方法を学ぶ。 予習:レクリエーション事業に関して、授業内容の理解を深めるため 教科書の該当ページを読んでおく。 復習:レクリエーションプログラムがより良いものになるため現状の 課題を踏まえ、解決策を考える。
9日	レクリエーションプログラムの 立案1	個人、集団に対するレクリエーションプログラムや市民サービス型レクリエーション事業の組立て方や運営方法について学ぶ。 予習:レクリエーションプログラムの立案に関して、授業内容の理解を深めるため教科書の該当ページを読んでおく。 復習:レクリエーションプログラムの組立て方や運営方法について振り返り、理解を深める。
10回	レクリエーションプログラムの 立案2	レクリエーションプログラム立案方法を学ぶ。 予習:前時の内容を復習し、レクリエーションプログラムの立案に関して、理解を深めておく。 復習:レクリエーションプログラム創作方法について、実践をイメージしながら具体的に振り返り、理解を深める。

本科目は講義科目 (1単位) ですので、授業時間90分以外に25時間の授業外学習が必要になります。 授業外学習方法に記載された予習・復習課題を実践して内容の理解を深めてください。

成績評価の基準・方法

	評価項目	S	A	В	C	D
(D レクリエーション、レクリエーシ	完全にない	若干不十分	不十分な点	到達目標の	到達目標を
	ョン活動、レクリエーション支援	しほぼ完全	な点は認め	は認められ	最低限を達	達成してい
	についての理解	に到達目標	られるもの	るものの、	成してい	ない。
6	② 福祉領域における個人・集団に対	を達成して	の、到達目	到達目標を	る。	
	するレクリエーション活動の果た	いる。	標を達成し	達成してい		
	す効果の理解		ている。	る。		

③ 対象者または目的に合わせたレク リエーションプログラムを計画す ることの習熟度					
100点法	90点以上	80点以上	70点以上	60点以上	59点以下

定期試験(筆記試験またはレポート課題) 100%

- ・レクリエーション概論・楽しさと心の元気づくりの理論・レクリエーション支援の支援について深く理解している。
- ・福祉領域における個人・集団に対するレクリエーション活動の果たす効果を深く理解している。
- ・対象に合わせた、また目的に合わせたレクリエーションプログラムを計画することができる。
- ・レクリエーション概論の理解を深めようと努めている。

教科書

公益財団法人日本レクリエーション協会編「楽しさをとおした心の元気づくり レクリエーション支援の理論と方法」公益財団法人日本レクリエーション協会,2019年、1980円(税込み)

参考書等

なし

履修上の注意・学習支援

- ・授業における課題の提出期限は厳守する。
- ・他者の迷惑になる授業態度は一切しないこと。
- ・疑問があれば、オフィスアワーを利用すること(事前予約のうえ、時間を設定する)。
- ・本授業はいずれの回も担当教員3名にて行う

オフィスアワー

疑問があれば、オフィスアワーを利用すること。事前予約(t. shimofure@ujc. ac. jp)のうえ、時間を設定する。 具体的な時間は追って連絡する。

科目番号	科目名	開講年 次	学期	授業形態	単位	担当教員
21HC1SP61	レクリエーション演習	1年	前・後 (通年)	演習	2	月橋 春美・本並健太

学生がグループで一般の人や福祉領域の人を対象としたレクリエーション支援を実際に体験することにより、レクリエーション支援者として役割や援助方法について学習する。また、その際、福祉の現場において目的に合わせた効果的なレクリエーション支援ができるよう、支援方法についても学ぶ。

到達目標(学習の成果)

- ・ レクリエーション支援の体験を通して、一般の人や福祉領域の人に合わせたレクリエーション・ワーク、対象者に合わせたレクリエーション活動の展開方法やアレンジ法を身につける。 (技術・態度)
- ・ レクリエーション支援後のふりかえりを通して、レクリエーション支援者としての基本的考え方や姿勢について理解する (知識)

旦	表題	学習内容
1 回	授業の進め方 信頼関係づくりの方法・ホスピ タリティ1	授業計画、授業方法、予習・復習・成績評価の方法等を理解する。 あたたかくもてなす意識と配慮について学ぶ 予習:信頼関係づくりについてテキストを読む 復習:ホスピタリティについてまとめる
2回	信頼関係づくりの方法・ホスピ タリティ2	気持ちをひとつにするコミュニケーション技術について学ぶ 予習:コミュニケーション技術についてテキストを読む 復習:コミュニケーション技術についてまとめる
3回	良好な集団づくりの方法・アイ スブレーキング1	アイスブレーキングとはについて学ぶ 予習:アイスブレーキングについてテキストを読む 復習:アイスブレーキングとしてのゲームについて調べる
4 回	良好な集団づくりの方法・アイ スブレーキング2	集団支援におけるアイスブレーキングのプログラムについて学ぶ 予習:アイスブレーキングプログラムについてテキストを読む 復習:アイスブレーキングプログラムを考える
5 回	良好な集団づくりの方法・アイ スブレーキング3	アイスブレーキングの効果を高める支援技術について学ぶ 予習:アイスブレーキングの効果についてテキストを読む 復習:アイスブレーキングの効果についてまとめる
6 回	レクリエーション活動の実際1	健常者を対象としたゲーム、歌、体操やダンスなどのレクリエーション活動の体験し、その援助方法を学ぶ 予習:今までやったことのあるゲームについて書く 復習:授業で体験したゲームの進め方をまとめる
7 回	レクリエーション活動の実際2	健常者を対象としたゲーム、歌、体操やダンスなどのレクリエーション活動を体験し、その援助方法について理解を深める 予習:好きな歌を一曲選び、歌詞を書く 復習:授業で紹介された歌の感想を書く
8日	レクリエーション活動の実際3	高齢者を対象としたゲーム、歌、体操やダンスなどのレクリエーション活動を体験し、その援助方法を学ぶ 予習:最近の幼児の体操を調べる 復習:授業で体験した体操(ダンス)の動きをまとめる
9回	レクリエーション活動の実際4	障がい者を対象としたゲーム、歌、体操やダンスなどのレクリエー ション活動を体験し、その援助方法について理解を深める

		予習:障がい者を対象にしたゲームを調べる 復習:授業で体験したゲームの進め方をまとめる
10回	レクリエーション活動の実際5	親子や祖父母と孫などを対象としたゲーム、歌、体操やダンスなどのレクリエーション活動を体験し、その援助方法を学ぶ 予習:親子で楽しめるレクリエーション活動を調べる 復習:授業で紹介された親子でのレクリエーション活動をまとめる
11回	レクリエーション活動の実際6	子どもを対象としたクラフトなどのレクリエーション活動を体験し、 その援助方法を学ぶ 予習:幼児を対象としたクラフト活動を調べる 復習:幼児とクラフトを行う際の援助方法のポイントをまとめる
12回	自主的・主体的に楽しむ力を育むレクリエーション活動の展開 法1	楽しむ力を高める目標設定の方法について学ぶ 予習:楽しむ力を高める目標設定の方法について、テキストを読む 復習:レクリエーション活動での目標設定の方法についてまとめる
13回	自主的・主体的に楽しむ力を育むレクリエーション活動の展開法2	レクリエーション活動を対象者に合わせるアレンジについて学ぶ 予習:対象者に合わせるアレンジについて、テキストを読む 復習:対象者に合わせたレクリエーション活動のアレンジのポイント についてまとめる
14回	自主的・主体的に楽しむ力を育むレクリエーション活動の展開法3	対象者の相互作用を促進するコミュニケーション技術の活用方法について学ぶ 予習:対象者の相互作用を促進するコミュニケーション技術の活用方法について、テキストを読む 復習:相互作用を促進するコミュニケーション技術についてまとめる
15回	レクリエーション活動における 楽しさと支援方法	レクリエーション活動を楽しくするための支援方法について理解を 深める 予習:「楽しさとは」について考える 復習:レクリエーション活動に楽しく参加してもらうための支援のポイントについてまとめる
16回	活動領域に合わせたレクリエーション活動1	福祉の現場では、高齢者を対象とした際、どのようなレクリエーション活動を取り入れているのか。また、そのレクリエーション活動をどのように行っているのかについて学ぶ 予習:高齢者を対象としたレクリエーション活動について考える 復習:高齢者を対象としたレクリエーション活動の支援方法をまとめる
17回	活動領域に合わせたレクリエーション活動2	福祉の現場では、障がい者を対象とした際、どのようなレクリエーション活動を取り入れているのか。また、そのレクリエーション活動をどのように行っているのかについて学ぶ 予習:障がい者を対象としたレクリエーション活動について考える 復習:障がい者を対象としたレクリエーション活動の支援方法をまとめる
18回	活動領域に合わせたレクリエーション活動3	リハビリを目的とした現場では、実際にどのようなレクリエーション 活動を取り入れているのか。また、そのレクリエーション活動を どのように行っているのかについて学ぶ 予習:リハビリを目的としたレクリエーション活動について考える 復習:リハビリを目的として行われているレクリエーション活動の支 援方法をまとめる
19回	活動領域に合わせたレクリエー ション活動4	デイサービスでは、高齢者や障がい者を対象にどのようなレクリエーション活動を取り入れているのか。また、そのレクリエーション活動をどのように行っているのかについて学ぶ 予習:デイサービスでのレクリエーション活動について考える

		復習:デイサービスでのレクリエーション活動の支援方法をまとめる
20回	活動領域に合わせたレクリエーション活動5	レクリエーション活動が取り入れられているさまざまな現場と対象者 およびその内容について知る 予習:レクリエーション活動が取り入れられている現場について調べる 復習:レクリエーション活動が行われている現場と対象者についてま とめる
21回	演習形式での支援体験1	全体で行うゲームや2~3人組で行うゲームを体験し、それぞれのゲームの楽しさや流れ、進め方について学ぶ予習:ゲームを支援する準備をする 復習:支援したゲームの楽しさや流れ、進め方についてまとめる
22回	演習形式での支援体験2	高齢者を対象としたレクリエーション活動を体験し、その財の楽しさや特徴、支援の方法やポイントについて学ぶ予習:レクリエーション活動を体験する準備をする復習:体験したレクリエーション活動の楽しさや特徴、支援の方法やポイントについてまとめる
23回	演習形式での支援体験3	障がい者を対象としたレクリエーション活動を体験し、その財の楽しさや特徴、支援の方法やポイントについて学ぶ 予習:レクリエーション活動を体験する準備をする 復習:体験したレクリエーション活動の楽しさや特徴、支援の方法や ポイントについてまとめる
24回	演習形式での支援体験4	福祉の現場で行われているレクリエーション活動を体験し、その活動の楽しさや特徴、支援の方法やポイントについて学ぶ 予習:レクリエーション活動を体験する準備をする 復習:体験したレクリエーション活動の楽しさや特徴、支援の方法や ポイントについてまとめる
25回	演習形式での支援体験5	デイサービスの現場で行われているレクリエーション活動を体験し、 その財の楽しさや特徴、支援の方法やポイントについて学ぶ 予習:レクリエーション活動を体験する準備をする 復習:体験したレクリエーション活動の楽しさや特徴、支援の方法や ポイントについてまとめる
26回	演習形式での支援体験6	高齢者を対象としたイベントなどで行われているレクリエーション活動を体験し、その財の楽しさや特徴、支援の方法やポイントについて学ぶ 予習:レクリエーション活動を体験する準備をする 復習:体験したレクリエーション活動の楽しさや特徴、支援の方法やポイントについてまとめる
27回	演習形式での支援体験7	親子や祖父母と孫などを対象としたレクリエーションのイベントや教室で行われているレクリエーション活動を体験し、その活動の楽しさや特徴、支援の方法やポイントについて学ぶ予習:レクリエーション活動を体験する準備をする復習:体験したレクリエーション活動の楽しさや特徴、支援の方法やポイントについてまとめる
28回	演習形式での支援体験8	高齢者や障がい者を対象者に合わせたクラフトを体験し、そのクラフトの楽しさや特徴、支援の方法やポイントについて学ぶ予習:レクリエーション活動を体験する準備をする復習:体験したクラフトの楽しさや特徴、支援の方法やポイントについてまとめる

29回	演習形式での支援体験9	子どもを対象としたクラフトを体験し、そのクラフトの楽しさや特 徴、支援の方法やポイントについて学ぶ 予習:レクリエーション活動を体験する準備をする 復習:体験したクラフトの楽しさや特徴、支援の方法やポイントにつ いてまとめる
30回	レクリエーション活動の効果	高齢者や障がい者におけるレクリエーション活動の効果について理解し、効果的なレクリエーション支援を行うための方法やポイントについて理解を深める 予習:レクリエーション活動の効果について考える 復習:高齢者や障がい者における、効果的なレクリエーション支援を 行うための方法やポイントについてまとめる

本科目は、演習科目(2単位)ですので、授業時間60時間と準備学習30時間が必要になります。

- 1. 授業時に取り上げた「レクリエーション活動」や授業内容について、毎時間ノートなどにまとめること。
- 2. 地域などで行われているレクリエーションイベントには、ボランティアや一般参加者として積極的に参加すること。

成績評価の基準・方法

評価項目	S	A	В	С	D
到達目標(学習の成果)	完全にない	若干不十分	不十分な点	到達目標の	到達目標を
1. 対象者や目的に合わせたレクリエ	しほぼ完全	な点は認め	は認められ	最低限を達	達成してい
ーション活動の支援方法について	に到達目標	られるもの	るものの、	成してい	ない。
の理解	を達成して	の、到達目	到達目標を	る。	
2. 対象者や目的に合わせたレクリエ	いる。	標を達成し	達成してい		
ーション活動のアレンジ法の習得		ている。	る。		
度					
3. レクリエーション支援者としての					
基本的考え方や姿勢についての理					
解					
100点法	90点以上	80点以上	70点以上	60点以上	59点以下

定期試験 (レポート課題) 50%

・対象者や目的に合わせた効果的なレクリエーション支援を立案できる

実技発表 50%

- ・対象者(健常者や福祉領域の人)を対象にレクリエーション支援を行い、効果的な支援技術が身についている
- ・レクリエーション支援者として役割や援助方法を理解している

教科書

・公益財団法人日本レクリエーション協会編「楽しさをとおした心の元気づくり レクリエーション支援の理論と 方法」公益財団法人日本レクリエーション協会,2024年、1,980円(税込み)

参考書等

- ・廣池利邦他著「レリエーション・ワーク」同文書院、1998年、2,310円
- ・宇田川光雄著「リーダーのゲーム指導法」遊戯社、1994 年、3,000 円

履修上の注意・学習支援

- ・動きやすい服装で出席すること(シューズ持参)。
- ・演習の際には、指定された服装(シューズも含む)を着用すること。
- ・疑問があれば、オフィスアワーを利用すること(事前予約のうえ、時間を設定する)。

オフィスアワー

疑問があれば、オフィスアワーを利用すること。事前予約(tsukihashi@kyowa-u.ac.jp)のうえ、時間を設定する。具体的な時間は迫って指示する。

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
21HC1SP62	福祉レクリエーション論	1年	後期	講義	2	相田 美智子

福祉を豊かに実践するために、その領域におけるレクリエーション援助の方法・目的、レクリエーションサービスについて理解を深め、福祉現場のレクリエーション総合計画について具体的な事例を確認しながら福祉レクリエーションを学ぶ。

福祉の専門職として不可欠なコミュニケーション能力を学び、対象者の気持ちを受け止め、寄り添い、居心地よさ、生きがいや張り合いのある生活を支援するための理論を学ぶ。

到達目標(学習の成果)

- 1. 福祉サービスを活用する人々を理解し、自立・自律したレクリエーションの知識を身につけることをできるようになる。(知識)
- 2. 福祉レクリエーション実践に欠かせない「楽しさの追求を支える支援」を明確にすることで「楽しさ」について説明ができるようになる。(知識)
- 3. 福祉領域のレクリエーション・ワーカーの使命と姿勢、役割について理解し説明、実践できるようになる。(技術)

回	表題	学習内容
1回	授業の進め方 福祉レクリエーションとは	授業計画、授業方法、予習・復習、成績の評価基準・方法等を知る。 福祉領域のレクリエーションが目指す「楽しさの追求を通した、生きがいや張り合いのある生活の実現を支援すること」と「楽しさの追求を通した、生きる喜び・生きる力の獲得を支援すること」を理解する。 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
2回	福祉レクリエーション支援の理 解	福祉領域のレクリエーション活動が利用者の生活の質の向上をめざし、 多種多様なレクリエーション活動の中からその人らしい「楽しさ」の追 求を支援することを理解する。 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
3回	福祉レクリエーションと楽しさ	福祉レクリエーションの視点から、楽しさへの欲求や福祉サービスにおける「楽しさ」の必要性を理解する。 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
4日	レジャー・レクリエーションの 概念	チクセントミハイの「フロー体験 喜びの現象学」やナッシュのレジャーレクリエーション体験のあり方、および援助者との関わりについてグループダイナミックスを通して理解する。 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
5回	福祉レクリエーションの楽しさ を巡る理論	人間交流の形式についてアベドンの社会的相互作用の段階やグループメンバーの心のあり方についてジョハリの窓を理解する。 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
6 回	福祉レクリエーションワーカー に求められるもの	福祉領域のレクリエーション援助者に求められる2つの使命「生活の再創造」「生きる力の再創造」と3つの姿勢「寄り添う」「実践する」「認識する」を理解する。 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。

_		
7 回	個人支援の手順APIEプロセ スと長期・短期目標	ひとりひとりのニーズを把握し、目的や目標をたて、個々に合ったプログラムを提供するためのアセスメント・計画・実施・評価を理解する。 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
8日	総合的な支援セラピューティック・レクリエーションサービス (トラム)	病気や障害だけに目を向けるだけでなく、対象者の可能性やできることを活かし生きがいを見つけられるよう支援し、より良い生活の質の向上をめざし余暇活動を提供するサービスを理解する。 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
9回	レジャーアビリティモデルやヘ ルスプロモーションモデル	TRサービスの使用モデルとして最も一般的なモデルから機能向上・余暇教育・レクリエーション参加を理解し、最終到達目標である「自立した余暇生活」を確立できるよう援助者としての関わりを理解する。 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
10回	高齢者を対象とした福祉サービス	デイサービスセンターでの福祉レクリエーション援助について、居心地 のよい時間を提供し、利用者がやりたいことを見つけ出して実現できる ことを理解する。 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
11回	高齢者を対象とした福祉サービス	小規模多機能型施設での福祉レクリエーション援助について、ひとりひとりに寄り添い、見守り、本人に合った楽しさをともに見つけ、ともに実現できることを理解する。 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
12回	高齢者を対象とした福祉サービス	特別養護老人ホームでの福祉レクリエーション援助について、こころ安 らぐひと時や心が弾むひと時を過ごせるように支援できることを理解す る。 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
13回	高齢者を対象とした福祉サービス	地域の高齢者支援活動での福祉レクリエーション援助について、高齢者が参加をすることを楽しみにできるような介護予防サロンを開設し、地域住民主導で継続運営ができることを理解する。 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
14回	障がい児・障がい者を対象とした福祉レクリエーション支援	毎日を楽しく過ごせるレクリエーション活動を利用者ひとりひとりが何をしたいのか本人の目線で考え自己決定し、その活動に楽しみ、張り合い、喜びを見いだすことを理解する。 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
15回	子育て支援サービスでの福祉レ クリエーション支援	保育園や子育でサークルでの福祉レクリエーション援助について、遊びを通し創造性や協調性を高められる環境を提供する。個々の園児が周囲の人や環境とかかわりながら遊びをつくり、夢中になれる力を育むこと。子どもの笑顔を引出し、そこから喜びを得る体験を積み重ねることで、子育ての楽しさ、子育てへの自信を高めることを理解する。 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
346 646 336 77	1 (

本科目は、講義科目(2単位)ですので、準備学習60時間が必要になります。

- ① 1回目の授業前に「楽しさをとおした心の元気づくり」レクリエーションの理論と方法を復習しておく。
- ② 授業前には各回の授業予定単元を予習しておく。

成績評価の基準・方法

評価項目	S	A	В	С	D
1. 福祉サービスを活用する人の自立	完全にない	若干不十分	不十分な点	到達目標の	到達目標を
や自律したレクリエーションの知識に	しほぼ完全	な点は認め	は認められ	最低限を達	達成してい
ついての理解	に到達目標	られるもの	るものの、	成してい	ない。
2. 「楽しさの追求を支える支援」の	を達成して	の、到達目	到達目標を	る。	
理解	いる。	標を達成し	達成してい		
3. 福祉領域のレクリエーション援助		ている。	る。		
者の役割についての理解					
100点法	90点以上	80点以上	70点以上	69点以上	59点以下

- ・定期試験 (レポート試験) 50%
- ·授業内課題(10回程度) 50%

教科書

公益財団法人日本レクリエーション協会 事例でなっとく!よくわかる福祉レクリエーション サービス実施マニュアル1 『楽しさの追及を支える理論と支援の方法』 2013年(税込 1,540 円)

参考書等

なし

履修上の注意・学習支援

- ・他の学生の学習を妨げるような行為は慎むこと。
- ・疑問があれば、オフィスアワー (原則、1号館1階「講師教員センター」にて実施)を利用すること。

オフィスアワー

・疑問があれば、講義終了後、1 号館 1 階「講師教員センター」を利用すること

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
21HC2SP63	福祉レクリエーション 援助論	2 年	前期	講義	2	相田 美智子

福祉サービスの中で提供されるレクリエーションが「幸福」をもたらすひとつの役割を担っている。福祉を豊かに実践するため、人々の生活に楽しさや喜びをもたらすため、対象者個人の「楽しさ」追求を支えるレクリエーション・サービスの根拠をもったプログラムや行事の企画、運営、実施および評価の方法について理解を深かめ、具体的な事例を学ぶ。

到達目標(学習の成果)

- 1. 福祉の専門職として基本的なレクリエーションの知識・方法・態度を知り、説明できるようになる。(知識)
- 2. 対象者の楽しさの経験、豊かな生活、QOLの向上を目指すレクリエーションの方法を知り、説明・実践できるようになる。(方法・技術)
- 3. レクリエーションを活用した支援のプロセスを示し、一人ひとりの援助に反映させ、説明・実践できるようになる。(方法・技術)

回	表題	学習内容
1回	福祉レクリエーション総合計画 の意義と全体像	誰のために、何のために、何を提供するのかを検討し、サービス提供する組織とサービスを受ける利用者とそのプログラムが全て整合性を持って提供されることを理解する。 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
2 回	在宅サービスの中での福祉レク リエーション総合計画	デイサービスとデイケアの役割の違い、サービスの使命を明確にし、 レクリエーションサービスの基本方針や目的がそれぞれの役割に沿っ たものであることを理解する。 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
3回	入居サービスの中での福祉レク リエーション総合計画	特別養護老人ホーム、老人保健施設、グループホームのサービスの種類の違いを明確に示し、利用者が選択するときやサービスを提供する側が何のためにどのようにレクリエーションを提供するのかを理解する。 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
4回	個人のニーズと総合計画の流れ	対象者個人が望むレジャーのニーズと一貫した方向性をもつレクリエーションサービスを提供するための総合計画の立案を理解する。 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
5回	総合計画と利用者のニーズ	対象者とともに段階的に目的を作るクリエーションサービス活用の長期・短期目標づくりを理解する。 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
6 回	利用者の思いと支援者の視点の融合	福祉レクリエーション援助における総合計画と福祉レクリエーション活用支援プラン統合の福祉的背景と実践の意義を理解する。 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
7回	福祉レクリエーション援助の実際1	事例を通した施設別による援助計画の視点 介護予防デイサービスセンター利用者に対する福祉レクリエーションサービス活用とワーカーの支援を理解する。

		【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
8回	福祉レクリエーション援助の実際2	事例を通した施設別による援助計画の視点 認知症デイサービスセンター利用者に対する福祉レクリエーションサービス活用とワーカーの支援を理解する。 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
9回	福祉レクリエーション援助の実際3	事例を通した施設別による援助計画の視点 グループホーム利用者に対する福祉レクリエーションサービス活用とワーカーの援助を理解する。 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
10回	グループレクリエーションの計 画立案と評価	グループレクリエーションの考え方と立案サイクルAPIEプロセス 個別の把握と個別目標の設定、グループの把握とグループ目標の設定 を理解する 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
11回	グループレクリエーションの計 画立案と評価	個別目標を視野に入れたグループ評価、課題分析と活動分析、事業実施後の評価を理解する。 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
12回	ひとりひとりを支える行事・イ ベント計画 1	特別養護老人ホーム、介護老人保健施設それぞれの行事例と準備、実施のポイントを理解する。 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
13回	ひとりひとりを支える行事・イ ベント計画 2	ショートステイ、小規模多機能型居宅介護それぞれの行事例と準備、 実施のポイントを理解する。 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
14回	行事・イベント計画のポイント 3	利用者個々の生活のリズムを取りもどすことの意義、他のレクリエーション・プログラムとの連動を理解する。 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
15回	福祉レクリエーション支援の評 価	総合計画、レクリエーション・サービス活用プラン、個人やグループへの関わりと行事に対する評価の方法を理解する。 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。

本科目は、講義科目(2単位)ですので、準備学習60時間が必要になります。
・授業前に各回の授業予定単元を予習しておく。

成績評価の基準・方法

評価項目	S	A	В	С	D
1. 福祉の基本的なレクリエーション	完全にない	若干不十分	不十分な点	到達目標の	到達目標を
の知識・方法・態度の理解	しほぼ完全	な点は認め	は認められ	最低限を達	達成してい
2. 対象者の楽しさの経験、豊かな生	に到達目標	られるもの	るものの、	成してい	ない。
活、QOLの向上を目指すレクリエー	を達成して	の、到達目	到達目標を	る。	
ション方法の理解	いる。	標を達成し	達成してい		
3. レクリエーションを活用した援助		ている。	る。		
プロセスの理解					

・定期試験(レポート課題) 70%・授業内課題(10回程度) 30%

教科書

公益財団法人日本レクリエーション協会 よくわかる福祉レクリエーション サービス実施マニュアル 2 『楽しさの追及を支えるサービスの企画と実施』 2013年 (税込 1,870 円)

参考書等

なし

履修上の注意・学習支援

・他の学生の学習を妨げるような行為は慎むこと。

オフィスアワー

・疑問があれば、講義終了後、1 号館 1 階「講師教員センター」を利用すること

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
21HC2SP64	福祉レクリエーション 援助技術	2 年	前・後 (通年)	演習	2	相田 美智子

福祉を豊かに実践するために、その領域における楽しさの追求を支えるレクリエーション援助を身につけ、各援助場面の事例を確認し、自身の福祉領域における援助の課題を考察しながら「個人への介入方法」「グループ(小集団)を活かした介入方法」「レクリエーション活動への参加を促す環境づくりの方法」について実践できるようにする。

到達目標(学習の成果)

- 1. 人間尊重の精神と豊かな人間性を身につけ、福祉サービスの中では対象者が健康で幸せな生活を送ることができるよう環境づくりやレクリエーション援助技術を創造することができるようになる。(知識・技術)
- 2. 福祉レクリエーションに関する個別介入技術を理解し、福祉領域におけるレクリエーション援助者として必要な技術・能力を身につけることができるようになる。 (技術)
- 3. 小集団の介入技術を理解し、福祉領域におけるレクリエーション援助者として必要な技術・能力を身につけプログラム立案技術を身につけることができるようになる。(知識・技術)

回	表題	学習内容
1 回	授業の進め方 福祉レクリエーションの介入技 術1	授業計画、授業方法、予習・復習、成績の評価基準・方法等を知る個人への介助方法 ラポール(信頼関係)構築のための面談、余暇生活を開発するための支援、個人で楽しむ活動の支援など適切なコミュニケーション技術を理解する。 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
2日	福祉レクリエーションの介入技術2	個人で楽しむレクリエーション活動の展開として「他の利用者とともに活動を楽しむ」「利用者の訴えを結びつけた活動の提案」「社会資源を活用した活動」を理解する。 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
3日	福祉レクリエーションの介入技 術3	介護予防事業の展開例として「五感を刺激し昔話を楽しむ」「ニーズを 把握し可能な代替活動を提案」「見学を通し新たなニーズを開拓」など を理解する。 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
4回	福祉レクリエーションの介入技 術 4	認知症グループホームなどで用いやすい1対1のレクリエーション活動を理解する。 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
5回	福祉レクリエーションの介入技 術 5	対象者同士の相互作用を引き出す、集団での交流と心の状態、人間の交流と心の状態、場の効果、グループ活動におけるリスクマネジメントを理解する。 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
6回	福祉レクリエーションの介入技 術 6	小集団を活かした支援のためのプログラムづくりの方法 アセスメント・計画・プログラムの基本的な流れを理解する。 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
7 回	福祉レクリエーションの介入技 術7	小集団(特別養護老人ホーム、老人保健施設、ショートステイ、デイケアセンター、介護予防デイ)での力を引き出し活かしやすいレクリエー

		ション活動を理解する。 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
8回	福祉レクリエーションの介入技 術8	レクリエーション活動への参加を促す環境づくりの方法を理解する。 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
9回	福祉レクリエーションの介入技 術 9	生きがい活動・余暇自立促進の方法 自立的な生きがい活動追及のポイントと自立生活の意義について理解する。 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
10回	福祉レクリエーションの介入技 術 10	生きがい活動・余暇自立促進の展開 障がい者も健常者もともに楽しめる多様なレクリエーションづくり 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
11回	福祉レクリエーション・アクテ ィビティの創作 1	レクリエーション活動のアレンジとは既成のレクリエーション活動を目線や現場の理念に合わせて、意図的に進め方や構造に工夫を加え、新しい活動を作り出すことを理解する。 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
12回	福祉レクリエーション・アクティビティの創作 2	対象者に合わせたレクリエーション活動の創作 アレンジ演習 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
13回	福祉レクリエーション・アクティビティの創作3	対象者に合わせたレクリエーション活動の創作 アレンジ発表 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
14回	コミュニケーション技法1	言語伝達技術 親密な人間関係を基盤として創造力や言語能力を高め、 精神状態を落ち着かせる活動を理解する。 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
15回	コミュニケーション技法2	言語伝達技術 話し言葉を他人に伝達するためには、はっきりした発音でしゃべる必要があり、その訓練として落ち着いて丁寧に発音する早口言葉を理解する。 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
16 回	コミュニケーション技法3	非言語伝達技術 利用者との伝達方法として動作・表情・目の動きによって気持ちを伝えることがでる。不完全な言い方であっても非言語情報によって伝達できることを理解する。 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
17 回	コミュニケーション技法4	よく使われるコミュニケーション技法 利用者の喜びや悲しみの感情を 正確に理解し利用者の言葉に耳を傾けることの大切さや難しさをそれぞ れの技法で理解する。 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
18 回	コミュニケーション技法 5	言葉かけとリスニング 利用者に対して支援者がその場に合わせてメッセージを送る伝達法を理解する。 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
19 回	コミュニケーションボード作成	昔の思い出、あそびやスポーツの一場面のイラストをボードに作成す る。

		【予習】イラストボードについて調べる。【復習】イラストボードについて再確認する。
20 回	コミュニケーションボードの進 め方及び回想法	遊びの回想、余暇活動の紹介と情報提供。回想法の手法について学ぶ。 【予習】回想法について調べる。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
21 回	ケーススタディー1	グループ援助(目的や対象に合わせたプログラム作成)① 予習:目的や対象に合わせたプログラムについて考える。 復習:グループ援助の内容を再確認すること。
22 回	ケーススタディー 2	グループ援助(目的や対象に合わせたプログラム作成)② 予習:目的や対象に合わせたプログラムについて考える。 復習:グループ援助の内容を再確認すること。
23 回	ケーススタディー3	グループ援助(目的や対象に合わせたプログラム実習)① 予習:目的や対象に合わせたプログラムについて考える。 復習:グループ援助の内容を再確認すること。
24回	ケーススタディー 4	グループ援助(目的や対象に合わせたプログラム実習)② 予習:目的や対象に合わせたプログラムについて考える。 復習:グループ援助の内容を再確認すること。
25回	ケーススタディー 5	グループ援助(目的に合わせたプログラムの評価) 予習:目的や対象に合わせたプログラムについて考える。 復習:グループ援助の内容を再確認すること。
26回	ケーススタディー 6	個人を対象にしたプログラム案の作成① 予習:個人を対象にしたプログラムについて考える。 復習:個人への援助の内容を再確認すること。
27回	ケーススタディー 7	個人を対象にしたプログラム案の作成② 予習:個人を対象にしたプログラムについて考える。 復習:個人への援助の内容を再確認すること。
28回	ケーススタディー8	個人を対象にしたプログラム実習① 予習:個人を対象にしたプログラムについて考える。 復習:個人への援助の内容を再確認すること。
29回	ケーススタディー 9	個人を対象にしたプログラム実習② 予習:個人を対象にしたプログラムについて考える。 復習:個人への援助の内容を再確認すること。
30回	福祉レクリエーションワーカー について	個人を対象にしたプログラム評価。福祉レクリエーション介入技術のまとめ 予習:プログラム評価について考える。 復習:授業内容を振り返り、ノートにまとまめる。

本科目は、演習科目 (2単位) ですので、準備学習30時間が必要になります。

・授業前に各回の授業予定単元を予習しておく

成績評価の基準・方法

評価項目	S	A	В	С	D
1. 福祉現場の環境づくりや、レクリ	完全にない	若干不十分	不十分な点	到達目標の	到達目標を
エーション援助技術を理解	しほぼ完全	な点は認め	は認められ	最低限を達	達成してい
2. 個別援助について理解と援助の習熟	に到達目標	られるもの	るものの、	成してい	ない。
度		の、到達目	到達目標を	る。	

3. グループ援助について理解と援助の習熟度	を達成して いる。	標を達成し ている。	達成してい る。		
100点法	90点以上	80点以上	70点以上	60点以上	59点以下

- ・定期試験 (レポート試験) 50%
- ・授業内課題(2回)個別援助、グループ援助のプログラム作成と実習 50%

教科書

公益財団法人日本レクリエーション協会 よくわかる福祉レクリエーション サービス実施マニュアル 3 『楽しさの 追求を支えるための介入技術』 2013年 (税込 1,870 円)

参考書等

なし。

履修上の注意・学習支援

- ・他の学生の学習を妨げるような行為は慎むこと。
- ・疑問があれば、オフィスアワー(原則、1号館1階「講師教員センター」にて)を利用すること。

オフィスアワー

・疑問があれば、講義終了後、1 号館 1 階「講師教員センター」を利用すること

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
21HC1SP65	野外活動 I	1年	前期	演習	1	河田 隆・月橋 春美・ 霜触 智紀・本並 健太

野外活動は、高度な技術を要求されないプログラムに限り、幼児から高齢者に至るまで、また障害を持った人達にとっても楽しむことのできる活動である。そこで、野外活動について理解し、キャンプ活動の動機付けを行い、キャンプ活動における基礎知識と活動技術を演習形式で理解を深め、対象者に合わせたキャンププログラムの計画方法を福祉専門職として学習する。

到達目標(学習の成果)

- ・野外活動の意義について理解する。 (知識)
- ・キャンプ活動の基礎知識に関して説明できる。(知識、技術)
- ・キャンプ活動を安全に行うための技術を身につける。 (技術)
- ・福祉領域の対象者に合わせたキャンププログラムが計画・運営できる。(技術)
- ・他者理解を深め、相手とのコミュニケーション能力を身につける。(態度)

亘	表題	学習内容				
1 回	授業の進め方 野外活動とは	授業計画、授業方法、予習・復習・成績評価の方法等を説明する。 野外活動の概念、内容について学ぶ。 予習:野外活動の概念や内容について教科書をもとに予習し、理解を 深めておく。 復習:事前学習と講義内容を振り返り、野外活動がもたらす効果について考える。				
2 回	野外活動の現状と課題、施設、 関係法規	野外活動における自然環境、安全対策、施設等に関する課題について 学ぶ。 予習:野外活動の現状と課題、施設、関係法規について調べておく。 復習:野外活動に関する自然環境、安全対策、施設、関係法規等に関 する現状と課題について学んだことを振り返り、理解を深める。				
3回	野外活動の用具1(基本装備)	主にキャンプ用具の基本装備について、実践的に学ぶ。 予習:野外活動用具(キャンプ用具、主に基本装備)について調べておく。 復習:用具の使用方法等について振り返り、理解を深める。				
4回	野外活動の用具2(ロープ)	ロープワークについて、実践的に学ぶ。 予習:野外活動におけるロープの扱い方について調べておく。 復習:ロープの扱いについて振り返り、理解を深める。				
5回	野外活動の用具3(ポール)	ポールの扱い方について、実践的に学ぶ。 予習:野外活動におけるポールの扱い方について調べておく。 復習:ポールの扱いについて振り返り、理解を深める。				
6 回	野外活動の用具4(テント)	テントの設営について、実践的に学ぶ。 予習:テントの設営方法について調べておく。 復習:テントの設営方法等について振り返り、理解を深める。				
7回	キャンプの特性、歴史	キャンプ活動の意義や目的、内容について学ぶ。 予習:キャンプの特性(目的、意義、歴史等)について調べておく。 組織キャンプについても調べておく。				

		復習:事前学習と講義内容を振り返り、キャンプの意義とキャンプが もたらす効果について考える。
8回	キャンプの指導者と組織化	キャンプ・インストラクターの資質と役割について学ぶ。 実習に向けて、実際に組織化を行う。 予習:キャンプの指導者の資質・役割と組織キャンプについて調べて おく。 復習:キャンプを指導する上で求められる資質・役割について振り返 り、理解を深める。
9回	キャンプの組織・マネジメント 活動	キャンプ実習の係を決めて、仕事内容を確認し、プログラムマネジメントを行う。 予習:組織キャンプの各役割について調べておく。 復習:担当する係の役割について振り返り、理解を深める。
10回	キャンプ及び野外活動のルールとマナー	自然環境、音、色彩、明るさ、狩猟活動、排せつ等に関するルールマナーについて学ぶ。 野外アクティビティ(キャンプファイヤー等)について学ぶ。 予習:キャンプ及び野外活動のルールとマナー、野外アクティビティ(キャンプファイヤー等)について調べておく。 復習:キャンプ及び野外活動のルールとマナー、野外アクティビティ(キャンプファイヤー等)について振り返り、理解を深める。
11回	キャンプ及び野外活動での安全 管理1	救急処置及び看護法(心肺蘇生法、運搬法等)について実践的に学 ぶ。 予習:救急処置及び看護法について調べておく。 復習:救急処置及び看護法について、学習したことを振り返り、理解 を深める。
12回	キャンプ及び野外活動での安全 管理2	キャンプ活動の計画、運営、評価の具体的な方法を学ぶ。 予習:鉈(なた)の扱い、火の取り扱いについて調べておく。 復習:鉈(なた)の扱い、火の取り扱いについての実践を振り返り、 理解を深める。
13回	キャンプにおける指導内容・指 導技術	キャンプ活動の指導内容やコミュニケーション・スキル、点呼について、実践的に学ぶ。 予習:キャンプの指導内容、指導技術について調べておく。 復習:キャンプの活動効果を高める指導内容やコミュニケーション・スキルについて振り返り、理解を深める。
14回	キャンプにおけるクラフト活動	自然のものを用いたクラフト活動について、実践的に学ぶ。 予習:キャンプにおけるクラフト活動について調べておく。 復習:クラフト活動を振り返り、理解を深める。
15回	野外活動の計画・運営・評価	野外活動の計画、運営、評価の具体的な方法について実践的に学ぶ。 予習:野外活動の計画、運営、評価の具体的な方法について調べてお く。 復習:野外活動を計画する、運営する、評価するための具体的な方法 について振り返り、理解を深める。

本科目は演習科目 (1単位) ですので、授業時間90分以外に15時間の授業外学習が必要になります。 授業外学習方法に記載された予習・復習課題を実践して内容の理解を深めてください。

成績評価の基準・方法

評価	項目	S	A	В	С	D
1. 野外活動の意義	やキャンプ活動の	完全にない	若干不十分	不十分な点	到達目標の	到達目標を
基礎知識の理解		しほぼ完全	な点は認め	は認められ	最低限を達	達成してい
2. キャンプ活動を	安全に行うための	に到達目標	られるもの	るものの、	成してい	ない。
技術の習熟度		を達成して	の、到達目	到達目標を	る。	
3. 対象者に合わせた	たキャンププログ	いる。	標を達成し	達成してい		
ラムの計画・運営	営の習熟度		ている。	る。		
4. 他者理解を深め、	相手とのコミュ					
ニケーション能力	力の習熟度					
100)	点法	90点以上	80点以上	70点以上	69点以上	59点以下

定期試験 (レポート試験) 60%

- ・野外活動の意義やキャンプ活動の基礎知識を理解している
- ・現場に合わせたキャンププログラムが計画・運営できる

授業課題に対する積極的なスキルアップと課題克服度 40%

・キャンプ活動を安全に行うための技術が身につく

教科書

日本キャンプ協会指導者養成委員会編『キャンプ指導者入門』(社)日本キャンプ協会 2017 年、2,200円 参考書等

- •星野敏男 他著『野外教育入門』小学館 2001年、1,980円
- ・日本野外教育研究会編『野外活動 その考え方と実際』杏林書院、2001年、2,860円

履修上の注意・学習支援

2泊3日のキャンプ実習への参加を含む(キャンプ・インストラクター資格取得のため)キャンプ実習費用10,000円(2泊3日)を、実習前に徴収する 疑問があれば必ず授業担当に相談すること(t. shimofure@ujc. ac. jp)に相談すること 本授業はいずれの回も担当教員4名にて行う

オフィスアワー

疑問があれば、オフィスアワーを利用すること。事前予約(t. shimofure@ujc. ac. jp)のうえ、時間を設定する。 具体的な時間は追って連絡する。

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
21HC1SP66	野外活動Ⅱ	1年	集中	演習	1	月橋 春美・ 霜触 智紀・本並 健太

実習前に、冬季野外活動(スキー・スノーボード)について学習する。また、2泊3日の学外施設でのスキー 実習では、現地インストラクターによるスキー・スノーボードのレベル別グループ技術指導を受け基礎技術を 学習する。宿泊施設においてはスキー・スノーボードに関する講義を受け、基礎技術に関しての理論を深く理 解する。実習後は自己評価レポートを提出することにより実習振り返りを行う。福祉領域において福祉専門職 として、生涯スポーツとしてのスキー、スノーボードの健康的効果を学習する。

到達目標(学習の成果)

- ・2泊3日のスキー実習を通して、冬季の自然環境について理解する。(知識)
- ・冬季野外活動に関する基礎理論を深く理解する。(知識)
- ・基礎技術を身につけることにより安全で楽しく冬季野外活動ができるようになる。 (技術・態度)
- ・理論を通して、実践できる。(技術・態度)

旦	表題	学習内容
1 回	授業の進め方 事前学習1	授業計画、授業方法、予習・復習・成績評価の方法等を説明する。 冬季野外活動(スキー・スノーボード)について学ぶ 予習:スキー・スノーボードの本や映像から、知識や技術について理解を深めておく。 復習:事前学習で得た知識と本実習の関連について振り返り、冬季野外活動意義の理解を深める。
2日	事前学習2	スキー・スノーボード実習の概要に関して学ぶ 予習:スキー・スノーボードの本や映像から、知識や技術について理解を深めておく。 復習:事前学習で得た知識と本実習の関連について振り返り、冬季野外活動意義の理解を深める。
3回	講義(基礎技術の理論) 1	車中にて、スキー・スノーボードの基礎技術をビデオ学習 予習:スキー・スノーボードの本や映像から、知識や技術について理解を深めておく。 復習:事前学習で得た知識と本実習の関連について振り返り、冬季野外活動意義の理解を深める。
4回	実技レッスン1	現地インストラクターによる実技レッスン (スキー・スノーボード) 予習:スキー・スノーボードの本や映像から、知識や技術について理解を深めておく。 復習:実践を踏まえ、スキー・スノーボードの技術について振り返り、理解を深める。
5回	実技レッスン2	現地インストラクターによる実技レッスン (スキー・スノーボード) 予習:スキー・スノーボードの本や映像から、知識や技術について理解を深めておく。 復習:実践を踏まえ、スキー・スノーボードの技術について振り返り、理解を深める。
6回	講義(基礎技術の理論)2	現地インストラクターによる基礎技術について学ぶ 予習:スキー・スノーボードの本や映像から、知識や技術について理 解を深めておく。

		復習:前時までの学習で得た基礎技術について振り返り、基本用語の 理解及び技術の理解を深める。
7回	実技レッスン3	現地インストラクターによる実技レッスン (スキー・スノーボード) 予習:スキー・スノーボードの本や映像から、知識や技術について理解を深めておく。 復習:実践を踏まえ、スキー・スノーボードの技術について振り返り、理解を深める。
8日	実技レッスン4	現地インストラクターによる実技レッスン(スキー・スノーボード) 予習:スキー・スノーボードの本や映像から、知識や技術について理解を深めておく。 復習:実践を踏まえ、スキー・スノーボードの技術について振り返り、理解を深める。
9日	実技レッスン5	現地インストラクターによる実技レッスン (スキー・スノーボード) 予習:スキー・スノーボードの本や映像から、知識や技術について理解を深めておく。 復習:実践を踏まえ、スキー・スノーボードの技術について振り返り、理解を深める。
10回	実技レッスン6	現地インストラクターによる実技レッスン (スキー・スノーボード) 予習:スキー・スノーボードの本や映像から、知識や技術について理解を深めておく。 復習:実践を踏まえ、スキー・スノーボードの技術について振り返り、理解を深める。
11回	講義(実習成果)3	現地インストラクターによる実習成果についての評価を受ける。 予習:スキー・スノーボードの本や映像から、知識や技術について理解を深めておく。 復習:評価を踏まえ、スキー・スノーボードの技術について自身のスキルを把握するとともに課題を明確にしておく。
12回	実技レッスン7	現地インストラクターによる実技レッスン (スキー・スノーボード) 予習:スキー・スノーボードの本や映像から、知識や技術について理解を深めておく。 復習:実践を踏まえ、スキー・スノーボードの技術について振り返り、理解を深める。
13回	実技レッスン8	現地インストラクターによる実技レッスン (スキー・スノーボード) 予習:スキー・スノーボードの本や映像から、知識や技術について理解を深めておく。 復習:実践を踏まえ、スキー・スノーボードの技術について振り返り、理解を深める。
14回	講義(振り返り)4	車中にて、実習の記録ビデオの鑑賞を行い、自分の実習での技術向上 の成果を振り返る 予習:実技レッスンを振り返り、成果及び課題を考えておく。 復習:自分の技術を客観的に把握し、実習での技術向上の成果及び課 題を明確にする。
15回	事後学習	スキー・スノーボード実習の振り返りをし、実習に対する自己評価を まとめる 予習:実習の全行程を振り返り、成果及び課題を考えておく。 復習:スキー・スノーボード実習の振り返りから、自己評価をまと め、成果及び課題を明確にする。

本科目は演習科目(1単位)ですので、授業時間90分以外に15時間の授業外学習が必要になります。 授業外学習方法に記載された予習・復習課題を実践して内容の理解を深めてください。

成績評価の基準・方法

評価項目	S	A	В	С	D
1. 冬季の自然環境の理解	完全にない	若干不十分	不十分な点	到達目標の	到達目標を
2. 冬季野外活動に関する基礎理論の	しほぼ完全	な点は認め	は認められ	最低限を達	達成してい
理解	に到達目標	られるもの	るものの、	成してい	ない。
3、スキーまたはスノーボードの基礎	を達成して	の、到達目	到達目標を	る。	
技術の習熟度	いる。	標を達成し	達成してい		
		ている。	る。		
100点法	90点以上	80点以上	70点以上	60点以上	59点以下

定期試験 (レポート試験) 60%

- ・安全で楽しくスキー・スノーボードができるようになるための基本知識を理解している技術の習得および向上 40%
- ・スキー・スノーボードに関する基礎理論を深く理解している
- スキー・スノーボードの基礎技術を身につけている

教科書

第1回:事前学習、第6回:講義、第15回:事後学習にて、資料を配布する。

参考書等

- ・渡辺一樹監修『DVD上達レッスン スキー』成美堂出版、2010年、1,500円(税別)
- ・松沢聖佳『スキー初中級レッスン』株式会社実業之日本社、2011年、1,700円(税込み)
- ・平敷慶彦監修『ゼロからはじめるスノーボード入門』コスミック出版、2014年、1,204円(税別)

履修上の注意・学習支援

- ・集中講義のため、2 泊 3 日のスキー実習は全日参加すること。
- ・実習費として47,000円程度(44名参加、昨年度実績)を、徴収する。用具をレンタルする場合は、以下を追加で徴収する。

フルセット(スキー板orスノーボード、ブーツ、ストック(スキーのみ)、ウェア、小物セット(グローブ・帽子・ゴーグル)) 13,500円

ウェアなしセット(スキー板orスノーボード、ブーツ、ストック(スキーのみ)、小物セット(グローブ・帽子・ゴーグル)) 10,500円

- ・疑問があれば、オフィスアワーを利用すること。事前予約のうえ、時間を設定する。
- ・本授業はいずれの回も担当教員3名にて行う

オフィスアワー

疑問があれば、オフィスアワーを利用すること。事前予約(t. shimofure@ujc. ac. jp)のうえ、時間を設定する。具体的な時間は追って連絡する。

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
21HC1SP67	美容福祉 I	1年	後期	講義	2	川津孝代・信夫扶美子

生涯自分らしく、美しくありたいという願いを実現するため、また、人間尊重の精神と豊かな人間性をもった福祉や医療の専門職として、高齢者や障がいをもった人々に美容を通して豊かな生活の支援ができる知識と技術を学んでいく。

(川津孝代/7回) 美容アクティビティの必要性と効果を学ぶ。更にシャンプー、車椅子着付けを、実践を通して学ぶ。また、美容効果を高めるための室内環境(色彩やアロマ)の取り入れ方を理解する。

(信夫扶美子/8回)自己表現の一つとして、メイク、ネイルの必要性を学び、現場で出来るように実技を学ぶ。

到達目標(学習の成果)

- ・美容福祉の意義と社会的位置づけ、目的や活用方法を説明できるようになる(知識)
- ・美容福祉の概念から、一般的な「美容」との違いを説明できるようになる(知識)
- ・美容福祉に必要かつ福祉の現場でも役立つ技術の習得(技術)
- ・美容福祉の授業で習得した技術を応用して、現場での新しい活用方法の構築を試みる(方法・態度)

旦	表題	学習内容
1 回	授業の進め方 美容福祉学総論	授業計画、授業方法、予習・復習、成績の評価基準・方法等を知る。 美容福祉の意義と目的を理解する。(川津) 【予習】高齢者のオシャレについて調べる。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
2回	オシャレの楽しみ方	形態別オシャレの楽しみについて理解する。(川津) 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
3回	整容における現場の現状	介護現場での整容の現状と課題点からの美の意識について考える。 (川津) 【予習】高齢者のオシャレについて調べる。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
4回	色彩が及ぼす影響について	在宅や施設での生活環境の中に色彩を取り入れる方法とその効果(川津) 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
5 回	アロマ(精油)が及ぼす影響につ いて	在宅や施設での生活環境の中に、アロマ(精油)を取り入れる方法とその効果を理解する。(川津) 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
6 回	美容技術 ①	気持ちいいシャンプー、マッサージ方法及びブロー方法を学ぶ。(川津) 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
7回	美容技術 ②	車椅子での浴衣着付けの仕方を学ぶ。(川津) 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
8回	高齢者、障がい者への美容につ	美容は高齢者、障がい者にとってどのような影響があるのかをエビデ

	いて	ンスをもとに学ぶ。(信夫) 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
9回	美容技術 ③	高齢者、障がい者への「ネイルケア」の方法を学ぶ。(信夫) 【予習】技術の練習をする。 【復習】授業で学んだ技術を練習する。
10回	美容技術 ④	高齢者、障がい者への「ハンドトリートメント」の方法を学ぶ。(信夫) 【予習】技術の練習をする。 【復習】授業で学んだ技術を練習する。
11回	美容技術 ⑤	高齢者、障がい者への「スキンケア」の方法を学ぶ。(信夫) 【予習】技術の練習をする。 【復習】授業で学んだ技術を練習する。
12回	美容技術 ⑥	高齢者、障がい者への「ポイントメイク」の方法を学ぶ。(信夫) 【予習】技術の練習をする。 【復習】授業で学んだ技術を練習する。
13回	美容アクティビティの取り入れ ①	美容アクティビティの必要性と効果を理解する。(信夫) 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
14回	美容アクティビティの取り入れ ②	発表を通して、美容アクティビティについて理解を深める。(信夫) 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。
15回	まとめ	これまでの授業での学びを基に今後の福祉美容の未来について考える。(信夫) 【予習】テキストの該当する部分を読む。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。

本科目は、講義科目(2単位)ですので、授業時間30時間と準備学習60時間が必要になります。 学習内容に示した部分のテキストを予め読んでまとめておくこと。 授業で指示した事柄について教科書を調べてまとめてくること。 授業で学んだ技術を練習する。

成績評価の基準・方法

評価項目	S	A	В	C	D
1. 美容福祉についての座学理解	完全にない	若干不十分	不十分な点	到達目標の	到達目標を
2. 演習での積極的参加と習得度	しほぼ完全	な点は認め	は認められ	最低限を達	達成してい
3. アイデアと意欲性	に到達目標	られるもの	るものの、	成してい	ない。
	を達成して	の、到達目	到達目標を	る。	
	いる。	標を達成し	達成してい		
		ている。	る。		
100点法	90点以上	80点以上	70点以上	69点以上	59点以下

- ・毎時授業レポート(授業内容にそった理解度を表現する) 30%
- ・小テスト(学習内容を理解し、技術を身につけ適切にできる) 30%
- ・定期試験(レポート・美容福祉の基礎知識だけでなく、その社会活用性について具体的に表現する) 40%

教科書

学校法人山野学苑, 『四訂 美容福祉概論: その知識と実践技術』, 中央法規出版, 2020年, 2860円

参考書等

- ・七江亜紀 著, 『知って役立つ色の事典』, 宝島社, 2013年, 1,518円
- ・松江朋子 監修, 『アロマテラピー』, メイツ出版, 2012年, 1,760円

履修上の注意・学習支援

- 1. 積極的かつ主体的に参加すること。
- 2・美容に興味を持ち、私生活での実践を心がける。
- 3・疑問があれば、オフィスアワーを利用すること(授業前後)。

オフィスアワー

疑問があれば、オフィスアワー(原則、講義終了後15分間程度、1号館1階「講師教員センター」)を利用すること。

実務経験の概要

美容福祉師として、認知症をはじめ、障がい、難病、闘病中の方など、幅広いお客様に対応し、美容の仕事を通 して美容福祉活動に力を入れてきた。

実務経験と科目との関連性

美容福祉の現場に立ち、自らの実践経験を生かし、生の声を伝えていく事は、本科目の内容との関連性が高くよりリアリティの高い講義が実践できる。

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
21HC2SP68	美容福祉Ⅱ	2年	前期	演習	1	川津 孝代

- ・・人間尊重の精神と豊かな人間性を持った福祉専門職を目指す為、福祉と美容においての必要な知識と技術を学ぶ。
- ・美容福祉の中でも美容の基礎であるメイクアップ技術の習得をめざす。
- ・アクティブラーニングとして、メイクの実習を行う。

到達目標(学習の成果)

- ・美容におけるメイクアップの意義と役割・効果を理解する。 (知識)
- ・メイクアップの基礎知識・テクニックを理解し実践できるようになる。(演習)
- ・メイクアップ技術検定 3 級取得をめざす。 (演習)

回	表題	学習内容
1 回	授業の進め方 メイクアップの前に…	授業計画、授業方法、予習・復習、成績の評価基準・方法等を知るメイク 3 級試験概要説明、道具検品、手入れ、基本セッティングを学ぶ。 【予習】テキストの該当する部分を読む 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる
2 回	スキンケア①	基本のスキンケア順序、基本スキンケア化粧品の目的、特徴を学ぶ。 気持ち良いと思ってもらえるスキンケア。 技術者の立ち位置、重心移動、声掛けを学ぶ。 【予習】テキストの該当する部分を読む 【復習】授業内容を自主練習する。
3 回	スキンケア②	皮膚・表情筋・顔の名称を学ぶ 【予習】テキストの該当する部分を読む 【復習】授業内容を自主練習する。
4回	スキンケア③	ポイントクレンジング・クレンジング実践 化粧水・美容液・乳液テクニックの復習 【予習】テキストの該当する部分を読む 【復習】授業内容を自主練習する。
5 回	スキンケア④	スキンケアテクニックの実践・トータルレッスン。 【予習】テキストの該当する部分を読む 【復習】授業内容を自主練習する。
6 回	ベースメイク①	ベースメイク化粧品の目的・特徴、ベースメイクの手順を学ぶ。 メイクアップベース〜ファンデーション〜パウダーの流れを学ぶ。 ブラシ・テクニック・スポンジパフテクニックを学ぶ。 【予習】テキストの該当する部分を読む 【復習】授業内容を自主練習する。
7回	ベースメイク②	骨格・肌色について学ぶ。 メイクアップベース〜ファンデーション〜パウダーの流れを復習 ブラシ・テクニック・スポンジパフテクニックを学ぶ。 【予習】テキストの該当する部分を読む 【復習】授業内容を自主練習する。
8回	ベースメイク③	ベースメイクの質感・肌トラブルとメイクアップを学ぶ。

		メイクアップベース〜ファンデーション〜パウダーの流れを実践。 【予習】テキストの該当する部分を読む 【復習】授業内容を自主練習する。
9 回	ベースメイク④	メイクアップベース〜コントロールカラー〜ファンデーション 〜コンシーラー〜パウダーの流れを実践。 【予習】テキストの該当する部分を読む 【復習】授業内容を自主練習する。
10回	ベースメイク⑤	ベースメイクのトータルレッスン。 【予習】テキストの該当する部分を読む 【復習】授業内容を自主練習する。
11回	ベースメイク⑥	化粧水・美容液~ベースメイクのトータルレッスン。 【予習】テキストの該当する部分を読む 【復習】授業内容を自主練習する。
12回	トータルレッスン①	スキンケア〜ベースメイクのトータル実践 【予習】テキストの該当する部分を読む 【復習】授業内容を自主練習する。
13回	顔の分析	顔分析理論・修正理論・ハイライト、ローライト、チークの効果 ブロッキング知識・メイクプランを学ぶ 顔分析実践・ベースメイクを仕上げたうえで実践・メイクプラン 【予習】テキストの該当する部分を読む 【復習】授業内容を自主練習する。
14回	模擬試験レッスン①	3 級実技模擬試験に向けてレッスンする。 【予習】テキストの該当する部分を読む 【復習】授業内容を自主練習する。
15回	模擬試験レッスン②	3級実技模擬試験に向けてレッスンする。 【予習】テキストの該当する部分を読む 【復習】授業内容を自主練習する。

本科目は、演習科目(1単位)ですので、授業時間以外に15時間の授業外学習が必要となります。 学習内容に記載された予習・復習を実践して内容の理解を深めてください。

成績評価の基準・方法

評価項目	S	A	В	С	D
1.3級ベースメイクの技術と理解	完全にない	若干不十分	不十分な点	到達目標の	到達目標を
2. 検定試験合格に向けての意欲性	しほぼ完全	な点は認め	は認められ	最低限を達	達成してい
	に到達目標	られるもの	るものの、	成してい	ない。
	を達成して	の、到達目	到達目標を	る。	
	いる。	標を達成し	達成してい		
		ている。	る。		
100点法	90点以上	80点以上	70点以上	60点以上	59点以下

小テスト (3級知識レベル) 20% 小テスト (3級実技レベル) 40% 定期試験(実技試験) 40% 16回目に実施

教科書

一般社団法人 JMA、日本メイクアップ技術検定公式テキスト 2級 3級 2025年 5,170円

参考書等

学校法人山野学苑、『四訂 美容福祉概論:その知識と実践技術』、中央法規出版、2020年、2,860円

履修上の注意・学習支援

- ・身だしなみに注意し、動きやすい服装で授業を受けること。
- ・道具の管理を良くし、相モデル同士迷惑をかけないよう心配りに注意する。

オフィスアワー

疑問があれば、オフィスアワー(原則、講義終了後 15 分間程度、1号館1階「講師教員センター」)を利用すること。

実務経験の概要

美容福祉師として、福祉現場での美容の実践を通し、美容は全ての人に生きる活力として 今の時代に無くてはならないことだと実感している。

実務経験と科目との関連性

福祉施設での美容アクティビティ、ファッションショーなどのメイク経験は、本科目の内容との関連性が非常に高く、現場での実践を活かした講義と、学生の意欲を沸き立たせる関連性がある。

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
21HC2SP69	美容福祉Ⅲ	2年	前期	演習	1	信夫 扶美子

ネイルケア、メイクアップによる心理的変化や基礎知識、技術を身につけ、福祉現場での実践を目指すことを目的とする。

アクティブラーニングとして技術習得のための実習を行う。

到達目標(学習の成果)

福祉現場での利用者一人一人の個性に沿って対応できる福祉専門職を目指し、美容の知識や技術を身につける。(知識・技術)

	授業計画 					
旦	表題	学習内容				
1 回	授業の進め方 ネイル、メイクがもたらす効果	授業計画、授業方法、予習・復習、成績の評価基準・方法等を知る。 認知症改善の研究から、ネイル、ハンドトリートメント、メイクアップの役割、効果を学ぶ。 【予習】授業でまとめたものをよみかえす。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。				
2回	ハンドトリートメント (1)	ハンドトリートメントについての注意点を学びアプローチ法と技術を 学ぶ。 【予習】授業で学んだ技術を練習する。 【復習】専門用語や重要事項をノートにまとめる。				
3 回	ハンドトリートメント (2)	ハンドトリートメントを実際に施術する。 【予習】授業でまとめたものをよみかえす。技術の練習をする。 【復習】授業で学んだ技術を練習する。				
4回	ハンドトリートメント(3)	ハンドトリートメントの技術チェック。 【予習】技術の練習をする。 【復習】授業で学んだ技術を練習する。				
5 回	ネイルケア	ネイルケアの技術を学ぶ。 【予習】技術の練習をする。 【復習】授業で学んだ技術を練習する。				
6 回	カラーリング(1)	道具の説明、注意点、ポリッシュの塗り方、オフの方法を学ぶ。 【予習】技術の練習をする。 【復習】授業で学んだ技術を練習する。				
7回	カラーリング(2)	カラーリングの技術チェック。 【予習】技術の練習をする。 【復習】授業で学んだ技術を練習する。				
8回	ネイルアート	ネイルアートの方法と実践。 【予習】技術の練習をする。 【復習】授業で学んだ技術を練習する。				
9回	福祉現場でのメイクアップ(1)	福祉現場でのメイクアップ方法、注意点を学ぶ。 【予習】技術の練習をする。 【復習】授業で学んだことをまとめて、技術を練習する。				
10回	福祉現場でのメイクアップ(2)	実際に相モデルで福祉現場でのメイクアップを施術していく。 【予習】技術の練習をする。 【復習】授業で学んだ技術を練習する。				
11回	顔分析	自分の顔の形や骨格などを理解し、自分に似合うメイクは何かを知る。 【予習】技術の練習をする。 【復習】授業で学んだことをまとめて、技術を練習する。				

12回	メイクアップ(1)	理想の顔になるためのテクニックを習得し、実践する。 【予習】技術の練習をする。 【復習】授業で学んだ技術を練習する。
13回	メイクアップ(2)	ベースメイク〜リップまでのメイクのやり方を習得し、実践する。 【予習】技術の練習をする。 【復習】授業で学んだ技術を練習する。
14回	メイクアップ(3)	ベースメイク〜リップまでのメイクのやり方を習得し、実践する。 【予習】技術の練習をする。 【復習】授業で学んだ技術を練習する。
15回	メイクアップ(4)	テーマに沿ってセルフでメイクアップしていく。(技術チェック) 【予習】技術の練習をする。 【復習】授業で学んだ技術を練習する。

本科目は、演習科目(1単位)ですので、授業時間以外に15時間の授業外学習が必要となります。 学習内容に記載された予習・復習を実践して内容の理解を深めてください。

- ・美容福祉 I の復習をしておくこと。
- ・学習内容に示してある内容で気になる点を事前に調べておくこと。
- ・授業で習得した技術は復習してできるようにしておくこと。

成績評価の基準・方法

評価項目	S	A	В	С	D
1. 美容(ネイル、メイク部門)の知識・	完全にない	若干不十分	不十分な点	到達目標の	到達目標を
注意点の理解	しほぼ完全	な点は認め	は認められ	最低限を達	達成してい
2. 美容技術習得とアプローチ法の理解	に到達目標	られるもの	るものの、	成してい	ない。
3. 美容福祉の必要性の理解と習得度	を達成して	の、到達目	到達目標を	る。	
	いる。	標を達成し	達成してい		
		ている。	る。		
100点法	90点以上	80点以上	70点以上	60点以上	59点以下

- ・授業内課題(学習内容を理解し、技術を身に付け適切にできる)50%
- ・定期試験 (レポート試験) (学習内容を理解し自らの考えを表明できる)50%

教科書

使用しない。必要に応じて資料を配布する。

参考書等

学校法人山野学苑,『指定 美容福祉概論: その知識と実践技術』, 中央法規出版, 2020年, 2860円 社団法人日本メイクアップ技術検定協会, 『セルフメイクブック』, 凸版印刷株式会社, 2009年, 2619円

履修上の注意・学習支援

- ・授業中は学生の皆さんが、授業の環境を良くするようお互い心配りをして受講すること。
- ・授業内容でわからないことはその都度、またはそれ以外でも積極的に質問したりしてきちんと内容を理解しておくようにすること。
- ・授業で習った実技は自主練習すること。
- ・忘れ物をしないこと。

オフィスアワー

疑問があれば、オフィスアワー(原則、講義終了後 15 分間程度、1号館1階「講師教員センター」)を利用すること。

実務経験の概要

介護福祉士、生活相談員として高齢者施設において、利用者の介護や生活に関わり、相談援助に関する業務にも 従事してきた。また、美容師、ネイリストとしてサロンワークはもちろん、福祉美容師、福祉ネイリストとして 利用者に対してカットやネイル、メイクなど美のアプローチに従事。

実務経験と科目との関連性

介護現場における美容の実務経験は、本科目の授業内容との関連性が非常に高く、現場での実務経験を生かした講義が実施できる。

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
21 HSC2P70	社会福祉調査の基礎	2年	後期	講義	2	堀 圭三

世論調査や視聴率調査など、巷では様々な調査が行われているが、収集したデータはただの数字である。この数字から社会生活・社会福祉に関係している「何か」を見つけることが重要である。そのために必要な社会福祉調査に関する基本事項を講義する。

到達目標(学習の成果)

- 1. 社会福祉調査の意義、目的について説明できる。 (知識)
- 2. 量的調査の方法を理解している。 (知識)
- 3. 質的調査の方法を理解している。 (知識)

	[X 未 II 四					
回	表題	学習内容				
1 回	授業の進め方 社会福祉調査の意義と目的①	授業計画・準備学習・成績評価の方法・基準等について理解する。 ソーシャルワーク実践の可視化や理論化について学び、公的統計と政 策決定について理解する。 復習:身近で行われている社会調査を3つ調べまとめる。				
2回	社会福祉調査の意義と目的②	ブース、ラウントリー、タウンゼントの社会調査の意義を理解する。 予習:授業で示された課題を調べまとめる。 復習:授業で示された課題を行う。				
3回	社会福祉調査における倫理	社会福祉調査に置いて配慮すべき個人情報保護や倫理について理解する。 予習:授業で示された課題を調べまとめる。 復習:授業で示された課題を行う。				
4回	社会福祉調査のデザイン①	理論と調査の関係、調査の目的、社会学の方法(帰納法、演繹法)について理解する。 予習:授業で示された課題を調べまとめる。 復習:授業で示された課題を行う。				
5 回	社会福祉調査のデザイン②	全数調査と標本調査、量的調査と質的調査など、調査をデザインする うえで必要な基礎的な違いを理解する。 予習:授業で示された課題を調べまとめる。 復習:授業で示された課題を行う。				
6 回	社会福祉調査のデザイン③	母集団と標本抽出、サンプリング 精度と信頼度 標本の大きさと標本 誤差について理解する。 予習:授業で示された課題を調べまとめる。 復習:授業で示された課題を行う。				
7回	量的調査の方法①	横断調査、縦断調査、パネル調査、コホート調査などの特徴について 理解する。 予習:授業で示された課題を調べまとめる。 復習:授業で示された課題を行う。				
8回	量的調査の方法②	質問紙の作成方法と留意点、質問紙の配布と回収の方法について理解する。 予習:授業で示された課題を調べまとめる。 復習:授業で示された課題を行う。				

9 回	量的調査の方法③	量的調査の集計と分析(単純集計、クロス集計)について理解する。 予習:授業で示された課題を調べまとめる。 復習:授業で示された課題を行う。
10回	量的調査の方法④	量的調査の集計と分析(散布図、相関分析、回帰分析)について理解する。 予習:授業で示された課題を調べまとめる。 復習:授業で示された課題を行う。
11回	質的調査の方法①	観察法(参与観察、非参与観察、統制的観察)と面接法について理解する。 予習:授業で示された課題を調べまとめる。 復習:授業で示された課題を行う。
12回	質的調査の方法②	質的調査のデータ分析 (グランデッドセオリーアプローチ、ナラティブアプローチ、アクションリサーチ) を理解する。 予習:授業で示された課題を調べまとめる。 復習:授業で示された課題を行う。
13回	ソーシャルワークにおける評価 ①	ソーシャルワークにおける評価の意義(ミクロ・メゾ・マクロレベルの実践評価、EBP や NBT)について理解する。 予習:授業で示された課題を調べまとめる。 復習:授業で示された課題を行う。
14回	ソーシャルワークにおける評価 ②	ソーシャルワークにおける評価対象(実践・構造・過程・結果・影響)と方法(シングル・システム・デザイン、質的な評価法)について理解する。 予習:授業で示された課題を調べまとめる。 復習:授業で示された課題を行う。
15回	社会調査とITの活用	社会調査とITの活用、統計調査のウソとホントについて理解する。 予習:授業で示された課題を調べまとめる。 復習:授業で示された課題を行う。

この科目は、講義科目(2単位)ですので、授業時間の他に準備学習60時間が必要になります。

- ・ニュースやコラム等で授業に関係することがあれば、その内容をノートにまとめること。
- ・授業記録の記入し、基本概念についてはきちんとノートにまとめておく。

成績評価の基準・方法

評価項目	S	A	В	С	D
1. 社会福祉調査・社会調査の意義につ	完全にない	若干不十分	不十分な点	到達目標の	到達目標を
いて理解している。	しほぼ完全	な点は認め	は認められ	最低限を達	達成してい
2. 量的調査の考え方、サンプリング、	に到達目標	られるもの	るものの、	成してい	ない。
調査票の作り方、集計の仕方等を理解	を達成して	の、到達目	到達目標を	る。	
している。	いる。	標を達成し	達成してい		
3. 社会調査に必要な統計学の知識を理		ている。	る。		
解している。					
100点法	90点以上	80点以上	70点以上	60点以上	59点以下

· 定期試験(筆記試験) 100%

教科書

第1回目にレジュメを配付する。

参考書等

新・社会福祉士養成講座『社会福祉調査の基礎』中央法規 2021年、2,750円 (税込)

履修上の注意・学習支援

質問等がある場合は、電子メールで受け付ける。また、オフィスアワーでも受け付ける。前予約(k3@ujc.ac.jp)のうえ、時間を設定する。具体的な時間帯は追って指示する。 Google classroomにて、課題の提出等を行う。

オフィスアワー

疑問があれば、オフィスアワーを利用すること。事前予約(k3@ujc.ac.jp) のうえ、時間を設定する。具体的な時間帯は追って指示する。

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
21HC2SP71	ボランティア論	2年	前期	講義	1	矢野 正広

- ①ボランティア/市民活動の動力・行動原理について理解する。
- ②その組織化としての NPO/NGO のマネジメント方法を探る。
- ③さらに、ボランティアや NGO/NPO が行うソーシャル・アクション、アドボカシーによって現在の社会福祉の法制度が作られてきたことにも言及し、現在も同様の実践がなされていることを実感するため、県内の NPO 代表をゲストに招くとともに、現場見学をおこなう。

到達目標(学習の成果)

- ① ボランティア/市民活動の動力・行動原理について理解を深める。(知識)
- ② その組織化としての NPO/NGO のマネジメント方法を知ることで、ボランティア/市民活動の実践の中に、 社会福祉の現場の改善に応用できる考え方や技術があることを理解する。(方法・技術)

回	表題	学習内容			
1 П		授業計画、授業方法、予習・復習、成績の評価基準・方法等を知る目的/ボランティアの行動原理を理解する(長所、短所、ボランティアのリスクと可能性を考える)講義内容/①定義と本質、用語(市民活動、NPO、NPO法人、認定NPO法人、NGO)について。②ボランティアを活性化する技術(ボランティア・コーディネーション)とボランティアの限界について。ゲスト①「DV被害者支援」の現場から(14:45-)栃木県内のNP0リーダーによる「市民活動の今」を聞く・認定NPO法人ウィメンズハウスとちぎ、丸山文子(予定)予習:「ウイメンズハウスとちぎ」について調べる復習:なぜ「民間の活動」として行うのかをまとめる			
2回	授業の進め方 講義:ボランティアの行動原理 ゲストの講話(1人)				
3回	講義: 災害シュミレーション ゲストの講話(1人)	内容/災害図上訓練 (DIG) を行い、災害をシュミレーションし、 自らが行うボランティアプログラムを作成する。また、被災者の ニー ズの想定と事例検討を行う。			
4回		目的/①ボランティア活動の実際を理解する。②ボランティア・プログラムの作り方を理解する。 ゲスト②「重度障害者が街で暮らす」現場から栃木県内の NPO リーダーによる「市民活動の今」を聞く・自立生活センター栃木/NPO 法人ホワイトバード 箱石充子&岡田 予習:「自立生活運動」について歴史や哲学を調べる。 復習:「自立とは何か」をまとめる。			
5 回	ボランティア (NPO) の現場に行く	※宇都宮市内に外出します。県庁前バス停徒歩3分(現地解散予定) 内容/フードバンク宇都宮の見学。現地でゲスト2人の話を聞く。 ゲスト③「生活困窮者支援」の現場、ゲスト④「福島・原発避難 者の支援ラジオ」の現場から栃木県内の NPO リーダーによる「市 民活動の今」を聞く ・NPO法人フードバンクうつのみや&困窮者支援:小澤勇治さん ・認定 NPO 法人とちぎボランティアネットワーク・学生ラジオ・ インターン:櫻井脩弥さん(宇大4年・予定) 予習:ケースワークとフードバンクについて調べる			
6 回	ゲストの講話(2人)				

		復習: (NPOにおいて)活動を支える人材や予算についてまと める
7 回	- 講義:NPOの法律と資金調達	講義内容/NPOの法律・支援策とファンドレイジング(資金調達) について講義する。また、市民活動と社会福祉の現代的意義につ
8回	(寄付) (寄付) (寄付) (字) (おり) (おり) (おり) (おり) (おり) (おり) (おり) (おり	いて考える。 ゲスト⑤「薬物依存とセルフヘルプ」の現場から栃木県内のNP リーダーによる「市民活動の今」を聞く NPO 法人茨城ダルク・女性センター 不動さん・予定) 予習:薬物依存についての法律を調べる 復習:「セルフヘルプグループ」についてまとめる

本講義は、講義科目(1単位)ですので、準備学習30時間が必要になります。

まちぴあ、ぽぽら、社会福祉協議会等の紹介で福祉施設、ボランティア団体、NPO等に行き、実践的にボランティア活動を体験することが望ましい(任意。活動しなくても可)。

成績評価の基準・方法

評価項目	S	A	В	С	D
1. ボランティア・市民活動の行動原理	完全にない	若干不十分	不十分な点	到達目標の	到達目標を
についての理解 (習熟度)	しほぼ完全	な点は認め	は認められ	最低限を達	達成してい
2、ボランティア・プロジェクト作成	に到達目標	られるもの	るものの、	成してい	ない。
の習熟度	を達成して	の、到達目	到達目標を	る。	
3. NPO/NGOの財源と寄付集めについて	いる。	標を達成し	達成してい		
の理解		ている。	る。		
100点法	90点以上	80点以上	70点以上	60点以上	59点以下

- ・定期試験 (レポート試験) 100%
- ·授業内課題 (3回) 0%

教科書 なし。毎回コピー等を配布。講義内容・ゲストへの意見・感想を授業終了時に提出 **参考書等** 寄付白書 日本ファンドレイジング協会 2021 寄付白書発行協会 3,300円

履修上の注意・学習支援

興味を持って、積極的に参加する受講者を歓迎する。

オフィスアワー

疑問があれば、オフィスアワー(原則、講義終了後 15 分間程度、1 号館 1 階「講師教員センター」)を利用すること。

実務経験の概要

- ○1995 年から、とちぎボランティアネットワーク設立と当時に常勤職員(事務局長)として、ボランティアコーディネーション、ボランティア育成、ボランティア情報誌の発行などに従事。
- ○災害救援活動は 1995 年から現在までに 49 回実施。派遣ボランティア人数 15,216 人、寄付で支援した額 は 1543 万円。

実務経験と科目との関連性

- ○県域のボランティア・NPO 支援センターであることから、各種の市民活動とのネットワークがある。
- ○ボランティアプログラムの作成は市民活動の根幹である。災害時には多様なボランティア活動が必要と されることからシュミレーションとともに自分には何ができるかを考えさせるようにした。